

# 科目一覽

【発行日：2024/5/29】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

## 凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

テスト [石原 輝子] .....	1
経済学特講 (前期週末スクーリング) [西村 陽一郎] .....	2
日本文芸研究特講・漢文 [吉井 涼子] 秋期 .....	3
経営学特講 (後期週末スクーリング) [市川 佳功] .....	4
生物学3 (講義) (前期週末スクーリング) [岡部 雅史] .....	5
人文地理学 (大阪市スクーリング) [朴 宗玄] .....	6
法学特講 (12月週末スクーリング) (中止) [沼田 雅之] .....	7
【10001】西洋史 (春期スクーリング) [宮崎 亮] 春期 .....	8
【10002】東洋史 (春期スクーリング) [板橋 暁子] 春期 .....	9
【10003】政治学概論 (春期スクーリング) [及川 智洋] 春期 .....	10
【10004】文化人類学 (春期スクーリング) [ベル 裕紀] 春期 .....	11
【10005】化学1 (講義) (春期スクーリング) [渡邊 永治] 春期 .....	12
【10006】物理学3 (講義) (春期スクーリング) [清水 則孝] 春期 .....	13
【11001】英語S (1) (春期スクーリング) [大和久 悌一郎] 春期 .....	14
【11002】英語S (2) (春期スクーリング) [ROBIN F WEICHERT] 春期 .....	15
【11003】英語S (3) (春期スクーリング) [Andrew E. Chen] 春期 .....	16
【11004】英語S (4) (春期スクーリング) [中垣 恒太郎] 春期 .....	18
【11005】英語S (5) (春期スクーリング) [McEvelly M. Patrick] 春期 .....	19
【11006】独語S (春期スクーリング) [宮城 学] 春期 .....	20
【11007】仏語S (春期スクーリング) [佐野 栄一] 春期 .....	21
【12001】スポーツ総合演習 (春期スクーリング) [竹内 洋輔] 春期 .....	22
【13001】債権各論 (春期スクーリング) [足利 沙緒理] 春期 .....	23
【13002】商法総則・商行為法 (春期スクーリング) [石井 宏司] 春期 .....	24
【13003】会社法 (春期スクーリング) [笹久保 徹] 春期 .....	25
【13004】刑法各論 (春期スクーリング) [LEBRETON CAROLINE] 春期 .....	26
【14001】日本芸能史 (春期スクーリング) [中司 由起子] 春期 .....	27
【14002】日本文芸学概論 (春期スクーリング) [中野 方子] 春期 .....	28
【14003】日本語学概論 (春期スクーリング) [古牧 久典] 春期 .....	29
【14004】日本文芸史 I (春期スクーリング) [坂本 勝] 春期 .....	30
【14005】文学概論 (春期スクーリング) [岡野 幸江] 春期 .....	31
【14006】日本文芸研究特講・沖縄文芸 (春期スクーリング) [小山 和行] 春期 .....	32
【14007】日本文芸研究特講・漢文 (春期スクーリング) [吉井 涼子] 春期 .....	33
【14008】日本文芸研究特講・近代 (春期スクーリング) [高口 智史] 春期 .....	34
【14009】日本語史 (春期スクーリング) [間宮 厚司] 春期 .....	36
【14010】日本文芸研究特講・特域 (春期スクーリング) [安原 眞琴] 春期 .....	37
【14011】日本文芸研究特講・中古 (春期スクーリング) [加藤 昌嘉] 春期 .....	38
【15001】東洋史特講 (東南アジア史) (春期スクーリング) [山崎 美保] 春期 .....	39
【15002】日本近代史 (春期スクーリング) [柏木 一期] 春期 .....	40
【15003, 16003】日本史概説 (春期スクーリング) [安田 寛子] 春期 .....	41
【15004】史学演習 (西洋) (春期スクーリング) [井上 秀太郎] 春期 .....	42
【15005】史学演習 (東洋) (春期スクーリング) [宇都宮 美生] 春期 .....	43
【16001】自然地理学演習 (春期スクーリング) [中山 秀晃] 春期 .....	44
【16002】写真・読図演習 (2) (春期スクーリング) [沼尻 治樹] 春期 .....	45
【17001, 18001】財政学A / I (春期スクーリング) [天利 浩] 春期 .....	46

【17002】	経済学特講（春期スクーリング）〔三浦 道行〕 春期.....	47
【18002】	監査論Ⅰ（春期スクーリング）〔市川 佳功〕 春期.....	48
【18003】	簿記Ⅲ（春期スクーリング）〔市川 佳功〕 春期.....	49
【18004】	経営学特講〔商社活動とCSR(企業の社会的責任)〕（春期スクーリング）〔小林 一夫〕 春期.....	50
【18005】	経営管理論Ⅰ（春期スクーリング）〔松本 潔〕 春期.....	52
【18006】	経営学特講〔NPO論〕（春期スクーリング）〔松本 潔〕 春期.....	53
【18007】	経営学特講〔ロジスティック論〕（春期スクーリング）〔恩田 登志夫〕 春期.....	55
【18008】	演習〔貿易概論〕（春期スクーリング）〔恩田 登志夫〕 春期.....	56
【20001】	西洋史（秋期スクーリング）〔宮崎 亮〕 秋期.....	57
【20002】	東洋史（秋期スクーリング）〔板橋 暁子〕 秋期.....	58
【20003】	政治学概論（秋期スクーリング）〔及川 智洋〕 秋期.....	59
【20004】	文化人類学（秋期スクーリング）〔ベル 裕紀〕 秋期.....	60
【20005】	化学2（講義）（秋期スクーリング）〔渡邊 永治〕 秋期.....	61
【20006】	物理学3（講義）（秋期スクーリング）〔清水 則孝〕 秋期.....	62
【21001】	英語S（1）（秋期スクーリング）〔大和久 悌一郎〕 秋期.....	63
【21002】	英語S（2）（秋期スクーリング）〔ROBIN F WEICHERT〕 秋期.....	64
【21003】	英語S（3）（秋期スクーリング）〔Andrew E. Chen〕 秋期.....	65
【21004】	英語S（4）（秋期スクーリング）〔中垣 恒太郎〕 秋期.....	66
【21005】	英語S（5）（秋期スクーリング）〔McEvelly M. Patrick〕 秋期.....	67
【21006】	独語S（秋期スクーリング）〔宮城 学〕 秋期.....	68
【21007】	仏語S（秋期スクーリング）〔佐野 栄一〕 秋期.....	69
【23001】	債権各論（秋期スクーリング）〔足利 沙緒理〕 秋期.....	70
【23002】	商法総則・商行為法（秋期スクーリング）〔石井 宏司〕 秋期.....	71
【23003】	会社法（秋期スクーリング）〔笹久保 徹〕 秋期.....	72
【23004】	教育法（秋期スクーリング）〔村元 宏行〕 秋期.....	73
【23005】	行政法（秋期スクーリング）〔氏家 裕順〕 秋期.....	74
【24001】	日本美術史（秋期スクーリング）〔萩原 哉〕 秋期.....	76
【24002】	日本語学概論（秋期スクーリング）〔古牧 久典〕 秋期.....	77
【24003】	日本文芸史Ⅰ（秋期スクーリング）〔阿部 真弓、小林 ふみ子〕 秋期.....	78
【24004】	文学概論（秋期スクーリング）〔岡野 幸江〕 秋期.....	79
【24005】	日本文芸研究特講・沖縄文芸（秋期スクーリング）〔小山 和行〕 秋期.....	80
【24006】	日本文芸研究特講・漢文（秋期スクーリング）〔吉井 涼子〕 秋期.....	81
【24007】	日本語史（秋期スクーリング）〔間宮 厚司〕 秋期.....	82
【24008】	日本文芸研究特講・特域（秋期スクーリング）〔湯本 豪一〕 秋期.....	83
【24009】	日本文芸研究特講・中古（秋期スクーリング）〔加藤 昌嘉〕 秋期.....	84
【25001】	東洋史特講（東南アジア史）（秋期スクーリング）〔山崎 美保〕 秋期.....	85
【25002】	日本史特講（対外関係史）（秋期スクーリング）〔宇都宮 美生〕 秋期.....	86
【25003】	日本近世史（秋期スクーリング）〔中山 学〕 秋期.....	87
【25004, 26003】	東洋史概説（秋期スクーリング）〔兼平 充明〕 秋期.....	88
【25005, 26004】	西洋史概説（秋期スクーリング）〔竹下 和亮〕 秋期.....	89
【25006】	歴史資料学（日本近代）（秋期スクーリング）〔岩壁 義光〕 秋期.....	90
【26001】	人文地理学演習（秋期スクーリング）〔前畑 明美〕 秋期.....	91
【26002】	地理情報システム（GIS）（2）（秋期スクーリング）〔沼尻 治樹〕 秋期.....	92
【27001, 28001】	財政学B／Ⅱ（秋期スクーリング）〔島澤 諭〕 秋期.....	93
【27002】	経済学特講（秋期スクーリング）〔三浦 道行〕 秋期.....	94
【28002】	監査論Ⅱ（秋期スクーリング）〔市川 佳功〕 秋期.....	95
【28003】	簿記Ⅳ（秋期スクーリング）〔市川 佳功〕 秋期.....	96
【28004】	経営学特講〔商社活動と環境・CSRリスク〕（秋期スクーリング）〔小林 一夫〕 秋期.....	97
【28005】	経営管理論Ⅱ（秋期スクーリング）〔松本 潔〕 秋期.....	99
【28006】	演習〔エリア・マーケティング〕（秋期スクーリング）〔松本 潔〕 秋期.....	100
【28007】	経営学特講〔航空輸送論〕（秋期スクーリング）〔恩田 登志夫〕 秋期.....	101
【28008】	演習〔国際物流論〕（秋期スクーリング）〔恩田 登志夫〕 秋期.....	102
【28009】	演習〔人事政策論〕（秋期スクーリング）〔山崎 雅夫〕 秋期.....	103
【28010】	経営学特講〔人事政策論〕（秋期スクーリング）〔山崎 雅夫〕 秋期.....	104
【30001】	文学（夏期スクーリング）〔中澤 忠之〕 1群午前.....	105
【30002】	日本史（夏期スクーリング）〔永田 一〕 2群午前.....	106
【30003】	哲学（夏期スクーリング）〔鶴澤 和彦〕 2群午後.....	107

[30004]	法学（夏期スクーリング）〔葉 晶珠〕 1群午前	109
[30005]	経済学（夏期スクーリング）〔福田 泰雄〕 1群午後	110
[30006]	心理学（夏期スクーリング）〔田中 圭〕 2群午前	111
[30007]	生物学3（講義）（夏期スクーリング）〔植木 紀子〕 2群午後	112
[30008]	数学3（夏期スクーリング）〔若井 健太郎〕 3群終日	113
[30009]	基礎特講（夏期スクーリング）〔徐 玄九〕 3群終日	114
[31001]	英語S（1）（夏期スクーリング）〔Urbanova Jana〕 1群午前	115
[31002]	英語S（2）（夏期スクーリング）〔萩原 眞一〕 1群午後	117
[31003]	英語S（3）（夏期スクーリング）〔塩谷 幸子〕 1群夜間	118
[31004]	英語S（4）（夏期スクーリング）〔折笠 真美〕 2群午前	120
[31005]	英語S（5）（夏期スクーリング）〔高橋 佳江〕 2群午前	121
[31006]	英語S（6）（夏期スクーリング）〔井上 紗央里〕 2群午後	122
[31007]	英語S（7）（夏期スクーリング）〔磯部 芳恵〕 2群夜間	123
[31008]	英語S（8）（夏期スクーリング）〔光野 昭雄〕 3群終日	124
[31009]	独語S（夏期スクーリング）〔宮城 学〕 3群終日	125
[31010]	仏語S（夏期スクーリング）〔柴崎 秀穂〕 2群午後	126
[32001]	スポーツ総合演習（夏期スクーリング）〔鈴木 良則〕 1群午後	127
[32002]	健康・スポーツ科学概論（夏期スクーリング）〔大須賀 洋祐〕 3群終日	128
[33001]	法律学特講（夏期スクーリング）〔須藤 純正〕 1群午前	129
[33002]	民事執行法（夏期スクーリング）〔杉本 和士〕 1群午前	130
[33003]	倒産法（夏期スクーリング）〔倉部 真由美〕 1群午後	131
[33004]	法律学特講（夏期スクーリング）〔氏家 裕順〕 1群午後	132
[33005]	刑法各論（夏期スクーリング）〔カロリース・ルブルトン〕 1群夜間	133
[33006]	手形法・小切手法（夏期スクーリング）〔笹久保 徹〕 2群午前	134
[33007]	政治学（夏期スクーリング）〔平良 好利〕 2群午前	135
[33008]	行政救済法（夏期スクーリング）〔西田 幸介〕 2群午後	136
[33009]	日本法制史（夏期スクーリング）〔山本 弘〕 2群午後	137
[33010]	法律学特講（夏期スクーリング）〔武生 昌士〕 2群午後	138
[33011]	労働法（夏期スクーリング）〔山本 圭子〕 2群夜間	139
[33012]	英米法（夏期スクーリング）〔安部 圭介〕 3群終日	140
[33013]	法律学特講（夏期スクーリング）〔青柳 由香〕 3群終日	141
[34001]	書道実技（夏期スクーリング）〔井澤 秀彦〕 1群午前	142
[34002]	日本文芸研究特講・中世（夏期スクーリング）〔中司 由起子〕 1群午前	143
[34003]	日本文芸研究特講・演劇（夏期スクーリング）〔上野 火山〕 1群午後	144
[34004]	日本文芸研究特講・言語（夏期スクーリング）〔阿部 美菜子〕 1群午後	145
[34005]	中国文芸史（夏期スクーリング）〔遠藤 星希〕 2群午前	146
[34006]	日本文芸研究特講・音楽芸能史（夏期スクーリング）〔本塚 亘〕 2群午前	147
[34007]	論文作成基礎講座Ⅱ（夏期スクーリング）〔萩野 了子〕 2群午後	148
[34008]	日本文芸研究特講・韻文（夏期スクーリング）〔土屋 聡〕 2群午後	149
[34009]	日本文芸研究特講・近世（夏期スクーリング）〔牧野 悟資〕 2群午後	150
[34010]	日本文芸研究特講・中古（夏期スクーリング）〔中西 智子〕 2群午後	151
[34011]	論文作成基礎講座Ⅰ（夏期スクーリング）〔園 明美〕 2群午後	152
[34012]	書道史（夏期スクーリング）〔山口 恭子〕 2群夜間	153
[34013]	日本文芸学概論（夏期スクーリング）〔大和田 茂〕 2群夜間	154
[34014]	日本文芸研究特講・近代（夏期スクーリング）〔沼田 真里〕 3群終日	155
[34015]	日本文芸研究特講・上代（夏期スクーリング）〔坂本 勝〕 3群終日	156
[34016]	日本文法論（夏期スクーリング）〔尾谷 昌則〕 3群終日	157
[34017]	文学概論（夏期スクーリング）〔山田 稔〕 3群終日	158
[35001]	史学演習（日本）（夏期スクーリング）〔大塚 紀弘〕 1群午前	159
[35002]	史学概論（夏期スクーリング）〔秋山 千恵〕 1群午前	160
[35003, 35004]	東洋史概説（夏期スクーリング）〔塩沢 裕仁〕 1群午前	161
[35006]	史学演習（日本）（夏期スクーリング）〔松本 剣志郎〕 1群午後	162
[35007]	日本中世史（夏期スクーリング）〔仁平 義孝〕 1群午後	163
[35008]	史学演習（東洋）（夏期スクーリング）〔兼平 充明〕 2群午前	164
[35009, 35010]	西洋史概説（夏期スクーリング）〔後藤 篤子〕 2群午後	165
[35011]	日本古代史（夏期スクーリング）〔杉本 一樹〕 2群午後	166
[35012, 35013]	日本史概説（夏期スクーリング）〔安田 寛子〕 2群午後	167

【35014】	史学演習（日本）（夏期スクーリング）[長井 純市, 中川 洋] 2群夜間	168
【35015】	東洋史特講（中国現代史）（夏期スクーリング）[齋藤 勝] 3群終日	169
【35016】	日本考古学（夏期スクーリング）[小倉 淳一] 3群終日	170
【36001】	測量学及び測量実習（1）（夏期スクーリング）[平井 英明] 1群前半集中	171
【36002】	現地研究（夏期スクーリング）[小原 丈明] 1群後半集中	172
【36003】	写真・読図演習（1）（夏期スクーリング）[八木 浩司] 1群後半集中	173
【36004】	地誌学特講（夏期スクーリング）[羽佐田 紘大] 1群午後	174
【36005】	自然地理学演習（夏期スクーリング）[山口 隆子] 2群午前	175
【36006】	人文地理学特講（夏期スクーリング）[中俣 均] 2群午前	176
【36007】	自然地理学特講（夏期スクーリング）[小寺 浩二] 2群午後	177
【36008】	人文地理学演習（夏期スクーリング）[米家 志乃布] 2群午後	178
【36009】	現地研究（夏期スクーリング）[前杵 英明] 3群終日	179
【37001, 37002】	社会経済学A/社会経済学I（夏期スクーリング）[大澤 覚] 1群午前	180
【37003, 37004】	統計学A/統計学I（夏期スクーリング）[菅 幹雄] 1群午後	181
【37005, 37006】	社会経済思想史/社会思想史（夏期スクーリング）[伊藤 直樹] 2群午前	182
【37007】	総合特講（夏期スクーリング）[岸 牧人] 2群午前	183
【37008】	経済学特講（夏期スクーリング）[赤石 秀之] 2群午後	184
【37009】	経済学特講（夏期スクーリング）[明城 聡] 2群夜間	185
【37010】	経済学特講（夏期スクーリング）[島澤 諭] 3群終日	186
【38001】	経営学特講（夏期スクーリング）[大木 良子] 1群午前	187
【38002, 38003】	情報科学実習（1）（bコース）/コンピュータ入門（1）（bコース）（夏期スクーリング）[児玉 靖司] 1群午前	188
【38004】	経営学特講（夏期スクーリング）[木村 純子] 1群午後	189
【38005, 38006】	情報科学実習（2）（dコース）/コンピュータ入門（2）（dコース）（夏期スクーリング）[渡辺 英人] 1群午後	190
【38007, 38008】	情報科学実習（3）（aコース）/コンピュータ入門（3）（aコース）（夏期スクーリング）[寺脇 由紀] 1群夜間	191
【38009】	人的資源管理論I（夏期スクーリング）[山口 壘] 1群夜間	192
【38010】	経営学特講（夏期スクーリング）[高橋 理香] 2群午前	193
【38011, 38012】	情報科学実習（4）（dコース）/コンピュータ入門（4）（dコース）（夏期スクーリング）[渡辺 英人] 2群午前	194
【38013】	経営学特講（夏期スクーリング）[福多 裕志] 2群午後	195
【38014, 38015】	情報科学実習（5）（bコース）/コンピュータ入門（5）（bコース）（夏期スクーリング）[児玉 靖司] 2群午後	196
【38016】	経営学特講（夏期スクーリング）[金 瑯晋] 2群夜間	197
【38017, 38018】	情報科学実習（6）（aコース）/コンピュータ入門（6）（aコース）（夏期スクーリング）[入戸野 健] 2群夜間	198
【38019】	経営学特講（夏期スクーリング）[猪狩 良介] 3群終日	199
【39001, 39002】	教育相談（夏期スクーリング）[藤平 敦] 1群午後	200
【39003, 39004】	教育の制度・経営（夏期スクーリング）[新井 秀明] 2群午後	202
【40001】	論理学（冬期スクーリング）[大貫 義久] 1群午後	203
【40002】	東洋史（冬期スクーリング）[板橋 暁子] 2群午前	204
【40003】	法学(日本国憲法)（冬期スクーリング）[石川 澄雄] 1群午前	205
【40004】	自然地理学（冬期スクーリング）[加藤 美雄] 1群午後	207
【40005】	基礎特講（冬期スクーリング）[中田 和秀] 1群午前	209
【40006】	数学3（冬期スクーリング）[倉田 俊彦] 1群午後	210
【40007】	化学3（講義）（冬期スクーリング）[向井 知大] 2群午前	211
【41001】	英語S（1）（冬期スクーリング）[ウォルター・カズマー] 1群午前	212
【41002】	英語S（2）（冬期スクーリング）[戸嶋 まゆみ] 1群午前	214
【41003】	英語S（3）（冬期スクーリング）[Richard.J.Burrows] 1群午後	215
【41004】	英語S（4）（冬期スクーリング）[大曲 陽子] 2群午前	216
【41005】	英語S（5）（冬期スクーリング）[吉江 秀和] 2群午前	218
【41006】	総合外国語特講（英語）（冬期スクーリング）[Robert Durham] 2群午後	219
【41007】	仏語S（冬期スクーリング）[瀬戸 和子] 1群午後	221
【41008】	独語S（冬期スクーリング）[三ツ石 祐子] 2群午後	222
【42001】	スポーツ総合演習（冬期スクーリング）[山田 快] 2群午後	223
【43001】	法律学特講（冬期スクーリング）[笹久保 徹] 1群午前	224

【43002】 行政法 (冬期スクーリング) [氏家 裕順] 1群午前 .....	225
【43003】 憲法 (冬期スクーリング) [金子 匡良] 1群午後 .....	226
【43004】 刑事訴訟法 (冬期スクーリング) [田中 開] 1群午後 .....	227
【43005】 政治学 (冬期スクーリング) [佐賀 香織] 2群午前 .....	228
【43006】 会社法 (冬期スクーリング) [笹久保 徹] 2群前半集中 .....	229
【43007】 物権法 (冬期スクーリング) [遠山 純弘] 2群午後 .....	230
【43008】 民事訴訟法 (冬期スクーリング) [廣尾 勝彰] 2群午後 .....	231
【44001】 論文作成基礎講座Ⅰ (冬期スクーリング) [山口 恭子] 2群前半集中 .....	232
【44002】 日本美術史 (冬期スクーリング) [萩原 哉] 2群午前 .....	233
【44003】 日本文芸研究特講・現代 (冬期スクーリング) [矢澤 美佐紀] 2群午前 .....	234
【44004】 日本文芸研究特講・現代 (冬期スクーリング) [古牧 久典] 2群午後 .....	235
【44005】 日本文芸研究特講・漢文 (冬期スクーリング) [永井 弥人] 2群午後 .....	236
【44006】 西洋美術史 (冬期スクーリング) [濱西 雅子] 2群午後 .....	237
【45001/45002】 日本史概説 (冬期スクーリング) [古庄 浩明] 1群午前 .....	240
【45003/45004】 東洋史概説 (冬期スクーリング) [宇都宮 美生] 1群午後 .....	242
【45005】 歴史資料学 (日本近世) (冬期スクーリング) [米崎 清実] 1群午後 .....	243
【45006/45007】 西洋史概説 (冬期スクーリング) [竹下 和亮] 2群午前 .....	244
【45008】 東洋美術史 (冬期スクーリング) [水上 和則] 2群午後 .....	245
【45009】 史学演習 (日本) (冬期スクーリング) [中川 洋] 2群夜間 .....	246
【46001】 自然地理学演習 (冬期スクーリング) [羽佐田 紘大] 1群午前 .....	247
【46002】 地理情報システム (GIS) (1) (冬期スクーリング) [中山 大地] 1群午前 .....	248
【46003】 人文地理学演習 (冬期スクーリング) [小原 文明] 1群午後 .....	249
【46004】 測量学及び測量実習 (2) (冬期スクーリング) [豊田 友夫] 2群前半集中 .....	250
【46005】 現地研究 (冬期スクーリング) [前畑 明美] 2群前半集中 .....	251
【46006】 現地研究 (冬期スクーリング) [羽佐田 紘大] 2群後半集中 .....	252
【46007】 地誌学特講 (冬期スクーリング) [加藤 美雄] 2群後半集中 .....	253
【47001/47002】 社会経済思想史/社会思想史 (冬期スクーリング) [伊藤 直樹] 2群午後 .....	255
【48001】 経営学特講 (冬期スクーリング) [稲垣 京輔] 1群午前 .....	256
【48002/48003】 情報科学実習 (1) (aコース) / コンピュータ入門 (1) (aコース) (冬期スクーリング) [寺脇 由紀] 1群午前 .....	257
【48004】 人的資源管理論Ⅱ (冬期スクーリング) [山口 壘] 1群午後 .....	259
【48005】 経営学特講 (冬期スクーリング) [近能 善範] 2群午前 .....	260
【48006】 演習 (冬期スクーリング) [福多 裕志] 2群前半集中 .....	261
【48007/48008】 情報科学実習 (2) (bコース) / コンピュータ入門 (2) (bコース) (冬期スクーリング) [児玉 靖司] 2群午後 .....	262
【48009】 経営学特講 (冬期スクーリング) [岸本 直樹] 2群午後 .....	263
【49001/49002】 教育実習事前指導 (社会・商業) (冬期スクーリング) [木村 良成] 2群前半集中 .....	264
【49003/49004】 教育実習事前指導 (国語) (冬期スクーリング) [水野 多満司] 2群午後 .....	265
【49005/49006】 教職実践演習 (冬期スクーリング) [遠藤 野ゆり] 2群午後 .....	266
【50001】 社会学 (「近代」とは何か)(前期メディア) [徐 玄九] 前期 .....	268
【50003】 生物学2 (講義)(前期メディア) [木原 章] 前期 .....	270
【50005】 基礎特講 (民俗学)(前期メディア) [吉成 直樹] 前期 .....	271
【51001】 商法総則・商行為法(Ⅱ)(前期メディア) [桜沢 隆哉] 前期 .....	272
【51005】 行政法(前期メディア) [西田 幸介、氏家 裕順] 前期 .....	273
【51007】 労働法 (働き方に関する法ルール)(前期メディア) [宮崎 由佳] 前期 .....	274
【51009】 国際法各論 (国際平和の追求)(前期メディア) [稲垣 治] 前期 .....	275
【51011】 保険法・海商法(Ⅰ)(前期メディア) [桜沢 隆哉] 前期 .....	276
【51013】 労使関係論 (Ⅱ) (前期メディア) [細川 良] 後期 .....	278
【52001】 日本文芸史Ⅱ (前期メディア) [川鍋 義一] 前期 .....	280
【52003】 日本文芸研究特講・近代 (日本の私小説を読む)(前期メディア) [梅澤 亜由美] 前期 .....	282
【52005】 日本文芸研究特講・現代 (戦後文学から日本を考える)(前期メディア) [山田 夏樹] 前期 .....	284
【52007】 日本芸能史 (前期メディア) [伊海 孝充] 前期 .....	285
【54001】 自然地理学 (地形)(Ⅰ)(前期メディア) [前空 英明] 前期 .....	286
【54007】 自然地理学 (海洋・陸水)(Ⅰ)(前期メディア) [小寺 浩二] 前期 .....	287
【54013】 自然地理学概論 (2)(前期メディア) [小寺 浩二] 前期 .....	288
【54017】 地誌学概論 (前期メディア) [小寺 浩二] 前期 .....	290
【55001】 金融論A / 金融論Ⅰ (前期メディア) [武田 浩一] 前期 .....	291

【55005】	ミクロ経済学A／現代経済学I(前期メディア) [平井 俊行] 前期	292
【55009】	マクロ経済学A／マクロ経済学I(前期メディア) [奥山 利幸] 前期	293
【55013】	国際経済論A／国際経済論I(前期メディア) [田村 晶子] 前期	295
【55017】	環境経済論A／環境経済論I(前期メディア) [松波 淳也] 前期	296
【55021】	開発経済入門A(前期メディア) [池上 宗信] 前期	297
【55023】	社会保障論A(前期メディア) [菅原 琢磨] 前期	298
【55025】	経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(前期メディア) [赤石 秀之] 前期	299
【55027】	ビジネス英語B(前期メディア) [中谷 安男] 前期	300
【55029】	経済地理(I)(前期メディア) [近藤 章夫] 前期	301
【55035】	労働経済論A(前期メディア) [佐野 晋平] 前期	302
【56001】	経済学入門I／経済学入門A(前期メディア) [平田 英明] 前期	303
【56005】	会計学入門I(前期メディア) [神谷 健司] 前期	304
【56009】	マーケティング論I(前期メディア) [竹内 淑恵] 前期	305
【56011】	管理会計論I(前期メディア) [北田 智久] 前期	306
【56013】	税務会計I(前期メディア) [大下 勇二] 前期	307
【56015】	国際金融論II(前期メディア) [横内 正雄] 前期	308
【56017】	日本経営論(前期メディア) [金 容度] 前期	309
【56019】	ファイナンス論I／現代ファイナンスA(前期メディア) [山崎 輝] 前期	310
【60001】	経済学(資本と利子から経済を考える)(後期メディア) [水野 和夫] 後期	311
【60003】	基礎特講(文学の楽しみ方)(後期メディア) [長谷 俊雄] 後期	312
【60005】	英語S(後期メディア) [今井 澄子] 後期	313
【60007】	健康・スポーツ科学概論(健康づくりと運動の基礎理論)(後期メディア) [伊藤 マモル] 後期	314
【60009】	社会学(「近代」とは何か)(後期メディア) [徐 玄九] 後期	316
【60011】	生物学2(講義)(後期メディア) [木原 章] 後期	318
【60013】	基礎特講(民俗学)(後期メディア) [吉成 直樹] 後期	319
【61001】	総合特講(グローバル現代史)(後期メディア) [鶴見 直人] 後期	320
【61003】	民法総則(民法典全体に共通するルール)(後期メディア) [明石 真昭] 後期	322
【61005】	商法総則・商行為法(I)(後期メディア) [桜沢 隆哉] 後期	323
【61009】	国際法総論(国際社会の法秩序)(後期メディア) [稲垣 治] 後期	324
【61015】	行政救済法(後期メディア) [西田 幸介,氏家 裕順] 後期	325
【61017】	労働法(労働法II)(後期メディア) [藤木 貴史] 後期	327
【61019】	保険法・海商法(II)(後期メディア) [桜沢 隆哉] 後期	328
【61021】	法律学特講(国際労働法)(後期メディア) [山本 圭子] 後期	329
【61023】	労使関係論(I)(後期メディア) [細川 良] 後期	331
【61027】	憲法(日本国憲法の現状と課題)(後期メディア) [建石 真公子] 後期	333
【61033】	商法総則・商行為法(II)(後期メディア) [桜沢 隆哉] 後期	334
【61037】	行政法(後期メディア) [西田 幸介,氏家 裕順] 後期	335
【61039】	労働法(働き方に関する法ルール)(後期メディア) [宮崎 由佳] 後期	336
【61041】	国際法各論(国際平和の追求)(後期メディア) [稲垣 治] 後期	337
【61043】	保険法・海商法(I)(後期メディア) [桜沢 隆哉] 後期	338
【61045】	労使関係論(II)(後期メディア) [細川 良] 後期	340
【62001】	日本文芸研究特講・中古(『竹取物語』を読む—かぐや姫の”実像”)(後期メディア) [園 明美] 後期	342
【62003】	日本文芸研究特講・中世(平家物語)(後期メディア) [小秋元 段] 後期	343
【62005】	日本文芸研究特講・近世(西鶴大句数)(後期メディア) [浅沼 博] 後期	344
【62007】	日本語史(後期メディア) [間宮 厚司] 後期	345
【62009】	書道史(中国と日本の書の歴史)(後期メディア) [山口 恭子] 後期	346
【62009】	書道史(中国と日本の書の歴史)(後期メディア) [山口 恭子] 後期	347
【62011】	日本文芸史II(後期メディア) [川鍋 義一] 後期	348
【62013】	日本文芸研究特講・近代(日本の私小説を読む)(後期メディア) [梅澤 亜由美] 後期	350
【62015】	日本文芸研究特講・現代(戦後文学から日本を考える)(後期メディア) [山田 夏樹] 後期	352
【62017】	日本芸能史(後期メディア) [伊海 孝充] 後期	353
【63001】	日本史概説(東アジアのなかの古代日本)(後期メディア) [浜田 久美子] 後期	354
【63007】	西洋史概説(ロシア近代史を中心として)(後期メディア) [草野 佳矢子] 後期	355
【64001】	自然地理学(地形)(II)(後期メディア) [前空 英明] 後期	356
【64007】	自然地理学(海洋・陸水)(II)(後期メディア) [小寺 浩二] 後期	357
【64013】	世界地誌(1)(アジア)(後期メディア) [小寺 浩二] 後期	358
【64019】	自然地理学特講(人間の生活と気候)(後期メディア) [狩野 真規] 後期	359

【64021】	自然地理学(地形)(I)(後期メディア) [前空 英明] 後期	360
【64027】	自然地理学(海洋・陸水)(I)(後期メディア) [小寺 浩二] 後期	361
【64033】	自然地理学概論(2)(後期メディア) [小寺 浩二] 後期	362
【64037】	地誌学概論(後期メディア) [小寺 浩二] 後期	364
【65001】	経済学入門B/II (後期メディア) [森田 裕史] 後期	365
【65005】	金融論B/金融論II (後期メディア) [武田 浩一] 後期	366
【65009】	ミクロ経済学B/現代経済学II (後期メディア) [平井 俊行] 後期	367
【65013】	マクロ経済学B/マクロ経済学II(後期メディア) [奥山 利幸] 後期	368
【65017】	国際経済論B/国際経済論II(後期メディア) [武智 一貴] 後期	370
【65021】	環境経済論B/環境経済論II(後期メディア) [松波 淳也] 後期	371
【65025】	開発経済入門B (後期メディア) [池上 宗信] 後期	372
【65027】	社会保障論B (後期メディア) [菅原 琢磨] 後期	373
【65029】	ビジネス英語A(後期メディア) [中谷 安男] 後期	374
【65031】	経済地理(II)(後期メディア) [近藤 章夫] 後期	376
【65037】	労働経済論B(後期メディア) [佐野 晋平] 後期	377
【65039】	金融論A/金融論I (後期メディア) [武田 浩一] 後期	378
【65043】	ミクロ経済学A/現代経済学I (後期メディア) [平井 俊行] 後期	379
【65051】	国際経済論A/国際経済論I(後期メディア) [田村 晶子] 後期	380
【65055】	環境経済論A/環境経済論I(後期メディア) [松波 淳也] 後期	381
【65059】	開発経済入門A(後期メディア) [池上 宗信] 後期	382
【65061】	社会保障論A(後期メディア) [菅原 琢磨] 後期	383
【65063】	経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(後期メディア) [赤石 秀之] 後期	384
【65065】	ビジネス英語B(後期メディア) [中谷 安男] 後期	385
【65067】	経済地理(I)(後期メディア) [近藤 章夫] 後期	386
【65073】	労働経済論A(後期メディア) [佐野 晋平] 後期	387
【66001】	会計学入門II (後期メディア) [神谷 健司] 後期	388
【66005】	マーケティング論II (後期メディア) [竹内 淑恵] 後期	389
【66007】	管理会計論II (後期メディア) [北田 智久] 後期	391
【66009】	税務会計II (後期メディア) [大下 勇二] 後期	392
【66011】	国際金融論I (後期メディア) [横内 正雄] 後期	393
【66013】	経営学特講(ミクロ経済学)(後期メディア) [平田 英明] 後期	394
【66015】	経営組織論(後期メディア) [長岡 健] 後期	395
【66017】	事業創造論(後期メディア) [稲垣 京輔] 後期	397
【66019】	ファイナンス論II/現代ファイナンスB(後期メディア) [山崎 輝] 後期	399
【66023】	消費者行動論(後期メディア) [新倉 貴士] 後期	401
【66025】	広告論(後期メディア) [竹内 淑恵] 後期	403
【66027】	経済学入門I/経済学入門A(後期メディア) [平田 英明] 後期	405
【66031】	会計学入門I (後期メディア) [神谷 健司] 後期	406
【66035】	マーケティング論I (後期メディア) [竹内 淑恵] 後期	407
【66037】	管理会計論I (後期メディア) [北田 智久] 後期	409
【66039】	税務会計I (後期メディア) [大下 勇二] 後期	410
【66041】	国際金融論II (後期メディア) [横内 正雄] 後期	411
【66043】	日本経営論(後期メディア) [金 容度] 後期	412
【66045】	ファイナンス論I/現代ファイナンスA(後期メディア) [山崎 輝] 後期	413
【70001】	人文地理学 (ゴールドデンウィークスクーリング) [前畑 明美]	415
【70002】	法律学特講 (ゴールドデンウィークスクーリング) [岩垣 真人]	416
【70003】	総合特講 (ゴールドデンウィークスクーリング) [齋藤 経史]	417
【70004】	経営学特講 (ゴールドデンウィークスクーリング) [溝部 陽司]	418
【82001】	物理学3 (講義) (10月週末Zoomスクーリング) [藤田 貢崇] 10/10,11,17,18,24,25・午後	419
【82001】	物理学3 (講義) (札幌市スクーリング) [藤田 貢崇]	420
【82002】	総合特講 (札幌市スクーリング) [長井 純市]	421
【82002】	総合特講 (10月週末Zoomスクーリング) [長井 純市] 10/10,11,17,18,24,25・午前	422
【82003】	経営学特講 (札幌市スクーリング) [奥西 好夫]	423
【84001】	基礎特講 (12月週末スクーリング) [大貫 義久]	424
【84002】	総合特講 (12月週末スクーリング) [前空 英明]	425
【84003】	史学演習 (西洋) (12月週末スクーリング) [竹下 和亮]	426
【91001】	西洋史 (後期週末スクーリング) [宮崎 亮]	427

【91001】 スポーツ特講（11月週末スクーリング）[朝比奈 茂] 11/14・15・21・22・28・29：午前 .....	428
【91002（法学部）・91003（公開科目）】 法哲学（11月週末スクーリング）[西村 清貴] 11/14・15・21・22・28・29：午前 .....	430
【91004】 書道実技（11月週末スクーリング）[井澤 秀彦] 11/15・22・29：終日 .....	431
【91005】 論文作成基礎講座Ⅱ（11月週末スクーリング）[川鍋 義一] 11/14・15・21・22・28・29：午前 .....	432
【91006】 史学演習（東洋）（11月週末スクーリング）[宇都宮 美生] 11/14・15・21・22・28・29：午前 .....	433
【91007】 経済学特講（11月週末スクーリング）[持元 江津子] 11/14・15・21・22・28・29：午後 .....	434
【91008】 経済学特講（11月週末スクーリング）[胥 鵬] 11/14・15・21・22・28・29：午後 .....	435
法律学特講（仙台市スクーリング）[田中 開] .....	436
総合特講（大阪市スクーリング）[阿部 真弓] .....	437
英語S（仙台市スクーリング）[宇治谷 義英] .....	438
英語S（名古屋市スクーリング）[平野井 ちえ子] .....	439
総合特講（名古屋市スクーリング）[中丸 宣明] .....	440
経営学特講（前期週末スクーリング）[市川 佳功] .....	441
総合特講（仙台市スクーリング）[小寺 浩二] .....	442
総合特講（大阪市スクーリング）[松野 響] .....	444
会社法（前期週末スクーリング）[笹久保 徹] .....	445

テスト
サブタイトル：
石原 輝子
カテゴリー：大阪市   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【到達目標】

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
---	-----	----

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【テキスト（教科書）】

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

【学生の意見等からの気づき】

ECN200TF (経済学 / Economics 200)

## 経済学特講 (前期週末スクーリング)

西村 陽一郎

カテゴリー：前期週末 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業は多大な労力と費用をかけて研究開発を行っています。そして、その研究開発の成果物である知的資産について様々な管理を企業は行っています。この講義では、なぜ企業は研究開発をするのかといった疑問から始まり、研究開発の成果物である知的資産（技術や発明）を企業はどのように管理するのかを受講者が経済学分析を通して学習することを目的とします。

## 【到達目標】

本講義では、

- (1) 受講生は企業がなぜ研究開発活動を行うのかを理解できる
- (2) 受講生は企業がどのように研究開発活動を行うのかを理解できる
- (3) 受講生は研究開発活動として創造された知的資産やイノベーションが他の企業財産とどのような差異があるのかを理解できる
- (4) 受講生は同業他社の模倣実態や模倣理由を理解できる
- (5) 受講生は模倣からどのように知的資産やイノベーションを保護するのかを理解できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP1, DP3, DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。

また、講義資料を用いて行われます

講義は次のように構成されます。00～15分：初回～前回までの復習、15～100分：講義。

なお、予習では、講義資料の内容を事前に読み込み、復習では、講義資料を全部読み込むと同時に自筆の講義ノートも全部読み込むことが必要です。そして予習復習あわせて各回あたり約8時間の自己学習を想定しています。そして、講義および中間テストを通して講義後の講義資料の理解を深めていく姿勢も求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の体系、シラバス記載事項の確認。(本講義の目的・到達目標、講義の進め方・日程の確認、成績評価方法)
第2回	研究開発①	知的資産の重要性や知的資産の特徴を考察する。
第3回	研究開発②	企業の研究開発を考察する。
第4回	研究開発③	企業の研究開発を新薬開発から考察する。
第5回	知的資産と模倣	模倣の実態を学習する。また知的資産を保護する方法を概観する
第6回	知的資産の保護とリードタイム短縮化	知的資産を保護する方法、特に、リードタイム短縮化といった観点から考察する。

第7回	知的資産の保護と営業秘密	知的資産を保護する方法、特に、営業秘密といった観点から考察する。
第8回	中間試験と解説	授業内にて中間試験を行う。試験後に解説をする。
第9回	知的資産の保護と特許①	知的資産である技術や発明を保護する方法として特許権を考察する。特に特許権のメリットを考察する。
第10回	知的資産の保護と特許②	知的資産である技術や発明を保護する方法として特許権を考察する。特に特許権のデメリットを考察する。
第11回	知的資産の保護と著作権	知的資産である創作物（音楽や映画・ドラマ）を保護する方法として著作権を考察する。
第12回	最終試験とまとめ	授業内にて最終試験とまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では、講義資料の内容を事前に読み込み、復習では、講義資料を全部読み込むと同時に自筆の講義ノートも全部読み込むことが必要です。そして予習復習あわせて各回あたり約8時間の自己学習を想定しています。そして、講義および中間テストを通して講義後の講義資料の理解を深めていく姿勢も求められます。

## 【テキスト（教科書）】

講義では、講義資料に基づいて講義を行います。したがって、テキストはありません。

## 【参考書】

講義では、講義資料に基づいて講義を行います。したがって、参考書はありません。

## 【成績評価の方法と基準】

中間試験50% + 最終試験50%により評価します。出席状況は出席することが前提なので評価の対象としません。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にないです。

## 【その他の重要事項】

特にないです。

## 【Outline (in English)】

Nowadays firms spend a lot of effort on R&D and make huge expenditure in R&D. Companies use various strategies to manage intellectual property which are the product from a consequence of R&D. In this course, students will learn starting from the reason why companies invest in R&D ending to the strategies regarding how to manage intellectual property (technology and invention) by using economic analysis.

LIT100TC (文学 / Literature 100)

**日本文芸研究特講・漢文****吉井 涼子**

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】****【到達目標】**

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】****【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】****【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】****【授業計画】** 授業形態：

回            テーマ                            内容

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】****【テキスト（教科書）】****【参考書】****【成績評価の方法と基準】****【学生の意見等からの気づき】**

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (後期週末スクーリング)</b>
<b>市川 佳功</b>
カテゴリー：後期週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

税率アップや軽減税率の導入など最近トピックな消費税を学習対象にします。消費税は消費者としてではなく納税者として学習すべきものと考えています。間接税とはいえ消費税法は国家と納税者の関係を定めた法律です。どのような構造になっているのか、日常とは異なる観点で学習していきます。理解するのに少し難易度高めの講義内容にする予定です。

#### 【到達目標】

消費税の計算概要を理解することも重要ですが、計算方法よりも消費税法の趣旨を理解することを重視したいと思います。税務署と納税者との間でどのような問題が生じているのか、どのように考えて解決されるべきかという、税法に関する思考方法を身に付けてほしいと思います。消費税法の全体像を理解したうえで、問題解決方法とその根拠が試験答案に示せるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

「チョーク」と「トーク」で授業を進めていきます。さまざまなところで興味を引くようにポイントを設定するつもりです。テキストを指定しない分、しっかりと授業内容を把握することが必要です。授業中に学生との質疑応答も予定しています (ただし、税務相談にならない程度に)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	消費税の性質	租税法一般と消費税の特徴を学習します。
第2回	消費税の課税対象	課税対象、納税義務者、税額の計算方法、申告・納付の手続の概要を学習します。
第3回	国内取引と国際取引	消費税の課税関係に違いが生じる国内取引と国際取引の判定を学習します。
第4回	消費税の非課税制度	非課税対象を知らなければ納税者は損をします。しっかりと理解しましょう。
第5回	消費税の免税制度	非課税と免税の違いを理解します。
第6回	資産の譲渡等の時期	資産の譲渡がいつ行われたかによってその年の消費税の納税額が変わります。判定の仕方を学習します。
第7回	仕入税額控除の制度 (その1)	仕入税額控除が大きければ消費税の納税額は小さくなります。何をどのように控除するのか学習します。
第8回	仕入税額控除の制度 (その2)	税務署と争われる典型的なポイントです。事例を考えていきます。

第9回	簡易課税制度	消費税の簡単な計算方法ですが、油断すると多額の消費税を納めなければならない場合があります。
第10回	軽減税率	消費者にとってはありがたいが、納税者にとってはありがたくありません。その理由を学習します。
第11回	街中の「Tax・Free」	実は消費税のことです。制度を理解しましょう。
第12回	今までの学習内容の総括及び試験	短期間の学習をもう一度総復習を行い、その後、学習の習熟度を測るために試験を行います。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

指定テキストはありません。授業で配布するレジユメを使用します。

#### 【参考書】

国税庁の税務大学校で使用されるテキスト「講本」の『消費税』(基礎編)が参考になります。誰でもホームページ上から無料でダウンロードできます。

#### 【成績評価の方法と基準】

講義の12回目にあたる試験の結果100%で評価します。計算問題は出題しないので電卓は不要です。問題に直接的な解答をしているか、解答量は十分か、講義を受けた成果といえるかといった観点から評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回事例紹介が好評なので、事例を使用して皆で考えていくという講義を展開していきます。

#### 【その他の重要事項】

試験は紙媒体であれば何でも持ち込んで参照することを認めます。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the basic contents of the consumption tax law. You will also learn how to calculate the consumption tax.

BIO100TA (その他の総合生物・生物学 / Biology 100)
<b>生物学3 (講義) (前期週末スクーリング)</b>
<b>岡部 雅史</b>
カテゴリー：前期週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では身の回りの環境要因と生物学の関係を講義します  
 テーマ1 (1日目)：地球の水環境と生物学  
 テーマ2 (2日目)：地球の空気環境と生物学  
 テーマ3 (3日目)：食の安全と栄養と生物学

#### 【到達目標】

生物にとって水、空気、食事(栄養)がどのように重要な役割を果たしているか? を生物学と環境学との関わりで理解できるようになることをゴールにします。日常生活にも応用できる分かりやすい知識を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

配布プリントをもとに講義をすすめます。各テーマの講義の際に「ミネラルウォーターの味比べ」、「空気の密度による声の変調実験」、「近年の映画に示される生物学知見鑑賞」なども予定しています。最終日の午後に当該講義の内容について単位認定のためのマークシート試験を行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地球の水環境と生物学1	水の物理・化学的特徴
第2回	地球の水環境と生物学2	地球の水の量
第3回	地球の水環境と生物学3	化学進化 各種ミネラルウォーターを味わう
第4回	地球の水環境と生物学4	水中で生物が誕生した DVD鑑賞
第5回	地球の空気環境と生物学1	大気の成分とその変化
第6回	地球の空気環境と生物学2	呼吸と光合成
第7回	地球の空気環境と生物学3	健康的な空気環境とビジネスチャンス
第8回	地球の空気環境と生物学4	外国の空気環境と大気汚染 PM2.5
第9回	食の安全と栄養と生物学1	6大栄養素
第10回	食の安全と栄養と生物学2	肥満と減量
第11回	全体のまとめと復習時間の設定	受講者の質問に答えます マークシート試験の実施説明
第12回	マークシート試験	マーク20問 および記述問題1問

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。  
 学生は 新聞・ニュース等 報道にて紹介される科学ニュース等に注意しておく事。

#### 【テキスト(教科書)】

授業の際にプリントを配布します。

#### 【参考書】

授業の際に適宜 参考書 参考URLなどを指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

最終日に実施するマークシート試験(筆記問題も含まれます)によって評価を行う。60点以上で単位を認定する。試験の配分が100%になります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

プロジェクター画像を見やすく理解しやすいものにします。  
 学問のみにかたよらない分かりやすい講義内容にします。

#### 【Outline (in English)】

This class features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about life sciences.

HUG100TA (人文地理学 / Human geography 100)
<b>人文地理学 (大阪市スクーリング)</b>
<b>朴 宗玄</b>
カテゴリー：大阪市   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では「人文地理学」を学習する。人文地理学の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

#### 【到達目標】

授業の到達目標は、人文地理学の様々な側面から地域・都市を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

マクロレベルで日本の国土構造について解説する。その際には、さまざまな統計資料および先行研究を用いて、地域政策と国土構造の形成、企業行動（オフィス）、人口現象、そしてジェンダーの役割、といった4つの視点からアプローチする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地理学の課題・方法・見方	地理学の課題・方法・見方について解説する。
第2回	政策地理学	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、空間構造の特徴を学習する。
第3回	高度成長期以降の地域政策と日本の地域構造	高度成長期までの地域政策と関連づけながら、日本の国土構造の特徴を解説する。
第4回	国土政策と産業政策からみた日本の国土構造	高度成長期以降の地域政策と関連づけながら、日本の国土構造の特徴を解説する。
第5回	企業地理学	中枢管理機能の概念を学習し、本社立地の歴史の変遷からみた中枢管理機能からみた日本の都市システムの構造を学習する。
第6回	中枢管理機能からみた日本の都市システム	支社立地の歴史の変遷からみた中枢管理機能からみた日本の都市システムの構造を学習する。
第7回	商社立地からみた日本の都市システム	大手商社の本社・支社数の変化からみた、東京一局集中現象と日本の都市システムの構造を学習する。
第8回	複数本社制度と東京・大阪の地位	複数本社制度の実態からみた、東京一局集中現象と日本の都市システムの構造を学習する。
第9回	人口地理学	日本の人口の特徴を取り上げ、地理学から人口現象の特徴を学習する。
第10回	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の視点で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。

第11回	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
第12回	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。本授業の準備時間・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

#### 【参考書】

参考書としては、高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）、朴宗玄『韓日企業のアジア進出からみたアジアの国際的都市システム』（古今書院）、朴宗玄『東アジアの企業・都市ネットワーク』（古今書院）などがある。

#### 【成績評価の方法と基準】

①毎回授業中に行う小テスト(35%)、②最終日に行う期末試験(50%)、③授業態度(15%)により評価

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

授業中に地図化、グラフ化する作業を行うため、(1)地図帳（中学、高校用の地図帳であればよい）と(2)色鉛筆1セット（6色以上）を必ず用意すること。なお、(1)及び(2)の用意有無は、成績評価基準の③授業態度（15%）に反映する。

#### 【Outline (in English)】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法学特講 (12月週末スクーリング) (中止)</b>
<b>沼田 雅之</b>
カテゴリー：福岡市   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

#### 【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト（上級）コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP3, DP4」「日本文学学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

- ・PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める。
  - ・プリント教材を配布するが、講義中はノートをとることに専念するのではなく、頭の中で内容を理解した上で、必要な部分のみを配布プリントにメモしていただきたい。
  - ・講義の途中で、講義内容に関する確認問題を出题することがある。
  - ・受講者に対して質問をする場合がある。
  - ※オンライン授業になった場合
    - ・オンライン授業になった場合は、Zoomを利用して行います。
    - ・Zoomでは、「ビデオの停止」「ミュート」で参加してください。
    - ・Zoomの内容は録画し、後日Youtubeにアップロードいたします。
- ネットワーク等が不調の際は、Youtubeをご利用ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	男女間の雇用平等 (1)	男女同一賃金原則、男女平等公序法理などを学ぶ。
第2回	男女間の雇用平等 (2)	均等法の歴史と現行均等法の規制内容について学ぶ。
第3回	母性の保護、マタニティー・ハラスメントの防止	・労働基準法を中心とした母性保護規定について学ぶ。 ・均等法で定められているマタニティー・ハラスメントの防止策について学ぶ。
第4回	育児介護休業法	育児・介護休業制度、次世代育成対策推進法について学ぶ。
第5回	職場のハラスメント	各種ハラスメント（セクハラ、パワハラなど）の防止と救済を学ぶ。
第6回	均衡・均等処遇 (1)	パートタイム労働法の意義と現行パートタイム労働法の規制内容について学ぶ。

第7回	均衡・均等処遇 (2)	不合理な労働条件の禁止について学ぶ。
第8回	有期契約労働者の保護	無期転換制度、雇止めに関するルールについて学ぶ。
第9回	労働者派遣法 (1)	労働者派遣の歴史と基本的枠組みについて学ぶ。
第10回	労働者派遣法 (2)	労働者派遣法上の様々なルールについて学ぶ。
第11回	若年者雇用・高齢者雇用	若者雇用促進法、高年齢者雇用促進法を学ぶ。
第12回	障害者雇用・外国人雇用	障害者雇用促進法、雇用対策法、入管法等について学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジюме、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

#### 【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第9版）』（2016年、有斐閣）

#### 【成績評価の方法と基準】

##### 「試験」（100%）

- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出题する（場合によっては選択式問題を併用することがある）。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- ※オンライン授業になった場合
  - ・上記の評価方法に準じつつ、オンライン授業に適した方法を採用します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

#### 【学生が準備すべき機器他】

※オンライン授業になった場合は、映像受信に必要な機器をご用意ください。

#### 【その他の重要事項】

- ・「労働法」を履修していることが望ましい。
- ・「労使関係論」を履修するとより理解を深めることができる。

#### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

1. A law on non-regular workers;
2. The Law of the Labor Market;
3. A law on Employment of the Elderly;
4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

HIS100TA (史学/History 100)
<b>西洋史 (春期スクーリング)</b>
<b>宮崎 亮</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前500から前300にいたる古代ギリシア史。講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は西洋史の中でも古代史、それも通常「古典期」と呼ばれる時代の古代ギリシア史である。構成は次のように大きく3つに分かれる：1) イントロダクション（第1回～第3回）、2) ギリシア世界の覇権をめぐる抗争（第4回～第8回）、3) 古代ギリシア人が後世に残した遺産の検討（第9回～第13回）。

学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」とは何かを考える場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

### 【到達目標】

学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント使用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ：地勢と気候	ギリシア＝エーゲ海世界の地勢と気候
第2回	イントロダクション ：時代区分と史料	古代ギリシア史で用いる史料と時代区分
第3回	イントロダクション ：前500年頃までの東地中海世界	1) ポリスとは何か？ 2) 前500頃の東地中海はどのような姿をしていたか？
第4回	ギリシア世界の覇権 をめぐる(1)：ペルシア戦争	ペルシア戦争とアテーナイの勃興
第5回	ギリシア世界の覇権 をめぐる(2)：ペロポネーソス戦争	デーロス同盟とペロポネーソス同盟
第6回	ギリシア世界の覇権 をめぐる(3)：スパルタとペルシア	スパルタの覇権
第7回	ギリシア世界の覇権 をめぐる(4)：テーバイ	テーバイの勃興と失墜
第8回	ギリシア世界の覇権 をめぐる(5)：マケドニア	マケドニアによるギリシア世界の制覇
第9回	民主政治の諸問題(1) ：民主政の諸制度	「衆愚政治」になったと言われることの多いアテーナイ民主政を制度面から検証する

第10回	民主政治の諸問題(2) ：地方自治の重要性	アテーナイ民主政を支えた地方自治
第11回	民主政治の諸問題(3) ：政治哲学	民主政に批判的であったプラトンやアリストテレスの政治哲学
第12回	神話・叙事詩・演劇(1)	特にホメーロスの英雄叙事詩について
第13回	神話・叙事詩・演劇(2)	特にギリシア悲劇を例にとって民主政との関わり
第14回	試験	試験・まとめと解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

- 1) 人名・地名等でわからないものがあれば、自分で確認しておくこと。
- 2) 授業前に前回の授業を反芻する程度のことは行なっておくこと。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

R. オズボン『ギリシアの古代』（刀水書房、2011年）  
伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史』（講談社学術文庫、2004年）

### 【成績評価の方法と基準】

出席要件を満たした学生にのみ、学期末に行なう筆記試験（論述形式、持ち込み不可）の受験を許可し、その成績で評価する。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

7月8日に学期末の課題レポートの課題、締め切り、提出先などを学習サービスを通じて連絡している。必ず参照のこと。（7月8日、担当講師記）

### 【学生の意見等からの気づき】

実施していない。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

- 1) 私語を慎まない学生に対しては厳しい措置をとる。
- 2) 授業計画はあくまで「予定」と考えられたい。

### 【Outline (in English)】

This lecture class deals with the Greek world in the classical period (i.e. the fifth and fourth centuries B.C.). It consists of two parts: 1) political history of the Greek world from the Persian war to the death of Alexander the Great; 2) legacies of ancient Greece (i.e. democracy).

HIS100TA (史学/History 100)
<b>東洋史 (春期スクーリング)</b>
<b>板橋 暁子</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族・ジェンダー・セクシュアリティに関する伝統的秩序が比較的強固に存続してきた東アジア世界においても、近年、それらの見直しを求める声が高まっている。そのような伝統的秩序の少なくない部分が中国の文化や制度に由来するものであり、現代日本も例外ではない。本科目では、東アジア世界への影響もふまえながら、中国史上における家族・ジェンダー・セクシュアリティの展開を学ぶ。

#### 【到達目標】

現代へと連なる東アジア世界の家族・ジェンダー・セクシュアリティ構造が、中国を範例として如何に形成されてきたかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業開始日は4月24日（金）になります。「Web学習サービス」を毎週確認し、掲示された課題に対する回答（コメントペーパー）を、所定の期間中に、所定のメールアドレスに提出してください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の概要・目的
第2回	漢代①	父系制社会
第3回	漢代②	家族と戸籍
第4回	漢代③	外戚と宦官
第5回	魏晋南北朝①	貴族と婚姻
第6回	魏晋南北朝②	仏教・道教と信仰生活
第7回	隋唐①	女帝の誕生
第8回	隋唐②	妓女と文人
第9回	宋元①	都市と庶民生活
第10回	宋元②	朱子学と礼法
第11回	明清①	節婦・列女の顕彰
第12回	明清②	「男らしさ」の変遷
第13回	明清③	性愛規範と逸脱
第14回	総括	中国から東アジア世界へ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

#### 【参考書】

・早川紀代 [ほか] 編『歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界』東京：御茶の水書房、2015年  
 ・三成美保/姫岡とし子/小浜正子編『ジェンダーから見た世界史：歴史を読み替える』東京：大月書店、2014年  
 ・小浜正子 [ほか] 編『中国ジェンダー史研究入門』京都：京都大学学術出版会、2018年

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題に対する回答（コメントペーパー）（100%）。ただし、夏ごろの図書館利用可能状況によっては、レポートを以て最終回のコメントペーパーに代える可能性がある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業中および授業の前後も含め、積極的な質問を歓迎します。

#### 【Outline (in English)】

Although traditional systems of family, gender and sexuality have existed solidly in East Asia, more and more people have been asking for innovating them in recent years.

Many of these traditional systems originate from Chinese culture and institutions, contemporary Japan is no exception.

In this class, we will study how the systems of family, gender and sexuality have developed in Chinese history, considering their influences on other East Asian countries.

POL100TA (政治学 / Politics 100)

**政治学概論 (春期スクーリング)**

及川 智洋

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「政治」の目的と役割は何か。政治に関する基本的な知識と民主主義の歴史を学ぶ。主権者として政治に参加することの意義、政治をめぐる環境の変化について考察する。

**【到達目標】**

現代政治の基礎知識を持ち、メディアで報じられる政治課題について基本的な構図を理解したうえで自分なりの意見を持ち、その根拠を説明できる。また、自分とは異なる政治的な意見の理由についても考察できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的にテキストを参照しつつ口頭・板書で行う講義が主になる。加えて、書くことによって考えを整理することを重視したいので、期末試験以外にもテーマによっては授業時間内に小レポートを書いて提出してもらうことがある。受講生数によっては、グループディスカッションの回を設けることを検討する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
1	政治はなぜ嫌われるのか	投票率の低下に見られるように政治への無関心と拒否感が広がる中で、政治を学ぶ意味を考える。
2	政治の世界	政治の目的は何か。正義の実現、対立する利害の調整について考える。
3	国家と国民	近代国家の成り立ち、戦争とナショナリズムについて学ぶ。
4	民主主義と政治的自由	民主主義の歴史と「多数決」だけでない重要な論点を学ぶ。
5	政治課題のケーススタディ 1 米軍基地問題	日本の安全保障政策について学びつつ、沖縄に集中する米軍基地の問題を考える。
6	政治家と選挙	代表制民主主義、選挙制度と政治家（議員）の役割について学ぶ。
7	国会と法律	「立法府」である国会の役割と制定過程を学ぶ。
8	与党と野党	日本の内閣制度、政党史、連立政権と野党の役割について学ぶ。
9	政府と官僚（公務員）	行政府と政策の実行を担う官僚（公務員）の役割について学ぶ。
10	メディアと市民	政治におけるメディアの役割と、インターネット登場後の変化、市民の活動について考える。
11	政治課題のケーススタディ 2 日韓関係	近年、対立が注目されることので多い日本と韓国の関係について考える。

12	リーダーシップと熟議	政治に求められるリーダーシップと、慎重に話し合うことの意味を考える。
13	政治課題のケーススタディ 3 少子高齢化	少子高齢化への政策的な対応について、虐待と高齢者ドライバーの問題を題材に検討する。
14	政治の未来	これからの民主主義の可能性と、憲法改正問題について考える。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、予習 1 時間、復習 3 時間を標準とする。予習は各回のテーマに沿って、テキストを事前に読んで要点をまとめ、復習は講義のノートを参考にしながらテキストを再度読み返す、関連する新聞記事や専門書などをチェックしたうえで、自分の意見を小論文として書いてみるなどの学習が望まれる。

**【テキスト（教科書）】**

「政治学」新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（有斐閣、2017年）  
定価 2000 円 + 税

**【参考書】**

「民主主義は終わるのか」（山口二郎、岩波新書）  
「左翼はなぜ衰退したのか」（及川智洋、祥伝社新書）

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（記述式）の評価 80%、授業時間内に提出を求める小レポートの評価 20%。いずれも、課題とする政治学的なテーマを理解したうえで、自分の意見を明記し、かつその根拠を説明できることを評価基準とする。テーマによっては、反対意見の存在も含めて考察するよう求めることもある。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規に担当するため、特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

You will study political theory and history of democracy in this subject.

So we must consider about role of sovereign and change of political environment.

CUA100TA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)
<b>文化人類学 (春期スクーリング)</b>
<b>ベル 裕紀</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

#### 【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

4月23日より、毎週木曜日にweb学習システムに、アップロードする教材（映像および文書ファイル）を使って、学習を進めていく形になる。履修者は毎週アップロードされる教材によく目を通すとともに自主学習をしながら、毎週出される課題にこたえるものとする。課題の提出先は、最初の授業教材によって示すものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与・交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与・交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	暴力の人類学	「暴力」を主題として、暴力の制御や紛争解決の問題を扱う。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。
第九回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第十回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十一回	国民国家とナショナリズム	A.ゲルナーやB.アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十二回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構成主義的な考え方を理解する。
第十三回	オリエンタリズム批判とポストモダニズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に1時間程度の予習と、授業後は授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて少なくとも3時間程度かけて読みこみ、理解と思考を深めること。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

#### 【参考書】

岸上伸啓編2018『はじめて学ぶ文化人類学：人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房。  
 桑山敬己・綾部恒雄編2018『詳論 文化人類学：基本と最新トピックを深く学ぶ』ミネルヴァ書房。  
 中島成久編著2016『グローバリゼーションのなかの人類学案内』第7刷、明石書店。  
 松村圭一郎2011『ガイドブックシリーズ基本の30冊 文化人類学』人文書院。  
 ヘンドリー、ジョイ 2017『＜増補新版＞社会人類学入門 多文化共生のために』桑山敬己・堀口佐千子訳 法政大学出版局。  
 その他、授業時間内に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日にweb学習システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

This course provides an introduction to cultural/social anthropological discussion.

Students who take this course will:

- 1, learn anthropological discussion about the gift, kinship, politics/power, ethnicity, gender, nation-states and so on.
- 2, gain anthropological understanding for interpretations and analyses of our daily lives and social system.
- 3, gain better understanding about culture and about difficulties inherent in writing culture.

CHM100TA (その他の化学 / Chemistry 100)
<b>化学1 (講義) (春期スクーリング)</b>
<b>渡邊 永治</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身近にある化学を理解し、役に立つ化学を身につけることをねらいとする。そのために、生活の中でよく出会う化学物質の性質を題材とする。

#### 【到達目標】

生活の中でよく出会う化学物質の物性、構造、反応などを、分子レベルで理論的に考察できるようになる。さらに、現代化学のトピックスについても、メカニズムを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教科書の内容について、板書を中心に講義を行ない、基本的な内容を理解していただき、その都度、参考書で紹介されている、関連する応用例も解説する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	原子の構造 (1)	元素記号、同位体、原子量、モル
第2回	原子の構造 (2)	光電効果、不確定性原理
第3回	核化学	放射性元素の反応
第4回	分子構造と電子配置	電子雲、軌道の形、分子量
第5回	結合次数と結合角	混成軌道、シグマ結合、パイ結合
第6回	電気陰性度と結合	イオン結合、共有結合、親水性と疎水性、水素結合
第7回	IUPAC命名法	炭素骨格 (飽和、不飽和、直鎖、環状) と置換基の種類による命名
第8回	異性体	構造異性体、立体異性体、光学異性体
第9回	分子軌道法 (1)	波動関数、演算子
第10回	分子軌道法 (2)	ヒュッケル法、共役の長さ軌道エネルギー
第11回	有機化合物の構造決定 (1)	質量分析、X線構造解析
第12回	有機化合物の構造決定 (2)	可視紫外吸収スペクトル、赤外吸収スペクトル
第13回	有機化合物の構造決定 (3)	核磁気共鳴
第14回	有機化合物の性質	酸性と塩基性、共役系と発色、旋光性、DL表示とRS表示

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。ノートをまとめておくこと。重要なキーワードについて説明できるようにしておくことよい。

#### 【テキスト (教科書)】

『絶対わかる有機化学』齋藤勝裕著、講談社、2003年、¥2,400+税

#### 【参考書】

『グレイ 化学-物質と人間-』H.B.Gray, J.D.Simon, W.C.Trogler 著、東京化学同人、1997年、¥2,200+税

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験 (配分100%) により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this course is letting students acquire general chemistry through studying various materials and phenomena. To achieve the goal, students will learn chemical topics closely related to our daily life. It is expected that students can become to discuss properties and reactions of chemical species theoretically as well as to understand chemical background of cutting-edge topics in modern society.

PHY100TA (物理学 / Physics 100)
<b>物理学3 (講義) (春期スクーリング)</b>
<b>清水 則孝</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「光」と「音」は日常生活で身近なものです。その振る舞いは多様で自然界の法則を学ぶ上で重要な研究対象です。本講義では、光と音、波動について、その基本的な性質と、日常生活でどのように使われているかを学びます。

#### 【到達目標】

光・音とは何か、反射・屈折などの振る舞いとその後にある自然法則を理解する。  
 光や音に関する日常の中で現れる現象や、現在我々の生活を支えている科学技術にどのように使われているかを理解するための基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では、光に関するいろいろな現象とその背後にある法則を、これまで物理学の講義を受けたことが無い人でも理解できるよう、数式の使用は最小限度に止め、実演・ビデオ等を活用し視覚的に理解できるように講義をおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義内容の紹介と基礎事項の確認
第2回	音と波動(1)	音の速さ 縦波と横波
第3回	音と波動(2)	ドップラー効果、定常波と共鳴
第4回	波としての光(1)	光の速度
第5回	波としての光(2)	光の反射、屈折
第6回	波としての光(3)	光の分散 プリズム、虹
第7回	波としての光(4)	光の回折、干渉
第8回	波としての光(5)	光の偏光、電磁波
第9回	粒子としての光(1)	光電効果
第10回	粒子としての光(2)	熱放射と原子スペクトル
第11回	原子モデルとスペクトル(1)	原子の模型と量子論
第12回	原子モデルとスペクトル(2)	原子の模型と物質の性質
第13回	物の色と光	ものを見る仕組み、天体観測
第14回	まとめ	光とはなにか

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。演習問題を随時用意するので、それらを解くことにより講義の理解を深めます。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは特に設定しませんが、随時必要に応じて講義資料を配付します。

#### 【参考書】

シップマン・自然科学入門「新物理学」(増補改訂版) J. T. Shipman 著、勝守寛 監訳 (学術図書出版社、2002)  
 「物理学入門」 大西直毅著 (東京大学出版会、1996)

図解入門よくわかる光学とレーザーの基本と仕組み[第2版] 潮秀樹 著 (秀和システム、2010)

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、期末試験 (80%) により評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

数式、計算が出てくる場合は、できるだけ分かり易く説明します。

#### 【Outline (in English)】

While "light" and "sound" are familiar in daily life, they behave variously and are important research topics to elucidate the law of nature. In this lecture, we learn the elemental properties and applications of light, sound, and wave.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (1) (春期スクーリング)</b>
<b>大和久 悌一郎</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（4月20日追記）受講者の皆さんへ。本授業は、資料配布を中心とした授業になります。「授業の進め方」をご覧ください。

現在、英語読解能力は、国際社会の中で専門的な学問領域だけでなく、一般的な時事問題・日常生活においても重要になってきています。本授業では、そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力を充実させていくことを目指します。

#### 【到達目標】

- ・TOEICレベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEICレベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

（4月20日追記）オンライン授業として、この授業は、資料配布によって進めていきたいと思えます。毎週ごとに、大学からみなさんの元に資料がメールなどで届くと思えます。それをお読みいただき、場合によっては返信を求められることもありますので、ご回答ください。授業は、日常で使っている英語に、実際にふれてみることに主眼を置いています。初回から数回は、英語のニュースサイトの紹介や、YouTube動画の解説などをおこない、随時、文法などを身につけながら、英語に理解を深め、慣れていきたいと思えます。工夫はしますので、どうぞよろしくお願ひします。

（4月21日追記）質問などに答える「オフィスアワー」の代替策については、初回授業分の資料に記しますので、よろしくお願ひいたします。

日常的な英語表現と、英文法の各事項について解説しているテキストを用いて、基礎力を身につけていきます。また随時、新聞など海外の英語のニュース記事を読み、読解力を養っていきます。基本的に、テキスト1章分を2回の授業で扱い、必要に応じてプリントの配布を行います。毎回出欠の確認をします。また授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうことをお願ひします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の紹介
第2回	Unit 1 (例文読解)	空港での日常表現
第3回	Unit 1 (文法)	文型について
第4回	Unit 2 (例文読解)	マンションなどでの日常表現
第5回	Unit 2 (文法)	文型について
第6回	Unit 3 (例文読解)	友人を歓迎するさいの日常表現
第7回	Unit 3 (文法)	不定詞、動名詞について
第8回	Unit 4 (例文読解)	買い物をするときの日常表現
第9回	Unit 4 (文法)	不定詞について
第10回	Unit 5 (例文読解)	催しものときの日常表現

第11回	Unit 5 (文法)	分詞について
第12回	Unit 6 (例文読解)	観光地での日常表現
第13回	Unit 6 (文法)	接続詞について
第14回	まとめ	テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回であつかう章について、事前に予習しておく。また、テキストに登場した単語や表現については復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著『英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English -English Once More! II-』朝日出版社、2016年

#### 【参考書】

特になし。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。7回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (2) (春期スクーリング)</b>
<b>ROBIN F WEICHERT</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	Orientation & "Getting to know you"	explanation of class requirements. Word order in questions.
2	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
3	1C The Remake Project	present continuous, prepositions of place
4	2A Where's my passport?	simple past, holidays.
5	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
6	3A Trip Aside	be going to, airports.
7	3C Word games	defining relative clauses, paraphrasing.
8	4A Who does what?	present perfect, housework.
9	4B In your basket	present perfect or simple past, shopping.
10	4C #great weekend	something/anything, adjectives ending -ed and -ing.
11	5B Twelve lost wallets	superlatives, describing a town or city.
12	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
13	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs.
14	6C The meaning of dreaming	review of verb forms, modifiers.

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. They should spend at least 1 hour studying outside of class per week.

## 【テキスト (教科書)】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

## 【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%).

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

Notebook/Paper and writing utensils.

## 【その他の重要事項】

Sign up for the online exercises. The access code is included in the textbook.

## 【Outline (in English)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100TA (英語 / English language education 100)

**英語S (3) (春期スクーリング)**

Andrew E. Chen

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：1単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The object of this course is to introduce students to legal matters. Students read and examine truncated versions of real court cases in the U.S. and Japan. The course will introduce students to various legal topics and problems of the Japanese and American Societies.

**【到達目標】**

Students will continue to apply summarizing, paraphrasing, essay writing, and presentation skills acquired previously to this course. Students will be able to introduce a problematic issue of Law, summarize past related cases of law, comment and discuss the issue of law, and propose solutions. Lastly, students will learn how to write a research paper in the American Psychological Association (APA) style for a term paper.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Vocabulary and reading preparation done before class. Explanation and commentary of case by instructor. Comprehension check through reading exercise questions. Discussion in small groups.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第一回	Breach of Contract (契約違反)	The Case of a Man Who Worked for an Advertising Agency
第二回	Traffic Violations (交通違反)	The Case of a Japanese Driver Who Violated Traffic Laws
第三回	Products Liability (製造物責任)	The Case of the Young Fast Food Lovers
第四回	Products Liability (製造物責任)	The Case of the Olive that Bit Back
第五回	Harassment in the Workplace (職場でのハラスメント)	The Case of the Male Worker and His Female Supervisor
第六回	Harassment in the Workplace (職場でのハラスメント)	Sexual and "Power Harassment" Cases
第七回	Copyright Infringement on the Internet (インターネット上での著作権侵害)	The Case of a Man Who Sold Game Software

第八回	Copyright Infringement on the Internet (インターネット上での著作権侵害)	Streaming Apps, Illegal Uploading, BitTorrents
第九回	中間口頭発表 Anti-Stalking Law (ストーカー規正法)	Midterm Presentations, The Okegawa Case, The Zushi Case
第十回	Anti-Stalking Law (ストーカー規正法)	The Case of a Co-Worker in the Restaurant
第十一回	Rehabilitation of Juvenile Criminals (若年犯罪者の更生)	Criminal Psychology: Nurture vs Nature
第十二回	Rehabilitation of Juvenile Criminals (若年犯罪者の更生)	Reform vs Punishment
第十三回	Miscarriage of Justice (誤審 冤罪)	The Case of a Former Kindergarten Bus Driver
第十四回	Miscarriage of Justice (誤審 冤罪) 期末試験	The Jury System, Twelve Angry Men Review and Final Exam

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて2時間を標準とします。  
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

**【テキスト（教科書）】**

テキストは、アメリカと日本で実際に起こった、法律や訴訟に関わる様々なエピソードを紹介します。故マイケル・ジャクソンの遺産問題から、終身刑になった犯罪者の更正していく様を描いたものまで、幅広いトピックの法律に関連する事例を英語で読みます。法律だけでなく、考え方や社会など、いろいろな角度からアメリカと日本との違いを認識し、理解を深めることができます。事例の裏に絡み合う人間模様が学習者の興味を引き、英語の勉強になるだけでなく、一般教養としての法律の知識も身につけます。

Title: Legal Matters

Publisher: CENGAGE Learning

ISBN: 978-4-86312-150-8

**【参考書】**

The U.S.Code Legal Information Institute Cornell University Law School <http://www.law.cornell.edu/uscode/text>  
Federal and State Laws and Regulations <http://www.usa.gov/Topics/Reference-Shelf/Laws.shtml>  
Ono, Shusei. (1996), pp 27-45. Comparative Law and the Civil Code of Japan. The Hitotsubashi Journal of Law and Politics, The Hitotsubashi Academy.  
English Translation of the Japanese Civil Code <http://www.moj.go.jp/content/000056024.pdf>  
Japanese Law Research Guide New York University <http://www.nyulawglobal.org/globalex/japan1.htm>

**【成績評価の方法と基準】**

\*Vocabulary Quizzes (10%)  
\*Class participation (10%)  
\*Written assignments and opinions (10%)  
\*Midterm Presentation (20%)  
\*Final exam (50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

「本年度新規科目につきアンケートを実施していません」

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、グーグルスライドショーの作成、など。

**【その他の重要事項】**

Attendance taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. Students who miss more than three classes will not receive credit for the course. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class starts counts as an absence. Being late two times will count as one absence.

**【Outline (in English)】**

Students aim to develop skills necessary to discuss opinions and express different views on selected court cases, legal matters and current issues in society.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (4) (春期スクーリング)</b>
<b>中垣 恒太郎</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「映画を用いた語学教材による総合的英語能力の育成」として、現代アメリカ社会を描いた映画『フリーダムライターズ』（2007）を題材にした教科書を軸に、大学で勉強していく上で必要とされるアカデミック・スキルとしての英語運用能力と、論理的なものの考え方（critical thinking）とを身につけることを目的とする。

映画『フリーダム・ライターズ』は、実在の高校教師と生徒たちが自らの体験を綴った同名のノンフィクション作品（1999）を原作にしており、ロス暴動に象徴される人種間の対立深まる1990年代のアメリカで、国境や人種を超越したクラスを作り上げた実話に基づく物語である。

アメリカ映画を通して、実際に話されている英語のスピードや、どういう場面で、どういう立場の人物がその表現を用いるかを直に学ぶことができる。毎回、教材用に作成されたCDにより、リスニングやディクテーション（書き取り）の活動を行う。この教材の特色として、現代アメリカ社会の様々な問題——「ロス暴動」、「人種差別撤廃プログラム」、「公民権運動」、「アフターマティヴ・アクション」、「高校生と銃」、「アメリカの学校の種類」、「現代の人種統合の状況」、「ラップ・ミュージック」などのテーマが採り上げられている。

本授業では与えられた情報を的確に摂取し、歴史や文化、社会現象、比較文化などの文脈を把握し、それに対して受講生の皆さん一人一人がどのように考えるのかを重視する。

#### 【到達目標】

- ・映画を用いた語学教材により、大学で勉強していく上で必要とされるアカデミック・スキルとしての英語運用能力と、論理的なものの考え方（critical thinking）とを身につける。
- ・映画を題材とした英語の自習方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

総合英語教材として、「背景知識と語彙」「リスニング」「リーディング」「意見を表現する」という、4項目により構成されている。教室での演習に重きを置く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の運営方針
第2回	「映画『フリーダム・ライターズ』の背景」	概説講義
第3回	教科書演習 第1章／「ロス暴動」	教科書による演習
第4回	教科書演習 第2章／「人種差別撤廃プログラム」	教科書による演習
第5回	教科書演習 第3章／「公民権運動」	教科書による演習
第6回	教科書演習 第4-5章／「ヒップホップカルチャー」	教科書による演習

第7回	教科書演習 第6章「[ハリウッド映画におけるユダヤ系とアラブ系の力のバランス]」	教科書による演習
第8回	教科書演習 第7-8章「ギャング映画」／「アフターマティヴ・アクション」	教科書による演習
第9回	教科書演習 第9章／「高校生と銃」	教科書による演習
第10回	教科書演習 第10-11章／「アメリカの学校の種類」	教科書による演習
第11回	教科書演習 第12章／「ラテン系移民」	教科書による演習
第12回	教科書演習 第13-14章／「現代の人種統合の状況」	教科書による演習
第13回	教科書演習 第15章／「キング牧師の思想」	教科書による演習
第14回	教科書演習 第16章／「まとめと英語の自主学習法について」	教科書による演習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習を前提としないが、事前に下読みをしておくことと学習効果は高まるであろう。予習よりも復習に力を注いでいただきたい。ただし時々、宿題が課されることがある。  
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

田中長子ほか『映画総合教材 フリーダム・ライターズ』（音羽書房 鶴見書店、2011年）。

#### 【参考書】

高山英士『All in One（第4版）』（Linkage Club、2007）。  
名作映画完全セリフ音声集スクリーンプレイ・シリーズ『フリーダム・ライターズ』（フォーインスクリーンプレイ事業部、2012）

#### 【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40％）、課題（20％）、学期末テスト（40％）

#### 【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため「前年度担当なし」。

#### 【Outline (in English)】

This course is designed to develop students' critical reading and thinking skills. The texts cover a variety of topics related to comparative culture fields based on American movies.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (5) (春期スクーリング)</b>
McEvelly M. Patrick
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to prepare FIC students who wish to do their Study Abroad in an English speaking country and taught only in English. This will be an all-English Communicative Language Teaching classroom where translation of English into Japanese is neither required nor encouraged. The course will focus on helping students to become more independent learners.

#### 【到達目標】

The goal of the course is to develop students' ability to use English to express their opinions more easily, find and analyze information from various forms of media and acquire useful vocabulary without being slaves to their dictionaries. Course activities will include pair work, group work, classroom discussions, and writing short papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

The course will consist of readings with comprehension questions and vocabulary building exercises. There will be ample opportunity for discussions. Students will be expected to give presentations. Written work will be papers reacting to reading material that we cover in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Teacher and student introductions. Course overview.
Week 2	Japan's next era to be named Reiwa	Patriarchal Japan faces a Demographic crisis and so do its Royals
Week 3	Brits and Americans no longer own English	There are 65 countries in the world where English is an official language or has a legal standing.
Week 4	Why isn't 5G secure?	The competition on 5G mobile phone technology between China and the USA.
Week 5	China's edge in Africa: Loans	The Trump administration wishes to challenge China's dominance in funding infrastructure in Africa.
Week 6	Spine injury iPS trial approved	iPS cells used in treatment for Parkinson's
Week 7	Flower worship gives way to the Quran	Rubber and palm oil production are destroying Indonesia's forests and the animals living there

Week 8 Fleeing Venezuela on foot The perilous economic situation in Venezuela has triggered a political crisis

Week 9 Refugees and unauthorized immigrants seeking to enter the USA at the Mexico border President Trump's border wall

Week 10 Some Ukraine Jews are unhappy a Jew was elected President Ukraine's history of discrimination against Jews

Week 11 Revolution at 40: Iranians loosen ideology's grip on daily life Connections with the outside world including the Internet prompt changes in Iran

Week 12 In Kenya, running can be a road to ruin Kenyan athletes win many marathon races

Week 13 Strain on Russia's backbone Deadly Russian high-rise collapse

Week 14 Final Exam final Exam

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

15 Selected Units of English through the News Media 2020 Edition, M. Takahashi, N. Itoh, R. Powell, Asahi Press

#### 【参考書】

Watch CNN and BBC News if possible.

#### 【成績評価の方法と基準】

Classroom Participation: 40%, Presentations: 30%, Final Exam: 30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

Not yet applicable.

#### 【学生が準備すべき機器他】

Buy the textbook,

#### 【その他の重要事項】

Nothing.

#### 【Outline (in English)】

.Overall Objectives

1. Giving students maximum opportunity to practice and develop their communication skills.
2. To improve reading comprehension via critical analysis of texts.
3. To foster student responsibility by involving students more directly in the learning process.
4. To foster the presentation of one's own ideas

LANd100TA (ドイツ語 / German language education 100)
<b>独語S (春期スクーリング)</b>
<b>宮城 学</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語圏の文化や情報を、ドイツ語で収集できるようにドイツ語の基礎訓練を行います。春期ではまず動詞や冠詞などの語形変化に慣れるのが目標です。アルファベット、文字、発音から始め、動詞の変化を中心に文の基本構造を学びます。

#### 【到達目標】

ドイツ語の音や単語に親しみ、文を組み立てる基本的なルールを身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式ですが、練習問題を中心に学生諸君に発音、発言していただく機会を多くとっていきたくと思っています。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文字と発音(1)	学習の仕方、辞書等について。 アルファベット、母音と綴り字の関係。
第2回	文字と発音(2) 簡単なあいさつ	子音と綴り字の関係。
第3回	動詞の変化(1)	人称代名詞と動詞の現在人称変化。
第4回	動詞の変化(2)	注意すべき動詞と文の作り方。
第5回	動詞の変化(3)	<b>sein</b> と <b>haben</b> の現在人称変化。
第6回	復習と練習	第3回～第5回の復習と練習問題。
第7回	名詞(1)	名詞の性と冠詞。
第8回	名詞(2)	名詞の複数形。
第9回	名詞(3)	名詞の格変化。
第10回	復習と練習	第7回～第9回の復習と練習問題。
第11回	動詞の変化(4)	幹母音が変わる動詞。
第12回	前置詞(1)	前置詞とその格支配。
第13回	復習と練習	第11回～第12回の復習と練習問題。
第14回	確認テスト	前期の習得度を確認。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようにしてください。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

ドイツ語文法の基礎  
著者：成田 節 櫻井 麻美  
出版社：同人社  
価格：2400円＋税

#### 【参考書】

授業中に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（平常点）（40%）および学期末の確認テスト（60%）により評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けています。総合的に満足のいく評価をいただいておりますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思っております。

#### 【Outline (in English)】

The students will get a basic training in German so that German-speaking culture and information can be collected in German. The goal is to get used to the changes of word such as verb and article.

LANf100TA (フランス語 / French language education 100)
<b>仏語S (春期スクーリング)</b>
<b>佐野 栄一</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩全般を、発音から初めて規則動詞の活用とそれを使った基本的な表現まで、総合的に学習します。半期で教科書の3分の1程度の内容を習得することが目標です。

#### 【到達目標】

- ①フランス語が発音できるようになること。
- ②フランス語の綴りが読めるようになること。
- ③簡単な挨拶や自己表現ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

任意の事項の解説が終わるごとに、理解度を図るため、即興の質問や練習問題を出し、解答してもらいます。また、初めてフランス語を勉強する学生と既に初級段階を終えている学生が混在することから、後者のためにより発展的な事柄についても解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	フランス語の綴りと発音	フランス語の発音 表記の読み方
第2回	挨拶 名詞	出会うや別れのあいさつ 名詞の性数
第3回	何かを尋ねる 数① 不定冠詞	最初歩の疑問文 1～10の数
第4回	国籍と職業 動詞 <b>ETRE</b> 主語人称代名詞	国籍や職業についての表現
第5回	疑問文と否定文 定冠詞 数②	尋ねたり否定したりする表現 11～20の数
第6回	人や物を形容する 形容詞 数③	形容詞の位置と性数変化 21～69の数
第7回	名前いう 名前を尋ねる	自分の名前を言ったり相手の名前を尋ねたりする表現
第8回	持ち物を言う 持ち物を尋ねる 動詞 <b>AVOIR</b>	持っているものを言ったり尋ねたりする表現
第9回	住所を言う 住所を尋ねる 規則動詞の活用	規則動詞 <b>HABITER</b> （住む）を使った表現
第10回	物の所属を言う 所有形容詞	私の～など、誰のものかの表現
第11回	様態を尋ねる 疑問形容詞 数④	「どんな」など、様態を尋ねる表現 70～10億
第12回	時間を言う 時間を尋ねる 非人称構文	何時何分か、何時に行うか、など時間の表現 非人称の <b>IL</b> について

第13回	天気を言う 天気を尋ねる	天気が良いか悪いか、雨が雪か、熱いか寒いかなどの表現
第14回	予定や直近の行動について述べる	動詞 <b>ALLER</b> について 動詞 <b>ALLER</b> と近接未来の表現

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1時間程度の予習、復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

早美出版『アラカルト』

【参考書】

こちらからは特にありません。しかし、学習するなかで必要と思ったら、読み切れるものを選んでください。読み通すことが一番大切です。厚い高度なものは、自分の実力は中級以上、と自覚したら挑戦して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の結果に、授業での平常点を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

進みが早いとの指摘をしばしば受けます。学生諸君の理解度に合わせて進むよう心がけますが、ゆっくりすぎでは目標に届きません。一緒に頑張りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

初めてフランス語を学ぶ人は休まないことが重要です。休んだ時は自分で穴埋めしないと続けられなくなります。

【Outline (in English)】

This class is for the students who learn French language at the first time.

As the aim of the lessons, we would like arrive at the expression of the near future and the recent past in six months.

HSS100TA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)
<b>スポーツ総合演習 (春期スクーリング)</b>
竹内 洋輔
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

### 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、週1回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、初回のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定 (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	健康と体力 (講義)	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする (講義)
4	トレーニング演習 (講義及び実習)	トレーニングの理論及び実践方法を理解する
5	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式 (ネット型) を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バドミントンの基礎技術を応用し、実践を行う
7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める

8	得点形式スポーツを学ぶⅠ (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バレーボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ (講義および実習)	バレーボールの基礎技術を応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	対戦形式 (ネット型) を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括 (講義)	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

### 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを40%の配分として総合評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特に無し

### 【学生が準備すべき機器他】

特に無し

### 【その他の重要事項】

実技種目を実施するにあたって他の学生と協力し実施することが多いことから、個別の身体状況に対応して授業を実施することが難しい。そのため受講にあたっては、健康診断書の結果および、自己の評価から、運動に支障が無い身体状態であることが必要である。授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点があった際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

### 【Outline (in English)】

This course will be conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>債権各論 (春期スクーリング)</b>
<b>足利 沙緒理</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「民法第三編債権第二章契約第一節総則」に規定されている、契約の成立・効力・解除等に関する事柄および「民法第三編債権第二章契約第二節贈与～第十四節和解」に規定されている、各種契約の効力等について学ぶ。

関連する判例等についてもあわせて学習をすることで、各規定はそれぞれどのような場面で問題となってくるのかについて具体的に理解する。

#### 【到達目標】

- ①契約に共通するルールを理解する。
- ②民法に規定されている各種契約に関するそれぞれのルールを理解する。
- ③①・②をもとに、具体的な検討ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

授業では、テキスト・六法を使用し、適宜資料も配付する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 契約の概念	授業内容や進め方についての説明 契約の意義や種類などについての解説
第2回	契約の成立	申込と承諾に関する問題、契約締結上の過失や定型約款などについての解説（521条～532条、548条の2～548条の4）
第3回	契約の効力	同時履行の抗弁権、危険負担などについての解説（533条～539条の2）
第4回	契約の解除	法定解除、合意解除、約定解除などについての解説（540条～548条）
第5回	売買①	売買の成立に関わる問題についての解説（555条～559条）
第6回	売買②	売買の効力に関わる問題についての解説（560条～578条）
第7回	売買③ 交換	特殊な売買、交換についての解説（579条～585条、586条）
第8回	贈与	贈与の成立・効力などについての解説（549条～554条）
第9回	消費貸借 使用貸借	消費貸借の成立・効力、使用貸借の成立・効力などについての解説（587条～592条、593条～600条）
第10回	賃貸借①	賃貸借の成立・当事者間での効力などについての解説（601条～604条、606条～616条）

第11回	賃貸借②	賃貸借の第三者に対する効力・終了などについての解説（605条～605条の4、616条の2～622条の2）
第12回	雇用	雇用の成立・効力・終了などについての解説（623条～631条）
第13回	請負 委任	請負の成立・効力・終了、委任の成立・効力・終了などについての解説（632条～642条、643条～656条）
第14回	その他の契約	寄託、組合等についての解説（657条～696条）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習：次回の授業で扱う条文に目を通す。

復習：授業の内容をふまえたうえで、配付資料も参照するなどしながら、テキストの該当部分を丁寧に読む。

#### 【テキスト（教科書）】

滝沢昌彦・武川幸嗣・花本広志・執行秀幸・岡林伸幸『債権各論』（新ハイブリッド民法4）（法律文化社、2018年）

#### 【参考書】

窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選II（第8版）』（有斐閣、2018年）  
そのほか、授業内でも適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内レポート40%、期末レポート60%

#### 【学生の意見等からの気づき】

身近な例を積極的に取り上げるなどして、より具体的な解説を心がける。

#### 【Outline (in English)】

An outline of this class is to learn the rules and problems about when is a contract be made, if a contract be made, what effects come up, and what is the case that a contract can be avoid, and the effects of various kinds of contract that are provided in the code of civil law.

And by learning about the cases that have relations to the problems stated previously, to acquire the cases that apply to the articles, practically.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>商法総則・商行為法 (春期スクーリング)</b>
<b>石井 宏司</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、商法第一編商法総則についての講義を行う。

商法総則は商法の総則であると同時に主に個人商人を対象とした法規制である。商法の総則的な法規制とともに、個人商人の商号や商業帳簿、商業登記など個人商人の組織に関する法規制を講義する。

本講義においては法学概論等を未修であっても受講者が理解できるように法学の基礎から丁寧な解説を行うことを予定している。また本講義では条文の文言に即して詳しくわかりやすく講義していく予定である。条文の文言解釈にあたり重要な法の沿革、学説、判例等を理解する

学生は商法総則の各制度、条文の重要な文言の解釈、主要な判例学説を理解できるようになることが本講義の目標となる。本講義を通して、商法総則の法規制を理解し実社会において活用することができるレベルまで到達することが望ましい。

### 【到達目標】

商法総則の条文の文言の理解に関して、文言の理解に必須な解釈と沿革、学説等について十分に理解できるようにする。

また、一般用語と異なる商法における専門用語の理解ができるようにする。

授業中は質問等を行い法律学的な回答方法について指導を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

配布資料による講義形式で行う。

筆記用具と六法、教科書は毎回使用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・商法の意義と法源①	授業の進め方を説明する 商法とは何かと言う問題とその沿革について学ぶ
第2回	商法の意義と法源②	商法における法源の種類およびその適用を学ぶ
第3回	商法の基本概念①	商法における商人の意義について学ぶ
第4回	商法の基本概念②	商法における商行為の意義について学ぶ
第5回	商業登記	商業登記の意義及びその効力について学ぶ
第6回	商号①	商号の意義とその制限について学ぶ
第7回	商号②	商号の貸与や譲渡などについて学ぶ
第8回	商業帳簿	商業帳簿の意義及びその作成保存等について学ぶ
第9回	商業使用人①	商業使用人、特に支配人についてその意義及び権限を学ぶ
第10回	商業使用人②	支配人以外の商業使用人についてその意義及び権限を学ぶ
第11回	代理商①	代理商の意義と法的性格について学ぶ

第12回	代理商②	代理商の権限及び代理商契約の終了等について学ぶ
第13回	営業①	営業の意義について学ぶ
第14回	営業②	営業の意義を踏まえてその譲渡や担保化などを学ぶ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講する学生は予習と復習を行うこと。

本授業の予習に関しては1時間程度、復習時間は3時間程度を標準とします。

学生は予習については授業の終了時に次回のテーマをを指導するのでその範囲を読んでおくこと。

学生は復習については配布プリントと教科書をしっかり見直すことが望ましい。また授業内で指摘した文言や学説等についての問題意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照することが望ましい。

### 【テキスト (教科書)】

近藤光男『商法総則・商行為法(第8版)』(有斐閣、2019)

### 【参考書】

『商法判例百選 [No.243]』(有斐閣、2019)

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験の得点により成績を評価する (配分：100%)

### 【学生の意見等からの気づき】

商法総則は抽象的な条文が多く非常にわかりにくいので判例等の実例を用いて具体的に説明するようにします。また、様々な難解な法律用語が出てきますが、これらについてはさらにわかりやすく説明するように工夫を行っております。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

### 【その他の重要事項】

特になし

### 【Outline (in English)】

This course is intended to provide understanding of the General Provisions of the Japanese Commercial Code. In addition to providing a general introduction to the Japanese legal system, this course will concentrate on specific legal topics such as trade name, commercial books, and commercial agents. Through this course, students will learn the history, the case law and the doctrine of commercial law.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>会社法 (春期スクーリング)</b>
<b>笹久保 徹</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。  
 受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

#### 【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。  
 ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

##### 【重要】

春学期の少なくとも前半はオンライン授業となる。  
 本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

なお、本授業の受講者は、是非、秋期スクーリングの「会社法」も受講してもらいたい。秋期スクーリングも受講することで会社法の全体を理解することができる。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	会社法 総論	会社法を学ぶための前提知識や用語等の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株式会社の機関 株主総会1	株主総会の権限・種類・招集に関する解説
第4回	株式会社の機関 株主総会2	株主総会の議事・議決権に関する解説
第5回	株式会社の機関 株主総会3	株主総会の決議・決議の瑕疵等に関する解説
第6回	株式会社の機関 取締役1	取締役の権限等に関する解説
第7回	株式会社の機関 取締役2	取締役会の招集・決議等に関する解説
第8回	株式会社の機関 取締役3	代表取締役・表見代表取締役に関する解説
第9回	株式会社の機関 取締役4	取締役の義務に関する解説
第10回	株式会社の機関 取締役5	取締役の責任に関する解説
第11回	株式会社の機関 取締役5	責任追及の方法に関する解説
第12回	株式会社の機関 監査役・会計監査人	監査役及び会計監査人に関する解説

第13回	株式会社の機関 指名委員会等設置会社	指名委員会等設置会社に関する解説
第14回	株式会社の機関 監査等委員会設置会社	監査等委員会設置会社に関する解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

#### 【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

#### 【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）  
 ・岩原伸作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリストNo.229（有斐閣、2016）

#### 【成績評価の方法と基準】

##### 【重要】（2020年7月3日）

定期試験に代わる課題（レポート）を出しました。7月3日の授業資料に付けました。受講生は、提出期限までに提出して下さい。

##### 【重要】（訂正：2020年6月8日）

春学期の全ての授業がオンライン授業となったため、オンライン授業で課す課題（レポート）によって評価する（課題100%）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

#### 【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>刑法各論 (春期スクーリング)</b>
LEBRETON CAROLINE
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法とは何が犯罪であるか、それに対してどのような刑罰が科されるかを規定した法律であり、このうち刑法総論が刑法典1編（1条～72条）を基礎として各犯罪類型のいわば共通項としての一般的成立要件を中心に論ずるものであるのに対し、刑法各論は刑法典2編（77条～264条）、個別犯罪について、それぞれの成立要件を検討する作業である。本授業では、このうち、財産犯を除く個人的法益に対する罪及び国家的法益に対する罪の主要な犯罪について、保護法益を探究し、解釈により構成要件を中心とする成立要件について学ぶことを目的とする。

### 【到達目標】

刑法各論の勉強は犯罪の成立要件を単に覚えるのではなく、条文から厳格な理論を展開しつつ、実際上も妥当な結論を導き出すという、特有の思考様式が必要となる。このような思考方法の基礎を身に付けることを目的とする。

財産犯を除く個人的法益に対する罪及び国家的法益に対する罪のうち、刑法典における典型的な犯罪について、判例・学説で問題とされている基本的な論点に関して、解釈論を展開することができる。

以上のような解釈論の結論を、所与の事実に適用し、犯罪の成否を議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、主に個人的法益に対する罪のうち殺傷犯等の成立要件を検討することになる。受講生が本講義で学んだ知識を道具として社会事象に適用できるという「考える力」を身につけることが目標であり、授業内で具体的な事例研究を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方の説明、授業理解の前提となる刑法総論の知識の確認。
第2回	生命・身体に対する罪概観	生命・身体に対する罪概観。人の始期と終期、自殺関与罪の種類と処罰根拠、同意の意義。
第3回	殺人罪	暴行の意義、傷害の意義、暴行罪と傷害罪の関係と主観的要件。
第4回	暴行罪・傷害罪	過失致死傷罪概観、胎児性致死傷。墮胎罪の保護法益と種類、墮胎の意義、人工妊娠中絶。
第5回	過失致死傷罪、墮胎罪	遺棄罪の趣旨、遺棄と不保護の意義、保護責任、殺人との区別。生命・身体に対する罪のまとめ。
第6回	自由に対する罪概観、脅迫罪・強要罪	自由に対する罪概観。脅迫罪の保護法益、脅迫の意義、強要罪の結果。生命身体に対する罪を中心とする中間テスト
第7回	自由に対する罪（小括）	刑法による自由保護のあり方について

第8回	逮捕・監禁罪／略取・誘拐罪	移動の自由の意義、逮捕・監禁の意義。略取・誘拐罪の種類、略取・誘拐の意義
第9回	強制わいせつ罪・強制性交罪	性的自由（性的自由決定）の意義、姦淫・わいせつの意義、性交同意年齢、主観的要件、強制わいせつ罪・強制性交罪の特別類型。（平成29年刑法一部改正を中心に）
第10回	住居侵入罪	住居侵入罪の保護法益、客体、侵入と不退去
第11回	名誉毀損罪・侮辱罪	名誉の種類と意義、事実の摘示、公然性、免責事由。
第12回	信用毀損罪・業務妨害罪	信用の意義、毀損行為の態様、業務妨害罪の保護法益、業務の意義、妨害行為の態様。
第13回	国家的法益に対する罪概観／公務執行妨害罪	国家的法益に対する罪概観、公務員の意義、職務の意義、行為態様、公務執行妨害と業務妨害の関係。
第14回	賄賂罪	汚職の罪概観、賄賂罪の種類、賄賂罪の保護法益、賄賂の意義。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を中心に行う。具体的には、授業の説明及びレジュメと照らし合わせながら、各自で教科書及び判例集の判例を読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

西田典之「刑法各論（第7版）」（弘文堂）  
今井猛嘉ほか「刑法各論（第2版）」（Legal Quest）（有斐閣）

### 【参考書】

別冊ジュリスト刑法判例百選2各論〔第7版〕（有斐閣）

### 【成績評価の方法と基準】

出席・平常点（10%）、中間の小テスト（20%）、期末の定期筆記試験（70%）で総合評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

小六法（「デイリー六法」三省堂など、オンラインで閲覧することも可）

### 【Outline (in English)】

The main objective of this course is to be able to read a section of the law and apply it to an actual situation. Therefore, it is not only about memorizing the elements of the crime but rather to master the interpretation process, regarding the value protected but also the evolution of society and its impact.

ART200TC (芸術学 / Art studies 200)
<b>日本芸能史 (春期スクーリング)</b>
<b>中司 由起子</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、能楽（能狂言）の歴史を学ぶ。特に能が成立した室町時代から近世初期の歴史を扱う。能楽の歴史を通して、日本芸能史の展開と現代に生きる古典芸能の現状について理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ①能楽の歴史について、正確な知識に基づき自分の言葉で説明できる。
- ②現代の日本古典芸能のあり方について、自分なりの考えをまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Web学習サービスに資料をアップし、それを読んで課題にこたえることで講義をおこなう。

対面講義では資料を配布し、それに基づいて講義形式で進める。適宜、映像資料を用いる予定である。

シラバスは14回分を11回分にまとめている。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方。能楽の梗概。
第2回	世阿弥1	能を大成した世阿弥の生涯
第3回	世阿弥2	世阿弥の能楽論
第4回	世阿弥3	世阿弥の能作における業績
第5回	世阿弥以後の能1	世阿弥の息子観世元雅の事績
第6回	世阿弥以後の能2	世阿弥の女婿金春禅竹の事績
第7回	室町時代後期の能1	観世信光・長俊、金春禅鳳の事績について学ぶ
第8回	室町時代後期の能2	手猿楽の役者の活躍
第9回	豊臣秀吉時代の能	能の変革期の特色
第10回	江戸時代初期の能	喜多流の成立等
第11回	音阿弥について	追加テーマです。この回において、レポート課題を発表します。
第12回	なし	なし
第13回	なし	なし
第14回	なし	なし

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料や紹介した参考書を熟読する。

できるだけ能楽堂や劇場等に足を運び、実際に能楽鑑賞の機会を設ける。

本講義の準備・復習時間は、各2時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Web学習サービスに資料をアップする。

対面講義では、プリントを配布する。

#### 【参考書】

配布資料に記す。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験（レポート、第11回に課題を発表する）70%、平常点30%。平常点は小レポートを中心に評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし。

#### 【その他の重要事項】

受講者の人数等によって、シラバスを変更する場合がある。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the history of Noh to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the development of Japanese entertainment history and the current state of classical performing arts.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸学概論 (春期スクーリング)</b>
<b>中野 方子</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座は、平安時代の文学作品（古今集、伊勢物語、源氏物語、枕草子など）を主たる対象とし、上代、中世、近世文学との関わりや、海外の文学との影響関係、相違について触れながら、日本文芸学の諸問題（今年度は、昨年に続き、なかでも中国文学が、枕草子、源氏物語に与えた影響を中心テーマとする。）を取り上げ、その特色と本質を考えてゆくものである。抽象論に終わらせることなく、通時的かつ共時的な観点を意識しつつ、古典研究の方法論を学び、具体的な作品を読むことを通して、日本文芸学の本質的なテーマに迫ってゆく姿勢が築かれることを目的とした。

#### 【到達目標】

日本文芸学の基本事項や研究方法を理解することによって、日本文学についての認識を深め、さらに全体を俯瞰的な視野で見渡すことができる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式を主とするが、時に作品講読をしたり、特定のテーマに対してグループで討議し、発表するアクティブ・ラーニングの形式も取り入れる。人数的に可能であり、時間をとることができれば、昨年実施したフィールドワークも加える予定である。以下、コロナウィルスの影響による緊急事態宣言により、授業回数が変更となりましたので、講義内容も随時対応する必要があります。具体的には随時WEB講義でお知らせしてゆきますので、通信教育部生専用のポータルサイト、WEB学習サービスを参照して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	日本文芸学入門	日本文芸学とは何か—芸芸学と文学一、海外の文学と比較した日本文芸の特色。
第2回	日本文芸学のジャンル	日本文芸学のジャンル、江戸以前の作品についての通史的解説。
第3回	日本文芸学の研究方法／フィールドワーク関連の解説	日本文芸学における文献調査の基本的な方法・文献検索とインターネット検索／日本文学・文化関連の美術館、博物館見学のための予備知識。展示に因んだ解説も行う。
第4回	フィールドワーク	上野の東京国立博物館見学を予定している。
第5回	グループ討議への導入／グループ討議第一回	グループ討議の手順など具体的な方法についての解説。／グループ討議第一回はグループ分け、テーマ設定など。
第6回	日本平安朝文学と海外の文学1／グループ討議第二回	日本平安朝文学と中国の文学の関わりについて考える第一回／グループ討議第二回は、リサーチの方法、分担などについての討議。

第7回	日本平安朝文学と海外の文学2／グループ討議第三回	枕草子と中国文学の関わりを考える第一回。／グループ討議は、各自で調査したものを持ち寄って、討論する。
第8回	日本平安朝文学と海外の文学3／グループ討議第四回	枕草子と中国文学の関わりを考える第二回／グループ討議は、資料のまとめ、発表資料作成準備。
第9回	グループ討議第五回—プレゼンテーション	グループごとの発表・質疑応答。
第10回	発表の総括・プレゼンテーション予備日／日本平安朝文学と海外の文学4	発表予備日。発表のまとめ、講評／源氏物語と中国文学について考える第一回
第11回	日本平安朝文学と海外の文学5	源氏物語と中国文学の関わりについて考える第二回。
第12回	日本平安朝文学と海外の文学6	源氏物語と中国文学の関わりについて考える第三回。
第13回	日本平安朝文学と海外の文学7	源氏物語と中国文学の関わりについて考える第四回。
第14回	総括・テスト	日本文芸学の総括・テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となる。具体的には、各回の授業で扱う項目について、配布プリントの該当箇所を十分に読み、解釈し、理解できるようにする、またグループ討議のために、図書館などで各自調査し、整理してまとめるといった学習が必要である。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、授業時にプリントを配布する。

#### 【参考書】

適宜講義のなかで指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

春期スクーリングの少なくとも前半がオンラインでの開講となったこととともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日にWEBシステムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

研究方法がわかったという意見が多く、講義の中でもPCを用いた検索方法やレポート作成の論文調べなど直接的な方法論が役に立ったというコメントもみられた。六年前から、講義の一部に、グループ討議、発表というアクティブ・ラーニングの形式を取り入れており、昨年はフィールドワークも実施した。一方的な講義でなく、相互に討論することでテーマを深めてゆくこの方式は、概ね好評であるが、欠席者の問題など、多少改善が必要であると思われる、本年度はそうしたことについても留意してゆきたい。初心者でも参加できるような形としているが、調査、レポート作成について習熟している学生に対する対応も考えてゆきたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

グループ討議の発表の時に、パソコン、あるいはUSBを持参してもよい。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces Literaturwissenschaft (Literature of Scientific Scholarship) and the fundamentals of academic research to students asking this course by lecture and discussion. It starts to explore the basic themes of Japanese Classic Literature, then compares Overseas Literature (Chinese Classic Literature) and Japanese Classic Literature (verse and prose in Heian era). The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needs to achieve a better performance in their university studies.

LIN100TC (言語学 / Linguistics 100)
<b>日本語学概論 (春期スクーリング)</b>
<b>古牧 久典</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無：必要 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ柔軟性・流動性という側面を中心に概観する。

#### 【到達目標】

- ・ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。
- ・多角的な視点からことばを観察することができる。
- ・日本語を相対化し、ことばの本質を捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。コメント・意見を集約し、一部を次回の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに関連する現象について、事例を収集・整理する。

—(追記事項)—

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月28日とし、この日までに具体的な授業方法などを、学習支援システム (Hoppiiの「おしらせ」欄) で提示する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

##### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「日本語学概論」の概要
第2回	「言語」とは？	言語・ことばの本質
第3回	「言語学」とは？	言語学の考え方
第4回	言語はヒトだけのものか？	言語の使用
第5回	言語の祖先はどのようなものか？	歴史・比較言語学
第6回	ことばが異なれば思考も違うのか？	人類言語学
第7回	ことばの比喩とは？	レトリック・比喩論
第8回	心とことばの関係は？	心理言語学
第9回	ことばはどう習得される(する)のか？	言語習得論
第10回	社会とことばの関係は？	社会言語学
第11回	「方言」とは？	地域方言学
第12回	ことばの世代差・男女差とは？	社会方言学
第13回	対人関係を築くことば遣いとは？	ボライトネス理論
第14回	まとめ	全体総括

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業は事前の予備知識は必要としないが、ことばに日頃から興味を持つ姿勢を身につける。授業で扱った現象の事例を収集、検討してみる。簡単な課題が出ることもあるので、その課題に取り組む。疑問が生じた場合には、(質問も歓迎するが) 図書館等を積極的に活用し、調べる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

配布資料

#### 【参考書】

加藤 重広 著 『ことばの科学 (学びのエクササイズ)』(ひつじ書房)  
 斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』(三省堂)  
 その他、講義内で適時紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・課題 (50%)、期末レポート (50%)

—(追記事項)—

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

#### 【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に教室で受け付ける。

#### 【Outline (in English)】

This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields. The goal is to introduce students to different perspectives on languages, in the areas of approaches to language as a sign system (General linguistics), the study of the historical relationships of languages (comparative linguistics), anthropology of language (ethnolinguistics), psychology of language (psycholinguistics), sociology of language (sociolinguistics), etc.

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸史 I (春期スクーリング)

坂本 勝

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：必要

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

上代（奈良時代）～中古（平安時代）の文学史を学ぶ。上代（奈良時代）～中古（平安時代）に作られた、史書・歌集・日記・物語を読み、文学史を概観する。同時に、古典文学にアプローチするための、さまざまな研究方法を学ぶ。

## 【到達目標】

(A) 古典文学の成立・構造・表現・背景などを知る。(B) 古典文学を研究するための着眼点や方法を知る。(C) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。第1回授業はHoppii上で4月21日です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	概説	授業概説
第2回	『古事記』	文学史における『古事記』の意義を学ぶ。
第3回	『日本書紀』	文学史における『日本書紀』の意義を学ぶ。
第4回	『萬葉集』	文学史における『萬葉集』の意義を学ぶ。
第5回	『竹取物語』	文学史における『竹取物語』の意義を学ぶ。
第6回	『古今和歌集』	文g 桐う詩における『古今和歌集』の意義を学ぶ。
第7回	『土左日記』	文学史における『土左日記』の意義を学ぶ。
第8回	『蜻蛉日記』	文学史における『蜻蛉日記』の意義を学ぶ。
第9回	『伊勢物語』	文学史における『伊勢物語』の意義を学ぶ。
第10回	『源氏物語』	文学史における『源氏物語』の意義を学ぶ。
第11回	『更級日記』	文学史における『更級日記』の意義を学ぶ。
第12回	『枕草子』	文学史における『枕草子』の意義を学ぶ。
第13回	『大鏡』	文学史における『大鏡』の意義を学ぶ。
第14回	春学期総括、試験、まとめ。	春学期の学習理解度を確認する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み進めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

国語教育プロジェクト『ビジュアル資料 原色シグマ新国語便覧 増補三訂版』（文英堂）

## 【参考書】

授業時に提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

「定期試験期間」に行う筆記試験（72%）、各回のリアクションペーパーなど、授業への参加度（28%）

## 【学生の意見等からの気づき】

個々の作品について理解することだけでなく、文学史全体を視野に入れて理解することの重要性。

## 【Outline (in English)】

A history of literature in the Nara Heian Period is learned.

LIT200TC (文学 / Literature 200)
<b>文学概論 (春期スクーリング)</b>
<b>岡野 幸江</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無：必要 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、文学創作にはどのような要素が働き、文学作品はどのように成立するのか、前提となる事項について学びます。併せて具体的な作品を通して文学の面白さを味わいながら文学鑑賞力を高めていきます。

#### 【到達目標】

文学作品が成立する上で重要な事項について検討し、理解することを目指します。具体的な作品を読解することによって、文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解すると同時に、文学鑑賞ができるようになることが学習の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義を中心としますが、各作品については感想などを発表してもらう時間も設けたいと思います。

ただし、現在、新型コロナウイルスの感染拡大によって教室での対面授業はできません。したがって、対面授業再開までの期間は、テキスト『文芸学講義』(小田切秀雄著)の第1章(第2回の授業に対応)から順次読み進め(各回がそれぞれ1章ずつに相当します)、シラバスに取り上げてある主要な文学作品についても、読んでおいてください。

なお、授業は4月21日(火)から始まります(本授業は22日が初回となります)。詳しくは学習支援システムで課題などを出しますので、そちらを見てください。

#### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

##### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー春季授業のコンセプトについて	春季授業の概要について、これまでに読んだことのある作品で印象に残るものについて話し合います。
第2回	創作過程の分析	作家論、作品論、生成研究などについて、現在どのような研究状況かを考えます。
第3回	体験・実感/制作の前段階1	作家の体験談をどう読むか、作品の前段階とは何かを考えます。
第4回	体験・実感/制作の前段階2	二葉亭四迷『浮雲』の成立を「作家の苦心談」「余が言文一致の由来」「余が半生の懺悔」などから考えます。
第5回	モチーフと書き出し1	書き出しが作品に与える影響について考えます。
第6回	モチーフと書き出し2	樋口一葉「たけくらべ」「にごりえ」から、作品のモチーフと書き出しについて考えます。
第7回	素材・題材の所在1	作品の素材や題材はどこにあるか考えます。
第8回	素材・題材の所在2	原民喜『夏の花』、大田洋子『屍の街』から素材や題材の問題を考えます。
第9回	想像力の働き1	想像力が文学制作にどのような働きをするか考えます。
第10回	想像力の働き2	野間宏『全体小説と想像力』から、想像力とは何かについて考えます。
第11回	意図と主題の関係1	意図と主題の違いや関係性について考えます。
第12回	意図と主題の関係2	芥川龍之介「文芸的な余りに文芸的な」を通し、大正期テーマ小説との関係を考えます。
第13回	作品解釈および鑑賞力向上についてのまとめ	取りあげた作品を振り返り作品解釈と鑑賞力向上に何が必要か考えます。
第14回	まとめと試験	取りあげた作品を振り返り、自分の考えをしっかりと表現できるようにします。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

取りあげた作品については必ず読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト(教科書)】

『文芸学講義』小田切秀雄、菁柿堂、2016年、2000円+税

#### 【参考書】

『日本近代文学研究の方法』日本近代文学会編、ひつじ書房、2016年、2600円+税

#### 【成績評価の方法と基準】

A+:100～90点、A:89～80点、B:79～70点、C:69～60点、D:59点以下 E:受験資格無、レポート・課題未提出等。

試験60%、ミニレポートの内容20%、授業参加度20%とし、各項目を総合して判断します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさん作品に接することができるよう心掛けたいと思います。

#### 【その他の重要事項】

取りあげる作品については全員が必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces a basic problem concerning literary essence, idea, interest, use, genre and the relation between history and literature to student taking this course. At the end of this course, participants are expected to obtain basic knowledge about literary appreciation.

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講・沖縄文芸 (春期スクーリング)

小山 和行

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：必要

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考 (履修条件等)：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

歌謡、神話、説話、伝承、方言などの文献的資料の考察を中心に、言語によって表現された世界の多様な魅力にアプローチする。

### 【到達目標】

沖縄の歴史と文化について学びながら、日本文化に対する〈南からのまなざし〉に注目していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

① 琉球王権の特質および王国形成史について、神話、伝承、歌謡を通して理解を深める。

② 南西諸島各地の祭りについてビデオやテープを活用しながらその魅力とともに〈宇宙観〉を考える。

本授業は5/6より開始いたします

### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	太平洋文化圏の中の沖縄	文化的位置の理解
第2回	オモロにみる英雄たち①	舜天王の伝承
第3回	オモロにみる英雄たち②	察度王の伝承
第4回	オモロにみる英雄たち③	英祖王の伝承
第5回	琉球王国の成立①	第一尚王統について
第6回	琉球王国の成立②	尚真王の治世①
第7回	琉球王国の成立③	尚真王の治世②
第8回	琉球王権の特質①	オナリ神信仰について
第9回	琉球王権の特質②	王国の神女組織
第10回	琉球王権の特質③	琉球の神々
第11回	琉球王権儀礼と久高島①	麦の初穂祭り①
第12回	琉球王権儀礼と久高島②	麦の初穂祭り②
第13回	琉球王権儀礼と久高島③	イザイホウ祭り①
第14回	琉球王権儀礼と久高島④	イザイホウ祭り②

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で指摘したテキストの該当ページと配布プリントの予習本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

① 『沖縄の歴史と文化』 (外間守善著 中公新書)

② 毎回配布のプリント資料

③ 映像資料

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と講義内容を中心に最終回のレポート (60%) 提出 (必須) を併せて評価する。また、毎回レビューシートを提出してもらう。アンケートも副次的に利用する。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎回提出のレビューシートに記された感想、意見、質問について、次回の講義で取り上げ、理解をより深めてもらえるようにしたい。

### 【Outline (in English)】

Mainly throughout considerations of documentary records, myths, songs, naratives, traditions, Okinawan scripts and so on, we try to approach the diverse attractive of the world expressed in languages.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・漢文 (春期スクーリング)</b>
<b>吉井 涼子</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無：必要 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

親しみのある故事成語の典拠を用い、漢文 (古典中国語) の訓読法を学習する。先秦時代の有名な書物の比較的短文のもの、レ点・一二点などを用いるシンプルな文章から始め、中国文化・故事に触れつつ精読し、漢文読解のための基礎力を培う。

## 【到達目標】

漢文の基礎構造から徐々に漢文訓読のスキルを習得するとともに、教材に有名な故事成語の典拠を用いることで時代背景や文化も学び、中国古典のみならず歴史や文化に対する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。調点 (句読点・返り点・送り仮名) を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。毎回授業時にリアクションペーパーを提出してもらう。

各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

春学期の少なくとも前半は、オンラインでの開講となります。それに伴う内容の変更等は、学習支援システムにて都度お知らせします。

本授業の開始日は、4月27日 (月) 18:35です。受講予定の方は、この時間以降、遅くとも翌日中に必ず学習支援システムを確認してください。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

## 春学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、先秦時代や漢文 (古典中国語) の言語的特徴についての概要を学習する。
第2回	『論語』を読む	漢文の最も基本的な語順や構造を、短文の多い『論語』を用いて学ぶ。
第3回	『孟子』を読む	梁恵王上から「五十歩百歩」などの出典の部分などを読む。
第4回	『管子』を読む	牧民から「倉廩実ちて則ち礼節を知り、衣食足りて則ち榮辱を知る」の成語を学ぶ。
第5回	『莊子』を読む	『莊子』は寓意的な話の宝庫である。斉物論から「夢に胡蝶となる」の話や、応帝王から「混沌の死」を読み解く。
第6回	『淮南子』を読む	『淮南子』人間から「塞翁が馬」の故事を読む。
第7回	『春秋左氏伝』を読む	『春秋』『春秋左氏伝』について解説し、「不及黄泉、無相見也」の故事を知る。
第8回	『史記』越世家を読む (1)	「臥薪嘗胆」の故事で有名な呉越の戦いを『史記』越世家を用いて読みとく。
第9回	『史記』越世家を読む (2)	「呉越同舟」でも知られる呉と越が、どのような結末を迎えるかの部分を読む。
第10回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む (1)	当時の中国の歴史状況を解説しつつ、「完璧」の故事の部分を読む。
第11回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む (2)	引き続き「完璧」の故事の部分を精読し、戦国時代の諸国と秦との関係性を理解する。
第12回	『史記』廉頗藺相如列伝を読む (3)	出土物や遺跡などの画像も用いて、「完璧」の故事の部分の結末を読む。
第13回	復習と解説	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	総括	第1回からの学習が身についているか確認する。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。

予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

## 【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』(漢和辞典)  
 明治書院『新釈漢文大系 論語』  
 明治書院『新釈漢文大系 孟子』  
 明治書院『新釈漢文大系 管子』  
 明治書院『新釈漢文大系 老子・荘子上』  
 明治書院『新釈漢文大系 荘子下』  
 明治書院『新釈漢文大系 淮南子』  
 明治書院『新釈漢文大系 春秋左氏伝一』  
 明治書院『新釈漢文大系 史記九 (列伝二)』  
 明治書院『新釈漢文大系 史記六 (世家中)』  
 高校時代に使用した国語便覧など。

## 【成績評価の方法と基準】

授業時の平常点 (主にリアクションペーパー) を30%、試験を70%で評価を出す。

出席は大前提とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

1回ごときちんと理解ができるよう、授業はゆるやかなペースで行う。

## 【Outline (in English)】

Learn kanji reading in classical Chinese by using the authority of familiar stories.

Start with a simple and short sentence, famous books of the pre Qin Dynasty, carefully reading while touching the Chinese culture and story, cultivating the fundamental power for reading classical Chinese.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・近代 (春期スクーリング)</b>
<b>高口 智史</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無：必要 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代文学再考——近代日本の〈空虚〉をめぐって

日本の近代文学が西洋と比較して、なにかひどく痩せ細ったものを感じる人は少なくないと思う。西洋文学のような大長編はほとんどない。その原因の一つは世界史上まれにみる特殊な日本の近代化にあると思われる。日本の近代化が大きなゆがみを伴った発展過程を歩んだことは、早くから透谷(「漫罵」)や漱石(「現代日本の開化」)によって指摘されてきた。二人が共通して問題にしたことは、近代化を支える日本人の精神性・倫理性の欠如だった。

実際、日本の近代化はあまりに急激で、近代化を支えるはずの近代思想(自由民権思想)は国家によって弾圧されて成熟する余裕もなかった。また宗教も江戸時代に世俗化が進み国民の支えになるほどの力を失い、逆に明治の日本は開う〈神〉もない、まさにポスト・モダンの状況だったと言えるのである。

その結果、近代の日本人は、生きる精神的支えを欠落させた大きな空虚を抱えて生きることとなった。西洋近代ならばその課題を担うのは哲学のはずだった。しかし物質と精神が相即的に発達しえなかった日本近代では、物質的發展に精神の成長が追いつく余裕がなかっただけでなく、モダンがプレモダンとポストモダンと雑居するという前代未聞の状況が出現した。そういう世界を哲学が捕捉できなかったのは当然といえる。そこで近代日本では哲学の代わりを文学が担うことになった。文学なら流動的な近代を物語によって捉まえ、その中で生きながら考えることが可能だったからでもある。

ただし西洋近代の作家のように、何らかの立場、信念が明確であれば、大きな物語を構想できる。(なぜそうなのかは授業で説明する)しかし空虚の中に身を置く日本の文学者は、西洋のように信念とするものを手探りで探すところから出発しなければならなかった。何のために生きるのか、何を支えに生きるのかという問題を文学者自身が書きながら考えるということが、日本の近代文学に課せられた問題だったのだ。

ところで近代日本人の精神的な空虚は明治維新から一五〇年経過した現在、過去の問題となったのだろうか。もしそれが過去のものであれば、近代文学は過去の文化遺産に過ぎないといえる。しかしこのような重大な問題が、たかが一五〇年というスパンで解決されるとは思えない。この授業では以上のような問題意識に沿って、現在の私たちの問題を照らし出す鏡として近代文学の代表的な作家、森鷗外、樋口一葉、夏目漱石、志賀直哉、芥川龍之介らの作品を読んでいきたいと思う。そのことで日本の近代文学の意義を再度見直していきたいと思う。

### 【到達目標】

- ・日本の近代文学の歴史的意義を新たな視点から理解する。
- ・文学者や文学作品と歴史との関係について理解する。
- ・小説の基本的な構造分析と読みの方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月30日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。また学習支援システムを見るには仮登録を行う必要があります。

### 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

#### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	授業の主旨について考える	・文学作品へのアプローチ ・歴史(近代)を知ることの必要性(コンテクストをめぐって)
第2回	授業の主旨について考える② 日本近代への視覚	・北村透谷「漫罵」夏目漱石「現代日本の開化」を読む
第3回	森鷗外「舞姫」を読むⅠ	・物語の特徴—語りの問題を中心に
第4回	森鷗外「舞姫」を読むⅡ	・豊太郎の「まことの我」と豊太郎の分裂を読む
第5回	森鷗外「舞姫」を読むⅢ	・「舞姫」に表象された日本近代を読む(森鷗外の後期作品も視野に入れて)
第6回	樋口一葉「たけくらべ」を読むⅠ	・「たけくらべ」に表象された近代を読む①—コンテクストをめぐって
第7回	樋口一葉「たけくらべ」を読むⅡ	・「たけくらべ」に表象された近代を読む②—人間への視角
第8回	樋口一葉「たけくらべ」を読むⅢ	・樋口一葉の近代批判を読む
第9回	夏目漱石「坊っちゃん」を読むⅠ	・「坊っちゃん」の語りの構造と作品構造を読む ・坊っちゃんと清の関係を読む
第10回	夏目漱石「坊っちゃん」を読むⅡ	・近代批判のアレゴリーとして読む(アレゴリーという方法について考える)
第11回	芥川龍之介「羅生門」志賀直哉「城の崎にて」を読む	・近代文学史上にこの二作品が投げかける意味について考える(高校の読みと歴史を導入する)
第12回	春学期のまとめ	試験とまとめ、解説

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

必ず作品を複数回読む。さらに今回取り上げる作品の発表された時代(明治20年前後、日露戦後)について予習し、おおまかなイメージをもってほしい。

### 【テキスト(教科書)】

授業で使用するテキストは短編については学習支援システムで配布する。長いものについては「青空文庫」を利用してほしい。

### 【参考書】

- ・西郷信綱『古事記の世界』(岩波新書) 文学作品をどう読めばよいのかということについて貴重なヒントを与えてくれる。専門領域を超えて文学研究者が読まなければならない必読書。
- ・西郷信綱『古典の影』(平凡社ライブラリー) 手に入りにくいですが、文学作品を読むということはどういうことか徹底して考えるヒントに満ちた本。
- ・内田樹『映画の構造分析』(文春文庫) なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。
- ・内田樹『街場の文体論』(文春文庫) 表現とはどういうことか、言語論を中心にわかりやすく論じている。
- ・土方洋一『物語のレッスン』(青簡舎) 手に入りにくいですが、読み方をめぐる最良の入門書。探してでも読んでほしい。
- ・廣野由美子『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』(中公新書) カタログ的な本だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 50%
- ・平常点 50% (授業参加度=課題提出等)

※5月中に通常授業再開のめどが立たない場合は、期末試験は実施せず、全てを課題提出に代える可能性がある。(学習支援システムで後日連絡する)

### 【学生の意見等からの気づき】

講義形式なのでなかなか学生の声が届きにくく一方方向になりがちなので、昨年同様感想の公開などを通し受講生の声が授業に反映するように心掛けた。

【Outline (in English)】

The peculiar development in Modern Japan had been pointed out earlier by Kitamura Tokoku and Natsume Soseki. What they pointed out was the lack of spirituality and ethics of Japanese people, which supported modernization. The authors in Modern Japan had to consider what they can rely on in the emptiness of the spirit. In other words, they had to tackle the challenges of having problems in Postmodern as well as in Modern. These problems haven't been solved yet. In this lecture, we aim at thinking how the authors in Modern such as Mori Ogai, Higuchi Ichiyo, Natsume Soseki, Shiga Naoya, and Akutagawa Ryunosuke, worked on these problems, reading their masterpieces.

LIN200TC（言語学 / Linguistics 200）

**日本語史（春期スクーリング）****間宮 厚司**

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：必要

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

**【到達目標】**

日本語の「過去・現在・未来」について、理解を深めます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】****【授業の進め方と方法】**

本授業の開始日は、4月23日（木）になります。詳細は、Hoppiiを御覧ください。

プリントやビデオ等を使用して、日本語の歴史に関する知識を修得します。毎時間、100～200字程度の小レポートを授業中に提出してもらい、次の時間に紹介します。なお、受講者数が確定した段階で、座席を指定する予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：**春学期**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第2回	奈良時代の言語的特徴(1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(1)
第3回	奈良時代の言語的特徴(2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(2)
第4回	奈良時代の言語的特徴(3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(3)
第5回	奈良時代の言語的特徴(4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(4)
第6回	平安時代の言語的特徴(1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(5)
第7回	平安時代の言語的特徴(2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(6)
第8回	平安時代の言語的特徴(3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(7)
第9回	平安時代の言語的特徴(4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(8)
第10回	鎌倉・室町時代の言語的特徴(1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(9)
第11回	鎌倉・室町時代の言語的特徴(2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(10)
第12回	鎌倉・室町時代の言語的特徴(3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(11)
第13回	鎌倉・室町時代の言語的特徴(4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出(12)
第14回	まとめ	大レポート提出と総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

図書館を活用し、日本語の歴史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定せず、プリントを使用します。

**【参考書】**

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

オンライン授業への授業方法変更に伴い、適宜修正する予定です。詳細は、Hoppiiを御覧ください。

全12回のオンライン授業の「課題」と学期末レポートの内容を各50%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

教室が広すぎるという意見があったので、事務課と相談します。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, you are going to use several handouts that I'm going to give you in the class. The lecture introduces the history of Japanese Language to students taking this course.

LIT200TC (文学 / Literature 200)
<b>日本文芸研究特講・特域 (春期スクーリング)</b>
<b>安原 眞琴</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無：必要 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の遊廓、遊女、芸者に関する文化の学習を通して、和食、宴会、おもてなしなどの日本文化の特質を浮き彫りにする。

#### 【到達目標】

日本文化の中の和食、宴会、おもてなしなどについて、歴史と特質を説明することができる。

日本文化をブームに乗るだけでなくより深く理解することで、未来像を述べるることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

授業開始日は、4月23日(木)です。

オンライン形式 (リアルタイム方式やオンデマンド方式などを組み合わせた形式) で行います。

Hoppiiで課題提出等を行う予定ですが、動作環境などを確認しながら進めていくので安心してください。以前のシラバスとテーマは同じですが、授業計画は大きく異なることをご了承ください。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

##### 春学期

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と進め方を説明する。 「おもてなし現象」について考えてきてください。
第2回	神話時代の女性芸能者	アメノウズメの意義を考える。
第3回	歌に詠まれた遊女	古代の遊女について考える。
第4回	宴会と女性芸能者 (1)	貴族の宴会について考える。
第5回	宴会と女性芸能者 (2)	武士の宴会について考える。
第6回	宴会と女性芸能者 (3)	酒宴について考える。
第7回	遊廓文化 (1)	初期遊廓について考える。
第8回	遊廓文化 (2)	三都の遊廓について考える。
第9回	遊廓文化 (3)	芸者について考える。
第10回	遊廓文化 (4)	遊廓の宴会について考える。
第11回	遊廓文化 (5)	東京の花街について考える。
第12回	遊廓文化 (6)	料亭について考える。
第13回	遊廓文化 (7)	近現代の宴について考える。
第14回	遊廓文化 (8)	これからの日本文化について考える。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・予習：宿題を出すので調べてくる。(2時間)
- ・授業時の復習：リアクションペーパーで宿題の解でもある授業内容をまとめる。(20分)
- ・自宅での復習：リアクションペーパーを見直し、各回の授業テーマについて改めて考察し、500字程度にまとめる(2時間)。

#### 【テキスト (教科書)】

特になし。

#### 【参考書】

- ・安原眞琴監督作品：ドキュメンタリー映画「最後の吉原芸者四代日みな子姐さんー吉原最後の証言記録」(DVD)
- ・安原眞琴『東京おいしい老舗散歩』(東海大学出版)
- ・安原眞琴『東京の老舗を食べる』(亜紀書房)

#### 【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー40%、復習レポート40%、期末レポート20%で総合的に評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業時間も遅く、また講義以外に時間を割く余裕もないため、授業時にはアクティブラーニングやフィールドワークは行えないが、各自でフィールドワークができるよう、画像やビデオなど視覚資料を多用して講義しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

記録して持ち帰るために、リアクションペーパーを写メすることをおすすめしています。そのためスマホがあればお持ち下さい。

#### 【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんので、授業後に教壇の前に来てください。もっと時間を要する場合は、メールで対応します。安原眞琴公式サイトから御連絡ください。

#### 【Outline (in English)】

Through learning about the culture of Japanese brothels, prostitutes, and geishas, it highlights the characteristics of Japanese culture such as Japanese food, banquets, and hospitality.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・中古 (春期スクーリング)</b>
<b>加藤 昌嘉</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無：必要 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【4/24加筆修正 ↓】

★授業開始日は、5月8日(金)といたします。ただし、ライブ配信(リアルタイム授業)ではありませんから、毎週、金曜夜～土曜日曜、よろしき時間に、Hoppiiの「お知らせ」欄・「教材」欄を確認していただければ幸いです。

★“教室授業不可能”“図書館閉館”“書店休業”という現況を鑑みまして、今回、春学期「中古C」と秋学期「中古D」の授業内容を、まるごと入れ替えることといたしました。取り上げる作品や成績評価の方法なども、改変いたしました。

★仮登録中の皆さんには申し訳なく、お詫びいたします。“受講者が自由に本を入手できない中、インターネットだけで何ができるか／できないか”を熟考した結果です。新しいシラバスを改めて御覧いただき、そのうえで、「日本文芸研究特講(2)中古C・D」(金曜6限)の受講／不受講を検討していただきたく、お願い申し上げます。

◆春学期「中古C」のテーマは、《和歌》《短歌》です。

◆20世紀の《短歌》を出発点しながら、『古今和歌集』(平安時代)から『新古今和歌集』(鎌倉時代)に至る、さまざまな《和歌》《歌人》《歌集》を取り上げ、その表現のしくみを考察してゆきます。

### 【到達目標】

【4/24加筆修正 ↓】

1. 《和歌》《短歌》の表現技法・ことばの仕掛けを学ぶ。
2. 自分で《短歌》(5,7,5,7,7)を作る。
3. 自分で《歌集》(アンソロジー)を編む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

### 【授業の進め方と方法】

【4/24加筆修正 ↓】

★授業開始日は、5月8日(金)といたします。ただし、ライブ配信(リアルタイム授業)ではありません。毎週、金曜の夜、Hoppiiの「教材」欄に、プリントや、動画を、少しずつ、upしてゆく予定しております。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

春学期

回	テーマ	内容
1	4月10日、全学休講	履修の準備
2	4月17日、全学休講	履修の準備
3	4月24日	授業内容&進め方の説明
4	5月8日	現代短歌はとってもアバンギャルド
5	5月15日	和歌が詠まれるシチュエーションは様々
6	5月22日	和歌を翻訳するのはかなり自由
7	5月29日	植物、地名には、特有のイメージがある
8	6月5日	歌集(アンソロジー)を編むにはセンスが必要
9	6月12日	課題①：短歌を作る、和歌を訳す、など
10	6月19日	和泉式部の恋の和歌など

11	6月26日	西行法師の月・花の和歌など
12	7月3日	藤原定家のシュールな言語実験など
13	7月10日	物語・小説(フィクション)の中に嵌め込まれた和歌など
14	7月17日	春学期総括、課題②

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【4/24加筆修正 ↓】

◆授業で取り上げられた作品のうち、面白いと思ったものを、各自、読んでみてください。なるべく入手しやすい本を紹介してゆく予定です。

【テキスト(教科書)】

【4/24加筆修正 ↓】

★Hoppii「教材」欄に、プリント(PDFファイル)をupしてゆきます。

【参考書】

【4/24加筆修正 ↓】

★書店・古書店・ネット書店、あるいは電子書籍で入手可能であるなら、以下のうちのいずれかを読んで、《和歌》《短歌》の魅力に感じて欲しいと思っています。

▼近現代の《短歌》について

◎徳村弘『短歌の友人』(河出文庫)

◎東直子&徳村弘『しびれる短歌』(ちくまプリマー新書)

◎倉阪鬼一郎『怖い短歌』(幻冬舎新書)

▼平安～鎌倉時代の《和歌》について

◎渡部泰明『古典和歌入門』(岩波ジュニア新書)

◎渡部泰明 編『和歌のルール』(笠間書院)

◎谷知子『和歌文学の基礎知識』(角川選書)

◎出雲路修『古文表現法講義』(岩波書店)

【成績評価の方法と基準】

【4/24加筆修正 ↓】

◆春学期中に、2回、「課題」を出します。《和歌》を分析したり、《短歌》を作ったり、《歌集》を編んだりする、というような課題を予定しています。課題①40%、課題②60%。

【学生の意見等からの気づき】

◆日本の古典だけでなく、近現代の文学や海外の文学も、積極的に取り挙げます。

【学生が準備すべき機器他】

【4/24加筆修正 ↓】

★自分用のパソコン(通信制限のかからないインターネット環境)を整えておいてください。今後、レポートや卒業論文を書くとき、スマホだけでは対応不可能ですから。

【Outline (in English)】

This course deals with "WAKA", the classical Japanese 31syllable verse.

HIS300TD (史学/History 300)

**東洋史特講（東南アジア史）（春期スクーリング）**

山崎 美保

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

東南アジア地域は近年、さまざまな分野、特に経済的分野において、国際的に注目されている。本科目では、現代の東南アジア地域を形成する基盤となった、東南アジア地域の古代史を体系的に学ぶ。

**【到達目標】**

この授業では、東南アジアの歴史に関する基礎的な知識を学ぶことで、当該地域に関する諸問題を論理的に理解し、自身で探求する力を養うことを目的とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	東南アジア地域の地理的概観	東南アジアの地域認識、生態的背景
第2回	先史時代	稲作の開始、金属器の登場、初期国家の成立
第3回	南シナ海の世界	林邑、環王、占城
第4回	メコン川の世界	扶南、真臘（プレ・アンコール）
第5回	モンとピューの世界	ドゥヴァーラヴァティ、ピュー
第6回	アンコール①	王と遺跡群の概要
第7回	アンコール②	王権をめぐる諸問題
第8回	エーヤワディー川の世界	バガン
第9回	紅河の世界	大越国（李朝、陳朝、前期黎朝）
第10回	島嶼の世界①	交易国家の成立、シュリーヴィジャヤ
第11回	島嶼の世界②	シャイレンドラ、マタラム（中部ジャワ）
第12回	島嶼の世界③	アイルランガ時代、クディリ（東部ジャワ）
第13回	島嶼の世界④	シンガサリ、マジヤパヒト（東部ジャワ）
第14回	まとめ	ふりかえり

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

参考書を読み、基本的な事実を把握しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を基準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布します。

通教テキスト『東洋史特講（南海史）』第1版、河原正博、1978年は基本的に使用しません。

**【参考書】**

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社

池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社

桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史1 原史東南アジア世界』2001年、岩波書店

石澤良昭他編『岩波講座東南アジア史2 東南アジア古代国家の成立と展開』2001年、岩波書店、

石井米雄他編『岩波講座東南アジア史3 東南アジア近世の成立』2001年、岩波書店

**【成績評価の方法と基準】**

期末レポート

\*対面での講義ができないため、期末試験を期末レポートに代える。詳細は別途配布する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

This class is aim to understand the ancient history and culture of Southeast Asia.

HIS300TD (史学/History 300)
<b>日本近代史 (春期スクーリング)</b>
<b>柏木 一朗</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

明治維新から昭和時代に至る日本の歴史を外交と戦争を基軸にして考察する。

本講義を通じて歴史から成功と失敗を学んだ政治家が明治維新、日清・日露戦争、第2次世界大戦、冷戦時代に様々な困難や問題に直面した時、どのような選択を行ってきたのかを検証する。

過去の事例から何かを学ぶ際、相反・矛盾する事例や教訓が数多くある事実留意し、様々な事例を総合的に判断する視野の広さとバランス感覚を成功と失敗の歴史から学ぶ。

**【到達目標】**

日本近現代史の大きな流れを把握する。特定の歴史観やイデオロギーに偏らず実証を旨とし歴史を考察する力を会得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で授業をすすめ適宜プリントを配布する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
1	立憲革命としての明治維新	明治維新と立憲制の確立について考察を行う。
2	日清戦争と東アジア	日清戦争前後における東アジア情勢について考察を行う。
3	日露戦争と近代国際社会	日露戦争の世界史的意義について考察を行う。
4	第1次世界大戦と日中対立	第一次世界大戦と対華二十一カ条要求について考察を行う。
5	近代日中関係の変容期	1910～30年代の日中関係について考察を行う。
6	政党内閣と満州事変	満州事変と軍部の台頭について考察を行う。
7	第二次世界大戦への道①	戦間期の軍縮会議について考察を行う。
8	第二次世界大戦への道②	日本の南進と対米戦争について考察を行う。
9	アメリカの日本占領政策とその転換	アメリカの日本占領政策について考察を行う。
10	東京裁判における法と政治	東京裁判と日米協調について考察を行う。
11	日本の植民地支配と歴史認識問題	日本の植民地支配について欧米の植民地との比較、統治方針の観点から考察を行う。
12	戦後の日中関係	戦後の日中関係について国交正常化、友好化、歴史認識の観点から考察を行う。
13	講義のまとめ	様々な歴史観の問題を軸に戦後史を考察する。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日本の歴史の大きな流れを把握しておくこと。

指定したテキストをよく読み要点をノートにまとめて講義にのぞむこと。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『日本近現代史講義』山内昌之・細谷雄一編著 中央公論社 中公新書2554 2019年 990円（税込）

**【参考書】**

テキストに記載されている参考文献を適宜参照すること。

**【成績評価の方法と基準】**

講義の最終回に実施する授業内試験（参照不可）の成績で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

マイクの音量、板書の書き方、パワーポイントのシート切り替えのタイミングに気を配る。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

高等学校教科書「日本史」「世界史」の内容を理解していることを前提に講義をおこなう。

**【Outline (in English)】**

We will study Japanese history from the Meiji Restoration to the Showa era based on Japanese diplomatic relations and wars.

Through this class, we will inspect what kind of choice statesmen who learned its successes and failures from Japanese history, made when they faced on a lot of troubles and problems in the Meiji Restoration, the Sino-war, the Russo-Japanese war, the World War Two and the Cold War.

In addition, we will acquire the wide extent of horizon and the good sense of balance from which we will judge comprehensively a various kind of things.

HIS300TE (史学/History 300)

**日本史概説 (春期スクーリング)**

安田 寛子

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際化の進展の中で、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響しているといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、その中で生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

**【到達目標】**

今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本とはどういう国なのかということをお自身より深く知る必要がある。そこで、今も日本の中に多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいくことが目標である。その過程で、物事の本質を見抜く眼や判断する力も養っていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

対面授業が可能となるまで、オンライン授業で進めていきます。開始は4月24日金曜日からとなります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立 1	天下統一と民衆への対応
第3回	江戸幕府の成立 2	武家への対応、朝廷への対応①
第4回	江戸幕府の成立 3	朝廷への対応②、宗教への対応、徳川政権の特質
第5回	鷹場制度 1	鷹場制度とは、なぜ放鷹なのか
第6回	鷹場制度 2	鷹場制度の維持基盤
第7回	鷹場制度 3	鷹場制度の解体
第8回	近世の村 1	近世の村の特徴と機能
第9回	近世の村 2	法令・史料などから見る近世農村の実態
第10回	近世の村 3	結婚・離婚などから見る近世女性の地位
第11回	宗教と武家・民衆 1	幕府の宗教政策、宗教と民衆との関係

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

後述の参考図書をお手元にご用意ください。ただし、第2回の授業が始まるまでに用意できれば良いので、急いで無理をする必要はありません。詳しくはまた初回授業でご案内します。授業開始後の復習は毎回必ず行うこと。復習および関連の学習時間は各4時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書等は使用せず、毎回プリントを配布します。ただし、以下の参考書は適宜使用しますのでご用意ください。

**【参考書】**

深谷克己『江戸時代』（日本の歴史6、2000年、岩波書店ジュニア新書336）880円＋税  
児玉幸多・佐々木潤之介編『新版 史料による日本の歩み（近世編）』（吉川弘文館、1996年）3800円＋税  
この他については初回授業の中で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

各授業テーマの最終回に課す小テストとレポート課題により評価  
小テスト 50%  
レポート 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

対面授業に移行後はなるべくわかりやすく、ゆっくり話すようにしたいと思います。

**【Outline (in English)】**

We will take up the characteristics of the control system that supported the Edo era and the people living in it, think about the reasons why such a peaceful and stable long-term government became and why it collapsed.

HIS300TD (史学/History 300)

## 史学演習 (西洋) (春期スクーリング)

井上 秀太郎

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

## 【テーマ】

ローマ帝国衰退論の今

## 【授業概要】

古代ローマ史に興味を持つ者にとって、帝国の「衰退」は常に関心の対象となるであろう。なぜローマ帝国は「衰退」したのか、ギボンの名著を挙げるまでもなく、多くの人がこの問題に思いをはせてきた。とりわけ、20世紀の後半以降、この問題は古代ローマ史研究においても最も活発な分野の一つとなってきた。我が国においても近年そうした歩みを踏まえ、読者に分かりやすく見取り図を示す著作が刊行されている。今回の授業ではそれらの中から一点を選び、丁寧に読み込んでいくこととする。参加者はテキストの担当範囲を整理・解説することになる。

## 【目的・意義】

ローマ帝国の「衰退」という問題がこれまでどのように論じられてきたかを学生が理解する。また「衰退」に関する現在の議論の見取り図を学生が理解する。

## 【到達目標】

- (1) 学生が後期ローマ帝国の歴史について基本的な知識を取得する。
- (2) テキストを精読することで学生が自ら問題点を発見する。
- (3) 発見した問題について関連する文献を学生が自ら探し、入手し、読み込んでいく。
- (4) 調査したことをレジュメにまとめ、分かりやすく発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で進める。テキストの担当範囲を参加学生に割り振り、毎回担当者が調査してきた内容を発表していく。発表終了後は参加者全員による質疑応答をおこなう。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの配布と担当範囲の割り当て。 参加者は担当範囲の中で調査すべき歴史事項を抽出し、参考文献を参照して調べる。
第2回	二十一世紀のローマ帝国衰亡史：「衰亡史」の歩み	南川高志編「フォーラム ローマ帝国の「衰亡」とは何か」『西洋史学』234 (2009) 南雲泰輔「英米学界における「古代末期」研究の展開」『西洋古代史研究』9 (2009) 報告者は自身の報告に関してなされた質疑応答の内容を整理して、レポート作成に備える。
第3回	辺境から見た世界帝国の実像	ゲルマニアとブリテン
第4回	国境の意味	「ゾーン」の概念、「ローマ人」とは
第5回	コンスタンティヌス帝の改革	根拠地ガリアとトリヤ

第6回	コンスタンティヌス帝の改革 (2)	軍制改革と外部諸部族の登用 大清水裕「1700周年に見るコンスタンティヌス研究の展開」『地中海学研究』38 (2015)
第7回	後継者たちの争い	コンスタンティウス二世の治世 紺谷由紀「コンスタンティウス2世治世(337-361年)における聖室長官エウゼビウスの位置付け：宮廷宦官の人的関係に関する一考察」『西洋中世研究』6 (2014)
第8回	ガリアで生まれた皇帝	背教者ユリアヌス 南川高志「ユリアヌス：逸脱のローマ皇帝」山川出版社(世界史リブレット) 2015年 参加者は自身の発表に関してなされた質問・議論を活かしながら、レポートを作成する。
第9回	「敵」部族の実態	第三の新しいローマ人
第10回	フロンティアの状況	外部勢力を取り込む軍隊、「蛮族の共謀」
第11回	ヴァレンティニアヌス朝の試練	ゲルマン民族の大移動？ ゴート族の歴史
第12回	瓦解する帝国	皇帝の補佐役スティリコのアイデンティティ 南雲泰輔「後期ローマ帝国における「蛮族」と皇帝家-スティリコ・セレナ・ホノリウス」『古代文化』62-3 (2010)
第13回	瓦解する帝国 (2)	「排他的ローマ主義」
第14回	学習成果の確認	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【準備学習】テキストの読み込みと質問の用意

【復習】レジュメを読み直し、自身の発表に活かせる部分が無いかなどを検討する

## 【テキスト (教科書)】

南川高志『新・ローマ帝国衰亡史』岩波新書 2013年 780円

## 【参考書】

ベルトラン・ランソン『古代末期：ローマ世界の変容』白水社文庫クセジュ 2013年

ブライアン・ウォード＝パーキンズ『ローマ帝国の崩壊：文明が終わるといふこと』白水社 2014年

## 【成績評価の方法と基準】

発表内容、質疑応答への参加状況、期末試験の結果に基づいて評価する

内訳は以下の通りとする

- (1) 発表内容 40%
- (2) 質疑応答への参加状況 20%
- (3) 期末試験 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

発表前の準備状況の確認の際にレジュメの修正など具体的な指示を行う

## 【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

発表に必要な場合はデータをUSBメモリーなどに入れて持参する。

## 【Outline (in English)】

For those who are interested in the history of Ancient Rome, "Decline" of Rome will always be the focus of their interests. Many people have discussed on this theme. After the second half of last century, especially, this theme attracted many scholars on ancient history. In Japan, also, books that provide the perspective of this problem have been published. In this seminar, we read a readable text on the "Decline" on Rome. Students are required to research the problem and make a presentation on it.

HIS300TD (史学/History 300)

**史学演習（東洋）（春期スクーリング）**

宇都宮 美生

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

晋の陸翽の撰による『鄴中記』を講読することにより、中国古代史についての知識を身に付けるだけでなく、東洋史の卒論作成にあたって必要とされる漢文史料の読解能力を養い、関連資料の探し方や使い方を学ぶ。

**【到達目標】**

『鄴中記』は後趙の石虎の時代の鄴の宮殿や風俗等を記した歴史書であり、比較的平易な文法構造である。したがって、授業では句読点のない原文を用い、訓点、送り仮名、訓読という日本独自の漢文の読み方に習熟し、原文講読に対する基礎的な能力の向上を目指す。また、講読に必要なとされる工具書に関する知識や使い方を学び、使えるようにするだけでなく、考古資料、関連論文等の資料を自分で探し、それを併用して広範囲な意味の解釈をする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回担当者に訓読と現代語訳という形で報告してもらい、全員でその部分について議論するという形で進めていく。授業中に指示をした文献を各自で探してコピーしてもらい、それをを用いて理解を深めていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの紹介、授業の進め方の説明、工具書の使い方。
第2回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第3回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第4回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第5回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第6回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第7回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第8回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第9回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第10回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第11回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第12回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第13回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第14回	学習のまとめ	学習内容の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回、担当者以外にも回答を求めるため、全員予習をしておく。高校での漢文の基礎的な知識があることを前提に授業を進めるため、初心者は基礎的な知識に関して自宅学習を求める。また、参考文献等、授業で指定した資料は、各自で図書館あるいはネット（データベース）で文献を探し、コピーをしておく。授業ではそれを用いて説明をするため、事前に目を通してしておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

授業時にプリントを配布する。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

予習と授業中の積極的な参加を基準とした平常点(50%)及び筆記試験(50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

わかりやすい授業を心がける。

**【学生が準備すべき機器他】**

毎回『漢和辞典』を持参すること。

**【Outline (in English)】**

This course introduces an understanding of Chinese History by reading of Old Chinese Literature The aim of this course is to help students acquire reading Chinese Literature and history.

GEO400TE (地理学 / Geography 400)
<b>自然地理学演習 (春期スクーリング)</b>
<b>中山 秀晃</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自然地理関連の地理情報を扱った主題図作成と分析

**【到達目標】**

受講者が各自のテーマに沿った主題図をGISを使用して作成し分析できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

めざましく進化するGIS及びデジタル地図の技術を仕事や研究にどのように活用するか。実際にコンピュータを操作しながら基本を理解し技術を習得する。講義前半は簡単な統計量を手作業で分析し主題図作成の基礎を学ぶ。後半は市ヶ谷情報センターにて「Excel」、「MANDARA」、「カシミール3D」、「QGIS」等のソフトを活用し情報の分析と作図演習を行う。最終的には受講者が各自のテーマに沿った主題図を作成できるようにしたい。演習科目のため課題の提出を求める。受講には継続する意欲とある程度のPC操作への慣れが必要となる。なお、本講座では自然地理関連（特に気候と地形）のデータをより多く扱う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	主題図とは何か	テーマ、講義内容・計画の確認、アンケート、読図の基礎基本 演習①
第2回	手作業で基礎を学ぶ（感染症による臨時休業で中止）	手作業による主題図作成
第3回	地形の表現①（感染症による臨時休業で中止）	地形図からの作図
第4回	地理統計を使ったデータの処理と地図表現	PCを活用した情報処理と主題図の作成 演習②GISソフトをつかって主題図を作る (MANDARA)
第5回	地形の表現②	演習③地形図からの作図2（カシミール3D）
第6回	地形の表現③	DEM（SRTM、基盤地図情報）を使用する作図
第7回	数値地図の取り込み	データの扱い方と分析の基礎（国土数値情報から）
第8回	気候気象データ利用①	データの扱い方と分析の基礎2（アドレスマッチングと観測地点の取り込み）
第9回	気候気象データ利用②	データの扱い方と分析の基礎3（アメダスデータを使った主題図作成、演習④）
第10回	気候気象データ利用③	データの扱い方と分析の基礎4（WebGISとの連携）
第11回	自由課題作成①	自然地理関連のデータ収集と加工（自由課題、演習⑤）、授業アンケートの実施

第12回	自由課題作成②	ベースマップの作成と発表準備（自由課題、演習⑤）
第13回	自由課題発表	受講者による自由課題発表と意見交換
第14回	課題提出・演習⑤	定期考査は本年度は中止

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内容の復習（各1時間）、演習①～⑤の作成と考査（各3時間）

**【テキスト（教科書）】**

なし（授業用プリントを使用する）

**【参考書】**

「カ-GISソフトMANDARA10パーフェクトマスター」谷謙二 著、古今書院、¥3,800＋税別

「改訂新版カシミール3D入門編」杉本智彦 著、実業之日本社、¥2,400＋税別

「二訂版 QGISの基本と防災活用」橋本雄一 編、古今書院、¥3,000＋税別

「地理情報科学 GIS スタンダード」浅見泰司・矢野桂司・他編、古今書院、¥3,000＋税別

**【成績評価の方法と基準】**

演習①～⑤の作図結果と考査内容（90%）、平常点（10%）、演習の提出については、丁寧に作図をし、考査をしっかりと行うこと。

**【学生の意見等からの気づき】**

GIS関係の基礎は別講座にてある程度習得済みの学生が多くなってきたので、本講座では、自然地理関連のデータ（特に気候分野）を中心に扱うようにしたい。使用する地図ソフトのVer.upに迅速に対応し、学生の復習に役立つ資料作成を心がけたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンライン授業となったので、自宅で使用できるPCとインターネット回線

**【その他の重要事項】**

必要に応じて、データ保存用にUSBメモリなどを準備すること。

**【Outline (in English)】**

Creating and analyzing a thematic map dealing with geographical information of physical geography

GEO300TE (地理学 / Geography 300)

**写真・読図演習 (2) (春期スクーリング)**

沼尻 治樹

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

地形図をはじめとした地図は、現実世界を平面上に再構成した仮想世界といえる。この仮想世界を読み取ることは、その場になくても現地の地理情報を知ることができる有益な情報源になる。地形図だけでなく空中写真や衛星データの利用についても基礎的な判読方法を実習を通して学習する。

**【到達目標】**

地理情報を空間的に記録した地図やリモートセンシングデータを通して、地理情報を判読し理解できるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義によって演習に必要な知識を学習し、それをふまえて具体的な演習を行う。また簡単なリアクションペーパー使って質疑も受け付ける。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容説明
第2回	地形図の読み方 (1)	地球の表現方法
第3回	地形図の読み方 (2)	投影法と縮尺
第4回	地形図の判読 (1)	等高線の読み方 尾根線と谷線
第5回	地形図の判読 (2)	標高断面図の作成
第6回	地形図の判読 (3)	距離の測定 面積の測定
第7回	空中写真の読み方 (1)	空中写真の概要
第8回	空中写真の読み方 (2)	航空写真判読
第9回	メッシュ図の作成 (1)	ブロックダイアグラムの作成
第10回	メッシュ図の作成 (2)	ブロックダイアグラムの解析
第11回	リモートセンシング (1)	GISアプリケーションの基本操作
第12回	リモートセンシング (2)	幾何補正 ジオリファレンス
第13回	リモートセンシング (3)	衛星データの演算
第14回	写真・地図判読の実践	写真や地図から地理情報の判読を行う

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

事前に配布した資料を用いて事前学習を行い、授業後には復習を行って実習内容の確認または課題を行うこと。それぞれ2時間を目安とする。

また、この授業では適宜コンピュータ (PC) を利用する。Windows による PC の操作方法は解説しないので、受講学生は基礎的な操作ができるようにしておくこと。

**【テキスト (教科書)】**

自作テキスト使用する。

**【参考書】**

地形図を読む技術<新装版>：山岡光治，SBクリエイティブ  
CAD/CG/GISユーザーのための航空・衛星写真画像ハンドブック：津留宏介ほか，古今書院  
QGIS入門【第2版】：今木洋大ほか，古今書院

**【成績評価の方法と基準】**

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、中間テスト、最終レポートによって成績評価を行う。

成績評価の配分は、平常点が50%、中間テストが20%、最終レポートが30%である。

**【学生の意見等からの気づき】**

最新の地図・測量に関する話題提供を適宜行い、授業と実社会が乖離しないよう勤める。

**【学生が準備すべき機器他】**

電算室を利用する。またネットワークを用いて資料の配付や課題の提出も行うので、USBメモリ等の外部記録装置を用意すること。

**【その他の重要事項】**

授業の半分はPCを使った実習になることから、Windowsの操作は前もって習熟しておいて欲しい。

授業で用いる資料は事前に配布していくので、あらかじめ予習することも望まれる。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this lesson is to learn how to read geographical information from maps and aerial photographs. A map is a virtual world which reconstructed the real world. We practice reading with a paper map and data processing using a computer.

ECN200TF, ECN300TG (経済学 / Economics 200, 経済学 / Economics 300)

## 財政学A / I (春期スクーリング)

天利 浩

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府の活動が資源配分や人々の幸福度に与える影響を評価するため、経済学の手法を学ぶ。多くの経済活動が市場を通して行われ、社会の資源が有効に使われている。しかし公害問題や公共財の市場に関しては、政府が資源配分を是正する必要がある。また、景気悪化の際には、政府は財政政策を実施し、景気を安定化する。さらに政府は累進的な所得税や社会保障制度などにより所得再分配を行う。基本的な経済モデルを学び、個別の市場に対する政府の介入の効果、政策が個人の選択に与える影響、財政政策が経済全体の生産水準に与える影響などを分析する。学生は、経済モデルを様々な場面に応用することで、政策効果が発現する理由を理解できるようになる。

## 【到達目標】

市場における資源配分を是正するため、政府が果たすべき役割を理解し、政府が取るべき対策を提言できる。公共財の市場では、政府が適切な公共財の数量を提供することが難しい事情を説明できる。税制のあるべき姿を学び、現実の税制の問題点を指摘できる。課税が個人の行動に与える影響や、最終的に誰が税を負担するかをグラフで分析できる。減税が景気を刺激する効果の有無は、国民の消費行動や将来の政策に関する予想に依存することを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1, DP3, DP4」「商業学科：経済学」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義を行う。

グラフや簡単な数式を使って、ミクロ経済学やマクロ経済学の経済モデルを学習し、それらのモデルで財政学に関する分析を行う。

講義を実施できない期間は、Web学習サービスに、講義ノート、課題を置く。質問がある場合はメールで対応。（メールアドレスはWeb学習サービスに掲示）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	財政学とは、政府の三機能、政府の規模	財政学についての案内、政府の3機能（資源配分、所得再分配、景気安定化）
第2回	日本の財政制度 政府部門、一般会計予算	一般政府の定義、政府の諸活動
第3回	市場の機能	生産者余剰、消費者余剰、社会的余剰 部分均衡分析による余剰分析
第4回	公共財（公共財の性質、最適供給）	排除不可能性、非競合性、ただ乗り問題、公共財の最適供給
第5回	外部性	ピグー税、コースの定理
第6回	租税の基礎理論（租税の分類、租税原則、租税の帰着）	租税三原則、直接税と間接税
第7回	個別物品税の効果	個別物品税がもたらす非効率性、価格弾力性
第8回	最適消費	無差別曲線と予算制約、所得効果と代替効果

第9回	利子所得税の効果	貯蓄行動、課税がもたらす資源配分上の歪み（超過負担）
第10回	所得課税と消費課税	労働所得税と消費税の等価、課税ベース
第11回	労働所得税の仕組み、労働所得税の効果	各種控除、累進的課税、予算制約線、無差別曲線を使った労働所得税の分析
第12回	財政政策の効果	乗数理論、IS-LM分析
第13回	公債の負担	税と公債の等価
第14回	財政収支、基礎的財政収支、財政の持続可能性	公債残高と基礎的財政収支との関係、ドーマー命題

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

財政学あるいは公共経済学の標準的な内容を講義するので、参考書あるいは類書で予習する。それらの本の多くでは、マクロ経済学やミクロ経済学の多少の予備知識を前提としているので、初めて学ぶ際には、どのような問題意識から分析しているかを把握しておく。その後講義で経済分析を学ぶと、参考書の経済分析を理解できるようになるはずなので、参考書等を学び直し経済分析の部分も理解できているか確認する。復習では、経済モデルのグラフを自分でノートなどに描き、自分自身に説明するようにする。学生の自習は、準備時間2時間、復習時間2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

## 【参考書】

『財政学15講』麻生良文、小黒一正、鈴木将寛著、新世社、2018年 2350円＋税

この他、過去に財政学の講義で指定されていた教科書等を既に持っていれば、おそらく参考書として使うことが可能である。

## 【成績評価の方法と基準】

提出課題25%、期末試験75%。（ただし教室での講義開始できなければ、期末試験分を課題等に変更する可能性がある。）原則として、講義開始の日までの課題は、初回の教室での講義で回収する（メールで送付しても良い）。

（最終修正日2020年4月17日）

政策の効果をグラフで表し、文章で説明できることが重要。財政学および経済学の基本的な概念を正確に理解する。日本の財政や税制の現状をそれらの概念を使いながら説明できる。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講や予復習がしやすいように心がけます。

## 【Outline (in English)】

Economic analysis is used to evaluate the effects government activities have on the resource allocation and the social welfare. Three major roles of the government are resource allocation, income redistribution and stabilization.

Students will learn what the government should do for the society. They will be able to analyze how the government activities affect the decision making of people and whether they can improve the efficiency of the markets.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>経済学特講 (春期スクーリング)</b>
<b>三浦 道行</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ペリー来航から日清・日露戦争後あたりまでの日本の歴史を、戦前の「日本資本主義論争」の延長線上の研究から脱し、近代化という視点から講義する。受講生諸君は、明治維新が、「封建制度の再編」でも「ブルジョア革命」でもなく、下級武士による近代化革命であったこと等を理解することであろう。

#### 【到達目標】

経済的成功の土台に、法治主義・立憲主義があることを理解する。周辺諸国が、法治主義・立憲主義か考えてみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義を行う。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	近代化とは何か	下部構造ではなく上部構造が問題・・・唯物史観で明治維新は分からない
第2回	ペリーとその後	幕末の遣外使節・・・稚拙な外交レベル、次代を担う留学生たち
第3回	いわゆる明治維新	体制の改革から革命へ・幕藩体制の解体の背景=財政赤字・世襲による機能不全
第4回	廃藩置県	幕藩体制の解体=残務整理と新制度建設
第5回	岩倉使節団	落差。ビスマルク。
第6回	地租改正	近代的土地所有と寄生地主制の成立
第7回	徴兵制	武士の特権の消滅
第8回	経済制度の整備	通貨・銀行制度等
第9回	明治14年の政変。内閣制度。明治憲法。	「府中と宮中の別」 国家機関の一つとしての天皇
第10回	同上	『憲法義解』を読む
第11回	初期の産業。	綿業・製糸業・製鉄業等
第12回	日清・日露戦と不平等条約の改正	李朝と「脱亜入欧」 日本型帝国主義の成立
第13回	工場法	取り残された労働者階級
第14回	まとめ	近代化とは何か

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前2時間の予習、授業後2時間の復習を欠かさずに。

#### 【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使わない

#### 【参考書】

必要に応じて指示する

#### 【成績評価の方法と基準】

定期試験に変え、レポートで評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

試験ではなくレポートにより評価する。

レポートは手書きとし、インターネットの百科事典からの丸写し等には単位を与えない。

#### 【Outline (in English)】

We will learn the history of Japan from Perry's arrival to the Sino-Japanese War or the Russo-Japanese War from the viewpoint of modernization. Students will be able to create a new historical picture that is different from the historical image on the extension of the conventional controversy.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>監査論 I (春期スクーリング)</b>
<b>市川 佳功</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業が公表する財務諸表に対する監査の必要性、監査制度、監査手続がテーマです。財務諸表は企業が作成する自社の活動結果についての報告書であり、その企業に関心をもつ者（利害関係者）にとっては企業の状況を理解するためのほとんど唯一の情報源です。もし、財務諸表が適正に作成されたものでなければ企業に対する利害関係者の判断を誤らせてしまいます。そこで、公認会計士または監査法人が財務諸表の適正性をチェックする監査が重要な役割を果たします。「監査論 I」では、監査を理解するための導入部分として、財務諸表監査とは何か、我が国の監査制度、監査手続について学習していきます。

#### 【到達目標】

授業で学習した基礎概念と監査制度についての理解をとおして、財務諸表監査が有する機能とその限界について自ら考察するための基礎知識を身につけることを到達目標とします。期末の定期試験ではこれらについてしっかりと論じられるか否かを判断することによって目標到達度を確認します。なお、試験で簿記や会計に関する問題を出題することはありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

【概要】

具体的な履修制限は設けませんが、財務諸表監査がテーマであるため、財務諸表についての基礎的な理解があることを前提として講義を進めます。授業を受けるにあたっては初歩的な簿記の知識があることが望ましいと思います。授業は、テキストによりつつ、監査に馴染みの薄い学生の興味を喚起するため可能な限り事例を盛り込みながら授業を行います。

【授業方法】

テキストに基づいて授業を進めますが、必要に応じて授業内で資料を配布します。ときには授業内で学生と質疑応答をする時間を設けたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	財務諸表監査とは	監査の定義と監査の種類
第2回	財務諸表の基礎	必要な事前知識としての財務諸表を概観する
第3回	財務諸表監査の必要性	財務諸表の性質と監査の必要性
第4回	財務諸表監査の経済的機能	経済面で財務諸表監査の機能
第5回	会社法監査制度	会社法における情報開示と財務諸表監査の位置づけ
第6回	金融商品取引法監査制度	金融商品取引法における情報開示と財務諸表監査の位置づけ
第7回	監査規範としての監査基準	監査基準の性質と必要性
第8回	一般基準	専門的能力、公正不偏の態度と独立性、正当な注意
第9回	一般基準	職業的懐疑心、不正等に起因する虚偽表示への対応、監査調書

第10回	監査の品質管理	監査の品質を維持するための制度
第11回	監査実施上の基礎概念	パイロット・テスト 要証命題 経営者の主張
第12回	経営者の主張（各論）	経営者の具体的な主張について理解する
第13回	監査証拠	監査証拠の種類と証拠力
第14回	監査手続	具体的な監査の技術を学ぶ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

監査論で学習する概念には抽象的なものが多く存在します。理解しにくい場合には、テキスト以外の書籍等も参考にして自らの理解を補強していく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論 八訂版』（2019年12月）同文館出版3,800円＋税

#### 【参考書】

長吉 真一/伊藤 龍峰/北山 久恵/井上 善弘/岸 牧人/異島 須賀子【著】『監査論入門（第4版）』（2019年9月）中央経済社 2,800円＋税  
山浦 久司【著】『監査論テキスト（第7版）』（2019年12月）中央経済社 2,200円＋税

#### 【成績評価の方法と基準】

通常の期末定期試験を実施し、成績評価は期末定期試験の結果のみで判定します。

上記が当初の成績評価の方法でしたが、コロナの影響により期末定期試験が実施できなくなったため、6月下旬ころに出題する予定の『2020年度監査論 I 試験代替りポート課題』の提出によって成績評価をする方法に変更します。レポート提出期限は当該課題において示すこととします

#### 【学生の意見等からの気づき】

実務の話を取り込んで興味を引く授業を心がけます。

#### 【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn accounting audit theory conducted by CPA. The main learning content is the necessity of audit, audit system, audit procedure.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>簿記Ⅲ (春期スクーリング)</b>
<b>市川 佳功</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日商簿記検定2級レベルを意識した商業簿記を学習対象とします。日商簿記検定2級では商業簿記と工業簿記の双方の知識が要求されますが、簿記Ⅲでは商業簿記のみを学習します。実際の日商簿記2級検定試験では、連結財務諸表が出題範囲に含まれるようになりましたが、授業実施回数に制限があることから、この講義では連結財務諸表の学習は省略します。他方、2級よりレベルの高い内容もいくつか取り扱っていきます。

#### 【到達目標】

学習範囲について正確に仕訳ができるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2, DP3」「商業学科：経営学・商学, 会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

##### 【概要】

初歩的な簿記の学習経験や日商簿記検定3級程度の能力が学生に備わっていることを前提として講義を進めていきます。講義コマ数が限られているので講義の進行が速いと感じるかもしれませんが、しっかりと説明していきます。

##### 【授業方法】

指定テキストまたは配布レジュメに基づいて授業を進めていきます。電卓を用意してください (定期試験では必須のアイテムです)。シラバスは定型14回分を予定したものです。実際の授業の進行程度とは異なることがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	財務諸表 商品売買	財務諸表の様式 一般商品売買と3分割法の意味
第2回	特殊商品売買 (その1)	未着品売買、委託受託販売
第3回	特殊商品売買 (その2)	割賦販売
第4回	特殊商品売買 (その3)	試用販売、予約販売の会計処理
第5回	税金 当座預金照合表	費用になる税金と費用にならない税金の会計処理 貸借対照表上の当座預金勘定残高の確定方法
第6回	手形取引	自己宛為替手形 自己指図為替手形 手形の裏書
第7回	手形取引	手形の割引 不渡手形
第8回	クレジット売掛金 電子記録債権・債務 有価証券取引	簿記の新しい論点としてのクレジット売掛金、電子記録債権債務を説明。 有価証券の4つの保有目的
第9回	有価証券取引	有価証券の期末会計処理

第10回	固定資産取引 リース取引	有形固定資産・無形固定資産の会計処理 ファイナンス・リース オペレーティング・リース
第11回	繰延資産	繰延資産とは何か、繰延資産の会計処理
第12回	引当金	さまざまな種類の引当金の意味と会計処理
第13回	純資産 (その1)	純資産の構造、資本金等の増加
第14回	純資産 (その2) 決算手続 (その1)	剰余金の処分 決算手続の概要

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

市販されている日商2級レベルの問題集をたくさん解いてください。簿記ができるようになるには問題を解くことが必要不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

神谷健司 市川佳功『簿記Ⅲ』法政大学通信教育部  
上記テキストに収録されていないテーマについては授業内でレジュメを配布します。

#### 【参考書】

渡部裕亘/片山覚/北村敬子編著『検定簿記講義2級商業簿記』(2019年度版) 中央経済社800円+税 授業開講前に新版が出るかもしれません。

#### 【成績評価の方法と基準】

通常、期末定期試験を実施し、成績評価は期末定期試験の結果のみで判定します。期末定期試験では学習した範囲についての計算問題を出題します (電卓の準備が必要です)。

上記が当初の成績評価の方法でしたが、コロナの影響により期末定期試験が実施できなくなったため、6月下旬ころに出題する予定の『2020年度簿記Ⅲ試験代替りレポート課題』の提出によって成績評価をする方法に変更します。レポート提出期限は当該課題において示すこととします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業の進行が速いという意見がありますが、授業内にレジュメを配布するなどして簿記の解き方をマスターできるように工夫していきます。

#### 【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn Commercial Bookkeeping of Nissho Bookkeeping Test Level 2. However, consolidated financial statements are excluded.

MAN200TF (経営学 / Management 200) <b>経営学特講「商社活動とCSR(企業の社会的責任)」(春期スクーリング)</b>
小林 一夫
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

商社活動とCSR（企業の社会的責任）

21世紀の経済社会においては、CSR（企業の社会的責任）に基軸をおいた健全なビジョンに基づく事業運営が企業経営には必須です。社会的責任と企業経営との観点から、日・米・欧における「企業の社会的責任」の歴史を概括します。次に、SDGs、サステナビリティ、ESG等の考え方及び企業とは・会社とはなにかについて整理し、グローバル活動を前提にした総合商社等の具体的事例を紹介しつつ、基本的な見方とあるべき問題意識を持てる様に学習します。

#### 【到達目標】

- 企業とはなにかにつき、基本的な知識を得、理解できるようにします。
- 企業としての立ち位置から社会的責任をどのようにとらえるか、また、サステナビリティ・CSR・CSV・ESG・SDGs・トリプルボトムライン等概念の基本を把握します。
- 企業活動と「企業の社会的責任」について、俯瞰の見方ができるようにします。
- そのうえで、グローバルを舞台とする総合商社の現実のリスク対応事例等を学び、事業活動の本質について基本的理解を深められるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

緊急事態宣言が出された異常事態です。初回と第2回目はテキスト「第二版商社活動と企業の社会的責任」の内容を目的意識を以て読み込むこと、合わせ資料掲載（Web学習サービス）の活用で授業を進めます。第3回（5月12日予定）以降の進め方は、学部方針にそって進めます。尚、第4回目と第5回目は、三井物産アニュアルレポート等を参照します。双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、その日の授業の内容について、後日、感想や積極的な質問の提出をもとめることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	総合商社の企業活動と「企業の社会的責任」(CSR)、イントロダクション	「第二版商社活動と企業の社会的責任」、まえがき、序章、第1-2章あとがき。
第2回	総合商社と「企業の社会的責任」〔その1〕	「第二版商社活動と企業の社会的責任」第2章30-61頁 企業とは何かにつき、本邦企業の実業の観点からの見方と、企業の社会的責任について、基本的知識を得ます。
第3回	総合商社と「企業の社会的責任」〔その2〕	総合商社の事業活動を題材として、企業の社会的責任について基本的知識を得ます。

第4回	総合商社と「企業の社会的責任」〔その3〕	本邦産業界はCSRをどのように捉えているかにつき基本的知識を得ます。又、総合商社の本業とのかかわりからCSRをとらえます。CSR、CSV、サステナビリティ、トリプルボトムライン、ESG、SDGs等について理解に努めます。
第5回	コーポレート・ガバナンスと内部統制	CSR経営を支えるコーポレート・ガバナンスと内部統制についての概念の基本を理解します。企業経営の仕組みについて基本的知識を得ます。
第6回	コンプライアンス	コンプライアンスの概念についての基本的な知識を得、整理できるようにします。大規模な企業に於いて昨今頻発している不祥事の本質について考察し、あるべき対応について理解を深められるように努めます。
第7回	リスクマネジメント、事業リスク、環境・CSRリスク等への対応	環境・CSRリスク、事業リスク等総合商社の現場におけるリスク管理の考え方と、対応について、又、リスクとは何かの基本的知識を得ます。
第8回	内部監査概論 及び マネジメントシステムの理解	事業活動全般を対象とする内部監査の実践が大規模な企業では必須とされます。内部監査について基本的理解ができるようになります。ISO14001環境、ISO26000社会的責任ガイダンス規格などマネジメントシステムについて基本的知識を得ます。
第9回	企業の社会的責任(CSR)の観点から地球環境問題	公害問題等の歴史を整理し地球環境問題についての基本的知識を得ます
第10回	「企業の社会的責任」の観点から、気候変動問題へのあるべき対応と考え方について	パリ協定を踏まえ、「企業の社会的責任」の観点から、気候変動問題への認識とあるべき対応について基本的な知識を得られるようになります。
第11回	商社活動とCSR（企業の社会的責任）〔まとめ〕	グローバル活動を前提にした事業運営と企業経営について概括し、理解を深められるようにします。
第12回	a	a
第13回	a	a
第14回	a	a

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週の授業テーマについて、あらかじめテキストを読み疑問点などを整理しておくようにして下さい。また、日経新聞等をグローバル経済把握のため、読むようにして下さい。復習ではその日の授業で学習したテーマについて、自身の立ち位置からの考え方や問題意識を整理するようにして下さい。本授業外の準備・復習時間は、少なくとも4時間/週とるようにしてください。

#### 【テキスト（教科書）】

指定教科書 第二版「商社活動と企業の社会的責任」(儲けるだけでは破滅につながる) (図書文化社刊、2019年4月付 第2版、小林一夫著、1,600円+税)

#### 【参考書】

実践環境経営論 (堀内行蔵・向井常雄著) 東洋経済新報社、及びその他必要に応じて、講義時に適宜指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験：70%

平常点：30%

その日の授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。提出された感想や質問には、必要に応じて次回授業のはじめに回答します。その際、授業の進行を踏まえた気付きにつながるものは、加点対象とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

効果的に講義を受講できるよう、テキスト(教科書)を使います。「企業の社会的責任」について、具体的事例から把握できるようにするため、授業の進行に見合うトピックスも取り上げます。

**【学生が準備すべき機器他】**

必要に応じスクリーン・DVDを使い講義を進めます。

**【その他の重要事項】**

受講者は日経新聞等を丹念に読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握しておくことを推奨します。

関連の深いコース:

経営学特講「商社活動と環境・CSRリスク」(秋期スクーリング)  
経営学

**【Outline (in English)】**

General Trading Firm (Sogo-Shosha) Activities and CSR (Corporate Social Responsibility)

Management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. From the viewpoint of social responsibility and corporate management, we will outline the history and current situation of "corporate social responsibility" concepts in Japan, as well as in the USA and Europe. We will also learn basic concepts of SDGs, Sustainable Development, ESG and so forth. We will learn what a company is and what it should be. In addition, we will study typical business activities of Sogo-Shosha, their management and the basic idea of risk avoidance.

MAN200TG (経営学 / Management 200)

**経営管理論 I (春期スクーリング)**

松本 潔

カテゴリー：春期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：春期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経営管理論 I においては、経営管理の基礎的な理論を取り上げ、それらを解説していく。春期の講座では、伝統的管理論としての F. W. テイラーの「科学的管理法」、アンリ・ファイヨールの「管理過程論」などをとりあげる。また、続いて E. メイヨー、F. J. レスリンスパーガーの「人間関係論」、そして「行動科学（組織行動論）」として認識される、C. アージリス、D. マグレガーなどの「近代的モチベーション論」を取り上げ、それらの理論の有する意味・意義を現在の状況に合わせて読み解いていく。

**【到達目標】**

- ・経営管理の伝統的理論および行動科学の学説の意義を理解することができる。
- ・経営管理の理論と実際の企業活動についての関連性を理解することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義を中心とするが、企業などの経営管理活動の実際を、理論的な関連性を踏まえ映像資料などを活用して紹介する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方および経営管理の理論的変遷を考察する。
第2回	伝統的管理論 I	「科学的管理法」の理論的意義 (F. W. テイラー)
第3回	伝統的管理論 II	「管理過程論」の理論的意義 (アンリ・ファイヨール)
第4回	伝統的管理論の実際	伝統的管理手法が与えた影響と課題
第5回	人間関係論	前期人間関係論の理論的意義 (E. メイヨー & F. J. レスリンスパーガー)
第6回	人間関係論の実際	前期人間関係管理手法が与えた影響と課題
第7回	行動科学 I (モチベーション理論)	心理学的アプローチとパーソナリティの成熟理論 (A. H. マズロー、C. アージリス)
第8回	行動科学 II (モチベーション理論)	Y理論による企業の人間的側面理解 (D. マグレガー)
第9回	行動科学 III (モチベーション理論)	動機づけ・衛生理論によるモチベーション・アプローチ (F. ハーズバーグ)
第10回	モチベーション理論の実際	近代的モチベーション手法が与えた影響と課題
第11回	行動科学 IV (リーダーシップ理論)	システム 4 の参加型リーダーシップ論 (R. リカート)
第12回	行動科学 V (リーダーシップ理論)	リーダーシップの形態理論 (三隅二不二、R. R. ブレーク & J. S. ムートン)
第13回	リーダーシップ理論の実際	近代的リーダーシップ手法が与えた影響と課題

第14回 経営管理論 I 総括 & 経営管理論 II への展望  
・これまで学習した経営管理の諸理論の振り返り  
・春期の経営管理論 I の学習を踏まえ秋期の経営管理論 II を展望

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくことと理解が促進される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

プリント教材を使用・配布します。

**【参考書】**

適宜紹介します

**【成績評価の方法と基準】**

定期試験（70%）、および平常点（30%）の観点から総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

できる限り実際の企業等の事例を経営管理の理論や学説との関係性を踏まえて解説し、その理解を促進できるように改善の努力を傾けていきたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【その他の重要事項】**

特にありません。

**【Outline (in English)】**

Basic theory of business management is taken up and explanation is being added at this session. I have for my object to take up traditional management theory (scientific management and management process theory), theory of human relations and behavioral science (modern motivation theory and modern leadership theory) etc. by this term and acquire those theory as knowledge.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講[NPO論] (春期スクーリング)</b>
<b>松本 潔</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、特講としてNPO論をテーマとして掲げ、その基礎知識を学習する。なお、取り上げる項目は、NPOの定義と位置づけ、NPOにおける活動の歴史的な経緯・側面、NPO活動におけるマネジメントの重要性を学習していく。なお、特にNPOのマネジメントの側面として、そこに参加するメンバーのモチベーションの問題、他のセクター（行政、企業など）との連携・協働における問題、などに焦点を当て、その理論的背景にも考察を加える。さらに、近年注目を集める社会的起業家が活躍する「コミュニティビジネス」、社会的活動に参加する人たちのキャリア観にも触れる。

#### 【到達目標】

・NPOの活動とその意義を理解し、その組織特性やマネジメント思考および他セクターとの協働における特徴について理解することができる。

・NPOの活動を通して、受講者自身の今後のキャリア形成について、具体的な行動指針を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、NPOの活動の実際を、映像資料などを活用して紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、進め方、などについて確認を行う。また、非営利組織（NPO）の社会における位置づけの解説を行う。
第2回	NPOの概念	非営利組織（NPO）の概念を整理し、広範囲な視点からNPOについての理解を深め、NPO法におけるさまざまな活動領域についての考察を加え、自身の興味のある領域を探索する。
第3回	NPO・市民活動の歴史の変遷	日本におけるNPO・市民活動についての歴史的な変遷から、現在の市民活動やNPOの活動との関連を探索する。
第4回	NPOのマネジメントと組織特性	NPOのマネジメントについて、企業における経営資源を踏まえ、その共通点・相違点を理解し、そのうえで、NPOのマネジメントを把握する。
第5回	NPOにおける人的資源管理（ボランティアおよび事務局スタッフ）	NPOに必要な人的資源管理、特に、NPOにおけるボランティア会員また事務局スタッフについて、その行動特性・動機などについて理解を深め、マネジメント上の課題を考える。

第6回	NPOにおける資金調達・活用管理	NPOの資金調達・活用について、効果的な資金調達のあり方、またその活用方策について考える。また、寄付税制や市民ファンドなど、新しい取り組みを紹介する。
第7回	NPOと他セクターとの協働と組織間関係論	NPOを中心とする他のセクターとの協働またその関係性のあり方について、組織間関係論の視点から考察を加えていく。
第8回	NPOと政府・行政組織との協働	NPOと政府・行政組織との協働について理解を深める。また、それらの協働の実際事例などを考察して理解を深める。
第9回	NPOと企業との協働	NPOと企業との協働について、企業の社会的貢献活動やCSRの観点から理解する。また、それらの協働の実際事例などを考察して理解を深める。
第10回	社会的企業とコミュニティ・ビジネス	社会的企業の登場の背景およびコミュニティ・ビジネスについての現状から、その特徴を検討する。また、社会的企業およびコミュニティ・ビジネスの実際事例などを考察する。
第11回	NPOの事例研究① 国際協力NGOの活動から考える	国際協力の領域で活動するNGOの事例を取り上げ、そこで活動するメンバーの苦労ややりがいなどを考察する。また、レポート課題①として、本事例研究からの学習事項をまとめる。
第12回	NPOの事例研究② 生涯学習領域のNPOの活動から考える	生涯学習の領域で活動するNPOの事例を取り上げ、そこで活動するメンバーの苦労ややりがいなどを考察する。また、レポート課題②として、本事例研究からの学習事項をまとめる。
第13回	NPOの事例研究③ 社会福祉領域のNPOの活動から考える	社会福祉の領域で活動するNPOの事例を取り上げ、そこで活動するメンバーの苦労ややりがいなどを考察する。また、レポート課題③として、本事例研究からの学習事項をまとめる。
第14回	NPOにおけるライフ・キャリアの形成およびNPO論まとめ	これまでの学習を踏まえ、NPOにおける市民活動としてのライフ・キャリアの形成について、今後の受講者自身のキャリア形成のあり方として検討する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認することが要求される。また、事前にテキストを読み、各授業スケジュールにおけるテーマについて準備学習をしておくことと理解が促進される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】  
プリント教材を使用

【参考書】  
適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】  
定期試験（70%）、および平常点（30%）の観点から総合的に評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

一昨年度からのアンケートからは、理論的な概念と実際の事例との関連性を詳しく具体的に解説することが望まれ、その改善の努力をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】  
特になし。

【その他の重要事項】  
特になし。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, a special lecture will be given on the theme of NPO theory, and the basic knowledge will be learned. The topics covered are defined as NPOs, and we will learn the historical background and aspects of NPO activities and the importance of management in NPO activities. In particular, as a management aspect of NPOs, we focus on issues such as the motivation of members participating in the activities and issues related to coordination / collaboration with other sectors (administration, corporations, etc.). Also considers. In addition, he touches on the "community business" in which social entrepreneurs who have been attracting attention in recent years are active, and the career views of those who participate in social activities.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講[ロジスティック論] (春期スクーリング)</b>
<b>恩田 登志夫</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロジスティクスは、経営戦略の一つであり、企業成長を図るうえで重要なシステムです。したがって、最近の企業では、調達・生産・物流システムの有機的連携を図った事例が多く見られます。これらの事例を通して、これまでの物流の概念とは異なるロジスティクスの概念を学ぶことができます。

### 【到達目標】

授業の終了時には、以下のことが修得できる。

- ①ロジスティクスは経営戦略であることを説明できる。
- ②収益性劣化率の計算式を使用して、どの輸送手段が最善なのか判断できる。
- ③ロジスティクスの重要性についてレポートを書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一般的な講義のほかに、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを行い、参加型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ロジスティクスの概要	ロジスティクスの定義 棚卸資産粗利益率の考え方
2	ロジスティクスと物流の相違	ロジスティクス管理 物流管理
3	物流管理の問題点とABC分析手法	物流管理の問題点 ABC分析
4	ロジスティクス管理手法（1）	収益性劣化率の概要 収益性劣化率の計算
5	ロジスティクス管理手法（2）	収益性劣化率の利用事例
6	ロジスティクス管理手法（3）	収益性劣化率から輸送手段の選択手法 海上、国際複合、航空輸送
7	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（1）	仕出し弁当企業の事例紹介
8	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（2）	仕出し弁当企業の調達、製造、配達システムの概要
9	ロジスティクス戦略を実施する企業の事例研究（3）	仕出し弁当企業と他企業との企業分析比較
10	自動車メーカーの生産システムの概要	自動車メーカーの販売・生産計画策定 自動車メーカーの部品調達システム
11	自動車メーカー物流システムの概要	自動車メーカーの物流システムの概要 ミル克蘭輸送 中継地物流

12	ロジスティクスの類型	1 PL, 2 PL, 3 PL, 4 PLの相違と具体例
13	3PLの現状と課題	3PL市場規模 3PL企業動向の特徴 3PLビジネスの課題
14	3PL事業の事例研究	国際物流事業者による3PL事業への取り組みの現状と課題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業の事前にテキストを確認して要点を整理すること。

復習として、準備学習として要点を整理したことを授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要なプリントを配布する。

### 【参考書】

『現代ロジスティクス概論』唐澤豊、NTT出版、2000年、4968円

### 【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」

航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

### 【Outline (in English)】

Logistics is one of the management strategies, and it is an important system to promote corporate growth. Therefore, recent companies often see examples of organically coordinating procurement, production, and distribution systems. Through these examples, we can learn the concept of logistics different from the concept of physical distribution so far.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>演習[貿易概論] (春期スクーリング)</b>
<b>恩田 登志夫</b>
カテゴリー：春期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：春期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル経済が進展すると海外との貿易取引が活発になります。米国と中国の貿易戦争のように保護主義の主張とTPPのように貿易を活性化させる取組みも進展しています。この講義では、貿易取引の基礎的な物の流れやお金の流れを理解することにより、貿易ビジネスの実態を学ぶことができます。

#### 【到達目標】

貿易取引に関する国際ビジネスの観点から国際物流、輸出入通関に関する基礎的知識を習得することができる。さらに、秋期スクーリングにて開講される国際物流を履修することにより、国際流通全般を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

一般的な講義のほかに、統計資料や視聴覚メディアを活用したり、ディスカッションを行い、参加型の授業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	授業全般の説明と貿易取引の全体像の理解	貿易取引と国内取引の相違
2	日本の貿易の現状	日本の貿易収支 産業組織の変化 輸出入の流れ
3	貿易取引全体の理解	貿易取引のしくみ 貿易取引と関係機関
4	貿易保険	貿易取引の種類 貨物海上保険 貿易保険
5	貿易取引契約条件	製造物賠償責任保険（PL保険） 取引交渉の全体像 各種取引条件
6	貿易条件とトレードタームズ（1）	インコタームズ2000と インコタームズ2010の比較
7	貿易条件とトレードタームズ（2）	インコタームズの具体例 FOB, CFR, CIF等
8	取引一般条件	取引一般条件と契約書の概要 ウィーン売買条約の概要
9	貿易代金決済	信用状決済の概要と仕組み
10	通関手続きと関税	通関制度の概要 AEO制度の概要 保税制度の概要
11	貨物輸送と船積書類（1）	海上貨物の船積み手続きの概要
12	貨物輸送と船積書類（2）	航空貨物の積み込み手続きの概要
13	貨物輸送と船積書類（3）	国際複合輸送の概要と国際複合輸送の国際ルール

14	貿易書類の概要	インボイス パッキングリスト 船積依頼書
----	---------	----------------------------

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。

復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『ジェトロ貿易ハンドブック』ジェトロ、2020年、1620円（税込）

#### 【参考書】

『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024円（税込）

#### 【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」

航空会社に約20年勤務していたことから、貿易と国際輸送に関する内容において実務経験を踏まえて説明する。

#### 【Outline (in English)】

Trade transactions with overseas will become active as the global economy progresses. As in the trade war between the United States and China, protectionism advocacy and efforts to activate trade like TPP are progressing as well. In this lecture, you will be able to learn the realities of trading business by understanding the flow of basic trade transactions and the flow of money.

HIS100TA (史学/History 100)
<b>西洋史 (秋期スクーリング)</b>
<b>宮崎 亮</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前323頃から前146にいたる古代ギリシア史。  
 講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は西洋史の中でも古代ギリシア史であり、通常ヘレニズム時代と呼ばれる時期のギリシア世界を、政治史と社会経済史の観点から概観する。  
 学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」とは何かを考える場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

#### 【到達目標】

学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、レポートで問われるところでもある）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

オンラインでの授業。Zoomなどを用いたリアルタイムの遠隔授業ではなく、以下の三つを授業日の授業開始時間までに、学習支援システムを通じて配布する。

1) 講義抄録、2) PowerPoint ファイル、3) 授業プリント  
 各自の都合の良い時間を使って、PowerPoint ファイルや授業プリントを参照しながら、講義抄録を読み、理解に努めること（自分なりのノートを作ることを勧める）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
 なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の説明と確認；ガイダンス資料を配布の予定。
第2回	後継者たち	アレクサンドロスの死後（前323）、その後継者の地位をめぐる争い、それによる東地中海世界の変貌
第3回	連邦国家(1)	「連邦」とは何か？；ポリスとエトノス
第4回	連邦国家(2)	アイトーリア連邦；アカイア連邦の発展
第5回	連邦国家(3)	アカイア連邦とスパルタ；スパルタの改革
第6回	連邦国家(4)	ペロポネーソスをめぐるアカイア連邦、スパルタ、マケドニアの角逐
第7回	ローマの東地中海進出：その1	ギリシア世界とローマ人
第8回	ローマの東地中海進出：その2	マケドニアとローマ（第1および第2マケドニア戦争）
第9回	ローマの東地中海進出：その3	ローマ共和政の政治システムについて概略説明
第10回	ローマの東地中海進出：その4	シリア戦争；親ローマ路線と反ローマ路線

第11回	ローマの東地中海進出：その5	前168年の意義
第12回	ヘレニズム期のギリシア社会：その1	世界の拡大と移動する人びと
第13回	ヘレニズム期のギリシア社会：その2	ポリス間のさまざまな交渉；弛緩するポリスの封鎖性
第14回	ヘレニズム期のギリシア社会：その3	貧富の差の拡大とエヴェルジェティスム

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。  
 1) 人名・地名等でわからないものがあれば、自分で確認しておく。  
 2) 適宜「宿題」を出すので、積極的に取り組むこと。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

#### 【参考書】

F.ウォールバンク『ヘレニズム世界』（教文館、1988年）  
 吉村忠典『支配の天才ローマ人』（三省堂、1981年）  
 以上はいづれも少々古い本だが、名著と評してさしつかえない本なので参考書としてあげておく。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを課す。授業内容を的確に理解し、自分の言葉で正確に表現しているかどうか問われる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実施していない。

#### 【学生が準備すべき機器他】

PDFファイルとPowerPointファイルが読める環境にあること。

#### 【その他の重要事項】

1) 授業計画はあくまで「予定」と考えられたい。  
 2) 「ガイダンス資料」を配布する予定なので、必ず参照すること。

#### 【Outline (in English)】

The theme of this class is the history of Greece after Alexander the Great. Students are to learn about the political as well as socio-economic history of Greece from the third to the second centuries B.C

HIS100TA (史学/History 100)
<b>東洋史 (秋期スクーリング)</b>
<b>板橋 暁子</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族・ジェンダー・セクシュアリティに関する伝統的秩序が比較的強固に存続してきた東アジア世界においても、近年、それらの見直しを求める声が高まっている。そのような伝統的秩序の少なくない部分が中国の文化や制度に由来するものであり、現代日本も例外ではない。本科目では、東アジア世界への影響もふまえながら、中国史上における家族・ジェンダー・セクシュアリティの展開を学ぶ。

#### 【到達目標】

現代へと連なる東アジア世界の家族・ジェンダー・セクシュアリティ構造が、中国を範例として如何に形成されてきたかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業開始日は9月18日（金）になります。「Web学習サービス」を毎週確認し、掲示された課題に対する回答（コメントペーパー）を、所定の期間中に、所定のメールアドレスに提出してください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序論	授業の概要・目的
第2回	漢代①	父系制社会
第3回	漢代②	家族と戸籍
第4回	漢代③	外戚と宦官
第5回	魏晋南北朝①	貴族と婚姻
第6回	魏晋南北朝②	仏教・道教と信仰生活
第7回	隋唐①	女帝の誕生
第8回	隋唐②	妓女と文人
第9回	宋元①	都市と庶民生活
第10回	宋元②	朱子学と礼法
第11回	明清①	節婦・列女の顕彰
第12回	明清②	「男らしさ」の変遷
第13回	明清③	性愛規範と逸脱
第14回	総括	中国から東アジア世界へ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

#### 【参考書】

・早川紀代 [ほか] 編『歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界』東京：御茶の水書房、2015年  
 ・三成美保/姫岡とし子/小浜正子編『ジェンダーから見た世界史：歴史を読み替える』東京：大月書店、2014年  
 ・小浜正子 [ほか] 編『中国ジェンダー史研究入門』京都：京都大学学術出版会、2018年

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題に対する回答（コメントペーパー）（100%）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業中および授業の前後も含め、積極的な質問を歓迎します。

#### 【Outline (in English)】

Although traditional systems of family, gender and sexuality have existed solidly in East Asia, more and more people have been asking for innovating them in recent years.

Many of these traditional systems originate from Chinese culture and institutions, contemporary Japan is no exception.

In this class, we will study how the systems of family, gender and sexuality have developed in Chinese history, considering their influences on other East Asian countries.

POL100TA (政治学 / Politics 100)
<b>政治学概論 (秋期スクーリング)</b>
<b>及川 智洋</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治」の目的と役割は何か。政治に関する基本的な知識と民主主義の歴史を学ぶ。主権者として政治に参加することの意義、政治をめぐる環境の変化について考察する。

#### 【到達目標】

現代政治の基礎知識を持ち、メディアで報じられる政治課題について基本的な構図を理解したうえで自分なりの意見を持ち、その根拠を説明できる。また、自分とは異なる政治的な意見の理由についても考察できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

オンライン授業で、受業生に授業資料を配布し、それに基づいて各自で考察、適宜課題などの提出を求める。質問はメール等で受け付け、回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・政治はなぜ嫌われるのか	投票率の低下に見られるように政治への無関心と拒否感が広がる中で、政治を学ぶ意味を考える。
2	新型コロナウイルス問題の政治学的考察	現在世界中で進行形の新型コロナウイルス問題を政治学的に分析、問題点を考察してみる
3	政治の世界	政治の目的とは何か。正義の実現、対立する利害の調整について考える。
4	民主主義と政治的自由	民主主義の歴史と「多数決」だけではない重要な論点を学ぶ。
5	少子高齢化と格差社会	少子高齢化がどのように問題化してきたか。実際の政治課題としては
6	ポピュリズムと財政	現在日本政府が抱える財政問題はどのような実態なのか
7	マスメディアと政治	政治を考える際のマスメディアの機能と現状について
8	ネット時代の政治情報	前項に引き続き、メディアの変化が政治情報の入手にどのように影響したか
9	官僚組織（公務員）	政策の実行、実務を担う官僚組織、公務員の役割について
10	政治課題のケーススタディ 1 米軍基地問題	日本の安全保障政策について学びつつ、沖縄に集中する米軍基地の問題について考える。
11	政治課題のケーススタディ 2 日韓関係	近年、対立が注目されることが多い日本と韓国の関係について考える
12	政治課題のケーススタディ 3 格差社会	経済的な格差の背景と政治的な対策について考える。

- 13 リーダーシップと熟議 政治に求められるリーダーシップと、慎重に話し合うことの意味を考える。
- 14 政治の未来 これからの民主政治の在り方と可能性、および憲法改正問題について考える。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、予習1時間、復習3時間を標準とする。予習は各回のテーマに沿って、指定されたテキストを事前に読んで要点をまとめ、復習は授業資料を再度読み返して考察する。関連する新聞記事や専門書などをチェックしたうえで、自分の意見を小論文として書いてみるなどの学習が望まれる。

#### 【テキスト（教科書）】

「政治学」新川敏光・大西裕・大矢根聡・田村哲樹（有斐閣、2017年）定価2000円+税

#### 【参考書】

「民主主義は終わるのか」山口二郎、岩波新書  
「左翼はなぜ衰退したのか」及川智洋、祥伝社新書

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の代替となる期末レポート、および複数回の課題とアンケート提出によって評価する。レポートの評価基準は、指示した必要な事項を的確に調べ記述できるか、自分の政治上の意見を反対意見も勘案したうえで、説得的に展開できるかについて、最も重視する。次いで授業内容の理解度も見る。採点の配分はレポート9割、課題・アンケート回答1割。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規に担当するため、特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

ラーニング・マネジメント・システム（LMS）を使って授業資料を掲示、課題・レポートなどを行う予定のため、パソコンを用意して使える状態であることが望ましい。

#### 【その他の重要事項】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

You will study political theory and history of democracy in this subject.

So we must consider about role of sovereign and change of political environment.

CUA100TA (文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 100)
<b>文化人類学 (秋期スクーリング)</b>
<b>ベル 裕紀</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

#### 【到達目標】

学生は、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解について認識論的な立場から批判的に学習する。それを通じて、現代的な問題、身近な問題においても、内省的な思考力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、オンラインで行う教材（講義動画とレジュメ）提示型／オンデマンド型で行う。

毎週木曜日にラーニングマネージメントシステム（LMS）の当該授業のページに、アップロードする教材（映像および文書ファイル）と課題を使って、授業を進めていく。履修者は毎週アップロードされる教材によく目を通すとともに自主学習をしながら、毎週出される課題にこたえるものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族論	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与・交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与・交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	構造主義と主体（行為主体性論）という人類学の理論を理解するための二つの見方を紹介する。
第六回	暴力の人類学	「暴力」を主題として、暴力の制御や紛争解決の問題を扱う。
第七回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第八回	言語・記号論	ソシュール以降の記号論の展開、および人類学における言語行為論について学習する。

第九回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。
第十回	都市人類学	都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。
第十一回	国民国家とナショナリズム	A.ゲルナーやB.アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。
第十二回	ジェンダー論	ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構成主義的な考え方を理解する。
第十三回	オリエンタリズム批判とポストモダニズム	サイードの『オリエンタリズム』を中心に植民地主義における「他者」表象、ポストコロニアリズム批判を理解する。
第十四回	「異文化」「他者」の理解	人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に1時間程度の予習と、授業後は授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて少なくとも3時間程度かけて読みこみ、理解と思考を深めること。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で講義レジュメを配布する。

#### 【参考書】

岸上伸啓編2018『はじめて学ぶ文化人類学：人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房。

桑山敬己・綾部恒雄編2018『詳論 文化人類学：基本と最新トピックスを深く学ぶ』ミネルヴァ書房。

中島成久編著2016『グローバリゼーションのなかの人類学案内』第7刷、明石書店。

松村圭一郎2011『ガイドブックシリーズ基本の30冊 文化人類学』人文書院。

ヘンドリー、ジョイ 2017『<増補新版>社会人類学入門 多文化共生のために』桑山敬己・堀口佐千子訳 法政大学出版局。

その他、授業時間内に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で出される課題60%、期末レポート40%で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の課題の回答を翌週の授業の冒頭でいくつか取り上げて紹介しながら、授業を進めていく。

#### 【Outline (in English)】

This course provides an introduction to cultural/social anthropological discussion.

Students who take this course will:

- 1, learn anthropological discussion about the gift, kinship, politics/power, ethnicity, gender, nation-states and so on.
- 2, gain anthropological understanding for interpretations and analyses of our daily lives and social system.
- 3, gain better understanding about culture and about difficulties inherent in writing culture.

CHM100TA (その他の化学 / Chemistry 100)
<b>化学2 (講義) (秋期スクーリング)</b>
<b>渡邊 永治</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身近にある化学を理解し、役に立つ化学を身につけることをねらいとする。そのために、生活の中でよく出会う化学物質の性質を題材とする。合成材料、あるいは生命に関する化学について、物性や反応のメカニズムを理解できるようにする。また、地球温暖化、オゾンホール、環境ホルモンなどの環境問題についても、分子レベルで理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

生活の中でよく出会う化学物質の物性、構造、反応などを、分子レベルで理論的に考察できるようになる。さらに、現代化学のトピックスについても、メカニズムを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教科書の内容について、オンライン教材を中心に講義を行ない、基本的な内容を理解していただき、その都度、参考書で紹介されている、関連する応用例も解説する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	有機反応論 (1)	ラジカル反応、イオン反応
第2回	有機反応論 (2)	活性化エネルギー、反応熱
第3回	求核置換反応と脱離反応	SN1、SN2、E1、E2
第4回	反応機構	ザイツェフ則、ホフマン則、マルコニコフ則
第5回	芳香族の反応	ニトロ化反応、位置選択性
第6回	官能基の反応 (1)	ヒドロキシル基、エーテル、カルボニル基
第7回	官能基の反応 (2)	ホルミル基、カルボキシル基、アミノ基
第8回	光化学	光異性化、ロドプシン
第9回	ビタミン	脂溶性と水溶性、補酵素
第10回	糖	糖の性質、反応
第11回	アミノ酸	アミノ酸の性質、反応
第12回	タンパク・酵素	アミノ酸配列、高次構造、酵素反応
第13回	核酸	DNA、RNA
第14回	ホルモン	ペプチドホルモン、ステロイドホルモン

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。ノートをまとめておくこと。重要なキーワードについて説明できるようにしておくことよい。

#### 【テキスト (教科書)】

『絶対わかる有機化学』 齋藤勝裕著、講談社、2003年、¥ 2,400+税

#### 【参考書】

『グレイ 化学-物質と人間-』 H.B.Gray、J.D.Simon、W.C.Trogler 著、東京化学同人、1997年、¥ 2,200+税

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、レポート (配分100%) により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this course is letting students acquire general chemistry through studying various materials and phenomena. To achieve the goal, students will learn chemical topics closely related to our daily life. It is expected that students can understand properties and reaction mechanisms of synthetic materials as well as those of chemical species related to life sciences. In addition, environmental issues such as global warming, destruction of the ozone layer, and endocrine disruptor will be discussed to understand them in the viewpoint of chemistry.

PHY100TA (物理学 / Physics 100)
<b>物理学3 (講義) (秋期スクーリング)</b>
<b>清水 則孝</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「光」と「音」は日常生活で身近なものです。その振る舞いは多様で自然界の法則を学ぶ上で重要な研究対象です。本講義では、光と音、波動について、その基本的な性質と、日常生活でどのように使われているかを学びます。

#### 【到達目標】

光・音とは何か、反射・屈折などの振る舞いとその後にある自然法則を理解する。  
 光や音に関する日常の中で現れる現象や、現在我々の生活を支えている科学技術にどのように使われているかを理解するための基礎知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では、光に関するいろいろな現象とその背後にある法則を、これまで物理学の講義を受けたことが無い人でも理解できるよう、数式の使用は最小限度に止め、実演・ビデオ等を活用し視覚的に理解できるように講義をおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	導入	講義内容の紹介と基礎事項の確認
第2回	音と波動(1)	音の速さ 縦波と横波
第3回	音と波動(2)	ドップラー効果、定常波と共鳴
第4回	波としての光(1)	光の速度
第5回	波としての光(2)	光の反射、屈折
第6回	波としての光(3)	光の分散 プリズム、虹
第7回	波としての光(4)	光の回折、干渉
第8回	波としての光(5)	光の偏光、電磁波
第9回	粒子としての光(1)	光電効果
第10回	粒子としての光(2)	熱放射と原子スペクトル
第11回	原子モデルとスペクトル(1)	原子の模型と量子論
第12回	原子モデルとスペクトル(2)	原子の模型と物質の性質
第13回	物の色と光	ものを見る仕組み、天体観測
第14回	まとめ	光とはなにか

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。レポート問題を随時用意するので、それらを解くことにより講義の理解を深めます。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは特に設定しませんが、随時必要に応じて講義資料を配付します。

#### 【参考書】

シップマン・自然科学入門「新物理学」(増補改訂版) J. T. Shipman 著、勝守寛 監訳 (学術図書出版社、2002)  
 「物理学入門」 大西直毅著 (東京大学出版会、1996)

図解入門よくわかる光学とレーザーの基本と仕組み[第2版] 潮秀樹 著 (秀和システム、2010)

#### 【成績評価の方法と基準】

授業ごとに課するレポートにて評価します。レポートの提出状況で20%、レポートによる内容の評価80%となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

数式、計算が出てくる場合は、できるだけ分かり易く説明します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンやスマートフォンなど、講義資料(pdf形式)と動画を見られる環境を各自用意してください。

#### 【Outline (in English)】

While "light" and "sound" are familiar in daily life, they behave variously and are important research topics to elucidate the way of nature. In this lecture, we learn the elemental properties and applications of light, sound, and wave.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (1) (秋期スクーリング)</b>
<b>大和久 悌一郎</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、英語読解能力は、国際社会の中で専門的な学問領域だけでなく、一般的な時事問題・日常生活においても重要になってきています。本授業では、そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力を充実させていくことを目指します。

#### 【到達目標】

- ・TOEICレベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEICレベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

（8月30日追記）受講者の皆さんへ。この授業は、オンライン、オンデマンド形式で、資料を配布する形で進めます。毎回、講義内容を記した資料を配布しますので、お読みください。

（修正前）日常的な英語表現と、英文法の各事項について解説しているテキストを用いて、基礎力を身につけていきます。また随時、新聞など海外の英語のニュース記事を読み、読解力を養っていきます。基本的に、テキスト1章分を2回の授業で扱い、必要に応じてプリントの配布を行います。毎回出欠の確認をします。また授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうことをお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の紹介
第2回	Unit 7 (例文読解)	商店街での日常表現
第3回	Unit 7 (文法)	接続詞について
第4回	Unit 8 (例文読解)	観光旅行での日常表現
第5回	Unit 8 (文法)	過去完了形について
第6回	Unit 9 (例文読解)	新幹線でもちいる日常表現
第7回	Unit 9 (文法)	話法について
第8回	Unit 10 (例文読解と文法)	旅行先での日常表現／話法
第9回	Unit 11 (例文読解と文法)	お土産を買うさいの日常表現／関係代名詞について
第10回	Unit 12 (例文読解と文法)	友人と会話するさいの日常表現／関係代名詞について
第11回	Unit 13 (例文読解と文法)	日本について説明するさいの表現／関係副詞について
第12回	Unit 14 (例文読解と文法)	思い出を語るさいの日常表現／仮定法について
第13回	Unit 15 (例文読解と文法)	挨拶のための日常表現／仮定法について
第14回	まとめ	テスト

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ごとに扱う章について、事前に予習をしておく。また、テキストに登場した単語や表現については復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著『英語で紹介するニッポン！ -続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English -English Once More! II-』朝日出版社、2016年

#### 【参考書】

特になし。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト、アンケートへの回答など）60%、学期末レポート40%で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【Outline (in English)】

With reading text book, learning English grammar and words. First of all, I have set a goal of reading articles in English, not only in the classroom, but also in daily life. And toward this goal, I use educational textbook and handouts. As a procedure in one lesson, first, reading one chapter in the textbook, and in the rest of time, reading handouts for 15-30 minutes. Handouts including news stories, essays, and short fiction in newspapers and magazines. Topic is mainly on the current world news. And reading these handouts, I encourage to read articles in English, not only classroom but also everyday life.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (2) (秋期スクーリング)</b>
<b>ROBIN F WEICHERT</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

## 【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Students will work individually, with a partner and in small groups. Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a test at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation.

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	Welcome back from summer break. 7A First day nerves.	infinitive with to.
2	7C Could you pass the test?	have, don't have to, must, mustn't.
3	8A Should I stay or should I go?	advice: should.
4	8B Murphy's law.	if-clause, confusing verbs.
5	9A Beware of the dog.	if-clause (2), animals and insects.
6	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
7	9C Scream queens.	present perfect or past simple, biographies.
8	10A Into the net	expressing movement, sports.
9	10B Early birds.	word order of phrasal verbs.
10	10C Internationaal inventions.	the passive, people from different countries.
11	11C Twinstrangers.net	so, neither + auxiliaries, similarities and differences.
12	12A Unbelievable!	past perfect, time expressions.
13	12B Think before you speak.	reported speech.
14	12 C The English File quiz.	revision of question words, book revision.

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. They should spend at least 1 hour studying outside of class per week.

## 【テキスト (教科書)】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

## 【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

## 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities and homework (25%), a presentation (25%), and quizzes and tests (50%).

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

## 【学生が準備すべき機器他】

Notebook/paper and writing utensils.

## 【Outline (in English)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (3) (秋期スクーリング)</b>
Andrew E. Chen
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The object of this course is to introduce students to legal matters. Students read and examine truncated versions of real court cases in the U.S. and Japan. The course will introduce students to various legal topics and problems of the Japanese and American Societies.

#### 【到達目標】

Students will continue to apply summarizing, paraphrasing, essay writing, and presentation skills acquired previously to this course. Students will be able to introduce a problematic issue of Law, summarize past related cases of law, comment and discuss the issue of law, and propose solutions. Lastly, students will learn how to write a research paper in the American Psychological Association (APA) style for a term paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Vocabulary and reading preparation done before class. Explanation and commentary of case by instructor. Comprehension check through reading exercise questions. Discussion in small groups.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第一回	初授業オリエンテーション	The Case of a Japanese Exchange Student
第二回	Child Abuse (児童虐待)	The Case of the Bicycle Man, Public Service Announcements, TV programs and educational programs
第三回	Child Abuse (児童虐待)	Emotional Abuse
第四回	Child Abuse (児童虐待)	Overprotective Parents, Neglect
第五回	Divorce (離婚)	Prenuptial Agreements
第六回	Divorce (離婚)	Child Custody
第七回	Divorce (離婚)	Community Property, Separate Property
第八回	Wills (遺言)	Testate, Intestate, Reserved Portions
第九回	Wills (遺言)	US and Japan Comparison, Inheritance Taxes
第十回	Wills (遺言)	Ascendants and Descendants
第十一回	Bankruptcy (破産)	Medical Bills and Insurance Companies
第十二回	Bankruptcy (破産)	The Mortgage Loan Crisis

第十三回 Bankruptcy (破産) National Health Care Systems

第十四回 復習、期末試験 Review and Final Exam

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間半を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは、アメリカと日本で実際に起こった、法律や訴訟に関わる様々なエピソードを紹介します。故マイケル・ジャクソンの遺産問題から、終身刑になった犯罪者の更正していく様を描いたもので、幅広いトピックの法律に関連する事例を英語で読みます。法律だけでなく、考え方や社会など、いろいろな角度からアメリカと日本との違いを認識し、理解を深めることができます。事例の裏に絡み合う人間模様が学習者の興味を引き、英語の勉強になるだけでなく、一般教養としての法律の知識も身につけます。

Title: Legal Matters

Publisher: CENGAGE Learning

ISBN: 978-4-86312-150-8

#### 【参考書】

The U.S.Code Legal Information Institute Cornell University Law School <http://www.law.cornell.edu/uscode/text>

Federal and State Laws and Regulations <http://www.usa.gov/Topics/Reference-Shelf/Laws.shtml>

Ono, Shusei. (1996), pp 27-45. Comparative Law and the Civil Code of Japan. The Hitotsubashi Journal of Law and Politics, The Hitotsubashi Academy.

English Translation of the Japanese Civil Code <http://www.moj.go.jp/content/000056024.pdf>

Japanese Law Research Guide New York University <http://www.nyulawglobal.org/globalex/japan1.htm>

#### 【成績評価の方法と基準】

\*Vocabulary Quizzes (10%)

\*Class participation (10%)

\*Written assignments and opinions (10%)

\*Midterm Presentation or exam (20%)

\*Final exam (50%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、グーグルスライドショーの作成、など。

#### 【Outline (in English)】

Students aim to develop skills necessary to discuss opinions and express different views on selected court cases, legal matters and current issues in society.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (4) (秋期スクーリング)</b>
<b>中垣 恒太郎</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「映画を用いた語学教材による総合的英語能力の育成」として、アメリカ映画『タイタニック』（1997）を題材にした教科書を軸に、大学で勉強していく上で必要とされるアカデミック・スキルとしての英語運用能力と、論理的なものの考え方（critical thinking）とを身につけることを目的とする。

映画『タイタニック』は、1912年に実際に起きた英国客船タイタニック号沈没事故に基づく、階級の差を超えたラブロマンス大作として大ヒットを記録した。アメリカ映画を通して、実際に話されている英語のスピードや、どういう場面で、どういう立場の人物がその表現を用いるかを直に学ぶことができる。毎回、DVDや教材用に作成されたCDにより、リスニングやディクテーション（書き取り）の活動を行う。この教材の特色として、「沈没まで演奏し続けた楽団」、「日本人の生存者」など歴史に由来した読み物が充実している点を挙げることができる。

本授業では与えられた情報を的確に摂取し、歴史や文化、社会現象、比較文化などの文脈で把握し、それに対して受講生の皆さん一人一人がどのように考えるのかを重視する。

#### 【到達目標】

・映画を用いた語学教材により、大学で勉強していく上で必要とされるアカデミック・スキルとしての英語運用能力と、論理的なものの考え方（critical thinking）とを身につける。  
 ・映画を題材とした英語の自習方法について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

総合英語教材として、「背景知識と語彙」「リスニング」「リーディング」「意見を表現する」という、4項目により構成されている。教場での演習に重きを置く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の運営方針
第2回	「映画『タイタニック』の背景」	概説講義
第3回	教科書演習 第1章／「The Woman in the Picture」	教科書による演習
第4回	教科書演習 第2章／「Back to Titanic」	教科書による演習
第5回	教科書演習 第3章／「Leaving Port」	教科書による演習
第6回	教科書演習 第4-5章／「The Heart of the Ocean」	教科書による演習

第7回	教科書演習 第6章／「Do You Love Him?」	教科書による演習
第8回	教科書演習 第7章／「I Can't See You」	教科書による演習
第9回	教科書演習 第8-9章／「I'm Flying!」	教科書による演習
第10回	教科書演習 第10章／「Iceberg Right Ahead!」	教科書による演習
第11回	教科書演習 第11章／「An Honest Thief」	教科書による演習
第12回	教科書演習 第12章／「Goodbye, Mother」	教科書による演習
第13回	教科書演習 第13章／「Starting to Fall Apart Two Tragic Bullets」	教科書による演習
第14回	教科書演習 第14章／「Death of Titanic」	教科書による演習+まとめ「英語の自主学習法について」

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習を前提としないが、事前に下読みをしておくことと学習効果は高まるであろう。予習よりも復習に力を注いでいただきたい。ただし時々、宿題が課されることがある。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

角山照彦ほか『映画『タイタニック』で学ぶ総合英語』（成美堂、2017年）。

#### 【参考書】

高山英士『All in One（第4版）』（Linkage Club, 2007）。

#### 【成績評価の方法と基準】

教室での演習（40%）、課題（20%）、学期末テスト（40%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため「前年度担当なし」

#### 【Outline (in English)】

This course is designed to develop students' critical reading and thinking skills. The texts cover a variety of topics related to comparative culture fields based on American movies.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (5) (秋期スクーリング)</b>
McEvilly M. Patrick
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will focus on helping students to become more independent learners. You will read and discuss interesting topics and issues some of which lend themselves to making opinions. Some of the topics cover cultural aspects and social issues in North America while others are universal. There will also be the opportunity for students to lead discussions and decide on topics they are free to choose.

#### 【到達目標】

The goal of the course is to develop students' ability to use English to express their opinions more easily, find and analyze information from various forms of media and acquire useful vocabulary without being slaves to their dictionaries. Course activities will include pair work, group work, classroom discussions, and writing short papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Target skills and functions are taught and presented as lesson objectives. Given a selected topic, students practice the corresponding interactions in pairs, and then conduct discussions in small groups. Observing closely, the instructor assists individual pairs and groups and provides feedback to the entire class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
Week 1	Course Introduction	Teacher student self introductions, Textbook
Week 2	Unit 1 - First Impressions	You should always be yourself. I disagree with her.
Week 3	Unit 2 - Big or small?	Two students discuss living in a big city and a small town. I love living in a big city!
Week 4	Unit 3 - The Good Language Learner	The benefits and drawbacks of learning a new language You have an interesting point.
Week 5	unit 4 - Getting Ahead	Education, family relationships, culture Wei's mom needs to relax!
Week 6	Unit 5 - Forever Single	Relationships, culture, lifestyle Advantages of getting married or staying single
Week 7	Students can choose discussion topic	Students can discuss a topic related to Japan or current events
Week 8	Unit 6 - What are friends for?	Tomas and Kalen have been friends for a long time, but something has changed.

Week 9	Unit 7 - What's for lunch?	Deciding which foods are healthy. Vegetarian What I eat.
Week 10	Unit 8 - Your online past	Water under the bridge offended, disciplined, kick someone out
Week 11	Unit 9 - Taking care of father	A couple discusses what to do about an elderly parent.
Week 12	Unit 10 - My student life	Two students talk about their experiences at university and their plans for the future.
Week 13	Unit 11 - International relationships	Akane plans to move to Finland to be with her boyfriend.
Week 14	Final Examination	Review of course materials.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend 90 minutes each to preview and review course content and I recommend that they read English newspaper articles and watch BBC or CNN news programs

#### 【テキスト（教科書）】

Impact Issues - Book 2 Third Edition  
Author: Richard R. Day, Joseph Schauls, and Junko Yamanaka  
Publisher: Pearson Longman

#### 【参考書】

An English Japanese Dictionary

#### 【成績評価の方法と基準】

It is necessary to participate in discussions. Students will be evaluated on their level of preparedness for class -30%, the discussions they prepare -30%, and the final examination. -40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

Not yet applicable.

#### 【学生が準備すべき機器他】

Audio and DVD components for the textbook are online. For review at home, students should use a personal computer.

#### 【その他の重要事項】

None.

#### 【Outline (in English)】

It is expected that the students will do the necessary research on their discussion topic to state their opinion well. For researching their discussion topics, students are free to use the Internet, newspapers, magazines, academic journals, and books. It is hoped that these activities will enhance the students academic research skills.

LANd100TA (ドイツ語 / German language education 100)
<b>独語S (秋期スクーリング)</b>
<b>宮城 学</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋期では春期で学んだ語形変化をさらに応用していきます。語形の変化がある体系のもとで行われていることに自らが気づき、それを応用できるようにすることが目標です。

#### 【到達目標】

分離動詞や助動詞を学んで表現の幅を広げられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

オンライン授業により、授業資料を配布しながら授業を行います。資料はワードやPDF形式で授業当日に届きますので、1週間を目安に学習を進めていただきます。課題がある場合は指示した形式で提出してください。詳細は初回の授業（資料）でお知らせします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと復習	受講にあたっての注意。春期の復習。
第2回	不定冠詞類	mein, keinなどの格変化。
第3回	分離動詞・非分離動詞	分離動詞の形態と使い方。
第4回	人称代名詞	人称代名詞の格変化。人称代名詞が前置詞と結びつく形。
第5回	命令形	「～せよ、してください」などの表現。
第6回	話法の助動詞	非分離動詞の形態。
第7回	未来形	英語のcanやmustにあたる助動詞の変化。
第8回	前半の復習	前半の事項を総復習します。
第9回	再帰表現	自分に行為が返ってくる言い方とは。
第10回	間接疑問文	通常の疑問文とどのように違うのか。
第11回	形容詞の格変化1	形容詞の弱変化。
第12回	形容詞の格変化2	形容詞の強変化。
第13回	zu不定詞	英語と比較しながら構造を学びます。
第14回	確認テスト	秋学期の習得度を確認。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようになしてください。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

ドイツ語文法の基礎  
 著者：成田 節 櫻井 麻美  
 出版社：同学社  
 価格：2400円＋税

#### 【参考書】

授業中に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

提出課題の提出回数と内容で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けているため、総合的に満足のいく評価をいただいておりますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思っております。

#### 【Outline (in English)】

The student will further study the word forms. The goal is to become aware of a system, under which the words change, and to be able to apply it to other words.

LANf100TA (フランス語 / French language education 100)
<b>仏語S (秋期スクーリング)</b>
<b>佐野 栄一</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：1単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の続きです。フランス語の最初歩の表現と文法を総合的に学習します。半期のフランス語の授業を終えていることが受講条件です。まったく初めてフランス語を学習する人は受講できません。

#### 【到達目標】

- ①フランスに旅行に行き、必要最小限の利便性が得られる程度の初歩的フランス語を習得すること。名前、国籍、職業、また家族などについて言えること。
- ②平明な語彙の少ないフランス語文を辞書を使って読解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

春学期と同様（春学期参照）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	時・場所・方法・様態 疑問副詞	いつ、どこで、どうやって、どのような、の表現
第2回	疑問代名詞	誰が、誰を、何が、何を、などの表現
第3回	部分冠詞	数えられない名詞につく冠詞について
第4回	中性代名詞EN	不定冠詞・部分冠詞のつく名詞を受ける代名詞について
第5回	中性代名詞Y	そこに、と場所を受ける代名詞について
第6回	直接目的語代名詞	わたしを、あなたを、それを、など、直接目的語を受ける代名詞について
第7回	間接目的語代名詞	わたしに、あなたに、彼に、など間接目的語を受ける代名詞について
第8回	代名動詞	代名動詞の活用と用法について
第9回	命令文	命令したり禁止したりする表現について
第10回	過去分詞	過去分詞の作り方と用法について
第11回	複合過去①	完了した過去についての表現 ① AVOIRを助動詞とするもの
第12回	複合過去②	完了した過去についての表現 ② ETREを助動詞とするもの
第13回	複合過去③ 過去分詞と直接目的語の一致	代名動詞の複合過去について どういうとき、過去分詞と直接目的語は一致するかについて
第14回	複合過去と目的語人称代名詞	複合過去における目的語人称代名詞の位置と過去分詞の一致について

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期と同様（春学期参照）

#### 【テキスト（教科書）】

春学期と同様（春学期参照）

#### 【参考書】

春学期と同様（春学期参照）

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期と同様（春学期参照）

#### 【学生の意見等からの気づき】

春学期と同様（春学期参照）

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

春学期と同様（春学期参照）

#### 【Outline (in English)】

This class is for the students who finished the first French language class.

As the aim of the lessons, we would like arrive at presentation of oneself : name, nationality, profession, family, etc.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>債権各論 (秋期スクーリング)</b>
<b>足利 沙緒理</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「民法第三編債権第三章事務管理、第四章不当利得、第五章不法行為」の規定に関わる諸問題について学ぶ。  
 関連する判例等についてもあわせて学習をすることで、各規定が実際にどのような場面において、どのようなかたちで適用されているかを理解する。

#### 【到達目標】

- ①一般不法行為の要件・効果等を理解する。
- ②特殊不法行為の要件・効果等を理解する。
- ③事務管理の要件・効果等を理解する。
- ④不当利得の要件・効果等を理解する。
- ⑤①～④をもとに、具体的な検討ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

資料配信型の方式で授業を進める。

毎週授業日当日に授業資料をLMSに掲載。

主にテキスト・六法、配布資料を使って学習する。

配布資料としては、テキストの理解の助けとなるような内容のものや、テキストおよび条文などを参照しながら資料に書き込みをすることで学習内容を整理することができるような内容のものを予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	事務管理	事務管理の要件・効果などについての解説 (697条～702条)
第2回	一般的不当利得	一般的不当利得の要件・効果などについての解説 (703条、704条)
第3回	特殊不当利得	705条～708条に規定されている、特殊不当利得についての解説 (705条～708条)
第4回	不法行為法とは？	不法行為法の構造などについての解説
第5回	不法行為の要件①	故意・過失に関する問題についての解説 (709条)
第6回	不法行為の要件②	権利侵害・法律上保護される利益侵害に関する問題についての解説 (709条、710条)
第7回	不法行為の要件③	因果関係などに関する問題についての解説 (709条、720条)
第8回	不法行為の効果①	損害賠償請求権者についての解説 (711条～713条、721条)
第9回	不法行為の効果②	損害賠償の範囲についての解説 (722条1項、723条)
第10回	不法行為の効果③	損害賠償額の算定についての解説
第11回	不法行為の効果④	過失相殺・損益相殺などについての解説 (722条2項、724条・724条の2)

第12回	責任無能力者の監督者責任 使用者責任	未成年者等の監督者の責任、使用者責任の意義・要件・効果などについての解説 (714条、715条)
第13回	土地工作物責任 動物の占有者の責任	土地工作物責任、動物の占有者の責任の意義・要件・効果などについての解説 (717条、718条)
第14回	共同不法行為	共同不法行為の意義・効果などについての解説 (719条)

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

予習：次回の授業で扱う条文に目を通す。

復習：配付資料も参照するなどしながら、改めてテキストの該当部分を読み、理解を確認する。

レポート作成 (授業内レポート2回、期末レポート)。

#### 【テキスト (教科書)】

滝沢昌彦・武川幸嗣・花本広志・執行秀幸・岡林伸幸『債権各論』(新ハイブリッド民法4) (法律文化社、2018年)

#### 【参考書】

窪田充見・森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ (第8版)』(有斐閣、2018年)  
 そのほか、授業内でも適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内レポート40%、期末レポート60%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

身近な例も積極的に取り上げるなどして、より具体的な解説を心がける。

#### 【Outline (in English)】

An outline of this class is to learn the rules and problems about the legal relations, when someone is done for others interests on no duty, interests are yielded on no legal grounds and the rights are infringed.

And by learning about the cases that have relations to the problems stated previously, to acquire the cases that apply to the articles, practically.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>商法総則・商行為法 (秋期スクーリング)</b>
<b>石井 宏司</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

商法第二編商行為法についての講義を行う。商行為法は商人の行為、特に商人の取引に関する法規制に関するものである。商行為法は個人商人と会社の双方に適用されるものであり民法の特別法である。民法と商法を比較しつつ、商人がかかわる契約の成立等や商人間の売買に関する規制を学ぶ。この他に商行為法において規制される交互計算や匿名組合、仲介営業や運送営業など各種の営業などに商行為法独自の法制度を学ぶ。

本講義においては法学概論および民法等を未修であっても受講者が理解できるよう法学や民法の基礎から丁寧な解説を行うことを予定している。また本講義では条文の文言に即して詳しくわかりやすく講義していく予定である。条文の文言解釈にあたり重要な法の沿革、学説、判例等を理解する

学生は商行為法の各制度、条文の重要な文言の解釈、主要な判例学説を理解できるようになることが本講義の目標となる。本講義を通して、商行為法の法規制を理解し実社会において活用することができるレベルまで到達することが望ましい。

#### 【到達目標】

商行為法の条文の文言の理解に関して、文言の理解に必須な解釈と沿革、学説等について十分に理解できるようにする。

また、一般用語と異なる商法における専門用語の理解ができるようにする。

さらに民法との関係において商法の特殊性を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

配布資料と補足的にリアルタイム配信型 (Zoom) による授業形式で行う。

リアルタイム配信型授業は毎週金曜日6時限目開始時刻の18:35頃から行う予定である。

リアルタイム配信授業は希望者のみで行い、リアルタイム配信授業における出欠や発言等は評価には含まない。なおZoomのリアルタイム配信のIDやパスワード等は配布資料に記載する予定である。

リアルタイム配信の際には

1. Zoomを利用できる環境の準備
2. メモを取る準備 (PCやスマホでも可)
3. 六法を読めるような環境の準備

が必要である。

なお、手元で配布資料を読める状態であることが望ましい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・商行為法総則①	授業の進め方を説明する 商行為法とは何かと言う問題とその沿革について学ぶ
第2回	商行為法総則②	商行為法総則のうち、契約の成立に関する規定と債務の履行・債権担保に関する規定を学ぶ
第3回	商行為法総則③	商行為法総則のうち、有価証券に関する規定を学ぶ その際、有価証券概念について説明を行う。

第4回	商行為法総則④	代理及び委任に関する規定と商行為の営利性が重視された規定を学ぶ
第5回	売買①	商事売買と消費者売買の区分の意義について学ぶ 商事売買の法規制を学ぶ
第6回	売買②	商事売買の法規制を学ぶ 消費者売買に関する法規制を学ぶ
第7回	交互計算	交互計算の意義および効果について学ぶ
第8回	匿名組合	匿名組合の意義およびその法規制を学ぶ 民法の組合との違いについて学ぶ
第9回	仲立営業	仲立営業の意義およびその法規制を学ぶ
第10回	問屋営業	問屋営業の意義およびその法規制を学ぶ
第11回	運送営業①	物品運送の意義およびその法規制を学ぶ
第12回	運送営業②	旅客運送の意義およびその法規制を学ぶ
第13回	運送営業③ 運送取扱営業	旅客運送・運送取扱営業の意義およびその法規制を学ぶ
第14回	寄託	寄託営業の意義およびその法規制を学ぶ

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講する学生は予習と復習を行うこと。

本授業の予習に関しては1時間程度、復習時間は3時間程度を標準とします。復習を多くするようにしてください。

学生は予習については授業の終了時に次回のテーマをを指導するのでその範囲を読んでおくこと。

学生は復習については配布プリントと教科書をしっかり見直すことが望ましい。また授業内で指摘した文言や学説等についての問題意識を考慮しながら復習することが望ましい。その際に必ず六法の条文を参照することが望ましい。

#### 【テキスト (教科書)】

近藤光男『商法総則・商行為法(第8版)』(有斐閣、2019)

#### 【参考書】

『商法判例百選 [No.243]』(有斐閣、2019)

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末の紙でのレポート提出により成績を評価する (配分：100%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

商行為は抽象的難解な文言が多く非常にわかりにくいので最新の判例を踏まえ、具体的な説明を加えて授業を行うようにしています  
また配布物や板書についても事例等を活用しわかりやすくするようにしています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布型においては資料を受取ることができるメールアドレスおよび資料を読むことができるPCやスマホ等

リアルタイム配信授業に参加する場合は、さらに

1. カメラ+マイク (スマホは付属のもの。PCは付属又は別途カメラを用意)
2. リアルタイム配信授業中に通信が安定してつながる環境
3. Zoomのアプリとアカウントが必要となる。

#### 【その他の重要事項】

特になし

#### 【Outline (in English)】

This course is intended to provide understanding of The Commercial Acts. In addition to providing a general introduction to the Japanese legal system, this course will concentrate on specific legal topics such as commercial transactions, open account, and silent partnership agreement. Through this course, students will learn the history, the case law and the doctrine of The Commercial Acts.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>会社法 (秋期スクーリング)</b>
<b>笹久保 徹</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

**【到達目標】**

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。  
 ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は資料配付型である。毎週授業日の当日に通信教育部ポータルサイト「Web 学習サービス」に授業資料（PDF）をアップする。受講生は、毎週配布されるレジュメ（PDF）及び資料（PDF）、ならびに、指定教科書を使用して、学習を進めることになる。

本授業は出席をとらない。

授業内容に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは、授業の初回配布資料に記載する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	会社法 総論	会社法を学ぶための前提知識・用語等の解説、春期スクーリングの復習
第2回	株式会社の設立1	株式会社の設立の概要に関する解説
第3回	株式会社の設立2	設立手続き及び定款に関する解説
第4回	株式会社の設立3	設立の瑕疵に関する解説
第5回	株式1	株主の権利・株主平等原則に関する解説
第6回	株式2	株式の内容・種類に関する解説
第7回	株式3	株主名簿・株券に関する解説
第8回	株式4	株式譲渡及び自己の株式の取得に関する解説
第9回	株式5	株式の併合、株式の分割、株式の単位等に関する解説
第10回	募集株式1	募集株式の概要及び発行手続に関する解説
第11回	募集株式2	募集株式の発行等の瑕疵等に関する解説
第12回	新株予約権1	新株予約権に関する解説
第13回	新株予約権2	新株予約権の発行等の瑕疵等に関する解説
第14回	組織再編	合併等の組織再編に関する解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業1回につき、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読むこと。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

**【テキスト（教科書）】**

柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

**【参考書】**

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）  
 ・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

**【成績評価の方法と基準】**

本授業の成績評価は、課題（レポート）によって行う（レポート100%）。課題（レポート）は、配布する授業資料の中に記載する。

**【学生の意見等からの気づき】**

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

**【その他の重要事項】**

受講生は最新の六法を使用すること。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>教育法 (秋期スクーリング)</b>
<b>村元 宏行</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、教育法の基礎と現代的課題について、国家と教育との関わりと、学校における子どもの人権という二つの側面から進めていきます。

#### 【到達目標】

教育法制の全体像を把握する。  
 教育をめぐる主な裁判について理解する。  
 教育法制の改正動向について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教育法は最近立法や法改正が相次いでおり、また今後もその動きがあります。それを理解するためにも、まずは教育法の基礎をしっかり理解することが必要です。

そのために、講義形式を中心に授業を行います。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	教育法の基本原理①	教育法の歴史について
第2回	教育法の基本原理②	教育法の法源について
第3回	憲法・教育基本法制①	旧教育基本法の制定と理念について。その後の教育政策の展開について。
第4回	憲法・教育基本法制②	教育基本法の改正について
第5回	教育三法の改正	教育基本法改正に伴う学校教育法、地教法、教育職員免許法の改正について
第6回	最近の教育法制の改正動向	教育委員会制度の改革動向等について
第7回	国家の教育内容統制とその限界①	学習指導要領の法的拘束力について
第8回	国家の教育内容統制とその限界②	教科書検定、全国学力テストについて
第9回	学校における子どもの人権：校則	校則について(裁判例を中心に)
第10回	学校における子どもの人権：懲戒・体罰	懲戒・体罰について(現行法制と裁判例)
第11回	学校における子どもの人権：いじめ	いじめについて(裁判例を中心に)
第12回	学校における子どもの人権：その他の学校災害	上記以外の学校災害について
第13回	学校災害の救済法制	学校災害の救済法制の現状と問題点について
第14回	まとめと試験	まとめと試験

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教育をめぐる時事問題について、授業前から積極的に学習しておく、授業の理解に役立ちます。それ以上の本格的な予習は難しいので、授業後の復習を丁寧に行ってください。

これらの予習・復習については、あわせて4時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

『ハンディ教育六法2020年版』(北樹出版)を持参してください。

#### 【参考書】

予習・復習用に姉崎洋一ほか編『ガイドブック教育法 新訂版』(三省堂、2015年)を挙げておきます。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験(50%)：試験は論述中心で、講義で取り上げた重要論点について正しい理解がなされ、それについて自らの見解を述べることができるかを評価します。

リアクションペーパー(50%)：毎回あるいは複数回、リアクションペーパーを提出してもらい、提出状況や記述内容を評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい板書を心がけます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

ZOOMが視聴できる環境

PDFを見ることができる環境(プリントアウトできることが望ましい)

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the education law and its historical background.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>行政法 (秋期スクーリング)</b>
氏家 裕順
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国・都道府県などの行政は、われわれ個人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、実質的な立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政法という科目において学習することは多岐にわたる（西田幸介『行政法』〔法政大学通信教育部、2016年〕、あるいは、通信学習「行政法」シラバスを参照のこと）が、秋期スクーリングでは、行政法の基本的事項といえるものを学習する。具体的には、行政法の法源、法律による行政の原理、行政の各種の行為、行政行為、行政上の強制執行、行政契約について学ぶ。

法源に関しては様々な議論が存在するが、行政法の法源は、行政活動をめぐる紛争が生じた際にこれを裁判所が裁断する際の基準となるものである。そのうち、成文法には、上位法と下位法があり（例えば、法律と命令が上位法と下位法の関係にある）、それらの関係（階層構造）の理解が、法律の法規創造力の原則、委任命令の限界などの学習にとって必要不可欠であるといえる。

法律による行政の原理は、行政の行為の適法性を問うための基本的な法原理である。このなかには、法律の法規創造力の原則、法律の優位の原則および法律の留保の原則が含まれ、これらを適切に理解できることが期待される。

行政の各種の行為について、従来、行政法学は、行政の無数の行為を、行政立法、行政行為、行政契約、行政指導などの各種の行為（行政の行為形式、行為形式ともいう）に分類したうえで、それらの行為の法的規制について考察してきた。その分類基準である、法行為および事実行為、権力的行為および非権力的行為の各概念も、行政法学にとって基本的なものである。

行政の各種の行為のうち、行政行為と行政契約は、私人の権利・義務を具体的に変動する行為であるという点で共通するものである。両者の定義上の違いは、行政行為が相手方の同意を権利義務変動の要件としないのに対して、行政契約が相手方の同意をその要件とする点に存在する。これらの点に着目して各行為形式の意義（加えて行政行為については法効果による分類）を学ぶとともに、それらの法的規制について学習する。

行政上の強制執行とは、私人が行政上の義務を任意に履行しないときに、行政自らが将来に向かって直接的にあるいは間接的に義務を履行させまたは義務の履行があったのと同じ状態を作り出すことをいう。このための手段として、代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収がある。これらのうち、一般法のある代執行と、個別法で範とされることのある国税滞納処分を中心に学習する（以上について、参照、前掲・西田11頁、109頁、337頁、348頁など）。

### 【到達目標】

行政法の法源について説明することができる。

法律による行政の原理について説明することができる。

行政の各種の行為（行政の行為形式）について説明することができる。

行政行為の意義、分類および法的規制について説明することができる。

行政上の強制執行について、代執行および行政上の強制徴収を中心に、説明することができる。

行政契約の意義と法的規制について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

【授業のオンラインによる実施への変更に伴い、シラバスの公開（7月下旬頃）の後、「授業の進め方と方法」、「成績評価の方法と基準」および「学生が準備すべき機器他」を修正した】

レジュメと資料のほか、実際の講義において解説する事柄を記載した講義ノート（いずれもPDF形式のもの）を、配布する。受講者にはレジュメの内容を理解しながら到達目標に到達するために、必要に応じて講義ノートを併読し、あるいは、後掲の参考書を精読することが期待される。また、各回、小テスト・アンケート（理解度確認）に取り組むことも求められる。レジュメ等の配布及び小テストの実施の期間は原則、各回配布・実施日から1週間（次回授業の開始前まで）とする。

授業は、LMS（ラーニングマネジメントシステム）を用いて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	行政法の法源	成文法と不文法 各種の法の階層構造
第2回	法律による行政の原理（1）	法律の法規創造力の原則 法律の優位の原則
第3回	法律による行政の原理（2）	法律の留保の原則
第4回	行政の各種の行為（1）	法行為と事実行為 権力的行為と非権力的行為
第5回	行政の各種の行為（2）	抽象的行為と具体的行為 行政の各種の行為の意義
第6回	行政行為（1）	意義 法効果による分類
第7回	行政行為（2）	実体的規制（違法事由）
第8回	行政行為（3）	手続的規制（行政手続法の規定する申請に対する処分の手続）
第9回	行政行為（4）	手続的規制（行政手続法の規定する不利益処分の手続）
第10回	行政上の強制執行（1）	行政上の強制執行の諸手段 代執行
第11回	行政上の強制執行（2）	行政上の強制徴収
第12回	行政契約（1）	意義 実体的規制
第13回	行政契約（2）	手続的規制 行政契約の履行強制手段
第14回	まとめに代えて	試験と解説

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スクーリングの開講日までに、後掲の参考書のいずれかを通読することによって、行政法を大まかに理解するように努め、また、疑問点を明確にしておく（準備学習）。授業後、毎回、参考書に当たりながら、自筆のまとめノートを作成することによって、授業内容を把握する（復習）。

準備学習および復習が適切かつ充分に行われるべきであり、少なくとも、準備学習には計30時間、復習には各2時間を要すると考えられる。

### 【テキスト（教科書）】

配布するレジュメと資料

### 【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2017年）  
 大橋洋一『行政法Ⅰ〔第3版〕』（有斐閣、2016年）  
 塩野宏『行政法Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2016年）  
 芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）  
 芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）  
 曾和俊文＝山田洋＝亙理格『現代行政法入門〔第4版〕』（法律文化社、2019年）  
 西田幸介『行政法』（法政大学通信教育部、2016年）  
 原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』（学陽書房、2012年）  
 藤田宙靖『行政法総論』（青林書院、2013年）  
 室井力編『現代行政法入門（1）〔補訂版〕』（法律文化社、2005年）

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト・アンケート20%、レポート80%による。レポート課題は、授業計画第14回に記載している「試験」として出題する。

**【学生の意見等からの気づき】**

準備学習と復習が授業内容を理解するために必要である。

**【学生が準備すべき機器他】**

(1) LMSが利用できるだけの通信環境の整備、(2) 各回の配布物を参照するためのPDF閲覧ソフト（推奨：Acrobat Reader〔無料〕）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いるMicrosoft Word（あるいはWord互換ソフト）、(4) 上記を利用するために必要となるPC、あるいは、スマートフォン等。

**【その他の重要事項】**

後に行政救済法も履修することが望ましい。

**【Outline (in English)】**

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law; specifically, (1) to study sources of law, the rule of 'the executive function bounded by legislation', and classes of acts performed by executive agencies (hereinafter these acts are simply referred to as 'acts'), (2) to know the way how acts have effect on individual rights and obligations, and (3) to understand acts which may be done for the purpose of ensuring that an individual administrative obligation should be satisfied. As concern the above (3), there are some mechanisms, but you are expected to chiefly learn (a) a measure, a procedure, and requirements, all of which are laid down by the Act on Substitute Execution by Administration 1948 (c.48) and (b) a procedure and requirements, both of which are provided by the National Tax Collection Act 1959 (c.147). These all studies would concern about your understanding of administrative relief.

As concern the above (1), the rule of 'the executive function bounded by legislation' is comparable though not identical idea of 'the rule of law'. Concerning the above (2), there are final and unilateral acts which affect individual rights and obligations without their consents. On the other hand, there are also bilateral acts which establish individual rights and obligations only with his or her consents (these acts are similar to conclusion of government contract both in the parties which is relevant and in the fact that these acts are subject to special legal controls). About (3) mentioned above, 'an individual administrative obligation' is laid down by administrative law or imposed by acts. That measure, laid down by the Act 1948, may be employed by executive agencies in order to fulfil the above-mentioned obligation on behalf of the individual or so as to make third parties meet the obligation. That procedure, created by the Act 1959, may be applied by executive agencies in order to collect national tax arrears. This collecting procedure is occasionally laid down in the other Acts.

After completing this course, you should be able to:

- Explain sources of administrative law in Japan;
- Explain the rule of 'the executive function bounded by legislation';
- Explain how acts are classified into several sorts (classification based on their nature);
- Explain what decisive and unilateral acts are, how these acts affect individual rights and obligations, and what legal controls of these acts are;
- Explain mechanisms which is provided in order to ensure that an individual administrative obligation should be fulfilled, but among them, mainly spell out requirements and so on which are laid down by the Act on Substitute Execution by Administration 1948 (c.48) and by the National Tax Collection Act 1959 (c.147); and
- Explain the meaning and legal controls of bilateral acts.

ART200TC (芸術学 / Art studies 200)
<b>日本美術史 (秋期スクーリング)</b>
<b>萩原 哉</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の文化は、中国や朝鮮半島などからもたらされた外来文化の影響を絶えず受容しながら、時代ごとにさまざまな美術作品を生み出してきた。本科目は、飛鳥時代から江戸時代までを対象に、各時代の代表的な作品について学び、日本美術史の概略とその特質を理解することを目的とする。

### 【到達目標】

- ① 飛鳥時代から江戸時代までの日本美術の大きな流れを理解する。
- ② 各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品の様式的・技法的な特色を理解する。
- ③ 日本美術史の変遷を促した歴史的・社会的な要因について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3, DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

飛鳥時代から江戸時代までの絵画・彫刻を対象とし、日本美術の流れを概観する。授業は講義中心におこない、各時代の代表的な作品をとりあげ、画像・映像等による作品鑑賞をまじえながら、それぞれの作品の制作事情、様式的・技法的な特色、造形の基盤となった思想や文化などについて解説する。

なお、今期のスクーリングは、Zoomによるリアルタイム配信授業として、毎週金曜日の6限（18:35～20:15）の時間帯に実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容の説明
第2回	飛鳥時代の美術	仏教美術の幕開け
第3回	白鳳時代の美術	初唐様式の伝来
第4回	奈良時代の美術①	天平彫刻の展開
第5回	奈良時代の美術②	正倉院宝物と奈良時代の絵画
第6回	奈良時代後期～平安時代前期の美術	一木彫像の出現と密教美術の伝来
第7回	平安時代後期の美術①	和様彫刻の成立と展開
第8回	平安時代後期の美術②	平安仏画とやまと絵
第9回	鎌倉時代の美術①	南都復興と運慶・快慶
第10回	鎌倉時代の美術②	鎌倉絵画と肖像画
第11回	南北朝・室町時代の美術	水墨画の受容と展開
第12回	桃山・江戸時代初期の美術	狩野派と障壁画
第13回	江戸時代中期・後期の美術	江戸絵画の諸相
第14回	まとめ	授業内容の復習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、参考書の授業内容に関連する部分を読んでおくこと。

授業後は、配布資料をよく読み、きちんと復習をすること。主要な作品については、美術全集等の大型図版を仔細に観察するとともに、図版解説や事典類を熟読し、基本データ（名称、作者、制作年代、材質、技法、寸法、所蔵者・所在地）、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色などについての理解を深めること。

授業前・授業後の学習時間は、各2時間を標準とする。

また、美術作品を所蔵する社寺や博物館・美術館等に積極的に足を運び、実際に作品を鑑賞する機会を得るよう心がけること。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回、授業の資料（レジュメ、図版）を配布する。

### 【参考書】

山下祐二・高岸輝（監修）『日本美術史』美術出版社、2014年  
辻惟雄（監修）『カラー版 日本美術史』〔増補新装版〕美術出版社、2003年

辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2006年

水野敬三郎（監修）『カラー版 日本仏像史』美術出版社、2001年

朴亨國（監修）『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局、2016年

『日本美術全集』全25巻、講談社、1990-1994年

『日本美術全集』全20巻、小学館、2012-2016年

石田尚豊・田邊三郎助・辻惟雄・中野政樹（監修）『日本美術史事典』

平凡社、1987年

久野健・中村元（監修）『仏教美術事典』東京書籍、2002年

### 【成績評価の方法と基準】

○期末レポート（60%）

授業内容に関連する期末レポートを課す。

詳細は授業のなかで説明する。

○平常点（40%）

毎授業時出席の確認をおこなう。

出席の確認の際に、授業内容についての質問、感想等のコメントの提出を求める場合がある。

### 【学生の意見等からの気づき】

飛鳥時代から江戸時代までの絵画・彫刻・工芸を対象として、各時代の代表的な作品を紹介し、それぞれの作品の特色や魅力などを丁寧に解説することで、日本美術史のおもしろさ、奥深さを理解してもらえよう、講義を進めていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業は、Zoomによるリアルタイム配信授業として実施する。

受講の際は、パソコン、タブレット、スマートフォン等の情報機器（カメラ、マイクは不要）とインターネット、wifi等の通信環境が必要になる。

### 【その他の重要事項】

授業内容の録画、録音と配布資料の転用、転載を禁止する。

### 【Outline (in English)】

In this subject, we will learn about Japanese art history from the Asuka period to the Edo era.

Through learning, we will learn the representative work of each era, deepen the understanding of the style and technique features of each work and the historical and cultural factors that produced those works.

LIN100TC (言語学 / Linguistics 100)
<b>日本語学概論 (秋期スクーリング)</b>
<b>古牧 久典</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、ことばについての考え方を学ぶ。特に、言語の持つ安定性・規則性という側面を中心に概観する。

#### 【到達目標】

- ・言語学の基礎知識を習得する。
- ・ことばについて多角的な視点で考えることができる。
- ・ことばの性質に迫るための考察技法を運用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

授業は配布資料によるスライドを使用しての講義形式で行い、リアクションペーパーで内容についてのコメント・意見を求めるという形式で進む。コメント・意見を集約し、一部を次回の授業内で紹介することにより、理解を深め、検討や議論を行う。毎回テーマごとに講義内で扱われた用語について、定義やその具体例を考える。

#### 【追記：オンライン授業の方法】

本科目は、対面授業と同等内容を担保するために、同時双方向授業、オンデマンド動画講義、提出課題を、ZoomとGoogle Classroom (および、Google 連携サービス) を使って行う。詳細は、学習支援システム (Hoppii の「おしらせ」欄) にて提示する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要と目的、授業の方法について
第2回	「ことば」を考えると は？	ことばの学問
第3回	ことばの様々な側面	言語学の射程
第4回	現代の (従来) の言語学 とは？	比較言語学
第5回	ことばの共通性をどう 考えるか？	言語普遍論
第6回	ことばの相違性をどう 考えるか？	言語類型論
第7回	コミュニケーションと は？	語用論・コミュニケーション論
第8回	ことばの意味とは？	意味論・語彙論
第9回	文法とは？	文法論
第10回	文の構造とは？	統語論
第11回	単語とは？	形態論
第12回	言語音には何種類ある のか？	音声学
第13回	同じ発音とは？ 違う発 音とは？	音韻論
第14回	まとめ	全体総括

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で登場する用語・概念について、正確な定義と的確な具体例を提示できるかを確認するための課題に取り組む。毎回、同時双方向授業用とオンデマンド動画用の2種類の課題が課される。(本来、課題について、図書館等を活用して調べる姿勢を身につけることは大切ではあるが) 今学期は図書館利用が難しい場合にも、本オンライン授業内容 (とその応用力) のみで課題に取り組むことは可能である。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。(本授業は、同科目Aを履修済みであることが望ましいが必須ではない。)

#### 【テキスト (教科書)】

配布資料

#### 【参考書】

黒田 龍之介 著 『はじめての言語学』 (講談社現代新書)  
 斎藤 純男 著 『言語学入門』 (三省堂)  
 斎藤 純男・田口 善久・西村 義樹 編 『明解言語学辞典』 (三省堂)  
 その他、講義内で適時紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

課題 (80%)、期末レポート (20%) (ただし、期末レポートが未提出の場合には、合格評価とはならない。)

#### 【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な例を使ってわかりやすい説明を心がけます。

#### 【その他の重要事項】

質問がある場合には、授業終了後に同時双方向授業内、あるいは、学習支援システム (Hoppii) 内の授業内掲示板で受け付ける。

#### 【Outline (in English)】

This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. This class provides an introduction to linguistic subfields analyzing sound pronunciation systems (phonetics and phonology), word and sentence structure (morphology and syntax, or grammar), and systems of meaning (semantics and pragmatics). At the end of the course, students are expected to understand linguistic data by using the methodology of modern linguistics.

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸史 I (秋期スクーリング)

阿部 真弓、小林 ふみ子

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】中世（院政期～戦国時代）～近世（桃山時代～江戸時代）の文学史時代の流れにゆかりに即して、中世・近世に展開した、芸能も含むさまざまなジャンルの特徴、その主要な作品について歴史的背景などもふくめて解説しつつ、主要な作品のさわりを読解してゆきます。

## 【到達目標】

- (A) 古典文学の各ジャンルの成立・特徴・表現などを知る。  
(B) 古典文学を、歴史の流れの中、文化の枠組の中で捉える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

[2020年9月1日一部変更]

オンデマンド型授業で講義を行います。

中世(阿部)と近世(小林)の担当で前半と後半を分担します。

なお、詳細については学習支援システムに掲載します。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	中世1	中世的世界の始まり
第2回	中世2	和歌・連歌
第3回	中世3	説話
第4回	中世4	随筆
第5回	中世5	日記文学・紀行文
第6回	中世6	軍記物語
第7回	中世7	中世王朝物語・お伽草子
第8回	近世1	近世の始まり 仮名草子
第9回	近世2	近世前期～中期・上方の小説
第10回	近世3	俳諧
第11回	近世4	漢詩・和歌・狂歌
第12回	近世5	人形浄瑠璃・歌舞伎
第13回	近世6	近世中期・江戸の小説
第14回	近世7	近世後期・江戸の小説 近世文学のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[2020年9月1日修正]

授業内容を覚えているうちに復習して課題に取り組み、次の授業およびレポート執筆に備えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

[2020年9月1日修正]

各回、学習支援システムを通じて資料を配付します。

## 【参考書】

作品・ジャンルごとに、授業内で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

[2020年9月1日変更]

レポート（70%）と小課題（30%）で総合的に評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

中世・近世は時間数に対して、ジャンルの展開や作品数が多様なので、煩雑になりすぎないように内容を厳選して構成し、理解を確認しながら進めるようにしたいと思います。

文芸コースや言語コースの人にも必修となっているのは、日本語の歴史、表現の多様な手法を知ることが不可欠だからです。前向きに履修しましょう。

## 【Outline (in English)】

Learnig the history of Japanese Litratrue from the medieval(late12-16th C.)to early modern(17-early19th C) times in various genres.

LIT200TC (文学 / Literature 200)
<b>文学概論 (秋期スクーリング)</b>
<b>岡野 幸江</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、文学概論Aをふまえ、文学作品がどのような方法で描かれ、どのようなメッセージを発しているか、文学作品を分析、鑑賞するにあたって欠かせない事項について学びます。併せて具体的な作品を通して文学の面白さを味わいながら、文学鑑賞力をさらに高めていきます。

#### 【到達目標】

文学作品が表現されるうえで重要な事項について検討し、理解することを目指します。具体的な作品を読解することによって文学の面白さを実感し、文学とは何かを理解すると同時に、文学鑑賞力を高めることが学習の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

学習支援システムを使い、課題配信型と双方向型の授業を組み合わせで行う予定です。詳しくは、学習支援システム上で、逐次連絡します。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	構想・構成・筋・フィクション1	構想・構成・筋・フィクションの関 係性について考えます。
第2回	構想・構成・筋・フィクション2	樋口一葉「にぎりえ」を通して、構 想、構成、筋、フィクションについ て考えます。
第3回	様々な表現・描写、技法・手法1	様々な表現・描写論について考えま す。
第4回	様々な表現・描写、技法・手法2	梅崎春雄「桜島」「日の果て」を通 し、表現・描写について考えます。
第5回	様々な表現・描写、技法・手法3	芥川龍之介「枯野抄」を通して、技 法・手法について考えます。
第6回	スタイル・文体・個性の創出1	スタイルと文体の関係、作家の個性 とは何かについて考えます。
第7回	スタイル・文体・個性の創出2	田村俊子「生血」などを通して、スタ イル・文体・個性の問題を考えます。
第8回	典型とは何か1	文学作品において典型とはどのよう なものかについて考えます。
第9回	典型とは何か2	夏目漱石『それから』を通して、典 型とは何かを考えます。
第10回	表現と思想の関係1	観念や思想が形象化された表現とは どのようなものか考えます。
第11回	表現と思想の関係2	カミュ『異邦人』を通して、思考・ 思想の生動化について考えます。
第12回	詩法・ドラマトルギーとは何か	詩法やドラマトルギーとは何か、 ドラマとレーゼドラマの違いなどに ついて考えます。
第13回	まとめ	取りあげた作品を振り返り、鑑賞力 の向上と作品研究へのいとぐちを考 えます。
第14回	まとめと試験	取りあげた作品を振り返り、自分の 考えをしっかりと表現できるようにし ます。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの各章と取りあげた作品については必ず読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

『文芸学講義』小田切秀雄、菁柿堂、2016年、2000円＋税

#### 【参考書】

『日本近代文学研究の方法』日本近代文学会編、ひつじ書房、2016年、2600円＋税

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート試験の内容、授業課題への取り組み姿勢、授業参加度を総合して判断します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

作品をたくさん読みたいという意見がきかれるので、できるだけたくさん作品に接することができるよう心掛けたいと思います

#### 【その他の重要事項】

取りあげる作品については全員が必ず事前に読んで、一人一人が問題意識を持って疑問点や感想などをまとめ、主体的に授業に臨んでほしいと思います。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces a basic problem concerning literary essence, idea, interest, use, genre and the relation between history and literature to student taking this course. At the end of this course, participants are expected to obtain basic knowledge about literary appreciation.

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講・沖縄文芸 (秋期スクーリング)

小山 和行

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

歌謡、神話、説話、伝承、方言などの文献的資料の考察を中心に、言語によって表現された世界の多様な魅力にアプローチする。

## 【到達目標】

沖縄の歴史と文化について学びながら、日本文化に対する〈南からのまなざし〉に注目していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

① 沖縄本島、奄美地方、先島 (宮古、八重山) の民謡を鑑賞しながら、言語表現としての〈ウタ〉の問題について探求する。

② 南西諸島各地の祭りについて、ビデオやテープを活用しながら理解を深め、その多様な魅力とともに〈島の生活と文化〉について考える。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	奄美—〈ウタ〉と伝承の世界①	〈島ウタ〉と八月踊り
第2回	奄美—〈ウタ〉と伝承の世界②	〈島ウタ〉と〈節祭り〉①
第3回	奄美—〈ウタ〉と伝承の世界③	〈島ウタ〉と〈節祭り〉②
第4回	宮古—〈ウタ〉と伝承の世界①	狩俣の祖神祭
第5回	宮古—〈ウタ〉と伝承の世界②	来間島のヤーマスブナカ
第6回	宮古—〈ウタ〉と伝承の世界③	宮古の民謡
第7回	八重山—〈ウタ〉と伝承の世界①	竹富島の種取り祭り
第8回	八重山—〈ウタ〉と伝承の世界②	八重山の民謡
第9回	宮古の歴史と文化	琉球王権と宮古島
第10回	八重山の歴史と文化	琉球王権と八重山
第11回	久高島の祭祀的世界①	年中行事①
第12回	久高島の祭祀的世界②	年中行事②
第13回	久高島の祭祀的世界③	年中行事③
第14回	南西諸島の祭祀歌謡を考える	歌謡の多様なジャンルに触れる

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で指摘したテキストの該当ページと配布プリントの予習。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

① 『沖縄の歴史と文化』 (外間守善著 中公新書)

② 毎回配布のプリント資料

③ 祭りの映像資料

## 【参考書】

参考書は、必要に応じてアドバイスする。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) と講義内容を中心に最終回のレポート (60%) 提出 (必須) を併せて評価する。また、毎回レビューシートを提出してもらう。アンケートも副次的に利用する。

## 【学生の意見等からの気づき】

毎回提出のレビューシートに記された感想、意見、質問について、次回の講義で取り上げ、理解をより深めてもらえるようにしたい。

## 【Outline (in English)】

Mainly throughout considerations of documentary records, myths, songs, naratives, traditions, Okinawan scripts and so on, we try to approach the diverse attractive of the world expressed in languages.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・漢文 (秋期スクーリング)</b>
<b>吉井 涼子</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

親しみのある歴史上人物の話を用い、漢文 (古典中国語) 訓読の基礎を学習する。  
 先ず、当時の中国文化・歴史に触れつつ長文を精読し、漢文読解のための基礎力を高める。

#### 【到達目標】

漢文の基礎構造を学び、漢文訓読のスキルを習得する。  
 テキストに有名な故事成語の典故や書物、エピソードを取り扱うことで、古代中国の歴史・文化に対する広い視野を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。訓点 (句読点・返り点・送り仮名) を付した漢文をテキストとして配布し、文の構造を解説しながら精読する。毎回授業時にリアクションペーパーを提出してもらう。  
 各回の「内容」にあるものは主として取り扱う部分であり、適宜加える可能性がある。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

##### 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容及び採点方法などの説明をする。また、『史記』や司馬遷についての概要を学習する。
第2回	『史記』刺客列伝を読む (1)	『史記』の刺客列伝から荆軻の部分の精読する。
第3回	『史記』刺客列伝を読む (2)	精読することで、燕国と秦国の状況や荆軻の置かれた立場などを理解する。
第4回	『史記』刺客列伝を読む (3)	太子と荆軻の認識の差などに留意しつつ精読する。
第5回	『史記』刺客列伝を読む (4)	荆軻の暗殺計画がどのような結末を迎えたのか、その結果歴史がどうなっていたのかを理解する。
第6回	『史記』秦始皇本紀を読む (1)	本紀について解説し中国史を学ぶ上で欠かせない人物である秦の始皇帝と、その時代について知る。
第7回	『史記』秦始皇本紀を読む (2)	始皇帝の行った歴史的事業を、『史記』本紀を読むことで理解する。
第8回	『史記』項羽本紀を読む (1)	所謂「項羽と劉邦」のことを、原文から学ぶ。 項羽本紀は長文のため、全体の概要を解説したのち、特に有名な部分を抜粋して読み解く。
第9回	『史記』項羽本紀を読む (2)	「鴻門の会」の箇所など、登場人物とそれぞれの立場を整理しながら精読する。
第10回	『史記』項羽本紀を読む (3)	項羽と劉邦の関係などに重点を置きつつ、彼らの移動・転戦を地図を用いながら読み進める。
第11回	『史記』項羽本紀を読む (4)	「四面楚歌」の典故となった部分を精読する。
第12回	「報任少卿書」を読む	漢代に至るまでの多くの人間の歴史を知り尽くした司馬遷自身の死生観を学ぶ。
第13回	復習と解説	改めて、漢文の基礎構造や初歩的な訓読方法を復習する。
第14回	総括	第1回からの学習が身についているか確認する。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配られたテキストには必ず予習を行うこと。  
 予習には漢和辞典・漢字辞典が必須となる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

授業時に配布するプリントをテキストとする。

#### 【参考書】

三省堂『全訳 漢辞海』(漢和辞典)  
 明治書院『新釈漢文大系 史記九 (列伝二)』  
 明治書院『新釈漢文大系 史記一 (本紀上)』  
 明治書院『新釈漢文大系 史記二 (本紀下)』  
 高校時代に使用した国語便覧  
 など。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業時の平常点 (主にリアクションペーパー) を30%、試験を70%で評価を出す。  
 出席は大前提とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本授業は、漢文訓読を通じて行う。中国・台湾などからの留学生の方には難解な技法かと思うが、この点にご留意の上で受講を決めるようにしていただきたい。

#### 【Outline (in English)】

Using a story of a person on a familiar history, learn the basics of classical Chinese reading

First, carefully read the long sentences while touching the then Chinese culture and history, and raise the fundamental power for reading Chinese sentences.

LIN200TC (言語学/Linguistics 200)
<b>日本語史 (秋期スクーリング)</b>
<b>間宮 厚司</b>
カテゴリー： <b>秋期</b>   予備登録の有無： 授業形態：   単位数： <b>2単位</b> 期間： <b>秋期</b> 受講可能な学科・学年：『 <b>法政通信</b> 』 <b>受講手続き等関連頁を参照</b> 備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語の歴史について様々な面から、ある時は広く浅く、ある時は狭く深く学びます。

## 【到達目標】

日本語の「過去・現在・未来」について理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

オンライン授業への授業方法変更に伴い、適宜修正する予定です。詳細については、**Hoppii**を御覧ください。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第2回	江戸時代の言語的特徴 (1) 受講生の春学期の大レポートの報告 (1)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (1)
第3回	江戸時代の言語的特徴 (2) 受講生の春学期の大レポート報告 (2)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (2)
第4回	江戸時代の言語的特徴 (3) 受講生の春学期の大レポート報告 (3)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (3)
第5回	江戸時代の言語的特徴 (4) 受講生の春学期の大レポート報告 (4)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (4)
第6回	明治時代から戦前の言語的特徴 (1) 受講生の春学期の大レポート報告 (5)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (5)
第7回	明治時代から戦前の言語的特徴 (2) 受講生の春学期の大レポート報告 (6)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (6)
第8回	明治時代から戦前の言語的特徴 (3) 受講生の春学期の大レポート報告 (7)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (7)
第9回	明治時代から戦前の言語的特徴 (4) 受講生の春学期の大レポート報告 (8)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (8)
第10回	戦後の言語的特徴 (1) 受講生の春学期の大レポート報告 (9)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (9)
第11回	戦後の言語的特徴 (2) 受講生の春学期の大レポート報告 (10)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (10)
第12回	戦後の言語的特徴 (3) 受講生の春学期の大レポート報告 (11)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (11)
第13回	戦後の言語的特徴 (4) 受講生の春学期の大レポート報告 (12)	プリント等で解説し、授業中に小レポートを提出 (12)
第14回	まとめ	大レポート提出と総括

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館を活用し、日本語史に関する本を積極的に多く読みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

テキストは指定せず、プリントを使用します。

## 【参考書】

参考書は授業の進行にそって、そのつど紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業への授業方法変更に伴い、適宜修正する予定です。詳細については、**Hoppii**を御覧ください。  
全14回のオンライン授業の「課題」と学期末レポートの内容を各50%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

座席指定は良いという意見が多くあったので、続けることにします。

## 【Outline (in English)】

In this lecture, you are going to use several handouts that I'm going to give you in the class. The lecture introduces the history of Japanese Language to students taking this course.

LIT200TC (文学 / Literature 200)
<b>日本文芸研究特講・特域 (秋期スクーリング)</b>
<b>湯本 豪一</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

日本の妖怪文化と漫画文化の歩みと広がり

**【到達目標】**

日本のユニークな文化である妖怪と漫画について、その歩みと広がりを通観し、理解することを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

**【授業の進め方と方法】**

妖怪文化と漫画文化が大きな広がりをもせた江戸時代から言及して、近代における展開についてもみていきますが、できるだけ原資料を紹介し、それらを直接見たり触れたりすることによって当時の人々が妖怪や漫画とどのように接していたかも知っていただきたいと思います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：****秋学期**

回	テーマ	内容
第1回	授業の概要	授業内容の把握
第2回	妖怪文化について	妖怪文化の広がり
第3回	江戸時代の妖怪文化	絵巻のなかの妖怪
第4回	同上	錦絵のなかの妖怪
第5回	同上	版本のなかの妖怪
第6回	同上	多様な妖怪資料の検討
第7回	明治時代の妖怪文化	メディアのなかの妖怪
第8回	もう一つの妖怪文化	幻獣とは？
第9回	漫画文化について	漫画文化のルーツ
第10回	江戸時代の漫画	江戸時代の漫画の隆盛
第11回	同上	風刺画の登場
第12回	明治時代の漫画	メディアのなかの漫画
第13回	大正時代の漫画	漫画界の新しい流れ
第14回	昭和戦前期の漫画	戦前、戦中の漫画の動向
	授業のまとめ	授業のまとめ

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

妖怪や漫画に関する展覧会などがあつたら可能な限り見ておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

5回のオンデマンドによる解説で授業計画に記された内容を把握してもらい、学習支援システムで出された課題について論述していただくというスタイルで進めます。課題を提出することで出席を兼ねることとします。授業の最後に提出してもらう予定だったレポートの提出はありません。改題の提出でレポートにかえます。

その他、お知らせでお伝えする場合があります。

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50パーセント、課題の提出による評価50パーセント。

**【学生の意見等からの気づき】**

原資料はオンデマンドで紹介します。

**【Outline (in English)】**

History and Spreads of Japanese Yokai culture and Japanese Manga culture

LIT100TC (文学 / Literature 100)

## 日本文芸研究特講・中古 (秋期スクーリング)

加藤 昌嘉

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【↓以下8/26加筆】

▼秋学期「特講、中古D」は、9月18日(金)スタート予定です。  
▼毎週、金曜の夜に、プリントと動画を配信します。(リアルタイム授業ではありません)

▼秋学期「中古D」のテーマは、《霊異》《幻想》《怪奇》《不条理》です。

▼『今昔物語集』(平安時代末期)を出発点にしつつ、中古(平安時代)～中世(鎌倉時代)の説話や物語を取り上げ、「霊」「鬼」「妖術」「仏罰」「往生」「輪廻転生」等々、不可思議な・超現実的な話を解説してゆきます。

▼なお、近世(江戸時代)～近現代(20世紀)の文学も、取り挙げます。

## 【到達目標】

- ▼物語・説話の表現技法を知る。
- ▼中古～中世の思想・宗教を知る。
- ▼作劇法(ドラマツルギー)を分析する方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

## 【授業の進め方と方法】

▼毎週、金曜の夜に、Hoppiiの「教材」欄から、プリントと動画を配信します。(リアルタイム授業ではありません)

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：

## 秋学期

回	テーマ	内容
1	9月18日(金)	概説：「霊異」「幻想」「怪奇」とは？
2	9月25日(金)	謎の女：『今昔物語集』
3	10月2日(金)	鬼・霊：『今昔物語集』
4	10月9日(金)	魔法・妖術：『今昔物語集』
5	10月16日(金)	殺人・死体：『日本霊異記』『今昔物語集』
6	10月23日(金)	愛欲・仏罰：『日本霊異記』『今昔物語集』
7	10月30日(金)	蛇：『日本霊異記』『沙石集』
8	11月13日(金)	骸骨・死体：『閑居友』など
9	11月20日(金)	偽悪：『発心集』など
10	11月27日(金)	霊：『雨月物語』など近世文学
11	12月4日(金)	妖美：泉鏡花など近代文学
12	12月11日(金)	夢：『蜻蛉日記』など
13	12月18日(金)	輪廻転生：『浜松中納言物語』など
14	2021年1月8日(金)	秋学期のまとめ&《最終課題》の発表

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

▼授業で取り上げられた作品のうち、面白いと思ったものを、入手して、読んでみてください。《最終課題》では、受講者各自に、作品の分析をしてもらう予定です。

## 【テキスト(教科書)】

▼毎回、Hoppiiの「教材」欄から、プリントを配信します。

## 【参考書】

▼以下の入門書を、まずは、推薦しておきます。面白そうだと思うものを入手して、パラパラ眺めてみてください。

◎小峯和明 編『図説あらすじでわかる! 今昔物語集と日本の神と仏』(青春新書)

◎伊藤比呂美・福永武彦・町田康 訳『日本文学全集08 日本霊異記・今昔物語・宇治拾遺物語・発心集』(河出書房新社)

◎水木しげる『今昔物語』全2冊(中公文庫)→『水木しげるの漫画大全集091 今昔物語[全]』(講談社)

◎ichida『本当はこわい仏教むかし話—マンガで読む『日本霊異記』—』(メディアファクトリー)

◎須永朝彦『日本幻想文学史』(平凡社ライブラリー)

▼以下のような、幻想文学のアンソロジーもあります。

◎須永朝彦 編訳『日本古典文学幻想コレクション』全3冊(国書刊行会)

◎『新編 日本幻想文学集成』全9冊(国書刊行会)

▼『今昔物語集』や『日本霊異記』などの原文&現代語訳は、以下のシリーズに収載されています。

◎新編日本古典文学全集(小学館)→ジャパナレッジLib

◎新日本古典文学大系(岩波書店)

◎新潮日本古典集成(新潮社)

◎講談社学術文庫(講談社)

◎岩波文庫(岩波書店)

## 【成績評価の方法と基準】

▼《最終課題》の出来、87%。

▼毎回、リアクションペーパー(質問、意見、アイデアなどを自由に書く用紙)を、Hoppiiの「課題」欄から提出してもらいます。13%

## 【学生の意見等からの気づき】

▼日本の古典だけでなく、近現代の文学や海外の文学も、積極的に取り挙げます。

## 【学生が準備すべき機器他】

▼プリントや動画は、小さなスマホではなく、大きな画面のパソコンで御覧ください。なお、法政大学は、パソコンやワイファイルーターの貸与をおこなっています(Hoppiiのトップページや、大学のホームページを参照)。

## 【Outline (in English)】

This course deals with many strange stories in the Japanese classics.

HIS300TD (史学/History 300)
<b>東洋史特講 (東南アジア史) (秋期スクーリング)</b>
<b>山崎 美保</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

東南アジア地域は近年、さまざまな分野、特に経済的分野において、国際的に注目されている。本科目では、現代の東南アジアの国家形成や宗教に大きな影響を与える、東南アジア地域の近世史を体系的に学ぶ。

#### 【到達目標】

この授業では、東南アジアの歴史に関する基礎的な知識を学ぶことで、当該地域に関する諸問題を論理的に理解し、自身で探求する力を養うことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

資料配信型 (各回の講義内容をまとめたレジュメ、参考資料を「Web学習サービス」にて配信。また講義内容を理解できているかを確認するため、各回に課題を出すので、メールにて講師に課題を提出する)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	東南アジアの概要	地理、前史
第2回	上座仏教世界の形成①	北方タイ人諸王国、シャム諸王国
第3回	上座仏教世界の形成②	ポスト・バガン
第4回	ベトナム世界の形成	「交易の時代」と「ポスト交易の時代」のベトナム
第5回	カンボジア	ポスト・アンコール時代のカンボジア
第6回	シャム世界の形成	後期アユタヤ、ラタナコーシン朝
第7回	帝国ビルマの形成①	タウンゲー朝とニャウンヤン朝
第8回	帝国ビルマの形成②	コンバウン朝
第9回	東南アジア大陸部の植民地化	英領インド、仏領インドシナの形成、シャム王国
第10回	ムラユ世界の形成	島嶼部の「交易の時代」とイスラームの受容
第11回	港市国家の変容	オランダとスペインの東南アジア海域への参入
第12回	近世国家の展開	マタラム王国とオランダ
第13回	東南アジア島嶼部の植民地化	海峡植民地の形成と展開
第14回	まとめ	ふりかえり

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考書を読み、基本的な事実を把握する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を基準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。担当教員が作成したレジュメ、参考資料を「Web学習サービス」にて配布。  
通教テキスト『東洋史特講 (南海史)』第1版、河原正博、1978年は基本的に使用しません。

#### 【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999年、山川出版社  
池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999年、山川出版社  
石井米雄他編『岩波講座東南アジア史3 東南アジア近世の成立』2001年、岩波書店  
桜井由躬雄他編『岩波講座東南アジア史4 東南アジア近世国家群の展開』2001年、岩波書店  
斎藤照子他編『岩波講座東南アジア史5 東南アジア世界の再編』2001年、岩波書店

#### 【成績評価の方法と基準】

各回の課題 (40%)・期末レポート (60%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

配布資料において講義の要点をより明確にする。

#### 【学生が準備すべき機器他】

「Web学習サービス」の使用、課題提出のためにワードファイルの作成、課題をメール添付で送ることができる環境。

#### 【Outline (in English)】

This class is aim to understand the early modern history and culture of Southeast Asia.

**日本史特講（対外関係史）（秋期スクーリング）**

宇都宮 美生

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：  
 授業形態： | 単位数：2単位  
 期間：秋期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

四方を海に囲まれた日本は、古くより東アジアを中心に諸外国・諸地域と関係を有してきた。グローバル化がさげばれ、国際関係が問題となる現代において、日本が対外関係をいかに構築してきたか、日本の対外関係史について理解を深めていく。

**【到達目標】**

日本が諸外国とどのように交流していったか、日本の歴史および諸外国の歴史を考えながら理解する。原因・経過・結果・影響が自分の言葉でまとめられるようにする。今後の日本がどのように外交を進め、諸外国と交流すべきかを考えられるようにする。地図や年表の作成ができるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

日本の対外関係について時代ごとに学習する。日本の社会の発展に外国との交流がいかに関わっているかを具体的にみていく。授業内容に関するレジュメを事前に配布するので印刷をしておくこと。最後のレポートはこのレジュメをもとに書いてもらう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	古代の外交	倭国の対外関係
第2回	古代の外交	遣隋使・遣唐使
第3回	中世の外交	日宋貿易
第4回	中世の外交	日元貿易
第5回	中世の外交	日朝貿易
第6回	近世の貿易	日明貿易
第7回	近世の貿易	日清貿易と鎖国
第8回	近代の貿易	開国
第9回	近代の貿易	開国
第10回	近代の外交	日欧米外交
第11回	近代の外交	日欧米外交
第12回	近代の外交	日欧米外交
第13回	近代の外交	日華外交
第14回	学習のまとめ	学習内容の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業が終わった後、復習をかねて年表や地図を作成する。関心のある時代に関しては図書館の文献等で調べて、知識を深める。また、諸外国からみた日本との交流についても各自調べて、双方向からの学習をする。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

指定の教科書はないが、随時プリントを配布し、参考文献を紹介する。

**【参考書】**

森克己・沼田次郎編『対外関係史』山川出版社、1978年  
 鈴木靖民編『日本古代交流史入門』勉誠出版、2017年、3800円+税  
 村井章介『中世日本の内と外』筑摩書房、2013年、1200円+税  
 中田易直編『近世対外関係史論』有信堂高文社、1979年、2500円+税  
 簗原俊洋・奈良岡聰智編著『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』ミネルヴァ書房、2016年、3000円+税  
 田中健夫編『日本前近代の国家と対外関係』吉川弘文館、1987年、13000円+税

\*このほか、日本の対外関係史に関する文献は多数あるので、図書館等で利用してほしい。

**【成績評価の方法と基準】**

出席30%、レポート70%

**【学生の意見等からの気づき】**

新規なので該当なし。  
 わかりやすい授業を心がける。

**【学生が準備すべき機器他】**

レジュメを印刷しておくこと。

**【その他の重要事項】**

スマホ・デジカメ等による写真撮影を禁止する。  
 学生との対話形式で進めるので、積極的な発言を求める。

**【重要：オンライン授業に関して】**

今回Zoomを使ったオンライン授業を行います。講師一人ですべて対応しますので、円滑な授業をするためにも、今回は特別に以下の条件に対して不都合でない方（了承いただける方）を対象といたします。それ以外の方は、来年度の教室授業への参加をお願いいたします。なお、今回に限りレジュメを配布します。

1. カメラ内蔵のPC（ネット接続）かスマホでネット会談（Zoom）に100分参加できる方のみ参加可能です（URLをクリックするだけの簡単な操作です）。教室授業とほぼ同じ環境で受講できます。なお、出席をとるため、最初の接続では学生証の名前と同じ「漢字名」で登録ください。それ以外のローマ字表記や出席簿に名前がない方は、本人確認ができませんので参加できません。

2. 授業開始20分前から接続できますが、早く接続した方はそのままお待ちください。5分以上遅刻すると参加できませんので時間厳守をお願いいたします。また、接続時に出席をとります。通常のスクーリングにおける規定の出席率がない方は不合格となります。授業の途中で退出する方は、早退・欠席扱いとなりますのでご注意ください。

3. 授業開始前に、全授業分のレジュメを配りますので、自宅のプリンターまたはコンビニのコピー機で事前に印刷をしておいてください（白黒でもいいですが、かなり多くなります）。レジュメは穴埋め式なので授業中のパワーポイントの画面を見ながら書き写していただくため、必ず印刷しておいてください→これをもとに最後のレポートを書いていただきます。

コンビニでの印刷は、レジュメファイルをUSBかスマホに保存し、コンビニのコピー機を使えば簡単に印刷できます。レジュメはA4サイズなので、コンビニでの印刷はA4二枚をA3一枚と一緒に印刷すると費用は半額です。操作方法は店員に教わってください。

4. 初回にZoomを使用した授業の進め方について説明をします。必ず初回の授業には出席してください。2日目以降からしか出席できない方は、今回の受講をご遠慮ください。

**【Outline (in English)】**

This course introduces an understanding of Japanese history in respect to international relations with other Asian countries. The aim of this course is to help students acquire historical changes in politics, economy, organization, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

HIS300TD (史学/History 300)

**日本近世史 (秋期スクーリング)****中山 学**

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中世後期以降の地域社会の動向をふまえつつ、「近世の村」の成立について学習します。

**【到達目標】**

「近世の村」の成立要因について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回配布資料を読んでいただき、課題に取り組んでいただきます（提出不要）。また、小テストに取り組んでいただきます（4回、要提出）。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	近世の村(1)	江戸時代の村々
第2回	近世の村(2)	村の景観と構造
第3回	近世の村(3)	村運営の仕組み
第4回	近世の村(4)	領主による支配 ※小テスト第1回
第5回	近世の村の淵源(1)	中世後期の村
第6回	近世の村の淵源(2)	中世後期の村
第7回	近世の村の淵源(3)	中世後期の村 ※小テスト第2回
第8回	近世の村の成立(1)	太閤検地と兵農分離
第9回	近世の村の成立(2)	太閤検地と兵農分離
第10回	近世の村の成立(3)	太閤検地と兵農分離 ※小テスト第3回
第11回	近世の村の成立(4)	村方騒動と地域秩序の変容
第12回	近世の村の成立(5)	村方騒動と地域秩序の変容
第13回	近世の村の成立(6)	村方騒動と地域秩序の変容
第14回	近世の村の成立(7)	村方騒動と地域秩序の変容 まとめ ※小テスト第4回

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- (1) 教材の要点をノートにまとめる
- (2) 各回の課題に取り組む（提出不要）
- (3) 小テスト（4回、要提出）

**【テキスト（教科書）】**

参考書の一部など資料を配布します。

**【参考書】**

- ①水本邦彦『(シリーズ日本近世史2) 村一百姓たちの近世』岩波書店、2015年
- ②久留島典子『(日本史リブレット) 一揆の世界と法』山川出版社、2011年
- ③池上裕子「検地と石高制」歴史学研究会・日本史研究会共編『日本史講座5 近世の形成』東京大学出版会、2004年
- ④吉田ゆり子『(日本史リブレット) 兵と農の分離』山川出版社、2008年

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト（40点）、期末試験（レポート、60点）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコン、プリンター、インターネット機器

**【その他の重要事項】**

- (1) 資料配布型の授業を実施します（ZOOMを使用してのライブ配信は行いません。また動画、音声等を組み込んだデジタルコンテンツの配信もしません。）
- (2) 小テスト（4回）の答案、期末試験の答案（レポート）は、いずれもメールで提出していただきます。
- (3) 期末試験の答案（レポート）の提出期限は、あらためて案内します。

**【Outline (in English)】**

Think about the establishment process of the early modern village in Japan.

HIS300TE (史学/History 300)

**東洋史概説 (秋期スクーリング)**

兼平 充明

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では先秦から唐代にいたるまでの中国の歴史を学習し、中国古代の政治・社会・文化についての基本的な知識を身につけることを目標とする。

**【到達目標】**

ユーラシア大陸の東の一隅から生まれた中華文明は、秦漢帝国による最初の統一から魏晉南北朝時代の分裂を経て、隋唐帝国による再統一へと結実していく。この間、中国大陸で生まれた漢字・儒教・律令制・漢訳仏教といった様々な文化は周辺諸地域に広まっていき、日本や朝鮮半島諸国などの東アジアの国々における共通の文化的基盤となった。したがってこの時期の中国の歴史を理解することは、日本をはじめとするアジア諸国の歴史を学んでいく上でも欠かせない。この授業では新石器時代から唐代までの中国の歴史について講義を通じて学習していき、その大きな流れを理解し、各時代における重要な人物・事件・制度・文化等についての知識を身に付けることをめざす。目標の達成度については学期末の筆記試験によって評価する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業の形態としては毎回講義資料をPDF形式で配信し、受講生に読んで学習してもらう形をとります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要の説明
第2回	新石器時代	中国各地の新石器文化
第3回	殷周時代	初期王朝の成立
第4回	春秋時代	春秋五覇の興亡
第5回	戦国時代	諸子百家と七雄の時代
第6回	秦代	始皇帝の統一事業
第7回	漢代	前漢王朝の成立
第8回	後漢時代	武帝の治世と後漢の成立
第9回	三国時代	三国志の世界
第10回	両晋・南朝時代	六朝貴族制
第11回	五胡・北朝時代	異民族の華北支配と仏教
第12回	隋・初唐時代	世界帝国の成立
第13回	盛唐時代	女帝則天武后
第14回	まとめ	今まで学んできたことの総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回、前回の授業の復習をしてくる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。授業時にプリントを配布する。

**【参考書】**

宇都木章監修、小田切英執筆 『すぐわかる中国の歴史』（東京美術 2003年）

富谷至・森田憲司『概説 中国史（上）』（昭和堂 2016年）

**【成績評価の方法と基準】**

成績は学期末のレポートで評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

なるべく分かり易くするつもりですが、分からないことがあれば、授業中でもリアクションペーパーを使ってでも構わないので、積極的に質問してください。

**【学生が準備すべき機器他】**

配信した資料を読むことのできる機器を準備しておいてください。

**【Outline (in English)】**

History of ancient China from Neolithic era to Tang dynasty

HIS300TE (史学/History 300)
<b>西洋史概説 (秋期スクーリング)</b>
<b>竹下 和亮</b>
カテゴリー： <b>秋期</b>   予備登録の有無： 授業形態： <b>単位</b>   単位数： <b>2単位</b> 期間： <b>秋期</b> 受講可能な学科・学年：『 <b>法政通信</b> 』 <b>受講手続き等関連頁を参照</b> 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきた。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。本年度は、とくに神聖ローマ帝国、イタリア王国に焦点を当てる予定である。

#### 【到達目標】

中世以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

zoomにてリアルタイムに行います。年表と系図を使った講義。王家の系図を詳細にみていながら、神聖ローマ帝国を中心とする西洋中近世史を講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ヨーロッパの概要と時代区分
第2回	西洋中世の形成 (1)	ローマ帝国崩壊後の世界
第3回	西洋中世の形成 (2)	フランク王国の成立と展開
第4回	西洋中世の形成 (3)	フランク王国の分裂
第5回	西洋中世の形成 (4)	ドイツ、イタリア、フランスの誕生 I
第6回	西洋中世の形成 (5)	ドイツ、イタリア、フランスの誕生 II
第7回	西洋中世の形成 (6)	封建的主従関係と領主制
第8回	西洋中世の社会 (1)	ドイツ中世の政治構造 I
第9回	西洋中世の社会 (2)	ドイツ中世の政治構造 II
第10回	西洋中世の社会 (3)	ドイツ中世の政治構造 III
第11回	西洋中世の社会 (4)	ドイツとイタリア I
第12回	西洋中世の社会 (5)	ドイツとイタリア II
第13回	西洋中世の崩壊	中世的世界の危機と近代ヨーロッパの誕生
第14回	まとめ	ヨーロッパと世界

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布します

#### 【参考書】

増田四郎『ヨーロッパとは何か』岩波新書、1967年  
 権山紘一『ヨーロッパの歴史』放送大学教育振興会、2001年  
 江川温『ヨーロッパの歴史』放送大学教育振興会、2005年  
 成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『世界歴史大系 ドイツ史1』山川出版社、1997年  
 木村靖二編『世界各国史13 ドイツ史』山川出版社、2001年  
 北原教編『世界各国史15 イタリア史』山川出版社、2008年

#### 【成績評価の方法と基準】

試験 (100%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

zoomを使用いたします。資料はweb送信ですので、プリントアウトの機器が必要となります。またマイクとカメラが必要です。wifi環境がよくない時などの特別な場合を除き、カメラをオンにして受講してください。

#### 【その他の重要事項】

特になし

#### 【Outline (in English)】

Europe is only a part of the world just like any other regions on the earth; however, we can't deny its considerable contributions to the formation of the present world. By focusing on these aspects of Europe, this course will lecture on the general flow of its history, from the Medieval Age onwards, and the basic terminology for the historical research.

CUM200TD (文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200)

## 歴史資料学 (日本近代) (秋期スクーリング)

岩壁 義光

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

歴史資料とは、文字で書かれた史料のほか、絵画・写真・金石文・音声などを包含する概念となっている。本講義では、歴史資料とは具体的に何かを学び、あわせて資料の構造や伝来、活用について学ぶ。

## 【到達目標】

多様な資料を読み解く基礎的な知識を習得し、各種資料から各自の研究テーマに則した歴史資料を探し出し、その理解と活用の方法を学ぶ。また、歴史資料の一つである近代文書の読解方法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で進める。講義は事前配布した原本複写資料などを用いて進める。受講生は、配付された資料の予習が必須である。古文書の読解方法の基礎、辞書の使い方などは第二回目で講義する

また、講義中はしばしば受講生に意見をもとめるので、積極的に発言して戴きたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	歴史資料について概観し、各授業について概要を紹介する。また、参考文献や論文などの検索法について説明する。
第2回	古文書を読むために	日米和親条約原文から「くずし字」で書かれた文書の読み方・読解方法を具体的に学ぶ。
第3回	幕末の情報	阿部正弘文書のうち「別段風説書」のペリー来航情報を原文で読み、原史料を読む意味について学ぶ。
第4回	史料の伝来	「別段風説書」の伝わり方を中心に、情報の伝達、現在への伝来などについて数例を紹介する。
第5回	幕末の天皇文書を読み解く	違勅条約と呼ばれる日米修好通商条約の締結を前に、孝明天皇の文書から読み解く。
第6回	書簡とは何か	戊辰戦争期、上野の戦争に一喜一憂する様子を、三条実美宛岩倉具視の書簡から読み取る。書簡資料の特徴について学ぶ。
第7回	オーラルヒストリーから見た歴史	西南戦争後、大久保利通は石川県士族により暗殺される。この紀尾井坂の変に遭遇した大久保家の馭者の証言から、当日何があったのかを読み解く。

第8回	石碑を読む (金石文の読解)	紀尾井坂の変後、明治21年清水谷に「贈右大臣大久保公哀悼碑」が建立された。石碑に関して学ぶとともに、石に刻まれた金石文を読むことで、石碑建立者の意図を考える。
第9回	公文書を読む	宮内省の公文書「授爵録」に記された男爵授爵史料から公文書の構造を学び、また男爵に授爵とは何かを考える。
第10回	古写真を読み解く	巡幸時の白河城の古写真を太政官文書との比較から、古写真を分析する。
第11回	日記を読む	「原敬日記」の原本と出版されている活字本とを比較することで、原本史料を読むことの意味を考える。
第12回	歴史絵画の成り立ち	明治39年に完成した「孝明天皇紀」附図から、考証過程を通じて作成過程を読み解き、歴史絵画とは何かを考える。
第13回	歴史資料の公開	公文書管理法を考える
第14回	まとめ	歴史資料学のまとめ

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業内で用いる資料は事前に配布するので、必ず自己予習し、事前に読解を試み、語意の分からない部分は調べて授業に臨むこと。毎回受講後の復習を行わないと文書読解の効果は現れにくいので、予習とあわせて復習は必須である。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは用いず、各講義前にテキストとなる実物の複写資料などを配布する。配布したテキストの翻刻文などは基本的に講義後に配付する。なお資料の再配付は基本的に行わないので、欠席しないように心掛けること。

## 【参考書】

岩壁義光・小林和幸・広瀬順皓編『史料で透視する近代日本』(ゆまに書房)、児玉幸多編『くずし字解説辞典 普及版』(東京堂出版)、児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)。辞典の使用方法などは、第2回目の講義で具体的に説明する。また、テーマ毎に必要に応じて関係論文・参考図書などは必要に応じて紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

評価は、講義内の配付資料をもとにした試験で行う。試験には、漢和辞典のみ持ち込みを可とする。なお、出席の確認は毎授業行う。出席日数が少ないと受験資格を失うので注意すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

板書は丁寧を書くことを心掛ける。

## 【Outline (in English)】

Historical study is performed using various documents, for example pictures, a photograph, an inscription on a stone monument, a sound, etc. besides historical records.

At this lecture, students study what history documents are, how to understand documents.

HUG400TE (人文地理学 / Human geography 400)
<b>人文地理学演習 (秋期スクーリング)</b>
<b>前畑 明美</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地中海」というと、多くの島々と紺碧の海、古代のエゲ文明などさまざまなイメージされますが、その多島海における人間活動によって築かれた社会システムを捉えていくことは、多くの島々と広大な海から成る日本を改めて相対化し、国土・生活空間についての認識を深めることにもつながります。今回講読していくのは、フランス人の歴史家、フェルナン・ブローデルの『地中海2』であり、普及版（全10巻）となる本書には、『地中海』（全5巻）の「第1部 環境の役割」のなかの「第2章 地中海の心臓部一海と沿岸地帯」と「第3章 地中海の境界、あるいは最大規模の地中海」が収められています。名著といわれる本書の読解と全体議論をもとに、地中海への理解を深めていくことを目指します。スクーリング終盤では、受講者による論文紹介や研究テーマの発表など、卒業論文を見据えたトレーニングも行います。

#### 【到達目標】

まずは説得的なレジュメを作成すること、テキスト内の大切なポイントや問題点を的確に捉え、議論を重ねた上で根拠ある見解を確立していくことを目標としたいと思います。また、海と島々の空間についての認識を深め、そこで生起する諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようにすることも本演習の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

第1回よりZoom（テレビ会議システム）を使用いたします。初回時に講読書の分担箇所を決定し、第2回から担当者による発表と、出席者全員での議論を中心に、解説を加えながら授業を進めていくこととします。論文紹介や研究テーマの発表についても同様といたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、「海と島」「島嶼地理学」について	授業の概要とテキストの説明、担当箇所の割り振り、重要事項の説明
第2回	テキストの講読（1）	担当箇所の発表、および議論
第3回	テキストの講読（2）	担当箇所の発表、および議論
第4回	テキストの講読（3）	担当箇所の発表、および議論
第5回	テキストの講読（4）	担当箇所の発表、および議論
第6回	テキストの講読（5）	担当箇所の発表、および議論
第7回	テキストの講読（6）	担当箇所の発表、および議論
第8回	テキストの講読（7）	担当箇所の発表、および議論
第9回	テキストの講読（8）	担当箇所の発表、および議論
第10回	テキストの講読（9）	担当箇所の発表、および議論
第11回	卒論トレーニング（1）	地理学関連論文の紹介、および議論（1）
第12回	卒論トレーニング（2）	地理学関連論文の紹介、および議論（2）
第13回	卒論トレーニング（3）	研究テーマの発表、および議論（1）

第14回 卒論トレーニング（4） 研究テーマの発表、および議論（2）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ事前にテキストを入手し、一通り目を通しておくこと。毎回の授業では、発表・議論を踏まえて自身の知識や意見を補足・修正していくことに注力ください。

#### 【テキスト（教科書）】

フェルナン・ブローデル、浜名優美訳（1999）：『地中海2』藤原書店 ¥1,800＋税  
山口不二雄（1992）：『地理調査法（人文編）』法政大学通信教育部

#### 【参考書】

参考文献は初回時をはじめ授業内で随時紹介していきますが、ぜひ授業前に、以下の文献のいずれかと、興味のもたれる一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。

・嘉数啓（2019）：『島嶼学』古今書院 ¥3,800＋税  
・ステイーヴン・A.ロイル、中俣均訳（2018）：『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局 ¥4,400＋税  
・田辺悟（2015）：『島』法政大学出版局 ¥3,200＋税  
法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

#### 【成績評価の方法と基準】

レジュメ・発表・議論の内容50%、レポート50%（最終日に提出）。レジュメの作成や発表、議論への参加など、積極的な姿勢を評価いたします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

質問時間を設けて、ぜひ双方向的な学びをしていただける機会としていきたいと思っています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Zoom使用のため、パソコンもしくはタブレットをご用意ください。併せて通信環境も予めご確認願います。話者の声が聞き取り辛いということがよく聞かれますので、可能な方はできるだけマイクをご使用ください。またカメラが内蔵されていないパソコンである場合には、別途専用カメラをご準備いただきたいと思います。

#### 【Outline (in English)】

The Mediterranean is imagined by many islands, the blue sea, and the ancient Aegean civilization. Understanding the social system that human activity has built up in the Mediterranean will lead to know Japan, which consists of many islands and the sea. This time, we will be reading and discussing the Mediterranean 2 by a famous French historian, Fernand Braudel. We aim to understand the Mediterranean area from this famous book. In addition, we do training for graduation thesis.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)

## 地理情報システム (GIS) (2) (秋期スクーリング)

沼尻 治樹

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理情報システムの発達とともに、専門的な商圏分析や立地分析、災害情報管理や自然環境分析などで空間情報の高度利用が行われてきただけでなく、地理情報の「見える化」が地図アプリケーションなどを通じて日常生活に普及してきた。そこで本授業では、講義と実習、課題を行いながら基本的な地理情報の種類・構造、分析の理解を深めることを目標とする。

## 【到達目標】

地理情報システムの基礎を学び、地理学的課題のみならず社会的課題に対して有効なツールとして地理情報システムを活用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業では、初めて地理情報システムに触れる受講生に合わせ、まず地理情報システムの構造や考え方、地理情報（デジタルデータ）の説明を行った上で実習を進める。さらに習得した技術を用いたレポートの作成を行う。無料のアプリケーションソフトウェア、データを使用して授業を進める。

## 【追記】

なお、オンライン実習となったことから、各自で実習環境を構築する必要がある。実習用に用意した各自のパソコンに、GISアプリケーションをインストールする必要がある。実習自体は、Windows10および8環境を想定して行う。GISの実習であるので基本的なWindowsの操作についてはフォローしない。また、MAC、Linux環境での受講も認めるがトラブル時に十分なフォローができるか保証できない。Windowsは32ビット、64ビットを問わないが、パソコンのスペックによってはデータ処理に時間がかかってしまう可能性もある。

実習は、pdf資料配付とリアルタイム配信（Zoom）で行う。リアルタイム配信では、配付資料の解説と質疑応答を行う。事前に配付しておく実習資料で各自実習を行い、リアルタイム配信に臨むことが望ましい。リアルタイム配信（Zoom）は補助的な役割を想定しているため、必ず参加する必要はない。リアルタイム配信の時間帯については、別途通知する。

実習回ごとに、課題を提出し出席確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地理情報システムとは何か？	地理情報システムについて構造やデータについて説明する
第2回	地理情報システムアプリケーションに触れる	地理情報システムアプリケーションでデータを表示する
第3回	地理情報データのマッピング	ベクタ型データをwebより取得し表示のレイアウトを変更する
第4回	地理情報データと統計データ	統計データが入力されたベクタ型地理情報データを扱う
第5回	地理情報データの統計演算1	ベクタ型地理情報データに統計データを新規追加する
第6回	地理情報データの統計演算2	ベクタ型地理情報データに入力された統計データの変換を行う
第7回	地理情報データの統計演算3	ベクタ型地理情報データに入力された統計データの演算を行う

第8回	数値地形モデル (DEM) による空間分析1	DEMについて解説し簡単な地形解析を行う
第9回	webGISを用いた地物 (図形) の作成	地理院地図を使いながらラインデータやポリゴンデータを自作する
第10回	座標データを地理情報システムに取り込む	用意した座標データをポイントデータとして取得する
第11回	地理情報の解析の実践1	ベクタ型地理情報データの簡単な解析を行う
第12回	地理情報の解析の実践2	空間内挿を行い地理情報の推定を行う
第13回	地理情報の分析と考察1	課題に対して地理情報を選択する
第14回	地理情報の分析と考察2	地理情報の処理を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

使用するアプリケーションソフトウェアはオープンソースであることから、受講生は事前に配布した資料を用いて自宅で準備学習を行い、授業後には復習・自習を行って実習内容の確認または課題を行うこと。それぞれ2時間を目安とする。

また、この授業ではコンピュータ（PC）を用いて実習を行う。WindowsによるPCの操作方法は解説しないので、受講生は基本操作が十分できることが望ましい。

## 【テキスト（教科書）】

自作テキストを利用する。

## 【参考書】

「地理情報学入門」（野上道男ほか、東京大学出版会、2001年）  
「国土を測る技術の基礎 —地理空間情報技術者を目指す人のために—」（高木方隆、(公社)日本測量協会、2018年）（改訂第2版）  
その他、適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

本授業は実習科目であることから、平常点を重視する。その他、レポートによって成績評価を行う。レポート課題においてテーマに対して適切に地理情報を処理しているか評価する。

成績評価の配分は、平常点が60%、レポートが40%である。

## 【追記】

平常点は、実習回ごとに提出する課題によって評価するが、課題の完成度は問わない。

## 【学生の意見等からの気づき】

質問しやすい環境作りを心がけている。また地理情報システムの知識と技術を同時に身につけることを目指している。さらに、地理情報システムの社会での最新の動向を紹介し、授業と社会の乖離が起こらないようにしている。

実習の感想や意見を出欠票とともに回収しているので、対応可能な事柄については随時対応するようにしている。

## 【追記】

質問はメールおよびオンライン配信時に受け付ける。

## 【学生が準備すべき機器他】

電算室を利用する。またネットワークを用いて資料の配付や課題の提出も行うので、USBメモリ等の外部記録装置を用意すること。

## 【その他の重要事項】

この授業では、講義・実習を通して地理情報システムの理解を深めつつ、コンピュータの扱いとデジタルデータを活用する基礎的な知識を学ぶ。無料のアプリケーション、無料のデジタルデータを使用するので自習も可能である。

Windowsの基本操作が十分できることが望ましい。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this lesson is to understand the geographic information system and learn the spatial analysis method. We learn the structure and analysis method of geographic information data from lecture and practical training.

ECN200TF, ECN300TG (経済学 / Economics 200, 経済学 / Economics 300)
<b>財政学B / II (秋期スクーリング)</b>
<b>島澤 諭</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本財政は現在、(1)少子化、高齢化の進展への対応、(2)財政健全化への対応、(3)世代間格差是正、といった多くの課題を抱えています。

本講義では、政府の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、市場主義経済における政府の役割などについて学習します。

#### 【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政が直面している問題をデータ等により客観的に把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1, DP3, DP4」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

主に、配布資料に基づいて講義形式で授業を進めます。最新の経済・財政情勢を踏まえながら、わが国財政が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	財政学とは何か 政府の4つの機能
第2回	政府の経済活動その1	日本財政の規模 国民負担率
第3回	政府の経済活動その2	小さな政府と大きな政府 福祉レジーム論
第4回	租税理論その1	租税原則、租税の公平性
第5回	租税理論その2	消費税、所得税、税の帰着
第6回	財政政策の効果その1	国民所得決定の理論
第7回	財政政策の効果その2	乗数効果
第8回	所得再分配政策	日本の所得再分配の実態
第9回	財政の持続可能性その1	基礎的財政収支、構造的財政収支、循環的財政収支、財政健全化目標
第10回	財政の持続可能性その2	ドーマー条件、異時点間の政府の予算制約
第11回	公債の負担	新正統派、ISバランス論、国債価格と金利
第12回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス
第13回	世代間不平等の政治経済学その1	世代会計とシルバー民主主義、全世代型社会保障
第14回	世代間不平等の政治経済学その2	国民代表、委任代表、小選挙区制、7条解散、シルバー民主主義のパラドクス

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてください。授業内容の理解を確実にするために必ず復習してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。レジュメを配布する。

#### 【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (3) 上村敏之『コンパクト財政学（第2版）』新世社
- (4) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

経済モデルを用いて、日本財政を分析し、自分なりの処方箋を提示できる

#### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義にします。

#### 【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the role of the government in the market-oriented economy after taking into consideration the basic theory on the economic activities of the government.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>経済学特講 (秋期スクーリング)</b>
<b>三浦 道行</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

農奴解放からスターリンによるコルホーズの強行創設あたりまでのロシア・ソヴェトの歴史を、ボルシェビキ史観を排し、近代化という視点から講義する。ロシア・ソヴェト史の邦語文献（概説書にせよ研究書にせよ）の少なからぬ部分には、ボルシェビキ史観の影響が認められるのであって、その点、極めて遺憾である。本講により、受講生諸君は、従来の日本ではあまり知られていなかった諸史実を知ることになるであろう。そして、それにより、諸君の頭の中に、新たなロシア・ソヴェト像が作られ、またそれとの比較で、より深い明治維新像が作られることを期待する。

#### 【到達目標】

法治主義・立憲主義の大切さを改めて認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義を行う

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	19世紀のロシア社会	都会の貴族・農村の農奴・耕地共同体 (ミール)・商業の未発達
第2回	農奴解放とその問題点	私的土地所有・分与地の共同体への高値売りつけ・切り取り地の貸し出し・オトラボトキ
第3回	ナロードニキ	農奴解放後の農民の苦渋と農民支援運動
第4回	日露戦争と第1次革命	10月宣言・自由化と反動
第5回	憲法の国家基本法への格下げ	黒百人組・懲罰隊・国家基本法
第6回	ストリーピンの改革	ミール解体方針とその挫折
第7回	第1次大戦と専制の孤立	ラスプーチン・進歩ブロック・ゼムストボ連合・都市連合・戦時産業委員会
第8回	1917年、2月革命	立憲派と街頭闘争派。臨時政府とソヴェート
第9回	1917年10月「革命」	合法政府の転覆
第10回	制憲議会	選挙戦の敗北と議会の暴力的解散
第11回	内戦	戦時共産主義下の食糧調達 極東情勢と極東共和国
第12回	クロンシュタット反乱	「ボリシェビキのいないソヴェートを」
第13回	新経済政策 (ネップ)	商品経済の復活 工業化論争
第14回	スターリンの左旋回	農業集団化と「クラーク (富農) の階級的絶滅」

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習2時間、復習2時間を欠かさずに。

#### 【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使わない

#### 【参考書】

河出書房 世界の歴史22 松田道雄 ロシアの革命

#### 【成績評価の方法と基準】

レポートによる。

手書きとし、インターネットの百科事典の丸写し等には単位を与えない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

信頼できる邦語文献に限られるので、レポートの際には注意する事。

#### 【Outline (in English)】

We will learn the history of Russia · Soviet from the liberation of serfs to establishment of Kolkhoz from a viewpoint, different from conventional Bolshevik one. Students will know the historical facts that are not familiar in Japan, such as the Mir Community, Zemstvo Union, Zemgor, Progress Blocks etc .

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>監査論Ⅱ (秋期スクーリング)</b>
<b>市川 佳功</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査を受けている企業の粉飾事例がしばしば報道されています。現代の財務諸表監査は企業の粉飾を見逃してしまうリスクと常に背中合わせといえます。そこで、財務諸表監査ではリスク概念を制度的に導入し、リスクに注意を払いながら監査をすることが要求されています。これを監査リスク・アプローチといいます。そして、監査が終了した後は、最終結論として財務諸表が適正か否かについて監査意見を表明します。これを監査報告といいます。監査報告の内容は財務諸表の適正性レベルによって異なってきます。「監査論Ⅱ」では、監査リスク・アプローチを理解したうえで、異なる監査報告の内容について学習して行きます。

#### 【到達目標】

リスクに注意を払いながら監査をするといういわば当然の事柄が、現代の財務諸表監査においてどのように制度的に盛り込まれているかを理解するとともに、監査を実施した結果に対応してどのような監査報告をすべきかを適切に判断するために必要な基礎知識を身につけることを到達目標とします。

期末の定期試験では基礎概念および事例問題についてしっかりと論じられるか否かを判断することによって目標到達度を確認します。なお、試験で簿記や会計に関する問題を出题することはありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、毎回アップする授業資料を参考に、指定テキストに基づいて自己学習する方法によります。『定期試験代替レポート』以外に学生に提出を要請するものではありません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	粉飾を見逃した事例紹介	粉飾とは何か。実際に生じた事例を紹介する
第2回	監査とリスク概念	現代財務諸表監査の基本であるリスク・アプローチの理解に必要な各リスク概念を説明する
第3回	リスク・モデルと重要性	各リスク概念を前提とした監査リスクをモデル化して説明する
第4回	企業環境の理解と監査計画	リスク・アプローチのスタートとしての企業環境の理解と監査計画との関係
第5回	固有リスクと統制リスク各論	固有リスクと統制リスクを具体的に理解する
第6回	重要な虚偽表示リスクの評価方法	重要な虚偽表示リスクの評価手続とどのように評価するのかを理解する
第7回	監査報告書	監査報告の意味と監査報告書の構成
第8回	監査意見と意見不表明	監査意見を表明しないこととなる原因は何か
第9回	不適正意見	不適正意見表明の原因は何か
第10回	追記情報	監査意見と追記情報の違い
第11回	後発事象	後発事象の監査上の取扱い

第12回	継続企業の前提	企業の継続性に関する監査上の対応方法
第13回	内部統制報告書に対する監査	内部統制報告書に対する監査制度の概要
第14回	財務諸表監査と内部統制報告書監査	両監査における監査意見の関係

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

監査論で学習する概念には抽象的なものが多く存在します。理解しにくい場合には、テキスト以外の書籍等も参考にして自らの理解を補強していく必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

伊豫田隆俊・松本祥尚・林隆敏『ベーシック監査論 七訂版』（平成27年10月30日）同文館出版3,800円＋税  
 なお、監査論Ⅱの講義の第1回目の講義開始までに最新版が出版された場合には最新版を購入してください。ただし、既に『ベーシック監査論 七訂版』を購入している場合には『ベーシック監査論 七訂版』の使用も可とします。

#### 【参考書】

長吉眞一/伊藤龍峰/北山久恵/井上善弘/岸牧人/異鳥須賀子【著】『監査論入門（第4版）』（2019年9月）中央経済社2,800円＋税  
 山浦久司【著】『監査論テキスト（第7版）』（2019年12月）中央経済社2,200円＋税

#### 【成績評価の方法と基準】

全14回の講義日終了後に提出される『定期試験代替レポート』により成績評価（配分100%）を行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

事例紹介が好評と思われるので今年度も可能な範囲で実施したいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業資料および『定期試験代替レポート』はPDFファイルでアップするので、これに対応したパソコン環境が必要です。

#### 【Outline (in English)】

In this lecture we will learn about the audit risk approach and audit reports in various cases.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>簿記Ⅳ (秋期スクーリング)</b>
<b>市川 佳功</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日商簿記検定1級レベルの商業簿記を学習対象とします。日商簿記検定1級では商業簿記と会計学、工業簿記と原価計算の知識が要求されますが、簿記Ⅳでは商業簿記のみを学習します。ただし、テーマを理論的に理解することも含まれます。

#### 【到達目標】

日商簿記検定1級の商業簿記の出題テーマは広範にわたっています。授業でこれらの全てのテーマを取り扱うことはできません。そこで、1級の中でも上場会社に適用されている特に重要であると思われる会計処理に関するテーマを選択して学習していきます。日商1級に合格するというより、実務社会でよく耳にする高度な会計制度の意味が理解できるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2, DP3」「商業学科：経営学・商学、会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、毎回アップする授業資料を参考に、指定テキストに基づいて自己学習する方法によります。『定期試験代替りレポート』以外に学生に提出を要請するものではありません。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	有価証券	有価証券の保有目的と期末の会計処理
第2回	有価証券	有価証券の減損処理と修正受渡基準
第3回	デリバティブ取引	デリバティブ取引と会計処理の基本
第4回	デリバティブ取引	先物取引の会計処理
第5回	ヘッジ会計	スワップ取引の会計処理
第6回	ヘッジ会計	ヘッジ取引とは何か
第7回	外貨建取引	繰延ヘッジと時価ヘッジの会計処理
第8回	外貨建取引	ドル単位で取引が行われた場合の会計処理
第9回	外貨建取引	外貨建資産負債の期末換算
第10回	固定資産 (圧縮記帳)	圧縮記帳の制度趣旨と会計処理
第11回	固定資産 (減損処理)	固定資産の減損処理の意味と会計処理
第12回	税効果会計 (総論1)	税法上の税金計算方法の概要
第13回	税効果会計 (総論2)	税効果会計の意味
第14回	税効果会計 (各論)	具体的な税効果会計の会計処理
第15回	純資産会計	純資産の部の表示
		株主資本等変動計算書
		自己株式の会計処理

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

簿記ができるようになるには問題を解くことが必要不可欠です。市販されている日商1級レベルの問題集をたくさん解いてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

神谷健司 市川佳功『簿記Ⅳ』法政大学通信教育部

#### 【参考書】

日商簿記検定1級 (商業簿記・会計学) の学習テキスト (各社が出版しています)

日商簿記検定試験1級の問題集 (各社が出版しています)

#### 【成績評価の方法と基準】

授業方法変更に伴い、全14回の講義日終了後に提出される『定期試験代替りレポート』(簿記の問題)により成績評価(配分100%)を行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

見やすい板書を心がけたいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業資料および『定期試験代替りレポート』はPDFファイルでアップするので、これに対応したパソコン環境が必要です。

#### 【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn about major themes that are important regarding the first grade of Nissho bookkeeping certificate.

MAN200TG (経営学 / Management 200) <b>経営学特講[商社活動と環境・CSRリスク] (秋期スクーリング)</b>
小林 一夫
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

#### 商社活動と環境・CSRリスク

変化が常態である今日、企業の社会的責任（CSR）に機軸をおいた健全なビジョンに基づく事業活動を推進することが、企業の経営に必須です。外部性の問題と広くはとらえられる環境問題ですが、甚大な影響を与える環境事故の発生を想起するまでもなく、グローバルでの企業活動において環境リスクに起因するマイナスの影響をできる限り回避し、顕在化することが、責任ある企業経営には欠かせません。事業活動と環境・CSRリスクについて、総合商社における具体的事例等から基本的見方とあるべき問題意識について学習します。

### 【到達目標】

総合商社のグローバル企業活動における環境・CSRリスクについて、具体的事例等を学ぶことで基本的な知識を整理し、概要を理解できるようにします。そして、社会的責任を基軸にするあるべき企業経営についての考え方の基本を理解し深められるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

テキストに加えて、Power Pointやレジメを使います。

授業方式は、資料配信型です。そのうち2回の授業はZOOMを使用する形式で行いたいと考えます。すなわち、第6回は、質問・疑問に直接答えられるようZoomを使い、また第14回「まとめ授業」でも、Zoomを使いたいと考えます。

一方、出席はとりませんが、ほぼ隔週の予定で全5-6回ほど簡単な課題（各提出締め切り期間は約1週間）を出します。皆さんのその回答提出（メール）から、学習の進捗を把握したいと考えます。また、双方向のコミュニケーションを図り基本的理解を深めるため、その日の授業の内容について質問や感想の提出を求めることがあります。尚、都度の配信資料は、指定教科書「第二版 商社活動と企業の社会的責任」（儲けるだけでは破滅につながる）[図書文化社刊、小林一夫著、2019年4月付第2版]をきちんと読み込むことを前提にした主に補足資料を考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	事業活動と環境・CSRリスク	講義内容のガイダンス
第2回	企業の社会的責任（CSR）	企業の社会的責任（CSR）概念及び変遷を理解するように努めます
第3回	社会的責任の観点から企業経営入門	企業経営とは、についての基本的知識を得ます
第4回	「環境問題」「環境とは」、及び「リスクとは」何か	公害問題を含め環境問題の歴史から環境リスクをレビューし、環境・リスクとは・環境リスク・CSRリスクについて基本的知識を得、整理します
第5回	事業活動と環境リスク その①	総合商社の現場とリスク認識、外部性について

第6回	事業活動と環境リスク その②	総合商社のグローバル関係会社と総合商社の事業展開事例から、リスク認識と対応の基本を学びます[質問・疑問に直接口頭で答えられるようZoomを使います]
第7回	環境影響評価、及び環境政策	環境リスクの把握と整理
第8回	環境マネジメントシステムの戦略的活用 その①	ISO14001環マネジメントシステム規格について 大規模な企業と中小規模の企業のあるべき環境マネジメントシステム
第9回	環境マネジメントシステムの戦略的活用 その②	総合商社における環境マネジメントシステムの活用、及び事業推進と環境対応・遵守体制の構築について
第10回	環境リスク、外部ステーク・ホルダーに対する開示	三井物産 統合報告書等を参照することで、「開示・説明責任」についての基本を理解できるようにします 「有限な地球」
第11回	資源循環	廃棄物の低減と3R(スリーアール)
第12回	気候変動問題への対応とエネルギー問題	気候変動問題と、日々の生活及び産業活動を支えるエネルギー問題について
第13回	生物多様性と生態系の保全	環境リスクの観点から生物多様性について
第14回	商社活動と環境・CSRリスク [まとめ]	環境・CSRリスクとグローバル企業活動に関し、講義全般をまとめ、理解を深められるようにします。（「まとめ授業」Zoomを使います）

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第二版「商社活動と企業の社会的責任」(図書文化社刊、小林一夫著)の「まえがき」、序章、第1章、第2章、そして 第3章、第6章、第7章、第10章を授業計画に沿い事前に準備学習として理解につとめてください。理解し難い箇所については、疑問点を整理し授業に臨むようにして下さい。

日経新聞等を丹念に読み、経済社会情勢をできる限り幅広く把握することを推奨します。

本授業の準備・復習に4時間/週あててください。

### 【テキスト（教科書）】

第二版『商社活動と企業の社会的責任』（儲けるだけでは破滅につながる）[図書文化社刊、小林一夫著、2019年4月付 第2版、1,600円+税]

### 【参考書】

『環境学 21世紀の教養』[京都大学で環境学を考える研究者たち] 編 朝倉書店、

『失敗学のすすめ』 畑村洋太郎、講談社

『テキスト経営学』[第3版] 井原久光、ミネルヴァ書房

その他必要に応じ、講義時に適宜指示します

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験： 70%

平常点： 30%

授業の内容について感想や質問の提出をもとめることがあります。その際、積極的な意見や質問がなされ授業に活かされたときは加点対象とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

テキストの関連箇所を授業の進捗に合わせ示すことで、関連知識の整理により役立てるようになります。

### 【学生が準備すべき機器他】

質問・疑問等に直接口頭で応えられるようにZoomを一部使用します。

### 【その他の重要事項】

受講する皆さんは、第二版『商社活動と企業の社会的責任』（図書文化社、2019年4月刊）の序章、第1章、第2章 にまず目を通しておくことを推奨します。

関連の深いコース:経営学特講「商社活動とCSR I(企業の社会的責任 (春期スクーリング))」

**【Outline (in English)】**

**General Trading Firm (Sogo-Shosha) Activities with Due Attention to Environmental Risk, as well as to CSR Risk**

Today, when change is normal, management based on a sound vision of CSR (Corporate Social Responsibility) is indispensable for every business. We will learn what management organization theory is, using Sogo-Shosha as a representative example of Japanese companies. When considering externality issues, one of the top priorities to be addressed is environment-related. In addition, we will learn "risk management" to avoid possible environmental problems in addition to major CSR issues. For sound corporate management, we will learn to acquire a basic perspective to mitigate risk, based on specific examples at General Trading Firms.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営管理論Ⅱ (秋期スクーリング)</b>
<b>松本 潔</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営管理論Ⅱにおいては、春期の学説・理論の歴史的な流れを踏まえ、それ以降の理論の理解促進を目的とする。具体的には「近代的組織論」C. I. バーナード、H. A. サイモンなどの意思決定論を取り上げ解説し、続いて組織と環境との適応行動を解く、T. パーンズらの「コンティンジェンシー理論」を考察していく。また、その後の新たな理論として、E. H. シェインなどの「組織文化論」、J. G. マーチらの「意思決定のあいまい理論」、K. E. ワイクの組織認識論などにも論及していく。

#### 【到達目標】

- ・経営管理の近代的理論および新たな理論・学説の意義を理解することができる。
- ・経営管理の理論と実際の企業活動についての関連性を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

オンライン授業に変更となったため、経営管理の諸理論についての解説・講義を中心として実施していきます。また、ポータルサイト上に掲示される資料を読んで理解を深めるとともに、その後のレポート課題に解答してさらに理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方および春期スクーリング「経営管理論Ⅰ」の振り返り
第2回	近代的管理論Ⅰ	組織協働の近代的理論Ⅰ（C. I. バーナード）
第3回	近代的管理論Ⅰ&Ⅱ	組織協働の近代的理論Ⅱ（C. I. バーナード）および組織の意思決定理論Ⅰ（H. A. サイモン）
第4回	近代的管理論Ⅱ	組織の意思決定理論Ⅰ（H. A. サイモン）
第5回	近代的管理論Ⅲ	組織の経営戦略理論（J. G. マーチ&H. A. サイモンおよびH. I. アンゾフ）
第6回	コンティンジェンシー理論Ⅰ	リーダーシップの条件適合理論（F. E. フィードラーのおよびP. ハーシー&K. H. ブランチャード）
第7回	コンティンジェンシー理論Ⅱ	組織構造の条件適合理論（T. パーンズ&G. M. ストーカーおよびJ. ウッドワード）
第8回	コンティンジェンシー理論Ⅲ	組織業績およびコンフリクト解決方法の条件適合理論（P. R. ローレンス&J. W. ローシュ）
第9回	組織文化論Ⅰ	シンボリック・マネジャーによる組織文化形成（T. デイール&A. ケネディ）

第10回	組織文化論Ⅱ	超優良企業の価値観共有による組織文化（T. J. ピーターズ&R. I. ウォータマン）
第11回	組織文化論Ⅲ	組織変革の視点からの組織文化（E. H. シェイン）
第12回	新たな経営管理の理論Ⅰ	意思決定のあいまい理論（J. G. マーチ&オルセン）
第13回	新たな経営管理の理論Ⅱ	組織の進化と組織認識論（K. E. ワイク）
第14回	新たな経営管理の理論Ⅲ&経営管理論Ⅱ総括	・知識マネジメント論の台頭（野中郁次郎、他） ・これまで学習してきた経営管理の諸理論の振り返りおよび今後の理論的な展望

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、事前に各授業スケジュールにおけるテーマについて下調べをしておくことと理解が促進される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

プリント教材を使用・配布します（※オンライン授業に変更となったため、ポータルサイト上に、授業で使用する資料を毎回配信します）。

#### 【参考書】

適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に変更となったため、14回分のレポート課題への解答により評価します。

※1回分のレポート解答の評価は、7点満点とし、14回分のレポートを全て提出した人には、2点をプラスし、7点×14回+2点=100点満点とします。また、レポートの提出は、2回に分けて提出していただきますが、それぞれの回数での未提分は、減点対象としますので、各授業回数後にレポート課題に速やかに取り組んでいただくことが前提となりますので、ご注意下さい。

#### 【学生の意見等からの気づき】

できる限り実際の企業事例を経営管理の理論や学説との関係性を踏まえ、その理解をいかにして深めることができるかに改善の努力を傾けていきたいと思っております。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

#### 【その他の重要事項】

教室授業からオンライン授業に変更になりましたので、ご了承の上でご受講ください。

#### 【Outline (in English)】

It's based on a historical flow of the theory taken up in the first term at this session, and I have for my object to deepen understanding of theory after that. Theory of the "contingency theory" etc. which solves a decision theory in "modern organization theory" and adaptive behavior with the organization and the environment is being considered specifically. I'm also referring to "organizational culture theory", "ambiguous theory of a decision making" and "organization recognizing theory" etc. as the new theory which will be after that later.

MAN300TG (経営学 / Management 300)

**演習[エリア・マーケティング] (秋期スクーリング)**

松本 潔

カテゴリー：秋期 | 予備登録の有無：

授業形態： | 単位数：2単位

期間：秋期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本演習では、テーマを「エリア・マーケティング」に焦点を当て、企業等における特定地域(エリア)の特性を考慮したマーケティング管理・活動のあり方を探求していく。特に、全授業スケジュールの前半は、オンライン授業による講義としてエリア・マーケティングの理論的な側面を学習し、その後半は、東京エリアに限定しての個人演習活動を通じて、その実務的な側面を考察していく

**【到達目標】**

・エリア・マーケティングの理論とその実際を理解することができる。  
・個人演習の場面を通じて、エリア・マーケティングの手法を修得することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

オンライン授業に変更となったため、個人演習での授業を中心とするが、エリア・マーケティングの理論的な理解を深めるため、ポータルサイト上に掲示された資料類を読んで理解するとともに、読後のレポート課題の解答に取り組むことでさらに理解を深めていく。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要、進め方などについて、また「エリア・マーケティング」の意味・位置づけについて、簡単に解説を行う。
第2回	「マーケティング論」概説	マーケティングについての基礎知識の学習を進める。
第3回	テキスト第I章	エリア・マーケティングの定義、およびその誕生の背景と成熟期のマーケティングの思考の重要性について学習する。
第4回	テキスト第II章	地域特性の理解とエリア・マーケティングのアプローチ方法について学習する。
第5回	テキスト第III章	エリア・マーケティングにおける地域差と市場特性について事例を踏まえて学習する。
第6回	テキスト第IV章	エリア・マーケティングにおける戦略的思考について学習する。
第7回	テキスト第V章	エリア・マーケティング展開のための実践的ステップを学習する。
第8回	個人演習の確認・準備	個人演習のための分析用ワークシートおよび資料類の説明・課題テーマの設定を行う。
第9回	個人演習の実施に際しての対象エリアの検討 (1)	調査対象の東京エリアの選定および調査分析事項の検討を行う。
第10回	個人演習の実施：人口・世帯数の動態分析 (2)	調査分析事項の確認を行い、個人演習として調査分析活動を進める。

第11回	個人演習の実施：卸売業の動態分析 (3)	調査分析事項の確認を行い、個人演習として調査分析活動を進める。
第12回	個人演習の実施：小売業の動態分析 (4)	調査分析事項の確認を行い、個人演習として調査分析活動を進める。
第13回	個人演習の実施：観光動向の分析 (5)	調査分析事項の確認を行い、個人演習として調査分析活動を進める。
第14回	個人演習の成果のレポート作成	個人演習の成果をレポート作成として行い、学習成果を総括してまとめる。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学授業において配布されたプリント教材の読み直し・再確認をすることが要求される。また、今回の授業テーマについて受講者が自分自身の消費行動について、自問自答しながらその特徴をイメージしてくることで各回の授業理解が促進される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

『エリア・マーケティングの実際 (最新版)』米田清紀著、日経文庫、およびプリントによる参考資料を配布する予定である。(※オンライン授業に変更となったため、ポータルサイト上に掲示された資料類を参照いただきます)

**【参考書】**

適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

14回分のレポート課題への解答により評価します。

※1回分のレポート解答の評価は、7点満点とし、14回分のレポートを全て提出した人には、2点をプラスし、7点×14回+2点=100点満点とします。また、レポートの提出は、2回に分けて提出していただきますが、それぞれの回数での未提分は、減点対象としますので、各授業回数後にレポート課題に速やかに取り組んでいただくことが前提となりますので、ご注意下さい。

**【学生の意見等からの気づき】**

一昨年度のアンケートによる受講者の声としては、できるだけ新しい事例研究を取り上げて欲しいという要望があり、この点を授業に反映させることを心掛けたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

教室授業からオンライン授業に変更になりましたので、ご了承の上でご受講ください。なお、第1回のオンライン授業の資料にもシラバス、授業スケジュール等を提示しますので、ご了承下さい。

**【Outline (in English)】**

In this exercise, we will focus on the theme of "area marketing" and explore how marketing management and activities should take into account the characteristics of specific regions (areas) in companies. In particular, in the first half of the semester, the theoretical aspects of area marketing will be studied as lectures, and in the second half, the practical aspects will be examined through group exercises using students who live in the local area. Students are expected to actively exchange opinions and information with each other.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講[航空輸送論] (秋期スクーリング)</b>
<b>恩田 登志夫</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

航空事業は、規制緩和が進んだことから既存航空会社間の競争が激しくなり、一企業だけで生存することが厳しくなりました。現在ではグローバル規模の連携やLCCをはじめとする低価格航空会社の台頭など、目まぐるしく変化しています。この講義では、航空ビジネス全般に関する現状と課題を学ぶことができる。

### 【到達目標】

- ① 運航方式の違いを説明できる。
- ② アライアンスの現状とメリットを説明できる。
- ③ LCCのビジネスモデルを説明できる。
- ④ わが国の空港経営の現状を説明できる。
- ⑤ 航空ビジネスとインバウンドツーリズムとの現状を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各授業ごとに講義内容をスライド形式で配布する。専門用語等は、スライドに記載するようにするが、各自で調べるにより理解を深めるようにしてください。質問等は、メールで回答致します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	航空ビジネスの概要	講義全般の主要なトピックを提示し、講義の方向性を示す。
2	航空輸送の歴史的発展経緯	航空事業の起源 わが国の航空輸送の草分け日本航空の設立
3	国際航空法	シカゴ条約 バミューダ協定以降の航空協定 航空運送人の運送責任
4	規制緩和とオープンスカイ政策	米国の規制緩和 米国のオープンスカイ政策
5	わが国の航空政策の変遷	航空法施行 45・47体制 1986年の新航空政策
6	低コスト航空会社(LCC)	LCCのビジネスモデル
7	運航方式の相違	ハブ・アンド・スポーク運航 ポイント・ツー・ポイント運航
8	サウスウエスト航空のビジネスモデル(1)	ノンフルル 二次的空港の積極的利用 10分間ターン
9	サウスウエスト航空のビジネスモデル(2)	サウスウエスト航空のビジネスモデルをテーマにディスカッション
10	アライアンス	航空会社間のアライアンスの現状 アライアンスのメリット 海運アライアンスとの比較
11	航空貨物輸送の歴史的経緯	航空貨物機の歴史的変遷 旅客機のベリー積載と貨物機による積載方法

12	航空フォワードターとインテグレーター	航空フォワードターの現状 インテグレーターの現状
13	わが国空港の現状と課題	わが国の空港の現状 わが国の空港が抱える課題
14	わが国の航空ビジネスとインバウンドツーリズム	インバウンド旅行者増加の現状 航空ビジネスとインバウンドビジネスにおける課題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業の事前に参考図書を確認して、要点を整理すること。

復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

必要なプリントを配布する。

### 【参考書】

『最新航空事業論』井上泰日子、日本評論社、2016年、3024円  
『航空産業入門』ANA総合研究所、東洋経済新報社、2017年、2592円  
『空港のはなし』岩見宣治・渡邊正己、成山堂書店、2018年、1728円

### 【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」  
航空会社に約20年勤務していたことから、実務経験を踏まえて説明する。

### 【Outline (in English)】

In the airline business, competition among existing airlines has intensified due to deregulation, and survival by only one company became strict. Today, global collaboration and the rise of low-cost airlines including LCC are changing quickly. In this lecture, you can learn the current situation and issues related to the airline business in general.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>演習[国際物流論] (秋期スクーリング)</b>
<b>恩田 登志夫</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済のグローバル化が進んでいます。わが国の企業は、諸外国に積極的に展開し、現地での生産・販売体制を構築・維持しなければなりません。それら企業の国際物流を担う国際物流事業者は、荷主と海運会社、航空会社の間で位置して、国際物流をプロデュースする役割があります。この授業では、国際物流の現状を学ぶことができます。

#### 【到達目標】

- ①ハブ・アンド・スポーク（フィーダー）システムを説明できる。
- ②多国籍企業の発展的4類型を説明できる。
- ③国際物流事業者の関係者を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

一般的な授業に加え、統計資料や視聴覚メディアを活用し、自ら考えることにより導き出す課題を出します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	国際物流の現状	国際物流の現状 国際物流業界構造とフレート・フォワーダーの現状
2	国際物流における基礎的理論	ハブ・アンド・スポークの概要と仕組み
3	企業の国際化	多国籍企業とは 多国籍企業の発展的4類型
4	定期船海運	定期船海運の概要 海運同盟の概要 アライアンスの現状
5	定期船海運の運賃	定期船海運の基本料金計算 定期船海運の諸料金
6	定期船海運の実務	定期船海運の現場組織
7	不定期船海運の現状	不定期船による輸送の概要 国際バルク戦略港湾の概要
8	港湾運送の現状	港湾業界の概要 国際コンテナ戦略港湾の概要
9	航空貨物業界の現状	航空貨物業界構造 航空貨物の輸送品の特徴 航空業界のアライアンスの現状
10	航空貨物運賃の仕組み（1）	航空貨物運賃計算の仕組み 一般貨物運賃率
11	航空貨物運賃の仕組み（2）	航空貨物運賃の計算 特定品目運賃率 品目別運賃率
12	国際複合輸送の現状と課題	国際複合輸送の歴史的経緯 国際複合輸送のルートの現状 複合運送人の責任
13	倉庫業界の現状	倉庫業法の理解 倉庫業の種類 保管料金の計算方法

14 ドレージ輸送の現状 現在、国際物流業界で大きな課題であるドレージ輸送の実態と問題点

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業の事前にテキストを確認して、要点を整理すること。

復習として、準備学習として要点を整理したことを、授業中のメモと確認し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『国際物流の理論と実務（6訂版）』鈴木暁他著、成山堂書店、

#### 【参考書】

『新貿易取引・基礎から最新情報まで』石原伸志他著、経済法令研究会出版、3024円（税込）

#### 【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」

航空会社に約20年の実務経験があるため、航空貨物輸送については、実務経験を踏まえて説明できる。

#### 【Outline (in English)】

Globalization of the economy is advancing. Companies in our country must actively develop in foreign countries and build and maintain local production and sales systems. International logistics companies that are responsible for international logistics of these companies are located between shippers, shipping companies, and airlines, and are responsible for producing international logistics. In this lesson, you can learn the current state of international logistics. Also, you can actually deepen your understanding by visiting international logistics providers.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>演習[人事政策論] (秋期スクーリング)</b>
<b>山崎 雅夫</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営は、人・物・金・情報から成り立ちます。特に人に関することは、企業にとって最も重視すべきことです。組織の中で中心となって動く人材がいなければ企業の存続はありえません。企業が必要な人材をどういう基準で採用し、育成し、配置するか、従業員に対する賃金や評価制度はどうあるべきかなど、人の問題を幅広く議論していきます。

#### 【到達目標】

企業の人に関する問題や課題について、実践的な考え方ができるようになることを到達目標とします。目先の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力が養われることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

オンライン(リアルタイム配信:Zoom)で行います。なお、資料配信(講義資料配布)も行います。インターネット通信環境とマイク・カメラの付いたPCやスマートフォンを用意して下さい。講義情報は「通信教育部ポータルサイト: Web学習サービス」から取得して下さい。状況により、講義計画を変更・調整することもあります。

毎回、リアルタイム配信(Zoom)で議論をします。

- ①進める上でのポイントを伝えます。
- ②設定した間についてグループで議論をしてもらいます。
- ③最後にグループの意見を発表してもらいます。

<https://bit.ly/2Yup07z>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要や進め方などについて確認を行います。
2	雇用管理 I	採用(採用計画、採用の種類、募集と選考など)について議論します。
3	雇用管理 II	配置・異動・昇進・雇用調整について議論します。
4	人材育成	能力開発やキャリアについて議論します。
5	人事制度	等級制度・評価制度について議論します。
6	賃金管理	賃金の本質、賃金体系・賃金制度、福利厚生について議論します。
7	労働時間管理	労働時間管理、メンタルヘルスについて議論します。
8	組織論	組織形態、組織文化、組織行動について議論します。
9	労使関係	労使関係について議論します。
10	少子化と高齢化	少子化と高齢化について議論します。
11	働き方改革、ワーク・ライフ・バランス	働き方改革、ワーク・ライフ・バランスについて議論します。

12	産業革命	産業革命がもたらす影響について議論します。
13	雇用・人事政策(国際比較)	雇用・人事政策(国際比較)について議論します。
14	まとめ	議論してきた内容についてのまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をして下さい。授業外学習として67時間が目安となります。

#### 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。

教科書は、佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2019)『新しい人事労務管理(第6版)』有斐閣アルマ、です。

#### 【参考書】

今野浩一郎・佐藤博樹(2020)『人事管理入門(第3版)』日本経済新聞出版。

山崎雅夫(2020)『技術者直観形成論 - 理論と実践』法政大学出版局。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験としてのレポート(70%)、平常点(30%)

平常点は双方向リアルタイム通信Zoomの講義中発言結果によって評価します。

期末レポートの詳細については、講義中にお知らせします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本講義は、応用(80%)：基礎(20%)の割合に設定しています。応用の学習効果を期待して議論(ディスカッション、ディベート等)を主体にしています。なお、基礎について希望される方は、経営学特講(秋期スクーリング)を受講いただくことをお勧めします。経営学特講(秋期スクーリング)は、応用(20%)：基礎(80%)に設定しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

インターネット通信環境とマイク・カメラの付いたPCやスマートフォンを用意して下さい。

#### 【Outline (in English)】

The field of Human Resource Management is one of the most dynamic and challenging areas. The turbulent business climate, caused by increased global price competitiveness, changing technologies, changing employment legislations, and changing workforce composition is challenging managers to utilize their employees more effectively to gain competitive advantage. The aims of this course are to equip students with practice of Human Resource Management through key concepts, theories, and cases. We will discuss a wide range of human resource problems.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講[人事政策論] (秋期スクーリング)</b>
<b>山崎 雅夫</b>
カテゴリー：秋期   予備登録の有無： 授業形態：   単位数：2単位 期間：秋期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営は、人・物・金・情報から成り立ちます。特に人に関することは、企業にとって最も重視すべきことです。組織の中で中心となって動く人材がいなければ企業の存続はありえません。企業が必要な人材をどういう基準で採用し、育成し、配置するか、従業員に対する賃金や評価制度はどうあるべきかなど、人の問題を幅広く学習していきます。

#### 【到達目標】

企業の人に関する問題や課題について、一般的な考え方ができるようになることを到達目標とします。目先の状況に左右されることなく、問題の本質をつかむ能力が養われることを期待します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

オンライン(資料配信型: 講義資料配布)で行います。資料に沿って学習を進めてもらいます。なお、リアルタイム配信:Zoom も活用します。質問がある場合は、リアクションペーパーに追加して書くか、設定しているZoom上で受け付けます。また、全14回の内、3回程度グループディスカッションをします。講義情報は「通信教育部ポータルサイト: Web学習サービス」から取得して下さい。状況により、講義計画を変更・調整することもあります。

<https://bit.ly/2CRtb5N>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の概要や進め方などについて確認を行います。
2	雇用管理Ⅰ	採用(採用計画、採用の種類、募集と選考など)について学習します。
3	雇用管理Ⅱ	配置・異動・昇進・雇用調整について学習します。
4	人材育成	能力開発やキャリアについて学習します。
5	人事制度	等級制度・評価制度について学習します。
6	賃金管理	賃金の本質、賃金体系・賃金制度、福利厚生について学習します。
7	労働時間管理	労働時間管理、メンタルヘルスについて学習します。
8	組織論	組織形態、組織文化、組織行動について学習します。
9	労使関係	労使関係について学習します。
10	若年者雇用	若年者雇用について学習します。
11	外国人労働者	外国人労働者について学習します。
12	非正規従業員と派遣労働者	非正規従業員、派遣労働者について学習します。
13	働き方改革、ワーク・ライフ・バランス	働き方改革、ワーク・ライフ・バランスについて学習します。

## 14 まとめ

学習してきた内容についてのまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をして下さい。授業外学習として67時間が目安となります。

#### 【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布します。

教科書は、佐藤博樹・藤村博之・八代充史(2019)『新しい人事労務管理(第6版)』有斐閣アルマ,です。

#### 【参考書】

今野浩一郎・佐藤博樹(2020)『人事管理入門(第3版)』日本経済新聞出版。

山崎雅夫(2020)『技術者直観形成論－理論と実践』法政大学出版局。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%)、小テスト(10%)、平常点(30%)

期末試験は、レポートによって評価します。

また、小テストと平常点はリアクションペーパー(適宜: 毎回ではない)によって評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本講義は、基礎(80%)：応用(20%)の割合に設定しています。なお、応用について希望される方は、演習(秋期スクーリング)を受講されることをお勧めします。演習(秋期スクーリング)は、基礎(20%)：応用(80%)に設定しています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Zoomへの参加には、インターネット通信環境とマイク・カメラの付いたPCやスマートフォンを用意して下さい。

#### 【Outline (in English)】

The field of Human Resource Management is one of the most dynamic and challenging areas. The turbulent business climate, caused by increased global price competitiveness, changing technologies, changing employment legislations, and changing workforce composition is challenging managers to utilize their employees more effectively to gain competitive advantage. The aims of this course are to equip students with knowledge of Human Resource Management through key concepts, theories, and cases. We will learn a wide range of human resource problems.

LIT100TA (文学 / Literature 100)
<b>文学 (夏期スクーリング)</b>
<b>中澤 忠之</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずですが、しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

### 【到達目標】

創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義中心です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第2回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第3回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第4回	近代文学の誕生①	言文一致 (いわゆる近代日本語)を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。 言文一致形成の全体像を確認する。
第5回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期 (明治10から20年代)の状況を作品を参照しながら確認する。
第6回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期 (明治30から40年代)の状況を作品を参照しながら確認する。
第7回	文学史第1期 (明治20~40年の文学)	リアリズム (写実主義)は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第8回	文学史第2期 (大正時代の文学)	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にした。

第9回	文学史第3期 (1920年代)	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第10回	文学史第4期 (1930年代)	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。
第11回	文学史総括	文学史全体の流れを復習し、現代の表現とも関係させる。
第12回	筆記試験。	論述。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行つて書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人はTSUTAYAの棚陳列がどういうジャンル区分に従っているのかよくわかってはいるはずですが、AKB48のファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはずですが。文学も同じです。小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』(村上春樹)と『時をかける少女』(筒井康隆)と『涼宮ハルヒの憂鬱』(谷川流)の3冊を読み比べてみてください。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

随時プリントを配布します。

### 【参考書】

なし。

### 【成績評価の方法と基準】

最後に行う期末試験が評価の主要な対象となります。授業への参加度 (平常点) も評価したい。評価の割合は期末試験が70%、平常点を30%とします。

### 【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

### 【Outline (in English)】

This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature.

How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.

HIS100TA (史学/History 100)
<b>日本史 (夏期スクーリング)</b>
永田 一
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、律令国家と蝦夷の関係について検討する。律令国家が蝦夷と戦ったことはよく知られているが、単純な対立関係だった訳ではない。時に蝦夷は朝貢し、東北地方では交易も行われた。この授業では、そうした両者の複雑な関係について、史料の分析をもとに考えていく。また、それを通じて歴史学の研究方法についても学んでいく。

#### 【到達目標】

律令国家と蝦夷の関係を理解し、歴史のさまざまな事象について多面的に考える姿勢を養う。また、史料の分析、先行研究を踏まえて論理を構築し実証する歴史学の研究方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

プリントを配布し、それに沿って講義形式で行う。史料や画像を提示し、学生がより明確なイメージを描けるように工夫する。

本授業では、古代の史料に「蝦夷」と表記された人々は何者かという問題の検討からはじめ、倭王権と蝦夷の関係を踏まえて、9世紀初頭までを対象に、律令国家の東北地方への進出、蝦夷との関係についてみていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	古代の「蝦夷」とは何者か	古代の史料に見える蝦夷とはいったい何者なのか。文献史学・考古学双方の研究を参考に考えていく。
第2回	大化改新以前の倭王権と蝦夷の関係	6世紀末から7世紀前半にかけて、倭王権が蝦夷との関係をどのように築いていったのかについて考えていく。
第3回	大化改新以後の倭王権と蝦夷の関係	大化改新以後の倭王権と蝦夷の関係について、斉明朝を中心に考える。
第4回	律令国家による東北地方への進出のはじまり	和銅から天平年間にかけて、成立したばかりの律令国家は東北地方に対しどのように進出していったのかについて考える。
第5回	藤原仲麻呂の東北政策	陸奥産金から藤原仲麻呂政権期における東北政策の特徴について考える。
第6回	古代東北の城柵	律令国家は東北地方へ進出するなかで、拠点として多くの城柵を築いていった。そうした城柵の機能と特徴について考える。
第7回	蝦夷の朝貢	7世紀末以降の蝦夷の朝貢について検討し、その意義について考える。

第8回	三十八年戦争のはじまり	宝亀5年（774）から弘仁2年（811）にかけて、律令国家は繰り返し蝦夷征討を行った。この三十八年戦争がはじまった理由と当初の様相について考える。
第9回	坂上田村麻呂の活躍	桓武天皇は大規模な蝦夷征討を繰り返すなか、坂上田村麻呂を抜擢した。坂上田村麻呂が東北政策で果たした役割について考える。
第10回	三十八年戦争のおわり	嵯峨天皇のもとで、三十八年戦争は終結する。この戦いはいかにして終結し、東北地方に何をもたらしたのかについて考える。
第11回	捕虜となった蝦夷の行方	蝦夷征討を通じて捕虜となった蝦夷の中には東北地方以外の地域に移住させられたものも多かった。そうした人々のその後について考える。
第12回	試験・まとめと解説	律令国家と蝦夷はどのような関係にあったのかについてまとめる。また、試験を行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

（予習）参考書に目を通しておくことが望ましい。

（復習）配布したプリントを読み返しておくこと。また、引用した史料にもしっかり目を通し、史料に基づいて考察する姿勢を養って欲しい。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。プリントを配布します。

#### 【参考書】

鈴木拓也『戦争の日本史3 蝦夷と東北戦争』（吉川弘文館、2008年）  
熊谷公男編『東北の古代史3 蝦夷と城柵の時代』（吉川弘文館、2015年）

鈴木拓也編『東北の古代史4 三十八年戦争と蝦夷政策の転換』（吉川弘文館、2016年）

#### 【成績評価の方法と基準】

試験（100%）で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

史料や図・表などを充実させ、より理解しやすいプリントの作成を心がけます。

#### 【Outline (in English)】

In this lesson, we will examine the relationship between Ritsuryo State and Emishi. It is common knowledge that Ritsuryo State fought against Emishi. But Ritsuryo State was not always in antagonism with Emishi. Emishi sometimes paid tribute to the court and exchanged in Tohoku region. We will analyze source and examine the complex relationship. And we will study the method of historical science.

PHL100TA (哲学 / Philosophy 100)
<b>哲学 (夏期スクーリング)</b>
<b>梶澤 和彦</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学とは、問題となる事柄の原理的な解明によって、その解決を探索していく人間の知的営為のことを意味します。夏期スクーリングでは、わたしたちが日々の生活の中で遭遇する様々なテーマを取り上げ、教員や他の受講生と一緒に哲学の考え方を学んでいきます。学習内容としては、哲学の主要概念や方法のほか、わたしたちの身の回りで起こる差別、抑圧、暴力、これらに関する解決策として赦し、寛容、仁恵、さらに、現代文明の喫緊の課題である AI と人間の知性を取り上げます。本授業は、これらの問題について熟慮し、相互の議論を通して、自分で考える力、討議する力、表現する能力をつけることを目的とします。

### 【到達目標】

- ①日常生活で出会う様々な出来事から哲学・倫理学の問題を捉え、原理的に探究する思考法を身につけることができる。
- ②具体的な事例に即して哲学・倫理学の概念や学説を理解し、それを文章にまとめることができる。
- ③グループディスカッションと全体発表を通じて、自他の見解の相違を知り、自分の考えをより一層深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、プロジェクター等の AV 機器を使いながら講義形式で行います。各授業の開始時に課題プリント（印刷物）を配布し、その日の授業終了

時に回収します。さらに、各テーマの終了時にグループディスカッションおよび全体発表を行い、様々な観点から内容理解の深化を図ります。課題プリントの下に感想・質問欄を設けてあります。質問は、授業中にも随時受け付けますが、その欄に書いていただいても結構です。書かれてあった質問は、次の授業の初めにお答えします。受講生の積極的な参加を望みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	導入：哲学とは何か	シラバスの内容を説明するほか、三木清とガダマーのテキストを使って、哲学の課題と方法について説明します。
第2回	差別、暴力、赦し：教科書第1章「持続可能性の哲学と津波でんこ」	暴力と悪の概念及びその多義性、「津波でんこ」とその解釈の多義性、赦しと約束の可能性、について説明します。
第3回	差別、暴力、赦し：教科書第1章「持続可能性の哲学と津波でんこ」	東日本大震災における大川小学校の悲劇、赦しの課題と倫理、時間概念の変換、語り伝えることの意味と役割について解説します。

第4回	グループディスカッションと全体発表	暴力や悪の根源、赦しの可能性について少人数のグループで考えていきます。
第5回	共同体と寛容：教科書第2章「境界線上のエリア」	共生と寛容、その限界（パラドクス）、反知性的なものとの対決について考えます。
第6回	信頼と仁恵：教科書第4章「生命・医療倫理とゲシュタルトクライ」	人格的転回と医学的人間学、ゲシュタルトクライス、パトス（信頼・仁恵）の概念について説明します。
第7回	グループディスカッションと全体発表	寛容と仁恵の可能性について少人数のグループで考えていきます。
第8回	AI と人間の知性：教科書第3章「AI にはなにができないか」	人工知能（AI）の概念、その飛躍的發展、AI の二つの道を解説します。
第9回	AI と人間の知性：教科書第3章「AI にはなにができないか」	知識及び認識の概念、経験論と合理論、人間に可能なことと不可能なことを説明します。
第10回	グループディスカッションと全体発表	AI と人間の関係について少人数のグループで議論します。
第11回	授業全体のまとめ	概念整理と質疑応答
第12回	筆記試験	概念の説明と論説問題

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業前に教科書の該当箇所を目を通し、あらかじめ概要を把握しておいて下さい。また、参考書や関連書籍を使って、専門用語の意味等を理解してください（2時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）や返却されたリアクションペーパーを読み直してください。また、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えや理解をノートにまとめてください（2時間）。

### 【テキスト（教科書）】

牧野英二・小野原雅夫・山本英輔・齋藤元紀（編）『哲学の変換と知の越境－伝統的思考法を問い直すための手引き』（法政大学出版局、2019年、本体価格 3,000円＋税）ISBN 978-4-588-13026-7

### 【参考書】

- ①三木清著『哲学入門』（岩波新書、赤版 R 8、1976年、本体価格 780円＋税）ISBN 4-00-400008-4 C0210。（青空文庫にも所収）
- ②齋藤元紀（編）『連続講義 現代日本の四つの危機 哲学からの挑戦』（講談社選書メチエ、2015年、本体価格 1,800円＋税）ISBN 978-4062586085

### 【成績評価の方法と基準】

- ①課題プリントの評価が全体評価の 25% を占めます。課題プリントの評価については、哲学の概念とその議論を正しく理解しているかどうかを基準とします。
- ②グループディスカッション及び全体発表への積極的な参加は 25%。共同討議の評価は、自分と異なる立場の特徴をよく理解できているかどうか、また、それを踏まえたうえで、自分の考えをより深く、説得的に表現することができているかどうかを基準とする。
- ③筆記試験は全体評価の 50%。試験問題は、概念の説明と論説問題からなります。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を十分に取ります。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

オフィス・アワーについては、その日の授業後に質問を受けつける時間を作ります。

### 【Outline (in English)】

Philosophy refers to the intellectual practice of human beings

who search for the solution by fundamental elucidation of the matter in question. In the summer schooling, we take up various themes we encounter in our daily lives and learn philosophical ideas with the teacher and other students. The content of learning includes not only the main concepts and methods of philosophy, but also the themes of (1) the discrimination, repression, and violence that occur in our surroundings, (2) the forgiveness, tolerance, and beneficence as the solutions regarding these problems, and (3) the artificial intelligence (AI) and humans, which are urgent issues of modern civilization. The purpose of this class is to give students the ability to think, discuss and express one's own ideas through the learning and discussion.

LAW100TA (法学 / law 100)
<b>法学 (夏期スクーリング)</b>
<b>葉 晶珠</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法学一般に関する基本的な知識を講義します。履修者が、条文と判例を手がかりに、法学の基本概念と原理を理解し、現代日本法の基本構造を把握できることを目標とします。

#### 【到達目標】

- ①法学に関する基本的な概念と重要な原理を説明できるようになります。
- ②現代日本法の基本構造について基礎的な理解を獲得します。
- ③代表的な判例の検討を通して、現代社会の諸問題を法学的な観点から思考する能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

指定テキストに沿って講義を行います。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション+法学概説	法による紛争解決のプロセス、法の存在形式 (法源)、裁判制度のしくみなど
第2回	人権総説	人権の内容・分類、人権の主体、私人間における人権保障 (三菱樹脂事件)
第3回	幸福追求権、法の下での平等	プライバシーの権利、法の下での平等、尊属殺等重罰規定、投票価値の平等
第4回	精神的自由権	思想・良心の自由、表現の自由、検閲の禁止、代表的な判例など
第5回	経済的自由権と社会権	職業選択の自由、二重の基準、合理性の基準、社会権と生存権、教育を受ける権利、労働基本権
第6回	人身の自由と裁判手続	法定手続の保障、憲法31条、明確性の原則、死刑と残虐刑の禁止など
第7回	家族関係と法	家族法総説 (家族法の近代化、体系など)、夫婦関係、親子関係、相続と遺言
第8回	財産関係と法	財産権の保障、権利行使の基本原則、契約の自由、損害賠償
第9回	労働関係と法	労働法の性格と体系、労働者保護法、労働基本権の保障
第10回	犯罪と法	刑法の役割、刑法の基本原則、罪刑法定主義の意義と内容 (徳島市公安条例事件など)、犯罪の成立要件
第11回	国家と法	近代憲法と国家、明治憲法、外見的立憲主義、日本国憲法の基本原則、違憲審査制、憲法判断の回避、司法権の限界

#### 第12回 単位修得試験

夏期スクーリングの試験の受験資格を有する受講生のみが対象である。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの該当箇所を予習し、分からない用語などを事前に調べておくこと。また、復習として、講義期間中に配布される課題集に回答すること。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

西村健一郎ほか『判例法学 第5版』(有斐閣ブックス、2012年) ¥2,400+税

#### 【参考書】

- ①入門書：末川博編『法学入門 第6版補訂版』(有斐閣双書、2014年)
- ②条文：各種六法 (出版社は問わない)
- ③各法分野の参考書は指定テキスト該当章の最終頁に掲載されているものを参照してください。

#### 【成績評価の方法と基準】

最終講義時に行う筆記試験によって成績を評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に用いるスライドの内容につき、授業前にプリントを配布する予定です。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of the role of law in society, the basic concepts and principles of law. We also introduce important provisions and major judicial precedents to help students to develop a legal mind during the course of their studies.

ECN100TA (経済学 / Economics 100)
<b>経済学 (夏期スクーリング)</b>
<b>福田 泰雄</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

拡大する格差と貧困、高まる将来の生活不安、これら生活問題の現状、およびその原因と対策を講義します。つまり現代日本の経世済民（世を治め民を救う）論を講義します。取り上げる具体的なテーマは、劣化する労働条件、社会保障とその財源にかかわる税・財政政策、国民の命に関わる農業・食料問題、そしてWTO/TPP貿易協定についてです。私たちの生活にかかわるこれらの問題はそれぞれ無関係というわけではなく、いずれも「巨大株式会社の権力と所得分配」、具体的には巨大株式会社への所得集中が諸問題の基礎にあり、この分配関係の発現としてそれぞれの問題が生じています。こうした現実の問題とその根本原因を考える作業を通して、経済学とは何か、つまり理論、現状分析、および政策論としての経済学を学びます。

### 【到達目標】

国民生活の問題は所得・富の分配問題と表裏一体の関係にあります。その所得・富の分配がどのようにして決定されるのか、現代の日本経済・グローバル経済に即して具体的に学びます。個々のテーマについて理解を深めることがまずは目標になります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

プリントした資料を配布し、講義形式で授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	資本主義とは何か。	A. スミス、K. マルクスの資本主義論
第2回	現代資本主義—レーニンの時代からWTOの時代へ	巨大株式会社の権力：市場集中と一般集中、新自由主義政策
第3回	所得・富の格差と貧困拡大	巨大企業への所得集中が格差拡大と貧困拡大を生み出すことを論じます
第4回	労働規制緩和と非正規雇用	ワーキングプアの増大
第5回	累積する財政赤字と財政政策	財政問題の深刻化、貧困を拡大する社会保障制度「改革」
第6回	分配構造の変化と税制改革	消費税しか選択肢はないのか？法人税減税、低率配当課税のままで良いのか？ MMT理論は有効か。
第7回	戦後農業の自由化と農業衰退	食料自給率37%の現状とその原因、規模拡大・企業参入・農協解体で道は開けるのか
第8回	農業の自由化・民営化と食の安全	規模拡大と効率化—辺倒の工業化農業で食糧主権、食の安全、農業の持続性は保障されるのか？
第9回	地域経済の衰退、住まいの貧困	公共サービスの欠落と民営化・民間活力活用という名の公共サービスの払い下げ

第10回 政・官・財トライアングル 日本の政策決定の仕組み

第11回 日米FTA交渉と日米交渉力を欠いた日米外交  
米安保体制

第12回 まとめ 試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義を復習し、疑問点をまとめ次回の講義の時に質問できるようにする。

本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

### 【参考書】

福田泰雄『コーポレート・グローバリゼーションと地域主権』（桜井書店、2010年）、福田泰雄「TPP協定は国民の主権、生存権を放棄する」（『経済』2016年10月）、「NHK特集：食卓のかげの星条旗」（[http://www.dailymotion.com/video/x2fg9dq?GK\\_FACEBOOK\\_OG\\_HTML5=1](http://www.dailymotion.com/video/x2fg9dq?GK_FACEBOOK_OG_HTML5=1)）、西谷敏ほか『日本の雇用が危ない』（旬報社、2014年）、今野晴貴・藤田孝典『闘わなければ社会は壊れる』（岩波書店、2019年）

### 【成績評価の方法と基準】

授業で実施するアンケート（質問・講義要点理解）30%、試験70%。試験問題はあらかじめ授業で指示します。その中から各自選択し、講義と自宅学習を踏まえて解答してください。ノートと配布資料は持ち込み可。

### 【学生の意見等からの気づき】

資料を解説す時もマイクを使う。

### 【学生が準備すべき機器他】

無し。

### 【Outline (in English)】

Our economic life and the issue of distribution of income and wealth are closely tied to each other. We learn how the distribution of income and wealth is decided, based on Japanese economy or global economy.

PSY100TA (心理学 / Psychology 100)
<b>心理学 (夏期スクーリング)</b>
<b>田中 圭</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の諸領域の基本的な理論や考え方に関する基礎知識を習得し、心理学がどのような学問かを学ぶための授業である。

知覚、学習、発達、社会、臨床など心理学全体について概観し、日常生活の中での経験と関連づけ人間の様々な心理的機能について理解を深めることが目的である。

#### 【到達目標】

心理学の主要分野を概観し、心理学の基礎知識を習得することができる。

人の心の基本的な仕組みおよび働きについて理解を深め、他人や自分の行動についての洞察力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパー提出。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション・知覚	図と地、錯覚
第2回	学習1	古典的条件づけによる学習
第3回	学習2	道具的条件づけによる学習
第4回	学習3	動機づけ
第5回	記憶1	記憶のメカニズム
第6回	記憶2	自伝的記憶
第7回	発達	発達段階、発達課題
第8回	青年	アイデンティティ
第9回	自己	自己意識
第10回	社会	社会行動に影響を及ぼす諸変数
第11回	臨床	ストレス、コーピング
第12回	試験	試験・まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。主要理論について自分の言葉で簡潔にまとめておくことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業時にレジュメを配布する。

#### 【参考書】

榎本博明 2013 『はじめてふれる心理学 第2版』

#### 【成績評価の方法と基準】

試験点（80%）、ミニレポート（20%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

授業中作業をする機会がありますので、積極的に参加してください。

#### 【Outline (in English)】

In this class, students learn basic theories and ways of thinking in various areas of psychology, and learn what psychology is.

This psychology class introduces perception, learning, developmental, social, clinical and others.

BIO100TA (その他の総合生物・生物学 / Biology 100)
<b>生物学3 (講義) (夏期スクーリング)</b>
<b>植木 紀子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNAから細胞・個体を作り上げられるしくみを学びます。さらに、遺伝子組換え作物や再生医療といった私たちの生活や社会に関わる技術について考えます。生物学の進歩は、私達の生活ばかりでなく、「生命観」という基本的な考え方にまで影響を与えていることがわかってくることでしょう。

#### 【到達目標】

1. 生物学の基本的な知識と概念を身につけます。
2. 最新の生物学研究、倫理的問題、社会における生物学の役割を理解します。
3. 自然科学の問題に対峙する過程で、論理的に文章を書く力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

生命観の変化をもたらした科学的発見・技術革新を取り上げ、解説します。授業は、講義形式で行い、板書を基本とします。毎回、10～15分程度の映像教材を呈示します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどのように説明するか。その考え方について、紀元前から現在までの変化を概説します。
第2回	ダーウィン進化論	ダーウィンは、地球上の生命は単一の起源から進化したという「進化論」を提唱しました。以降の生物学の進歩で、進化論は現在どのように考えられているのか解説します。
第3回	メンデル遺伝学	メンデルは「遺伝子」という考え方を19世紀に提唱しました。その後、遺伝子の正体がDNAであることがわかり、生物学は大きく進歩します。
第4回	化学反応と酵素	今から200年ほど前「発酵」は化学反応か生物活動かという大論争が起きました。その後、酵素が発見され、多くの生命現象は酵素による化学反応であることが判明しました。
第5回	微生物工場	発酵食品は、微生物が増殖しながら代謝産物を放出する性質を利用して作られます。人工的に作られた微生物で薬品も製造されています。微生物の活用の歴史について学びます。

第6回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体はDNAという二重らせん構造をとる物質でした。その発見の歴史を学びます。
第7回	生命情報	DNAが遺伝情報を保持するシステムとして働くために、どのようなしくみが存在しているのか解説します。
第8回	ウイルスと生命	ウイルスは19世紀末に病原体として発見され、単なる物質とも生命体ともえられています。生物にとってウイルスはどのような存在なのかを学びます。
第9回	遺伝子組み換えとゲノム編集	DNAを改変することで新たな性質をもつ生物を生み出す手法が開発されています。その原理を学びます。
第10回	食糧問題とバイオテクノロジー	人工的に遺伝子を改変された生物は、我々に恩恵をもたらす一方で、社会問題も引き起こしています。遺伝子改変技術が内包する問題点を考えます。
第11回	ゲノムと医療	個人のDNA全塩基配列の情報から、先天性の病気にとどまらず体質まで予測する時代になりました。今後ゲノムデータとどのようにつきあえばよいかを考えます。
第12回	遺伝子治療	遺伝子が原因で起きる病気は、遺伝子を改変することで治療が可能です。原理的には人間を強化することも夢ではありません。ヒトの遺伝子改変の是非について考えます。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生の皆さんは、生物学に関係するニュース番組や記事を見よう心がけてください。復習としては、授業の要約を作成し、提出してもらいます。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

教科書は無し。

#### 【参考書】

参考書は必要に応じて授業内で提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業の要約文を作成し、提出してもらいます。成績は、100%提出された要約文によって評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces students to a general knowledge of biology and technologies which influences our society. This class presents evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

MAT100TA (数学 / Mathematics 100)
<b>数学3 (夏期スクーリング)</b>
<b>若井 健太郎</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、経営数学やグラフ理論に関する話題を例として、いろいろな問題解決方法について学ぶ。

#### 【到達目標】

数学で用いられる考え方に接し、実際に問題を解けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	マッチング	仕事を割り当てる方法について学ぶ。
第2回	割当て問題	全体の利益が最大になる、仕事の割当て方について学ぶ。
第3回	順序づけ問題	早く仕事を終わらせるための、順序の決め方について学ぶ。
第4回	演習	これまでに学んだことを確認するための演習を行う。
第5回	数当てゲーム	2進数とその応用について学ぶ。
第6回	一筆書き問題	グラフ理論の用語や考え方を学ぶ。
第7回	集合場所問題	総移動距離が最も小さくなる集合場所の求め方を学ぶ。
第8回	演習	これまでに学んだことを確認するための演習を行う。
第9回	試合の対戦表	対戦表の背後にある考え方とその応用について学ぶ。
第10回	最短道路網	総距離が最小になるような道路の作り方について学ぶ。
第11回	演習	これまでに学んだことを確認するための演習を行う。
第12回	試験	これまでに学んだことを総合評価するための筆記試験を実施する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。  
本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

「文化系の応用数学入門 増補版」小林みどり 著、牧野書店、2005年

#### 【参考書】

特になし。

#### 【成績評価の方法と基準】

最終回に行う試験によって評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

#### 【Outline (in English)】

Mathematics is said to be language, indeed, it is a tool used in various places. In this lesson, you learn about various problem solving methods by taking topics on business mathematics and graph theory as examples.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

**基礎特講（夏期スクーリング）**

徐 玄九

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：3群終日

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会学は私と他者が、そして過去と現在と未来が相互に結びついていて、その過程で形成される関係構造が個人に与える影響や逆に個人が及ぼす影響を捉えようとしてきた。この授業の目的は社会学の基礎概念および方法論を学ぶことである。これらは、経験的な世界の多様な要素間の相互関係を理解するための有用な道具となる。社会学を学ぶ意義は「理解を通して寛容を生み出すとともに、寛容を通して理解を生み出す」（Z・パウマン）ことであり、最終的には社会や時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付ける（=教養を身に付ける）である。

**【到達目標】**

- (1) 個人を超えた社会現象を捉えるための基本的な概念や方法論を理解できる。
- (2) 社会秩序の形成と変化に関する理論を歴史的、思想的に理解できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は基本的に講義形式で行うが、可能なかぎり双方向的な進め方を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、出来る限り多くの事例を用いて身近なものから抽象的なものへと話題を進める。場合によっては、絵画や映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。また数回、予習・復習の課題も課す予定であり、講義の終わりにリアクションペーパーを兼ねたミニテストを行う。この際出された質問や感想については、次回の講義で質問に答え、感想を紹介する時間を設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の趣旨、概要の説明
第2回	社会における宗教の役割	E・デュルケームの宗教に関する議論をとおして個人の内面性と集団の関係性を学ぶ
第3回	「思わざる結果」としての近代	M・ウェーバー『プロトスタンていずむの倫理と資本主義の精神』の一部講読
第4回	科学と真理	近代の自然科学の登場と宗教の関係
第5回	社会科学の誕生	社会科学の社会的起源
第6回	個人を超えた社会現象	E・デュルケーム『自殺論』の一部講読を通して社会という概念の理解を深める
第7回	相互行為の形式	G・ジンメル『社会学の根本問題』の一部講読
第8回	支配の三類型	M・ウェーバー支配の三類型概念をとおして合理化の概念を学ぶ

第9回	国家の存在意義はなにか	M・ウェーバーの国家に関する定義をベースにT・ホブズ、J・ロック、A・スミス对国家に対する見解を学ぶ
第10回	政治をどのように理解すべきか	M・ウェーバー『職業としての政治』をはじめ、K・シュミットとG・アガンベンの議論をとおして政治を理解するための基礎を学ぶ
第11回	近代社会の変容	Z・パウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読を通して現代社会を理解するための基礎を学ぶ
第12回	試験	まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用います。

**【参考書】**

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。  
ジークムントパウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ』大月書店。  
ジグムント・パウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第2版〕』ちくま学芸文庫。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（50%）と試験（50%）で評価します。平常点は、質疑応答、ミニテスト形式のリアクションペーパーなどで評価します。試験は、基本的には論述式ですが「授業の到達目標」に応じて、かつ講義内容をふまえながら論理的に書き述べているかを基準に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

- ①受講生の多角的な理解を図るために視聴覚教材も取り入れます。
- ②より多くの質疑応答の時間を設けて受講生との疎通を図ります。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で使う資料（レジュメ、参考文献の抜粋）は授業担当者が用意します。

**【Outline (in English)】**

This course aims to familiarize students with the basic concepts and theories utilized in understanding social contexts and phenomena and to develop students understanding from both a micro and macro perspective.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (1) (夏期スクーリング)</b>
Urbanova Jana
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースは皆さんの「聞く」「話す」「読む」「書く」という4つの技能の能力をレベルアップすることを目指します。とりわけ英語のリスニングとスピーキングを重視します。皆さんに、会話の練習などを通じて、アクティブなコミュニケーション、意見交換を行う、というスキルを身につけて頂くことが目的です。

### 【到達目標】

1) You will learn how to express your opinion more effectively by practising listening, speaking, reading and writing exercises on various topics

2) You will be encouraged to improve your communication skills and develop critical thinking by engaging in pair work

3) The main goal is to become more confident and effective users of English in the future

1) 様々なテーマに関するリスニング、スピーキング、リーディングやライティングの練習を通じて、自分の意見を英語で自在に表現できる

2) ペアワークなどで英語のコミュニケーション能力や自由に考察する能力を高める

3) 英語に興味や自信を持ち、将来に向けて英語を効果的に使えるスキルを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1) ペアワーク、会話（スピーキング練習）

2) リーディング、リスニング、ライティング、論理的思考の練習

3) ゲーム、歌を楽しみながら英語を自然に覚える練習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
第2回	Let's Learn a Song	Listening to a song; Active learning of vocabulary and phrases used in the lyrics; Active use of dictionary
第3回	Passions and Hobbies	Listening to talk and dialogue; Learning useful phrases when talking about your interests; Grammar explanation and practice: present simple
第4回	Passions and Hobbies	Talking about favourites: pair work; Reading a text about a music band; Learning new vocabulary; Homework: Introducing yourself by email

第5回	Spending habits	Listening to talk and dialogue; Learning useful phrases when talking about your habits; Grammar explanation and practice: adverbs and expressions of frequency
第6回	Spending habits	Practising dialogue: Talking about shopping; Reading and writing exercise: Buy Nothing New Month
第7回	Effective self-introduction	Watching video with tips for effective self-introduction; Preparing self-introduction
第8回	TED Talk	Watching TED Talk; Understanding main points and learning vocabulary in context
第9回	Job and working life	Vocabulary related to jobs; Listening to conversation; Grammar explanation and practice: like and would like
第10回	Job and working life	Learning useful phrases when asking about and describing jobs; Practising dialogue: Talking about jobs
第11回	Model presentation	Watching model presentation; Preparing and practising presentations in pairs; Tips for good body language
第12回	Final test	Final written test; Submission of self-introduction; Feedback and comments

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Class preparation, vocabulary and grammar review, homework, preparing self-introduction, preparation for final test. 本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

The instructor will distribute prints. Students do not need to buy textbook.

授業中に適時プリントを配布します。教科書を購入して頂く必要はありません。

### 【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

その他の参考書については授業中に紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

積極的な授業への参加が期待されます。また、宿題、自己紹介および最終日に行われる筆記テストを勘案して成績を評価します。

- Class attendance and active participation: 20%
- Active use of English: 10%
- Homework: 10%
- Written self-introduction (submitted on the last day): 20%
- Final test (paper test): 40%

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

● 授業中に配布されたプリントをまとめるためのファイル

● 授業内容を見返すためのノート

● 辞書／電子辞書

(英和・和英辞典の他に、English-English dictionaryも必要。スマートフォンなどの通信端末を含むオンラインアクセスが最も望ましい。)

### 【その他の重要事項】

Communication is important and it can be fun!

**It is OK to make mistakes, so don't be afraid to communicate.**  
アクティブなコミュニケーションも評価の対象です。一緒に楽しく頑張りましょう。  
授業を登録した学生の英語レベルに応じて実際の授業内容はシラバスの内容と異なることもあります。ご了承ください。

**【Outline (in English)】**

This course is for students who want to improve their four English skills (listening, speaking, reading and writing). Special emphasis will be placed on active communication and improving your listening skills. You will learn how to better understand spoken English and will have an opportunity to engage in pair discussion and learn how to express your opinion effectively. First language of the classroom will always be English, however if any issues that might be difficult to understand come up, the instructor will explain them in Japanese.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (2) (夏期スクーリング)</b>
<b>萩原 真一</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

通信教育部の履修者として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしなが、さらに向上させることを目標とします。

授業は4技能（リーディング、ライティング、リスニング、およびグラマー）の学習を中心にを行います。春学期と秋学期のリーディングとリスニングの教科書としては、3分程度のCNN（一般放送よりも英語が易しく簡潔）が15本精選され、それぞれにComprehension QuestionsやSummaryなどの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中にDVDを視聴してもらい、親しみやすい英文に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。

また、春学期・秋学期を通じてグラマーとライティングの能力の向上も目指します。ライティングについては、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法の習得を目指します。

#### 【到達目標】

履修者が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。履修者が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には履修者が100点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ60点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 "Longest Model Train"[世界最大級の鉄道模型ジオラマ] ①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第2回	Unit 1 "Longest Model Train"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第3回	Unit 2 "No Phones in French Schools"[フランスの学校はスマートフォン持ち込み禁止?] ①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第4回	Unit 2 "No Phones in French Schools" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第5回	Unit 3 "Food on Instagram"[「インスタ映え」の影響] ①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。

第6回	Unit 3 "Food on Instagram"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第7回	Unit 4 "Knocker-Uppers"[早起きするにはどうしたらよい?] ①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第8回	Unit 4 "Knocker-Uppers" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第9回	Unit 5 "New TVs"[未来型テレビ] ①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第10回	Unit 5 "New TVs" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。英語で書く練習も行います。
第11回	Unit 6 "Teaching English as a Second Language"[アメリカで英語を第二外国語として教える] ①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第12回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

関戸冬彦他著『CNN 10 Student News Vol.8』（朝日出版社、2020年）1800円（税別）

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

試験（90点）を実施し、試験結果に平常点（10点）を加算した上で、100点満点のうちほぼ60点以上を獲得した場合、合格とします。平常点の扱いに関しては初回授業等で明示します。また試験の受験資格については、通信教育部の方針に従います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

DVDを視聴できる機器。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading and listening abilities by use of CNN News. Participants can live the stories and see America and the world widely and deeply, and learn about the historical, social, and cultural backgrounds of the videos.

This course also aims to improve participants's grammatical ability and their academic writing skill they will be asked to gain as students at Hosei University School of Correspondence Education.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語 S (3) (夏期スクーリング)</b>
<b>塩谷 幸子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：1群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成します。

#### 【到達目標】

基礎文法を習得した方が初級から中級レベルを目指すための英語クラスです。主な目標は英文を正確にすばやく読み取る力を養うことです。そのために英文を意味の塊ごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行います。音声に合わせて聞き読みをしたり、声に出して読む練習も繰り返し行います。辞書の使い方を理解し、基本語彙の定着を図り、平易な英語で自分の意見を伝える表現力を養います。また、一人で勉強を続けるために必要な自発的学習方法についての情報も共有します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は映画教材を中心に進めます。ペア・ワークやグループ・ワークを積極的に取り入れながら、クラスメートと共に効率よく学習します。英語⇄日本語の変換練習や音読練習を毎回行います。また、映画を見ながらアメリカの社会や文化についての理解も深めていきます。映画は『エリン・プロコピッチ』（3人の子供を抱えるシングルマザーが企業の環境汚染を暴いた実話に基づく作品）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	Unit 1・映画視聴
第2回	Unit 2: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第3回	Unit 2: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline & Vocabulary in Use
第4回	Unit 4: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第5回	Unit 4: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline & Vocabulary in Use
第6回	Unit 6: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第7回	Unit 6: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline & Vocabulary in Use
第8回	Unit 8: Reading	Phrase reading & Oral reading practice
第9回	Unit 8: Reading comprehension	Vocabulary Check, Grasping the Outline & Vocabulary in Use
第10回	Unit 10: Reading	Phrase reading & Oral reading practice

第11回 Unit 10: Reading comprehension Vocabulary Check, Grasping the Outline & Vocabulary in Use

第12回 期末試験 & 発表 まとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。  
 ・「授業計画」を参考に予習を行ってください。とりわけ、各単元の Vocabulary Check は必ず解答しておきましょう。  
 ・授業期間中は音声聞いて読む練習を繰り返し行います。すきま時間にも練習ができるように、教科書の音声は出版社の指定サイト（教科書に記載）からダウンロードし、スマートフォンや音楽メディア等に保存しておくことが望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

English on Screen: Learning Real English through Erin Brockovich『映画「エリン・プロコピッチ」で学ぶ実践英語の基本』(金星堂, 2015)

#### 【参考書】

伊藤サム「英語の世界：やさしくたくさん」< <http://mellow.na.coocan.jp/easy.htm>>

古川昭夫『英語多読入門(めざせ! 100万語)』(コスモピア, 2010)

Eiko Tsunekawa「EIGLOBAL ENGLISH—スラッシュリーディングの方法とコツ」< <https://knowledge-plus.com/english/802/>>  
 その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50%＋小テスト20%＋音読20%＋課題10%によって評価します。成績評価は100点満点とし、60点以上が合格となります。出席については、以下のスクーリングの規定に準拠します。  
 < 6日型(夏・冬スクーリングの午前・午後・夜間)>

(1) 6日間合計 12 コマ(1日 2 コマ×6日)のうち 8 コマ以上(体育実技・書道実技は 10 コマ以上)出席していること(各コマの遅刻もしくは早退は、0.5 コマ分の出席としてカウントする)。

(2) 最終日(試験日)のみ、前半授業を 2 コマとしてカウントする(欠席は 2 コマ分の欠席、遅刻もしくは早退は 1 コマ分の欠席)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートによると、授業内容に概ね理解と満足が得られたようです。毎回音読練習を行った結果、読むことへの抵抗感が無くなったというコメントや、扱った映画教材を通してアメリカの歴史に興味を持てるようになったという回答が寄せられました。ペア/グループ・ワークや席替えを頻繁に行ったことにより、学生間の交流が生まれたというコメントもありました。一人で勉強を続けるのは辛いものです。これからも仲間と助け合って続けて欲しいと願っています。授業では教科書以外に、TOEICの問題や自学習方法、学習サイトの紹介など色々なことを行いましたので、消化不良になるのではと心配していましたが、学習意欲が湧いてきたという前向きな意見があり安心しました。毎回授業冒頭で行った洋楽クイズも楽しんでもらえたようでした。一方、授業の進め方が速かった、指示が解りにくいことがあったとの指摘がありましたので、改善に努めたいと思います。文法の説明を配布教材に記載してはどうかという提案がありました。今後の授業に是非取り入れていきたいと思っています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

・辞書の使い方を指導しますので、紙媒体、電子版、アプリなどの辞書を持ってきてください。

・スマートフォンをお持ちでしたらご持参ください。単語クイズを行ったり、いろいろなウェブサイトを紹介いたします。使用しなくても授業に支障をきたすようなことは一切ありません。

(※大学のWi-Fi使用には事前のユーザID取得が必要です。詳細は通信教育部に問い合わせてください。)

#### 【Outline (in English)】

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively in order to become responsible global citizens.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will learn to express their opinions on a variety of topics from a critical-thinking perspective.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (4) (夏期スクーリング)</b>
<b>折笠 真美</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英語Sコースは、大学での基本的な英語力の育成を目的としています。コースでは、タスクや課題を通じて、英語で効果的なコミュニケーションを行うためのリスニング・ライティングのスキルを習得することを目指します。課題はリスニングやライティングが中心となります。

**【到達目標】**

By the end of the course, students will:

- (a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics in writing.
- (b) be able to write a summary.
- (c) be able to write paragraphs in an organized and logical manner.
- (d) learn about plagiarism and how to avoid it.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Each class will have listening and written activities as well as a short lecture by the instructor. Homework assignments will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Course Overview	-
	Warm-up Activity	Writing
	BBC English at University Episode 1	Listening
第2回	Paragraph Writing 1 (Organization)	Writing & Reading Grammar & Mechanics
	Warm-up Activity	Writing
第3回	Review from Day 1	-
	BBC English at University Episode 2	Listening
	Paragraph Writing 2 (Topic Sentence)	Writing & Reading Grammar & Mechanics
第4回	Warm-up Activity	Writing
	Review from Day 2	-
第5回	BBC English at University Episode 3	Listening
	Paragraph Writing 3 (Supporting Sentences)	Writing & Reading Grammar & Mechanics
	Warm-up Activity	Writing

第7回	Warm-up Activity	Writing
	Review from Day 3	-
	BBC English at University Episode 5	Listening
第8回	Paragraph Writing 4 (Concluding Sentences)	Writing & Reading Grammar & Mechanics
	Warm-up Activity	Writing
第9回	Review from Day 4	-
	BBC English at University Episode 6	Listening
	Paragraph Writing 5 (Outline)	Writing & Reading Grammar & Mechanics
第10回	Warm-up Activity	Writing
	Review from Day 5	-
第11回	BBC English at University Episode 8	Listening
	Review & Final Exam	Writing
	Warm-up Activity	Writing

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework and class preparation will take about one hour per class.

**【テキスト（教科書）】**

Handouts will be distributed by the instructor.

**【参考書】**

<http://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/features/english-at-university/>

**【成績評価の方法と基準】**

Grading will be based on the following criteria: active participation (20%); homework assignments (40%); final exam (40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

NA

**【学生が準備すべき機器他】**

Dictionaries

**【その他の重要事項】**

Academic dishonesty is unacceptable (cheating, plagiarism etc.).

The schedule above is subject to change.

**【Outline (in English)】**

This course is designed to develop students' basic academic English skills required in university. The objective of the course is to help students acquire listening and written skills to communicate effectively in the English language through class activities. The course will provide students with an opportunity to (1) be familiar with the language used in university, (2) improve writing fluency, and (3) develop academic English writing skills.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (5) (夏期スクーリング)</b>
高橋 佳江
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

5文型を中心とした文法で簡単な英語を使って、自分たちでまとめた内容の文章を作って発表できることを目標とする。  
また、シャドーイングの練習も行う。

#### 【到達目標】

発音の誤り、誤字脱字、ケアレスミスをなくしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第1課 飛行機内にて	この教科書の使い方 第1課 単語 ディクテーション
4	第1課	リスニング 口頭練習
5	第2課 入国手続き	第1課小テスト 単語 ディクテーション
6	第2課	リスニング 口頭練習
7	第3課 ホームステイ	第2課小テスト 単語 ディクテーション
8	第3課	リスニング 口頭練習
9	第4課 日本の文化	第3課小テスト 単語 ディクテーション
10	第4課	リスニング 口頭練習
11	第5課 交通機関	第4課小テスト 単語 ディクテーション
12	授業時試験	授業で学んだことの確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語帳の作成、書き取り練習に毎日各1時間充ててほしい。

#### 【テキスト（教科書）】

グローバルキャリアをめざして 辻 他著 2015年 三修社  
2000円

ISBN978-4-384-33448-7 C1082

#### 【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%・小テスト・レポート課題 10%・平常点 10%。  
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。遅刻は3回で欠席1回に換算される。学期中に半分以上欠席した者（遅刻の換算も含め）は、名簿から削除する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

英作文の添削をもっと多く行っていきたい。

#### 【Outline (in English)】

The primary objective of this class is the development of English listening skills.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語 S (6) (夏期スクーリング)</b>
<b>井上 紗央里</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NHK 英語放送のニュースを利用したテキストを使用し、音声、映像を使用したリスニング、ニューススクリプトの読解、語彙、文法、会話表現等の習得を行います。

#### 【到達目標】

1. ニュース音声を使用して英語の音声に慣れ、リスニング力を強化する。
2. ニューススクリプトの読解を通して英語の文法、語彙を強化し、読解力を身につける。
3. 時事問題に触れることで、社会の状況に関心を持ち自分の意見を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業では、語彙の確認、演習の答え合わせ、リスニング練習、ニューススクリプトの読解、発音練習などを行います。演習問題やニュースの内容などについて適宜受講生に質問をしますので、質問に答えられるように事前に指示された箇所を予習をしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction, Unit 1 Gunning for Glory その1	イントロダクション（授業の進め方、予習のやり方など）と Unit1 の語彙の確認、リスニング演習、Unit1 本文解説前半
第2回	Unit 1 Sprouting New Sushi Ideas その2、Unit 2 Video Bingeing その1	Unit 1 本文解説後半、演習問題、発音練習、Unit 2 の語彙の確認、リスニング練習、本文解説前半
第3回	Unit 2 Video Bingeing その2	Unit 2 本文解説後半、演習問題、発音練習
第4回	Unit 3 Speaking Their Language その1	Unit3 の語彙の確認、リスニング練習、本文解説前半
第5回	Unit 3 Speaking Their Language その2、Unit 4 Creativity from the Campus その1	Unit 3 本文解説後半、演習問題、発音練習、Unit 4 の語彙の確認、リスニング練習、本文解説前半
第6回	Unit 4 Creativity from the Campus その2	Unit 4 本文解説後半、演習問題、発音練習
第7回	Unit 5 Firms Help Fight Plastic Pollution その1	Unit5 の語彙の確認、リスニング練習、本文解説前半

第8回	Unit 5 Firms Help Fight Plastic Pollution その2、Unit 6 Foreign Students Get Helping Hand その1	Unit 5 本文解説後半、演習問題、発音練習、Unit 6 の語彙の確認、リスニング練習、本文解説前半
第9回	Unit 6 Foreign Students Get Helping Hand その2	Unit 6 本文解説後半、演習問題、発音練習
第10回	Unit 7 Fighting Food Waste その1	Unit7 の語彙の確認、リスニング練習、本文解説前半
第11回	Unit 7 Fighting Food Waste その2、全体のとまとめ	Unit 7 本文解説後半、演習問題、発音練習、授業全体のまとめ
第12回	試験とまとめ	第1回目から11回目の内容について試験と全体のまとめを行います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各ユニットの Before You Watch の語彙の問題を事前に解く。
  2. テキスト巻末に掲載された方法でPCかスマートフォンを利用して専用のウェブサイトアクセスし、事前にニュース映像を見る。
  3. ニュース映像の音声を聴き News Story 本文の空欄のディクテーションを行う。
  4. News Story の英文をよく読み、わからない単語、表現等は事前に辞書で調べておく。
  5. 各ユニットの演習問題を事前に解いておく。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 3 映像で学ぶNHK 英語ニュースが伝える日本3 (金星堂) 山崎達郎, Stella M. Yamazaki, Erika C. Yamazaki 編著 2,400円(+税) ISBN 978-4-7647-4095-2 <https://www.kinsei-do.co.jp/books/4095/> (中古のテキストを購入すると動画閲覧パスワードが掲載されていないかたり視聴期限が切れている可能性があるため新品を購入してください。)

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

試験50% (筆記試験とリスニング試験、参照不可) 平常点 (授業での学習状況、発言、提出物、小テスト等) 50%

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講者のレベルに合わせた速度で授業を進めていきたいと思っています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業では英単語を調べられる辞書 (本の英和辞書、電子辞書、辞書アプリ等) を持参してください。予習でニュース映像を見るためにインターネットに接続できるPCかスマートフォンが必要になります。インターネットの使用が難しい場合は第1回目の授業で教員に相談してください。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' vocabulary, grammar, reading, and listening skills through watching and reading current affairs in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills and enlarge knowledge of current events.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語 S (7) (夏期スクーリング)</b>
<b>磯部 芳恵</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course builds upon skills on knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook and authentic materials.

Students will learn about aspects of culture and society across cultures, while building their communication skills in all aspects.

#### 【到達目標】

The first goal of this course is to enable students to learn about various cultural aspects from around the world. The second goal is for students to develop discussion and critical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

The first language of the classroom is English.

Classroom methods include:

1. The textbook includes various activities
2. short lectures and explanations by the teacher
3. pair and group discussions
4. short oral reports
5. short written comments and report

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 A Look at Gold	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第2回	Unit 2 Daylight Savings	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第3回	Unit 3 Making Libraries	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第4回	Review	Review Unit 1-3 Try this , one more time
第5回	Unit 4 Pyramid Tech	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第6回	Unit 5 Pigments	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion

第7回	Unit 6 Shopping Tech	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第8回	Review	Review Unit 4-6 Try this , one more time
第9回	Unit 7 Origami	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第10回	Unit 8 ice Cream	Vocabulary Transcript Completion and Summary Discussion
第11回	Presentation	Students give a presentation.
第12回	Review and wrap-up	Review and in-class test

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to do listening homework, which involves completing a transcript exercise and make a summary of each unit. In addition, students will research a variety of topics and give a presentation. The topic should be related to the one in the textbook.

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

#### 【テキスト（教科書）】

CNN 10 Vol. 2 – Student News – <2019年> (朝日出版社) 1800円。

#### 【参考書】

Students will use online information resources to research and prepare presentations.

#### 【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on three criteria:

Class participation, 30 %, Presentations, 10 %, Tests, quizzes, 60 %.

#### 【学生の意見等からの気づき】

None

#### 【学生が準備すべき機器他】

English-Japanese or English-English dictionary.

#### 【その他の重要事項】

出席は学校の定める規定による。

#### 【Outline (in English)】

This course builds upon skills on knowledge gained from English 1 and 2 and aims to provide students with opportunities to have critical thinking skills and express their opinions on different topics in English, using the textbook and authentic materials.

Students will learn about aspects of culture and society across cultures, while building their communication skills in all aspects.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語 S (8) (夏期スクーリング)</b>
<b>光野 昭雄</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プリントと環境宣言を英文で読みながら学生諸君の読解力を養成すると共に、アメリカという国について考える。

#### 【到達目標】

辞書を引きながら学生諸君自身で英文を読めるように指導する。英文に限らず文章を読むのには目的が必要である。本講座ではアメリカという国について英文を通して知識を得ながら、考えて行きたいと思う。その過程で必要な英単語力、構文読解力が身につくように指導したいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

背景を説明した後に、英文を読み進める。学生諸君に読んでもらうが、訳の出来不出来は問題としない。訳の不足分を説明しながらその内容について考察したいと思う。考える事に中心を置きたいので、細かい文法的説明は避けたいと思う。ある程度訳したら、その内容について学生諸君の考えを書いてもらう。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	背景	アメリカという国について説明する。
第2回	アメリカ	移民
第3回	アメリカ	世界最初の民主国家
第4回	アメリカ	アメリカ人とは
第5回	アメリカ	教育問題
第6回	アメリカ	教育問題
第7回	アメリカ	教育問題
第8回	アメリカ	日米関係
第9回	アメリカ	アメリカンドリームと環境問題
第10回	アメリカ	アメリカンドリームと環境問題
第11回	総括	アメリカについてのレポート
第12回	試験とまとめ	試験とまとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に必ずその回の単語の意味を調べ、一読しておくこと。本授業の準備・復習学習は、合わせて1時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

『人間環境宣言』（鳳書房）

#### 【参考書】

『沈黙の春』レイチェル・カーソン（新潮文庫）

#### 【成績評価の方法と基準】

授業中のレポート30%、試験70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生諸君に理解できるように丁寧に説明をしたと思う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

テキストPP.21-26を事前に読んでおくこと。  
授業中使用するプリントは最初の時間に教室で配付する。

#### 【Outline (in English)】

This class will show how your English reading skill on America can be developed.

LANd100TA (ドイツ語 / German language education 100)
<b>独語S (夏期スクーリング)</b>
<b>宮城 学</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語圏の文化や情報を、ドイツ語で収集できるようにドイツ語の基礎訓練を行います。動詞や冠詞などの語形変化に慣れるのが目標です。アルファベット、文字、発音から始め、動詞の変化を中心に文の基本構造を学びます。

#### 【到達目標】

ドイツ語の音や単語に親しみ、文を組み立てる基本的なルールを身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式ですが、練習問題を中心に学生諸君に発音、発言していただく機会を多くとっていきたくと思っています。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文字と発音(1)	学習の仕方、辞書等について。 アルファベット、母音と綴り字の関係。
第2回	文字と発音(2) 単語・簡単なあいさつ	子音と綴り字の関係。
第3回	動詞の変化(1) 疑問文	人称代名詞と動詞の現在人称変化。
第4回	まとめ	第1回から第3回までの復習と練習。
第5回	名詞の性と定冠詞	<b>der</b> の格変化
第6回	<b>dieser</b> 型の格変化	<b>dieser</b> や <b>welcher</b> の格変化を学びます。
第7回	不定冠詞と <b>mein</b> の格変化	<b>ein</b> と <b>mein</b> の格変化を学びます。
第8回	まとめ	第5回から第7回までの復習と練習。
第9回	否定文	<b>nicht</b> や <b>kein</b> を用いて否定文を作る練習をします。
第10回	動詞の変化(2)	変音するタイプの動詞について学びます。
第11回	人称代名詞について	人称代名詞の3格と4格を学びます。
第12回	まとめと確認試験	試験によって既習事項の到達度を確認します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や課題は重要な予習ですので必ずしてくるようになっています。また前回の既習事項を確認してから授業に臨むようにしましょう。本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

素朴なぞもんからわかるドイツ文法  
著者：高田博行  
出版社：郁文堂

価格：1800円＋税

#### 【参考書】

授業中に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（平常点）（40%）および第12回目に行う確認テスト（60%）により評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生諸君の理解度・習得度を確認しながら授業を進めていくよう心掛けています。総合的に満足のいく評価をいただいておりますが、やはり語学は「わかった」よりも「できた」が大切です。真の実力がつくように反復練習を増やしていきたいと思っています。

#### 【Outline (in English)】

The students will get a basic training in German so that German-speaking culture and information can be collected in German. The goal is to get used to the changes of word such as verb and article.

LANf100TA (フランス語 / French language education 100)

**仏語S (夏期スクーリング)**

柴崎 秀穂

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：1単位  
 期間：2群午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語の初歩的な会話と文法を学びます。

**【到達目標】**

簡単なフランス語が話せて、聞いて、書けて、読めるようになること。実用フランス語技能検定試験の5級レベルに対応します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

CDを聞き、教師が解説した後、学生たちに基本例文を暗記してもらいます。その後、指名された学生が口頭で発表します。単語についても同様に暗記します。テキストの練習問題は適当に飛ばし、2回の授業でテキストの1課を終える予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Leçon 1	授業の進め方等の説明 アルファベ 国籍を言う
第2回	Leçon 1	主語人称代名詞 「～である」
第3回	Leçon 2	職業・身分を言う
第4回	Leçon 2	er 動詞現在形
第5回	Leçon 3	名詞の性と数
第6回	Leçon 3	否定文
第7回	Leçon 4	「持つ」 否定の冠詞
第8回	Leçon 4	疑問文
第9回	Leçon 5	所有形容詞 疑問詞
第10回	Leçon 5	形容詞の性と数
第11回	Leçon 6	定冠詞
第12回	期末試験とまとめ	期末試験とその解説、総復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『カフェ・フランセ』、ニコラ・ガイヤール他著、朝日出版社

**【参考書】**

『ゼロから始めるフランス語』、猪狩著、三修社

**【成績評価の方法と基準】**

平常点50%、期末試験50%で総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【その他の重要事項】**

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般についてアドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っているので、英語との比較でフランス語を解説します。

**【Outline (in English)】**

Students taking this course will learn French conversation and grammar.

HSS100TA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)
<b>スポーツ総合演習 (夏期スクーリング)</b>
<b>鈴木 良則</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

人の健康には生活リズムが大切です。その要素として、食事、運動、休養のバランスが重要となってきます。

本講義では、なぜ運動が必要か？ どのような運動が良いか？ どのように運動をするのか？ を考えていきます。

運動と言っても、単にスポーツ活動を行うだけでは、時に怪我をしたり、効率の悪い活動であったり、自己満足しかえられない、目的にかなわないような活動も観られます。そこで、体のしくみを知り、運動のメカニズムを考えてみましょう。その中から、効率的で、安全な動かしかたを考え身につけて行きましょう。

**【到達目標】**

- (1) 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- (2) 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- (3) 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- (4) 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- (5) 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本演習ではスポーツを将来の生活に根付かせるための知識と実践方法に触れられるよう展開することで、生涯を健康的に過ごすために必要と考えられる態度を養い、そして習慣化するための課題を提供をします。

生涯スポーツの一つとして「ゴルフ」があり、社会人になって本格的に始めようとする人も、初期の段階で「基本」が間違っていれば悪い癖となり、直すのに苦労をします。この授業では「ゴルフの基本」を身体運動学を基に「ゴルフスイング作り」を中心に行います。コロナの影響で実技ができないので講義における説明が中心となります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	スクーリング全体の説明
第2回	講義 健康学 生涯スポーツ	健康と運動
第3回	講義 運動学	体の仕組みと動かす仕組みを説明する。
第4回	実技 運動学演習 生涯スポーツとしてのゴルフ	運動とその実践方法 クラブを振る時のからだの使い方を身につける。

第5回	講義 ゴルフスイングの構造	生涯スポーツとしてのゴルフの楽しみ方、ゴルフスイングの原理について講義をする。
第6回	講義 ゴルフのスイング作り	1. アドレスの仕方 2. スタンス 3. バックスイング 4. トップスイング 5. フォロースイング 軸と体重移動
第7回	講義 ゴルフスイングの構造	
第8回	講義 スイング1 スイング2 スイング3	ショートスイング ミドルスイング フルスイング スイングコントロール
第9回	講義 球技スポーツ	身体の使い方
第10回	講義 ネット対面しきスポーツ	道具の使い方と身体の構造
第11回	講義 格技スポーツ	身体の使い方 相手とのやり取り
第12回	講義、小論文	総括

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。各回の授業計画に対して、予習と復習をする。  
実施した授業に関する課題をレポートにまとめる用意をする。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは特に使用しない。  
必要に応じて資料を配布します。

**【参考書】**

1. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
2. 斉藤恭平ほか『健康・運動・スポーツのtopics』八千代出版

**【成績評価の方法と基準】**

評価は「授業時評価」と「小論文」で行い、その配分は授業時評価が60%、小論文が40%です。  
各授業におけるリアクションペーパーを授業評価とし、小論文評価と合わせて採点します。

\*授業時評価において、遅刻や欠席はマイナス評価となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

パワーポイントなどを使用し理解しやすい授業を心がける。  
今回、講義のみチューブなどの映像を使いやりやすいく行う。  
特に高齢者に対し留意する。

**【学生が準備すべき機器他】**

特に準備はいらない。  
教室での講義には、パワーポイントも使用しわかりやすい様心がける。

**【その他の重要事項】**

授業を受講するにあたり、その日の体調についても同様に、変化があるときは申し出てください。  
講義時は、更衣不要。

**【Outline (in English)】**

I deepen understanding about significance and the role of the physical activity and bring up the acquisition and a manner of the underlying knowledge to contribute to a maintenance increase and self-administration of the physical mental society-like health through a life through a lecture and training. Life rhythm is important for the health of the person. As factor, I eat, and exercise, the balance of the rest become important. Why is exercise necessary for this lecture? What kind of exercise is good? How do you exercise? I think about this. I sometimes have an injury even if I say exercise only by playing sports, and being merely active, and it is an inefficient activity, and the activity that I do not have realized for the purpose that I am complacent and am not returned to is watched. Therefore I know the structure of the body and will think about mechanism of the exercise. Is effective from that, and is safe; move it, and a thought will master a person.

HSS100TA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)
<b>健康・スポーツ科学概論 (夏期スクーリング)</b>
<b>大須賀 洋祐</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、健康・スポーツ科学分野における応用的な健康問題を学習するために、「科学的根拠に関する基礎知識」、「疾病予防と運動」、「介護予防と運動」の3つを学習テーマにして取り組みます。

#### 【到達目標】

1. 科学的根拠に関する基礎知識を獲得する。
2. 疾病予防と運動に関する基礎知識を獲得し、各種疾病を予防するための具体的な運動方法を説明できるようになる。
3. 介護予防と運動に関する基礎知識を獲得し、介護予防のための具体的な運動方法を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商学学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

この授業の目標を達成するためには、健康・スポーツ科学分野における応用的な健康問題について、まずは「知る」、次に「考える」、そして「行動 (計画) する」ことが重要となります。講義、質疑応答、小テストを通して知識を深め、グループワークを通して考えて行動する能力を向上できるよう、授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとオリエンテーション	授業の全体概要、ねらい、進め方、到達目標、成績評価などを説明する。
第2回	科学的根拠に関する基礎知識①	科学的根拠とは何か？ について具体的に説明できるようになる。
第3回	科学的根拠に関する基礎知識②	科学的根拠の正しい捉え方について具体的に説明できるようになる。
第4回	科学的根拠に関する基礎知識③	質疑応答と小テストを通して、科学的根拠に関する基礎知識を一層深める。
第5回	疾病予防と運動について学ぶ①	肥満症、高血圧、脂質異常症と運動
第6回	疾病予防と運動について学ぶ②	糖尿病、心疾患、脳血管疾患と運動
第7回	疾病予防と運動について学ぶ③	グループワークを通して、各種疾病を予防するための具体的な運動方法を説明できるようになる。
第8回	疾病予防と運動について学ぶ④	質疑応答と小テストを通して、疾病予防と運動に関する基礎知識を一層深める。
第9回	介護予防と運動について学ぶ①	転倒、サルコペニア、フレイルと運動
第10回	介護予防と運動について学ぶ②	閉じこもり、認知症と運動
第11回	介護予防と運動について学ぶ③	グループワークを通して、介護予防のための具体的な運動方法を説明できるようになる。

第12回 介護予防と運動について学ぶ④ 質疑応答と小テストを通して、介護予防と運動に関する基礎知識を一層深める。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義内容の理解度が高まるように、また、質の高いグループワークを行えるように、毎回情報を収集してから授業に参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

#### 【参考書】

エクササイズ科学 (田中喜代次・田畑泉編/文光堂/2012)  
※購入する必要はありませんが、あると授業の理解度が深まります。

#### 【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況 (出席率、遅刻の有無) が60%、2) 授業の到達目標に対応した小テストが40%の配分で総合評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望を勘案して、今年度よりテスト問題は記述式+選択式とします。

#### 【Outline (in English)】

This class challenges to three themes including "basic knowledge of scientific evidence", "exercise and disease prevention", and "exercise and disability prevention" to learn practical health problems in the area of health and sports science.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>須藤 純正</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在わが国には存在する死刑制度について、これが人類の歴史の中でどのような機能を果たしてきたかを振り返り(過去・現在、世界に存在する政治的死刑についても考えます)、国際人権や比較法的観点を交えつつ、その運用状況の実態を明らかにするとともに、その存続・廃止論などについての考察を深める。

#### 【到達目標】

死刑適用がありうる重罪事件についての裁判員裁判が実施されて我々がこれにかかわることが要請される中で、受講生はこの授業が終了した時点で、具体的な事件に際して、単なる感情論ではなく、かつ、思考停止に陥ることなく、広い視点から合理的に死刑適用の当否を考えられるようになる。

国際的あるいは歴史の見地から、死刑存廃論や死刑執行における適正手続について自分なりの視座を持つことが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎回1つのテーマが設定されていて、その観点から幅広く、かつ掘り下げて死刑について考えてみる。基本的に講義形式を予定しているが、授業の残り20分くらいをディスカッションに充てる。100分授業の中間に10分程度の休憩をはさむが、その際にリアクションペーパーに質問事項、コメントを書いてもらい、それを授業の後半で紹介し回答する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 死刑制度の世界の歴史	授業の概要の説明 西欧、日本における死刑制度の歴史
第2回	政治的死刑	ソクラテス、イエス、ルイ16世、千利休らの処刑、大逆事件、特攻出撃命令、集団自決命令、東京裁判、テロと死刑、暗殺命令。
第3回	死刑の代替刑	流刑、恩赦、死刑執行停止、死刑モラトリアム運動。
第4回	死刑とえん罪	合理的な疑いを超える証明とえん罪の発生確率、死刑えん罪の救済 (諸外国の取組み、日本との比較)。再審の壁。
第5回	応報刑論と死刑	応報主義の諸形態、社会と応報、被害者と応報、仇討。
第6回	アメリカの死刑制度	存置州と廃止州、人種バイアス、執行の公開と被害者遺族、薬物注射による執行
第7回	アメリカの死刑をめぐる憲法判断	ファーマン違憲判決、グレッグ合憲判決、スーパー・デュー・プロセス
第8回	わが国の死刑基準	憲法36条との関係 永山則夫事件 殺害された被害者の数 裁判員裁判と死刑判断

第9回	わが国の死刑制度の運用	死刑犯罪 法が定める死刑手続 執行の告知時期 死刑囚の人権の制限
第10回	国際人権と死刑	啓蒙思想と死刑 死刑廃止の潮流 国際人権法と死刑 国連からのわが国への勧告
第11回	死刑適応能力	死刑と精神医療 刑法479条 マドリード宣言 オウム事件
第12回	正義論からみた死刑とテスト	正義と道德 今日の正義論 まとめとテスト

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で紹介する文献を読み、あるいは映画を観るなどして、授業で学んだ死刑をめぐる問題点を再確認し、思考を深める。  
本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

特になし。授業でレジュメを配布する。

#### 【参考書】

参考文献については授業内で紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業参加に基づく平常点 (20%)、学期末試験 (80%) によって評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

法学特講として法学部において時々開講されている授業であるが、通信教育部においては初めて開講される授業である。刑事法分野の中で死刑制度という限定的なテーマに特化した授業であることから、死刑という特殊な刑罰について、多角的に掘り下げて考えてみたいという学生には好評を得ている。2018年度の実際の受講生は20名程度であって前年度より倍増した (7月のオウム事件死刑囚13名の執行が影響したかも…)。正解などなく、賛否両論に分かれる様々なテーマについて、思考停止に陥ることなく、とにかく自分で考えて仮説を打ち立て、理解を深めていくという授業スタイルに魅力を感じる学生も多かった。はっきりした知識の習得を目指す学生にとっては、すっきりしない授業であろう。これまで政治学科、国際政治学科の学生の受講も少なくなかった。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特に該当なし。

#### 【その他の重要事項】

この授業のテーマは、刑事政策の一部を構成するものであって、かつ、刑法の刑罰論の一部を構成するものといえるが、必ずしもそれらの授業の履修を前提とはしていない。  
担当教員は検事・弁護士としての実務経験を有しているため、法務検察サイドの死刑に対する姿勢、えん罪防止についての取り組み、死刑をめぐる世界の潮流と日本の独自性などについて、ある程度掘り下げた議論ができるとと思われる。

#### 【Outline (in English)】

Capital punishment is a controversial topic in Japan and in many parts of the world today. There are currently 106 countries that do not impose the death penalty by law. The vast majority of countries in Europe have abolished the death penalty, while 56 countries including Japan, China, the United States retain it.

We will learn about the death penalty from various points of view. Issues include the possibility of the execution of innocent persons, how the United States Supreme Court decides the constitutionality of death penalty in a State, the standard of imposing death penalty at trial in Japan, etc.

LAW400TB (法学 / law 400)
<b>民事執行法 (夏期スクーリング)</b>
<b>杉本 和士</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・この講義では、主に民事執行法について学修します。民事上の権利の強制的実現という観点から、民事執行法がどのような性格を有しているのか、また、それぞれにおける諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

#### 【到達目標】

- ①民事執行法の理念と各手続の目的を理解する。
- ②強制執行手続の基本的な流れと基礎概念を理解する。
- ③民事保全法の理念と民事保全手続の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する教材 (下記参照) に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行っていただくことを前提として講義を行います。

・使用する教材については、事前に通信教育部「Web学習サービス」上にPDFファイルとして配布する予定である (受講登録後、適宜、「Web学習サービス」を確認すること)。受講者は、できるかぎり事前に使用教材を準備し、予習に努めておくことが望ましい (なお、事前準備が難しい環境にある場合には、スクーリング開講時に個別に教材を配布する)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス (講義の進め方等) / 民事執行・民事保全の概要、民事執行手続の基本構造	ガイダンスを行った後、民事執行・保全制度の全体像及び強制執行手続の基本構造について学修する。
第2回	執行当事者と執行機関 / 強制執行の要件、債務名義・執行文の意義と役割	執行手続の主体である執行当事者と執行機関について、さらに、強制執行の要件、債務名義及び執行文の意義と役割について学修する。
第3回	請求異議の訴え / 強制執行の対象財産と第三者異議の訴え	不当執行排除のための救済手続である請求異議の訴えについて学修する。
第4回	強制執行の対象財産とその調査、第三者異議の訴え	強制執行の対象財産についての考え方とその調査手続について概観した上で、第三者の責任財産に対する不当執行排除のための救済手段である第三者異議の訴えについて学修する。
第5回	不動産強制競売 (1) 一競売申立て、差押え、売却の準備	強制執行各論としての不動産強制競売手続につき、その開始段階の手続、競売申立て・競売開始決定・差押えを学修し、次いで、売却の準備に関する規律を学修する。

第6回	不動産強制競売 (2) 一売却の条件、売却の手続・効果、配当	不動産強制競売手続における売却の条件に関する規律を学修した上で、売却の手続・効果、配当手続について学修する。
第7回	不動産強制管理、動産執行 / 債権執行 (1)	不動産強制管理の概略を扱うとともに、動産執行について、その実際上の機能や実態の点を中心に学修する。債権執行について、特に金銭債権に対する強制執行を中心に採り上げて、民法における「債権総論」分野との関連性にも留意しつつ、学修する。
第8回	債権執行 (2)	債権執行について、特に金銭債権に対する強制執行を中心に採り上げて、民法における「債権総論」分野との関連性にも留意しつつ、学修する。
第9回	非金銭執行	非金銭執行について、執行の態様を確認した上で、物の引渡し・明渡しの強制、作為・不作為の強制執行、意思表示の強制執行について学修する。
第10回	担保不動産競売、担保不動産収益執行	担保権実行手続について、強制執行手続と比較しつつ、検討を行う。次いで、不動産に対する担保権実行としての担保不動産競売手続について学修する。さらに、平成15年改正により導入された担保不動産収益執行について、従来、同様の機能を果たしてきた物上代位と対比しつつ、検討する。
第11回	民事保全手続	民事保全手続の目的や種類について学修し、次いで民事保全の審理手続についての基本的な性質を民事訴訟や民事執行と対比しつつ学修する。
第12回	試験	試験

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・授業時間外の学習 (予習・復習のほか、発展学習) に関する一般的な指示は、初回ガイダンスで行うほか、各回の講義の際に指示します。  
・なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

・教科書は使用しない。

#### 【参考書】

・上原敏夫=長谷部由紀子=山本和彦『民事執行・保全法〔第6版〕』(有斐閣,2020年)  
・その他、講義の際に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

・期末試験100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the principles of civil execution procedure to students taking this course.

The goals of this course are to

- (1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil execution procedure.
- (2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>倒産法 (夏期スクーリング)</b>
<b>倉部 真由美</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況を処理するための法律を総称して、一般的に倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再建型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これらの倒産処理法の基本である破産法を扱う。

### 【到達目標】

- ①破産法の理念と手続の目的を理解する。
- ②破産手続の基本的な流れと基礎概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・授業は、適宜配布するレジュメに沿って進行する。
- ・レジュメの中で、テキストの該当箇所も指示するので、復習に役立ててもらいたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	倒産法の世界へようこそ	ガイダンス／倒産法の必要性と目的
第2回	倒産処理手続のアウトライン	わが国の倒産処理制度にはどのようなものがあるのか。法的な手続だけでなく私的整理も紹介する。
第3回	破産手続の申立てから開始まで	破産手続の開始申立て、開始決定、保全処分を扱う。
第4回	破産財団	破産財団、管財人とその職務、取戻権を扱う。
第5回	破産債権・財団債権	破産債権とは何か、その種類と優先劣後関係、財団債権とは何かを扱う。
第6回	契約関係の処理	双方未履行双務契約を処理する一般原則と賃貸借契約を扱う。
第7回	担保権	担保権は破産手続のなかでどのように扱われるか。別除権とその取扱いを扱う。
第8回	相殺権	相殺権の行使、相殺禁止を扱う。
第9回	否認権	否認権とは何か、種類、行使方法を扱う。
第10回	配当と手続の終了	債権の届出・調査・確定、配当、手続の終了を扱う。
第11回	消費者破産	消費者破産のポイントを扱う。
第12回	試験	筆記試験

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・必ず六法を携行し、こまめに条文を確認すること。

・法律学の勉強は、忍耐強く反復することが求められる。レジュメやテキストを1度読んで理解できなくても、心配することはない。1度は通読すること、分からない部分は繰り返し読むこと、それでも分からないところは、質問することで、理解を深めてほしい。  
・本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

高田賢治・上江洲純子・倉部真由美『ストゥディア倒産法』(有斐閣、2018年)  
携行するサイズの六法を必ず持参すること。

### 【参考書】

読みやすいものを選んで自習すること。  
・谷口安平監修／山本克己・中西正編『レクチャー倒産法』(法律文化社、2013年)  
・山本和彦『倒産処理法入門 [第5版]』(有斐閣、2018年)  
・山本和彦ほか『倒産法概説 [第2版]』(弘文堂、2010年)  
・徳田和幸『プレップ破産法 [第5版]』(弘文堂、2012年)  
倒産判例について  
・青山善充=伊藤眞=松下淳一『倒産判例百選 [第5版]』(有斐閣、2013年)  
・瀬戸英雄=山本和彦『倒産判例インデックス [第2版]』(商事法務、2010年)

### 【成績評価の方法と基準】

出席 (33%)、筆記試験 (67%)

### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし

### 【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on the procedure of Bankruptcy.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>氏家 裕順</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

市町村、都道府県などの地方公共団体は、国とほぼ同じ分野において行政活動を行っており、住民の活動を規制し住民に対して給付するほか、租税の賦課徴収もしている。立法活動については、条例などを制定して、住民の権利義務を抽象的に規律する場合がある。地方公共団体の活動は住民の生活に深く関わるものである。その活動に関して住民は、直接請求権を行使し、また、住民訴訟を提起するなど、権利主体として法的な主張をすることができる。住民の権利のありようなどの、地方公共団体と住民に関わりのある法的問題は重要なものである。

憲法が規定している地方自治を詳細化する、各種の法令・地方自治法 (=地方自治法制) が存在するが、この法学特講では、地方自治の一般的・基本的枠組みを定めている地方自治法を主に参照しながら、地方公共団体と住民をめぐる主要な法的問題について学習する。その目的は、主要な法的問題にかかる最新の議論状況について包括的・総合的に学ぶことにある。

#### 【到達目標】

①住民自治・団体自治、②地方自治の担当団体、③住民の権利、④議会と長の関係、⑤国の行政的関与に関する議論について総合的・包括的に学び、これらに対する理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地方自治の基礎	地方制度から地方自治の保障へ 住民自治と団体自治
第2回	地方自治の担当団体 (1)	普通地方公共団体の意義と組織・権能
第3回	地方自治の担当団体 (2)	大都市制度 普通地方公共団体の再編論
第4回	地方自治の担当団体 (3)	特別地方公共団体の意義と種類
第5回	住民の権利 (1)	住民の意義 参政権
第6回	住民の権利 (2)	直接請求権
第7回	住民の権利 (3)	公の施設の利用権
第8回	住民の権利 (4)	住民監査請求 住民訴訟
第9回	住民の権利 (5)	住民投票
第10回	普通地方公共団体の組織	議会と長の関係
第11回	国と地方公共団体の関係	国の行政的関与の概要
第12回	まとめに代えて	試験の実施と解説

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

参考書のいずれかを参照しながら、予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

配布レジメ

#### 【参考書】

塩野宏『行政法III [第4版]』(有斐閣、2012年)  
 人見剛・須藤陽子編著『ホーンブック地方自治法 [第3版]』(北樹出版、2015年)  
 白藤博行ほか著『アクチュアル地方自治法』(法律文化社、2010年)

#### 【成績評価の方法と基準】

最終時限に実施される試験による (100%)。判例および通説の見解を理解できていると認められる場合に合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。上記のレジメは、担当教員が事前に印刷し、受講者に授業の際に配布する。

#### 【その他の重要事項】

地方自治法は、憲法学、税法などにおいてもとりあげられているが、授業では行政法学の見地から、重要と思われる法的問題がとりあげられ解説がされる。

#### 【Outline (in English)】

This course is designed to lean major problems concerning local authorities and the public, while consulting Local Autonomy Act 1947 (c.67) which lays down fundamental and general framework of local autonomy system.

After completing this course, you should be able to:

- Explain a principle of local autonomy;
- Explain a definition, sorts, and organisation of local authorities;
- Explain individual's rights which the Act 1947 provides;
- Explain relationship between council (which is comparable though not identical idea of county council, district council, parish council, and so on) and head of a local authority; and
- Explain manner of state intervention in (local authorities' carrying out) the executive functions.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>刑法各論 (夏期スクーリング)</b>
<b>カロリーヌ・ルブルトン</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

刑法とは何が犯罪であるか、それに対してどのような刑罰を科されるかを規定する法律であり、このうち刑法総論が刑法典1編 (1条～72条) を基礎として各犯罪類型のいわば共通項としての一般的成立要件を中心に論ずるものであるのに対し、刑法各論は刑法典2編 (77条から264条)、個別犯罪について、それぞれの成立要件を検討する作業である。本授業では、このうち、財産犯及び社会的法益に対する罪 (主に公共危険罪を扱う) を検討し、解釈により、構成要件を中心とする成立要件について学ぶことを目的とする。

#### 【到達目標】

刑法各論の勉強は犯罪の成立要件を単に覚えるのではなく、条文から厳格な理論を展開しつつ、実際にも妥当な結論を導くという、特有の思考様式が必要となる。このような思考方法の基礎を身に付けることを目的とする。

財産犯と社会的法益に対する罪のうち、刑法典における典型的な犯罪について、判例・学説で問題とされている基本的な論点に関して、解釈論を展開することができる。

以上のような解釈論の結論を、所与の事実に適用し、犯罪の成否を議論することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で、主に個人的法益に対する罪のうち財産犯等の成立要件を検討することになる。受講生が本講義で学んだ知識を道具として社会事象に適用できるという「考える力」を身につけることが目標であり、授業内で具体的な事例研究を行う。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	財産犯総合論、窃盗罪・その①	ガイダンス (刑法各論とは)、財産とは。 窃盗罪の成立要件：財物とは、 攝取行為。
第2回	窃盗罪・その②	保護法益の学説対立とその影響、 不法領得の意思。
第3回	強盗罪等	強盗罪における暴行とは、強取の 意味、 事後強盗罪の保護法益、着手とは。
第4回	詐欺罪・その①	詐欺罪の客体、財産上の損害の 必要性、欺罔行為とは、処分行為 (因果性、処分の意思)。
第5回	詐欺罪・その②	三角詐欺 (事例に沿って検討する)、 電子計算機使用詐欺罪。
第6回	詐欺罪・その③、恐喝罪	詐欺罪のまとめ、他の罪との関係、 恐喝の対象・内容。
第7回	横領罪・その①	総説 (体系)、単純横領罪における 自己占有の意義・対象、他人性 (民・刑の相違)。
第8回	横領罪・その②	業務上横領罪 (業務とは、共犯・ 身分犯関係)、占有離脱物横領罪 (占有離脱とは、他罪との関係)。

第9回	背任罪・盗品等に関する罪	背任罪の主体、目的。 盗品等に関する罪の処罰体系、 保護法益。
第10回	器物損壊罪	処罰の体系、行為の類型、損害 の意味。
第11回	公共危険罪	放火罪・失火罪 現住建造物とは、未遂・既遂の 要件、公共危険とは。
第12回	授業試験	試験 (財産権、公共危険罪)

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の復習を中心に行う。具体的には、授業の説明及びレジュメと照らし合わせながら、各自で教科書及び判例集の判例を読んで、理解すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

西田典之「刑法各論 (第7版)」(弘文堂)

今井猛嘉ほか「刑法各論 (第2版)」(Legal Quest) (有斐閣)

#### 【参考書】

別冊ジュリスト刑法判例百選2各論 [第7版] (有斐閣)

#### 【成績評価の方法と基準】

第12回に行われる試験により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

小型六法 (「デイリー六法」三省堂など、オンラインで閲覧することも可)

#### 【Outline (in English)】

The main objective of this course is to be able to read a section of the law and apply it to an actual situation. Therefore, it is not only about memorizing the elements of the crime but rather to master the interpretation process, regarding the value protected but also the evolution of society and its impact. This course will focus mostly on economic-interest related offenses.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>手形法・小切手法 (夏期スクーリング)</b>
<b>笹久保 徹</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は手形法に関する講義である。  
 近年はインターネットの普及に伴って電子決済が発展し、企業の決済手段としての手形は、かつてほど絶対的な意味をなさなくなった。しかしながら、現在においても、中小企業等においては手形が頻繁に利用されている。本授業の目的は、受講生が手形の基本的なルールを知り、手形および企業決済に関連する問題に関心を持つことにある。本授業は、授業時間との関係上、約束手形に関する解説を中心とした講義となる。

#### 【到達目標】

- ・手形の基本的ルールを理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・手形に関する法律問題を知り、それに関する判例及び学説を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。受講生のほとんどが初めて手形法を学ぶ者であろうから、授業は基礎的な解説を中心に丁寧に進めるつもりである。レジュメや資料を配布し、図解を駆使して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 手形の概要1	ガイダンス及び手形の沿革に関する解説。
第2回	手形の概要2	有価証券及び手形の概要に関する解説。
第3回	原因関係	原因関係と手形関係に関する解説。
第4回	手形要件	手形の記載事項に関する解説。
第5回	手形の振出	手形の振出等に関する解説。
第6回	手形の譲渡	手形の裏書等に関する解説。
第7回	善意取得・手形抗弁	善意取得及び手形抗弁等に関する解説。
第8回	他人による手形行為	他人による手形行為、偽造、変造等に関する解説。
第9回	約束手形の支払い、遡求	手形の支払いや遡求に関する解説。
第10回	白地手形	白地手形に関する解説。
第11回	時効、利得償還請求権等	時効や利得償還請求権に関する解説。
第12回	試験	筆記試験の実施。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回につき、予習2時間および復習2時間を標準とする。復習の際には、条文を参照しつつ、授業での配布物や参考書等を熟読すること。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。

#### 【参考書】

- ・大塚龍児＝林たつみ＝福瀧博之『商法Ⅲ 手形・小切手〔第5版〕』（有斐閣Sシリーズ）（有斐閣、2018）本体価格2300円
- ・弥永真生『リーガルマインド手形法・小切手法〔第3版〕』（有斐閣、2018）本体価格2800円
- ・前田庸『手形法・小切手法』（法律学大系）（有斐閣、1999）本体価格6000円
- ・神田秀樹＝神作裕之編『手形小切手判例百選〔第7版〕』別冊ジュリスト222号（有斐閣、2014）本体価格2200円

#### 【成績評価の方法と基準】

最終時間に実施する筆記試験の成績による（試験100％）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

#### 【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を持参すること。

参考書は新しい版が出版されている可能性がある。新しい版が出版されている場合、新しい版を購入すること。講義の初回において、講師から説明を受けてから購入した方がよい。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the Bills of Exchange and Promissory Notes Act to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the Bills and Notes Act. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the Bills and Notes Act, (2) able to explain clauses and systems of the Bills and Notes Act, (3) able to understand the relationship between the Bills and Notes Act and our society.

POL200TB (政治学 / Politics 200)
<b>政治学 (夏期スクーリング)</b>
<b>平良 好利</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業では、民主主義、選挙、政党、議会、内閣といった政治学にとって重要なテーマを、やや原理的に考察すると同時に、それを踏まえて日本の政治を考察してみたい。

**【到達目標】**

政治学の基礎的概念を日本政治に則して説明することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

レジュメに沿った講義形式

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、権力とは	本授業の全体的概要と授業の進め方等を説明する。また政治における権力についても考察する。
2	古代ギリシャの直接民主政、社会契約論①	古代ギリシャのアテネにおける民主政を考察し、その後ホッブスの社会契約論を検討する。
3	社会契約論②、民主主義と防衛	ルソーの社会契約論を考察した後、民主主義と共同防衛について多角的に検討する。
4	友敵論、ネーション	カール・シュミットの友敵論について論じた後、ネーションとは何かについて多角的に考察する。
5	有権者の拡大、代表とは	有権者拡大の歴史と現代の課題について考察した後、代表とは何かを原理的に考察する。
6	2つの民主主義理論	カール・シュミットとシュンペーターの民主主義理論を検討する。
7	日本政治と議会制民主主義	日本政治と議会制民主主義について検討する。
8	自民党システム	55年体制下の自民党システムについて多角的に考察する。
9	野党	議会制民主主義における野党の役割と意義について考察する。
10	55年体制の崩壊	小沢一郎の行動に注目しつつ、55年体制の崩壊とその意義について考察する。
11	自民党システムの終焉	小泉純一郎の行動に焦点をあてて、自民党システムの終焉について考察する。
12	試験	試験を実施する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業のあと復習をすること。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

テキストはなし。毎回レジュメを配布する。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

最終日2コマ目を実施する試験 (100%)

**【学生の意見等からの気づき】**

レジュメの記載方法の改善

**【Outline (in English)】**

In this class, we will fundamentally examine the important themes of political science, such as democracy, elections, political parties, the parliament, and the cabinet, and at the same time, we will examine Japanese politics from multiple viewpoints based on that.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>行政救済法 (夏期スクーリング)</b>
<b>西田 幸介</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、行政救済に関する法を取り上げる。行政救済とは、行政作用によって不利益を受けこれを不服とする私人が、行政を相手に自己の権利利益を主張して、その回復を求めるための制度をいう。これは、行政争訟と国家補償とに区別される。行政争訟は行政事件訴訟と行政上の不服申立てを主要な手段とする。国家補償とは、行政作用を中心とする国家活動により損害または損失を受けた私人がそれに対する賠償または補償を求めるための制度の総称である。

この授業では、行政事件訴訟の概略を解説したうえで、その主要な訴訟類型である取消訴訟について検討する。

この授業の受講者は、行政事件訴訟法の概要を理解するとともに、とりわけ取消訴訟の訴訟要件について具体的な事例に当てはめて検討することができるようになることが期待される。

### 【到達目標】

- ①行政事件訴訟の各類型の概要を説明することができる。
- ②取消訴訟の訴訟要件について説明することができる。
- ③取消訴訟における仮の救済について説明することができる。
- ④具体的な紛争事例について、取消訴訟の提起が可能かどうか、および、仮の救済が認められるか否かを判定することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	行政救済法の意義	行政法の体系と行政救済法 行政事件訴訟
第2回	行政事件訴訟の類型 (1)	行政上の不服申立て 抗告訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟、機関訴訟
第3回	行政事件訴訟の類型 (2)	法定抗告訴訟の選択基準
第4回	取消訴訟の概要	取消訴訟の意義 訴訟要件、認容要件 教示制度 取消訴訟の排他的管轄
第5回	取消訴訟の対象 (1)	処分性の意義と判断基準
第6回	取消訴訟の対象 (2)	処分性に関する判例
第7回	取消訴訟の原告適格 (1)	原告適格の意義と判断基準
第8回	取消訴訟の原告適格 (2)	原告適格に関する判例
第9回	取消訴訟の訴えの利益	訴えの利益の意義と判断基準
第10回	取消訴訟の形式的訴訟要件	審査請求前置 出訴期間 裁判管轄
第11回	取消訴訟における仮の救済	執行停止制度
第12回	スクーリング試験	筆記試験

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづいて学習する。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

西田幸介『行政救済法講義』(2019年4月発行。生協書籍部で販売)。なお、2017年度の福岡市スクーリングの法律学特講で使用した同名のテキスト(2017年4月発行)を使用しても良い。

### 【参考書】

- 教科書・体系書
  - ・稲葉馨ほか『行政法』(2018年、第4版、有斐閣)
  - ・今村成和(著)=畠山武道(補訂)『行政法入門』(2012年、第9版、有斐閣)
  - ・宇賀克也『行政法概説Ⅱ』(2018年、第6版、有斐閣)
  - ・小早川光郎『行政法講義下Ⅰ～Ⅲ』(2002～2007年、弘文堂)
  - ・塩野宏『行政法Ⅱ 行政救済法』(2019年、第6版、有斐閣)
  - ・芝池義一『行政救済法講義』(2006年、第3版、有斐閣)
  - ・原田尚彦『行政法要論』(2012年、全訂第7版補訂2版、学要書房)
  - ・藤田宙靖『行政法総論』(2013年、青林書院)
- その他
  - ・宇賀克也ほか(編)『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』(2017年、第6版、有斐閣)
  - ・稲葉馨ほか(編)『ケースブック行政法』(2018年、第6版、弘文堂)
  - ・芝池義一ほか(編)『判例行政法入門』(2017年、第6版、有斐閣)

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、スクーリング試験 (50%)。

平常点は、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回 (つまり、最終日を除く各授業日の後半授業) で実施するミニレポート (授業内容の確認や感想を簡潔に書いてもらう) の評価による。スクーリング試験は、第12回に実施し、筆記試験 (テキスト等参照可とする予定) の評価による。

なお、スクーリング試験の受験資格 (通信教育部のWebサイト等で確認すること) を充さない者は、平常点があっても、成績評価の対象とならない。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【Outline (in English)】

In this course student learn the outline of Administrative Remedy Law. After taking this course, student will be able to :

- Explain the outline of the main Acts concerning administrative relief.
- Choose a legal means to obtain an appropriate solution for resolving administrative disputes.
- Understand the distinction between the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions and the Public Law-Related Actions and explain the suit requirements and judgments in these actions.
- Explain types of administrative appeals, its requirements, its ruling, and its difference with the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>日本法制史 (夏期スクーリング)</b>
<b>山本 弘</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の様々な問題は、対応のために法制度をつくり、既存の法制度は現代の社会を構成する要因となっている。社会が法制度を作り、法制度が社会を作り上げていることは歴史的にみても同様であり、我々の生活する現在の社会や法制度もまた歴史のなかに位置づけられることになる。本講義は、現在ある法をより深く理解するための歴史的視点を培うため、歴史のなかの法と裁判を概観し各時代の特徴について認識を深めていく。

#### 【到達目標】

1. 前近代における日本の法と裁判に関する基礎的事項を列挙できる。
2. 各時代の法や裁判の特徴について概説できる。
3. 前近代の法制度と現代の法制度を比較しながら討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式によって進めるが、受講生によるディスカッションも行う。また、各回においてリアクションペーパーの任意提出を求め、提出されたリアクションペーパーに対する応答をおこなうことによって、内容理解の一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方・評価等についての説明
第2回	古代の法と裁判	律令以前の日本法～固本法時代～：原始国家、初期国家、犯罪と裁判（天津罪・国津罪、盟神探湯等）など
第3回	〃	律令法：統治組織、土地制度、刑事法、裁判制度、親族と相続など
第4回	〃	〃
第5回	中世の法と裁判	鎌倉・室町期の法：封建制度の諸概念、統治組織、中世法の基本的性格、土地制度、裁判制度、親族と相続 など
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	戦国法	戦国大名の法、在地社会の法：分国法、村法（村掟）など。
第10回	近世の法と裁判	幕府法と藩法：統治組織、法源、土地制度、刑法、裁判制度（吟味筋、出入筋）、『御定書』、親族と相続 など
第11回	〃	〃
第12回	まとめ	講義のまとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）教科書を熟読した上で出席すること。なお、事前課題のある場合は、当該講義までに課題を終えておくこと。準備学習の時間は1回の講義につき2時間以上が望ましい。

なお、理解度確認及び双方向型講義実施のために、リアクションペーパー（不定期・5分程度・提出自由）の提出を課すこともある。（事後学習）疑問点や不明な箇所がある場合は、教員への質問、大学図書館の蔵書利用等を通じて早期に解決をはかること。復習の時間は1回の講義につき2時間程度が望ましい。

#### 【テキスト（教科書）】

浅古弘・伊藤孝夫・植田信廣・神保文夫 編『日本法制史』青林書院、2010年。

#### 【参考書】

村上一博・西村安博・島山亮・北康宏『【新版】史料で読む日本法史』法律文化社、2016年。

宮地正人ほかほか編『国家史（新体系日本史1）』山川出版社、2006年。

水林彪編『法社会史（新体系日本史2）』山川出版社、2001年。

出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著『概説 日本法制史』弘文堂、2018年。

高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか－法と秩序の歴史を学ぶ』有斐閣、2018年。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（70%）、議論への取り組み（30%）で評価する。期末試験では、日本法制史に関する基礎的事項の知識及び各時代の法や裁判に関する理解度を問う。

講義内の議論では、議論への貢献、議論の内容及び成果物について、ルーブリック的指標を用いて評価を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

幅広い時代を扱うが、受講者の興味・関心にあわせて各時代ごとにキーワードまたはトピックを設定し、学習の理解を深めるためのきっかけとする。また、映像等の視聴覚教材について積極的に活用していく。

#### 【Outline (in English)】

We survey historical law and trial to develop a historic viewpoint to understand modern law and deepen recognition about a characteristic of the law in each time.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>武生 昌士</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである著作権法を一通り学ぶことを内容とする。著作権法は、基本的には民法の特別法と位置付けられるものであり、物権法や不法行為法の学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学ぶべき応用的な科目と位置付けることができる。

### 【到達目標】

著作権法について、制度全体に関する一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後著作権法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること、また、そのことを通じて、法的なものの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。

より具体的には、第一に、著作権法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、著作権法が問題となる具体的な事例（紛争）について、著作権法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである著作権法について、文化の発展に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。各回に配布する資料をベースに講義を進める。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第2回	著作権法の概要・権利の客体(1)	著作権法の全体像、著作物の定義（創作性要件など）
第3回	権利の客体(2)	著作物の定義（その他の要件）、特殊な著作物など
第4回	権利の主体	作者の認定、職務著作、映画の場合など
第5回	著作者人格権	公表権、氏名表示権、同一性保持権など
第6回	著作権(1)	各支分権の説明
第7回	著作権(2)	権利制限規定の説明
第8回	著作権(3)・著作権に関する取引	保護期間、著作権の譲渡、利用許諾など
第9回	著作隣接権	実演家の権利など
第10回	侵害と救済(1)	侵害成立の要件（依拠性、類似性）、みなし侵害など
第11回	侵害と救済(2)	民事的救済（差止・損害賠償請求）及び刑事罰など
第12回	まとめと試験	試験の実施及び全体の総括

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各日程の終了時に、翌日までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

愛知靖之ほか『知的財産法』（有斐閣、2018）を一応指定しておく。ただし、必ずしも初回講義時までに購入しておく必要はない。詳細は初回講義時に改めて指示する。

### 【参考書】

鳥並良ほか『著作権法入門〔第2版〕』（有斐閣、2016）、田村善之『知的財産法〔第5版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第2版〕』（有斐閣、2014）、小泉直樹ほか編『著作権判例百選〔第6版〕』（有斐閣、2019）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

最終日の試験の成績のみによって評価する（試験100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【その他の重要事項】

2016年度の「法学特講」（後期末スクーリング）を受講し単位を修得した者については、内容が相当程度重複するので、履修は推奨しない。

### 【Outline (in English)】

This course covers the basics of Copyright Law.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>労働法 (夏期スクーリング)</b>
<b>山本 圭子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

労働法の基礎を身につけることを目的とする。  
 学生が、労働法の意義を理解し、労働基準法、労働契約法、労働組合法の基礎を身につけることを目標とする。

#### 【到達目標】

採用から退職に至るまでの法律適用の場面について、すなわち労働契約の成立・展開・終了、賃金・労働時間・休暇等の労働条件の基準、労働条件の変更、労働基本権について、条文・判例に基づいて正しく理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

・レジュメを配布し、パワーポイントを用いて講義形式で授業を行う。  
 ・VTR視聴や新聞記事の紹介などを行うことがある。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・労働法とは	労働法の成立過程と労働法の意義を学ぶ
第2回	就職活動と法	労働契約の成立過程について、募集、選考過程、採用、試用期間について学ぶ
第3回	労働契約	労働契約法の意義と内容について学ぶ
第4回	就業規則	労働契約と就業規則の関係、労働条件の決定と変更について学ぶ
第5回	賃金・賞与・退職金	賃金の決定、最低賃金法、賃金の支払方法について学ぶ
第6回	労働時間の原則と例外	法定労働時間、労働時間の意義、変形労働時間制度について学ぶ
第7回	時間外労働・休日・休暇	時間外労働と割増賃金、休日、休暇について学ぶ
第8回	人事異動・服務規律	人事異動 (配転・出向・転籍)、企業秩序と服務規律、懲戒処分について学ぶ
第9回	労働契約の終了	解雇規制、解雇権濫用法理、雇止め、退職について学ぶ
第10回	労働基本権	労働組合法の意義、労組法上の労働組合、労働協約について学ぶ
第11回	不当労働行為	不当労働行為制度の意義と救済制度を学ぶ
第12回	試験	論述式の筆記試験を実施する。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・講義前に、教科書の各単元について、テキストを読み、準備学習を行う。  
 ・レジュメは配布されるが、ノートも必ず作成する。  
 ・テキスト、ノート、レジュメ、六法(最新版)を必ず持参する。  
 ・テキストにおいて扱われている裁判例について講義後に必ず復習する。  
 ・本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

『ファーストステップ労働法』藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良、エイデル研究所、2020年4月発刊予定、2900円+税 (予価)

#### 【参考書】

【事前に読んでおくべき書籍】

- ①『基礎から学ぶ労働法Ⅰ労働法総論・個別的労働関係法』(第4版2刷)金子征史・藤本茂・大場敏彦編、高野敏春編、エイデル研究所、2019年
- ②『基礎から学ぶ労働法Ⅱ集团的労働関係法・社会保障法』(第2版)金子征史・藤本茂・大場敏彦編、エイデル研究所、2016年
- 【参考書 (必ずしも読了・購入の必要はない)】
- ③浜村彰,唐津博,青野覚,奥田香子『ベーシック労働法 第8版』(有斐閣アルマ)、2020年3月発刊予定、有斐閣
- ④『労働法』(第12版)菅野和夫、弘文堂、2019年

#### 【成績評価の方法と基準】

論述式の筆記試験で評価する (100%)。すなわち、最終時限の筆記試験を受験して、60点以上の者に単位を与える。

労働基準法、労働契約法、労働組合法等の基礎を理解し、設問について条文・判例・学説に即して論理的に論じ結論を導くことができることを評価の基準とする (試験に際してテキストの持込を可とする場合でも、テキストを写しただけの答案では合格点を与えることはない。またテキストの持込可とする場合でも、テキストのコピーや図書館の図書、版の異なる書籍の持込は認めない)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

レジュメ及びリーディングケースの概要を配布し好評だったので、今年も初日に配布予定である。

試験に際してテキストを持ち込める場合でも、図書館の書籍は禁止する。テキストに何かを貼ったり挟んでいる場合はカンニングペーパーとして扱う。

試験に際して、レジュメの持込は今年も禁止する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

試験に際してテキストの持込参照を許可するかは未定であるが、受講にあたっては必ずテキストと六法 (2020年版)、ノートを持参すること。

#### 【その他の重要事項】

- ・関連科目：社会政策、法律学特講 (国際労働法)
- ・法改正の動向などによって授業計画を変更することがある。

#### 【Outline (in English)】

This course aims to acquire the foundation of labor law. Students understand the significance of the Labor Law and aim to acquire the foundation of Labor Standards Law, Labor Contract Law, and Labor Union Act.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>英米法 (夏期スクーリング)</b>
<b>安部 圭介</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

アメリカの法制度を概観し、主要な憲法判例について考察することを通じて、アメリカ社会で「法」が果たしている機能について基礎的な理解を身につけることを目標とする授業である。

合衆国最高裁判所およびいくつかの州最高裁判所の憲法判例を取り上げ、現代アメリカ社会における司法の役割の実態について学習する。最初にアメリカ憲法の総論的な説明をした後、人権保障の諸問題について詳しく検討する。憲法上の権利の側面を固める役割を果たしている制定法上の市民的権利についても、必要に応じて言及する。

**【到達目標】**

英米法の基本的な構造に関する知識を身につけるとともに、日本法のあり方について掘り下げて考えるための基礎を得ることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義とディスカッションを組み合わせる形式で進める。單元ごとに基本的な点を解説した後、判例を素材として討論を行う。受講者には積極的な発言が求められる。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	最高法規としての連邦憲法、連邦制の構造	アメリカ型連邦制の基本原則について検討する。
第2回	ステイト・アクションの法理	私企業や私的団体の行為の憲法的規律について検討する。
第3回	デュー・プロセスとプライバシーの権利	プライバシーの権利などの新しい人権の保障のあり方について検討する。
第4回	平等保護の基本的枠組み	人種差別や性差別に関する主要な判例とそこから析出した違憲審査基準について検討する。
第5回	平等保護の現代的展開	少数者や女性の割合を高めるための積極的な方策が引き起こした逆差別の問題について検討する。
第6回	表現の自由	表現の自由を手厚く保護するアメリカ法の特徴について検討する。
第7回	信教の自由と政教分離原則	国教の樹立を禁じるとともに、自由な宗教活動を制約する法律の制定を禁じる合衆国憲法第1修正について検討する。
第8回	財産権と土地利用規制	正当な補償を要する「収用」と補償を要しない「規制」の区別について検討する。
第9回	制定法上の市民的権利	差別を禁じる連邦および各州の議会制定法について検討する。

第10回	市民的権利の保障の現代的課題	私人に適用されるさまざまな差別禁止法が逆差別を禁じているかについて検討する。
第11回	死刑制度の現在	死刑を科しうる場合を限定する近年の合衆国最高裁判例について検討する。
第12回	テストとまとめ	各回の授業で取り上げた諸判例がアメリカ法の体系の中で持つ意義について再検討し、全体をまとめる。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

教科書に代わる教材 (プリント) を配付する。

**【参考書】**

『アメリカ法判例百選』、樋口範雄・柿嶋美子・浅香吉幹・岩田太 (編)、有斐閣、2,600円、ISBN978-4-641-11513-2

『BASIC英米法辞典』、田中英夫 (編集代表)、東京大学出版会、2,800円、ISBN4-13-032082-3

**【成績評価の方法と基準】**

最終時限で行う試験の成績による。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【Outline (in English)】**

An introduction to the legal system of the United States. Among the topics considered are the tradition of American federalism, the constitutional framework and its implications for anti-discrimination law, and the role of law in American society. Where relevant, an attempt will be made to integrate the latest legal news and analysis into the course.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>青柳 由香</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では法学の中でも「経済法」と呼ばれる分野を扱う。経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講学上の概念である。本講義では、経済法の意義、歴史等を踏まえつつ、経済法の中心である独占禁止法を取り上げる。独占禁止法は、市場における公正かつ自由な競争を確保しこれを促進することを目的とする法律である。そのため、独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれている。講義を通じて、独占禁止法の基本的な内容を理解し、事業活動における「公正な競争」のあり方について検討する。市場における公正競争をはじめとする秩序の必要性について認識を得る。

#### 【到達目標】

経済法・独占禁止法の歴史的経緯を理解し、基本概念を習得している。事業者による競争制限的行為により、市場における競争が制限されるメカニズムについて十分に理解している。事業活動における「公正な競争」のあり方及びその必要性について十分に理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

経済法および独占禁止法の基本的な内容について体系的に講義する。独占禁止法については、手続法および実体法を概観する。講義ではルールの概観を紹介したうえで、さまざまな規制類型について、裁判例・公取委による行政措置その他の具体例を用いながら、受講生の理解を深めることとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	総論	経済法・独占禁止法の目的および体系
第2回	経済法・独占禁止法の沿革 (1)	戦前の経済体制や戦後の独占禁止法の導入など
第3回	経済法・独占禁止法の沿革 (2)	独禁法導入にかかる理論的説明、導入後の運用の状況
第4回	独占禁止法のエンフォースメント (1)	事業者・事業者団体組織・行政手続き
第5回	独占禁止法のエンフォースメント (2)	行政上の効果 (排除措置命令・課徴金・リニエンシー制度)、民事・刑事上の効果
第6回	不当な取引制限 (1)	規制の外観、行為要件、市場効果要件
第7回	不当な取引制限 (2)	事例の検討
第8回	私的独占 (1)	規制の外観、行為要件、市場効果要件
第9回	私的独占 (2)	事例の検討
第10回	不公正な取引方法 (1)	規制の外観、市場効果要件
第11回	不公正な取引方法 (2)	行為類型と事例
第12回	試験	試験を実施する。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義後に教科書や講義資料を用いて復習すること。課題が出た場合には、新聞記事等を用いて、近時の独占禁止法違反事件について情報を集め、検討すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

土田和博他『条文から学ぶ独占禁止法』(有斐閣、第2版、2019年)

#### 【参考書】

金井貴嗣ほか『経済法判例・審決百選 (第2版)』(有斐閣、2017年)

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%) と定期試験 (90%) による。授業中の積極的な発言を歓迎する。

ミニレポートを課したり、授業中の小テストを実施したりするかもしれない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義で用いるレジュメ・資料は授業で配布する。教科書を事前に用意されたい。

#### 【その他の重要事項】

なし

#### 【Outline (in English)】

This lecture provides the basics of the Antimonopoly Act of Japan. By analyzing the competition process in the market, we learn the importance of fair competition and a regulation which ensures such a fair competition.

LIT300TC (文学 / Literature 300)
<b>書道実技 (夏期スクーリング)</b>
<b>井澤 秀彦</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中学校国語科書写の指導を中心とした実技と指導法  
 姿勢・執筆法から始まり、用具・用材の基本的な扱い方、楷書、行書、漢字と仮名の調和などを、現在の教育現場の書写の役割や実情を踏まえながら、順次学習を進めていく。

#### 【到達目標】

中学校国語科書写における知識・技能の習得  
 基本的な書の表現力（基本点画・書字のきまり・文字感覚など）の習得  
 中学校国語科書写の指導者として、生徒に何をどのように教えるのか、また、生徒作品を客観的に評価する着眼点の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業ノート（持ち物参照）を丁寧にとり、最終日に全ての作品を貼付したノート提出する。  
 講義と実技の時間的な割合は課題にもよるが、おおよそ1：1くらいである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	書写と書道の違い	書写・書道における基礎的な用語の理解や用具・用材の扱い方
第2回	表現・鑑賞とは 楷書の基本点画	書写における「表現」は技術、「鑑賞」は知識 表現の第一歩は基本点画の習得
第3回	楷書の学習（書字のきまり1）	「口」の書き方、「八」の書き方などから、文字を書くための決まりごとの理解
第4回	楷書の学習（書字の決まり2）	偏と旁の関係、横画と縦画の関係などから、文字を書くための決まりごとの理解
第5回	筆順指導について 楷書の許容される書き方	教育現場における筆順指導の重要性の理解 楷書の基本的な字形と許容される字形
第6回	楷書のまとめ	四字句・六字句などの学習から、半紙に対する文字の大きさや配列・配字の理解
第7回	行書の特徴1	なぜ中学校で行書を学習するのか 楷書と行書の違い
第8回	行書の特徴2	行書の特徴（点画の丸み・連続・変化など） 点画の省略、筆順の変化
第9回	小筆の学習1	楷書に調和する仮名の学習 行書に調和する仮名の学習
第10回	小筆の学習2	漢字（楷書・行書）と仮名の調和 「散らし書き」の理解と習得
第11回	楷書の古典	楷書の成立と唐の四大家 『九成宮醴泉銘』の学習

第12回 行書の古典 行書の成立と王羲之『蘭亭序』の学習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の習得は練習の積み重ねが大切である。自分の目標をしっかりと持ち、基本点画の習得、自己の欠点の確認・矯正および新しい技量の習得を目指して欲しい。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

『明解 書写教育【増補新訂版】』 全国大学書写書道教育学会編  
 萱原書房 ￥1,500 + 税  
 通教テキスト「書道教本」

#### 【参考書】

指定なし

#### 【成績評価の方法と基準】

授業参加30点、授業ノート（作品を含む）40点、試験30点

#### 【学生の意見等からの気づき】

書道用具に関してですが、自らが中学生のころに使用していたものではうまく書けないようです。筆は大筆・小筆とも使用に耐えられず（やはり小中学生用はその程度です）、書道セットに入っていたような固形墨は上手に磨いても濃くならず、硯も小さかったり石製ではなかったりで、初日が終わってから慌てて専門店に行き、書道用具を購入する学生が毎年います。将来、教壇に立つ者として、相応の書道用具をそろえてください。  
 また、墨で服を汚さぬよう各自工夫してください。

#### 【その他の重要事項】

持ち物

①筆（大筆・小筆）②墨（固形墨）③硯（プラスチック製・セラミック製はNG）④半紙（多めに用意してください）⑤毛氈（下敷き）⑥文鎮⑦ノート（B5・横罫）⑧筆記用具⑨赤ペン⑩スティックのり  
 ※特に筆・墨・硯・半紙は安価なものが多い。  
 上記テキストは必携のこと。

#### 【Outline (in English)】

Practical skill and teaching method centered on teaching of junior high school Japanese language department calligraphy

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・中世 (夏期スクーリング)</b>
<b>中司 由起子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

This course introduces the theme and performances of Noh Play < Aoinoue > to students taking this course.

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本のもっとも古い歌舞劇である能と狂言を取りあげる。本年度は『源氏物語』を素材とした能〈葵上〉を取り上げ、作品を読んで鑑賞し、主題やねらいを考える。また能の歴史に目を配りつつ、能の魅力を楽しむために必要な知識を深める。

## 【到達目標】

能に関する基本的知識を理解することができる。  
 現代に生きる古典芸能に関心をもつことができる。  
 能の作品の主題・趣向を考え、それを文章にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

能の詞章 (本文) を読み込んだうえで主題と趣向の分析をおこなう。その際には素材となった『源氏物語』と比較しながら考える。また同時に歴史や作者等、能楽の基礎的な事項にも触れる。適宜、視聴覚教材を用いて能を鑑賞し、読む・観るという二つの方法で能にせまっていく。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	能の梗概	能の基本的事項をおさえる。
第2回	能・狂言の歴史	能の歴史と流儀、役籍等について知る。
第3回	世阿弥の功績	世阿弥の能楽論と能作について知る。
第4回	能の素材	『源氏物語』の内容をおさえる。
第5回	〈葵上〉を読む・観る	1・2段を解釈する。
第6回	〈葵上〉を読む・観る	3・4・5段を解釈する。
第7回	〈葵上〉を読む・観る	6段を解釈する。
第8回	〈葵上〉を読む・観る	7・8段を解釈する。
第9回	〈葵上〉を読む・観る	9・10段を解釈する。
第10回	まとめ	〈葵上〉の主題と趣向をまとめる。
第11回	現代に生きる能	能の新しい試みについて知る
第12回	テスト	筆記テストをおこなう

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義内で示される参考文献を読んでおくこと  
 能楽堂などで催される実際の舞台にできるだけ足を運ぶこと  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

講義時に配布する資料プリントを用いる。

## 【参考書】

『謡曲集』上、新潮日本古典集成、新潮社  
 『謡曲集』上、日本古典文学大系、岩波書店  
 小林責ほか『能楽大事典』(筑摩書房)  
 西野春雄・羽田昶編『新版 能・狂言事典』(平凡社)  
 『岩波講座 能・狂言』(岩波書店)

## 【成績評価の方法と基準】

平常点50%・筆記テスト点50%

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講・演劇 (夏期スクーリング)

上野 火山

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：1群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講義は『比較演劇学』といます。

ここでは古今東西、そしてジャンルを問わず、社会的視点、思想的視点、及び政治経済的視点から人間の行う演劇的営為を観察し比較することで、現代に失われ理解されないままである価値観や倫理を再発見し、「今」を理解したいと思います。

## 【到達目標】

&lt; 到達目標 &gt;

受講者は、受身のまま、思考停止状態に甘んじることなく、批判的及び批評的に思考することを正しく理解し、作品鑑賞のみならず現実世界に活用できるようになる。

&lt; 講義内容 &gt;

演劇とはドラマです。舞台芸術を始め、映画、テレビ、ラジオ、インターネットといった様々なメディアを通じ、演劇は姿を変えながらも存在し続けています。あるメディアと別のメディア、海外と日本、過去と現在、日常と非日常、見えるものと見えないもの、見せられているものと隠れているもの、といった比較対照を通して、失われ見えにくくなったり、あるいはまた、あらかじめ隠されているものを発見し、在るはずの、在るべきものを見いだしてみたいと思います。演劇はどこへ向かうのだろうか。このまま権力のプロパガンダに墮すのだろうか。それを考えることは我々自身がどこへ向かっているのかを見据えることになると思います。作品自体の比較もさることながら、方法論の差異、世界観価値観の差異、時代の差異、思想の差異といった比較を通して「ドラマ」あるいは「物語」の共通性や普遍性へ向かい、単なる「消費者」ではない「真の良き観客」をめざしたいと思います。仮にあなたが創作者であろうとも、すべては「真の良き観客」であるところから始まるのですから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義を中心に行います。授業ごとにリアクションペーパーを出して頂き、その質問等にも随時答えていきます。時にはディスカッションも組み込みたいと思いますので、発言は積極的をお願いします。講義中に映像等の資料も観ていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	演劇とは何か: 妄想と隠喩としての演劇	比較演劇学とは何かを明らかにしつつ、このリアルで自明であると思われている世界と演劇的世界の関係性を考えます。
第2回	テレビドラマと現在: この不毛の森と夢	テレビドラマという演劇媒体を分析し、味わい、批評的に見つめます。
第3回	80年代から: ポストモダニズムを超えて	現代に繋がる価値観の源泉は1980年代にあった。今に對しどのように、どれ程影響を及ぼしたのかを考えます。
第4回	< 劇映画を観る >	劇映画を鑑賞します。

第5回	虚構の壁と認知	フィクションとはリアリティーに次ぐものなのだろうか。虚構性の意味と価値について考えます。
第6回	日常の向う側: 創り手と受け手	実作の現場から、演劇的営為を考えます。
第7回	メディアコントロール: その演劇化された家畜化の方法	政治も経済も所詮は「メディア」によって如何様にも動かされ得る。演劇及びドラマもその機能のひとつであることを自覚する。日常を劇的空間と見なすことは、日常に蔓延する虚構性を告発することに他ならない。
第8回	日常という名の劇場: 劇場化する政治、経済	現在を映し出すドキュメンタリーを観ることで、メディアに対する理解を一層深めたい。
第9回	< ドキュメンタリーを観る >	民衆の思考停止を生みだし、更に悪化させるもの、そして同時に希望を生むものとは。
第10回	沈黙の螺旋と希望の原理	共感とは一体何だったのか、そしてそれを超えて僕らが向かうべき未来とは。
第11回	共感の次元を超えて!	共通のタイトルで「小論文試験」を行います。
第12回	< 最終: 小論文試験 >	

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

この講義に出る限り、学生は、できる限り多くの舞台、もしくは、映像作品に触れて欲しいと思います。そして講義で触れご紹介した作品の鑑賞、及び文献の読書。それが準備であり復習です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用致しません。

## 【参考書】

特に用意して頂く参考書はございません。レジュメを講義内にお渡しします。

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は「授業への参加態度」を基本にし、最終日の「小論文試験」をプラスして出します。試験のみ出席しても単位にはなりません。成績評価は以下の通りに行います。

## ● 授業への参加態度 70%

※ 成績評価は「授業への参加態度」を基本。

## ● 小論文試験 30%

※ 試験のみ出席しても単位にはなりません。

## 【学生の意見等からの気づき】

例年にも増して、更に一層自分自身の言葉を大切に、学生諸君に伝えていきたいと思っています。

## 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

## 【Outline (in English)】

This course is called "Comparative Dramatics".

I hereby account for this class as followed;

Comparative Dramatics is one of the analytic ways for DRAMA, through which we can analyze so many dramas to understand the meaning and value of current real world from the view of Sociology, Ideology, Politics and Economics and so on.

LIN200TC (言語学/Linguistics 200)

**日本文芸研究特講・言語 (夏期スクーリング)****阿部 美菜子**

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：1群午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

沖縄の歌謡（『おもろさうし』『琉歌』）を読むことを通して、沖縄の古典語の基礎知識を習得すると共に、語学的な研究法を学ぶ。

**【到達目標】**

沖縄の古典語について理解し、『おもろさうし』を中心とする南島歌謡を読めるようになる。また、歌謡を精読する過程で、言葉に関する問題点を捉えると共に、解釈を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的に講義形式で授業を進めるが、受講生に意見を求めることもある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容や進め方についての説明、導入
第2回	南島歌謡概説	沖縄古語を伝える文献とその位置づけ
第3回	沖縄語と本土語	両語の関係、その他基本事項について
第4回	『おもろさうし』講読 (1)	「王府オモロ」を読む
第5回	『おもろさうし』講読 (2)	「地方オモロ」を読む
第6回	『おもろさうし』講読 (3)	「特殊オモロ」を読む
第7回	『おもろさうし』講読 (4)	「特殊オモロ」を読む
第8回	「琉歌」講読 (1)	「歌人」に注目して読む
第9回	「琉歌」講読 (2)	『おもろさうし』と比較しながら読む
第10回	「琉歌」講読 (3)	「和歌」と比較しながら読む
第11回	まとめ	講義全体のまとめ
第12回	試験	授業内試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で配布される資料によく目を通し、授業内容の復習をしてください。余力のある人は図書館を活用し、講義中に扱った内容および、自分自身が関心を持った事柄について調査してみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

適宜、プリントを配布する。

**【参考書】**

適宜、講義内で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (20%)、試験 (80%) により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

言語を専門としていない学生にも取り組みやすいよう、基礎力の強化を心がけた講義を行う。

また、『おもろさうし』および「琉歌」の世界をイメージしやすくする為に、映像教材を取り入れるなどの工夫をしていきたい。

**【その他の重要事項】**

授業計画は履修者の状況や講義の進捗状況により、一部変更することがある。

**【Outline (in English)】**

It is intended to deepen knowledge and the understanding about the classical language of Okinawa.

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 中国文芸史 (夏期スクーリング)

遠藤 星希

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

## 【中国古典小説史】

中国の古典小説のうち、唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説について概説する。日本人にとって馴染みのある中国の小説といえば、明代に成立した『三国志演義』や『水滸伝』『西遊記』などがまず想起されるであろうが、これらはいずれも当時の白話（＝話し言葉）で書かれた小説である。それに対して伝奇は、文言（＝書き言葉）で書かれており、漢文訓読による読解が可能である。唐代伝奇は昔から日本人に広く読まれており、日本の古典文学・近代文学に対する影響も大きい。本授業では、個々の作品の読解を通して、唐代伝奇が内包する文学性を探るとともに、その土壌となった当時の社会・文化背景について学ぶ。

## 【到達目標】

唐代伝奇が全体的にどのような特徴を有し、それまでの中国の「小説」とどのように異なるのかを把握する。また、個々の作品がそれぞれどのような意義を有しているかを、唐代の社会的・文化的背景と関連づけながら、具体例に即して人に説明できるようになる。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本的な文献を把握すること等を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	唐代伝奇についての概説
第2回	唐代伝奇 (1)	唐代伝奇の先駆的な作品である「補江総白猿伝」を読む
第3回	唐代伝奇 (2)	魂が肉体を離れて駆け落ちをした女性の話「離魂記」を読む
第4回	唐代伝奇 (3)	象の恩返しの話「安南獵者」を読む
第5回	唐代伝奇 (4)	狐の妖女と人間の男性との恋愛を描いた「任氏伝」を読む
第6回	唐代伝奇 (5)	『雨月物語』の「夢応の鯉魚」や、太宰治「魚服記」の粉本として知られる「薛偉」を読む
第7回	唐代伝奇 (6)	妓楼の高級娼婦と名門の御曹司との恋愛譚「李娃伝」を読む
第8回	唐代伝奇 (7)	民間信仰「運命の赤い糸」の源泉として知られる「定婚店」を読む
第9回	唐代伝奇 (8)	男装した女性による敵討ちの話「謝小娥伝」を読む
第10回	唐代伝奇 (9)	中島敦「山月記」の粉本として知られる「李徴」を読む

第11回	唐代伝奇 (10)	芥川龍之介による翻案で知られる「杜子春」を読む
第12回	スクーリング教室試験	筆記試験を行う

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストをあらかじめ購入し、各回で取り上げる作品を読んでおく。また、授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。なお、本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

今村与志雄訳『唐宋伝奇集』上・下（岩波文庫、1988年）

## 【参考書】

- ・岡本不二明著『「李娃伝」と鞭 唐宋文学研究余滴』（汲古書院、2015）
  - ・溝部良恵著『中国古典小説選6 広異記・玄怪録・宣室志 他』（明治書院、2008）
  - ・黒田真美子著『中国古典小説選5 枕中記・李娃伝・鶯鶯伝 他』（明治書院、2006）
  - ・成瀬哲生著『中国古典小説選4 古鏡記 補江総白猿伝 遊仙窟』（明治書院、2005）
  - ・竹田晃著『中国小説史入門』（岩波書店、2002）
  - ・魯迅著；中島長文訳注『中国小説史略』1-2（平凡社東洋文庫、1997）
  - ・魯迅著；丸尾常喜訳注『中国小説の歴史の変遷 魯迅による中国小説史入門』（凱風社、1987）
- その他、適宜授業中に指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

100%スクーリング教室試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。唐代伝奇の重要事項を把握できているか、簡単な漢文をきちんと読解できるか等を、評価の基準とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が時々確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

## 【Outline (in English)】

Amongst other Chinese classical novels, this course provides an overview of short novels called chuan-qi written during the Tang dynasty. Speaking of Chinese novels familiar to Japanese, you will be reminded of Romance of the Three Kingdoms, Water Margin, and Journey to the West all published during the Ming dynasty. These are all novels written in vernacular Chinese (=spoken language). In contrast, chuan-qi stories were written in literary language (=written language), which can be understood in kanbun. Chuan-qi stories during the Tang dynasty were broadly read by Japanese from ancient times and significantly influenced Japanese classical and modern literature. In this course, we will explore the literary qualities contained in chuan-qi stories during the Tang dynasty and learn about the underlying social and cultural background through reading individual works.

ART200TC (芸術学 / Art studies 200)
<b>日本文芸研究特講・音楽芸能史 (夏期スクーリング)</b>
<b>本塚 亘</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

#### 【到達目標】

- ・日本音楽史 (古代・中世) の概要について理解することができる。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について理解することができる。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めることができる。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式。音源や映像などの鑑賞を含む。毎時リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	雅楽《越殿楽》	《越殿楽》を鑑賞し、雅楽 (管絃) に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。
第2回	日本の様々な伝統楽器	正倉院の楽器を中心に日本の様々な伝統楽器について学び、そのルーツについて考える。
第3回	東大寺大仏開眼供養会	東大寺大仏開眼供養会の概要、規模、演目について学び、当時の音楽の機能と歴史的背景について考える。
第4回	日本の音楽の「起源」	出土品や『隋書』倭国伝の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第5回	雅楽寮の成立と内外楽の整理	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第6回	日本の「在来」歌舞	国風歌舞 (久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞) について学び、その由来や享受について考える。
第7回	舞楽 (左方・右方)	舞楽 (左方・右方) の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第8回	管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第9回	催馬楽	御遊で歌われる催馬楽について学び、『源氏物語』における催馬楽の引用場面について鑑賞する。

第10回	仏教と音楽	法会の形式や法要の種類、声明の曲種などについて学び、仏教における音楽の意義や、雅楽との関係、後の語り物芸能への影響について考える。
第11回	平家語り、語り物の普遍性	平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。
第12回	総括・試験	まとめと試験。試験は記述式、持込可。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

短期の集中授業であるため、各回の予習・復習時間を設定していません。大学設置基準に鑑みた場合の標準の予習・復習時間は各2時間とされているため、本授業の場合は合計48時間を目安としてください。

(予習)

予習はスクーリング期間が始まる前に行ってください。『源氏物語』については最低限の知識を得ておいてください。音楽の知識に関する予習は必須としませんが、下記【参考書】の『日本音楽基本用語辞典』などを活用することも有効です。

(復習)

復習は任意とします。図書館などを利用して、疑問点や興味を持った点について調べてみてください。

#### 【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

#### 【参考書】

岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』(講談社、1982)  
 平野健二ほか編『日本音楽大事典』(平凡社、1989)  
 『日本音楽基本用語辞典』(音楽之友社、2007)  
 遠藤徹『雅楽を知る事典』(東京堂出版、2013)  
 その他、授業時に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とする。

- ・リアクションペーパー 50%
- ・授業内試験 50%

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解度に不安を感じる方は、上記【到達目標】を目安にご対応ください。授業の性質上専門的な述語を用いることがありますが、学生のみなさんには、短期間の授業でそれらのすべてについて理解することを求めるわけではありません。また研究上未解明の課題についても取り扱いますが、それらの課題について、授業では必ずしも「正解」を提示できない場合があります。(2018年度授業時の独自アンケートによる気づき)

#### 【Outline (in English)】

This is an undergraduate-level schooling class giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. The main topics covered in the class are *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of "Japanese music" in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## 論文作成基礎講座Ⅱ（夏期スクーリング）

萩野 了子

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポート作成や卒業論文作成に必要な「読む」・「書く」スキルを身につけることを目的とする。自分が何を論じたいのか、論じるためにはどんな知識（技術）が必要かなどを授業を通してそれぞれ学びを深めていく。

また、語彙を豊富にするための方策の一環として、漢字の書記能力も併せて習得する。

## 【到達目標】

本授業は、レポート、卒業論文を作成するための基本的な技術を身に付けることが到達目標である。具体的には、対象となる文献を正しく読解し、その中から自分なりの問いをうち立てられるようになること。また、その問いを解決するために必要な調査を行えるようになること。そしてそれらの内容を、分かりやすい論理的文章で表現出来るようになること、である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

上記の目的と目標を達成するために、講義と作文・要約演習（添削指導含む）、漢字テストを行う。

具体的には、芥川龍之介の王朝物作品（『羅生門』及び『鼻』）を用いてテキスト読解と先行研究の調査・検討を行い、最終的に論文（2000字程度）のものに仕上げてもらふ。授業がはじまるまでにテキストを読み、この小説について考えておくことが必要である。

また漢字テストについては次のように行うので事前に学習しておくこと。

第一回：pp.7～34

第二回：pp.35～62

第三回：pp.63～90

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、グループ分け
第2回	小説読解①	『羅生門』『鼻』を読解する。
第3回	小説読解②	『羅生門』『鼻』の典拠の古典を学ぶ。
第4回	第一回漢字テスト	漢字を学習し、テストを行う。
	文章を要約する	文章の要約の方法を学ぶ。
第5回	要約演習	文章を要約し、提出する。
第6回	先行研究の探し方	データベースや図書館を使った先行研究の探し方を学習する。
第7回	要約返却・講評	添削した要約の返却と講評を行う。
	先行研究の読解と検討	先行研究を読解し、問題の立て方を学ぶ。
第8回	第二回漢字テスト	漢字を学習し、テストを行う。
	先行研究の整理・問いの立て方	先行研究で示されていた論点を整理し、自分の問いとの関係を意識する。
第9回	論文の構成①	論文を作成するために構成と展開のプランを考える。
第10回	論文の構成②	グループで相互批評を行う。
第11回	論文演習	論文の作成・清書を行う。

第12回 第三回漢字テスト 漢字を学習し、テストを行う。  
推敲・提出 作成した論文を推敲した後、提出する。全体のまとめを行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・芥川龍之介「羅生門」「鼻」を事前に読んでおくこと。
- ・漢字テストに備えた学習を行っておくこと。
- ・授業内でワークシートの作成など、課題が出たときには必ずこなすこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

- ・芥川龍之介『羅生門・鼻』（新潮文庫・2005年）
- ・『漢検2級漢字学習ステップ改訂3版』（日本漢字能力検定協会、2017年）

## 【参考書】

『読解を深める現代文単語〈評論・小説〉』（桐原書店）：大学入試用だが、先行研究のなかで用いられるようなキーワードが多く収録されているので、〈読む〉ための基礎知識を固めるために一読を勧める。この他に授業内で紹介することもある。

## 【成績評価の方法と基準】

- ・論文要約2回：20%
- ・漢字テスト3回：30%
- ・最終レポート（論文）：50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline (in English)】

In this lecture, we aim to acquire "reading" and "writing" skills necessary for preparation of report or of graduation thesis. Learn through each lesson to learn what kind of knowledge (technology) is necessary to discuss what you want to discuss. Also, as part of measures to enrich vocabulary, master the writing ability of kanji as well.

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 日本文芸研究特講・韻文 (夏期スクーリング)

土屋 聡

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

堀口大學の詩歌を通じて日本の近現代詩を学ぶことを目的とする。歌人であり詩人、そして翻訳家として知られた堀口大學 (明治25年～昭和56年) は数えて十八歳の明治四十二年に雑誌「スバル」へはじめて短歌を投稿し、やがてその創作を自由詩へと広げてゆく。その後外交官である父のもと、明治末年から大正期の多くを海外で過ごしつづつ大學は創作を続け、その経験が大正から昭和の時代の日本に、フランス語を中心とした新しい詩の息吹を紹介する契機となる。詩人とはその時代の空気をその作品に反映する性質を持つものであり、この講義では明治から昭和前期にかけての堀口大學による短歌と自由詩、翻譯詩を一つの軸とし、佐藤春夫や萩原朔太郎など大學に関わりのある詩人、およびその時代を代表する詩人による作品をとりあげてゆく。文語から口語、定型詩から自由詩へと移り変わる作品の素材や形式の変化や、作品に内在する文学内容の普遍性と新しい方法の変化への試みなどを意識しつつ、日本近代の詩歌の歩みを考えてゆく。

## 【到達目標】

詩歌それぞれの形式の特性とその内容をきちんと理解するとともに、さまざまな詩歌の表現に親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。また、毎回授業のおわりに出席表を兼ねてリアクション・ペーパーの記入を求める。これは的確な文章表現力を身に付けるためのよい訓練ともなるので、積極的に記入すること。また、必要があれば講義の内容の充実に反映させてゆく。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方と堀口大學について
第2回	明治末期の詩歌	短歌による出発
第3回	ロマン派の短歌の世界	明治期の連作の短歌を味わう
第4回	自由詩への広がり	佐藤春夫との関わり
第5回	大正期の詩歌 (1)	羈旅と恋愛
第6回	大正期の詩歌 (2)	萩原朔太郎との関わり
第7回	大正期の詩歌 (3)	外国の詩と日本の詩
第8回	昭和期の詩歌 (1)	発想の転換と近代化
第9回	昭和期の詩歌 (2)	新しい要素と詩のかたち
第10回	戦後の詩歌	普遍的な視点への到達
第11回	まとめ	学習した内容の総括と補足
第12回	試験	学習した内容の理解度を問う

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱った内容を各自で復習を行うこと。配布したプリントのすべての内容を授業時間内で扱うことはできないため、復習はその確認をふくめて丁寧に行うこと。また、次回の授業までに目を通すように指示された場合は、きちんと読んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

テキストは指定せず、必要に応じプリントを配布する。

## 【参考書】

特に指定しないが、講義の展開により必要が生じた場合は適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー10%、最終日に実施する試験90%で評価をおこなう。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to study the characteristics and development of poetry in modern and contemporary Japanese literature, based on reading of poetry works of DAIGAKU HORIGUCHI.

Daigaku Horiguchi was born in Japan in the middle of the Meiji era and later became known as a translator. His full-fledged literary career began in the field of poetry during his youth.

He was first involved in the writing of tanka. In the Meiji era, Hiroshi Yosano became one of the masters of one of the classic poetry styles of Japan, waka, which was updated to a modern style of tanka. Daigaku was also under the influence of Hiroshi's wife Akiko Yosano.

His father, a foreign diplomat, gave him the opportunity to live abroad intermittently, unusual for Japanese at the time. Living in the Japanese Embassy and the Japanese Embassy's residence, he acquired French, the official language of diplomacy at the time. In two different languages, French and Japanese, the world of his poetry extends to tanka and the creation of unconventional free poems. Translations of verses and prose, mainly in French literature, fueled his attempt to expand the world of literature.

Modern Japanese poetry has evolved between a style based on the characteristics of the Japanese language and the content and style of foreign poetry formed by different styles in different languages. His translation works had a new impact on modern Japanese poetry.

We learn the development of poetry in modern and contemporary literature in Japan, and at the same time, from various perspectives, consider how the poetry works are written, published in magazines and other media, and the collection of poetry is eventually created.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・近世 (夏期スクーリング)</b>
<b>牧野 悟資</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

和歌と狂歌の関係に注目しつつ、狂歌史を概観することによって、近世狂歌の位置づけを理解する。

**【到達目標】**

- ・狂歌の定義を理解する。
- ・狂歌史の知識を身につける。
- ・和歌と狂歌の関係を理解する。
- ・自分で考えたことを文章で表現できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義を主とする。テーマに関する概説をした後で、実際に作品を読んでいく。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	和歌と狂歌	ガイダンス 狂歌の定義について
第2回	戯歌	戯歌概説 戯歌を読む
第3回	俳諧歌	俳諧歌概説 俳諧歌を読む
第4回	中世の狂歌	中世の狂歌概説 中世の狂歌を読む
第5回	職人歌合・落首・道歌	職人歌合・落首・道歌概説 職人歌合・落首・道歌を読む
第6回	近世初期狂歌	近世初期狂歌概説 近世初期狂歌を読む
第7回	上方狂歌1 - 貞柳の狂歌 -	上方狂歌 (貞柳狂歌) 概説 上方狂歌 (貞柳狂歌) を読む
第8回	上方狂歌2 - 上方狂歌の諸流派 -	上方狂歌 (諸流派) 概説 上方狂歌 (興歌) を読む
第9回	江戸狂歌1 - 天明期の狂歌 -	江戸狂歌 (天明期狂歌) 概説 江戸狂歌 (天明期狂歌) を読む
第10回	江戸狂歌2 - 真顔の俳諧歌 -	江戸狂歌 (俳諧歌) 概説 江戸狂歌 (俳諧歌) を読む
第11回	江戸狂歌3 - 天明調・文政調・天保調 -	江戸狂歌 (天明調・文政調・天保調) 概説 江戸狂歌 (天保調) を読む
第12回	まとめと試験	まとめ 試験

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

予習として各回ともにテーマについて簡単に下調べしておくこと。復習として各回ともに配布資料及び授業ノートを読み直して内容について理解すること。2日目以降、毎日前半の授業冒頭で小テストを実施する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

教科書として作成したプリントを配布する。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

授業時の課題 (30%) と第12回に実施する試験 (70%) を中心に平常点を加味して総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline (in English)】**

The object of this class is to understand the significance of early modern kyōka by taking a general view of kyōka history while paying attention to a relationship between waka and kyōka.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・中古 (夏期スクーリング)</b>
<b>中西 智子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、平安中期の物語文学の精華とされる『源氏物語』の表現を深く味わい、作品の魅力に迫ります。また、当時の文学的背景や社会的状況を知ることで、本作品の成立についての理解を深めます。

#### 【到達目標】

『源氏物語』の文章表現を味読し、授業で取り扱った範囲における物語の内容や作中人物の関係性について説明できるようにします。また、平安中期の文学作品を取り巻く人々の思考や行動、習俗等について学び、当時における『源氏物語』の生成・享受のありようを理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行いますが、毎回コメントペーパーへの記入の時間を設けます。

コメントペーパーについては、次回授業内にて適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	『源氏物語』の構成等、基本的な知識について概説し、参考文献を紹介します。
第2回	『源氏物語』の世界	平安時代の都の様子や身分制度等について解説します。
第3回	『源氏物語』の成立	『源氏物語』のような長篇文学作品の成立の経緯について、諸説を紹介しつつ考えます。
第4回	『源氏物語』を読む①	『源氏物語』桐壺巻・若紫巻における、光源氏と藤壺の交渉場面を味読します。
第5回	『源氏物語』と紫式部	『源氏物語』の作者とされる紫式部、および紫式部を取り巻く文化圏の人々について紹介します。
第6回	『源氏物語』を読む②	『源氏物語』紅葉賀巻における、光源氏と藤壺の交渉場面を味読します。
第7回	『源氏物語』と詩的言語	『源氏物語』における詩的言語 (和歌的表現) のはたらきについて見ていきます。
第8回	『源氏物語』を読む③	『源氏物語』賢木巻における、光源氏と藤壺の交渉場面を味読します。
第9回	『源氏物語』と語り手	『源氏物語』における「語り手」のはたらきについて考えます。
第10回	『源氏物語』を読む④	『源氏物語』薄雲巻・朝顔巻における、光源氏と藤壺の交渉場面を味読します。

第11回 『源氏物語』の受容と変容 後代における『源氏物語』の受容と変容の一端を紹介し、いわゆる「古典文学」と呼ばれるものの性質について考えます。

第12回 最終試験 これまで学習した内容に関する理解度を確認するため、試験を行います。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業に先立ち、次回読む範囲の物語のあらすじを把握しておくこと、また、授業内にとったノートや配布プリントをよく読み、講義内容を復習することが求められます。

#### 【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、毎回プリントを配布します。

#### 【参考書】

参考書は初回の授業内で示しますが、特に以下のものは入手しやすく分かりやすいと思います。事前に物語の内容に目を通しておくことで、より効果的な学習が期待されます。

【原文付注釈書】柳井滋ほか校注『源氏物語』(岩波文庫、2017～※全九冊予定)

【現代語リライト本】田辺聖子『新源氏物語 上・中・下』、『霧ふかき宇治の恋 上・下』(ともに新潮文庫1984、1993)

【入門書】今井源衛『源氏物語への招待』(小学館ライブラリー、1997)

【便覧】中野幸一『新装版 常用源氏物語要覧』(武蔵野書院、2012)

#### 【成績評価の方法と基準】

最終試験 (60%) とコメントペーパーによる平常点 (40%) により評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のためフィードバックはありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

扱う内容については、受講生の興味・進度に応じて変更することがあります。

#### 【Outline (in English)】

In this class, you will deeply enjoy the expression of "The Tale of Genji", which is the essence of narrative literature in the mid-Heian period, and explore the appeal of the work. Also, knowing the literary background and social situation at the time will deepen the understanding of the formation of this work.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
<b>論文作成基礎講座 I（夏期スクーリング）</b>
<b>園 明美</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本文学の専門科目では、レポートの執筆に取り組まなければならない。さらに、日本文学の学業の集大成としては卒業論文の執筆がある。これらのレポートや論文作成に欠かせないのが、先行研究を踏まえるという行程である。本科目では、レポートや論文を執筆する上で基礎作業となる先行研究の検索方法と、収集した文献の活用方法について、実習を通じて学ぶ。

**【到達目標】**

1. レポート、論文を執筆する上で、先行研究を踏まえることの重要性を理解する。
2. インターネットを利用し、先行研究（研究書、雑誌論文）の検索方法を、複数習得する。
3. 先行研究の引用方法と、研究書、雑誌論文名の記載方法を習得する。
4. 大学図書館等の専門図書館の活用方法について理解する。
5. 収集した先行研究の整理・利用法を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

はじめに、レポート・論文を執筆する上で、テーマを設定することや先行研究を踏まえることの重要性を講義する。次に、法政大学図書館の利用方法を実地で習得する。同時に、情報自習室において、インターネットを利用した先行研究の検索方法を実習形式で学ぶ。あわせて、収集した文献の利用方法等も実習形式で学ぶ。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	レポート、卒業論文執筆に向けて（1）	良いレポート・論文を書くために大切なことは何か、考えてみよう。
第2回	レポート、卒業論文執筆に向けて（2）	文献検索の準備段階としての、テーマ設定の重要性を理解する。
第3回	大学図書館を利用しよう	法政大学図書館の利用ガイダンスを行う。
第4回	レポート、卒業論文執筆に向けて（3）	レポート・論文の形式について理解する。
第5回	基礎文献を知る	辞書類・テキストの種類や利用法について理解する。
第6回	文献検索の方法（1）	NDL-OPACを利用方法を学ぶ。
第7回	先行研究の整理	収集した先行研究（研究書・雑誌論文）の整理・活用法について理解する。
第8回	文献検索の方法（2）	国文学論文目録データベースの利用方法を学ぶ。
第9回	文献の記述方法	文献の引用と表記の方法を学ぶ。
第10回	文献検索の方法（3）	CiNiiの利用方法を学ぶ。
第11回	レポート・論文の執筆手順	収集した先行研究（研究書・雑誌論文）を利用してレポート・論文を執筆する際の基礎的な手順を理解する。

**第12回 実習**

自ら設定したテーマにしたがい、文献を検索し、大学図書館で入手するまでの実習を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で紹介したデータベースの利用方法は、自宅のパソコンでも復習し、習熟すること。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『日本文学科のしおり』

**【参考書】**

なし。（授業の中で、適宜必要な文献を紹介する。）

**【成績評価の方法と基準】**

授業中に提示する課題の完成度により成績評価を行う。配分は100%。なお、この授業は実習科目であるため、原則として、途中での欠席は認められない。

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートに寄せられたコメントの中で「具体例を示してくれたことがわかりやすくてよかった」「講師が実際に論文作成の際に使用したノート等を見せてくれたので参考になった」という趣旨のものが散見した。したがって、今年度もできる限り具体的な事例を提示するとともに、自身の経験も踏まえた事例も提供し、より実践的な学習ができるよう配慮するつもりである。

**【学生が準備すべき機器他】**

情報実習室でパソコンを利用して行う。

**【その他の重要事項】**

本科目は基本的なパソコンの操作（インターネット・ワープロ機能）を使用した経験のある学生を対象にする。

**【Outline (in English)】**

This course introduces to how to look for documents for treatise writing students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Look for literature cited on the Internet.
- ・ Evaluate major studies in terms of their methods, results, conclusions and implications.

ART300TC (芸術学 / Art studies 300)
<b>書道史 (夏期スクーリング)</b>
<b>山口 恭子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国、および日本の書の歴史を学ぶ

#### 【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項（様々な書体や、「三筆」「三跡」等の用語など）、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。なお、授業の内容に関してリアクションペーパーを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隸書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまざま)	・仮名の書美とはなにか
第11回	日本書道史5 (平安後期の書、中世の書)	・西本願寺本三十六人家集 ・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第12回	日本書道史6 (近世初期の書)	・寛永の三筆の書 ・試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九楊『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しません。授業時にプリントを配布します。

#### 【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（萱原書房、2005年）  
 ・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）  
 ・名児耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）  
 そのほか、講義時に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験（70%）平常点（30%）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

プリントやパワーポイントなどによってなるべく多くの図版を示し、書の歴史とともに書作品の鑑賞についても講じたい。

#### 【Outline (in English)】

This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸学概論 (夏期スクーリング)</b>
<b>大和田 茂</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文学の本質、理念、おもしろさ、効用、歴史と文学、社会と文学などの関係、文学のジャンルなどをめぐる基礎的な問題を考察し、鑑賞・批評・研究の基本を学ぶ。

#### 【到達目標】

文学を学ぶために、様々な基礎知識や問題意識を養い、作品鑑賞と研究方法が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

中・近世の作品も扱う予定ですが、主に近代文学の観念が形成、確立されたところから1920年代までの作家・作品をとりあげ、目的に沿った講義・演習をすすめていきます。また、後半には短編小説や評論を鑑賞、批評する演習も行ないます。

原論的問題を含むので、昨年度と一部重なる場合があることを了解していただきたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	はじめに オリエンテーション 「文学」と「文芸」を めぐって	授業の進め方・予定 「文学」をめぐって 文学の力・目的・おもしろさな どについて
第2回	文学の本質と役割、 基礎知識	形象・想像力・インタレスト・ 異化・アイデア・鑑賞の方法、 テーマとモチーフなどについて
第3回	近代文学観念の生成 と確立	和歌、俳諧、松尾芭蕉、坪内逍 遙、北村透谷、森鷗外などの作 品をめぐって
第4回	近代文学観念の展開 と達成	上記作品及び自然主義文学から、 モダニズム、プロレタリア文学 における「実行と芸術」等につ いて
第5回	上記の問題に関係す る小説・評論を読む (1)	班討議と発表
第6回	(1) の小説・評論の テーマと技巧ほかの 諸問題	講義と質疑
第7回	上記の問題に関係す る小説・評論を読む (2)	班討議と発表
第8回	(2) の小説・評論の テーマと技巧ほかの 諸問題	講義と質疑
第9回	上記の問題に関係す る小説・評論を読む (3)	班討議と発表
第10回	(3) の小説・評論の テーマと技巧ほかの 諸問題	講義と質疑

第11回	様々な研究方法及び 全体のまとめ	まとめと補足 試験について
第12回	試験 個別質問	試験 終了後、個別質問

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指示した作品や前もって配布したプリントは、必ずそれを読んで授業に臨んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

『日本近代文学評論選 明治・大正篇』(2003) 岩波文庫 ￥910 + 税

#### 【参考書】

大江健三郎『新しい文学のために』(1988) 岩波新書 ￥720 + 税

#### 【成績評価の方法と基準】

試験70% 平常点30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

文学への興味がより深まり、さらに文学研究への意欲を引き出せるよう指導したい。班討議及び発表の時間を充分とり、問題意識を共有し議論を深めていきたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。使用する資料、プリントは授業で配布します。Web学習サービスは使用しません。

#### 【その他の重要事項】

特になし

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the basics and essence of literature including literal thoughts, its classification, the fun of learning, its usefulness, and its relation with history to students taking this course.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・近代 (夏期スクーリング)</b>
<b>沼田 真里</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

正岡子規、夏目漱石、森鷗外をとりあげ、〈近代〉という時代と〈近代文学〉について学びます。彼らがかかわった雑誌『ホトトギス』にも着目し、当時の写生文運動や文人俳句など、文学史の知識を深めると同時に、作品読解や作家研究について実践的に学びます。

### 【到達目標】

本授業から、以下の能力を身につけることを目標とします。

1. 文学作品を自ら読み解き、独自の観点や論点を導き出すことができる。
2. 研究方法を多角的に学び、それらを的確に用いて、論を展開できる。
3. 他者との意見交換や発表により発信力を身につけ、多様な意見を踏まえながら、自らの論を推敲し、発展させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式とゼミナール形式を織り交ぜながら進めます。講義により、文学研究の手法や発想法を学ぶと同時に、クラス全体によるディスカッションや発表を経験することで、自分自身の意見が明確になり、見直されていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	近代文学とは ～正岡子規とその時代～	本授業のガイダンス。その後、近代文学の成立や時代背景といった、近代文学の基礎知識の確認。続いて、正岡子規の随筆を中心に講義。
第2回	夏目漱石～『坊っちゃん』から死生観まで～	夏目漱石『坊っちゃん』を導入に、『こころ』『硝子戸の中』から死生観を読む。全体による作品の感想と意見交換。
第3回	森鷗外の歴史小説	森鷗外の歴史小説を中心に、死生観を検討する。全体による作品・作家への感想と意見交換。
第4回	雑誌「ホトトギス」 ～テーマを探る～	雑誌「ホトトギス」が果たした役割や意義を、写生文運動や文人俳句といった観点で学ぶ。
第5回	日本近代文学研究について	日本近代文学研究の現状と、研究方法、テーマの見つけ方、参考文献の紹介。その後、グループ分け。
第6回	作家・作品をどう読むか1	グループに分かれ、三作家の作品・作家へのアプローチ (先行研究、研究方法の探索)
第7回	作家・作品をどう読むか2	グループに分かれ、三作家の作品・作家へのアプローチ (テーマの探し方、観点・論点の置き方を検討)
第8回	発表準備	グループに分かれ、三作家の作品・作家へのアプローチ (具体的に分析や論証を展開し、発表の形にしていく)

第9回	発表1	グループごとに発表する。その後、全体で、意見交換と感想、アドバイスなどを共有する。
第10回	発表2	グループごとに発表する。その後、全体で、意見交換と感想、アドバイスなどを共有する。
第11回	講義とまとめ	講義やグループ発表の作品読解から見えてきたものを確認しつつ、日本近代文学の特質や問題意識を考察する。
第12回	授業内試験	授業内容の理解を問う、記述式試験。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で取り上げる作品 (『墨汁一滴』『こころ』『硝子戸の中』『阿部一族』『最後の一句』『高瀬舟』) をすべてを読んで受講することが望ましい。少なくとも、各作家ごとに1作品以上は、目を通しておい

てください。  
授業内で、必ず全員がグループ発表を経験し、どの発表に対しても全体で討議します。活発な意見交換のためにも、テキストを事前に読んでおくことと、授業にテキストを持参することは必須です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

正岡子規『墨汁一滴』(岩波文庫他)、夏目漱石『こころ』『硝子戸の中』(新潮文庫他)、森鷗外『阿部一族』『最後の一句』『高瀬舟』(岩波文庫他)。文庫以外にも、文学全集や個人全集に収録されている。その他のテキストは、適宜プリントで配布する。

### 【参考書】

日本近代文学史にまつわる概説書。各作家の研究書など。可能ならば、正岡子規『病牀六尺』、夏目漱石『坊っちゃん』、森鷗外『護持院原の敵討』など、読んでおくことが望ましい。

### 【成績評価の方法と基準】

事前学習・授業への取り組み・授業内の発表や発言など「平常点」が40%、授業内試験が60%で、総合的に判断します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、とくに気づきはありません。

### 【Outline (in English)】

In this class, we will learn about modern and Japanese modern literature, focusing on works by Shiki Masaoka, Soseki Natsume and Ogai Mori. We will also focus on the magazine "Hototogis", which is closely related to them. Students will deepen their knowledge of the history of Japanese modern literature, such as the movement of word picture and the writer's haiku, while also learning practically about work analysis and writer research.

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・上代 (夏期スクーリング)</b>
<b>坂本 勝</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

#### 【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解説法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	授業全体の概説
第2回	日本の《はじまり》 物語	日本の創世記を紹介します
第3回	世界の《はじまり》 物語	古事記、日本書紀、風土記の創生神話を学びます
第4回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第5回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第6回	《黄泉の国》はどこにある	同前
第7回	《根の国》の話	同前
第8回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第9回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第10回	《海》の神話	同前
第11回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第12回	試験	講義内容の理解と授業テーマへの関心、理解度を問う。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキスト、参考文献、配布資料をよく読んでおくこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。紙の書籍がない場合は電子書籍を購入してください。電子書籍版の配信先はkindle,kobo,iBook,紀伊国屋、hontoなど (Google版を除く)。スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応。ほかに、プリント教材を配布。

#### 【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

#### 【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) に平常点 (40%) を加味して評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

#### 【Outline (in English)】

In this course, lectures on the mythological world of ancient Japan would be given. The worldview of ancient Japan, their way of feeling and thinking, those things what modern people lost would be examined.

LIN200TC (言語学/Linguistics 200)
<b>日本文法論 (夏期スクーリング)</b>
<b>尾谷 昌則</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小中学校の国語で習う文法は橋本進吉の理論に基づいており「学校文法」とも呼ばれている。しかし、教科書に採用されているからといって、決して完璧な理論とは言えず、不備や例外もある。どこが間違っているのか、どう修正すべきなのか、それらを考えながら、学校文法を概観する。

#### 【到達目標】

- (1) 国語教員が押さえておきたい学校文法の基礎を理解する。
- (2) 学校文法の不備・例外について理解する。
- (3) 日本語文法が抱える諸問題について、論理的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、単に結論を暗記すればいいと思ってもらっては困るので、受講生に積極的に発言してもらうべく、様々な問題・課題を与え、回答をリアクションペーパーに書いてもらう。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	品詞	品詞の定義と問題点について
第2回	活用	活用体系とその問題点について
第3回	文構造	文節同士の関係と文構造について
第4回	格助詞	格助詞の用法と意味について
第5回	副助詞	副助詞の用法と意味について
第6回	接続助詞	接続助詞の用法と意味について
第7回	修飾	連用修飾と連体修飾について
第8回	助動詞(1)	受身・使役・可能の助動詞とその問題点について
第9回	助動詞(2)	否定・時間の助動詞とその問題点について
第10回	助動詞(3)	モダリティに関して
第11回	助動詞と働きかけの形式	対人的モダリティについて
第12回	まとめ	試験とフィードバック

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の予習 (2時間)

小テストの準備 (1時間)

当日の講義の復習 (1時間)

#### 【テキスト (教科書)】

『国語教師が知っておきたい日本語文法』(山田敏弘著、2004年、くろしお出版、1,600円)

#### 【参考書】

(基礎) 町田健 2002. 『まちがいだらけの日本語文法』東京：講談社 (¥735)  
 (発展) 庵功雄ほか2000. 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京：スリーエーネットワーク。(¥2,310)

#### 【成績評価の方法と基準】

中テスト1 25%

中テスト2 25%

最終テスト 50%

#### 【学生の意見等からの気づき】

小中学校で習った文法にも多くの例外や不備があるということが新鮮だったとのコメントが多かった。そういった例外についてもっと深く考えてもらい、「文法は単なる暗記の授業ではない」ということを分かってもらうためにも、受講生が考え、発言する時間を多めに与えたい。

#### 【Outline (in English)】

After reviewing the Japanese traditional grammar adopted to the textbooks for Japanese public junior high schools, we will discuss and study the irregularities or bugs in it. The objectives of this class are to understand such irregularities and to become able to explain them to someone else.

LIT200TC (文学 / Literature 200)
<b>文学概論 (夏期スクーリング)</b>
<b>山田 稔</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講座では「日本近代文学」の成り立ちについて、具体的な作品鑑賞を元に考えていきます。それを柱としながら、「文学を学ぶ」とはどういうことか、また、文学研究の方法といったことも考えていきます。つまり、「日本近代文学」についての認識を深めるとともに、文学鑑賞、文学研究についての認識も深めていきたいと思えます。その家庭で多くの作品に触れて欲しいと思えます。

### 【到達目標】

日本近代における「文学」の成立とその特質を、多方面から理解し、その理解を深めること。

また、その上立って、文学研究の方法などについての認識を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

「日本近代文学」とは何かを、文学史を意識して、言語についてなど、多方面からアプローチを試み、学問として、その特質や研究方法を意識しながら学んでいく。また、実際に文学作品を取り上げながら、近代日本文学の成立過程から現代にいたる流れとその特質について理解を深める。その上で、文学表現の可能性について、認識を深めていく。基本は講義形式であるが、出席者への対話も取り入れながら進めていくので、取り上げる作品を事前に読んで参加して欲しい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義概要—「日本近代文学」とは何か	物語から小説へ—坂口安吾「文学のふるさと」三島由紀夫「小説とは何か」 今年度の講義について、概要を示しますので、受講希望者は必ず出席してください。
第2回	日本の言葉とはどういう言語か	「古今和歌集」から「土佐日記」へ
第3回	「近代日本語」の成立と「国語」という問題	「浮雲」から「吾輩は猫である」、そして「国語」という問題
第4回	文学研究とは何か、文学研究と方法論	小田切秀雄、三好行雄、そして新しい研究へ、たとえばバルト「物語の構造分析」
第5回	「日本近代文学」の成立過程 1	日本近代に於ける文学の概念と小説の成立
第6回	同2回—近代詩と批評性	「新体詩抄」と二葉亭四迷「浮雲」
第7回	同3回—近代、文学概念の確立、日本語の文体	「浮雲」と夏目漱石「吾輩は猫である」と森鷗外「舞姫」
第8回	同4回—近代文学の成熟、文学の可能性	芥川龍之介「羅生門」と宮沢賢治「銀河鉄道の夜」など
第9回	同5回—戦中から戦後へ	志賀直哉「灰色の月」太宰治「斜陽」、坂口安吾

第10回	同6回—戦後派の出現	植谷雄高「死霊」と武田泰淳「ひかりごけ」など
第11回	同7回—第三の新人以後	大江健三郎「あたらしい人よ眼ざめよ」、遠藤周作「沈黙」、中上健次など
第12回	同8回—現代の文学状況	村上春樹、小川洋子、阿部和重、そして伊藤計画へ

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義で取り上げる作家・作品 (授業計画に示してある作家や作品) は事前に読んでおくこと。そしてそれらの作品論のいくつかについても学んでおくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業計画に示してある、各作家の作品については、文庫などに入っているものを利用してかまいません。特に本の指定はしません。

### 【参考書】

中村光夫『日本の近代小説』『日本の現代小説』(岩波新書)

本多秋五『物語戦後文学史』(岩波現代文庫)

磯田光一『鹿鳴館の系譜』(講談社文芸文庫)

柄谷行人『日本近代文学の起源』(講談社文芸文庫)

小田切秀雄『日本文学の百年』(東京新聞出版局)

### 【成績評価の方法と基準】

各授業日に小課題の提出(20%)と、最終日に、講義全体の中で取り上げたテーマ作品についての論述のテスト(70%)を実施します。また、授業への参加度 (意見発表など) (10%)などを総合的に判断し評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目なので特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

なし

### 【その他の重要事項】

作品を変更する場合があります。その場合は授業の初日に連絡します。

### 【Outline (in English)】

In this course, I will consider the origins of modern Japanese literature based on the appreciation of specific works. I will also consider what "learning literature" means. In other words, I would like to deepen my understanding of "Japanese Modern Literature", as well as literary appreciation and literary research.

HIS300TD (史学/History 300)

**史学演習 (日本) (夏期スクーリング)**

大塚 紀弘

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：1群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

鎌倉幕府の歴史書である『吾妻鏡』を講読する。今年度は、文治4年(1188)4月9日条から講読を始める予定である。日本中世の漢文史料を読解する基礎的な力を養成することを目的とする。

**【到達目標】**

日本中世の漢文史料を正しく訓読した上で、語句の意味を調べ、内容を正確に理解し、現代語訳することができる。所定の事項を満たしたレジュメを作成し、発表することができる。所定の事項を満たしたレポートを作成し、第12回の最初に提出することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

第1回・第2回・第12回は、講義形式で進める。第3回～第11回は、演習形式で進める。担当者がレジュメに基づいて発表した後、その内容に基づいて、司会者の進行のもと、原則として全員が発言し議論する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	『吾妻鏡』とは (1)	履修のガイダンス
第2回	『吾妻鏡』とは (2)	史料の性格と講読の進め方の解説
第3回	『吾妻鏡』講読 (1)	読解の報告と議論
第4回	『吾妻鏡』講読 (2)	読解の報告と議論
第5回	『吾妻鏡』講読 (3)	読解の報告と議論
第6回	『吾妻鏡』講読 (4)	読解の報告と議論
第7回	『吾妻鏡』講読 (5)	読解の報告と議論
第8回	『吾妻鏡』講読 (6)	読解の報告と議論
第9回	『吾妻鏡』講読 (7)	読解の報告と議論
第10回	『吾妻鏡』講読 (8)	読解の報告と議論
第11回	『吾妻鏡』講読 (9)	読解の報告と議論
第12回	講読内容の総括	レポートの提出

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

履修者全員が講読する部分の訓読文・現代語訳文を予め作成する。担当者は担当部分を読解し、発表レジュメを用意する。第10回までに講読した部分の訓読文・現代語訳をレポートとしてまとめ、第12回の最初に提出する。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

新訂増補国史大系『吾妻鏡』  
 講読する部分のコピーを配布する。

**【参考書】**

五味文彦『増補 吾妻鏡の方法』(吉川弘文館、1990年)  
 その他は授業時に指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点24%、発表点40%、レポート点36%の合計で評価する予定である。

**【学生の意見等からの気づき】**

議論が活発になるように努める。

**【Outline (in English)】**

Read the medieval Chinese texts and train the ability to understand the contents deeply.

HIS200TD (史学/History 200)
<b>史学概論 (夏期スクーリング)</b>
<b>秋山 千恵</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

歴史学を学ぶ際の基本的な知識を整理し、歴史を学ぶことの意味や意義を考えることを目的とします。

**【到達目標】**

歴史学とは何か、歴史的事実とは何か、史料とは何か、史料批判とは何か、歴史認識とは何かという基本的な問題を考えます。そして、現在歴史学がいかなる問題に直面しているのかを検討します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テーマごとに講義形式で授業を進めていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	「史学概論」では何を学ぶのかを参考文献を紹介しながら説明します
第2回	歴史学とは(1)	歴史学の営みについて検討します
第3回	歴史学とは(2)	科学としての歴史学について説明します
第4回	史料について(1)	史料とは何か、史料をよむということについて、諸研究を例に挙げて説明します
第5回	史料について(2)	文字史料の史料批判について具体例を挙げて説明します
第6回	史料について(3)	言語論的転回について検討します
第7回	「記憶」と歴史学 (1)	スミソニアン博物館の展示をめぐる問題から「記憶」と歴史学の対抗について考えます
第8回	「記憶」と歴史学 (2)	歴史修正主義の問題点について説明します
第9回	「記憶」と歴史学 (3)	従軍慰安婦論争と歴史学について検討します
第10回	「記憶」と歴史学 (4)	「記憶」を抹殺しようとするものに対する戦いについて
第11回	歴史の見直し	ドイツとポーランドの取り組みについて検討します
第12回	試験	論述試験をします

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回授業前に前回までの講義内容を復習することで理解を深めます。各回予習復習2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しません。

**【参考書】**

参考書は授業内で随時紹介しますが、以下の文献を挙げておきます。  
 小田中直樹『歴史学ってなんだ?』PHP新書 2004年、¥680  
 浜内 謙『現代史を学ぶ』岩波新書 1995年、¥819  
 E. H. カーク著・清水幾太郎訳『歴史とは何か』岩波新書 1962年、¥650

遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会 2010年、¥6800

東京大学史料編纂所編『日本史の森をゆく 史料が語るとおきの42話』中公新書 2014年、¥800

**【成績評価の方法と基準】**

成績は論述試験（100%）で評価します。授業内容の理解とそのまとめ方を重視します。

**【学生の意見等からの気づき】**

随時受講生の意見を聞きながら、改善点を検討します。

**【その他の重要事項】**

本授業は、2016年夏期スクーリング「史学概論」の内容と重複します。また、2018年夏期スクーリング「史学概論」の内容と一部重複します。

講義の進捗状況に応じて一部内容を組み換えることがあります。

**【Outline (in English)】**

An Introduction to basic principles of historiography; deals with methodology, documentation, and use of concepts, etc.

HIS200TD (史学/History 200)

**東洋史概説 (夏期スクーリング)**

塩沢 裕仁

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：1群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

## 授業の概要

隋唐の長安・洛陽成立前史として中国古代王朝の都を考えて行きます。

## 授業の目的・意義

古代中国史を彩った王朝文化の中心である都の有様と研究の現状をみることによって、長大な中国史の流れを実感し、東アジアの歴史文化に対する認識を深めることができます。

**【到達目標】**

中国古代王朝の政治・経済・文化の中心として機能してきた都の有り様とそれに関連する遺跡や文物を理解することで中国古代史の大きな流れと発展の状況を理解することができます。また同時に中国文化と深い関係にあった日本文化に対しても新たな認識をえることができます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

隋唐の長安・洛陽の成立に至る過程を中心に中国古代王朝の都に関する発掘状況や保存状況を見ていきます。また、都の近傍に展開する陵墓の状況を通して各王朝の皇帝とその偉業などについても触れていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	二里头・偃師商城・鄭州商城	夏王朝の存在と夏殷交代期の問題を考える。
第2回	殷墟遺跡	殷墟をめぐる諸問題を考える。
第3回	周原・宗周豊鎬京	西周王朝をめぐる問題を考える。
第4回	成周洛邑	東周王朝をめぐる問題を考える。
第5回	邯鄲・侯馬・臨淄・新鄭	春秋戦国期の都を考える。
第6回	秦の雍城・咸陽	秦王朝の都を考える。
第7回	前漢の長安	前漢の長安とその都市圏を考える。
第8回	後漢の洛陽	後漢洛陽とその都市圏を考える。
第9回	魏晋南北朝の鄴都	鄴都という都の性格を考える。
第10回	六朝の建康	建康と南朝文化を考える。
第11回	北魏の平城・洛陽	遊牧都市の性格を考える。
第12回	隋唐の長安・洛陽	隋唐の長安と洛陽の性格を考える。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

中国王朝の流れ、地理環境、行政区分など、基本的な問題は下記の参考書などを通じて理解しておくようにしてください。また、授業中に配布する資料には必ず目を通しておくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストは使用しません。

**【参考書】**

『千年帝都洛陽』塩沢裕仁、雄山閣、定価：3,990円（税込）  
 『中国の歴史 上（古代－中世）』（2009年改訂版）愛宕元・富谷至、昭和堂、定価：各2,415円（税込）

『ビジュアル版世界史5、中国文明の成立』、講談社、定価2,625円（税込）。

『ビジュアル版世界史8、東アジアの世界帝国』、講談社、定価2,625円（税込）

**【成績評価の方法と基準】**

記述式試験100%

**【学生の意見等からの気づき】**

全員が初めて受ける内容であると思ってください。したがって、高等学校において世界史を選択したか否かは問題ではありません。

**【Outline (in English)】**

We will study on the Chinese ancient dynasties as the birth-history of the “Sui/Tang” capital “Changan” and “Luoyang”.

HIS300TD (史学 / History 300)
<b>史学演習 (日本) (夏期スクーリング)</b>
<b>松本 剣志郎</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

歴史を学ぶ者にとって、史料の正確な読解は基本であり、そこから自らの歴史像を組み立てることを要求される。この授業は、江戸の町触を素材として、学生が史料の読解力を高めることを目的とする。

#### 【到達目標】

- ①史料を正確に音読し、現代語訳することができる。
- ②史料上の用語について調べ、それを説明できる。
- ③史料の内容を理解し、それを時代背景のなかに位置づけることができる。
- ④史料の解釈について討議できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

学生の報告および討議が中心である。『江戸町触集成』の史料を担当者が書き下し、現代語訳、語句説明および史料の位置づけをレジюмеにして発表する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の説明、近世史研究入門
第2回	史料読解の基礎	近世史料の読み方
第3回	調査研究の実践 (1)	図書館の使い方
第4回	調査研究の実践 (2)	研究論文の探索
第5回	史料講読 (1)	『江戸町触集成』 11020～11022号
第6回	史料講読 (2)	『江戸町触集成』 11023～11025号
第7回	史料講読 (3)	『江戸町触集成』 11026～11028号
第8回	史料講読 (4)	『江戸町触集成』 11029～11031号
第9回	史料講読 (5)	『江戸町触集成』 11032～11034号
第10回	史料講読 (6)	『江戸町触集成』 11035～11037号
第11回	史料講読 (7)	『江戸町触集成』 11038～11039号
第12回	論文講読	卒論執筆に向けて

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

史料講読においては、報告担当者以外も事前学習として史料の書き下しと現代語訳に取り組み、語句などを調べてくること。授業後には、史料の意味確認や授業時に紹介された参考文献などを読み、理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

『江戸町触集成』(塙書房)。ただし、該当部分をコピーして配布する。

#### 【参考書】

『国史大辞典』(吉川弘文館)、大石学編『江戸幕府大事典』(吉川弘文館)ほか

#### 【成績評価の方法と基準】

1 報告 (80%)。担当者は、レジюмеを作成し、出席者に配布する。2 質疑応答 (20%)。報告順番を決めるので第1回および第2回の授業への欠席は原則認められない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

卒論を書ける力を養成していきます。

#### 【Outline (in English)】

This course deals with the early modern history of Japan, reading Edo City Ordinances. At the end of the course, participants are expected to read historical documents aloud and translate them into modern Japanese.

HIS300TD (史学/History 300)
<b>日本中世史 (夏期スクーリング)</b>
<b>仁平 義孝</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の幕府政治史を概観する。数多ある論点のなかから、和田合戦や霜月騒動など幕府内部で繰り返された内紛と、幕府政治機構の中核である評定・引付・寄合について、関連する史料を読みながら検討し、その意義を考えていきたい。

#### 【到達目標】

鎌倉幕府政治史の流れを理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	源頼朝執政期の幕府政治(1)	寿永2年10月宣旨、文治勅許などの検討。
第2回	源頼朝執政期の幕府政治(2)	頼朝上洛、建久7年の政変などの検討。
第3回	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(1)	13人の合議制、比企氏事件などの検討。
第4回	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(2)	和田合戦、承久の乱などの検討。
第5回	執権北条泰時期の幕府政治(1)	伊賀氏事件、連署制などの検討。
第6回	執権北条泰時期の幕府政治(2)	評定、御成敗式目などの検討。
第7回	執権北条経時・時頼・長時期の幕府政治(1)	経時の制度改革、寛元の政変・宝治合戦などの検討。
第8回	執権北条経時・時頼・長時期の幕府政治(2)	引付、得宗時頼などの検討。
第9回	得宗北条時宗期の幕府政治	寄合、二月騒動などの検討。
第10回	得宗北条貞時・高時期の幕府政治(1)	弘安徳政、霜月騒動などの検討。
第11回	得宗北条貞時・高時期の幕府政治(2)	平禅門の乱、執奏制などの検討。
第12回	試験	まとめと解説。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。  
本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。プリント配布の予定。

#### 【参考書】

本郷恵子『京・鎌倉 ふたつの王権』（小学館、2008年）  
 川合 康『源平の内乱と公武政権』（吉川弘文館、2009年）  
 小林一岳『元寇と南北朝の動乱』（吉川弘文館、2009年）  
 近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書、2016年）  
 その他、授業時に紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study political history of the Kamakura Shogunate.

HIS300TD (史学/History 300)
<b>史学演習 (東洋) (夏期スクーリング)</b>
<b>兼平 充明</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前漢の司馬遷により著された歴史書『史記』を講読することにより、漢文史料の読解能力を養い、あわせて中国古代史についての基本的な知識を身に付ける。

#### 【到達目標】

『史記』は上古から前漢の武帝の時代に至るまでの中国の歴史を紀伝体で記した正史であり、古くから中国のみならず日本をはじめとする漢字文化圏の国々において、知識人に必須の教養として読み継がれてきた。また中国古代史を研究する上でも必読の史料である。本演習では浩瀚な『史記』の中から適当な箇所を選んで講読を行い、①訓読(書下し)という日本独自の漢文の読み方に習熟する。②漢文史料の読解の際に必要なとされる工具書についての知識を得て使いこなせるようになる。③教員による解説を通じて史料の扱う時代について理解を深める。という三点を目標とする。以上の目標の達成度については学期末の筆記試験によって評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎回担当者に訓読(書下し)と現代語訳という形で報告をしてもらい、その後、全員でその部分について議論するという形で進めていく。また要所において当該時代の政治・制度・社会の状況について説明を加えることにより、より一層深いテキストの理解をめざす。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方および『資治通鑑』についての説明。
第2回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第3回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第4回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第5回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第6回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第7回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第8回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第9回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第10回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第11回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第12回	『史記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回必ずテキストの前回読んだ箇所を復習し、今回読む箇所を予習してくる。予習をする際には史料内に出てくる人名・地名等についてもできる限り調べてくる。できれば正史等他の史料との対象といった作業もやってくるのが望ましい。

予習・復習に必要な時間は一回につき四時間程度を目安とする。

#### 【テキスト（教科書）】

授業時にプリントを配布する。

#### 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、筆記試験(70%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

質問を歓迎します。

#### 【Outline (in English)】

Subscription of classical Chinese

HIS200TD (史学/History 200)

**西洋史概説 (夏期スクーリング)**

後藤 篤子

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

異なる宗教間の対立、また同一宗教内で起きる宗派間の対立は、現代世界が抱える深刻な問題の一つである。この授業では古代ローマの宗教世界について学ぶことで、宗教的対立を生み出す諸要因について考える。

**【到達目標】**

古代ローマの伝統宗教に関する基本的知識を習得し、それが「国家宗教」と言われる理由を考察できる。キリスト教の成立過程に関する基本的知識を習得し、初期カトリシズムの形成について考察できる。ローマ帝国におけるキリスト教徒迫害に関する基本的知識を習得し、迫害の性格や諸要因について考察できる。帝政後期の宗教世界に関する基本的知識を習得し、キリスト教と国家権力の結びつきが与えた種々の影響について考察できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的に講義形式で授業を進めるが、毎回リアクション・ペーパーに書かれた内容を中心に、受講生からの質問やコメントに応える時間を設けるようにする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	古代ローマの「国家宗教」	古代ローマの伝統的宗教観とアウグストゥスの宗教政策
第2回	ローマ帝政前期の宗教世界の多様性	「東方密儀宗教」の隆盛と属州の状況
第3回	一神教の出現	ユダヤ略史と古代ユダヤ教の確立
第4回	キリスト教の成立	イエスの運動と原始教会の成立
第5回	初期キリスト教世界の多様性(1)	パウロをめぐる
第6回	初期キリスト教世界の多様性(2)	「異端」の出現と初期カトリシズムの形成
第7回	1～3世紀初頭のローマ帝国とキリスト教の関係	帝政前期のキリスト教徒迫害の実態
第8回	「3世紀の危機」と宗教世界	「軍人皇帝」たちの宗教的模索
第9回	迫害から公認へ	「最後のキリスト教徒大迫害」とコンスタンティヌス帝の「改宗」
第10回	4世紀の宗教世界	ローマ帝国の「キリスト教化」
第11回	皇帝の「改宗」のインパクト	「正統」と「異端」の対立の尖鋭化
第12回	まとめ	到達度の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習としては、参考書として挙げてある本（挙げていないものでもよい）を受講前に少なくとも1冊は読んでおく。復習としては、毎日の授業内容を配布プリントや振り返り、理解が不十分と思われる点については、参考書等を利用して自分で調べたり、授業時に質問するなどして、解決を図る。本授業の準備・復習時間は大学設置基準に鑑みれば1回につき各2時間が標準となるが、1日に2回分を進めるスクーリング授業のため、連日それだけの時間を割くことが物理的に無理な場合もあるだろう。その分、受講前の準備学習を十分に行っておくことが重要となる。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。授業時に講義内容のレジュメと関連史料・図版等を記載したプリントを配布する。

**【参考書】**

弓削達『ローマ帝国とキリスト教』（世界の歴史5）、河出文庫、1989年。  
 小川英雄『ローマ帝国の神々―光はオリエントより』、中公新書、2003年。

加藤隆『一神教の誕生―ユダヤ教からキリスト教へ』、講談社現代新書、2001年。

R. L. ウィルケン『ローマ人が見たキリスト教』、三小田敏雄・松本宣郎・坂本浩・道鉢滋穂子訳、ヨルダン社、1987年。

鳥創平『初期キリスト教とローマ社会』、新教出版社、2001年。

後藤篤子「ローマ帝国における『異教』とキリスト教」、歴史学研究会編『地中海世界史1・古代地中海世界の統一と変容』（青木書店、2000年）所収。

**【成績評価の方法と基準】**

最終時限に実施する筆記試験100%で評価する。6日間のスクーリングのうち2日以上を欠席すると筆記試験の受験資格は認められないので、注意すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業改善アンケートへの回答を念押ししなかったため回答率が10%未満だったことが最大の反省点だが、回答してくれた受講生からは総じて好意的評価をいただいた。ただ、昨年度は古代ローマの政治史が中心であったため、「ローマ帝国とキリスト教の問題が抜けていたことが残念」という声もあった。今年度はその抜けていた側面に関する内容となる。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the religious worlds of ancient Rome, including ancient Judaism and early Christianity.

HIS300TD (史学/History 300)
<b>日本古代史 (夏期スクーリング)</b>
<b>杉本 一樹</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の古代という時代について、あらためてこの時代を歴史学の対象として「学ぶ」こと。これ自身が授業の目的です。そのために実際にはどのようなアプローチがあるのか。いくつかのトピックを挙げて話を進めます。主たる対象時期は8世紀。この時代の諸相を知るためには、時代の骨組みを通時的・共時的に表現する六国史・律令格式のような包括的・体系的な史料と、そこに歴史個別具体性に富んだディテールを付け加える正倉院文書や木簡などの史料との双方が欠かせません。この二つを柱に、美術工芸や建築などの分野も視野に入れながら講義を行います。

#### 【到達目標】

(1) 日本古代史についての基本史料とその特質について知り、その中でも特に正倉院文書についての理解を深める。  
 (2) 「史料の記事内容」を「研究の材料」としてのみとらえるのではなく、その中間に「対象の理解」を介在させ、これまでの諸研究の辿った道筋を再確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行ないます。授業の区切りごとに、授業の感想・質問や自分の発見などを記入したリアクションペーパーの提出を求めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	日本古代史を学ぶということ	導入とガイダンスを行なう。
第2回	古代史料の概要（その1）	六国史ほか日本の史書について説明する。
第3回	古代史料の概要（その2）	律令格式ほか法制史料について説明する。
第4回	古代史料の概要（その3）	正倉院文書の概要について。所在・現況・整理・研究資源化について説明する。
第5回	古代史料の概要（その4）	木簡と出土文字資料、金石文について説明する。
第6回	日本古代史を知るための材料（その1）	仏典と漢籍について説明する。
第7回	日本古代史を知るための材料（その2）	美術工芸品を歴史資料として利用することについて。
第8回	正倉院文書の主要文書（その1）	律令制公文書について、歴史学・古文書学の立場から説明する。
第9回	正倉院文書の主要文書（その2）	写経所文書の諸類型を紹介する。また国文学・国語学・書道史からのアプローチについて説明する。
第10回	正倉院文書の主要文書（その3）	写経所文書の諸類型、構造と機能について説明する。
第11回	日本古代史を学ぶための手法	古代史研究の諸分野と研究のツールについて説明する。
第12回	再び日本古代史を学ぶということ。	まとめと全体にわたる補足説明を行なった後、試験を行なう。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてプリントを配布します。

#### 【参考書】

杉本一樹『日本古代文書の研究』吉川弘文館（2001-2）  
 杉本一樹責任編集『皇室の名宝 05 正倉院 文書と経巻』朝日新聞社（1999-5）  
 杉本一樹編『正倉院の古文書』至文堂 日本の美術 440 （2003-1）  
 杉本一樹『正倉院 歴史と宝物』中公新書 1967 （2008-10、韓国語版2015、電子版2019予定）  
 杉本一樹『正倉院宝物の世界』山川出版社 日本史リブレット 74 （2010-6）

#### 【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況（授業の区切りに提出するリアクションペーパーを含む）を「平常点」（40%）として、期末に実施する試験の結果（60%）とあわせて評価を行ないます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、実施済みのアンケート等はありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料は、紙資料（プリント）配布とし、授業支援システムは使用しません。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn about the ancient times of Japan based on the method of history.

Sources of this period are *Rikkokushi* (六国史), the officially compiled chronicle of the dynasty, and *Rituryou* (律令), the comprehensive code of law. In addition, historical materials such as *Shosoin Documents* (正倉院文書) and *Mokkan* (木簡), which have specific content, are also important.

I will consider what approaches to the purpose of the class mentioned at the beginning, and introduce some topics necessary for that. In addition, classes will be conducted with a view to arts, crafts and architecture.

HIS100TD (史学/History 100)
<b>日本史概説 (夏期スクーリング)</b>
<b>安田 寛子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際化の進展の中で、日本文化の発信が重要視されているが、その多くが江戸時代に成熟した、あるいは生み出されたものである。それは、この時代が幕藩体制と呼ばれる仕組みのうえに、260年余りも平和が続いた時代であったことが大きく影響したといえる。そこで、この時代を支えた支配機構の特質や、その中で生きた人々について取り上げ、このような平和で安定的な長期政権となった理由はどこにあったのか、またそれだけ続いた政権がなぜ崩壊することになったのかについて考える。

#### 【到達目標】

今後、広く国際社会に日本を発信していくためには、日本とはどういう国なのかということをお我々自身がより深く知る必要がある。そこで、今も日本の中に多くの影響を残す江戸時代について、単に紙の上の学問としてではなく、我々と同じ生身の人間が生きた時代として身近に感じながら学んでいくことが目標である。その過程で、物事の本質を見抜く眼や判断する力も養っていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は毎回配付するレジュメに沿って行う講義形式となる。進め方は、まず、江戸幕府の成立過程を概観することで徳川政権の特質を明らかにし、その後いくつか特徴的なテーマを選んで詳しく見ていくこととする。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義概要と参考文献	授業の進め方と参考文献
第2回	江戸幕府の成立	天下統一と民衆・武家・朝廷・宗教への対応
第3回	慶弔儀礼 1	「鳴物停止令」とその変質
第4回	慶弔儀礼 2	「鳴物停止令」と在日外国人
第5回	慶弔儀礼 3	儀礼における対外摩擦
第6回	享保の改革 1	近世の政治改革、享保の改革第1期①
第7回	享保の改革 2	享保の改革第1期②、第2期、第3期
第8回	寛政の改革 1	定信政権の性格、経済政策、社会政策
第9回	寛政の改革 2	医療改革、朝幕関係、対外関係、国防体制
第10回	天保の改革 1	背景、物価対策、風俗・情報統制、農村復興策、将軍権威
第11回	天保の改革 2	対外政策
第12回	試験	まとめと解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備は特に必要ありませんが、授業開始後の復習は毎回必ず行うこと。具体的な方法については授業の中で指示していきませんが、復習および関連の学習時間は各4時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配付します。

#### 【参考書】

深谷克己『江戸時代』（日本の歴史6、2000年、岩波書店ジュニア新書336）880円＋税  
 児玉幸多・佐々木潤之介編『新版 史料による日本の歩み（近世編）』（吉川弘文館、1996年）3800円＋税  
 この他については初回講義の中で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

なるべくわかりやすく、ゆっくり話そうにしたいと思います。

#### 【Outline (in English)】

We will take up the characteristics of the control system that supported the Edo era and the people living in it, think about the reasons why such a peaceful and stable long-term government became and why it collapsed.

HIS300TD (史学/History 300)

## 史学演習 (日本) (夏期スクーリング)

長井 純市, 中川 洋

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群夜間  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 日本近現代史における古文書の読解力を養成する。
- 2) 産業考古学および産業遺産（近代化遺産）に関する基礎的な知識を習得する。

## 【到達目標】

- 1) くずし字辞典を使い、日本近現代の政治史に関する古文書を読むことができるようになること。また、その作業を通して、日本近現代の政治史に関する基礎的な知識を習得すること。
- 2) 日本近現代の産業遺産に関する概念・理論・現状と課題を理解し、産業遺産の調査・研究および保存・活用の知識を含む産業考古学の基礎を習得する。
- 3) 日本の近代化について、古文書および産業遺産を通して、自分なりの見方を持つ手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- 1) 毎回、授業の前半を長井が担当し、後半を中川が担当する。
- 2) 前半では、くずし字で書かれた日本近現代政治史に関する古文書を、受講生自らくずし字辞典を使いながら読み、担当教員による解説と受講生との質疑応答を通して、理解を深める。
- 3) 後半では、産業考古学について、産業遺産に関連する映像・画像等を参照しながら、担当教員の講義と受講生との質疑応答を通して、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	(長井担当) イントロダクション。日本近現代政治史研究史料としての古文書	授業全体の概要説明。日本近現代史研究に関わる一次史料についての概説。
第2回	(中川担当) イントロダクション。産業遺産と産業考古学についての概説	授業全体の概要説明。産業遺産と産業考古学の概要について解説。
第3回	(長井担当) 古文書読解(1)	くずし字辞典利用法とくずし字史料の読解、解説、質疑応答。
第4回	(中川担当) 産業考古学と現代社会	産業考古学の社会的意義と任務。何に役立ち、何を指すのか、多角的に考える。質疑応答。
第5回	(長井担当) 古文書読解(2)	くずし字史料の読解、解説、質疑応答。
第6回	(中川担当) 鉄道と海運の産業遺産	日本の近代化を支えた鉄道と海運関連の産業遺産についてのケーススタディ。質疑応答。
第7回	(長井担当) 古文書読解(3)	くずし字史料の読解、解説、質疑応答。
第8回	(中川担当) 戦争と軍事の産業遺産	いまだ評価の定まらない戦争遺産、軍事遺産についてのケーススタディ。質疑応答。
第9回	(長井担当) 古文書読解(4)	くずし字史料の読解、解説、質疑応答。

第10回	(中川担当) 産業考古学机上演習	産業遺産の調査と研究、保存と活用のノウハウ、実務の一端を学ぶ。質疑応答。
第11回	授業の総括と質疑応答	授業全体の振り返りと総括および質疑応答。
第12回	単位修得試験	授業内容全体に関する受講生の理解度および知識の定着度を問う試験の実施。長井・中川それぞれ問題用紙・解答用紙を別にする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 長井担当分については、毎回授業時に配布される古文書コピーをくずし字辞典を使って予習・復習すること。授業内容に関連して教科書の該当箇所を読むこと。
- 2) 中川担当分については、配布資料の予習・復習を行い、理解を深めるとともに、知識の定着に努めること。
- 3) (長井・中川共通) 毎回、授業内容に関わる質問事項を考えておくこと。
- 4) 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

(長井担当分) 安岡昭男『日本近代史』（法政大学通信教育部 2020年4月改訂版(旧来版も可) および配布プリント（毎回、異なる史料が掲載されている）。

(中川担当分) 配布プリント。

## 【参考書】

(長井担当分) 簡便なくずし字辞典および漢和辞典。  
 (中川担当分) 伊東孝『日本の近代化遺産』（岩波新書）、平井東幸ほか『産業遺産を歩こう』（東洋経済新報社）、二村悟『これだけは見ておきたい日本の産業遺産図鑑』（平凡社）  
 その他、適宜授業中に適宜紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

長井・中川共通で、平常点40%、単位修得試験60%で成績評価を行う。試験問題は、長井・中川それぞれ別問題である。

## 【学生の意見等からの気づき】

双方向的な授業運営を行う。受講生の能動的な学習を促すために、作業的学習やグループ・ディスカッション、質疑応答、ショート・プレゼンテーションを活用する。

## 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

## 【その他の重要事項】

やむを得ない事情により遅刻、欠席、早退する場合には、担当教員に申し出ること。また、授業中に心身の不調を生じた場合にも直ちに担当教員に申し出ること。

新型コロナウイルス感染防止対策として教室での授業ができない場合には、授業内容を変更します。本学Web学習支援システムの本科目における掲示板などの機能を利用するので、課題などを見落とさないように注意すると共に、頻繁に閲覧し、添付資料のダウンロードなどを行うこと。

## 【Outline (in English)】

This class has three main points. The first point is to study the Japanese modern history through old documents and modern industrial heritage. The second one is to obtain a basic skill for reading and comprehending old documents written in the cursive style of Chinese characters in the modern Japanese history. The third is to obtain a basic knowledge on the industrial archaeology and the heritage of industrial modernization.

HIS300TD（史学 / History 300）

**東洋史特講（中国現代史）（夏期スクーリング）**

齋藤 勝

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：3群終日  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

台湾の歴史と現在  
 歴史の学習を通じて台湾への理解を深め、日本・中国との関わりについて考えていく。

**【到達目標】**

歴史を辿りながら、現在の台湾が抱える国際問題、政治問題、民族問題の根源を理解し、その歴史の当事者の一人であった日本人の責任についても認識を深めていく。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

台湾の歴史について通史的に講ずるとともに、現代の台湾を描いた映画を通して台湾への理解を深めていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
 なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	台湾と日本、台湾の現勢	日台関係と台湾人の日本人観、台湾の民族構成と経済
第2回	先史時代・大航海時代・清朝	原住民とオランダ支配、鄭氏政権から清朝の支配へ
第3回	日本の台湾支配(1)	日清戦争から前期武官総督時代
第4回	日本の台湾支配(2)	文官総督時代から終戦まで
第5回	国民党の支配へ	光復から二・二八事件
第6回	蒋介石時代	台湾の中華民国化
第7回	台湾人と支配者達(1)	『悲情城市』と二・二八事件(1)
第8回	台湾人と支配者達(2)	『悲情城市』と二・二八事件(2)
第9回	蔣経国時代、李登輝時代	台湾の孤立と転換、台湾の民主化と台湾化
第10回	陳水扁時代、馬英九時代	現代の台湾の政治と社会の変容
第11回	現代の台湾社会(1)	『海角七号』に描かれた台湾社会(1)
第12回	現代の台湾社会(2)	『海角七号』に描かれた台湾社会(2)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。プリントを配布します。

**【参考書】**

随時、紹介していきます。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート100%  
 講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

**【学生の意見等からの気づき】**

時間の配分に気をつけます。

**【Outline (in English)】**

Outline: Surveying the history of Taiwan

Objectives: Understanding the history of Taiwan and considering the relationship with China and Japan

HIS200TD (史学/History 200)
<b>日本考古学 (夏期スクーリング)</b>
小倉 淳一
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の旧石器時代から古墳時代までの歴史展開を、物質文化にもとづいてアジアとの交流史の中で理解する。

**【到達目標】**

物質文化としてとりあげる各種の資料を、中国や朝鮮半島との交流を物語る資料として理解し、その歴史的展開や意義について説明することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

日本の原始・古代をアジア史の中に位置づけるために、考古学資料にみられる中国大陸や朝鮮半島との関連に基づいた交流史をとりあげる。

各回の授業はテーマやトピックに基づいた講義を行う予定。プロジェクトによる投影を行うほか、プリント等の資料も利用する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準に関する説明と授業で扱う時代の概要解説
第2回	旧石器時代のアジアと日本列島(1)	文化交流基盤の形成
第3回	旧石器時代のアジアと日本列島(2)	縄文文化形成への道程
第4回	旧石器・縄文時代の海洋利用	海を渡る丸木舟
第5回	縄文時代の東アジア交流	朝鮮半島との交流の成果
第6回	弥生文化と対外交流(1)	稲作の導入と集落遺跡
第7回	弥生文化と対外交流(2)	北部九州と中国・朝鮮半島・琉球諸島との交流
第8回	弥生文化と対外交流(3)	日本海側の諸地域における玉生産と交流
第9回	古墳文化と対外交流(1)	前方後円墳と船載鏡
第10回	古墳文化と対外交流(2)	ヤマト王権の対外交渉
第11回	古墳文化と対外交流(3)	磐井の乱と朝鮮半島の墳墓
第12回	試験	筆記による試験（持ち込み不可）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。参考書等をよく読み、時代の流れを理解するとともに、考古学によって検討される交流史についての知見を深めておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

白石太郎編（2002）『倭国誕生』（日本の時代史1） 吉川弘文館

鈴木靖民編（2002）『倭国と東アジア』（日本の時代史2） 吉川弘文館

後藤直・茂木雅博編（2003）『東アジアと日本の考古学』第3巻 交流と交易 同成社

石川日出志（2010）『農耕社会の成立』（シリーズ日本古代史1 岩波新書 新赤版1271） 岩波書店

吉村武彦（2010）『ヤマト王権』（シリーズ日本古代史2 岩波新書 新赤版1272） 岩波書店

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ（以上、年代順）

**【成績評価の方法と基準】**

試験成績（100％）。

**【学生の意見等からの気づき】**

大学で授業を進めていく方法は多様です。授業の内容を理解しながら情報をまとめていくための工夫をしましょう。

**【その他の重要事項】**

暑い季節の授業となりますので、気力・体力・集中力を養っておいてください。がんばりましょう。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to learn the history of exchanges between the Japan and other areas through archeological materials.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)
<b>測量学及び測量実習 (1) (夏期スクーリング)</b>
<b>平井 英明</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎理論を学ぶとともに、実習を行い、測量の基礎的技術の習得を目指す。特に、測量データの基礎的な取り扱い及び測地測量の一つの柱である高さを測る水準測量を中心に講義・実習を行う。

#### 【到達目標】

測量に関する基礎理論を学び、測量実習を体験することで測量に関する基礎的知識を習得できる。また、測量に関する誤差理論や誤差要因を解明することで、測量数学のみならず、測量の精度や品質について理解できる。特に水準測量の講義と実習では、水準測量の役割や誤差等についての基礎知識や水準儀を用いた測量技術を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

測量の歴史から測量の基準・測量に関係する法律等の事項や様々な測量方法について紹介する。同時に測量における観測データの処理や誤差の扱い等についての基礎的理論を学ぶ。特に、基本的な測量の1つである水準測量について、講義と野外での測量機器を使った実習を行い、得られた観測データの処理等について統合的に学ぶ。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	測量の概要	測量とは何か、測量の歴史など、測量の概要について講義する
第2回	測量法及び資格について	測量の関する法律と測量の資格について講義する
第3回	地球と測量の基準について	地球の大きさや形及び測量の基準 (特に座標系等) について講義する。
第4回	我が国の測量の基準について	我が国の測量の基準のうち、高さの基準である日本水準原点を見学し、その歴史・役割について学ぶ。
第5回	様々な測量と公共測量について	距離測量、GPS測量、トータルステーションを用いた測量などの原理及びそれらを用いて実施する公共測量について講義する
第6回	測量の誤差について	測量の誤差について誤差の種類や誤差の取り扱いや三角関数などの測量数学について講義する
第7回	測量の誤差について	特に水準測量の誤差を中心にその処理方法などを講義と計算実習を行う
第8回	水準測量の原理	水準測量の原理、使用する機器等について講義する
第9回	水準測量の実習	水準測量の方法・水準儀(レベル)の使い方について実習する。
第10回	水準測量の実習	構内において自動水準儀を用いた水準測量を実習する

第11回	水準測量の実習	水準測量のデータ処理を実習する
第12回	まとめ	データ処理の結果をまとめ、測量精度等を評価する

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの序章～7章までを予習しておくこと。また、授業時間内に終了しなかったデータ整理等は個々に次の時間までに終わらせておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

長谷川昌弘・川端良和 「改訂二版 基礎測量学」 電気書院  
「改訂新版 (第一版) 基礎測量学」も可能

#### 【参考書】

書店には測量学に関する様々なテキスト、図解テキストが置かれている。測量のデータ処理には数学が欠かせないものの、自分のレベルや興味に応じ、以下の本などを参考にするとよい。

中堀義郎ほか著 「絵で見る基準点測量 第2版」 日本加除出版  
斎藤 博ほか著 「新版 教程 基準点測量」 山海堂  
大滝三夫ほか著 「公共測量教程 水準測量」 東洋書店  
大滝三夫ほか共著 「公共測量教程 測量計算」 東洋書店

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は試験40%程度と授業中・実習等の態度60%程度を総合して評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

これまでの講義や実習でいただいた主な意見は、講義用プリントが見づらい、数学的な講義が少ない、専門用語が理解できない、実習時間が短い、などがありました。限られた時間ではありますがこれらを考慮し、少しでも改善した講義・実習を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓 (スマートフォンのアプリでも可能)

#### 【Outline (in English)】

The most fundamental information regarding space is information regarding position. Surveying is the method used to get this information regarding position. In this class, studies along with actual practice will be held for learning the basic theories concerning surveying, all with the aim of learning the basics of surveying. In particular, leveling, which is one of the pillars in the basic handling of surveying data and in surveying will be the focus of this lesson's study and practice.

HUG300TE（人文地理学 / Human geography 300）

**現地研究（夏期スクーリング）**

小原 文明

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：1単位  
 期間：1群後半集中  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

岩手県盛岡市およびその周辺地域を対象として、長い時間軸の中で都市がどのように形成および変容してきたのか学ぶことを目的とします。また、現代の都市におけるまちづくりや産業の動向についても学びます。以上を通じて、都市における経済や政治、開発のメカニズムについて考えます。

**【到達目標】**

本授業（現地研究）を通じて、以下の点を修得できるようになることが目標となります。

- ①都市地理学や都市計画学の観点から、都市形成や都市（圏）構造、都市機能について理解できるようになる。
- ②都市形成や都市変容に関わるさまざまな要因について理解し、それら要因の関係性について考えられるようになること。
- ③都市における諸事象について、空間軸だけでなく時間軸に位置付けて考えられるようになること。
- ④現地の産業が形成されてきた要因を理解できるようになるとともに、現状の利点や問題点について考察できるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

主として、現地調査と担当者による解説、相互討論を通じて学んでいきます。現地調査には観察を中心とする実地調査や施設の見学、ヒアリングなどが含まれます。また、現地研究中に、各自が学んだ点についての発表や討論を行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	1日目 オリエンテーション	現地研究の狙い・進め方について
第2回	自然条件と都市形成	盛岡市の都市形成と自然条件との関わりを考える
第3回	歴史と都市形成	盛岡市の都市形成の歴史的経緯を考える
第4回	都市計画・都市開発・まちづくり	盛岡市のまちづくりの功罪を考える
第5回	2日目 地場産業と地域経済①	食料品製造業の見学・探訪
第6回	地場産業と地域経済②	農林業の見学・探訪
第7回	地場産業と地域経済③	観光業の見学・探訪
第8回	地場産業と地域経済④	鋳物業の見学・探訪
第9回	3日目 郊外開発地の実態①	早期の郊外開発地の現状と問題点
第10回	郊外開発地の実態②	新規の郊外開発地の特徴・狙いと問題点
第11回	都市と交通	交通網の整備と都市（圏）構造の変容
第12回	まとめ・総括	現地研究を通じての論点整理・ディスカッション

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に、各自で盛岡市の概要など基本的な事項について理解しておいてください。なお、事前に配布する資料に参考書等の情報を記載するので、その情報を事前学習に活用して下さい。

本授業は実習系の授業に該当するため、各回の授業外学習が2時間以上が標準となりますが、現地研究は集中講義形式であるため、その限りではありません。ただし、上記の事前学習とともに、事後のレポート課題があるので、多くの授業外学習が求められると理解しておいて下さい。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストは使用しません。現地研究で使用するレジュメ・資料は担当者が作成し、配布します。

**【参考書】**

事前に資料を配布する際に提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

現地研究中に対する参加の姿勢（積極性、発言などを総合的に評価）（40%）、および事後に提出してもらうレポート課題（60%）によって評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるだけ受講者が能動的に取り組めるような授業内容を心掛けています。

**【学生が準備すべき機器他】**

Eメールにて事前指導を行うこともあるので、可能であれば、添付ファイルが受信できるEメールアドレスを取得しておいてもらうことが望ましいです。

**【その他の重要事項】**

- ・実施期間：2020年7月30日（木）～8月1日（土）
- ・実施場所：岩手県盛岡市およびその周辺地域（雫石町など）
- ・費用（宿泊費等）：3万円～3.5万円程度（宿泊費・朝食代・現地交通費等）
- ・見学施設等：未定
- ・宿泊場所：未定（盛岡市内を予定）
- ※暑い時期に現地研究を行うので、健康への対策は各自で行うよう留意して下さい。
- ※授業の性格上、多くの徒歩による移動を伴うことを理解しておいて下さい。
- ※未定部分などの詳細については、改めて連絡します。
- ※新型コロナウイルスなどの状況により、費用や巡検の内容については変更の可能性があります。

**【Outline (in English)】**

Excursion and Field work survey in Morioka city, Iwate prefecture. We will learn about the urban formation, urban structure, machizukuri, local industries, local economy and their lives.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)

## 写真・読図演習 (1) (夏期スクーリング)

八木 浩司

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：1群後半集中  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、地形災害サスペンティビリティ認識のための地形図・空中写真判読演習である。  
 身の回りの地形を読み取りそこに潜む危険を察知するスキルを習得する。

## 【到達目標】

地形面の概念を把握したうえで、地形面の変位、地すべり・崩壊などの斜面のマス・ムーブメント現象が何であるかを理解できるようにする。次に地形図の判読や空中写真判読により、断層変位地形、地すべり、崩壊等の斜面変動を実際に認定できるようにする。さらにそれら周辺斜面のクラックや段差、逆向き小崖等を認定することで、将来地変の発生しそうな斜面を予想できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式で用語等の解説をした後、地形読図と空中写真判読で実際に斜面変動現象を捉えるトレーニングを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地形面とは何か	1) 地表を覆う地形面の概念 2) 遷急線・遷緩線、地形面の連続性 3) 段丘面の抽出
第2回	活断層とは何か 1	1) 地形面の不連続性としての異常地形 2) 日本の活断層のタイプ 3) 逆断層による変位地形
第3回	活断層とは何か 2	1) 横ずれ断層による変位地形 2) 正断層による変位地形 3) ヒマラヤの活断層
第4回	活断層を探す 1	1) 呉羽山付近の活断層 2) 富良野盆地の活断層 3) 鳥海山南西山麓の活断層
第5回	活断層を探す 2	1) 福島盆地西縁の活断層 2) 京都盆地東縁の活断層 3) 阿波池田付近の活断層
第6回	山地の浸食様式の一つとしてのマス・ムーブメント	1) 地域の地形発達とマス・ムーブメント 2) 日本の地質帯と地すべり
第7回	地すべり現象の分類 1 Slideタイプの地すべり現象	1) Slideタイプの地すべり現象 2) 後方回転すべり、並進すべり 3) Cap-rock型大規模地すべり現象
第8回	地すべり現象の分類 2 重力性山体変形	1) Gravitational creep 2) Buckling, Toppling 3) Sackung
第9回	地すべり現象の分類 3 高速の斜面物質移動	1) 崩壊、深層崩壊 2) 岩屑なだれ、土石流 3) 火山性山体崩壊、流山

- 第10回 地すべり地形を探す 1) 南八甲田  
2) 仙台西方・定義川左岸の地すべり地形
- 第11回 地すべり地形を探す 2) 秋田県湯沢市中山付近の地すべり地形  
2) 長野県小谷温泉周辺の地すべり地形
- 第12回 地すべり地形を探す 3) 1) 高知県加奈木地すべり周辺の重力性山体変形  
2) 静岡県赤崩周辺の重力性山体変形

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で与えられた課題を完成して下さい。  
 個人的に学習を深めたい人は以下のweb siteにアクセスすることで様々な事例に接することが可能です。  
 日常的に国土地理院のweb site 地理院地図や主題図にアクセスし活断層に関する知識の収集に努めて欲しい。  
 産業技術総合研究所のweb site 地質ナビ <https://gbank.gsj.jp/geonavi/> シームレス地質図に示されている地すべり地形分布図にもアクセスし身近な場所の地すべり情報にも関心を高めて欲しい。  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。  
 授業時に資料を配付する。

## 【参考書】

可能な限り以下の文献をダウンロードしてみてください。  
 Lynn M. Highland Peter Bobrowsky (2008): Landslide handbook, USGS, <http://pubs.usgs.gov/cirv/1325>

## 【成績評価の方法と基準】

各授業ごとに行う読図・空中写真判読作業の成果をそれぞれ提出してもらい、最後に課題レポートを提出してもらい、成績評価は、それらの評価の合計から行うが、それぞれの比重は前者が全体の6割、後者が同4割とする。合計点の6割以上を合格とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者の作業の進行状況を見ながら演習課題の中身をほり下げていきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

可能な限りノート・パソコンあるいはパッドを用意して欲しい。

## 【Outline (in English)】

This training aims to detect hazard susceptibility due to active faults and landslides on ground surface by interpretation of topographic map and aerial photographs

GEO200TE (地理学 / Geography 200)
<b>地誌学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>羽佐田  紘大</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学は、ある特定の地域（場所）を総合的に理解する学問である。この授業では、地誌学の基本を学んだ上で、担当者が研究を進めている東海地方（特に濃尾平野周辺）を事例として、地域にみられる自然と人とのかかわりを紹介する。

#### 【到達目標】

この講義では、知識を得ることよりも、事例を通して、地誌学的な考え方に触れることを目的としている。到達目標としては次の二つを挙げる。1) 地誌学の地理学における位置づけや基本的な考え方を理解することができる。2) 地域における自然と人とのかかわりに目を向けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使用した講義形式で行う。適宜プリントを配布する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地誌学とは	地誌学の位置づけや基本を確認する。
第2回	日本の自然環境	日本の自然環境（地形や気候など）を概説する。
第3回	身近な地域の調査 (1)	身近な地域の調べ方を紹介する。
第4回	身近な地域の調査 (2)	さまざまな地域の地形図や空中写真などから地域の特徴を読み取る。
第5回	自然環境からみる地域	自然環境を中心に東海地方の特徴を確認する。
第6回	濃尾平野周辺の地形	濃尾平野周辺の地形発達について述べる。
第7回	濃尾平野周辺の地質	濃尾平野周辺の地質分布や地下構造を確認する。
第8回	濃尾平野の形成	濃尾平野の成り立ちを説明する。
第9回	濃尾平野と土地利用	地形図や空中写真から土地利用の変遷を考える。
第10回	濃尾平野と治水	木曾三川の治水と輪中での暮らしから地域の特徴を考える。
第11回	濃尾平野と台風	伊勢湾台風から地域の特徴を考える。
第12回	試験	筆記試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地誌学に関する基礎的な知識を事前に身につけておくことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜プリントを配布する。

#### 【参考書】

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造編著『地理学基礎シリーズ3—地誌学概論』（朝倉書店）

そのほか、授業内で適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験（100%）で評価する。第12回において、授業内容の習熟度を測る筆記試験を実施する。原則60点以上を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

インターネットを通して見られる情報を授業により一層取り入れていきます。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces mainly natural environment and people's livelihood in the Tokai region.

GEO400TE (地理学 / Geography 400)

**自然地理学演習 (夏期スクーリング)**

山口 隆子

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地理学科において自然地理学を学ぶ上で必要な能力を育成する。自然地理学の中でも、特に気候学の研究を行う上で必要となる観測・データ収集・解析方法について学ぶ。

**【到達目標】**

本授業を通じて、自然地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を習得できるようになることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

研究テーマ・対象地域の選定、既往研究のレビュー、データ収集方法等を学び、さらに、実際の気象観測現場の確認、観測機器の使用方法、データ解析、発表を行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	自然地理学における研究の基礎①	研究テーマ・対象地域の選定
第2回	自然地理学における研究の基礎②	既往研究のレビュー・データ収集方法
第3回	気象庁による気象観測①	アメダス東京、生物季節観測の現地確認
第4回	気象庁による気象観測②	旧アメダス東京、皇居東御苑
第5回	気象観測機器①	気象観測機器の取扱い方法
第6回	気象観測機器②	気象観測機器による観測
第7回	データ解析①	観測で得たデータ等の解析
第8回	データ解析②	解析結果の考察
第9回	自由課題作成①	各自の研究テーマに関する既往研究のレビュー
第10回	自由課題作成②	各自の研究テーマの解析手法の検討（観測か、データ解析か）
第11回	自由課題発表①	受講者による自由課題発表と意見交換
第12回	自由課題発表②	受講者による自由課題発表と意見交換

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前準備：自然地理学（気候学）に関して、興味のあるテーマを複数検討する

スクーリング中：自由課題作成に向け、文献収集、文献レビュー、発表に向けたパワーポイント作成等

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

泉岳樹・松山洋（2017）：『卒論・修論のための自然地理学フィールド調査』。古今書院，120 p.

小笠原喜康（2018）：『最新版 大学生のためのレポート・論文術』。講談社現代新書，234p.

沼崎一郎（2018）：『はじめての研究レポート作成術』。岩波書店，242p.

高橋佑磨・片山なつ（2016）：『伝わるデザインの基本 増補改訂版 よい資料を作るためのレイアウトのルール』。技術評論社，240p.

宮野公樹（2013）：『研究発表のためのスライドデザイン』。講談社，176p.

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30%、各種課題：70%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートパソコン

**【その他の重要事項】**

天候により観測等が実施できないこともあります。

現地確認や気候観測のため、動きやすい服装、カバンに留意してください。

地方公務員（技術職）として、環境施策の立案・実施の経験を活かし、実践的な課題をテーマとしていきます。

**【Outline (in English)】**

Although this exercise treats climatology, biometeorology and so on among the natural geography as the central theme, it covers the whole natural environment. The aim to acquire knowledge and methodology for natural geography research through academic papers and group work.

HUG200TE (人文地理学 / Human geography 200)
<b>人文地理学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>中俣 均</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後日本の1960年～70年代初めは、高度経済成長期と称される。この時期は、産業構造や生活様式、都市―農村関係、そして景観面においても、大きな変革期であった。そのことを語る書物や論考は、地理学に限らず諸分野において枚挙にいとまがないが、この授業ではそうした大変革を可視化した作品として2本の映画を取りあげて、そこに描き出された変革の実相とそれがもたらした帰結とを考えてみたい。

#### 【到達目標】

半世紀前に生じた生活空間の大変貌をビビッドに把握し、半世紀後の日本社会のありようの源をそこに探るとともに、その持つ問題性を認識すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

映画監督・山田洋次の2作品『家族』（1970年公開）と『故郷』（1972年公開）を教材とし、人文地理学的視点を基軸に、社会の変化と景観の変化とを関連付けてとらえる。受講者は、各自が自分の生活実態を内省しながら、画面上に映し出される社会変化とそれに翻弄される人間模様を看取り、あるべき社会像について相互に議論を交わす、という形をとりたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション。	「映画と地理学」についての解説。「高度経済成長期」についての概説など。
第2回	映画1 上映。	教材の鑑賞。
第3回	解説1	映画1の各シーンなどについての解説。
第4回	受講者による討論	変貌の実態と評価について相互討論。
第5回	受講者による討論	解説を踏まえて再討論。
第6回	映画1 再上映。	解説および討論を踏まえての再鑑賞
第7回	映画2 上映	教材の鑑賞
第8回	解説	映画2の各シーンなどについての解説。
第9回	受講者による討論	変貌の実態と評価について相互討論。
第10回	受講者による討論	解説を踏まえて再討論。
第11回	映画2 再上映。	解説および討論を踏まえての再鑑賞。
第12回	まとめの解説とレポート作成	まとめの解説とレポート作成

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高度経済成長期について書かれた文献（下記【参考書】に一例を示した）を読んで、一応の予備知識を得ておいてほしい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし

#### 【参考書】

高度経済成長に関する書物の一例として、下記を挙げておく。佐和 隆光（1984）『高度成長―「理念」と政策の同時代史』（日本放送出版協会）

ただし本書は刊行から年月が経っていてすでに「品切れ」なので、図書館などで探すほかはない。あるいは「高度（経済）「成長」を検索ワードにして類書を探してみるのもよい。

#### 【成績評価の方法と基準】

折に触れて行なう討論への参加意欲とその内容（30%）、および最終回に提出してもらうミニ・レポート（70%）とによって、成績を評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本科目はほぼ10年ぶりに担当になるので、特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。教材とする映画を事前に見ておくことは、あまりおすすめしません。

#### 【Outline (in English)】

The themes of this lecture lie in the specific term called The Period of High Economic Growth. Through appreciating two movies produced by Yoji Yamada, we should know and discuss about how the Japanese social lives and cultural landscapes has cahanged in that period.

GEO200TE (地理学 / Geography 200)
<b>自然地理学特講 (夏期スクーリング)</b>
小寺 浩二
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学分野の研究を行い、卒論を書くにあたって必要な基本的な能力を育成する。できれば、今回は、特に水文学・陸水学の中でも、身近な河川流域の水環境を対象にした基礎的なスキルの修得を中心とする。

### 【到達目標】

陸水学・水文学・水文地理学の基礎知識を身につける。  
 また、当該分野において研究を行うに当たってのテーマの選定、先行研究の文献レビュー、資料・データ収集、データ解析、各種主題図の作成、まとめと、地理学の研究論文を書く上で必要な能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

### 【授業の進め方と方法】

事前に指示された方法に従って、対象地域を選定し、先行論文のレビューを行った上で、必要な資料を収集した上で授業に入る。そして、事前準備内容の修正をしながら、正しい研究の仕方、論文の書き方について、毎時間細かく指導する。特に、データ解析や各種主題図の作成法については、コンピュータとGISを活用しながら（不得手な方でも十分活用できる基礎的なものを中心とする）、具体的な実習の中で技術を身につける。その上で、論文としてまとめる上でのポイントについても指導し、実際に小論文を書くことで、身につけた内容を確実なものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	1) 水文地理学概論 2) 研究テーマの選び方	水文地理学の基礎 いくつかの具体的なテーマを示した上で、各自、個別のテーマを選定する。
第2回	1) 大河川流域 2) 対象地域の選び方	大河川流域の基礎 個別テーマに従って、対象地域を選定する方法について学ぶ。
第3回	1) 中小都市河川 2) 先行研究のレビュー①（文献リスト）	中小都市河川の基礎 文献リストの作成法について学ぶ
第4回	1) 不圧地下水 2) 先行研究のレビュー②（論文要旨のまとめ方）	不圧地下水の基礎 いくつかの論文の要旨をまとめ、比較しながら研究課題を見つける方法について学ぶ。
第5回	1) 被圧地下水 2) 資料・データの収集法	被圧地下水の基礎 インターネットなどを活用した資料・データ収集方法について学ぶ。
第6回	1) 湖沼学の基礎 2) データの解析法	湖沼学の基礎 Excelを用いたデータ解析について学ぶ
第7回	1) 湖沼学の応用 2) GISを用いた主題図作成①	湖沼学の応用 日本全図スケールでの主題図を作成

第8回	1) 雪水学の基礎 2) GISを用いた主題図作成②	雪水学の基礎 都道府県スケールでの主題図を作成
第9回	1) 雪水学の応用 2) GISを用いた主題図作成③	雪水学の応用 市町村スケールでの主題図を作成
第10回	1) 沿岸域・汽水域 2) 結果のまとめ方	沿岸域・汽水域の基礎 様々な図表などを用いたまとめ方を学ぶ
第11回	1) 流域圏の諸問題 2) 小論文記述法	流域圏の諸問題 実際に論文を書く上で必要な具体的なポイントについて学ぶ
第12回	1) まとめ 2) 小論文の評価・講評	まとめ 提出された小論文について講評する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 事前準備：受講確定後、指示される方法に従って、テーマを決定し、文献リストを作成する。また、可能であれば、対象河川等において簡単な予備調査を行う。
  - 事後学習：講義期間に提出した小論文に対する講評を受けて、期限までに修正したものを再提出する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

小寺浩二(2019)：『自然地理学（海洋・陸水）』。法政大学通信教育部  
 小寺浩二(2020)：『自然地理学概論（1）』。法政大学通信教育部

### 【参考書】

後藤真太郎・谷謙二・酒井聡一・坪井壘太郎・加藤一郎(2013)：『MANDARAとEXCELによる市民のためのGIS講座 第3版－地図化すると見えてくる－』  
 古今書院, 2,600円  
 その他、プリント資料等により授業内で紹介

### 【成績評価の方法と基準】

①事前学習、②出席、③実習課題 ④試験 ⑤小論文 を総合的に評価  
 出席・課題3割、試験3割、小論文4割

### 【学生の意見等からの気づき】

それぞれの学生の能力に応じて参加できる授業とする。

### 【学生が準備すべき機器他】

可能であれば、ノートパソコンの持参することが望ましい。基本的には、大学のものを借用できる準備はしておくので、無理はしなくてもよいが、普段自分が使っているものを持参すると、より、実習効果が上がる。

### 【その他の重要事項】

GISの活用が前提なので、事前に参考書などを用いて自習しておくことが必要である。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学  
 <研究テーマ>

- 水循環に伴う物質循環
- 人間活動に伴う水環境変化と保全
- GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

### 【Outline (in English)】

Conducts research in the field of geography and develops basic skills necessary for writing a graduation thesis. If possible, this time, especially in hydrology and limnology, the focus will be on acquiring basic skills for the water environment of familiar river basins.

HUG400TE (人文地理学 / Human geography 400)

**人文地理学演習 (夏期スクーリング)**

米家 志乃布

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、4年生で作成する卒業論文に必要な知識や考え方を演習形式の授業のなかで修得するためのものです。具体的には、歴史地理学・文化地理学のテキストを輪読し、関連の学術論文を読むことで歴史地理学・文化地理学の研究論文を作成するうえで必要な知識や考え方を学びます。

**【到達目標】**

本授業は、人文地理学のなかでも、歴史地理学・文化地理学分野で卒業論文制作を考えている受講生を対象に、そのために必要な知識や考え方、調査方法、論文のまとめ方などを修得することを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義と演習を中心に行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 調査・論文作成の基本①	ゼミのすすめかた 受講生の自己紹介 発表の準備方法と順番
第2回	調査・論文作成の基本②	図書館ガイダンス・文献の探し方および調べ方
第3回	調査・論文作成の基本③	地理学の学習と卒業論文作成について、『ジオ・バル』をもとに学ぶ～地図作成の方法、フィールドワークの方法
第4回	調査・論文作成の基本④	地理学の学習と卒業論文作成について、『ジオ・バル』をもとに学ぶ～データ処理・論文の書き方
第5回	研究テーマの設定①	『人文地理学事典』のなかから、歴史・文化の項目を選んで発表する
第6回	研究テーマの設定②	『人文地理学事典』のなかから、歴史・文化の項目を選んで発表する
第7回	研究テーマの設定③	『人文地理学事典』のなかから、歴史・文化の項目を選んで発表する
第8回	研究テーマの設定④	『人文地理学事典』のなかから、歴史・文化の項目を選んで発表する
第9回	学術論文を読む①	各テーマごとに学術論文を探して発表する
第10回	学術論文を読む②	各テーマごとに学術論文を探して発表する
第11回	学術論文を読む③	各テーマごとに学術論文を探して発表する
第12回	学術論文を読む④ これまでの発表のまとめをする	各テーマごとに学術論文を探して発表する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。しかし、夏期スクーリングは猛暑のなか、毎日の授業になります。他の授業との兼ね合いもあり、受講生の体調などに配慮しながら、授業時間外の学習について指示します。

**【テキスト（教科書）】**

- 野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明著『ジオ・バルNEO 地理学便利帖』第2版、海青社、2019年、2500円＋税
- 人文地理学会編『人文地理学事典』丸善出版、20,000円＋税  
いずれも地理学科事務室にあるものをコピーして利用します。

**【参考書】**

各テーマごとに随時、授業内で参考書を紹介いたします。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加状況（平常点50%）、プレゼンテーションとその内容50%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者交代によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

教科書や文献のコピーは各自の必要個所や発表に選んだ論文を、地理学科事務室や図書館などで、受講生自身に行っていただきます。PCやiPadで見ていただくようにして対応していただいてもかまいません。プレゼンテーションは紙のレジュメかパワーポイントで作成してください。配布資料は各自でコピーして持参してください。

**【Outline (in English)】**

Seminar of Historical and Cultural Geography. The purpose of this seminar to study and discuss for presentation of students on selecting theme.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)
<b>現地研究 (夏期スクーリング)</b>
<b>前卒 英明</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

釧路湿原や道東カルデラ群とその周辺地域を事例に、火山・台地・低地の自然環境を理解するとともに、人間活動との関係を考えていく。

#### 【到達目標】

- 1) 釧路湿原の成り立ちと周辺の低地の特色や環境変化を理解できる。
- 2) カルデラ火山群の自然環境と人々とのかかわりを考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

基本的には、終日屋外で実施する（一部屋内施設を利用する）。

行程（予定）は以下の通りである。

- 1日目：現地集合。釧路湿原その周辺を見学し、自然環境や環境変化について理解する。
- 2日目：道東のカルデラ火山群の自然環境を観察し、火山地域の人々の生活を考える。
- 3日目：釧路市内の産業遺跡や歴史を学ぶ。現地解散。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

釧路湿原や道東火山群、およびその周辺地域の自然環境（地形・地質・植生など）や産業・歴史について事前に予備知識を得ておくことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

#### 【参考書】

特に指定しない。

#### 【成績評価の方法と基準】

全日程の出席が成績評価の前提である。

授業への積極的な姿勢（50%）および事後レポート（50%）により評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

屋外のみではなく、屋内施設の活用にも努めます。

#### 【その他の重要事項】

野外活動が中心となるため、動きやすい服装・履物で参加すること。道東は夏でも気温が下がることがあるので、上着を準備し、雨具の準備も怠らないこと。

基本的に貸切りバスでの移動となります。

実施期間：2020年8月10日（月）～12日（水）

実施場所：釧路湿原および阿寒摩周国立公園

費用（宿泊費・交通費等）：30000円程度

宿泊場所：未定（釧路市内のビジネスホテルを予定、2泊とも同じ場所）

#### 【Outline (in English)】

This course introduces mainly the relationship between nature and humans in Kushiro wetland and the surrounding area.

ECN100TF (経済学/Economics 100)
<b>社会経済学A/社会経済学 I (夏期スクーリング)</b>
<b>大澤 覚</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

いろいろな学部の人参加を考慮して、経済学の各論でなく、経済学の根幹となる考え方や理論についての概要を述べることにすること。それによって、われわれがどのような社会で、どのようにして生きているのか、どういう問題を抱えているのか、それはなぜか、というところを理解できるようになることを期待している。

**【到達目標】**

社会・経済の仕組みや問題となるところを説明できるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP4」「商業学科：経済学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

配布資料にもとづいて講義形式でおこなう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	経済学とはなにか	いま社会はどうなっているか、経済の重要性と経済学の課題と役割について
第2回	商品	労働の生産物が商品になるということについて
第3回	貨幣	商品交換が拡大・発展してきたことについて
第4回	労働	なぜ貧富の差が生ずるのかについて
第5回	資本	資本とはなにかについて
第6回	資本の蓄積・流通	資本が大きくなるということについて
第7回	生産と再生産	生産が繰り返されているということについて
第8回	利潤・利潤率	資本はどのような社会を作っているか
第9回	分配・再分配	生産の結果はどのように分配・再分配されているかについて
第10回	経済発展、戦争と平和	社会・経済の発展はどうあるべきかということについて
第11回	まとめ	資本主義経済の仕組みのまとめ
第12回	試験とまとめ	参照可（貸し借り禁止。外部と連絡が取れる機器の使用禁止）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義に集中し、毎回の内容をしっかりとまとめること。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。プリントを使用します。Web学習サービスに掲載されたものを各自でプリントアウト〔打ち出し〕して持参のこと。

**【参考書】**

増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学（新版）』（有斐閣ブックス、2600円＋税）

**【成績評価の方法と基準】**

評価方法：最終日の試験（100%）

評価基準：講義を踏まえた内容であること。（毎日の講義の理解に努めること。）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で使用する資料（本体部分）は、事前にWeb学習サービスに掲載します。各自でプリントアウト〔打ち出し〕して持参のこと。追加分は授業時に配付します。

**【その他の重要事項】**

試験答案は文章化すること。箇条書きは不可。

**【Outline (in English)】**

Today the difficulties that confront us are very great. Then, what kinds of problems confront us? Why? What a kind of society are we able to produce? Those are our subjects.

ECN100TF (経済学 / Economics 100)
<b>統計学A/統計学 I (夏期スクーリング)</b>
<b>菅 幹雄</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

記述統計、確率、分布、推測統計について学ぶ。

#### 【到達目標】

基本的な統計分析ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP3,DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。講義はテキストに沿って行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	記述統計（1）	度数分布とヒストグラム
第2回	記述統計（2）	平均
第3回	記述統計（3）	分散と標準偏差
第4回	記述統計（4）	相関係数と回帰分析
第5回	確率（1）	確率とは何か
第6回	確率（2）	加法定理と乗法定理、ベイズの定理、期待値と分散
第7回	分布	二項分布とポアソン分布、正規分布
第8回	推測統計（1）	母集団と標本、中心極限定理、点推定
第9回	推測統計（2）	母平均の区間推定
第10回	推測統計（3）	仮説検定の考え方
第11回	推測統計（4）	母平均の検定
第12回	まとめ及び試験	まとめ及び試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

福井幸男『統計学の力ベースボールからベンチャービジネスまで』共立出版2592円

#### 【参考書】

白砂堤津耶『例題で学ぶ初歩からの統計学 第2版』日本評論社2750円

#### 【成績評価の方法と基準】

試験100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

数学が苦手な学生が多いので、なるべく数式を使わないで統計学を教えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

電卓

#### 【その他の重要事項】

#### 【Outline (in English)】

Study about the descriptive statistics, probability, distribution and inference statistics.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

**社会経済思想史／社会思想史（夏期スクーリング）**

伊藤 直樹

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

古代から20世紀にまでおよぶヨーロッパを中心とした社会思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語るができるようにすることにある。

**【到達目標】**

社会経済思想史とは、社会について、あるいは国家について、ひとがどのように考えてきたかを、歴史的にたどるものである。私たちは「個」として生きている。だが、その「個」は、逃れようもなく社会のなかに生きている。だとすれば、その「個」が生きているところの「社会」は、どのようなものであろうか。思想家たちが、古代において、16,17世紀において、また19世紀において、それぞれに社会をとらえ、またあるべき社会の姿を提示しようとしてきた。そうした社会についての思想をとらえることができるようになることが、本科目の目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを使つての講義というスタイルで行う。  
 予め、テキストに目を通しておいてもらいたい。そのテキストの要点、あるいは理解のポイントを講義する。  
 一人でテキストを読んでいるだけだと、気づきにくいニュアンスや、理解に資するエピソードや具体例などを紹介したい。  
 また、毎授業の終わりに、ちょっとしたコメントペーパーを書いてもらう。質問や感想である。次の時間に、それを紹介し、手がかりになしながら、復習をしたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	社会思想とはなにか？	社会思想とはなにかということ
第2回	古代ギリシアの社会思想(1)	正義概念の確立者としてのヘシオドスほか
第3回	古代ギリシアの社会思想(2)	ソフィストとプラトンの正義観
第4回	古代ギリシアの社会思想(3)	アリストテレスの正義観
第5回	社会契約論について(1)	ホブズ社会契約論
第6回	社会契約論について(2)	ロック、ルソーの社会契約論
第7回	ドイツ18世紀後半の社会思想(1)	啓蒙思想について
第8回	ドイツ18世紀後半の社会思想(2)	カントの社会思想
第9回	ドイツ19世紀前半の社会思想	ヘーゲルの社会思想
第10回	フランス18世紀末以後の社会思想	フランス革命後の思想状況
第11回	フランス19世紀の社会思想	ベルクソンについて
第12回	テストとまとめ	全体の要点を確認し、テストを行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

通教テキスト『社会思想史』第2版、濱田義文・加来彰俊・湯川桂一郎・牧野英二・星野勉・安孫子信・笠原賢介・酒井健、2010年

**【参考書】**

領域が多岐にわたるので、特定の参考書は用いない。

**【成績評価の方法と基準】**

最後に行うテストと、毎授業でのコメントペーパーによって評価する。割合は以下の通りである。

テスト70%、コメントペーパー30%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline (in English)】**

This course is to help students acquire an understanding of the social theory in Europe. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of each era by own words.

BSP100TB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
<b>総合特講（夏期スクーリング）</b>
<b>岸 牧人</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、企業会計の基本的な考え方について学習することにより、経済社会における企業会計の役割と諸課題について考察するための知見を得ることを目的とします。

#### 【到達目標】

「あの会社は赤字決算なのに、なぜかキャッシュは増えている」、「昨年倒産した会社の47%は黒字であった」、「減損を実施した会社の株価はなぜか上がる」。これらを聞いて「え？」と思う人は多いのではないのでしょうか。この講義では、こうした「え？」と思うことから、企業会計の基本的な考え方について学習します。最終的には、企業の決算書に含まれているストーリーを読めるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

テキストとレジュメによって講義を進めます。講義レジュメは、各講義の冒頭に配付します。講義の終わりに講義内レポートの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	企業会計と「お会計」 ／利益と「お金」	企業会計の目的と役割、簡単なケースをもとに決算書を作成します。
第2回	財務諸表の種類、会計情報の質的特性	財務諸表の種類とそれぞれの役割、会計情報と経済的意思決定
第3回	資産の会計（1）	資産の評価基準と分類、債権、有価証券、棚卸資産
第4回	資産の会計（2）	有形固定資産、無形固定資産
第5回	負債の会計	負債の分類、引当金の種類と効果
第6回	純資産の会計	資本取引の性質、純資産の分類、資本金、資本所預金、利益剰余金
第7回	収益と費用	発生主義の考え方と実例、損益計算書と5つの利益
第8回	企業会計とキャッシュ・フロー	キャッシュ・フロー計算書の構造と読み方
第9回	企業集団の会計（1）	連結財務諸表の意義、資本連結
第10回	企業集団の会計（2）	企業集団内の取引の消去、未実現利益の消去
第11回	企業と税金	法人税と法人消費税、税効果会計の基本的な考え方
第12回	財務諸表分析	安全性分析、収益性分析、成長性分析、効率性分析の方法と意義

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

大塚宗春, 福島隆, 金子良太, 菅野浩勢『テキスト入門会計学』（開講時の最新版）, 中央経済社

#### 【参考書】

講義に関連する資料を適宜配付します。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内レポート（全12回）によって以下のように評価します。試験は実施しません。

- ・1回あたり5点満点, 計60点満点
- ・計36点以上で合格
- ・欠席5回以上はE評価

#### 【学生の意見等からの気づき】

新規に担当するため、アンケートを実施していません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

電卓を使用する回があります。適宜指示します。

#### 【その他の重要事項】

単位認定, 成績評価の詳細について初回の講義で説明します。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts of financial accounting, and contribution to the business.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

**経済学特講（夏期スクーリング）**

赤石 秀之

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

リサイクルとは、社会の中で利用されなくなった製品を分解して再び資源に戻し、その資源から新たな製品を作り出す事である。リサイクルが促進されると、自然環境から取り出される資源を抑え、また自然環境へ戻される廃棄物を減らす事により、社会が自然環境に与える負担を小さく出来る。日本のように自然環境に大きな負荷を及ぼしている社会にとって、リサイクルが成功するか否かは近年では大きな関心事の一つである。一般的に、リサイクルの成功のためには、製品から資源に戻し新たな製品を生み出す技術があり、新たな製品を人々が好み、そして社会によるリサイクルのルールが必要であると言われている。

この授業では、これらリサイクル成功のための三つの条件についてミクロ経済学の視点から考察する事を目的とする。

**【到達目標】**

この授業を受ける事により、次の事が身につけられる：

- ①ミクロ経済学の基本的な知識を現実の課題（リサイクル）に適用する方法
- ②現実の課題（リサイクル）を解決するための法制度をミクロ経済学の視点から解釈する方法
- ③現実の法制度（リサイクル法）をミクロ経済学の立場から評価する方法

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的には講義を中心とする。適宜、ミニ課題という形の課題に授業中や宿題として取り組む事がある。また、受講人数により、リサイクル法を調べてもらう課題が出される事もある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	リサイクルの経済学 の役割	リサイクルとは何か？ 経済学とは何か？ 経済学がリサイクルにどのような役割を果たすのか？
第2回	生産者の行動	生産者の行動を考えながら、ミクロ経済学の復習を行う。
第3回	消費者の行動	消費者の行動を考えながら、ミクロ経済学の復習を行う。
第4回	再生業者の行動	生産者行動の基礎知識を用いて、再生業者の行動を考える。
第5回	容器包装リサイクル 法の経済学	容器包装リサイクル法をミクロ経済学の視点から考える。
第6回	家電リサイクル法の 経済学	家電リサイクル法をミクロ経済学の視点から考える。
第7回	食品リサイクル法の 経済学	食品リサイクル法をミクロ経済学の視点から考える。
第8回	自動車リサイクル法 の経済学	自動車リサイクル法をミクロ経済学の視点から考える。
第9回	建設リサイクル法の 経済学	建設リサイクル法をミクロ経済学の視点から考える。
第10回	小型家電リサイクル 法の経済学	小型家電リサイクル法をミクロ経済学の視点から考える。

- 第11回 現在のリサイクル法 現在のリサイクル法にはどのような限界と課題があるのか？
- 第12回 最終試験と解説 最終試験を行い、その解説をする。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

毎回、レジメを配布するため、使用しない。

**【参考書】**

植田和弘（1992）『廃棄物とリサイクルの経済学』有斐閣。  
山谷修作（2002）『循環型社会の公共政策』中央経済社。

**【成績評価の方法と基準】**

授業中または宿題として行う「ミニ課題」で40％の評価、授業最終日に行う「最終試験」で60％の評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

前年度に引き続き、目で見分ける授業を心掛けたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特にありません。

**【Outline (in English)】**

Recycling refers to decomposing products that are no longer used in society, returning them to resources again, and creating new products from the resources. When recycling is promoted, society can reduce the environmental burden caused by reducing resources extracted from the natural environment and reducing waste returned to the natural environment. For a society that places a heavy burden on the natural environment, the success of recycling is a major issue. Successful recycling requires technologies that return products to resources and create new products, people like new products, and recycling rules by the society.

The purpose of this class is to examine these three conditions for successful recycling from the perspective of microeconomics.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>経済学特講 (夏期スクーリング)</b>
明城 聡
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

統計学を用いた経済データの分析手法を学び、EXCELによる情報処理演習を行う

#### 【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上でEXCELを使った経済データ分析の演習をします。またデータ分析結果をグラフや表にまとめてレポートや論文を作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業では当日扱う分析手法や経済データに関して解説をします。その後各自でEXCELを用いて演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解くことで統計分析のスキルを身につけます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・ 講義概要の説明 ・ EXCELと統計データ分析
2	時系列データの記述	・ 時系列データのグラフ ・ 成長率、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・ 度数分布表 ・ 分布の形状 (尖度、歪度)
4	データ集計と基本統計量	・ 平均、分散、中央値、メディア ン、モード ・ ボックスプロット
5	移動平均と季節調整	・ 移動平均 ・ 循環的な特性と季節調整 ・ 異常値の検出
6	相関関係と因果関係	・ 散布図 ・ 相関関係 (偏相関、自己相関) ・ 因果関係を検証するには
7	統計的推測の考え方	・ 確率、確率変数、確率分布 ・ 正規分布と標本平均による母平均の推測
8	母集団に関する検定と推定	・ 仮説検定と有意水準 ・ 母平均・母分散に関する検定・推定 ・ 2群比較
9	分散分析	・ 分散分析 ・ 1元配置法 ・ 2元配置法
10	回帰分析(1)	・ 最小二乗法 ・ 単回帰分析 ・ 古典的線形回帰モデル ・ t検定
11	回帰分析(2)	・ 重回帰分析 ・ ダミー変数 ・ 不均一分散 ・ 系列相関

12 レポート課題 ・ これまでの復習  
・ レポート課題について

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。毎回、講義トピックに関連した宿題 (1~2時間必要) があります。

#### 【テキスト (教科書)】

必要に応じてレジュメを配布します。

#### 【参考書】

統計学の参考書としては  
・ 「統計学入門」、東京大学教養学部統計学教室編、東京大学出版会  
EXCELの使い方やデータ分析については  
・ 滝川好夫・前田洋樹「経済学のためのExcel入門」日本評論社

#### 【成績評価の方法と基準】

練習問題40%、課題レポート60%

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報処理室を利用するので、ログインに必要なアカウント情報(ID、パスワード)を忘れずに持ってきてください。

※アカウント情報については事務局に確認すること

#### 【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

#### 【Outline (in English)】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (EXCEL).

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>経済学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>島澤 諭</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：3群終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

入門レベルのマクロ経済学の基礎理論を用いて日本経済が抱えるマクロ経済的な諸課題について講義する。現実のマクロ経済問題を考える際の基礎となるマクロ経済指標の読み方からマクロ理論モデルの基本概念及び最近のトピックスまでを日本経済を題材にしつつ幅広く紹介する。

#### 【到達目標】

現実のマクロ経済を理解するうえで欠かすことのできない、オーソドックスなマクロ経済理論について、理解する。また、日本のマクロ経済を取り巻く問題を把握する。その上で、日本のマクロ経済を取り巻くさまざまな環境変化を考慮したとき、今後の日本経済がどうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

主に、講義用スライドを用いながら講義形式で授業を進める。理論の説明の際は、数式やグラフを多用するため、板書は多めとなる。理論の理解の補強を図るため、最新のマクロ経済情勢を踏まえながら、日本のマクロ経済が直面している課題について、官公庁や、民間シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌等のメディア媒体等を活用しつつ、具体的に取り上げる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	マクロ経済学と日本経済	日本経済の抱えるマクロ問題の把握。特に世界経済との関係について
第2回	統計資料 (1)	国民経済計算とGDP。日本の経済規模を把握する
第3回	統計資料 (2)	国民経済計算とGDP。日本経済と世界経済のつながりを把握する
第4回	乗数モデル (1)	国民所得の決定メカニズムを考察する
第5回	乗数モデル (2)	乗数メカニズムと経済対策の効果
第6回	失業とインフレーション	インフレやデフレの決定メカニズムを考察する
第7回	開放経済	国際収支、為替レート制度について理解する
第8回	日本の経済成長と経済成長モデル	ハロッド=ドーマーモデル、新古典派成長モデル、内生的成長モデル、人口と経済成長、日本の高度成長と失われた20年
第9回	国民と投票	中位投票者定理、投票のパラドクス、日本の投票率が低いことは問題なのか？
第10回	財政の持続可能性	ドーマー条件、ドーマー命題、MMT、プライマリーバランス

第11回	少子高齢化と政策決定	民意と政策決定そしてシルバー民主主義
第12回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験する

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日々の経済ニュースをTVや新聞を通じて吸収するよう心がけてほしい。また、復習は必ず行うこと。

#### 【テキスト (教科書)】

使用しない

#### 【参考書】

- [1] 井堀利宏『入門マクロ経済学 第3版』、新世社、2011年
- [2] 齊藤誠・岩本康志・太田聡一・柴田章久『マクロ経済学 新版』、有斐閣、2016年
- [3] 浅子和美・倉澤資成・加納悟『マクロ経済学 第2版』、新世社、2009年
- [4] 竹田陽介・小巻泰之『マクロ経済学をつかむ』、有斐閣、2006年
- [5] 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学 世代間対立克服への戦略』、日本経済新聞出版社、2017年

#### 【成績評価の方法と基準】

授業態度 (40%)、筆記テストによる期末試験 (60%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

該当しない。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

特になし

#### 【Outline (in English)】

In this course, you can learn about the economic data related with the basic macro economic model.

MAN200TF (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>大木 良子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ミクロ経済学のモノの見方を応用して、企業の意思決定や産業の構造について考察していきます。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにします。具体的には、産業組織論の各トピックに対応する現実の事例について、理論的分析結果と現実との一致や相違点について考察し、ミクロ経済学的な考え方、産業組織論の考え方と経営学、法学など隣接分野との接合をはかります。

#### 【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は全て講義形式で行います。講義はスライドを用いて解説します。関連する理論的な練習問題を解き、授業内で解説します。学習内容の確認のために、中間試験、期末試験を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場(産業)」「政府」はどのように扱われているか
第2回	市場と競争	企業の数と競争の度合いとの関係 (市場集中度)、独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
第3回	完全競争市場	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？
第4回	独占企業	完全競争市場における企業の行動との違い、なぜ独占になるのか？ (規模の経済・自然独占)
第5回	寡占市場とゲーム理論	数量競争、価格競争を考える
第6回	中間試験と解説	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う
第7回	製品差別化	主要な製品差別化の経済モデル紹介、製品差別化が市場競争にどのような影響を与えるか？
第8回	合併	合併とは？ 直近の合併事例と競争政策、合併の経済モデル
第9回	垂直的取引制限	垂直的取引制限とは？ 垂直的取引制限に対する競争政策
第10回	価格差別	価格差別の経済モデル紹介、価格差別が市場競争にどのような影響を与えるか？

第11回	ネットワーク外部性	ネットワーク外部性の定義、ネットワーク外部性が働くプラットフォーム市場の事例紹介
第12回	期末試験	第1回～11回までの内容について計算問題・論述問題を出題

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の内容を十分よく復習してください。それが続く授業に対する予習になります。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

特になし。

#### 【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著、有斐閣、2018年

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004年

『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏著、有斐閣、2016年

『競争政策論 第2版』小田切宏著、日本評論社、2017年

『経営の経済学 第3版』丸山雅祥著、有斐閣、2017年

『産業組織の経済学 第2版』長岡・平尾著、日本評論社、2013年

#### 【成績評価の方法と基準】

中間試験30%、期末試験70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講生の反応やフィードバックをみながら授業の進め方を工夫します。適宜練習問題などを出題し、授業中に解説することにより知識の定着を図ります。毎回の授業では資料を配付します。資料はスクリーンに投影されるスライドのうち重要なものが空欄になっていますので、自分で空欄を埋め、これに加えて黒板や口頭での説明の重要な点を書き加えることにより、自分なりのノートを作成して復習に役立ててください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

2018年度開講の同教員による「経営学特講」を履修済の受講生は、授業内容が重複するため受講できません。

この科目は、経済学、特にミクロ経済学に関連しています。ミクロ経済学に関連する科目の事前履修または並行履修を強く勧めます。

#### 【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn firms' behavior and its consequences in oligopolistic markets where firms interact strategically. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

PRI200TG (情報学基礎 / Principles of informatics 200)
<b>情報科学実習 (1) (b コース) / コンピュータ入門 (1) (b コース) (夏期スクーリング)</b>
児玉 靖司
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic for Applications (以下、VBA という) について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークや Word による文書作成を行う。その後、Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

#### 【到達目標】

コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングができることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商学科：情報・統計学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般に解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第5回	VBA の起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第6回	VBA を使ったセルの操作	VBA でセルを操作することを通じて、VBA の要であるオブジェクト、プロパティ、メソッドについて学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

情報学に関する技術とプログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料を提示するが、教科書は開講時に指定する。

#### 【参考書】

特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、提出されたレポート、最終試験 (40%) により総合的に判断する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

#### 【学生が準備すべき機器他】

コンピュータ、プロジェクトなどを多用し詳しく解説する。実習室においてコンピュータに向かいながら学習する。

#### 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

#### 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

#### 【Outline (in English)】

Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. First, as a basis for a computer, documents are created using a network or Microsoft Word. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammars.

MAN200TF (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>木村 純子</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会において最も重要な位置を占めている組織は、「企業（会社）」とよばれる組織です。商品・サービスを提供し、多くの人びとは生活の糧を企業から得ています。この講義では、この「企業（会社）」組織の運営に焦点を当てます。NTTドコモ、ソフトバンク、セブン-イレブン、トヨタ自動車、任天堂…といった大企業から、近所にある中堅・中小企業まで、世の中には大小さまざまな企業があります。企業経営にかかわるさまざまな授業（経営学総論、戦略論、組織論など）の入門となる授業です。

授業を通じて学生は経営学の基礎理論を体系的に習得します。

### 【到達目標】

経営学検定試験の初級レベルの合格を目標とします。多彩なスタイルで構成される授業を通じて、学生は理論と現実をつなぎ、論理的な議論を展開し、他者に説得的に説明する力を身につけます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業はレクチャー形式で行われます。

講義で学んだ理論を用いて、ビデオや新聞記事のデータを元に、経営学に関連する課題に取組みレポートを授業時間内に書きます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	企業経営とは？：
	第1章：	企業、企業と各市場、情報的経営資源
	『もしドラ』の「ドラ」とは？	
第2回	第1章：	企業経営とは？：
	企業経営の全体像：	
	『もしドラ』の「ドラ」とは？	
第3回	第2章：	経営学とは？：
	経営学の全体像	広義・狭義の経営学、心理学などとの関係、面白さ・実践性
第4回	第2章：	経営学とは？：
	経営学の全体像	グループ活動と発表
第5回	第3章：	会社とは？：
	企業と社会	株式会社の基本的な仕組み
第6回	第3章：	会社とは？：
	企業と社会	グループ活動と発表
第7回	第4章：企業とイン	「カネ・ヒト」の工面とは？：
	プット（金融資本・労働）市場との関わり	金融資本市場、株式、借入、労働市場、「三種の神器？」
第8回	第4章：企業とイン	「カネ・ヒト」の工面とは？：
	プット（金融資本・労働）市場との関わり	金融資本市場、株式、借入、労働市場、「三種の神器？」

第9回	第5章：企業とアウト	経営戦略とは？：
	プット（製品・サービス）市場との関わり	製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
第10回	第5章：企業とアウト	経営戦略とは？：
	プット（製品・サービス）市場との関わり	製品サービス市場、経営戦略の定義・階層性
第11回	第6章：競争戦略の	競争戦略とは？ ①：
	マネジメント	顧客価値
	(Part.1)：基本的な考え方	
第12回	試験	試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は「復習型」授業です。事前に教科書を読んでしまうと、授業内の課題を自分で考えることができなくなってしまうからです。授業が終わってからその日の学習範囲を復習するようにしてください。

### 【テキスト（教科書）】

加護野忠男・吉村典久編著『1からの経営学（第2版）』中央経済社、2012年をベースに授業は構成されていますが、すべての章をカバーするわけではありません。

### 【参考書】

適宜、紹介し、必要であれば印刷物を配布します。

### 【成績評価の方法と基準】

1) 平常点(出席と授業内レポート) 75 %

2) 定期試験 25 %

試験では、経営学の基本的な理論・概念の理解度をチェックします。6日間合計12コマ(1日2コマ×6日)のうち8コマ以上の出席が必要です。

基本的にすべての欠席を「欠席」として扱います。出席できる日および試験で挽回してください。

遅刻もしないように心がけてください。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではなく、授業内で学生のグループワークを行いたいという希望がありましたので、授業内での活動および発表をしていただく機会を作る可能性があります。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

レポートに取り組む際は、基本的に、自分で論理を展開する力をつけるためにスマートフォン等を使ってネットで検索をしない。

### 【その他の重要事項】

1) 平常点は「出席」ではなく「授業への積極的参加」を意味します。授業は出席することを所与としており出席しているからといって点数になるわけではなく、授業内の活動や積極的コミットが平常点となります。本講義については、授業内で取り組んでいる課題のアウトプットによって各受講生の平常点が変わってきますので授業内エクササイズに全力で取り組んでください。

2) 著作権の侵害となりますので授業中の写真撮影を禁止します。

3) 欠席については、別の課題をお出しすることはありません。体調に留意され授業に出るようにしてください。社会人受講者はお仕事とのバランスをマネジするようにしてください。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, each student learns to

1) set a research question related to service innovation,

2) explain the theoretical framework,

3) form propositions (hypotheses),

4) collect data, and

5) verify hypotheses.

Through multiple activities, students gain the ability to bridge reality and theory. Just like any types of sports, students learn academic research rules and improve research skills. Using the theory of business administration, they understand what research is (rules), and practice repeatedly by working on in-class tasks over times to enhance their research skills.

PRI200TG (情報学基礎 / Principles of informatics 200)
<b>情報科学実習 (2) (dコース) / コンピュータ入門 (2) (dコース) (夏期スクーリング)</b>
渡辺 英人
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そしてAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会や家庭でも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集し、それを効率的に整理して、利用するかという実践的な内容です。大学で、仕事で、家庭でも将来にわたって、必ず役に立ちます！ 初心者大歓迎！！

#### 【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学での研究学習のみならず、社会でも家庭でも「役に立つ」スキルを身につけよう！ 初心者大歓迎！！ 苦手な人ほど参加して欲しい！！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

大学での研究学習活動のみならず社会でも家庭でも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータとは何か (ハードウェアとソフトウェア)	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習から機器の取扱いとWindowsの操作法まで	情報処理の基礎
第3回	電子メールやソーシャルメディアの利用。インターネットと大学生の研究・学習	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第4回	ワープロ操作 (Wordによる文章入力の練習) インターネットとWordを使った課題作成	情報処理の基礎。文書作成法。
第5回	Excelの操作方法。(基本操作)	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第6回	Excelの操作法 (計算機能と関数。表作成、グラフ作成)	表計算ソフトの計算機能、作表機能、グラフ作成機能について解説する。
第7回	インターネットとExcel。情報収集と整理活用法。	ネット上から有益な情報を収集して、エクセルを利用した蓄積方法を解説する。
第8回	インターネットとExcelを活用して資料作成。	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	効率的な情報検索、収集、整理、再利用の方法。	ネット上に存在する有益な情報の発見、収集、蓄積、再利用方法について解説する。
第10回	データベースを作る。有益な情報の収集、蓄積、そして有効利用方法。	マイクロソフトACCESS (データベースソフト) の利用方法について解説する。
第11回	データベースを作る。自分にとって、重要な情報を収集、整理、蓄積、再利用。	マイクロソフトACCESSを使って、自分のためにデータベースを作ってみよう。
第12回	情報化社会を生きる。	授業の総括を行ってみよう。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USBフラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

#### 【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

Word、Excel、Access、PowerPointを使って、課題 (50%) を作成します。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

この授業を通して、情報処理が大学生としての研究・学習のみならず、日常生活においても積極的に応用できることが受講者に理解されている。授業の目的、目標は、大学生として、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることに力を入れている。

#### 【学生が準備すべき機器他】

データ保存用にUSBフラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

#### 【その他の重要事項】

〔受講上の注意〕

大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学、社会、家庭でも、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

「情報科学実習」(2) と (4) は同一内容です。どちらか一方を受講してください。

#### 【質問について】

授業後に質問を受け付ける。

#### 【Outline (in English)】

Introductory information processing course for university students. Everyone who studies social sciences and humanities using representative software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, Access, etc., will explain the knowledge and skills that are useful at universities, and even in society and at home, in an easy-to-understand manner. You will learn. Practical content on how to search, collect, and efficiently organize and use useful information from literature and the Internet. It will always be useful in college, at work, at home and in the future! Beginners welcome! !

PRI200TG (情報学基礎 / Principles of informatics 200) <b>情報科学実習 (3) (a コース) / コンピュータ入門 (3) (a コース) (夏期スクーリング)</b>
寺脇 由紀
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎を学び、ワープロソフトや表計算ソフトなどの情報リテラシーを習得する。学問をする上で必要となるコンピュータを使った情報整理や知識獲得を行えるように技術を醸成する。

#### 【到達目標】

情報学の基礎知識を習得し、ワープロソフト、表計算ソフトなどをツールとして利用し、情報の整理・収集・編集・集計ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

コンピュータの基本要素といった情報学の基礎知識を学び、コンピュータの基本操作を習得した上で、オフィスソフトなどを活用した情報リテラシーを習得する。

授業は講義と実習にて進める。具体的には、講義で情報学および、コンピュータの基本操作の知識を得る。得た知識の定着を高めるため、および、理解度を確認するためにコンピュータを用いた実習を行う。また、授業内容について振り返るために、eラーニングシステムを活用したミニアンケートを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、また、法政大学の学内で運用されているパソコンやネットワーク環境に関する説明を行う。
第2回	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基本要素を学び、ハードウェア、ソフトウェア、オペレーティングシステム、プログラムなどに関して理解を深める。
第3回	PCの基本操作	オペレーティングシステムの機能を学び、本学の情報教室で採用されているWindowsの基本操作と、キーボード入力の実習をする。
第4回	日本語ワープロソフトの操作	日本語ワープロソフトの基本操作を知り、さらには各種の編集機能を学ぶことで効果的な文書作りができるようにする。
第5回	プレゼンテーションソフトの基本操作	プレゼンテーションソフトの基本操作を学習する。
第6回	効果的なプレゼンテーションの構成	聴衆に対して効果的にプレゼンテーションを行うための構成要素について学ぶ。
第7回	プレゼンテーションソフトにおける各種表現	プレゼンテーションソフト特有の機能を学び、各種表現のための操作を習得する。

第8回	表計算ソフトの基本操作	表計算ソフトの基本操作を学習し、相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第9回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。
第10回	応用的な関数の利用	論理関数や情報検索関数などの関数の使い方を学ぶ。
第11回	表計算ソフトの活用	グラフ表現や効率よくデータを集計し、管理する方法について学ぶ。
第12回	まとめ	日本語ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトで学んだ技術のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教員が作成する資料を用いて講義を進めます。

#### 【参考書】

授業内さらには授業後に自主学習する際、有効な情報源となるような文献を授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

課題演習＋最終試験の点数で評価します。以下の通りとなります。課題演習（取り組みの態度＜20%＞＋授業への参加態度＜30%＞＋課題提出＜10%＞）および最終試験の点数（40%）にて評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

デモンストレーション交えながらすすめる講義に好評をいただいています。

今年度も、デモンストレーションを用い、学生の意見を聞き、多くの学生が学習したいと考える内容を取り入れていきます。

学生諸君は、皆で講義の時間を共有しているという意識をもつていただき、自身のみでなく、本授業の履修者にとって有益な時間を築こうという気持ちをもって講義に参加してください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータおよび中間モニタを使用します。

また、授業で使用する教材は学習管理システムClassroomに掲載し、授業で紙媒体の配布は行いません。プリントアウトが必要な方は各自でお願いします。

授業内に配布する教材や自身の実習データを持ち帰りたい学生は、USBメモリを持参してください。

#### 【その他の重要事項】

コンピュータを用いた実習を伴う講義であるため、キーボード入力ができること（1分間に100文字以上入力できること）が望ましいです。

過年度の傾向より、学生みなさんの既存の知識の差が大きいです。単元によっては講義で基礎技術の説明も行うため十分な技術をお持ちの学生の方はお付き合いいただく内容が含まれますが、授業に参加していただくことが求められます。

私語、頻繁に離席する、などの参加態度が著しく好ましくない場合や、授業と関係ない作業を行う、他人が作成した課題を提出するなどの講義に対する努力が認められない場合は、評価できない場合がありますので注意してください。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of informatics to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Obtain basic knowledge about the informatics.
- ・ Acquire the necessary computer skills and information literacy needed to achieve a better performance in their university studies.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>人的資源管理論 I (夏期スクーリング)</b>
<b>山口 壘</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源管理(Human Resource Management)は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を扱う学問分野です。本科目では、そうした人的資源管理の基礎として、①人的資源管理の基本的考え方、②人的資源管理にかかわる課題や論点、③日本企業の人的資源管理の現状と変化について学びます。人的資源管理の基礎を学ぶことで、会社や職場でのヒトの管理に関わる制度と慣行について、理解を深めることができます。

#### 【到達目標】

人的資源管理の基礎について理解することを学習目標とします。そのための到達目標として、人的資源管理論 I では、以下の①②③を設定しました。

- ①人的資源管理の基本的な考え方を習得する。
- ②人的資源管理にかかわる論点を知る。
- ③日本企業における人的資源管理の現状と変化について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。レジュメ・資料をプリントとして配布し、それに沿って講義をすすめます。また、毎回の授業で15～20分の時間をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、授業内容に関連した設題に応える形式とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、基本的な枠組み・概念の整理
第2回	雇用管理	参入と退出、キャリア
第3回	人事管理	長期雇用、能力主義の定着
第4回	育成の管理	人材育成、能力開発
第5回	選抜の管理	昇進・昇格、中高年層の処遇
第6回	賃金管理	賃金の決め方、成果主義の導入
第7回	多様で柔軟な人的資源の管理	サービス産業化、多様な正社員
第8回	労働問題の管理	労働時間、職場の労働問題
第9回	労使関係の管理	集団的労使関係
第10回	人的資源管理論の歴史と展開（1）	制度、組織、労働市場
第11回	人的資源管理論の歴史と展開（2）	人間関係、モチベーション、コミットメント
第12回	試験・まとめと解説	試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの該当する箇所を読んでください。また、新聞記事に日々目を通し、仕事や雇用に関する最新の情報に触れることも大事です。復習として、関心のあるトピックを扱った個別の学術論文を探して読んでみましょう。たとえば『日本労働研究雑誌』のバックナンバーは、労働政策研究・研修機構のホームページ（<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/>）にも掲載されており便利です。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『よくわかる 産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012年、¥2,600+税

#### 【参考書】

『新しい人事労務管理 第6版(有斐閣アルマ)』有斐閣、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、2019年、¥2,100+税

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点40%、試験60%で評価します。平常点には、毎回のリアクションペーパーへの評価も含めます。試験では、①人的資源管理の基本的な考え方を理解・習得しているかどうか、②示されたデータから要点を読み取ることができるか、③論理的な記述をできているか、を重要な評価基準とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見や要望には、可能な範囲で応えるようにします。意見や要望は、授業の前後に直接、あるいは毎回のリアクションペーパー上で受け付けます。

#### 【Outline (in English)】

Human Resource Management is a branch of social science, which studies management and utilization of personnel as corporate resources.

In this class, we learn the basic elements of Human Resource Management: the way of thinking, the point at issue, and the present situation especially for Japanese companies.

MAN200TF (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>高橋 理香</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

国際経済学の基礎について学びます。本講義では国際経済学の中でも特に貿易に焦点を当て、貿易のあり方や貿易政策について理論的解説を行った上で、現代において特に重要とされるトピックスを取り上げて問題点を説明します。

#### 【到達目標】

国際貿易論・国際貿易政策論について理論的考察を行う能力を身に付け、その本質と意味を理解します。また、こうした理論を現代のさまざまな国際経済に関する問題に応用して分析できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

【授業の概要】 国際貿易の基本構造・貿易政策・国際経済システムについて、簡単な理論と現実のトピックを交えた講義を行います。

【授業の方法】 パワーポイントを用い、各テーマについての講義ノートを配布し、理解を深めるための統計データなどの資料も参照しながら解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際経済学とはどのような学問か概要を知る。
第2回	日本の貿易と貿易政策	日本の貿易の実態やさまざまな貿易政策について理解する。
第3回	生産技術と貿易パターン	比較優位のモデルの構造を理解し、比較優位の理論と現実の経済の接点を理解する。
第4回	産業内貿易	新しい貿易理論が登場することになった背景と、その理論によって説明される産業内貿易の構造について学ぶ。
第5回	市場メカニズム	市場メカニズムについて学ぶ。
第6回	貿易と市場メカニズム	貿易を考慮した場合の市場メカニズムを学び、貿易の利益について理解する。
第7回	関税政策	代表的な貿易政策である関税政策の効果について理解する。
第8回	非関税障壁	関税政策に代わるさまざまな貿易政策の効果を理解する。また、日本政府が過去に採用したさまざまな非関税障壁とその効果について理解する。
第9回	不完全競争下の貿易政策	互いの国が戦略的に貿易政策を採用する時の均衡を記述し、分析する。
第10回	ダンピング	ダンピングとは何か、ダンピングの違法性とはどのようなものか、競争の観点から考察し、貿易政策としてのダンピングの効果について、理解する。

第11回 国際経済システムの構造 GATT-WTO, FTA, TPPといった国際経済システムの役割と課題について、理論と現実の双方を理解する。

第12回 まとめ・試験 講義のまとめと試験を行う。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、演習問題を出しますので、履修している仲間と一緒に、もしくは自力で解いてください。また、予習よりも復習を重視してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは指定しません。授業ノートを基に進めていきます。

#### 【参考書】

##### 【テキスト】

- ① 石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ第2版』有斐閣、2013年。
- ② 多和田真・近藤健児『国際経済学の基礎「100項目」』創成社、2018年。
- ③ Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz (2014) *International Economics: Theory and Policy*, 10th edition, Prentice Hall.

##### 【読み物】

- ① 阿部顕三『貿易自由化の理念と現実』NTT出版、2015年。
- ② 清田耕造『日本の比較優位- 国際貿易の変遷と源泉-』慶應義塾大学出版会、2016年。
- ③ 田中鮎夢『新々貿易理論とは何か- 企業の異質性と21世紀の国際経-』ミネルヴァ書房、2015年。
- ④ 富浦英一『アウトソーシングの国際経済学- グローバル貿易の変貌と日本企業のマイクロ・データ分析』日本評論社、2014年。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験 (80%)

リアクションペーパー (20%)

試験は、通教の受験資格の要件を満たすこと。

#### 【学生の意見等からの気づき】

履修者の皆さんの理解度や希望をなるべく反映して授業を進めたいと考えています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料は事前にWeb学習サービスに掲載します。授業での配付は行いません。必要であれば各自でプリントアウトをしてきてください。

#### 【Outline (in English)】

This class provides basic theories and policies of international trade. We will learn the mechanism of trade and effects of trade policy from theoretical and empirical aspects, and then discuss topics that are of particular importance in the real world economy.

PRI200TG (情報学基礎 / Principles of informatics 200)
<b>情報科学実習 (4) (dコース) / コンピュータ入門 (4) (dコース) (夏期スクーリング)</b>
<b>渡辺 英人</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生のための情報処理入門講座です。Microsoft Word、Excel、PowerPoint、そしてAccessなどの代表的なソフトを使って、社会科学、人文科学などを学ぶみなさんが、大学で、さらに社会や家庭でも役立つ知識と技術をわかりやすく解説し、確実に習得していただきます。文献やインターネット上から有益な情報をどのようにして検索、収集し、それを効率的に整理して、利用するかという実践的な内容です。大学で、仕事で、家庭でも将来にわたって、必ず役に立ちます！ 初心者大歓迎！！

#### 【到達目標】

大学で学ぶ「社会科学」「人文科学」における様々な問題に、情報機器、とりわけパーソナルコンピュータとソフトウェアを効率的に利用して、それぞれの研究や学習を深める方法を受講者全員が正確に理解し、応用できるようになることが目標です。大学での研究学習のみならず、社会でも家庭でも「役に立つ」スキルを身につけよう！ 初心者大歓迎！！ 苦手な人ほど参加して欲しい！！

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

大学での研究学習活動のみならず社会でも家庭でも必要となる知識と技術を、講義と実習形式で、わかりやすく解説します。使用するコンピュータとソフトウェアは、みなさんが日常的に使用しているものと同程度のものを。また、実社会においても標準的に使用されているものだけを選んで解説します。とくにマイクロソフト社製「Microsoft Office」に含まれる「Word」「Excel」「PowerPoint」「Access」は確実に覚えましょう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	コンピュータとは何か (ハードウェアとソフトウェア)。	情報処理の基礎
第2回	キーボード入力練習から機器の取扱いとWindowsの操作法まで。	情報処理の基礎
第3回	電子メールやソーシャルメディアの利用。インターネットと大学生の研究・学習。	電子メールの利用やその他のソーシャルメディアについて。操作、利用、マナーなど解説する。インターネットを利用した効率的な情報検索、収集の基礎。
第4回	ワープロ操作 (Wordによる文章入力の練習) インターネットとWordを使った課題作成。	情報処理の基礎。文書作成法。
第5回	Excelの操作法。基本操作) Excelの操作法。	表計算ソフトについて解説する。データの収集、入力、読み込み、保存、印刷。
第6回	Excelの操作法 (計算機能と関数。表作成、グラフ作成)。	表計算ソフトの計算機能、作表機能、グラフ作成機能について解説する。
第7回	インターネットとExcel。情報収集と整理活用法。	ネット上から有益な情報を収集して、エクセルを利用した蓄積方法を解説する。
第8回	インターネットとExcelを活用して資料作成。	インターネットを利用した情報検索、収集とレポート作成。
第9回	効率的な情報検索、収集、整理、再利用の方法。	ネット上に存在する有益な情報の発見、収集、蓄積、再利用方法について解説する。
第10回	データベースを作る。有益な情報の収集、蓄積、そして有効利用方法。	マイクロソフトACCESS (データベースソフト) の利用方法について解説する。
第11回	データベースを作る。自分にとって、重要な情報を収集、整理、蓄積、再利用。	マイクロソフトACCESSを使って、自分のためにデータベースを作ってみよう。
第12回	情報化社会を生きる。	授業の総括を行ってみよう。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必要に応じて、あらかじめ授業内容を記した資料を配付するので、復習のみならず予習、授業準備を行って欲しい。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

開講時に指定する。USBフラッシュメモリを、用意して欲しい。容量等については、開講時に説明します。

#### 【参考書】

開講時、および授業中に指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

Word、Excel、Access、PowerPointを使って、課題 (50%) を作成します。ひとりひとりの理解度と授業への参加状況 (平常点：50%) を合わせて評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

この授業を通して、情報処理が大学生としての研究・学習のみならず、日常生活においても積極的に応用できることが受講者に理解されている。授業の目的、目標は、大学生として、そして将来にわたって職業人、家庭人としても「役に立つ」知識や技術を身につけることに力を入れている。

#### 【学生が準備すべき機器他】

データ保存用にUSBフラッシュメモリを用意してください。容量等については開講時に説明します。

#### 【その他の重要事項】

〔受講上の注意〕

大学でのあらゆる学習・研究活動の基礎となる「実学」です。実習を伴う授業ですから参加者全員が同時にスタートし、終了することが必要です。授業に遅刻しないこと。全員が理解できるようにていねいに解説します。大学、社会、家庭でも、将来にわたり必要不可欠な知識と技術です。初心者大歓迎！大切なことは「意欲がある」ことだけ！「積極的に授業に参加する学生のみ」集まって欲しい！

「情報科学実習」(2) と (4) は同一内容です。どちらか一方を受講してください。

#### 【質問について】

授業後に質問を受け付ける。

#### 【Outline (in English)】

Introductory information processing course for university students. Everyone who studies social sciences and humanities using representative software such as Microsoft Word, Excel, PowerPoint, Access, etc., will explain the knowledge and skills that are useful at universities, and even in society and at home, in an easy-to-understand manner. You will learn. Practical content on how to search, collect, and efficiently organize and use useful information from literature and the Internet. It will always be useful in college, at work, at home and in the future! Beginners welcome! !

MAN200TF (経営学 / Management 200)

## 経営学特講 (夏期スクーリング)

福多 裕志

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

通信添削コース「経営分析Ⅰ・Ⅱ」において使用中の教科書内で、唯一学習範囲に含まれていない第16章「企業価値の評価」を取り上げる。このテーマは企業金融論や経営財務論の領域でも議論される重要な話題の一つである。本コースでは、企業価値を評価するにあたり、主に数式を用いた理論的、定量的方法を解説する。

## 【到達目標】

- ①企業価値、株主価値の意味を理解する。
- ②企業価値評価に関する幾つかの定量的方法を理解する。
- ③演習問題を通して、株価の計算を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

指定教科書の第16章に沿って授業を進める。受講者はほぼ毎回の授業において、計算問題を主体とする練習問題に解答することが求められる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	全体計画と企業価値評価の目的	スクーリング全体の枠組みを示し、企業価値の評価に関する概観的説明を行う。
第2回	企業価値の評価とは何か	企業価値、株主価値、企業価値評価の目的
第3回	企業価値評価の方法 1:純資産法	ストックに基づく方法のうち、帳簿価額方式、再調達時価方式を理解する。
第4回	企業価値評価の方法2	ストックに基づく方法のうち、清算時価方式の解説およびフローに基づく方法の全般を概観する。
第5回	企業価値の評価方法 3:フローによる方法,WACC	フローに基づく方法のうち、配当還元法 (DDM)、加重平均資本コスト (WACC) を理解し、練習問題を解答する。
第6回	企業価値の評価方法 4:CAPM	自己資本コストの推計と資本資産評価モデル (CAPM) を理解する。
第7回	企業価値の評価方法 5:ゴードンモデル	一定成長配当割引モデルを理解し、練習問題を解答する。
第8回	企業価値の評価方法 6: DCF法	割引キャッシュ・フロー法の原則的方法を理解し、練習問題を解答する。
第9回	企業価値の評価方法 7:フリーキャッシュ・フロー	原則的DCF法の発展形であるFCFの成長を考慮する方法を理解する。
第10回	企業価値の評価方法 8:オールソンモデル	割引超過利益評価法を理解し、練習問題を解答する。
第11回	企業価値評価の総括	今回の学習事項全般について総括する。

第12回 筆記試験(計算問題) 今回のスクーリングで学習した内容と解説 :まとめと解説 内容範囲とする。60分、参照不可

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

上記の授業内容・項目について、スクーリング当日まで様々な参考資料を参照し、充分予習しておくことが期待される。特に、教科書内で示される数式の展開を各自確認しておくことが望まれる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

青木茂男編著『要説 経営分析 五訂版』森山書店, 2016年. ¥4,400 + 税

## 【参考書】

- 1) 井出正介, 高橋文郎『ビジネス・セミナー 経営財務入門 [第4版]』日本経済新聞社, 2009年. ¥3,600 + 税
- 2) 岡本清『原価計算 六訂版』国本書房, 2000年.
- 3) 桜井久勝『財務諸表分析 第7版』中央経済社, 2017年. ¥3,400 + 税
- 4) 西内啓『統計学が最強の学問である』東洋経済新報社, 2013年. ¥1,600 + 税
- 5) 西山茂『ビジネススクールで教えている会計思考 77の常識』日経BP社, 2018年. ¥1,800 + 税

## 【成績評価の方法と基準】

原則的に最終時限に行われる筆記試験 (計算問題) により評価する。ただし、授業内において問題解法や各話題について積極的な貢献が認められる場合、20%を上限として加点する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

- ・一般的な電卓を持参すること。最終試験(筆記試験)においても電卓の使用を可とする。
- ・授業で使用する一部の資料は事前にWeb学習サービスに掲載するので、各自プリントアウトし、ご持参ください。

## 【その他の重要事項】

本スクーリングでは、取り上げたテーマ・項目に関し数式や図を用いた解説と反復的な問題演習を予定している。このような方法論に興味をお持ちの方々の参加と、受講者の数式の展開に関する十分な事前準備を期待したい。

## 【Outline (in English)】

Corporate valuation is a general process of determining the economic value of a whole business or company unit. The evaluation is conducted when an enterprise is looking to sell all or part of itself, or looking to merge with or acquire another company. In this course, participants will learn about several evaluation methods such as 'Book Value', 'DCF method', 'Market Capitalization' etc.

PRI200TG (情報学基礎 / Principles of informatics 200) <b>情報科学実習 (5) (b コース) / コンピュータ入門 (5) (b コース) (夏期スクーリング)</b>
児玉 靖司
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Microsoft社の表計算ソフトExcelのマクロ言語としてのVisual Basic for Applications(VBA)に関して学びます。まず、コンピュータの特徴、プログラミングの考え方などコンピュータ独自の考え方をコンピュータの基礎知識として学び、つぎにExcelの操作を概観し、最終的には、VBAの文法および、実践的にプログラムを作成します。

#### 【到達目標】

コンピュータの基礎、表計算ソフトウェアExcelおよび、VBAの基礎を理解し、VBAを用いて自ら考えプログラムが作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般に解説し、そのマクロ言語としてのVBAを解説する。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Wordによる文書作成	Wordによる簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算ソフトの基本操作	表計算ソフトの基本操作を学ぶ。
第5回	VBAの起動	Excelの開発機能と、プログラム実行までの流れを学習する。
第6回	VBAを使ったセルの操作	VBAでセルを操作することを通じて、VBAの要であるオブジェクト、プロパティ、メソッドについて学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	条件分岐	条件に応じた処理を学ぶ。
第10回	繰り返し（いろいろな繰り返し文）	条件が成立している間繰り返し処理を行う方法や、オブジェクトの数だけ繰り返し処理を行う方法を学ぶ。
第11回	構造化プログラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料を提示するが、教科書は開講時に指定します。

#### 【参考書】

特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点、提出されたレポート（60%）、最終試験（40%）により判断します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、多くの学生から好評いただいたように、今年度も一つの要素をゆっくり確実に解説します。

これは、VBAを用いて実践的なプログラムを記述できるようになるための最初の一步を確実に踏み出すために大切なことです。このため場合によっては、授業の進行が前後することがあります。

#### 【学生が準備すべき機器他】

大学内のコンピュータおよび中間モニタを使用します。

データ（教材や自身で作成した実習データ）を持ち帰りたい方は、USBメモリを持参してください。

授業で使用する教材は学習管理システムClassroomに掲載し、紙媒体の配布は行いません。プリントアウトが必要な方は各自でお願いします。

#### 【その他の重要事項】

プログラミングの知識や経験は不要です。

本授業では、短い期間でのVBAを学習することを鑑み、その後の学習の幅を広げるために欠かせない基礎を無理なく習得していただくことを最優先にしています。このため、十分な技術がある方はお付き合いいただく内容が含まれます。しかし、十分な技術がある方でも授業に参加していただくことが求められます（私語、授業中に操作しない、授業に関係のない操作を行う、他の学生が作成したプログラムをコピー&ペーストするなど、講義時間中の努力が認められない場合は評価できない場合がありますので注意してください）。

#### 【Outline (in English)】

We will learn about programming which is a technology for making software using the Visual Basic for Applications (VBA). Through learning programming, we will understand the essential aspects of computers and programs.

MAN200TF (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (夏期スクーリング)</b>
<b>金 瑠晋</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業の経営者が直面する様々な財務意思決定問題について考えます。とりわけ、資本コストの算定、企業価値の評価、M&Aの意思決定、株主還元政策に重点を置きながら、経営者が企業価値の向上のために、どのように財務意思決定問題を解決すべきかについて議論します。

#### 【到達目標】

- ・キャッシュフローの割引現在価値の重要性が理解できます。
- ・株式会社の経営者と投資家の関係に対する見方が確立します。
- ・株主と債権者の立場の違いが分かるようになります。
- ・資金調達手段の選択について理解が深まります。
- ・企業価値を具体的に導く能力が培われます。
- ・経済・金融関連ニュースがより身近に感じるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式に基づきます。また、受講者との相互コミュニケーションを重視しますので、積極的な授業参加を高く評価します。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	キャッシュフローの重要性、投資家と財務指標	財務諸表とキャッシュフロー、利益 vs. キャッシュフロー、投資家からの目線：ROE、ROA、ROIC
2	現在価値の理解	キャッシュフローの割引現在価値とその応用
3	資本コスト1	リスク・リターン、投資家の期待、加重平均資本コスト (WACC) の理解
4	資本コスト2	株主資本コストの推定、CAPMの直感的理解、ベータの推定
5	DCF法によるバリュエーション1	DCF法の全体像、フリーキャッシュフローの予測、WACCの計算例
6	DCF法によるバリュエーション2	継続 (永続) 価値の算定、感応度分析、バリュエーションと株価
7	株式市場での同業他社の評価	Comps、EBITDAマルチプル、PERとPBR
8	M&Aの意思決定	買収金額の決め方、買収効果を測る指標、LBOのスキーム
9	株主還元政策1	ペイアウトの全体像、配当政策、配当と株価
10	株主還元政策2	自社株買い、配当と自社株買いの比較、ペイアウト政策のケーススタディ
11	ベンチャーファイナンス	ベンチャー企業の資金調達、未上場企業の株価、出口戦略、上場までの株主構成
12	総括	学習内容のおさらいと最終試験

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

当授業の理解を深めるためにも日頃経済関連記事、経済ニュースなどに目を配りましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

田中慎一・保田隆明著『コーポレートファイナンス戦略と実践』、ダイヤモンド社、2019、2,600円+税

#### 【参考書】

コーポレートファイナンス、企業財務論、経営財務論というタイトルがついている書籍の中で、受講者が理解できるレベルの本を参照して下さい。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業参加度20%、最終試験80%

#### 【学生の意見等からの気づき】

更に分かり易い解説を心がけます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業中に、電卓、ノートパソコンやスマートフォンの計算機能を使っても構いません。但し、最終試験では電卓のみ利用できます。

#### 【前提知識】

授業では、初歩的な計算を行います。特に前提知識は要りません。

#### 【Outline (in English)】

This course covers some core topics of corporate finance. The topics include cost of capital, valuation of the firm, M&A decision, and payout policy.

PRI200TG (情報学基礎 / Principles of informatics 200) <b>情報科学実習 (6) (a コース) / コンピュータ入門 (6) (a コース) (夏期スクーリング)</b>
<b>入戸野 健</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ワープロ、表計算、インターネットを活用した情報リテラシーを習得する。

#### 【到達目標】

ワープロ(文書処理)ソフト、表計算ソフト、インターネットをツールとして利用し、基本的な情報の収集・編集・集計等ができるようになることを目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP9」「商業学科：情報・統計学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

パソコンの入門者を対象として基本操作から始め、文書作成・表計算・インターネットについて実習形式で学習を進めます。基礎を中心とするため、事前の準備は特に必要としませんが、後半は表計算まで学習を進めるため、文字の入力操作に自信のない人はそれなりの努力が必要になります。普段から実務等で既にワープロや表計算を活用している方にはやや物足りない内容となるかもしれませんが、再度、基礎から俯瞰的に実習をしたい方には勧められます。文書作成にはWord、表計算にはExcelを使用します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Windowsの基本操作	ログイン、パスワードの変更、アプリケーションの起動、ファイル整理等の基本操作を学習します。
第2回	文書処理 (1) 文字の入力と書式設定	文字の入力方法、文書の書式設定、フォントの設定等について学びます。
第3回	文書処理 (2) 定型文書の作成	一般的な定型文書の作成に必要な箇条書きや段落設定などを学習します。
第4回	文書処理 (3) 表の作成	文書内に表を作成して体裁の整った文書を作成する法を学びます。
第5回	文書処理 (4) 図形の利用	文書内にイラスト挿入したり、簡単な案内図を作成する方法について学習します。
第6回	電子メールの操作	電子メールの送受信、メール文面の書式、ネチケットについて学びます。
第7回	インターネット情報検索	検索サイトの基本的な利用方法から応用的な検索手法までを解説します。
第8回	表計算 (1) 表計算ソフトの基本操作	基本的なデータの入力方法とそれらを計算する方法を学びます。
第9回	表計算 (2) 関数の利用	各種の関数を利用してデータを効果的に集計する方法を学習します。

第10回	表計算 (3) グラフの利用	棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなどの基本的なグラフの作成方法を学習します。
第11回	表計算 (4) 他のソフトとの連携	作成した表やグラフをWord等の文書内で連携しながら利用する方法を学びます。
第12回	試験	演習形式の試験を実施します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の実習でやり残した部分があった場合は、各自で完成させておく等の事後学習を行って下さい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

開講時までに提示します。

#### 【参考書】

進捗状況に応じて授業内で適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

出席20%、課題20%、テスト60%とします。毎回授業に参加して、各回の実習で課題等をきちんとこなしながら、それらを着実に身につけて行くことが大切です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講者の学習状況に合わせた丁寧な授業進行に努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のPCを使って実習を進めます。

作成したファイルを保存するためのUSBメモリを持参することを勧めます。

#### 【Outline (in English)】

This course aims to provide fundamental skills for accumulating, editing and summarizing information using word processing, spreadsheet and internet application software.

MAN200TF (経営学 / Management 200)

**経営学特講 (夏期スクーリング)**

猪狩 良介

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：3群終日  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

多くの企業ではマーケティング活動を通じて商品や広告、販売などの戦略を検討し、実施しています。本講義では、消費者のニーズを踏まえた商品やサービスの開発、価格設定、広告プロモーションなどの戦略と消費者の購買行動についての基礎的な内容を事例を紹介しながら説明します。本講義を通じて、マーケティングに関する基礎的な方法論を理解し、知識として定着させることを目的としています。

**【到達目標】**

- ・マーケティング活動に関する基礎的な方法論の内容やキーワードを理解し、知識として定着している。
- ・消費者の購買などに関する行動を理解し、関連したキーワードを理解し、知識として定着している。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学, 自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

マーケティングの基礎概念、特にマーケティング4P (Product, Price, Place, Promotion)を中心に学習します。  
 授業はパワーポイントのスライドを用いて講義形式で行います。また、授業で扱ったテーマについて簡単なグループワークを行います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／マーケティングとは	本授業の概要と進め方について説明します。マーケティングとは何か、どのように変遷してきているのかについて学びます。
第2回	マーケティング戦略と立案プロセス1 (STP)	マーケティングにおいて重要な概念であるセグメンテーション (S)、ターゲティング (T)、ポジショニング (P) について学びます。
第3回	マーケティング戦略と立案プロセス2 (4P)	マーケティングミックスの概念について学びます。また、マーケティング4P (Product, Price, Place, Promotion)を学習します。
第4回	競争地位別マーケティング戦略	市場シェアに基づく競争地位 (リーダー、チャレンジャー、フォロワー、ニッチャー)による戦略について学習します。
第5回	市場機会の発見	企業の市場における外部環境と内部環境の要因を学びます。また、環境を分析するいくつかの方法について学びます。
第6回	製品戦略	製品の種類と製品ミックス、新製品開発のプロセス、製品のライフサイクルマネジメントについて学びます。
第7回	価格戦略	価格設定のための様々な方法について学びます。

第8回	流通戦略	流通チャネルの種類と機能、政策について学びます。
第9回	プロモーション戦略1	コミュニケーションの種類と、広告について学びます。
第10回	プロモーション戦略2	セールスプロモーションやインターネット広告について学びます。
第11回	ブランド戦略	ブランドの定義と種類、機能について学びます。また、ブランド資産についての考え方を学びます。
第12回	期末試験	理解度を確認します。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

事前にテキストをよく読んで予習します。また、日常生活で身近にある製品・サービスはどのようなマーケティングが展開されているかよく考えます。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

山本晶 (2012) 『コア・テキスト マーケティング』新世社。  
 ※授業時には上記教科書に基づく教材プリントを配布して説明します。

**【参考書】**

池尾恭一・青木幸弘・南知恵子・井上哲浩 (2010) 『マーケティング』有斐閣。  
 ※それ以外の参考書については、授業中に随時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

試験 (100%)

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業で使用する資料は事前にWeb学習サービスに掲載します。授業中に紙での配付も行いますが、事前学習に必要であれば各自でプリントアウトしてください。

**【その他の重要事項】**

実際の授業計画は、履修者の関心や授業の進捗状況に応じて変更することがあります。

**【Outline (in English)】**

Companies consider and implement strategies such as products, advertisements, and sales promotions through marketing activities. In this course, strategies for developing products and services based on consumer needs, pricing, advertising promotion, etc., and basic contents of consumers' purchasing behavior will be explained through some examples. The purpose is to understand the basic methodology of marketing and establish it as knowledge through this course.

<b>教育相談（夏期スクーリング）</b>
<b>藤平 敦</b>
カテゴリー：夏期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談は、担当者のみが課題を抱えている生徒のみを対象に、別室で1対1のみで行うものではなく、教職員全員が教育活動のあらゆる機会をとらえて、全ての生徒に対して行うべきものである。本授業では、主に学級をフィールドとして、さまざまな実践事例を題材にしながら、受講者である学生が教育相談の意義と必要性を理解することを主目的としつつ、学級づくりに必要な視点を学ぶこととする。

#### 【到達目標】

- ①教育相談の意義と必要性について理解できる。
- ②生徒とかわかる基本原理を理解できる。
- ③生徒同士のつながりを意図した働きかけについて考えることができる。
- ④「個別支援計画」の必要性を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、①前回の復習、②講義&ディスカッション、③Quiz（事例検討）&振り返り の3構成で進める。主体的な授業参加とともに、毎回、自分自身の言葉で振り返りができることを目標とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	教育相談とは何か	①オリエンテーション ②講義（教育相談の概念、意義、必要性について理解する。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第2回	不登校の問題から教育相談を考える①	①前回の復習 ②講義（長期欠席と不登校の違いについて理解する。不登校の状況と対応等についての基本的な考え方を理解する。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第3回	不登校の問題から教育相談を考える②	①前回の復習 ②講義（不登校の出現について、不登校新規出現者と不登校継続者の違いを理解する。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第4回	いじめの問題から教育相談を考える①	①前回の復習 ②講義（いじめの概念について理解する。近年のいじめの社会問題化について考える） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第5回	いじめの問題から教育相談を考える②	①前回の復習 ②講義（いじめの初期対応と未然防止について考える） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）

第6回	専門家（スクールカウンセラー等）と連携して行う教育相談	①前回の復習 ②講義（子供の評価者である教員と非評価者である専門家との役割連携の必要性について理解する。具体的な連携の在り方について考える。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第7回	教職員と連携して行う教育相談	①前回の復習 ②講義（教職員と連携して行う教育相談の必要性を理解する。具体的な連携の在り方について考える。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第8回	保護者と連携して行う教育相談	①前回の復習 ②講義（保護者と連携するために必要な視点を理解する。具体的な連携の在り方について考える。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第9回	個別支援計画を考える	①前回の復習 ②講義（個別支援計画の必要性について理解する。計画の立案方法、留意点について考える。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第10回	学級づくりに活かす教育相談①	①前回の復習 ②講義（生徒と好ましい人間関係を築いていくうえで必要な視点を、教育相談の発想から理解する。） ③実践事例の検討&本日の振り返り（要提出）
第11回	学級づくりに活かす教育相談②	①前回の復習 ②講義（子供同士の好ましい人間関係づくりに結び付く教育相談の在り方について理解する。生徒の主体性をはぐむ教育相談の視点を考える。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）
第12回	授業に活かす教育相談	①前回の復習 ②講義（授業場面における教育相談の視点の必要性を理解する。一斉授業の場面において、教育相談の視点を持った（生徒たちへの）働きかけについて考える。/ グループ学習や個別学習の場面において、教育相談の視点を持った（生徒たちへの）働きかけについて考える。） ③Quiz（事例検討）&本日の振り返り（要提出）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。次回のテーマに向けて、必ず、事前に各自まとめてくること。

#### 【テキスト（教科書）】

・「研修で使える生徒指導事例50」藤平 敦 学事出版 978-4761922917  
→ 毎回のQuiz（事例検討）で使用する。  
・講義でのパワーポイントの資料は毎回、配布する。

#### 【参考書】

『生徒指導提要』文部科学省 教育図書 978-4877302740

#### 【成績評価の方法と基準】

・授業に関する記述式試験 40%  
・毎回のQuizと授業の振り返り 60%

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の講義では、全国の学校現場のスライド等を用いて、受講者の学生が視覚的にイメージを持ちやすいように工夫をしていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline (in English)】**

This class deals with educational consultation. Educational consultation is not limited to one-on-one in a separate room, only by the staff in charge, targeting students who have problems. All teachers and staffs should take every opportunity in educational activities and do it for all students. The main purpose of this class is to understand the significance and necessity of educational consultation, mainly in the field of class, using various practical examples as subjects. At the same time, it is also important to learn the viewpoints which is necessary for classroom management.

**教育の制度・経営（夏期スクーリング）**

新井 秀明

カテゴリー：夏期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代日本の学校制度・組織を枠づけ、規制する公教育や行財政の法制度やしくみを理解し考えること、また、学校の組織・経営を具体的な諸側面において理解し考えることであり、これには危機管理や安全対策・地域との連携も含まれる。

**【到達目標】**

現代日本の学校教育に関する制度的及び経営的な問題を取り上げ、教員として必須な公教育の法制度及び学校の組織・経営にかかわる基礎知識の理解と習得をめざします。学校組織・経営の基礎知識には危機管理や安全対策、学校と地域の連携も含まれます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

授業の前半は、公教育や教育行財政の法制度やしくみをテーマにします。授業の後半は、学校の組織・経営の諸側面をテーマにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方と教育法 制の概要	憲法・子どもの権利条約の教育 条項、教育法制度の概要
第2回	新旧教育基本法の特 徴	教育基本法の新旧比較
第3回	教育行政のしくみ	国と地方の教育行政、文部科学 書、教育委員会、学校管理規則
第4回	教育課程と教科書	教育課程行政、学習指導要領、 教科書検定・採択、カリキュラ ムマネジメント
第5回	教育の無償制と教育 財政制度	無償制、国庫負担金と補助金、地 方交付税、就学援助・教育扶助
第6回	教育を受ける権利と 学校制度	義務教育制度、学校制度改革、 教育機会保障
第7回	学校の組織と経営	自律的学校経営、校長とミドル リーダー、職員会議、校務分掌、 少人数学級
第8回	教員の成長と同僚性	教員の職能開発、教員の養成・ 研修、同僚性
第9回	教員と学校の評価と 労働条件	教員評価、PDCA、学校評価、
第10回	子どもの人権と学校	子どもの権利条約、校則、体罰、 いじめ
第11回	チーム学校と地域連 携	チーム学校政策、新たな教育専 門職、チーム連携、コミュニ ティ・スクール
第12回	学校の危機管理と安 全対策	学校保健安全法、災害等の危機 管理、教員の安全対策と責任

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。毎日配布されるプリント教材、自作ノート等を利用して復習してください。

**【テキスト（教科書）】**

プリント教材を毎日（毎時間）配布し、使用します。

**【参考書】**

新・教育の制度と経営（新訂版）、本岡愛実・末富芳編著、学事出版、2017、2100円＋税  
 文部科学省及び都道府県・市町村教育委員会のホームページ

**【成績評価の方法と基準】**

最終時限の試験が80%、授業内の活動（ディスカッション、コメントペーパー作成等）が20%、これらを目安として総合的に判断します。試験は論述式問題です。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

The topics of this class are focused not only contemporary Japanese law and system in educational administration and finance, but also on school organization and management, including risk management, safety measure, and corporation with local community.

PHL100TA (哲学 / Philosophy 100)
<b>論理学 (冬期スクーリング)</b>
<b>大貫 義久</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように正しく伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また論理的に考え、表現するためには、どのようにしたらよいのかということ、基礎から順に学んでゆきます。

#### 【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に考え、表現する方法が実際に身につくようにすることが、到達目標です。試験においては、正しく論理的に考え、表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法文学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

zoomとYouTubeとの併用でオンライン授業を行う予定です。予め配布した資料に沿って授業を進めていきます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容と論理学への導入
第2回	論理学の根本原理、概念について	同一の原理・矛盾の原理・排中の原理、概念の成り立ち、概念の内包・外延
第3回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化
第4回	定言命題の4種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図、概念の周延・不周延についての説明
第5回	判断の命題化（標準形式化）について	判断を命題の形にする方法の説明と練習問題
第6回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、推理の妥当・非妥当、演繹推理の説明
第7回	演繹推理の直接推理、特に変形による推理について	対当による推理、変形による推理、練習問題に取り組む
第8回	演繹推理の間接推理について	三段論法の定言三段論法について、その構造と規則を学ぶ。練習問題に取り組む
第9回	演繹推理の間接推理について	仮言三段論法、選言三段論法について。練習問題に取り組む
第10回	演繹推理の間接推理について	両刀論法の説明。練習問題に取り組む
第11回	現代論理への導入、	命題論理学、
第12回	まとめ レポート課題の提示	授業内容のまとめとレポート課題について

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う項目を教科書に従い予習し、さらに授業で扱った項目をそのつど復習して下さい。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

大貫義久・他 『改訂版 論理学の初歩』 梓出版社・2013年

#### 【参考書】

授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

レポートで決定します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

論理学は理解できれば楽しいという意見が多くありました。説明が少し早くなってしまった箇所もあったので、十分に理解してもらうために工夫したいと思います。

#### 【学生が準備すべき機器他】

マイクとカメラが必要となります。

#### 【その他の重要事項】

zoomへの入室は、開始の10分前から5分後まで可能です。また、配布資料は事前にプリントアウトしておいて下さい。資料を使いながら授業を進めていきます。

なお、授業内容についての質問は、メールにて受けつけます。アドレスは後日お知らせします。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional logic and

symbolic logic to students. Students can understand the outline of the traditional logic (syllogisms) by taking this course.

HIS100TA (史学/History 100)

**東洋史 (冬期スクーリング)**

板橋 暁子

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

家族・ジェンダー・セクシュアリティに関する伝統的秩序が比較的強固に存続してきた東アジア世界においても、近年、それらの見直しを求める声が高まっている。

そのような伝統的秩序の少なくない部分が中国の文化や制度に由来するものであり、現代日本も例外ではない。

本科目では、東アジア世界への影響もふまえながら、中国史上における家族・ジェンダー・セクシュアリティの展開を学ぶ。

**【到達目標】**

現代へと連なる東アジア世界の家族・ジェンダー・セクシュアリティ構造が、中国を範例として如何に形成されてきたかを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Zoomを用いたリアルタイム講義形式

Zoom URLは、LMS上に掲示します。

日程の一部でリアルタイム配信が困難になった場合は、Youtubeによる録画配信も併用する場合があります。

日程：2021年1月28日（木）～2021年2月3日（水）

※1月31日（日）を除く6日間（1日2コマ）で実施します。

時間：午前9：00～12：30（途中休憩含む）

※途中入室や途中退出は可能です。減点の対象にはなりません。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	漢代①	父系制社会
第2回	漢代②	家族と戸籍
第3回	漢代③	外戚と宦官
第4回	魏晋南北朝①	貴族と婚姻
第5回	魏晋南北朝②	仏教・道教と信仰生活
第6回	隋唐①	女帝の誕生
第7回	隋唐②	妓女と文人
第8回	宋元①	都市と庶民生活
第9回	宋元②	朱子学と礼法
第10回	明清①	節婦・列女の顕彰
第11回	明清②	「男らしさ」の変遷
第12回	明清③	性愛規範と逸脱

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しません。

**【参考書】**

・早川紀代 [ほか] 編『歴史をひらく：女性史・ジェンダー史からみる東アジア世界』東京：御茶の水書房、2015年  
 ・三成美保/姫岡とし子/小浜正子編『ジェンダーから見た世界史：歴史を読み替える』東京：大月書店、2014年  
 ・小浜正子 [ほか] 編『中国ジェンダー史研究入門』京都：京都大学学術出版会、2018年

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の課題に対する回答（ミニレポート）（100％）。

1日ごとに、LMSより提出してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

積極的な質問を歓迎します。

**【学生が準備すべき機器他】**

パソコンもしくはスマートフォン（必要な機能：Zoomに接続できること、WORD等の文書ファイルもしくはメール本文でコメントを作成・提出できること）

質問はZoomチャット機能やLMS上の「学習に関する質問」機能でも受け付けますので、受講生側にマイク・カメラ機能は必須ではありません。

**【その他の重要事項】**

Zoom入室可能時間：授業開始時間の5-10分前を目安に開室します。

質問は授業終了後のZoom上で、もしくはLMS上の「学習に関する質問」機能にて受け付けます。

事前配布資料がある場合は、LMS上に掲示します。

スマートフォンでZoom接続される場合、配布資料は事前にプリントアウトしていただくのが見やすいかと思えます。

**【Outline (in English)】**

Outline: Learning gender, sexuality and family system in pre-modern Chinese history

Objectives: Understanding how the structure of gender, sexuality and family had been developed in pre-modern China and how the structure has exerted an influence on East Asian countries

LAW100TA (法学 / law 100)
<b>法学(日本国憲法) (冬期スクーリング)</b>
<b>石川 澄雄</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として「法と国家・社会」との関係につき、とくに憲法（日本国憲法）を軸としてその基本的な理解を得ることに努める。憲法に対する理解が一般人のみならず学生や為政者（！）においてすらなお十分に浸透しているとはいえない状況にかんがみて、本講義ではその目的や理念等の「正確な理解」を得ることによって憲法を中心とした法体系の理解にまで及ぶ。

### 【到達目標】

日本国憲法を中心に、法というものについての基本的かつ一般的な理解を得ることを目指すとともに、「法的社会」における様々な法関係に対して適切・妥当と考えられる対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（legal mind・法的思考・バランス感覚）」の涵養をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

今回はオンラインでの授業となったことから、本科目では「Zoom」を用いての授業とする予定です。

テキストについては、当初教室にて配布予定だった教材（レジュメ——プリント）を「LMS」にて送付することとします。受講者はそれに目を通した上で、まずはそこに示された事柄の「考え方と関連性」の理解に努めてください。

本授業では、「法および憲法」に関わる今日的なトピックをより多く取り上げて理解の一助としますが、それは何より抽象的な議論や講述に陥ることを避けて、基本事項や事柄についての理解が得られるようにするためです。

なお、Zoom授業の関係で履修者にはカメラ・マイクの用意をお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	①本科目履修の意義および受講上の注意点等（ガイダンス）  ②「法と国家」との関係について(その1)	①履修者は多くが複数の学部にもたがることから、「法学」を履修する意義や受講上の注意点等について概要をのべる。  ②次いで、法（または、広く「法を含む規範・ルール」とは何か、それらは国家とどのような関係にあるか等について考える。
第2回	法と国家との関係について（その2）	法と「それ以外のルール」（すなわち「社会規範」——道徳・慣習・習俗・宗教規範等）との相違点等を探る。
第3回	法と「それ以外のルール」との関係について	法と「それ以外のルール」（すなわち「社会規範」——道徳・慣習・習俗・宗教規範等）との相違点等を探る。

第4回	法と法律について。憲法第41条（「国会の地位」および「立法権」）を中心に	「狭義の法、としての「法律」について。「唯一の立法機関」としての国会（および国会の地位）について。立法と「政党」の関係（「政党政治」）についても言及する。
第5回	法の特質について。「権利」を中心として	「権利」に焦点をあてて法の特質をながめる。「法律問題」とは何か。何が法律問題となり、あるいはそうならないか。法と国家との関係から考える。
第6回	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」	「法の支配」とは何か。それと「立憲主義」との関係とは。それらを基軸に「近・現代憲法の原点」に及ぶ。
第7回	「法の支配」「立憲主義」および憲法の基本理念について——「憲法の原点」（その2）	「憲法の基本理念・原則（「個人の尊重」・国民主権・基本的人権の尊重・平和主義）について。
第8回	国家統治の基本原則について。「国民主権」	「個人の尊重」理念（憲法第13条）から日本国憲法の諸原則を考える。まずは国家統治の基本原則としての「国民主権」について考える。「主権」とは何か。
第9回	「権力分立」について	国家統治の基本原則としての「権力分立」について。あわせて「行政権と内閣（組織と機能）」・「司法権と裁判所（組織と機能）」に言及。
第10回	「基本的人権」について	「人権宣言としての日本国憲法」。人権と「公共の福祉」との関係。これに関連して「権利の社会性」についても言及。
第11回	「基本的人権」について（その2）	前回の続き。および「人権規定」と現実とのギャップをながめる。「思想・良心の自由」「表現の自由と知る権利」「社会権（生存権）」等について。
第12回	①「平和主義」について ②改めて憲法第13条（「個人の尊重・幸福追求権」）について	①「平和主義」について。憲法を特徴づける第9条の背景と趣旨、および同条をめぐる（今日的）諸問題について。 ②おわりに日本国憲法の「最重要規定」でもある第13条について約言し、まとめに代える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

①今スクーリングではPCもしくはスマートフォンの使用が必要となりますが、授業後においては、講述内容を思い出ししながら、テキスト（「講義レジュメ」）や講義ノートなどで簡単に整理（おさらい）するという「復習中心」の学習を勧めますが、当然ながら予習とあわせれば効果的かと思えます。なお、予習・復習に要する時間はおおむね各2時間を標準としたい。

②しばしば「何を覚えたらいいか」との質問を受けますが、大学の勉強はあまり覚えることに重点を置いたものにはしないほしい。たしかに「覚えるべき基本知識」はありますが、強調したいのは、むしろ法というものを「批判的に、眺め、かつ考察する」ということで、そのための「訓練の場」として本授業に臨んでほしいと思います。従って、本授業では「法を守れ！」式の話はしないので留意してください。

【テキスト（教科書）】

「講義レジュメ」および資料（いずれもプリント）。

【参考書】

上記レジュメに若干の「参考文献（基本書または概説書）」を載せる。

【成績評価の方法と基準】

スクーリング終了後に「レポート課題」を出し、その評価を成績とします。レポート課題は「LMS」に掲示します。

レポート執筆に際しては、「執筆要領」にきちんと従い、かつ、より多く自身の言葉でまとめられているか否かを評価のポイントとします。

**【学生の意見等からの気づき】**

理解が難しい場合などには気軽に、遠慮せず質問等をしてください。「訊くはいつきの恥…」などということわざがありますが、本科目の場合は恥でもなんでもないので、そんな‘無益な’ことわざなどは振り払ってください。

**【学生が準備すべき機器他】**

PCまたはスマートフォン

**【Outline (in English)】**

In each lecture we will learn the basic point of view about the relations between the law (especially the Constitution) and the state or society. Not a few people even today don't understand the meaning of the Constitution ('Everything the government does is bounded by the Constitution'). So we will get the correct and basic understanding and also make sense of the Constitution and other laws.

GEO100TA (地理学 / Geography 100)
<b>自然地理学 (冬期スクーリング)</b>
<b>加藤 美雄</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している気象現象を理解することにより時間的・空間的な広がりを持つ気候について様々な角度からアプローチし、人為による気候の改変対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について考え、論ずることができることを目的とする。

### 【到達目標】

- ・大気現象や大気の流れを理解する。
- ・様々なスケールの気候を把握する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・課題論文を理解することにより、論文の書く力を付ける。
- ・人為によって改変した気候の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問・意見・討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業はZoomでのリアルタイム配信により行う。また資料、及び課題の配布・受取はLMSを使用する。

授業は気象学、気候学に関し最新の研究を中心に講義すると共に、試験や課題論文の解説、気象の実験・映像を通して理解を深める。特に、気象学、気候学については、分かり易く説明する。また、様々な人為による気候の改変について解説する。更に観光鍾乳洞の保護について集団討論を実施し、各自の考えや意見により議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	気候の概論	気象と気候の違い、気候地名、気候景観、都市の認知度などにより気候学の概要を講義する。
第2回	総観気象学 1 (大気 の安定・不安定、降 水の仕組み、竜巻)	大気の構造を理解し、大気の安定不安定により降水の仕組みを説明する。また、関連する竜巻についても解説する。
第3回	総観気象学 2 (気象 観測)	天気予報で重要な気象観測であるアメダス、気象レーダー、気象衛星について理解を深める。
第4回	大気候 (エルニー ニョ現象)	エルニーニョ現象について説明し、関連して大気と海洋の相互作用とその影響を解説する。
第5回	中気候 (季節変化、 気圧配置、降水分布、 やませ、気温分布、 気候区分)	日本の季節変化から降水・気温分布などを説明し、やませや気候区分について講義する。
第6回	小気候 (海陸風、冷気 流、山谷風、局地風)	海岸や山岳、盆地の気候について説明する。
第7回	都市気候 (ヒートア 일랜드)	人為による都市の気候の変化について解説する。

第8回	微気候 (洞窟の気候)	極小規模の気候について説明する。また、観光鍾乳洞の保護について解説し、グループ討議を行う。
第9回	人為による気候の改 変 1 (酸性雨)	酸性雨の現状、及び世界と日本における影響について説明する。
第10回	人為による気候の改 変 2 (黄砂)	黄砂の成因、最新の研究及び日本における影響について解説する。
第11回	人為による気候の改 変 3 (オゾンホール)	オゾン層の役割について説明し、オゾンホール生成のメカニズムと今後の対策について検討する。
第12回	アラル海とイースタ 島	講義をまとめるにあたり、20世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状態と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、今後の環境問題を検討する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。全体を通じて「自然地理学（気候・気象）」（通信教育テキスト）を熟読しておくこと。また、授業内容に関して以下の論文を理解しておくことが必要である。受講者は以下の論文と提出用紙を事前に配布するので、授業の初日に提出すること。

- ・菅野洋光（1993）：青森県八戸におけるヤマセと海風の気温・湿度の差異とその季節変化. 天気40-10. 751-757.
  - ・足立アホロ（1997）：経済活動が都市温度に及ぼす影響—名古屋市を例として—. 天気44-9. 621-629.
  - ・漆原和子他（1999）：観光鍾乳洞における気候特性—福島県あぶくま洞を例として—. 季刊地理学51. 188-200.
- 更に、「オゾンホールの成因」についてのレポートを作成するので、授業の初日に説明し、授業の最終日（1/27）までに提出のこと。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを事前に配布する。

### 【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本. 佐藤典人著. インデックス・コミュニケーションズ
- ・新百万人の天気教室. 白木正規著. 成山堂書店

### 【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- 1、平常点：10%
  - ・出席及び授業中の質問、及びグループ討議での発言など
- 2、学習到達確認試験：30%（5%×6）
  - ・各テーマ終了後に実施
- 3、論文のまとめ：30%（10%×3）
  - ・上記の3論文のまとめ
- 4、レポート：30%
  - ・オゾンホールの成因

### 【学生の意見等からの気づき】

専門的な内容は分かりづらいという意見があったので、できるだけ理解しやすいように説明する。また、受講生からの要望により授業内容を変更することがある。

### 【学生が準備すべき機器他】

Zoomを使用して講義、及び学生への質問や学生同士の議論を行うので、音声と映像は支障がないように準備しておくこと。

### 【その他の重要事項】

資料、及び課題の配布・受取はLMSを使用する。学生の入室可能時間は、開始10分前～5分後まで入室可とする。入室、及び退室時はチャットで「学生証番号と名前」を入れること。これが出席の確認になる。講義資料は事前に配布するので授業前にプリントアウトしておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問をメールで受け付ける。メールアドレスは講義資料に記載するので、スクーリング前でも質問があれば受け付ける。なお、Zoomによる講義中は、授業や他の受講生の迷惑になる行為は行わないこと。

発行日：2024/5/29

講義では、気象庁での実務経験、及び南極での観測をもとに様々な気象現象や深刻化する地球環境の変化を分かり易く解説する。

**【Outline (in English)】**

**By understanding meteorological phenomena closely relating to our daily life, students will be able to approach the climate with temporal and spatial spread from various angles, and consider artificial climate modifications. Based on those skills, the goal is to discuss changes in the environment due to human activities with heavy considerations.**

BSP100TA (初年次教育、学部導入教育及びびリテラシー教育 / Basic study practice 100)
<b>基礎特講 (冬期スクーリング)</b>
<b>中田 和秀</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国で発生した新型コロナウイルス (COVID-19) は、今年に入って急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため感染予防に有効なワクチンはまだ開発されていません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会はCOVID-19から大きな影響を受けはじめています。したがって、今、ウイルスについて学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する最小単位である細胞がどのような活動をおこなっているかを学習します。次に、ウイルスがその細胞に侵入して増殖するメカニズムなどを学習します。ウイルスの性質や活動について化学的に理解することが本授業の目的です。

#### 【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は、オンラインでおこなわれます。まず、授業に使用するプリント教材 (学習メモ、スライド図、および、課題ファイル) を、通教LMSからダウンロードして印刷します。授業開始までに内容をよく読んでおいてください。講義は、Zoom (WEB会議システム) を利用したリアルタイム双方向型でおこないますので、授業開始時間になりましたら、指定されたアドレスをクリックしてZoom授業にアクセスしてください。Zoom授業終了後に質疑応答の時間を設けます。毎日のZoom授業終了後、課題をダウンロードした書式を使用して作成します。完成した課題は、翌日の講義開始時間までに、通教LMS内の「リポート提出」から、指示にしたがって命名された添付ファイルとして提出していただきます。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。また、我々の世界は、生物・無生物の区別無く物質でできており、物質の基本単位は、原子が結合した分子であることを理解する。
第2回	化学結合論	原子同士がどのようなルールに基づいて結合し物質の基本単位である分子となるのかを学習する。
第3回	分子の構造	種々の分子について、立体構造がどのように決まるかを学習する。
第4回	生体を構成する有機化合物	細胞の活動に重要な物質について紹介し、各分子がどのような構造を持っているかを学習する。
第5回	細胞の種類と構造	生命活動の舞台である細胞について構造を概観し、各器官がどのような働きをおこなうかを学習する。
第6回	細胞の増殖	細胞が、自身が持つ遺伝子を使用して、どのように増殖するかを学習する。
第7回	細菌とウイルス	細菌とウイルスについて、構造、種類、大きさなどを学習する。
第8回	ウイルスの活動 (1)	DNAウイルスの種類、構造、宿主の細胞内でどのように活動するかについて学習する。
第9回	ウイルスの活動 (2)	休眠ウイルスの種類、構造、宿主の細胞内でどのように活動するかについて学習する。
第10回	ウイルスの活動 (3)	レトロウイルスの種類、構造、宿主の細胞内でどのように活動するかについて学習する。

第11回	細菌による病気の発現と治療	細菌によってどのように病気が発現するのか、および、その病気をどのように治療するのかを学習する。
第12回	ウイルスによる病気の発現と治療	ウイルスによってどのように病気が発現するのか、および、その病気をどのように予防するのかを学習する。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

できるだけ早い段階で、プリント教材を通読してください。毎日のZoom授業終了後は、課題をダウンロードした書式を使用して作成します。完成した課題は、翌日の講義開始時間までに、指定されたメールアドレスに指示にしたがって命名された添付ファイルとして提出していただきます。また、授業内容の復習、各自の興味関心に基づいた発展的な読書をお勧めします。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

特にありません。

#### 【参考書】

必要に応じて授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

スクーリング期間中に毎日提出していただく課題により評価します。(100%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要な環境を準備していただく必要があります。Zoom授業で使用するマイク・カメラが装備され、ダウンロードしたPDFファイルを印刷できるプリンタに接続されたパソコンを用意し、授業中にWi-Fiでインターネットに常時接続できるように環境を整えておいてください。また、上記パソコンで以下のソフトウェア (1)~(4) が使用できるように準備しておいてください。

- (1) Zoom (Zoom授業で使用します。)
- (2) PDF ファイルリーダー (ダウンロードしたプリント教材を開くのに使用します。)
- (3) Microsoft Word (課題ファイルはWord形式であり、課題の作成に必要です。)
- (4) 通教LMS (プリント教材のダウンロードや完成させた課題ファイルの提出に使用します。)

#### 【その他の重要事項】

あらかじめダウンロードしたプリント教材などは印刷してご使用ください。これらダウンロードした教材などをインターネットで公開することは違法となりますので絶対におこなわないでください。Zoom授業へは、授業開始時間になりましたら接続してください。

#### 【Outline (in English)】

The new-type coronavirus (COVID-19) originated in China had rapidly spread worldwide this year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective vaccine has not yet been developed. This situation will continuously cause severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, students will learn the process of cell replication that is fundamental for living organisms, and then that of multiplication of viruses utilizing the replication mechanisms of the host cell. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of viruses from the viewpoint of chemistry.

MAT100TA (数学 / Mathematics 100)
<b>数学3 (冬期スクーリング)</b>
<b>倉田 俊彦</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

例えば、決められた予算で買い物をする時に「何から買おうか？」と考えるように、人は日常生活の中で何らかの計画を立てて行動することを頻繁に行います。その際に、できるだけ得をする計画を立てることは重要であり、その作業のことを最適化と呼びます。日常で最適化の作業を行う際には、多くの場合で「大体これくらいにする」とよいのでは？」と感覚頼りで済ませることが多いと思います。それでも「まずまずよい計画」は得られると思いますが、「本当にベストの計画が得られているのか？」確信を持つことはできません。これに対して、講義では、数学を使って「ベストの計画」を確実に発見する手法をいくつか紹介します。こうした手法の重要性は明らかですが、実際に、「路線の検索」や「人工知能のニューロン調整」など生活の様々な場面で無意識のうちに恩恵を受けていることも多く、日常と結びついた視点から数学を捉え直す機会をもつことも目的の一つとなっています。

#### 【到達目標】

最適化のための数学といっても、扱う問題の特徴によって多様な内容が存在します。そこで、講義では、あまり複雑にならない範囲で以下の典型パターンに限定して基礎から確認していきます：(1) 幾つかの組合せ論的な計画問題に対して、動的に最適化を実現する解法を実行できるようにします。(2) 1次式を上手に利用するだけで解決できる問題が沢山あります。これに対して、小規模な問題に対しては「グラフの形状を分析して答を導く方法」を実行できるようにし、大規模な問題に対しては「コンピュータを使って最適化を行うアルゴリズム」の概要を把握できるようにします。(3) 1次式以外の一般の式を必要とする最適化の問題に対して、「微分の基本的な計算を利用して答を導く方法」を実行できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法文学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で一方向的に説明するだけではなく、受講者が実際に手を動かして説明した内容を確認する部分もあります。(PC上でプログラムの動きを確認する内容もありますが、こちらで動作させる様子を眺めるだけで済ませるので特別な予備知識は必要ありません。) なお、資料等の配布は事前に通教LMSで行い、授業はZoomでのリアルタイム配信で進めます。状況を見ながら説明のスピード・難易度を調整するので、状況によってはスキップする内容が生じる可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	最適化の例(1)	決められた容量の袋に「財宝を上手に詰込む計画」を立てる。
第2回	最適化の例(2)	決められた予習時間で「試験で高得点を取る計画」を立てる。
第3回	最適化の例(3)	路線図を見て「最も安上がりで移動する経路計画」を立てる。
第4回	1次式と最適化(1)	1次式を使って「全関数に共通する取扱いの基礎」を復習する。

第5回	1次式と最適化(2)	1次式のグラフの形状から「工場の最適な生産計画」を立てる。
第6回	1次式と最適化(3)	シンプレックス法の計算実験を観察して、その重要性を確認する。
第7回	微分と最適化(1)	微分の計算の意味と基本的な使い方学ぶ。
第8回	微分と最適化(2)	四則演算と指数関数で作られる関数の微分の計算を覚える。
第9回	微分と最適化(3)	経済学の非線形最適化の問題に微分の計算を利用する。
第10回	人工知能と最適化(1)	多変数関数の微分をAIの最適化に応用する手法を解説する。
第11回	人工知能と最適化(2)	PC上でAIの最適化の手順を観察して、その性能を確認する。
第12回	試験	授業内で扱った数学の基礎を確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提出用の練習問題や期末試験の準備用の問題について、授業時間外の予習・復習で取り組む必要があります。本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配付します。

#### 【参考書】

特に指定はありません。有用な情報があったときは授業内で紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%) 第1～3回の内容に関する練習問題 (40%) 第4～10回の内容に関する試験 (50%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

新規担当の科目につき過去にアンケートを実施していません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

一般的なオンライン授業の受講に必要な機器があることを仮定しています。マイク・カメラは必要ありません。(オフィスアワーで質問をしたい場合はマイクが必要になります。)

#### 【その他の重要事項】

資料配布や課題提出は通教LMSを経由して行います。オフィスアワーは授業後の時間もZoom配信を継続して対応します。

#### 【Outline (in English)】

An elementary introduction to the theory of mathematical optimization is given in accordance with the topics below: (1) The method of dynamic programming is demonstrated to solve a number of typical combinatorial problems. (2) The problems of linear optimization are focused on, to which we first apply a naive algorithm based on a geometric approach. We then compare it with more sophisticated algorithms of the simplex method and the inner method. (3) The problems of non-linear optimization are treated mainly in the context of economics and machine learning, for which we begin by giving a brief review of the basic knowledge of differential calculus.

CHM100TA (その他の化学 / Chemistry 100)
<b>化学3 (講義) (冬期スクーリング)</b>
<b>向井 知大</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、現在の我々の生活を支えているエネルギーについて紹介していきます。エネルギーを題材にして身の回りの現象について理解を深めることを目的としています。

#### 【到達目標】

エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標にしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義はZoom(Web会議システム)を利用して進めていきます。講義で使用される資料は各自でダウンロードできるよう、法政大学のサイト(通教LMS)にアップロードしておきます。高校などにおける自然科学系科目(理系科目)の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第2回	エネルギーの基礎	エネルギーの定義やエネルギー変換についての概説
第3回	原子の構造	原子を構成する成分とそれらの性質について
第4回	電子と電気	電磁誘導と発電機の仕組みについて
第5回	放射性同位体	原子核の壊変について
第6回	原子力発電	核分裂連鎖反応について
第7回	原子爆弾と核融合	ウラン濃縮や臨界量について
第8回	電磁波のエネルギー	電磁波の性質と光量子仮説について
第9回	化学結合のエネルギー	原子どうしが結合するしくみについて
第10回	有機化合物	炭素原子を含む化学物質の構造
第11回	元素の循環	地球上での炭素、窒素原子の循環について
第12回	まとめ	全体のまとめと課題について

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やWeb検索などで調査してみてください。準備・復習時間は講義及び演習(2単位)では1回につき4時間以上とします。

#### 【テキスト (教科書)】

使用しません。講義で使用する資料を通教LMSからダウンロードしてもらいます。

#### 【参考書】

使用しません。

#### 【成績評価の方法と基準】

各授業ごとに出题される正誤問題を平常点(配分40%)とし、最終回で出题される課題(配分60%)と併せて成績評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

初めてこの講義を担当しますが、これまでの理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるよう努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なため、PCやタブレットなどの機器、インターネットに常時接続できる環境を整えておいてください。ソフトウェアは、講義で使用するZoom、資料の表示のためにpdfファイルリーダーが必要です。質問はチャットでもおこなえるため、マイク、カメラは必ずしも必要ではありません。

#### 【その他の重要事項】

授業資料の配布、課題の回収は法政大学の学習管理システム(通教LMS)を使用します。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces fundamental principles of familiar natural phenomena. The aim of the course is to improve students' science literacy.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (1) (冬期スクーリング)</b>
ウォルター・カズマー
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn how to discuss related news topics.  
 Students will write about said topics as well as learn to analyze cause and effect relationships.

#### 【到達目標】

Students will learn how to discuss news topics.  
 Students will then write about said topics.  
 Students will also learn how to analyze the topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」  
 「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」  
 「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Students will watch videos, read short news articles, and break  
 down vocabulary and practice related sentences. Students will  
 use Zoom for live sessions followed by self study.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
 なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	Exploring current news
	Overview of news items	talking about how to analyze using objectives
第2回	Breaking technology	AI Data searching Synthetic media brain machine interfaces underground cities
第3回	Youth trends	Tattoos piercings dating apps
第4回	Elderly trends	dying in peace elderly jobs managing loneliness
第5回	Modern education learning online	live classes recorded live classes uploaded material
第6回	Learning digitally	websites AI conversations simulations
第7回	Viral outbreaks	Coping strategies failures successes
第8回	Modern commuting	water bikes electric mopeds travelators
第9回	Traveling information	blogs websites vloggers guidebooks
第10回	Eco issues	recycling alternative energy alternative living

第11回	Speech/report deadline	Corporate fraud Corporate errors
	Corporate activities	Corporate recoveries
第12回	Breaking it all down	analyzing class trends

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please review class handouts and complete related exercises.  
 Review added material in WEB GAKUSYU Service.  
 Zoom sessions will run 9:00-10:00 and 11:00-12:00 each day  
 January 21-27 (no class on January 24 Sunday)  
 Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

Topic: English S (1) Winter Schooling  
 Time: Jan 21, 2021 09:00 AM Osaka, Sapporo, Tokyo

Jan 21, 2021 09:00 AM

Jan 21, 2021 11:00 AM

Jan 22, 2021 09:00 AM

Jan 22, 2021 11:00 AM

Jan 23, 2021 09:00 AM

Jan 23, 2021 11:00 AM

Jan 25, 2021 09:00 AM

Jan 25, 2021 11:00 AM

Jan 26, 2021 09:00 AM

Jan 26, 2021 11:00 AM

Jan 27, 2021 09:00 AM

Jan 27, 2021 11:00 AM

Zoom requires an Internet connection. A camera is not  
 necessary for Zoom sessions unless the student plans to  
 present/speak live for the final speech/presentation (report). A  
 camera could be useful if a student wants to share something  
 on his/her screen during breakout room activities or a Zoom  
 session. A microphone also is not required for Zoom (or if the  
 student is in a public place during the Zoom session), as texting  
 via chat can be substituted instead.

Other class material will be under this playlist link:

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLpQrcVImDbvfeIyRy6638pUTCZN9DD6WD>

#### 【テキスト（教科書）】

No textbook is required.

#### 【参考書】

English/Japanese dictionary  
 Google translate app

#### 【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%  
 Homework 40%  
 Report/speech 40%

#### 【学生の意見等からの気づき】

More bilingual text will be providedN/.  
 Text scripts for videos will be provided.

#### 【学生が準備すべき機器他】

Smartphone/tablet

#### 【その他の重要事項】

Contact [kasmersensei@gmail.com](mailto:kasmersensei@gmail.com)  
 for homework and report/video presentation

#### 【Outline (in English)】

Students will look at current new topics and relate them to  
 events in their own lives.

Zoom sessions will run 9:00-10:00 and 11:00-12:00 each day  
 January 21-27 (no class on January 24 Sunday)

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

Topic: English S (1) Winter Schooling

Time: Jan 21, 2021 09:00 AM Osaka, Sapporo, Tokyo

Jan 21, 2021 09:00 AM

Jan 21, 2021 11:00 AM

Jan 22, 2021 09:00 AM

Jan 22, 2021 11:00 AM

Jan 23, 2021 09:00 AM

Jan 23, 2021 11:00 AM

Jan 25, 2021 09:00 AM

Jan 25, 2021 11:00 AM

Jan 26, 2021 09:00 AM

Jan 26, 2021 11:00 AM

Jan 27, 2021 09:00 AM

Jan 27, 2021 11:00 AM

Zoom requires an Internet connection. A camera is not necessary for Zoom sessions unless the student plans to present/speak live for the final speech/presentation (report). A camera could be useful if a student wants to share something on his/her screen during breakout room activities or a Zoom session. A microphone also is not required for Zoom (or if the student is in a public place during the Zoom session), as texting via chat can be substituted instead.

Videos for class material are at playlist

[https://www.youtube.com/playlist?list=](https://www.youtube.com/playlist?list=PLpQrcVlmDbvfeIyRy6638pUTCZN9DD6WD)

[PLpQrcVlmDbvfeIyRy6638pUTCZN9DD6WD](https://www.youtube.com/playlist?list=PLpQrcVlmDbvfeIyRy6638pUTCZN9DD6WD)

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語 S (2) (冬期スクーリング)</b>
戸嶋 まゆみ
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。

### 【到達目標】

21世紀に生きる上でおさえておきたいグローバルな知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、文章の全体的な流れを把握し、要約を英文と日本語文で表現できるように学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について日本語と英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります(テキストには、英語の本文と日本語文が書かれています)また、自分の意見を英語で述べる練習もします。具体的には、予習としてテキストを読み、Zoomを使用して、発音練習を行い、要約や話の流れのつかみ方などを学びます。その後、テキストを見直し、様々な質問に答えることで内容を確認していき、課題を行うことで英語を使用する基礎能力をつけていきます。全回をZoom授業(ライブ配信)で行います。

課題提出には通教LMSを使用する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1講	ガイダンス	授業に関するガイダンス (Zoomを使用した双方向性授業)
第2講	ForwardからThe Homebrew Computer Clubまでを読む	内容把握と要約(課題1) (Zoomを使用した双方向性授業)
第3講	Setting up AppleからThe launch of the Macintoshまでを読む	内容把握と要約(課題2)(Zoomを使用した双方向性授業)
第4講	第2講と第3講の課題の内容確認	ForwardからThe Homebrew Computer Clubについて (Zoomを使用した双方向性授業)
第5講	What's NeXT?からFalling Apple, rising Microsoftまでを読む	内容把握と要約(課題3)(Zoomを使用した双方向性授業)
第6講	第5講の課題の内容確認	What's NeXT?からFalling Apple, rising Microsoftについて (Zoomを使用した双方向性授業)

第7講	Jobs is backからThe birth of the iPodまでを読む	内容の理解、要約、意見のまとめ(課題4)(Zoomを使用した双方向性授業)
第8講	第7講の課題の内容確認	Jobs is backからThe birth of the iPodについて (Zoomを使用した双方向性授業)
第9講	The iTunes StoreからA great man is goneまでを読む	内容の理解、要約、意見のまとめ(課題5) (Zoomを使用した双方向性授業)
第10講	テキスト全体の復習	内容の理解、要約、意見のまとめ (Zoomを使用した双方向性授業)
第11講	課題の英語でのまとめ	課題の英語でのまとめ (Zoomを使用した双方向性授業)
第12講	課題全体のまとめ	課題全体のまとめ (Zoomを使用した双方向性授業)

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。予習のための時間が必要です。具体的には、テキストを読んで、内容を日本語と英語でまとめておくこと、意見などをプレゼンテーションできるようにまとめておく時間が必要です。今回は、全講義がZoomでのライブ配信となります。双方向性の授業なので、ライブで意見を言うことが必要なため、準備の時間が必要です。

### 【テキスト（教科書）】

英語で読むスティーブ・ジョブズ トム・クリスティアン著 IBCパブリッシング株式会社 2012年 ISBN 978-4-7946-0151-3

### 【参考書】

授業時に指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

Zoom授業での発言(50%)、課題(50%)となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

双方向性のZoomのライブ授業は楽しいが準備が大変だったという意見があります。しかし、必ず人生において役に立ちます。一人一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張っていたいただきたいと思います。

### 【学生が準備すべき機器他】

全講義がZoomを利用した双方向性のライブ配信となります。カメラは任意ですが、発言をしていただくため、マイクが必ず必要です。毎回、テキスト、ノート、辞書類を準備し、範囲を予習して参加して下さい。

### 【その他の重要事項】

全講義がZoomを使用した双方向性のライブ配信となりますので、Wi-Fiの状態にご注意下さい。スマートフォンでも試聴できますが、あらかじめZoomのアプリケーションをインストールする必要があります。Zoom授業には、開始5分前から入室でき、授業後に質問することもできます。なお、課題の提出等に通教LMSを使用する予定です。

### 【Outline (in English)】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all of my class students to get used to joining in group working activities.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語 S (3) (冬期スクーリング)</b>
Richard.J.Burrows
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulating audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

**【到達目標】**

During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual material, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up readings with vocabulary preparation & comprehension questions will enable students to improve their vocabulary knowledge & reading fluency.

Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

The previous lesson's reading assignment will be reviewed before a preview will introduce the theme for that lesson. Any required vocabulary will be previewed before students view/listen to the material.

Comprehension questions will allow students to check their own understanding, while a post-viewing review will offer more chances to analyze the material. Thematically linked readings will be introduced & set as the following lesson's homework assignment

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Explanation, listening & speaking	Course overview & student introductions
第2回	Listening & reading	An Introduction to Britain
第3回	Listening	London
第4回	Listening & reading	Heathrow Airport
第5回	Listening & reading	William Shakespeare
第6回	Listening	Sherlock Holmes
第7回	Listening & reading	Wales
第8回	Listening	The Mini
第9回	Writing	Comparison & Contrast Writing
第10回	Listening & reading	British Public Schools
第11回	Listening	The London Taxi

第12回 Listening & writing Seven Wonders of Britain & Course Review

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Regular reading assignments with comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation. Repeated absences will not be permitted. Preparatory study and review time for this class are about 1 hour for the audio-visual assignments & 2 hours for the reading homework.

**【テキスト（教科書）】**

None

**【参考書】**

An electronic or smartphone English dictionary will be required throughout the course

**【成績評価の方法と基準】**

Audio-visual assignments 30%

Reading homework 30%

Comparison & Contrast Report 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

A more comprehensive vocabulary preview will be provided for students having difficulty with audio-visual comprehension.

**【学生が準備すべき機器他】**

Access to a PC & Printer, with a reliable internet connection in order to download assignments, view the audio-visual material & print the final report

**【その他の重要事項】**

Since this is a short, intensive class, homework will be expected on a daily basis and students should be prepared to work hard during the duration of the course.

**【Outline (in English)】**

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulating audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語 S (4) (冬期スクーリング)</b>
大曲 陽子
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ2020年版を教材として、経済不況や震災といった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

#### 【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、学生は、リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

今回のスクーリングはオンラインでの開講となる。授業は、原則として授業支援システムLMSを使用しますが、スクーリング期間中毎日、1限目のみ9:00から40分間zoomを使ってリアルタイム授業をいたします。受講生のマイク、カメラの使用は自由選択とする。私の声が聞こえるようにしてください。

このzoomによる授業への参加は必須ではなく任意で、自由参加とするので、出席は取らない。

具体的な方法は以下の通りとします。

テキストは Unit 1,3,5,8,10,11 の6つのunitを、6日間で学習する。各Unitごとにテキストに合わせた解答を記入できるようにAnswer Sheet を通教LMSを通して配布する。Definition は答えと単語の意味、Examples は空欄に答えを入れる、Blanks to Fill in というニューススクリプトのリスニング問題は自分で音声聞いて答えを記入するというSheetになっているので、完成させて通教LMSを通して提出する。各Unitの最後についているJudgments to make という、内容のTrue or False問題については評価対象とする。これにもAnswer Sheet を配布するので、TFの答えと、各文の和訳を書いて提出する。締め切りはどちらも各Unit 授業当日の19:00 までとする。採点については成績評価参照。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Unit 1 Cool, Calm and Heroic	始めの40分 zoomを使って予定の解説 Definition Examples script を完成させる
第2回	Unit 1 Cool, Calm and Heroic	内容理解とTF問題 Unit 1 Answer Sheet を1/28(木)19:00までに提出
第3回	Unit 3 Food Healthy for the Planet	始めの40分 zoomを使って前日の解説と質問受け付け Definition Examples script を完成させる

第4回	Unit 3 Food Healthy for the Planet	内容理解とTF問題 Unit 3 Answer Sheet を1/29(金)19:00までに提出
第5回	Unit 5 Starting Somewhere	始めの40分 zoomを使って前日の解説と質問受け付け Definition Examples script を完成させる。
第6回	Unit 5 Starting Somewhere	内容理解とTF問題 Unit 5 Answer Sheet を1/30(土)19:00までに提出
第7回	Unit 8 Deeply Disturbing	始めの40分 zoomを使って前日の解説と質問受け付け Definition Examples script を完成させる。
第8回	Unit 8 Deeply Disturbing	内容理解とTF問題 Unit 8 Answer Sheet を2/1(月)19:00までに提出
第9回	Unit 10 Playing a Better Role	始めの40分 zoomを使って前日の解説と質問受け付け Definition Examples script を完成させる。
第10回	Unit 10 Playing a Better Role	内容理解とTF問題 Unit 10 Answer Sheet を2/2(火)19:00までに提出
第11回	Unit 11 Breaking the Connection	始めの40分 zoomを使って前日の解説と質問受け付け Definition Examples script を完成させる。
第12回	Unit 11 Breaking the Connection	内容理解とTF問題 Unit 11 Answer Sheet を2/3(水)19:00までに提出

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声聞いてテキストのスクリプトを完成させますが、正解である必要はありません。人に見せたり、採点したりはしませんので、自分が聞いた通りを書いてみてください。必ず全て空欄を埋めて完成させてから提出すること。

テキストを早めに購入し、音声ダウンロードをしてください。本授業の準備・復習学習は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース(21)  
朝日出版 1900円 + 税

#### 【参考書】

特になし。  
辞書必携

#### 【成績評価の方法と基準】

今回はオンライン授業ということで、毎回提出するテキストのJudgments to make のTF問題を採点する。

一つのunitで8問あるので、TかFの記号2点、和訳3点 1問合計5点×8問=40点満点

授業6回分なので40点×6回=240点を100点に換算して最終評価とします。

Answer Sheet が全て記入されていることと、必ず毎回期日通り（授業当日19:00まで）の提出が条件です。zoomへの参加は必須条件ではありません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

配布物をサイズをそろえて見やすくしています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

テキストに音声ダウンロードできるURLまたはQRコードが付いていますので、PCやスマホでダウンロードして聞いてください。zoomを使用しますが、受講生のマイク、カメラは必須ではありません。

#### 【その他の重要事項】

授業を行うオンラインシステムは、授業支援システムLMSおよびzoomを使用する。

マイクやカメラの準備は必須ではありません。

zoom 授業（一コマ目の最初の40分）は参加は任意で自由参加とし、出席は取りません。

解答欄は全て解答を記入し完成された（空欄がない）ものだけ受け付けます。語彙はきちんと調べて意味を把握し、リスニングは自分だけの確認ですので、もしわからなくても全て記入すること。

担当教員連絡先

担当教員への質問は全て通教LMSを通して受け付けます。

テキストの全訳と解答は、そのunitが終了したのちに改めて配布するので、プリントアウトして準備する必要はない。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語 S (5) (冬期スクーリング)</b>
<b>吉江 秀和</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト『わかって使える英語文法—英文構造の理解から発信へ—』を使用し、さまざまな英語表現を用いながら英文の構造を学びます。その際に文構造や文法事項を意識しながら、テキストにある表現をただ暗記するのではなく、更に表現の幅を広げるための理解度を高めていきます。また、テキストには音源がついていますが、時間の許す限り授業中にも音読をおこないます。

#### 【到達目標】

- ①テキストで用いられている表現の文構造や文法要素を理解する。
- ②テキストで用いられている表現の意味を理解し、音源を聞き取り、発音できるようにする。
- ③その表現を基にして類似する文を作り、話すことができる。
- ④日常生活において英語を使用する機会があった場合に備えて、基本的な表現を使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Zoomを使ったオンライン授業でおこなう予定です。その際には以下の方針で授業を進める予定です。

・事前にテキストにある問題を課題として解いてもらい、授業前に解いたものをLMS(ラーニングマネジメントシステム)を使って提出してもらうことを予定しています（変更がありましたら速やかにシラバス上でお伝えします）。

・課題提出後、テキスト内容の説明を学生に授業前にLMSにアップする予定です。

・それをもとにしてZoomを使ったオンライン授業で補足説明をおこないます。

・最終日には、今までの授業内容に基づく確認テストをおこない、それをLMSに提出してもらう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業説明 Unit 1	授業の進め方の確認。 テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第2回	Unit 2	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第3回	Unit 3	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第4回	Unit 4の続き Unit 5	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第5回	Unit 6 Unit 7	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第6回	Unit 7の続き Unit 8	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第7回	Unit 9 Unit 10	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第8回	Unit 10の続き Unit 11	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。

第9回	Unit 12 Unit 13	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第10回	Unit 13の続き Unit 14	テキストで扱われた表現や文法事項を中心に学んでいきます。
第11回	Unit 1～Unit14の復習	テキストで扱われた表現や文法事項を復習します。
第12回	確認テスト	今までの内容の確認テストをおこないます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの内容を事前に確認し、課題（テキストやオンライン授業の説明を参考にした文構造の把握や問題を解くこと）として提出してもらいます。授業後の復習を積極的にもおこなってもらいます。また、テキストの英文の音読も積極的にもおこなってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『わかって使える英語構文—英文構造の理解から発信へ— Understanding and Using English Syntax』羽井佐昭彦、ギャリー・ボーク著、朝日出版社、2020年、1700円+税

#### 【参考書】

なし。ただし、テキストには様々な文法用語が含まれているため、理解を高めるために必要であれば予習や復習で使用するための文法書（どれでもかまいません）を持っておくことをお勧めします。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題・平常点（70%）、確認テスト（30%）  
課題は各Unitに置かれた問題となります。課題の提出状況と取り組み方で平常点の主要部分の評価をおこないます。したがって、課題が未提出の場合には課題・平常点が下がります。また、オンライン授業中に発問することもありますので、そこでの受け答えも評価に加味します。

確認テストは課題やオンライン授業内で説明したものの類題とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様に丁寧な説明を心がけます。  
時間に余裕があれば、テキスト以外の文法問題も解いてみたいという声もありましたので、状況に合わせて追加の問題を扱う場合があります。  
テキストにある英文の音読も可能な限りおこなっていきます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Zoomを使ってオンライン授業をおこなう予定ですので映像を視聴するための機器として、また提出課題の作成のための機器として、必ずパソコンを準備してください。

課題をパソコンを使って作成するのではなく、手書きでおこなう場合には、課題を印刷するためのプリンターが必要となります。またその場合には、LMSやメールで提出するためにPDF化したり写真に撮ったりする必要がありますので、それができる機器の準備をしてください。

こちらからの発問に答えてもらうため、マイクの準備をお願いします（パソコン、スマートフォン内蔵のもので可）。

また、学生同士で会話の練習をしてもらう可能性があるためカメラがあるとよいと思います（必須ではありません）。  
英語辞書は必ず準備してください。

#### 【その他の重要事項】

この授業はZoomを使ったオンライン授業を予定しています。  
課題はLMS上にアップする予定です（変更がありましたら速やかにシラバス上でお伝えします）。LMSで課題退下が難しい場合にはメールでの提出をお願いする予定です。

この授業では基礎的なレベルの英語を学びます。したがって、もう一度英語を学び直し、英語力を高めたい学生を念頭に置いた授業をおこなう予定です。授業中には英語を声に出してもらったり、問題や質問に答えてもらったりします。予習も含めて積極的な態度で授業参加をお願いします。

#### 【Outline (in English)】

On this course, you will learn English grammatical rules and English sentence structures. You will also practice in pronunciation by reading the sentences in the textbook "Understanding and Using English Syntax." You will be shown and compose some similar sentences during class. The course is offered at elementary level.

LANe200TB (英語 / English language education 200)
<b>総合外国語特講 (英語) (冬期スクーリング)</b>
Robert Durham
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is an Online class, to assist you to learn to:

- speak more in smooth, modern English;
- to listen to (and understand better) English audio & videos;
- to understand better English News articles that you read;
- to write fuller English replies (with better English grammar) to questions/e-mail; and
- to use better 'EQ', when having conversations with English speakers.

### 【到達目標】

The goal of this Online class is to encourage you, the student, to speak (and write) a LOT more in English, about a wider variety of International topics, using better 'EQ' and International Manners. The teacher hopes that you will be able to more smoothly communicate with foreign colleagues & friends, in International settings.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Students and teacher will communicate Online, in English, via audio and/or video 'chat'. (We'll endeavor to use Zoom; however if there are any audio/video problems, we might have to try other ways, such as kype, Google Meet, etc.)

Some students might not have fast-enough Wi-Fi speed. In such a case, we might need to use audio-only.

Please set up a NEW (free) gmail address, with your name displayed in English. (For example, if you are Taro Abe, please try to set up a NEW address such as 'taroabe0831@gmail.com'. Also, make sure that your name DISPLAYS to recipients as 'Taro Abe'.

As soon as you have set up a new gmail address: please e-mail your teacher in English, at tonydur2020@gmail.com a few days before classes start. He will try to send you class information & advice about your home PC/Mac/Wi-Fi/Mic/Camera/Zoom/Google Classroom setup.

My hope is to easily connect students & teacher via FREE 'Google Classroom'. You DON'T need any special password; however PLEASE use a NEW gmail address. We can use Google Classroom to exchange homework assignments/ audio clips/ videoclips/ brief messages, etc.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	INTRODUCING YOURSELF to new people, in smooth English, at a get-together.	Expressions, actions, & 'EQ' necessary for meeting new people at a social gathering. [Examples: how to greet people; 'hajimemashitte' in English; asking about workplace.]

第2回	Introductions, part 2. + Greeting friends/colleagues, smoothly, with modern 'EQ'.	Pair-practice of Introductions. + Greeting friends/colleagues. (Examples: "How's it going?"/"How are you?"...and smooth, 'EQ' ways to reply, in modern English.)
第3回	"How goes it?", part 2. + Asking about Past events.	Practice with asking & answering "How are you?" + "How was _____?" (For example: How to ask & answer, when people ask you "How was your weekend?")
第4回	"How was _____?", part 2. + watching and learning English from a News video/TED Talk.	Practice with asking & answering "How was _____?" + Writing answers to questions about a News/Ted Talk video (in full, complete sentences)(using better grammar).
第5回	Discussing the News/TED video, in English. + Asking & replying about HOBBIES.	Discussion of homework answers, re: video. + "What are your hobbies?" (How to answer with better 'EQ' and Cultural Awareness.)
第6回	Hobbies, in English, part 2. + Asking about PREFERENCES.	Pair-practice of hobbies, with proper EQ and explanation. + "What kind of _____ do you like?" (Examples: What kind of [food/music/TV shows/ etc.] do you like?")
第7回	Preferences, part 2. + TRAIN DIRECTIONS	Pair-practice of, for example, "What kind of music/movies/food/books do you like?" + How to ASK/ANSWER about 'HOW CAN I GET FROM * TO @, BY TRAIN/SUBWAY?'
第8回	SUBWAY/TRAIN DIRECTION, part 2. + Asking about FREQUENCY of actions.	Pair-practice, re: asking/telling Train Directions. + Asking/Answering about 'HOW OFTEN do you _____?' (Example: How often do you go to Ginza/ exercise/ eat sushi?)
第9回	FREQUENT ACTIONS, part 2. + ADVICE	Pair-practice: asking/answering, 'How often do you go shopping/ go to hot spring areas/etc.?' + How to ask for (& give) advice, in English.
第10回	ADVICE, part 2. + SINGULAR/PLURAL practice.	Pair-practice: asking/answering advice about work/ Cold cures/ dating/ etc. + Singular VS. PLURAL practice: 'Do you like cat/cats/chicken/chickens/etc.?'
第11回	Part 2 of PLURAL/SINGULAR. + ORIGINS (birthplace; place of residence; etc.)	Practice of Singular vs. Plural. (Examples: Do you like bat?) + 'Where were you born?'/ 'Where did you grow up?'/ 'Where do you live, now?'

第12回 Part 2 of ORIGINS. Pair-practice of  
+ Review of topics asking/answering questions  
we've about birthplace/hometown/  
studied/learned. place of residence.  
+ Final review of the topics  
studied during this class.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Please NOW set up FAST home Wi-Fi; your PC/Mac; your mic/camera; a new gmail address; etc.

Please start doing homework/assignments the same day. Please AVOID "ichiyazukke" (waiting until the last minute) for homework/assignments.

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

Please AVOID using 'Honyaku' (translation software). The results of 'Honyaku' translation are TERRIBLE. However, please learn to use free grammar-correction software (such as "Grammarly"). THAT software is NOT yet 'perfect'; however it is useful for helping students to check & revise their own English grammar problems.

**【テキスト（教科書）】**

A textbook MIGHT be assigned, depending on student levels and needs. However, most materials will be provided via textfile handout sheets (sent via e-mail) from the teacher.

**【参考書】**

.

**【成績評価の方法と基準】**

There will be REALTIME ASSESSMENT of students' spoken replies. In addition, homework answers will be assessed & graded.

TENTATIVELY, final grade will be based 45% on spoken replies during Online 'chats'; 25% on homework/assignment submissions; 15% on Class Attendance; and 15% on Class Participation/Motivation.

**【学生の意見等からの気づき】**

.

**【学生が準備すべき機器他】**

Please A.S.A.P. set up a FAST home Wi-Fi connection. (A smartphone, with only Au/Docomo/Softbank Net access, is NOT fast enough. Audio/video GLITCHES on 'slow' Net connections, will make Online communication difficult to hear.)

Please set up a newer PC or Mac computer. (Smartphones will not be enough, to receive/do homework assignments.) Also, please check if your PC/Mac MICROPHONE & CAMERA are operating/working OK. [Try doing a test Skype call to a relative/friend, using mic only...and then using mic AND camera. Does it work smoothly?]

Please set up a NEW (free) gmail address, with your name displayed in English. (For example, if you are Taro Abe, please try to set up a NEW address such as 'taroabe0831@gmail.com'. Also, make sure that your name DISPLAYS to recipients as 'Taro Abe'.

As soon as you have set up a new gmail address: please e-mail your teacher in English, at tonydur2020@gmail.com a few days before classes start. He will try to send you class information & advice about your home PC/Mac/Wi-Fi/Mic/Camera/Zoom/Google Classroom setup.

Please buy/borrow a Japanese < —> English dictionary (paper type or electronic type). REAL dictionaries are often BETTER than Smartphone-based Online dictionaries.

**【その他の重要事項】**

Please A.S.A.P. set up a FAST home Wi-Fi connection. (A smartphone, with only Au/Docomo/Softbank Net access, is NOT fast enough. Audio/video GLITCHES on 'slow' Net connections, will make Online communication difficult to hear.)

Please set up a newer PC or Mac computer. (Smartphones will not be enough, to receive/do homework assignments.) Also, please check if your PC/Mac MICROPHONE & CAMERA are operating/working OK. [Try doing a test Skype call to a relative/friend, using mic only...and then using mic AND camera. Does it work smoothly?]

Please set up a NEW (free) gmail address, with your name displayed in English. (For example, if you are Taro Abe, please try to set up a NEW address such as 'taroabe0831@gmail.com'. Also, make sure that your name DISPLAYS to recipients as 'Taro Abe'.

As soon as you have set up a new gmail address: please e-mail your teacher in English, at tonydur2020@gmail.com a few days before classes start. He will try to send you class information & advice about your home PC/Mac/Wi-Fi/Mic/Camera/Zoom/Google Classroom setup.

We can't meet IN PERSON, so your teacher hopes that you will learn to use free grammar-checking software (such as 'Grammarly') to check & revise your own English grammar mistakes.

**【Outline (in English)】**

We will learn, Online, about a variety of English CONVERSATION topics...and how to answer and explain/elaborate, with proper 'EQ' [Emotional Intelligence] and Manners. (Long answers are much better than shorter answers).

In addition, students will watch some English language News video (or TED Talk videos) at home. Students will then answer questions about those videos, in English.

Also, some English articles (about Health/News/Life) will be read, at home. Students will be asked to write full-sentence English sentence answers to questions about the articles.

The grammar, style, and content of written student answers will be discussed/corrected, in our Online 'chats'.

LANf100TA (フランス語 / French language education 100)
<b>仏語S (冬期スクーリング)</b>
<b>瀬戸 和子</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基礎文法（初級）を学び、読み・書き・聞く・話すの総合的な語学力を養う。

#### 【到達目標】

英語とは異なる、フランス語の文字の読み方と文法体系の基礎をマスターする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

フランス語初級文法を学び、確認の練習問題をやり、テキスト本文を訳す。また旅行会話に使う簡単な会話ができるよう練習する。ZoomおよびLMSを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	アルファベと発音・文字の読み方	英語との相違と共通点
第2回	簡単な挨拶表現	旅の基本表現と数字 名詞の性・数
第3回	1課 パリに親しむ、パリの名所	冠詞・人称代名詞・規則動詞
第4回	2課 ホテルのチェック・イン 何かを頼む表現	英語のbe動詞に当たるêtre動詞の活用と用法 所有・指示形容詞、国籍、その他の形容詞
第5回	3課 自分でホテルの部屋を取る 数字1～100	英語のhaveに当たるavoir動詞の活用と用法。 形容詞の続き can～に当たる表現
第6回	4課 道、場所を尋ねる表現	aller(英語のgo) 否定文・命令文
第7回	5課 天候表現 身体の不調を訴える表現	不規則動詞prendre, faire 部分冠詞と否定のde 定冠詞と冠詞の縮約
第8回	6課 オペラ座でバレーを見る	疑問詞を使った疑問文 時刻表現 「～したい」「～が欲しい」の表現
第9回	7課 ショップで服を買う	比較表現 目的語となる人称代名詞 いろの形容詞
第10回	8課 メトロに乗る	最上級 代名動詞 非人称表現
第11回	9課 レストランで注文 フランス料理の名前	もう一つの規則動詞 複合過去（1）
第12回	10課 パリ・ディズニーランドへ行く	複合過去（2） 近接未来・過去

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト本文の訳は、右ページ下の「単語ノート」次ページの「大切な表現」を参照して予習しておくこと。各自でノートに書いておく。また各課の「ことばのきまり」を自習して、となりのページの「練習」をテキストに書き込んでおく。解答を聞いてすぐなおせるように。会話を中心とした暗記課題には十分な時間をかけること。テキスト最初のページにあるQRコードから、必ず音声ダウンロードして、事前に何度もよく聞いておくこと。

なお、授業はZoomを中心に実施するので、PC、スマートフォンのマイク・カメラが必要です！

本授業の準備・復習学習は、合わせて1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

「街かどのフランス語一三訂版」 朝日出版社 2016 2000+税  
アマゾンなどで購入する場合、必ず三訂版を。旧版（といっても新版とあるがこれは古い！）を間違えて購入すると内容がかなり違って使えません。音声のQRコードもなく音声を聞くことが出来ません。

#### 【参考書】

特になし。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業中指示した課題（暗記や練習・訳、小テストなど）の成果（50%）および授業への参加度（予習しておかないと当てられた時答えられない）（50%）。小テスト実施の有無は現在検討中。

#### 【学生の意見等からの気づき】

なし

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業時間外の学習の欄にも書いたが、Zoom授業に参加するための必要機器、マイク・カメラ

#### 【その他の重要事項】

この授業の「授業計画」は、受講者のフランス語学習歴にばらつきがあることを考慮しています。フランス語全く初めての場合は12回の授業で5課位までが目安です。しかしテキストの文法項目は最初級の内容なので10課迄進んでも、半期分の授業範囲です。ただし、受講生の反応をみて、5～6課がベターと判断すれば、上の「授業計画」の半分のペースでゆっくり進めていきます。

既にフランス語を学んだことのある人にとっては復習の内容ですが、その場合は会話表現を重点的に学べるよう配慮します。

Zoomの接続時間は毎回100分の授業時間のうち1時間以内をメドに終了して、残りの時間は暗記を含む課題学習の自習時間にする予定です。

そして「授業時間外の学習」ところでも書きましたが、授業の前後には必ずテキストのQRコードから音声をダウンロードして、フランス語の音声をよく聞くようにしてください。

課題提出等にLMSを利用する予定です。

#### 【Outline (in English)】

This French class aims at teaching students beginners grammar, and cultivating their comprehensive language ability in areas including reading, writing, listening and speaking.

LANd100TA (ドイツ語 / German language education 100)
<b>独語S (冬期スクーリング)</b>
三ツ石 祐子
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業はドイツ語を初めて学習する学生のための授業です。授業では、ペアワークやグループワークなどでちょっとした会話を練習し、ドイツ語文法の基礎の基礎を身につけることを目標とします。また、ドイツ語やドイツ語圏の文化に対する興味や理解を深めてもらうために、PowerPointや画像などを用いてその断片を紹介します。

#### 【到達目標】

この授業を履修することで以下のことが出来るようになります。

- 1) 発音ルールを覚え、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 挨拶ができる。
- 3) 基本的な文法事項を習得する。
- 4) 簡単な自己紹介ができる。
- 5) 自分でも簡単な文章（1週間の予定、簡単な日記など）が書ける。
- 6) 数字を使った表現（時間や値段を確認するなど）ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

この授業では基本的なドイツ語文法をしっかり身につけられるように、ペアワークやグループワークを行い、習ったドイツ語を実際に声に出して発音します。練習した表現を応用できるようにするためにも、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項は毎回必ず復習して覚えてください。LMS（ラーニングマネジメントシステム）を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	挨拶	アルファベート（発音と綴りの関係）
第2回	お名前は？	動詞の現在人称変化（1）、主語になる代名詞、平叙文と疑問文
第3回	これは時計です。	名詞の性と複数形、定冠詞と定冠詞類
第4回	これは時計ではありません。	不定冠詞と不定冠詞類、否定文
第5回	窓を開けてください。	動詞の現在人称変化（2）、命令形
第6回	お元気ですか？	人称代名詞の3格と4格、非人称のes、前置詞
第7回	ウィーンで音楽を勉強するのが夢です。	再帰動詞、(zu) 不定詞句、動詞の3基本形
第8回	昨日、何をしましたか？	過去形、現在完了形
第9回	ここで煙草を吸うのは禁止です。	話法の助動詞と未来形、分離動詞と非分離動詞
第10回	この教会は15世紀に建てられました。	従属接続詞と関係疑問文、関係代名詞と指示代名詞、受動態
第11回	日本一高い山は富士山です。	形容詞の格変化、形容詞の原級・比較級・最上級

第12回 もし3億円あったら 分詞、接続法

...

試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特に必要ありませんが、毎回の授業で学習した内容の復習は必須です。各回で学習したことを定着させるのには個人差があると思いますが、平均的に毎回1時間程度の復習を標準とします。また授業進度によっては、標準復習時間とは別に、練習問題や簡単な作文の宿題を課す場合もあります。

#### 【テキスト（教科書）】

『素朴なぞもんからわかるドイツ文法』高田博行著 郁文堂 2010年 ¥1800+税

#### 【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017年 ¥1700+税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005年 ¥1400+税

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加態度（グループワーク、ミニ・プレゼンテーション等含む）、宿題、発言など）50%+試験50%とし、60%以上が合格となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

前回の受講者の方からいただいた「自分で自習しやすい本が良い」というご意見を踏まえ、教科書を変えてみました。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Zoomを使用したリアルタイム授業なので、PC環境が整っていることが望ましいです。ご使用のPCにカメラやマイクが付いていない場合は、外付けのものをご準備ください。ヘッドセットは受講する際の環境に合わせ、各自で必要性を判断し、ご準備ください。課題などはWordで提出していただきます。

辞書は必ずしも必要ではありませんが、可能であれば用意していただきたいです（電子辞書でも構いません）。

#### 【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度など、状況により変更する可能性があります。

Zoomは授業開始時間5分前から「入室可能」な状態にします。LMS（ラーニングマネジメントシステム）を使用して資料等を配布します。配布された資料は、できるだけ事前にプリントアウトしてください。

オフィスアワーは、毎回の授業終了後、あるいはメールでも受け付けます。

#### 【Outline (in English)】

This course is for the students beginners of German. We will mainly do group or partner work. Students will have the chance to learn basic grammar of German and about facets of culture in German speaking countries.

HSS100TA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)
<b>スポーツ総合演習 (冬期スクーリング)</b>
<b>山田 快</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割に関する理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得、態度を講義および実習を経て育成する。

#### 【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について、様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な社会生活を確立する手段として、スポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④実社会において活躍する上で、極めて重要な他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮や問題解決などの能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキル獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は、1日2時限 (連続) を6日間にわたって実施する形式となっている。各種スポーツの実践と講義から内容が構成され、毎回の活動に対する参画状況や態度に加え、最終回に実施する試験等のできを総合的に勘案して評価を行う。

但し、本年度はコロナウイルス感染拡大に鑑み、オンライン (Zoom) によるリアルタイム配信を軸として、YouTubeなどによる動画配信を併用) にて開講する。その際、教材や資料の配信、課題の提示・回収などは、主に通教LMSを通じて行う。また、コロナウイルスの動向に関係する事案、受講者の特性や要望に伴う授業計画の変更については、適宜案内する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと導入	授業概要および評価方法の解説、出席に当たっての心得や諸注意を伝達する。
第2回	アイスブレイク	アクティビティを通して、人間関係 (受講者間の関係性) を構築する方法を学ぶ。
第3回	体力の概念	体力に関する基礎知識を学ぶ。
第4回	体力評価	体力テストを数種目実施し、体力に関わる現状と今後の課題を理解する。また、体力の保持・増進に資する取り組みについて考察する。
第5回	スポーツとこころの健康	スポーツ・運動がこころの健康に及ぼす影響について学ぶ。
第6回	ストレッチ	ストレッチに関する基礎知識を学び、実践する。
第7回	スポーツと経済	スポーツ・運動が経済に及ぼす影響について学ぶ。
第8回	エクササイズ (基礎)	自重を用いたエクササイズに関する基礎知識を学び、実践する。

第9回	身体活動を喚起する視点	スポーツ・運動をより良く実践する方法を学ぶ。
第10回	エクササイズ (応用)	より効果的な簡易エクササイズについてディスカッションし、実践する。
第11回	ステイホームを活用した身体活動	外出が困難ゆえに実践することのできる身体活動についてディスカッションし、プログラムを考案する。
第12回	筆記試験	授業の総括を行う。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講や実習に当たっては、心身の不備がないよう、各自体調を整えて臨むこと。開講時間外に取り組むべき課題や次回授業に向けた準備等は、必要に応じて指示する。なお、本授業の準備・復習時間は各2時間以上を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

#### 【参考書】

必要に応じて紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ①授業内の活動に対する参画姿勢・状況：60%
  - ②課題および筆記試験：40%
- 以上の項目 (観点) と配点に準じて、総合的に評価を行う。なお、本年度は必須要件としないものの、6日間の開講中、5日以上の出席があることを前提とする。  
※最終日 (試験日) は、前半授業のみを1日分として換算し、後半授業 (試験受験) は出席日数 (受験資格日数) に換算しない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

受講者がスポーツや運動の楽しさ、意義をより実感できるよう、授業内容の構成や種目の選定など、できる限り柔軟に対応していきたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義 (Zoom) によるリアルタイム配信) では、毎回資料を共有して提示するため、パソコンを用意し、通信環境が良好な場所から受講する。必要に応じて、カメラやイヤホンなども準備すること。また、事前の案内に従い、各自で配布資料を印刷して講義に臨む。

#### 【その他の重要事項】

原則として、Zoomによる講義中の途中入室・退室は認めない。止むを得ない場合は、必ず事前に相談すること。

ZoomやYouTubeなどの各種情報は、通教LMSを基本として提示する。また念のため、メールを通じて周知することも予定していることから、添付ファイルといった一定の容量を受信でき、即時に内容を確認できるメールアドレスを用意する。オフィスアワーについては、授業前後の時間帯とするが、メールにて随時質問などを受け付ける。

#### 【Outline (in English)】

This course is aimed to understand the significance and effect of physical activity. Therefore, students who take this course can experience and learn the various importance of physical activity, such as physical, mental, or social roles.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法学特講 (冬期スクーリング)</b>
<b>笹久保 徹</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業は商法総則を解説するものである。商法総則は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目(会社法等)を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

**【到達目標】**

- ・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
- ・商法総則の条文から制度を説明できるようにする。
- ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、Zoomを利用したリアルタイム配信となる。

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであるから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。質問は、通常の教室での講義と同様に、講義終了後にZoom上で受け付ける。

配付資料はPDF形式である。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、 商法の意義と法源(1)	ガイダンス及び商法の意義について解説する。
第2回	商法の意義と法源(2)	商法の法源について解説する。
第3回	商人と商行為(1)	商人について解説する。
第4回	商人と商行為(2)	商行為について解説する。
第5回	商号(1)	商号の概要について解説する。
第6回	商号(2)	商号の譲渡等について解説する。
第7回	商業登記	商業登記について解説する。
第8回	商業使用人	支配人等について解説する。
第9回	代理商	代理商について解説する。
第10回	営業(1)	営業の概要について解説する。
第11回	営業(2)	営業の譲渡等について解説する。
第12回	商業帳簿	商業帳簿について解説する。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

**【テキスト (教科書)】**

近藤光男『商法総則・商行為法〔第8版〕』(有斐閣法律学叢書)(有斐閣、2019) 本体価格2800円

**【参考書】**

神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」(別冊ジュリストNo.243)(有斐閣、2019年) 本体価格2500円

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、課題(レポート)の提出・評価により行う(レポート100%)。

**【学生の意見等からの気づき】**

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

Zoomの授業ルームに入室するための端末(パソコン、スマートフォン等)が必要になる。学生が使用する端末には、マイクおよびカメラが必ずしも付いている必要はない。ただし、授業終了後に教員に質問をしたい学生は、マイクを付けておく必要がある。

**【その他の重要事項】**

受講生は、最新の六法を用意すること。

本授業では、事前にレジュメ・資料を配布する(PDF形式)。これらのレジュメ・資料をプリントアウトしてから授業を受けること。

**【Outline (in English)】**

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>行政法 (冬期スクーリング)</b>
<b>氏家 裕順</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

国・都道府県などの行政は、われわれ私人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、実質的な立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政法という科目において学習することは多岐にわたる (西田幸介『行政法』[法政大学通信教育部、2016年]、あるいは、通信学習「行政法」シラバスを参照のこと) が、冬期スクーリングでは、行政による規範制定、行政計画、行政行為、即時強制、行政調査、行政指導、行政上の制裁について学ぶ。

**【到達目標】**

法規命令と行政規則の意義と法的規制について説明することができる。

行政行為の意義と分類について説明することができる。

行政行為の成立と効力の発生について説明することができる。

行政行為の附款について説明することができる。

行政行為の職権取消しと撤回の意義・効果・制限法理について説明することができる。

即時強制の意義と法的統制について説明することができる。

行政調査の意義・分類と法的規制について説明することができる。

行政指導の意義・分類と法的規制について説明することができる。

各種の行政上の制裁の意義について説明することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テキストを精読するとともに、テキスト執筆者による解説動画を視聴することによって、学習する方式とする。解説動画は、各授業の当日のみ、配信する。授業で使用するのはテキストと解説動画であり、追加の資料は配布しない。

解説動画 URL の掲示、質問の提出とそれへの回答、課題の出題と受講者による提出など、授業は、LMS (ラーニングマネジメントシステム) により行う。LMS とは、受講者がインターネットを介して資料の閲覧・ダウンロード、お知らせの受信などを行うことができるオンラインシステムである。別のオンラインシステムを併用する場合 (これに伴い Google アカウント [無料] が必要となることがある [https://support.google.com/accounts/answer/27441?hl=ja])、LMS において連絡する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	行政による規範制定 (1)	意義と分類
第2回	行政による規範制定 (2)	法規命令と行政規則
第3回	行政による規範制定 (3)	法的規制
第4回	行政計画	意義と分類 法的規制
第5回	行政行為 (1)	意義と分類
第6回	行政行為 (2)	成立と効力発生
第7回	行政行為 (3)	附款

第8回	行政行為 (4)	職権取消しと撤回の意義・効果・制限法理
第9回	即時強制と行政調査	意義と分類 法的規制
第10回	行政指導 (1)	意義と分類
第11回	行政指導 (2)	法的規制
第12回	行政の実効性確保	行政上の制裁

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

少なくとも、準備学習には計30時間、復習には各2時間を要すると考えられる

**【テキスト (教科書)】**

西田幸介『行政作用法講義』(生協書籍部で販売、税込み1045円)

**【参考書】**

宇賀克也『行政法概説 I [第6版]』(有斐閣、2017年)  
 大橋洋一『行政法 I [第3版]』(有斐閣、2016年)  
 塩野宏『行政法 I [第6版]』(有斐閣、2016年)  
 芝池義一『行政法読本 [第4版]』(有斐閣、2016年)  
 芝池義一『行政法総論講義 [第4版補訂版]』(有斐閣、2006年)  
 曾和俊文・山田洋・亘理格『現代行政法入門 [第4版]』(法律文化社、2019年)  
 西田幸介『行政法』(法政大学通信教育部、2016年)  
 原田尚彦『行政法要論 [全訂第7版補訂2版]』(学陽書房、2012年)  
 藤田宙靖『行政法総論』(青林書院、2013年)  
 室井力編『現代行政法入門 (1) [補訂版]』(法律文化社、2005年)

**【成績評価の方法と基準】**

レポートによる (100%)。レポート課題は、最終授業日の翌日である2021年1月28日 (木) 0:00 に発表する。提出期限は同31日 (日) 23:59 とする。担当教員から LMS を通じて配布される様式 (word 形式) に直接記入して、LMS を利用して提出する。そのほか、記述字数などの留意点はレポートの出題時に知らせる。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

(1) LMS の利用及び解説動画の視聴のための通信環境、(2) レポート課題の閲覧・提出のために用いる Microsoft Word など、.doc、.docx の形式で保存できるワープロソフト、(3) 上記を利用するために必要となる PC、あるいは、スマートフォン等の準備

**【その他の重要事項】**

LMS を利用してされる質問の受付期間は、スクーリング開始日 (2021年1月21日 [木]) から最終日 (同27日 [水]) までとする。

**【Outline (in English)】**

In order to establish your best possible foundation for studying administrative law, this course is designed to learn the fundamentals of administrative law; mainly (1) to learn meanings and sorts of executive agencies' acts, such as orders, planning, and administrative guidance, (2) and to study requirements for ensuring these acts are lawful.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>憲法 (冬期スクーリング)</b>
<b>金子 匡良</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法を支える基本原理やその歴史的背景を理解するとともに、個別的な憲法条文に関する解釈や判例を学ぶことを通じて、憲法学的な視点と思考方法を身につけることを目的とする。

#### 【到達目標】

- ①憲法の機能や役割を理解する。
- ②憲法の存在意義や歴史、憲法の土台となっている基本原理、憲法の構造を理解する。
- ③憲法問題を考える際の基本的な視座や、憲法解釈の基本的な方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は通信教育部のLMS（ラーニングマネジメントシステム）を通じて配布するプリントを見ながら、予め録画された講義動画を各自がパソコン等を通じて視聴するという形式で進める。講義動画にアクセスするためのURLは、LMSを通じて通知する。なお、講義動画はスクーリング期間中を通じて視聴することができる。質問は、スクーリング期間中にLMSで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけや機能、あるいは憲法の目的について学ぶ。
第2回	憲法の歴史①	近代憲法の成立過程について学ぶ。
第3回	憲法の歴史②	憲法の現代の変容について学ぶ。
第4回	日本国憲法の構造と特徴	日本国憲法の概要と特徴、および平和主義について学ぶ。
第5回	人権の類型と新しい人権	伝統的な人権の類型と新しい人権の生成について学ぶ。
第6回	人権の享有主体	人権の享有主体について、特に外国人の人権享有主体性について焦点を当てて学ぶ。
第7回	人権の限界	人権制約原理としての公共の福祉と人権の私人間効力について学ぶ。
第8回	法の下での平等	法の下での平等の意義と主要な判例について学ぶ。
第9回	思想・良心の自由/宗教の自由	思想・良心の自由および宗教の自由の内容と限界について学ぶ。
第10回	政教分離原則	政教分離原則の意義と限界について学ぶ。
第11回	表現の自由	表現の自由の内容と限界について学ぶ。
第12回	経済的自由権	経済的自由権の内容と限界について学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前及び授業後に配布プリントをよく読み、問題点を明らかにしておくこと。また、スクーリング開始前に、憲法の条文にひととおり目を通しておくことが望ましい。本授業の準備・復習学習は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業は配布プリントに基づいて進めていく。授業中に条文を参照することがあるので、六法（『ポケット六法』や『デイリー六法』など小型のものでよい）を手元に置いておくことが望ましいが、必須ではない。

#### 【参考書】

初歩的なものとして、君塚正臣（編）『高校から大学への憲法〔第2版〕』（法律文化社、2016年）、入門的なものとして、毛利透『グラフィック憲法入門〔補訂版〕』（新世社、2016年）、標準的なものとして、芦部信喜（高橋和之〔補訂〕）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）、発展的なものとして、宍戸常寿ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）などがお勧めの参考書である。

#### 【成績評価の方法と基準】

スクーリング最終日にLMSを通じて提示するレポート課題によって成績評価を行う（100%）。レポートの提出もLMSを介して行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

過去のアンケートでは、「授業の進捗が速い」、「内容が難しい」という意見がある一方、「授業の進捗が遅い」、「内容が簡単すぎる」という意見もあった。例年こうした相対立する意見があり、授業の内容や進捗の調整については悩むところであるが、なるべく平易な説明に努めるとともに、多くの受講者に平均的に満足感が得られる授業となるよう、バランスを取っていきたいと考えている。

#### 【学生が準備すべき機器他】

今回のスクーリングはオンライン形式で行い、授業（プリント配布・授業動画の視聴）、質問・回答、レポート課題の提示・提出等をすべて通教のLMSを通じて行う。そのため、LMSにアクセスし、必要な資料をダウンロードするとともに、授業内容を録画した動画にアクセスできる環境（パソコンまたはタブレットと動画視聴に支障のない通信環境）が整っていること、並びにそれらを操作できるITスキルを有していることが必須となる。

#### 【その他の重要事項】

オンデマンド型のオンライン授業を行うため、一定時刻にオフィスアワーを設けることはしないが、質問・相談等はスクーリング期間を通じて随時LMSで受け付ける。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this class is to gain a constitutional perspective and way of thinking through understanding the basic principles and the historical background of the Constitution of Japan, and learning the interpretation of clauses in the Constitution and precedents on them.

LAW400TB (法学 / law 400)
<b>刑事訴訟法 (冬期スクーリング)</b>
<b>田中 開</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑事訴訟法につき講義する。  
 刑事訴訟法は、刑事手続を規律する法である。刑事手続は、捜査に始まり、公訴の提起、第一審の公判手続・裁判、上訴、刑の執行という一連の手続である。その目的は、適正な手続により、真犯人を処罰することにある。本授業は、学生の皆さんが、刑事訴訟法ないし刑事手続につき基本的な知識・理解を得ることを目的とする。

#### 【到達目標】

学生の皆さんが、①刑事手続の流れを知り、②関係条文を把握し、③基本的専門用語を理解するとともに、④判例・学説を学習することにより、刑事訴訟の理念と実際につき基本的な理解を得ることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

基本的に、Zoomでのリアルタイム配信で行います。場合により、YouTubeによる録画配信を用いることもあります。質問は、授業終了後に受け付けます。なおマイク・カメラは用意しなくてもかまいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	捜査の基本、捜査の端緒	強制捜査と任意捜査、職務質問と所持品検査につき解説する。
第2回	捜査の実施（1）	逮捕と勾留につき解説する。
第3回	捜査の実施（2）	被疑者等の取調べにつき解説する。
第4回	捜査の実施（3）	捜索・差押え・検証につき解説する
第5回	捜査の実施（4）、被疑者の防御、捜査の終結	その他の捜査方法、黙秘権と接見交通権、捜査の終結につき解説する。
第6回	公訴の提起	起訴便宜主義、起訴状一本主義、公訴事実と訴因につき解説する。
第7回	訴因の変更	訴因変更の要否、可否につき解説する。
第8回	証拠（1）	証拠による証明、違法収集証拠の排除につき解説する
第9回	証拠（2）	自白法則につき解説する。
第10回	証拠（3）	伝聞法則につき解説する。
第11回	裁判、上訴、再審	択一的認定、一事不再理効を中心に解説する。
第12回	まとめ	授業のまとめを行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生の皆さんは、教科書（下記1）をあらかじめざっと通読しておくことが望ましいです。条文は、常に確認することが重要です。六法は、受講時に手元に置いてください。  
 本授業の準備・復習学習は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

1 長沼範良・田中開・寺崎嘉博「刑事訴訟法」第6版（有斐閣 2020年 2,400円＋税）

2 井上正仁ほか「刑事訴訟法判例百選」第10版（有斐閣 2017年 2,400円＋税）

#### 【参考書】

1 井上正仁・酒巻匡「刑事訴訟法の争点」（新・法律学の争点シリーズ）（有斐閣 2013年 2,000円＋税）

#### 【成績評価の方法と基準】

通教LMSを使ったレポート提出により評価します（100％）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

カメラ・マイクは用意しなくてもかまいません。

#### 【Outline (in English)】

Lecture  
 Criminal procedure  
 Law and practice

POL200TB (政治学 / Politics 200)
<b>政治学 (冬期スクーリング)</b>
<b>佐賀 香織</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「政治」とは何であろうか。「政治」をめぐる問いは古代より繰り返され、現代においても決着をみる定義はありません。広く定義するならば「権力をめぐる人間の営み」ということができます。本講義は政治学の基礎概念を理解し、とりわけ現代のわれわれが生きる社会における政治制度を理解することが目的です。

#### 【到達目標】

政治学の基礎概念を把握し、現在の政治状況で論じられている問題を、本やメディアからの情報で知ったうえで、それらの問題に関して自ら考えることができるようになる知識の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義では毎回事前に公開するレジュメに沿って進行します。特定の教科書はありません。自らニュースに多く接して、現在の政治問題として何が取り上げられているかを把握してください。

ZoomおよびLMS（※資料・課題の配付および課題提出のみ）を使用する予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	政治学の基礎
第2回	国家という枠組み	国家を巡る概念
第3回	政治体制	政治体制の分類
第4回	民主化と近代化	民主化の3つの波
第5回	民主主義における選挙	代表を選出する仕組み
第6回	日本の選挙制度	選挙制度改革
第7回	政党と政党システム	政党組織、社会環境と有権者の変化
第8回	ジェンダーポリティクス	日本女性と政治
第9回	政治意識と投票行動	18歳成人と選挙権
第10回	議院内閣制	議院内閣制の仕組み
第11回	大統領制	大統領制の原則
第12回	試験	筆記試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「現代」や「今」起こっていることを授業では積極的にとりあげるの  
 で、自らニュースに多く接して、現在の政治問題として何が取り上げられているか把握するように努めてください。授業を聞いたうえで復習することを重視してください。  
 本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。  
 レジュメを事前に公開します。

#### 【参考書】

久米邦男、川出良江、古城佳子、田中愛治、馬淵勝『政治学』補訂版、東京大学出版会、2011。  
 加茂利男、大西仁、石田徹、伊藤泰彦『現代政治学』（有斐閣アルマ）、第4版、有斐閣、2012

#### 【成績評価の方法と基準】

政治学を学んだことにより、問題解決能力、論理的思考、コミュニケーション能力など様々な分野で応用できるスキルが身についたが確認します。

評価に当たっては、試験を中心とするが総合的に判断します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンおよびスマートフォン。  
 カメラおよびマイクの用意は必須ではありません。

#### 【その他の重要事項】

ZoomおよびLMS（※資料・課題配付および課題提出のみ）を使用する予定です。

#### 【Outline (in English)】

What is a political definition? According to the definition it would be possible to say that dispute over human behavior. This lecture understands a basic concept of political science and a political system in the society.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>会社法 (冬期スクーリング)</b>
<b>笹久保 徹</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

#### 【到達目標】

- ・会社法の基本を知る。
- ・会社法上の制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は、Zoomを利用したリアルタイム配信となる。

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を用いて、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

質問は、通常の教室での講義と同様に、講義終了後にZoom上で受け付ける。

配付資料はPDF形式である。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	会社法 総論	前提知識や用語等の解説
第2回	株式会社の機関 総論、株主総会1	機関の概要、株主総会の権限・種類・招集に関する解説
第3回	株式会社の機関 株主総会2	株主総会の議事・議決権・決議等に関する解説
第4回	株式会社の機関 取締役1	取締役の概要及び権限に関する解説
第5回	株式会社の機関 取締役2	取締役の義務・責任に関する解説
第6回	株式会社の機関 取締役3	取締役に対して責任を追及する方法に関する解説
第7回	株式1	株式の概要及び種類等に関する解説
第8回	株式2	株式の譲渡等に関する解説
第9回	株式3	自己の株式の取得等に関する解説
第10回	募集株式	募集株式の発行等に関する解説
第11回	設立1	株式会社の設立の概要に関する解説
第12回	設立2	設立の責任等に関する解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読む程度で構わない。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。復習に力を注いでほしい。

#### 【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

#### 【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）

・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリストNo.229（有斐閣、2016）

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題（レポート）の提出・評価により行う（レポート100％）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Zoomの授業ルームに入室するための端末（パソコン、スマートフォン等）が必要になる。

学生が使用する端末には、マイクおよびカメラが必ずしも付いている必要はない。ただし、授業終了後に教員に質問をしたい学生は、マイクを付けておく必要がある。

#### 【その他の重要事項】

受講生は、最新の六法を用意すること。

本授業では、事前にレジュメ・資料を配布する（PDF形式）。これらのレジュメ・資料をプリントアウトしてから授業を受けること。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>物権法 (冬期スクーリング)</b>
<b>遠山 純弘</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・本講義では、民法財産法における「物権法」について学ぶ。物権法は、狭義の意味での「物権法」と「担保物権」にわけることができる。狭義の意味での「物権法」は、財貨の帰属を決める法分野である。簡単に言えば、だれのものかを定める法に関する問題であるといえることができる。また、担保物権法は、物の価値から債権者が債権を回収する方法を取り扱う法分野である。本講義では、これらの物権法の2つの分野に関して、基本的な事項について理解し、いくつかの紛争ケースを取り上げこれらの紛争がどのように解決されているかを学ぶ。

### 【到達目標】

- ・本講義の到達目標は以下の通りである。
- ①上記の物権法および担保物権法の基本的な事項(諸制度や諸概念)について理解し、それらについて説明することができる。
- ②いくつかの紛争ケースについて、裁判所がそれらの紛争をどのように解決し、あるいは学者がそれらの紛争ケースをどのように考えているか、あるいは裁判所の解決をどのように評価しているかを理解し、それらについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・本講義は、講義形式で授業を進める。なお、授業は、Zoomを用いたオンライン授業を行う。そのため、Zoomを使用できることが授業の履修条件となる。
- ・授業は教科書および配布する資料をもとに進める。資料や課題は、通教LMS(ラーニングマネジメントシステム)を通して配布する。配布した資料などは、授業前にダウンロードおよびプリントアウトして、授業に臨んでもらいたい。
- ・各授業の後半に与えられた課題を解いてもらい、それについて解説をし、より理解を深めていく。
- ・各日の授業終了後に授業に関する質問を受け付ける。

### 【特に、Zoomでの授業について】

- ・ZoomのURL等については、後日通教LMSを通して改めて連絡する。受講生は、授業等に関する質問に備えて、マイクは用意しておいてもらいたい。ただし、授業中は、マイクはオフにしておくこと。また、カメラは、使用しないので、不要である。
- ・Zoomの待機室を用意しておき、各日の授業開始時間10分前から入室できるようにする。
- ・授業途中での入室または退出は可能とする。ただし、途中入室をする場合、マイクやカメラをオンにしないよう注意してもらいたい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	今後の授業の進め方および内容について学ぶ。また、今後授業を受けるにあたって、何を聞くべきかを明らかにするために、
	①授業の全体構造(物権法の全体構造)の説明	法的に考えると、法律的に考えると、どのようなことを学ぶ。
	②法的に考えると	
	は？	

第2回	物権法全体構造	物権法とはどういう法分野か、また、物権法が全体としてどういった構造になっており、物権にはどういった権利があるか、どういった性質を有するかを学ぶ。
第3回	所有権および共同所有	所有権とは何かについて学ぶ。また、共同所有をめぐる問題について学ぶ。
第4回	所有権の取得	どうすると所有権を取得できるか、また、所有権取得をめぐる問題について学ぶ。
第5回	対抗問題	公示制度の意義、公示手段にはどのような制度があるかを学ぶ。また、対抗問題をめぐる問題について学ぶ。
第6回	占有の取得	占有とは何か、占有の取得について学ぶ。
第7回	占有の効力	占有の効力をめぐる問題について学ぶ。
第8回	担保物権総論	担保物権とは何か、何故担保物権が必要かについて学ぶ。
第9回	留置権・先取特権・質権	留置権、先取特権、質権とはどのような制度かを学ぶ。
第10回	抵当権	抵当権とは、どのような担保物権か、また、抵当権による債権の優先的回収手段について学ぶ。
第11回	根抵当権・非典型担保	根抵当権および非典型担保の問題を取り上げ、それらがどのような制度であるか、およびそれらをめぐる問題について学ぶ。
第12回	物権法総括	これまで行ってきた授業の内容を総括して説明し、授業内容を理解できているかどうかを確認する。

### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業開始前に下記指定教科書全体を一読しておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト(教科書)】

- ①松久三四彦ほか『オリエンテーション民法』(有斐閣、2020年) 2,500円+税
  - ②六法
- なお、この2冊は、授業開始前に必ず用意しておくこと。

### 【参考書】

- ①遠山純弘『請求権から考える民法2』(信山社、2020年) 2,900円+税
  - ②遠山純弘『請求権から考える民法3』(信山社、2020) 3,200円+税
- なお、これらの文献の修正箇所については、通教LMSを通して知らせる。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・課題を課し、その評価によって評価する(100%)。なお、課題の提出方法は、現在検討中であるが、ネットまたはeメールによる提出を予定している。詳しくは、授業において説明する。
- ・出席はとらない。

### 【学生の意見等からの気づき】

話すスピードが授業をやっていると速くなるという意見がある。この点については、できる限り、ゆっくりと話すことを心掛ける。

### 【その他の重要事項】

通教LMS(ラーニングマネジメントシステム)を使用します。

### 【Outline (in English)】

In Property Law, students learn about basic knowledges and systematic understandings of Property law and law of Debtors and Creditors.

Also, students train legal thinking skills.

LAW400TB (法学 / law 400)
<b>民事訴訟法 (冬期スクーリング)</b>
<b>廣尾 勝彰</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、第1に、民事訴訟法（平成8年6月26日法律第109号）第1篇第2章に規定されている「裁判所」について、第2に、同法同編第3章に規定されている「当事者」について、それぞれの要点を解説します。

本授業の目的は、「裁判所」と「当事者」に関する民事訴訟法上の基本ルールをしっかりと学ぶことです。

#### 【到達目標】

本授業の到達目標は、①裁判所の概念、②民事裁判権、③管轄、④裁判所職員の除斥・忌避・回避、⑤当事者の概念と確定、⑥当事者能力、⑦訴訟能力、⑧法定代理、⑨訴訟代理、⑩訴訟担当について、それぞれの要点を書面又は口頭で正確に説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Zoomでのリアルタイム配信で実施します。

なお、基本は講義形式ですが、適宜、受講生のみなさんと質疑応答も行う予定です。

また、授業資料の配布および試験の実施等についてLMSを使用する可能性があります。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、到達目標、授業の進め方と方法、授業計画、授業時間外の学習、テキスト、参考書、成績評価の方法と基準について説明する。
第2回	裁判所①	裁判所の概念について、その要点を説明する。
第3回	裁判所②	民事裁判権と管轄について、その要点を説明する。
第4回	裁判所③	第3回に続き、管轄について、その要点を説明する。
第5回	裁判所④	裁判所職員の除斥・忌避・回避について、その要点を説明する。
第6回	当事者①	当事者の概念と確定について、その要点を説明する。
第7回	当事者②	当事者能力について、その要点を説明する。
第8回	当事者③	訴訟能力について、その要点を説明する。
第9回	当事者④	法定代理について、その要点を説明する。
第10回	当事者⑤	訴訟代理について、その要点を説明する。
第11回	当事者⑥	訴訟担当について、その要点を説明する。
第12回	まとめ、試験	まとめとして試験を実施する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

六法を参照しながら、テキストの該当箇所を繰り返し読んでください。

なお、本授業の準備・復習学習は各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『民事訴訟法』第7版（有斐閣Sシリーズ）、上原敏夫・池田辰夫・山本和彦、有斐閣、2017年、¥1,700+税

#### 【参考書】

『民事訴訟法判例百選』第5版、高橋宏志・高田裕成・畑瑞穂、有斐閣、2015年、¥2,800+税

#### 【成績評価の方法と基準】

試験（100%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

カメラ・マイクの用意をする必要はありません。

#### 【その他の重要事項】

授業資料の配布および試験の実施等についてLMSを使用する可能性があります。

#### 【Outline (in English)】

In this class, the main points of each of the "courts" and "parties" stipulated in the Civil Procedure Code (Law No. 109 of June 26, 1996) will be explained.

The purpose of this lesson is for students to learn the basic rules of the Civil Procedure Law concerning "courts" and "parties".

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## 論文作成基礎講座Ⅰ（冬期スクーリング）

山口 恭子

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群前半集中

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レポートや卒業論文を執筆するうえで基礎作業となる、先行研究の検索方法や文献の記述の方法について実習を通じ学びます。

## 【到達目標】

1. レポート、論文を執筆するうえで、先行研究を踏まえることの重要性について理解する。
2. インターネットを利用し、先行研究（研究書、雑誌論文）の検索方法を複数、習得する。
3. 先行研究の引用方法と、研究書、雑誌論文名の記載方法を習得する。
4. 大学図書館等の専門図書館の活用方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、Zoomでのリアルタイム配信によって行います。はじめに、レポートや論文を執筆するうえで、先行研究を踏まえることの重要性を説明します。つぎに、法政大学図書館の利用方法やデータベースの活用を習得します。また、インターネットを利用した先行研究の検索方法を実習形式で学び、あわせて、収集した文献の記載方法も実習形式で学びます。なお、通教LMSも利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	レポート、卒業論文執筆に向けて（1）	よいレポート、論文を書くうえで大切なことは何かを考える。
第2回	レポート、卒業論文執筆に向けて（2）	先行研究の種類（研究書、雑誌論文）について理解する。
第3回	大学図書館について（1）ガイダンス	法政大学図書館の利用ガイダンスを受ける。
第4回	大学図書館について（2）図書館を知ろう	ガイダンスで得た知識を生かしつつ、図書館やデータベースの活用方法を知る。
第5回	文献検索の方法（1）	国会図書館データベースを中心にその利用方法を学ぶ。
第6回	文献検索の方法（2）	国文学研究資料館の論文目録データベース等の利用方法を学ぶ。
第7回	文献検索の方法（3）	CiNii等の利用方法を学ぶ。
第8回	文献の記述方法	文献の引用と表記の方法を学ぶ。
第9回	文献の検索と収集	文献を検索するプロセスを実習する。
	（1）文献を検索してみよう	

第10回 文献の検索と収集 検索した文献を大学図書館で入手するまでのプロセスを実習する。実際に入手するため。

第11回 課題実習（1）テーマ設定、および文献の検索 自らテーマを設定し、文献の検索と収集を行う。

第12回 課題実習（2）先行研究一覧を作成する 課題実習（1）を踏まえ、先行研究一覧をまとめる。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したデータベースの利用方法は、授業外においても復習し、習熟すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

『日本文学科のしおり』『通信学習シラバス・設題総覧（2020）』

## 【参考書】

授業時に提示する。

## 【成績評価の方法と基準】

第11・12回で行う、課題実習の完成度により成績評価を行う。配分は100%。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの要望や習熟度にできるだけ応えるよう配慮して進めてゆきたい。

## 【学生が準備すべき機器他】

パソコン。

Zoomを用いた遠隔授業です（実習科目ですので、Zoom授業時に用いるマイク・カメラもご準備ください）。インターネットはもちろんのこと、Word等のワープロソフト、メールも使える状態でご受講ください。

## 【その他の重要事項】

- ・本講座は、原則として、パソコン（インターネット、ワープロ機能）を使用した経験のある学生を対象とします。
- ・Zoom授業には、授業開始10分前～10分後まで入室可とします。
- ・配布資料は、事前にプリントアウトしておくことが望ましいです。
- ・オフィスアワーとして、授業の後の時間に対応します。

## 【Outline (in English)】

This course deals with the search method of prior research and description method of the references.

This is the basis for writing reports and graduation thesis.

ART200TC (芸術学 / Art studies 200)

**日本美術史 (冬期スクーリング)**

萩原 哉

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午前

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術史、とくに仏像彫刻の歴史を対象として、各時代の代表的な作品について学び、日本の仏教美術の概略とその特質を理解することを目的とする。

**【到達目標】**

- ① 飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術の大きな流れを理解する。
- ② 各時代の代表的な作品を知り、それぞれの作品の様式的・技法的な特色を理解する。
- ③ 仏教美術の変遷を促した歴史的・社会的な要因について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3, DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本科目では、主に飛鳥時代から鎌倉時代までの仏教美術、とくに仏像彫刻を対象として、日本美術の流れを概観する。授業は講義中心におこなひ、各時代の代表的な作品をとりあげ、画像、映像等による作品鑑賞をまじえながら、それぞれの作品の制作事情、様式的・技法的な特色、造形の基盤となった思想や文化などについて解説する。なお、今期のスクーリングは、Zoomによるリアルタイム配信授業として実施する。

授業資料の配信、課題等の回収は、通教LMSを利用しておこなう。オフィスアワーは、講義終了後、Zoom内でおこなう。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容、成績評価の方法の説明
第2回	仏教伝来と飛鳥時代の仏教美術	法隆寺の飛鳥時代彫刻
第3回	白鳳時代の仏教美術	初唐様式の伝来
第4回	白鳳時代～奈良時代の仏教美術	薬師寺金堂薬師三尊像の制作年代
第5回	奈良時代の仏教美術①	法隆寺・興福寺の天平彫刻
第6回	奈良時代の仏教美術②	東大寺の天平彫刻
第7回	奈良時代後期～平安時代前期の仏教美術	鑑真の来朝と一木彫像の出現
第8回	平安時代前期の仏教美術	密教美術の伝来
第9回	平安時代後期の仏教美術	和様彫刻の成立と展開
第10回	鎌倉時代の仏教美術①	南都復興と運慶・快慶
第11回	鎌倉時代の仏教美術②	鎌倉中期以降の展開
第12回	授業のまとめ	授業内容の復習

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業前に、参考書の授業内容に関連する部分を読んでおくこと。

授業後は、配布資料を参照しながら、きちんと復習すること。主要な作品については、美術全集等の大型図版を仔細に観察するとともに、図版解説や事典類を熟読し、基本データ (名称、作者、制作年代、材質、技法、寸法、所蔵者・所在地)、制作の目的と経緯、様式的・技法的な特色などについての理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

テキストは使用しない。毎回、授業の資料 (レジュメ、図版) を配布する。

授業資料は通教LMSを通じて配信する。

**【参考書】**

山下裕二・高岸輝 (監修)『日本美術史』(美術出版ライブラリー・歴史編)美術出版社、2014年

辻惟雄 (監修)『カラー版 日本美術史』[増補新装版]美術出版社、2003年

辻惟雄『日本美術の歴史』東京大学出版会、2006年

水野敬三郎 (監修)『カラー版 日本仏像史』美術出版社、2001年

山本勉『別冊太陽 仏像 日本仏像史講義』平凡社、2013年

『日本美術全集』全25巻、講談社、1990-1994年

『日本美術全集』全20巻、小学館、2012年-2016年

石田尚豊・田邊三郎助・辻惟雄・中野政樹 (監修)『日本美術史事典』

平凡社、1987年

中村元・久野健 (監修)『仏教美術事典』東京書籍、2002年

朴亨國 (監修)『東洋美術史』武蔵野美術大学出版局、2016年

**【成績評価の方法と基準】**

○期末レポート (60%)

授業内容に関連する期末レポートを課す。

詳細は初回の授業時に説明する。

○平常点 (40%)

毎授業時に出席の確認をおこなう。

出席の確認の際に、授業内容についての質問、感想等のコメントを求める場合がある。

なお、Zoomへの接続時間が、各授業時間の2分の1以下の場合は欠席、3分の2以下の場合は遅刻として扱う。

**【学生の意見等からの気づき】**

今回のスクーリングでは、仏教美術、とくに仏像彫刻の歴史を中心に講義をおこなう。それぞれの作品の造形的な特色を、作品画像の観察をとおして理解してもらえよう、配付資料とパワーポイントの作成に工夫をこらす予定である。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業は、Zoomによるリアルタイム配信授業として実施する。

受講の際は、パソコン、タブレット、スマートフォン等の情報機器 (カメラ、マイクは不要) とインターネット、wifi等の通信環境が必要になる。

**【その他の重要事項】**

授業内容の録画、録音と配布資料の転用、転載を禁止する。

**【Outline (in English)】**

In this subject, we will learn about the Buddhist Art history from the Asuka period to the Kamakura period.

Through learning, we will learn the representative work of each era, deepen the understanding of the style and technique features of each work and the historical and cultural factors that produced those works.

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 日本文学研究特講・現代 (冬期スクーリング)

矢澤 美佐紀

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午前

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考 (履修条件等)：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、時代的な問題を特徴的に捉えているテキストを通じて日本の近代の歩みを問い直し、今に通じる社会的・個人的テーマを析出し、より自由に解釈することを目的とする。そして、今後の日本文学の可能性、ひいては日本文学研究の可能性について考察を深める。現在、「日本語で書かれた」日本文学は、実に多様な展開を見せている。特に3・11の震災以降は近未来的の世界を設定したディストピア小説が脚光を浴びるなど、リアリズムを追及する方法も細分化され「一人一派」の様相を見せている。今回は、このような流れが形成される以前の「日本現代小説」の代表的作品をいくつか取り上げて解析することで、現在の状況を分析する手がかりを得る。

## 【到達目標】

それぞれのテキストのテーマと描かれ方を読み取り、それに対して自分なりの評価を引き出すことを目標とする。

- ①まずテキストとじっくり向き合い、書かれていることを正確に読み取る。その上で独自の解釈を試みるという訓練を行う。
  - ②更に、そこで得た知見を文字で表現するという行為が肝要となる。
- ①と②を踏まえて、この学びの流れを自分の生活の中に定着させてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基本的にはLMSとzoomを併用したオンライン授業を実施する予定である。毎回、LMSを通じて資料と課題等を配布する。各自、パソコンやスマホでマイクとカメラの利用を可能にしてほしい。人数が多いので、基本的には講義形式だが、できるだけ授業内で学生ひとりひとりの意見や感想を聞いて、皆で意見交換しながら双方向の授業を目指したい。なお、授業で各授業の終わりに随時質問を受け付ける。また、LMSにてリアクションペーパーを適宜提出してもらうこともある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	太宰治『御伽草子』を読む。1	<他者>と<言葉>の関係を探る。
第2回	太宰治『御伽草子』を読む。2	意見交換して考察を深める。
第3回	大庭みな子『三匹の蟹』を読む。1	<現代のノラ>の内実を探る。
第4回	大庭みな子『三匹の蟹』を読む。2	意見交換して考察を深める。
第5回	津島祐子『山を走る女』を読む。1	<制度外>の女の表象を考える。
第6回	津島祐子『山を走る女』を読む。2	意見交換して考察を深める。
第7回	俵万智『サラダ記念日』を読む。	消費社会の抒情について考える。
第8回	山田詠美『風味絶佳』を読む。1	「恋愛小説」という枠組みを考え
第9回	山田詠美『風味絶佳』を読む。2	る。意見交換して考察を深める。

第10回	吉田修一『悪人』を読む。1	ポストモダン文学以降のリアリズムを考える。
第11回	吉田修一『悪人』を読む。2	意見交換して考察を深める。
第12回	まとめと筆記試験	全体を通した上での質問を受け付けた後、筆記試験を実施する。 ※ 気に入った作品を一つ選んで、テーマを述べた後で、自分の意見を書く。800字~1000字程度。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱う6作品は事前に読んでおいてほしい。どれも大学や公共図書館で容易に手に取ることができる。また、教科書の各解説にもざっと目を通しておくとうまいだろう。各作品を読む時間は分量差や個人差があるので明記はできないが、最低約7~8時間はかかると思われるため、計画的に事前学習を進める必要がある。読んだ感想のメモをとっておくと良い。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト (教科書)】

田中和生・沼田真理編『日本文学研究特講・現代 (第二版)』(2020・3、法政大学通信教育部)

※この通教テキストの【第二版】をお持ちでない方は早めに教材交付の申請をしてほしい(「学習のしおり2020」39~40頁参照)。

## 【参考書】

長谷川啓・岩淵宏子編『ジェンダーで読む愛・性・家族』(東京堂出版・2006)

、安藤宏『日本近代小説史』(中央公論社・2015)、矢澤美佐紀『女性文学の現在一貧困・労働・格差』(菁柿堂、2016)、矢澤美佐紀責任編集『日本女性文学全集第12巻』(六花出版、2020)、井上ひさし・小森陽一『座談会昭和文学史』全6巻(集英社、2003)、小田切秀雄『文芸学講座』(菁柿堂、2016)

## 【成績評価の方法と基準】

出席を前提とした授業態度(適宜、意見や感想を言ってもら。また可能ならばリアクションペーパーの提出)が30点、最後の筆記試験が70点の総合100点で成績をつける。

※ 筆記試験の内容

授業でとりあげた作品から一つを選び、その作品のテーマを簡潔に記した後に、自分の意見を記述に即して自由に述べてもらう。800字~1000程度。

採点基準としては、意見を述べる時の表現の単なる技巧的な上手さではなく、その課題に対して独自の視点があるかどうか、また考察するために作品をよく読み、課題に誠実に取り組んでいるかどうかといった学習態度を重視する。

提出方法については授業で告知する。

## 【学生の意見等からの気づき】

単に教師が学生から意見を聞き出すだけではなく、学生同士の意見交換を重視したい。また、質問には臨機応変に対応する。

## 【学生が準備すべき機器他】

zoom対応ができるようにスマホではなく、パソコンが望ましいでしょう。カメラとマイク機能がついているかよく確認しておくようにしてください。

## 【Outline (in English)】

The aim of this course is to re-examine the history of Japanese modernity through texts which capture contemporary issues characteristically, to extract social and personal themes which are still applicable to the present day from the texts, and to interpret them more freely. We will also consider the possibilities open to Japanese literature in the future as well as the associated effective research directions.

LIN100TC (言語学 / Linguistics 100)
<b>日本語学概論 (冬期スクーリング)</b>
<b>古牧 久典</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ことばや言語は身近なものである。この授業では、ことばを学問として扱うとはどういうことかを考える。言語の相違性をどう捉えるか。言語の共通性をどう捉えるか。言語の社会的側面をどう捉えるか。言語の背後にあるものとは何か。こうした疑問に、言語学の基礎概念を概観し、日本語ということばを相対化することで、言語に対する考え方を学ぶ。

#### 【到達目標】

言語学の基礎知識を習得する。ことばの性質に迫るための考察技法を理解する。その習得や理解を重ねていくことで日本語を相対化し、ことばの本質を多角的な視点から捉える姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本科目のオンライン授業の実施は、Zoomでのリアルタイム配信とYouTube等の録画配信を併用し、課題提出サイトを使った形態で行う。

リアルタイム配信と録画配信の授業は、冬期スクーリング2群の午後時間帯の授業時間内に実施する。授業中は、リアルタイム配信授業への途中の入退室は認めない。機器や通信トラブルなどによる授業中の入退室は許可するが、その場合には授業後に事情を申し出ること。

リアルタイム配信授業後に、オフィスアワーとして、質問や意見などを直接やり取りする時間を設ける。

授業は、パソコンによる受講を推奨するが、タブレット端末による受講も可能である。スマホのみによる受講も不可能ではないが、資料の文字等が見えづらくなることからお勧めしない。配布資料が毎回配られるため、紙に印刷ができる環境があることが望ましい。プリントアウトすることが出来ない場合には、複数の端末（たとえば、パソコン&タブレット、タブレット&スマホなど）を用意し、1つを資料の閲覧専用機器として準備するとよいだろう。Zoomの受講環境としては、マイクとカメラを利用できる方が好ましい。

情報機器技能については、日常的にインターネットを使い、ファイル添付のメールの送受信ができ、スマホカメラなどで写真が撮れる程度のスキルを最低条件とする。（文字入力が苦手な受講生には、手書きによる課題をスマホなどのカメラで撮影し、提出するという対応も予定している。）

なお、オンライン授業が初めての人でも、上記の情報機器、通信環境、技能が、最低限度、整っていれば、初回授業時（および、初回授業前）に、操作方法などの詳細については説明するので安心して受講して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ことばの科学	言語学
第2回	ことばの比較	比較言語学
第3回	ヒトと世界のことば	言語類型論
第4回	まとめ(1)	言語の相違性をどう捉えるか？
第5回	ことばの文法	文法論
第6回	文の構造	統語論
第7回	まとめ(2)	言語の共通性をどう捉えるか？
第8回	ことばと地域	地域方言論

第9回	ことばと社会属性	社会方言論
第10回	まとめ(3)	言語の社会的側面をどう捉えるか？
第11回	ことばと認識	認知言語学
第12回	まとめ(4)	全体総括

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言語学の事前の予備知識は必要としない。日頃からことばに興味を持つことを心がけ、スクーリング期間中は、毎回受講後に、授業内で扱った用語や概念をよく復習し、説明できるようにする。課題は、原則、隔回の授業後（1日1回）に出題されるので、それを次の授業までに提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

配布資料。

#### 【参考書】

黒田 龍之助 著 (2004) 『はじめての言語学』（講談社現代新書）講談社。¥740 [税別]

佐久間 淳一 著 (2013) 『フシギなくらい見えてくる！ 本当にわかる言語学』 日本実業出版社。¥1,600 [税別]  
(講義内で適時紹介する。)

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の課題（60%）、最終課題（40%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

スクーリング受講者による授業内容の感想を紹介することで、自分以外の受講者がどのように考えているのかを知れたことが有益であったという意見がありました。オンラインの授業であったとしても、このような自宅教材学習では困難な、スクーリングでしか得られない知見を今年度も大切にしたいと考えています。

#### 【その他の重要事項】

本授業は、Google Classroom（オンライン授業の受講・学習のための管理支援システム）を使って実施する。Google Classroomは、有料の「市ヶ谷情報センター利用ユーザーID」の事前登録が必要となる。登録手続きには時間を要する可能性もあることから、履修者は速やかに申請を済ませておくこと。（「市ヶ谷情報センター利用ユーザーID」の取得についての詳細は、「学習のしおり2020」の該当ページを参照。）

Google Classroomの登録方法や最低限の使い方については担当教員から指示する。Google Classroomは単純でわかりやすい見た目（ユーザーインターフェイス）になっているが、ネットを抵抗なく使える程度のITCスキルは必須となる。（Google Classroomについては、通信教育部事務のサポートがありません。あらかじめ、ご注意ください。）

本授業のGoogle Classroomのクラスコードと、簡単な登録方法などをまとめたものを1月中旬以降に、通信教育部のポータルサイト「Web学習サービス」にて送付するので、そちらを必ず確認し、授業前に手続きを済ませておくこと。出席確認のため、Zoomでのリアルタイム授業時にカメラを使用する。（やむを得ない理由でカメラが利用できない場合には授業内に指定する方法で申し出ること。）

#### 【Outline (in English)】

This course is a general introduction to linguistics, the study of human language. The aim of this class is to help students learn the methodology of linguistics and related fields. The goal is to introduce students to different perspectives in the areas of approaches to language.

LIT100TC (文学 / Literature 100)

**日本文芸研究特講・漢文（冬期スクーリング）**

永井 弥人

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本の伝統的文化遺産である「訓読」を通して、簡単な漢文に慣れ親しむことを目的と致します。今回は、戦前に活躍した漢学者川田雪山の『峡中紀勝』を読みます。この書は、著者が山梨旅行をした折の見聞を綴った紀行文です。

**【到達目標】**

訓点・送り仮名（添え仮名）付きの漢文を読解できるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テキストの朗読+解説、(口語訳を含みます。) 3回目以降、前段に於て復文練習の解説を致します。復文練習は、書き下し文を字数を決めた上で原文に戻す練習です。前日に問題を提供致します。

Zoomを用いて授業を行うこととなる予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	著者についての説明 教材「引」	教材の序文を読みます。
第2回	教材「峡中」前半	甲州の概説部分「峡中」前半を読みます。
第3回	復文1解説 教材「峡中」後半①	「峡中」後半①を読みます。+ 復文1解説。
第4回	教材「峡中」後半②	「峡中」後半②を読みます。
第5回	復文2解説 教材「武田八幡」前半	武田八幡についての記事を読みます。(前半) + 復文2解説。
第6回	教材「武田八幡」後半	「武田八幡」の後半を読みます。
第7回	復文3解説 教材「若宮八幡」前半	若宮八幡についての記事(前半)を読みます。+ 復文3解説。
第8回	教材「若宮八幡」後半及び「新府城址」前半	「若宮八幡」後半及び「新府城址」についての記事の前半を読みます。
第9回	復文4解説 教材「新府城址」後半	「新府城址」後半を読みます。+ 復文4解説。
第10回	教材「山縣祠」	山縣神社についての記事を読みます。
第11回	復文5解説 教材「最勝寺」前半	最勝寺についての記事(前半)を読みます。+ 復文5解説。
第12回	教材「最勝寺」後半	「最勝寺」後半を読みます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

前日までに次回分のテキストに目を通しておかれると良いと思います。また、復文練習を仕上げて下さいます様お願い致します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

川田雪山『峡中紀勝』

LMSにて配布します。

**【参考書】**

『漢文を読むための助字小字典』内山書店

**【成績評価の方法と基準】**

課題（テキスト内より1文選んで書き下し文+口語訳。+新規の復文1題。）テキストとともに配布。

配分は、書き下し文+口語訳=60% 復文=40%

課題はスクーリング最終日または翌日にLMSのリポート提出ボックスまで御提出下さい。

**【学生の意見等からの気づき】**

出来る限り分かり易く解説致します。

**【学生が準備すべき機器他】**

PC（マイク、カメラ）

**【その他の重要事項】**

なるべくシラバスに準拠致しますが、多少進み、遅れが生じる場合が御座います。念の為、予備用の教材を用意致します。(早く済んでしまった場合、使用致します。)

Zoom内もしくは私のアドレス (kanbunngaku@yahoo.co.jp) に於いて御質問にお答えします。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this class is to get used to reading classical chinese texts by Japanese reading style.

ART300TC (芸術学 / Art studies 300)
<b>西洋美術史 (冬期スクーリング)</b>
<b>濱西 雅子</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術史は、時代・社会・文化の鏡ともいえる芸術作品を巡る学問である。授業では、古代ギリシアから20世紀にかけての時代の、建築・彫刻・絵画・工芸等多様な表現形式をとる西洋の美術作品について考察するなかで、その造形的表現の特質を学ぶ。

### 【到達目標】

西洋美術の名作について、図像(主題・内容)、(時代・地域・個人)様式、技法、造形的表現の特質、美術史上の意義といった美術史的な観点から、総合的に理解を深める。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3, DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

Google ClassroomとはGoogle社のオンライン授業システムである。GmailやGoogle Drive等と連携しており、動画・画像・文書ファイル等各種資料（容量の大きなものも可）の安全な配布、(即時採点可能な)小テスト、ストリーム(掲示板)での意見交換や質疑応答、課題の回収等、様々な機能を備えており、現在数多くの教育機関で用いられている。オンライン授業を実施することとなった今回の冬期スクーリング西洋美術史の授業では、主としてこのGoogle Classroomを使用し、動画・画像・文書ファイル等資料配布、ストリームでの意見交換や質疑応答、小テスト等を組み合わせて行う。授業時間内は、各自Google Classroomに参加していることを前提とする（ただし特別な事情がある場合は適宜対応する）。

・動画・画像・文書ファイル等資料配布は、原則としてGoogle Classroomを介したGoogle Drive上で行う（なお動画等配布資料の公開期間は、授業当日の23:59までとする）。

・いくつかの課題作品については、まず小人数のグループの受講生同士で意見交換を行う。さらにそれぞれの考察結果をクラス全体で共有する。こうした作業を通じて、多くの受講生の様々な見解に触れ、自らの分析・考察力を深める貴重な機会とする。

・また授業のポイントについては、Google Classroom経由で小テストを行い、理解度を確認することができるよう配慮する。採点結果は即時通知し、全体の講評・コメントも、Google Classroomストリーム(掲示板)等で追って行う。

・質疑応答は、Google Classroomストリーム、リアクションペーパー、Gmail等で行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序、古代ギリシア・ローマ	授業全般の説明、IT環境アンケート、美術史の方法論、《パルテノン神殿》
第2回	中世	《ケルズの書》写本装飾
第3回	イタリア・初期ルネサンス	ボッティチェッリ《春》
第4回	イタリア・盛期ルネサンス	ラファエロ《アテネ(アテナイ)の学堂》
第5回	北方ルネサンス	ホルバイン《大使たち》

第6回	バロック、ロココ	レンブラント《夜警》、ヴァトー《シテール(キュテラ)島の巡礼》
第7回	新古典主義	ダヴィッド《皇帝ナポレオンの聖別式と皇妃ジョゼフィーヌの戴冠》
第8回	ロマン主義	フリードリヒ《山上の十字架》
第9回	写実主義、印象主義	ミレー《落ち穂拾い》、モネ《睡蓮の池（日本の太鼓橋）》
第10回	後期印象主義	ゴッホ《タンギー爺さんの肖像》
第11回	アール・ヌーヴォー	クリムト《アデーレ・ブロッホ＝パウアーの肖像I》
第12回	まとめ	授業全般の講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず通史概説書を通読し、西洋美術史の全体的な枠組み、大まかな流れを掴み、基本を押さえておくこと。予習として、【授業計画】に記載されている、各回の授業で取り扱う主要作品を中心に、(時代・地域・個人)様式等について、通史概説書や配布資料等で確認し、自分の考えをまとめる（各回60分程）。復習として、授業で取り扱った主要作品を中心に、授業中のディスカッションや解説を踏まえつつ、図像内容、(時代・地域・個人)様式、技法、造形的表現の特質といった美術史的な観点から総合的な理解を深める（各回60分程）。なお実際に美術館で作品を鑑賞する行為は、現時点においては安全性に懸念があるため控える。

また冬期スクーリングは最終課題レポートの準備期間が短いため、下記を参考に事前にある程度の準備をしておくことが望ましい。

### <インターネットによる検索について>

#### ●検索対象：

図書館の利用も厳しい状況のため、美術史専門文献の参照も困難と思われる。その代替措置として、インターネットによる、専門家の情報の検索が求められる。ただしインターネット検索の際は、専門家以外の人物の記述物(Wikipedia、個人のBlogやHP等)を参照することは厳禁とする(部分的にも利用した場合は、評価の対象外)。大学の紀要論文等、「西洋美術史・西洋建築史」の専門家による学術論文や、美術館の公式HPの専門家による解説等を参照すること(他分野の専門文献は基本的に不可。ただし文学の専門家の論文は、美術史的な観点からも詳細に論じているものは可。なお斎藤氏によるラファエロ関連論文や、一条氏によるレオナルド関連論文等、医学等の専門家による、題目からは判断が難しい文献には特に注意すること)。参考文献の著者は、「氏名 研究者情報」等のキーワードで検索し、美術史(ないし建築史)の専門家かどうかよく確認してから参照すること。また、田中氏等の博士論文の要旨、学会の大会報告、科学研究費助成金の報告書等、美術史の専門家によるものであっても「論文の本文」でない場合も参照不可。

#### ●検索先：

1. IRDB (学術機関リポジトリデータベース) IRDB 検索画面：<https://irdb.nii.ac.jp/> (「学術機関リポジトリ」とは、大学等学術研究機関における教育・研究活動等の成果物を収集し、電子的形態による恒久的な蓄積・保存を行い、ネットワークを通して学内外に無償公開・還元するシステム。なおIRDB検索では、左の「すべて」ではなく、右の「本文あり」の方をクリックしてから検索をかける)と、本文が公開されている論文のデータが検索可能。)

2. CiNii (サイニー、サイニイ、サイニイ) 国立情報学研究所の論文情報データベース CiNii 検索画面：<https://ci.nii.ac.jp/ja>

3. Googl 等での検索(論文でないものも検出されるので要注意。キーワードの「論文」に傍線が引かれて「含まれない」表示が、最後の行に出ているなら不可)

#### ●検索キーワード：

1.「画家名」(よくある名前の場合、ファーストネームのイニシャルも入れる。例：C. D. フリードリヒ) 2.「作品名」 3.「論文」 4. その他(よくある名前の場合等)「美術」といった分野名等、各自様々な工夫をこらし検索をかける。

### <インターネット以外による検索について>

#### ●図書館利用時の注意事項：

なお、インターネット上に論文があまり公開されていない作品である場合等、諸事情によりやむを得ず図書館を利用の際は、送付サービスの利用、近隣所在の図書館に行く、事前のOPAC検索や取寄せ、滞在時間の短縮化に努める等、安全管理に十分に留意すること。

●ネット公開論文ではなく、実物の文献(本・論文)を参照する場合の注意事項：

実際に用いた文献データは、参照ページを含め、文末の参考文献表に表示し、添付する必要があるので控えておくこと（専門誌掲載論文の場合は、著者、論文のタイトル、掲載誌名、号数、発行年、参照ページの順で記載する。書籍の場合は、著者名、書名、出版社名、発行年、参照ページの順で記載する。詳細については、授業で解説する）。

またネット公開論文ではなく、実物の文献（本・論文）を参照する場合は、参照した部分（実物でもコピーでも可）をスマートフォンやデタルカメラで撮影し、Word文書の最終課題レポートの末尾に、参考文献表とともに張り付けて提出する必要があるため、図書館等で参照する際には、本の基本データとともに、必ず参照ページの画像記録（テキスト部分、図版部分、ページ番号部分も欠けないように）も取っておくこと。

<最終課題レポートについて>

●レポート全体の注意事項：

授業で取り扱った作品（授業内で考察課題とされた作品、ないし配布資料に掲載された作品）の中から気に入った一つの作品を選択し論考する。ただし、以前「西洋美術史」の試験やレポートで詳しく論じた作品は選択不可。

下記各項目を含め、選択した作品の基本データ（制作者名・作品名・制作年代・素材・大きさ・所蔵先等）や時代様式の特徴を踏まえた上で、画像内容、（時代・地域・個人）様式、技法、造形的表現の特質といった美術史的な観点から、2000字以上かけて総合的に論じること。

画家の伝記や、複数の作品についてではなく（比較のために少し言及するのは可）、一つの作品について論考する。

手書きレポートの場合は、スマートフォンやデタルカメラで撮影し、画像データとした上で、Word文書に張り付けて提出すること（困難な場合は要相談）。

●レポート表紙に表示する事項：

- ・授業名、提出日
- ・授業出席番号（採点整理のためこの授業限定で発行する番号。初回授業時に連絡する。）
- ・学科、学年、学生証番号、氏名
- ・選択した作品の（できれば解像度の高いカラー）図版とその図版出典（図版に関してのみ、Wikipedia、個人のBlogやHP等の参照可。アドレスないし文献データ参照元も明記すること。）
- ・選択した作品の基本データ（制作者名・作品名・制作年代・素材・大きさ・所蔵先等）

●レポート本文に含める項目：

- ・授業内で考察課題とされた作品についてレポートを書く場合：
  1. グループディスカッションの際の（ないし個人で提出した）自分の意見
  2. 他のグループの（ないし個人で提出した）意見を読んだ感想
  3. 自ら収集した文献も含め、詳しい資料から得た、美術史的な観点も含めた情報
  4. 自ら収集した文献も含め、詳しい資料を参照して深まった考察
  5. その他の感想や意見
- ・それ以外の配布資料に掲載された作品等についてレポートを書く場合：
  1. 詳しい資料を参照する前に持った（簡単な解説と画像のみの情報から得た）、選択した作品についての自分の考察
  2. 自ら収集した文献も含め、詳しい資料から得た、美術史的な観点も含めた情報
  3. 自ら収集した文献も含め、詳しい資料を参照して深まった考察
  4. その他の感想や意見

以上のように参照した資料を単にまとめるだけではなく、詳しい資料を参照する前の考察と、詳しい資料を参照して深まった考察について具体的に述べる必要があるとされる。

●レポート文末に表示する事項（参考文献表、参照ページの画像）：

- ・総字数（Word→「校閲」→「文字カウント」→「総文字数（スペースを含めない）」、Word以外→一行何文字×何行＝何文字）（例：40文字×55行＝約2200字）
- ・参考文献表（実際に用いた文献の参照ページを含めたデータ
- ・実物の文献（本・論文）を参照した場合は、参照したページの画像（テキスト部分、図版部分、ページ番号部分も欠けないように）レポートWord文書の末尾に張付け提出すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。下記の参考書等を参照すること。

【参考書】

- 美術辞典類
  - 『新潮世界美術辞典』新潮社 1985年（21,358円、絶版）
  - J.ホール著 高階秀爾監修訳『西洋美術解説事典』河出書房新社 2004年（5,390円）
  - 『世界美術大事典』全6巻 小学館 1988-90年（各14,951円、絶版）
- 通史概説書
  - H.W.ジャンソン他著 木村重信他訳『西洋美術の歴史』創元社 2001年（3,740円）
  - 高階秀爾監修『増補新装 カラー版 西洋美術史』美術出版社 2002年（2,090円）
  - その他、『世界美術大全集』西洋編 全28巻 小学館 1992-97年（各30,800円）等の美術全集、画家別の画集、時代様式や作品について一冊論じられた専門書等。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内課題作品考察発表25%、授業内小テスト25%、リアクションペーパー15%、最終課題レポート35%で、上記到達目標に照らした各回の授業の理解・習熟度を総合的に評価する。
- ・授業内課題作品考察発表では、自らの視点に立って、自分の考えを自分の言葉で表現する力を見る。
- ・授業内小テストでは、シラバスのテーマ欄に挙げた時代様式の特徴、および内容欄に挙げた各時代の代表的な画家や作品の特色についての理解を確認する。
- ・最終課題レポートでは、西洋美術史の専門文献で得た知識を基に深く考察を行い、美術史的な観点から総合的に論ずる力を見る。

【学生の意見等からの気づき】

豊富な画像資料の提示が、学生の理解を助ける。

【学生が準備すべき機器他】

<各種アプリとセキュリティソフトについて>

オンライン授業受講の際は、スマートフォン等ではなく、出来るだけ画面の大きなPCの利用が望ましい。諸般の事情によりスマートフォンのみ利用する場合や、PCの不具合時にスマートフォンを利用する場合に備えて、あらかじめ各種無料アプリ（Google Chrome、Google Classroom、Google Drive、Gmail、Google Calendar、Google Meet等）をダウンロードし（例えばGoogle Driveを入れていない場合、「ファイルが保護されています」と表示が出て、配布資料が閲覧できない）、その上で、それぞれのソフトウェアに大学のアカウントで一度ログインしておくこと（下記の通り、「市ヶ谷情報センター利用ユーザーID」をあらかじめ取得し、個人アカウントではなく、必ず大学アカウントでログインする必要がある）。なおGoogle Classroomへは、Google Chromeでアクセスすることが推奨されている（Microsoft EdgeやInternet Explorer 利用時より安定するとのこと）。

また、クラス全体のセキュリティの観点から、特にスクリーンング期間中は、受講の際に用いる各種端末に（30日間の無料お試し版等でもよいので）セキュリティソフトを入れ、日々アップデートを行うこと。[https://home.kaspersky.co.jp/store/kasperjp/ja\\_JP/html/pbPage.v20\\_trial/ThemeID.37143000](https://home.kaspersky.co.jp/store/kasperjp/ja_JP/html/pbPage.v20_trial/ThemeID.37143000)

<ブライントタッチの修得について>

オンライン授業では、意見交換や質問時など、いろいろと文章をPCで入力する場面がでてきます。ブライントタッチを苦手としている方は、通常レポート執筆時にも大変役立つ技術なので、この機会にぜひマスターしましょう。単純な練習を二週間程行えば、思ったより簡単に身につく技術で、チャレンジの甲斐があります。書籍やインターネット（<https://pcacademy.jp/typing-3>等）でいろいろと解説がありますので、自分に合いそうなものを試してみてください。

【その他の重要事項】

<IT環境の把握について>

オンライン授業を受講するに際して、IT環境の構築が不可欠となる。安定した光回線等の整備が望ましいが、諸般の事情によりそれが難しい場合は、下記サイト等を参照し、少なくとも現状と、受講に際して必要とされる通信量を各自おまかに把握し、モバイルWi-Fiを整備する等、出来る限り対策に努めること。とりわけスマートフォンのみで参加する場合は、通信制限にかからぬよう厳重に注意すること。現状や改善が期待される状況と、受講に必要とされる容量が極端にかみ合わない場合、受講は困難となる（本講義では、原則として長時間に及ぶ動画配信やWeb会議等は行わない予定であるが、月ごとの限度量に達すると極度に通信速度が遅くなり、メールのやりとりさえ遅延し、動画はもちろんのこと静止画の配布資料閲覧や、ディスカッション等もできなくなる事例が見受けられる）。

初回授業でもIT環境アンケートを行うので、各自できるだけ正確に回答できるよう確認しておくこと（回答は任意だが、状況把握のため可能な限り協力を願いたい）。

「UTDH 東京大学人文情報学 オンライン講義の通信量」：  
<https://scrapbox.io/utdh/%E3%82%AA%E3%83%B3%E3%83%A9%E3%82%A4%E3%83%B3%E8%AC%9B%E7%BE%A9%E3%81%AE%E9%80%9A%E4%BF%A1%E9%87%8F>

上記のサイトでも挙げられている昭和女子大の学生が行った調査：  
<https://univ.swu.ac.jp/news/2020/04/17/37000/> 下方のPDF資料等。

<市ヶ谷情報センター利用ユーザーIDの取得について>

各種セキュリティの観点、授業の進め方と方法（動画・画像・文書等各種資料の限定配布、授業内課題作品考察発表、授業内小テスト、授業内リアクションペーパー、最終課題作品リポートの回収等）により、主としてGoogle Classroomを使用するため、受講生は「市ヶ谷情報センター利用ユーザーID」をあらかじめ取得しておくこと。（すでに年間（4-3月6,000円）利用の申請手続きを経ている者以外は、10月に後期半期（10-3月3,000円）の申請が必要となる。詳細は『法政通信』等を参照。学生証番号の頭にc（半角小文字）のついたユーザーIDが使用可能となる。学外からの図書館オンラインデータベース等の利用もこれを前提とする）。

<Google Classroomの使用方法について>

Google社の公式ヘルプセンターをはじめ

<https://support.google.com/edu/classroom/answer/6315899?co=GENIE.Platform%3DDesktop&hl=ja>

下記サイト他、多くの教育機関関係者等も解説を公開しているので、各自検索・参照し、使用方法についてある程度おおまかに把握しておくこと。

<http://sysnavi.bukkyo-u.ac.jp/use/uploads/326e5df35a149768c7281131a6270bcd2fab3f1c.pdf>

<https://www.youtube.com/playlist?list=PL-AMTOjkSDF-V9ZKo6DBVvDzEyVopdTgm>

<初回授業の受け方>

1. 履修希望者は、できる限り1月26日（火）15:00頃（それ以降も可）までに、メールの件名を【冬スク 西洋美術史 氏名】とした上で、授業担当教員宛(masako.hamanishi.47@hosei.ac.jp)に法政大学のアカウントでメール送信すること（法政大学アカウントのメールアドレス以外は不可）。学生証番号、氏名もメール本文に記載すること。

2. こちらから、Google Classroom招待手続きを行う。

3. 法政大学のアカウントで、Google Classroomのクラスへ参加する。

(<https://www.youtube.com/watch?v=d1jGe9mm864> 等で詳細は参照すること)

最後に一言。突然不慣れなオンライン授業の準備が始まり、聞き慣れない用語のオンパレードで、初めのうちは特に戸惑うことや問題が多いように感じられるかもしれませんが、しかし、大方はある程度慣れていくうちに自然と解決していくものです。あまり気負わず、通常の授業ではなかなか体験できないオンライン授業ならではの世界を満喫しつつ、新たなチャレンジを、知恵と工夫で楽しんでいきましょう。

【Outline (in English)】

Art History is an academic field surrounding works of art that can be said to be mirrors of times, society, and culture. In the lecture, studying the artistic expressions of Western art from the ancient Greek to the twentieth century, considering Western art works taking various forms of expression such as architecture, sculpture, painting, crafts and so on.

HIS100TD (史学/History 100)
<b>日本史概説 (冬期スクーリング)</b>
<b>古庄 浩明</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では考古学の成果から復元された日本の原始・古代社会について概観する。本講義を受講することによって、受講者は当該期の概要をつかみ、考古学から見た日本の原始古代を大観することができる。具体的には、人類の発生から弥生時代までと弥生時代から律令国家の成立までに分けて、二年分の講義とする。

#### 【到達目標】

人類の発生から弥生時代までと弥生時代から律令国家の成立までに分けて、二年分の講義とする。本年は、弥生時代から律令国家の成立までを対象として概観していく。受講者は考古資料を中心として、『記紀』や当時の国際情勢も考慮して概観し、そのなかで、考古学が資料をいかに位置づけ、理論化して原始・古代の社会像を構築していくかを理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は、オンデマンド型 (授業資料を事前に提示します) と呼ばれる授業形式で行います。リアルタイムで行う同時双方向型の授業ではありませんので、授業時以外の時間帯にも受講が可能です。授業と教科書を見ながら講義ノートを作成していきます。授業は最終日の23時55分まで公開します。授業はLMS (ラーニングマネジメントシステム) を使用します。普段の対面授業は90~100分です。今回のビデオは30~50分ほどです。90~100分授業のビデオを真剣に見るのは集中力が持たないと思います。従いまして、ビデオ視聴+レポート作成=90~100分ということにしました。また、ビデオが短い分、数多く作ることにしました。回数は授業時間数より多くなりますが、全体の授業内容は対面授業と同じ量です。

- ・授業はYouTubeにて行います。アドレスはLMSでお知らせします。
- ・講義ノートは「古庄浩明の講義ノート <http://wacoffee.blogspot.jp/>」にて法政大学の授業分をダウンロードしてください。プロテクトがかけられています。プロテクトキーはLMSでお知らせします。
- ・教科書は大学指定の生協ご購入できます。お早めに入手なさってください。
- ・授業への質問はLMSをお願いします。ご質問は開講中LMSでいつでも受け付けますが、即答はできません。できるだけ早くお返事を差し上げます。
- ・動画の配信は2021年1月16日から開講期間中 (最終日の1月27日) までとします。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	弥生時代	農耕のはじまり
第2回	弥生時代	鉄器と青銅器
第3回	弥生時代	ムラからクニへ
第4回	弥生時代	邪馬台国と卑弥呼
第5回	古墳時代	古墳とは何か 前方後円墳体制の背景
第6回	古墳時代	前期古墳
第7回	古墳時代	中期古墳 後期古墳
第8回	古墳時代	前方後円墳体制の終焉
第9回	飛鳥時代	東アジアの動向
第10回	飛鳥時代	聖徳太子と推古
第11回	飛鳥時代	大化の改新と天智

第12回	飛鳥時代	飛鳥時代の終わりと「日本」のはじまり 試験
------	------	--------------------------

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストや参考文献などを事前に読んでおくことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

古庄浩明2013『「日本」のはじまり』(第2回改訂発行) 和出版 3000円+税 (生協で販売) \*必ず改訂版をご購入ください。  
昨年まで指定していた、古庄浩明2012『朝日おとなの学びなおし日本史 考古学が解き明かす古代史』朝日新聞出版社 1400円+税) は出版社では売り切れになったそうです。したがって教科書指定から外しましたが、できたらamazonなどで入手なさってください。

#### 【参考書】

古庄浩明2012『朝日おとなの学びなおし日本史 考古学が解き明かす古代史』朝日新聞出版社 1400円+税 (出版社では売り切れになったそうです。amazonで購入できます。できたら入手なさってください。) その他、教科書の参考文献欄を参照。皆さんの学習に役立つ参考文献を多く掲載しています。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点50点、テスト (またはレポート) 50点、合計100点で採点  
・授業をご覧になったら、毎回レポートの提出をLMSでお願いします (毎回レポートはワープロ打ちでかまいません)。それによって授業の平常点をつけます。LMSのレポート提出ボックスで提出してください。字数制限などはありません。  
・本授業の最終授業時間に60分の期末試験を行います。試験問題はLMSのお知らせにて公開します。試験は自筆手書きの解答を写真データ (写真など) でLMSのレポート提出ボックスに提出してください。(理由は、1. コピペしての提出を防ぐ。2. 通常の対面授業であればテストは自筆手書きだから、例年と同じレベルの成績判定を心がけたい、という理由からです。) 提出のための時間を試験の時間とは別に15分取ります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ・プリントを配布して授業を進めるが、すこし作業しないと眠くなるという意見が出たので、穴埋め部分を作った。
- ・授業のYouTubeが長すぎると注意力がなくなるので、短いYouTubeを数多く作ることにした。したがって、回数は12回以上となるが、全体の授業内容は通年通りである。

#### 【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート・ネット環境・デバイス (パソコン・スマホ・プリンター・デジカメ (スマホのカメラでも可)・テストもしくはスクーリング末のレポートは、通年通り自筆手書きでの提出をお願いします。その場合スマホなどで手書きの答えを撮影し、写真データを送って頂く方法で行います) など)

#### 【その他の重要事項】

世界史的視野に立った日本史を心がけて授業を進める。  
1. 教科書を購入し、下記のアドレスからノートをダウンロードして、各自行ってください。教科書は大学の生協で購入できます。必ず改訂版をご購入ください。  
2. ノートは(<http://wacoffee.blogspot.com/>)にアクセスしてダウンロードしてください。プロテクトがかかっています。  
3. 受講したら、毎回レポートを提出してください。受講日・受講回・学籍番号・名前・書いて提出のこと。このレポートによって出席の評点を付けます。  
4. LMS (ラーニングマネジメントシステム) を使用します。  
考古学者。1960年、熊本県生まれ。國學院大学文学部史学科考古学専攻卒業。法政大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修士課程修了。東京国立博物館有史室事務補・土井ヶ浜遺跡人類学ミュージアム学芸員などを歴任。法政大学通信教育部・駒澤大学文学部・国士館大学21世紀アジア学部・跡見学園女子大学人文学科講師などをつとめる。弥生時代から歴史時代までの、考古学からみる社会構造の研究を進める。近年では中央アジア・ウズベキスタン共和国でシルクロードの調査研究・遺跡保存も行っている。  
著作・論文に『玄奘とシルクロード』三恵社2020、『中央アジアの歴史と考古学』三恵社2019、『考古学の世界』三恵社2018、『文化財学の基礎』三恵社2018、『「日本」のはじまり』和出版2013、『朝日おとなの学びなおし 考古学が解き明かす古代史 日本の始まりに迫る』朝日新聞出版2012、『古代における鉄製農具の所有形態』『考古学雑誌』79-3 1994、『土井ヶ浜遺跡の祭祀と社会』『原始・古代日本の祭祀』同成社2007、『中央アジア・ウズベキスタンにおける遺構保存の現状と課題』『21世紀アジア学会紀要』7 2009など、多数。

**【Outline (in English)】**

This lecture will learn about Japan's primitive and ancient history from the archeology. The purpose of the lecture is to know when and how Japanese society was created.

HIS200TD (史学/History 200)

**東洋史概説 (冬期スクーリング)**

宇都宮 美生

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：1群午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

**【到達目標】**

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的な事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニックを身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自レジュメに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料を多く用いて説明する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史1	黄河
第3回	河川史2	長江
第4回	河川史3	渭水
第5回	河川史4	洛水
第6回	運河史	運河の発展
第7回	穀倉	穀物の運搬と保管
第8回	船舶史	船舶の種類と発展
第9回	水軍史	水上の軍事行動
第10回	農業史	灌漑と水車
第11回	庭園史	庭園の種類と発展
第12回	災害史	水害の種類と概要

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前にポータルサイトWeb学習サービスで資料を配布するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。準備・復習時間は1回につきそれぞれ2時間とする。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。ポータルサイトWeb学習サービスで、授業で使用するレジュメを配布するので、事前に印刷しておく。

**【参考書】**

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版  
 富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016年改訂版  
 『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005年  
 その他、随時紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(30%)とレポート(70%)

**【学生の意見等からの気づき】**

この授業では自分で書くことにより、より鮮明に理解してもらいたいので、写真撮影を禁じる。なお、授業を聞き逃す、あるいは欠席する受講生に対しての完成レジュメは配布しない。

**【学生が準備すべき機器他】**

色の鉛筆・ペン・マーカー（あれば青色）：作業をしてもらう。授業で使用するレジュメをすべて印刷しておく。

**【その他の重要事項】****【重要：オンライン授業に関して】**

今回Zoomを使ったオンライン授業を行います。講師一人ですべて対応しますので、円滑な授業をするためにも、今回は特別に以下の条件に対して不都合でない方（了承いただける方）を対象といたします。それ以外の方は、来年度の教室授業への参加をお願いいたします。なお、今回に限りレジュメを配布します。

1. カメラ内蔵のPC（ネット接続）かスマホでネット会話（Zoom）に200分参加できる方のみ参加可能です（URLをクリックするだけの簡単な操作です）。マイクやカメラは不要ですが、初回でZoomの操作に問題がないか全員確認しますので、初回の出席は必須でお願いします。教室授業とはほぼ同じ環境で受講できます。なお、出席をとるため、最初の接続では学生証の名前と同じ「漢字・ひらがな・カタカナ名」で登録ください。それ以外のローマ字表記、家族の名前、旧姓、会社名など出席簿に名前がない方は、本人確認ができませんので参加できません。また、WiFiをご利用の方は、なるべくインターネット環境が良好な場所で接続ください。途中で切れても当方は責任を持ちません。

2. 授業開始20分前から接続できますが、早く接続した方はそのままお待ちください。授業が始まりますと参加できませんので時間厳守でお願いいたします。接続時に出席をとりますので、通常のスクーリングにおける規定の出席率がない方は不合格となります。授業の途中で退出する方は、早退・欠席扱いとなりますのでご注意ください。

3. 授業開始前に、全授業分のレジュメを配りますので、自宅のプリンターまたはコンビニのコピー機で事前に印刷しておいてください（白黒でいいです。かなり多くなりますが、大学までの交通費よりは安いです）。レジュメは穴埋め式なので授業中のパワーポイントの画面を見ながら書き写していただくため、必ず印刷しておいてください。これをもとに最後のレポートを書いていただきます。コンビニでの印刷は、レジュメファイルをUSBかスマホに保存し、コンビニのコピー機を使えば簡単に印刷できます。レジュメはA4サイズなので、コンビニでの印刷はA4二枚をA3一枚と一緒に印刷すると費用は半額です。操作方法は店員に教わってください。

URLは配布資料に記載しています。

4. 初回にZoomを使用した授業の進め方について説明をし、全員の機器テストをしますので、必ず初回の授業には出席してください。2日目以降からしか出席できない方は、ほかの受講生に迷惑になりますので、初回の説明・操作等をいたしません。今回の受講をご遠慮ください。

5. 授業の最後に質問の時間を設けます。この時間中は自由に退出できます。

6. ビデオおよび写真撮影を禁止します。無断でネットにアップされた場合、法的処置をとらせていただきますのでご注意ください。

**【Outline (in English)】**

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

CUM200TD（文化財科学・博物館学 / Cultural assets study and museology 200）

**歴史資料学（日本近世）（冬期スクーリング）**

米崎 清実

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：1群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

近世の地方文書は、さまざまな歴史資料の中で日本各地にある文化財です。また、近世地域史を研究するうえで中心となる史料です。しかし、和紙に墨を用いてくずし字で書かれた地方文書は、現代人には容易に読み解くことができません。本授業では、地方文書の史料学的な意義、近世地域史研究の基礎的な知識を身につけるとともに、くずし字の基礎的な読解力を養うことを目的とします。

**【到達目標】**

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②近世地方文書の特徴と保存の方法を覚える。
- ③近世地域史研究の基礎的な知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Zoomを通じたオンライン授業とし、講義と演習により行います。事前に受講者にLMSを通じて送付する資料をプリントアウトして授業に臨んでください。A3版でプリントアウトするか、それよりもプリントアウトしたものが小さい場合はA3サイズに拡大コピーしてください。まずは自力で読解に取り組みます。授業では受講生に答えてもらった後に、解説します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス、近世の地方文書とは、地方文書の特徴
第2回	地方文書の伝来と保存	地方文書の伝来と保存、地方文書の資料学
第3回	地域史研究の方法	基本的文献の紹介と特徴、地域史研究の方法
第4回	くずし字に慣れる①	変体かなを覚える
第5回	くずし字に慣れる②	数字や人名の書き方を覚える
第6回	くずし字に慣れる③	くずし辞書の引き方を覚える
第7回	くずし字の文章に慣れる①	幕府法令を読む①
第8回	くずし字の文章に慣れる②	幕府法令を読む②
第9回	地方文書に慣れる①	地方文書を読む①
第10回	地方文書に慣れる②	地方文書を読む②
第11回	地方文書に慣れる③	地方文書を読む③
第12回	まとめ	くずし字の独習方法、近世地域史研究に向けた独習法

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に配布した古文書をプリントアウトして、辞書を引きながら予習してください。授業後は必ず復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし。プリントを配布します。

**【参考書】**

くずし字の辞書。授業では、『増補近世古文書解読字典』（柏書房）にもとづいて解説します。今後も近世史を学びたいと考える受講者、日本近世史で卒論を書きたいと考える受講者には『くずし字用例辞典（普及版）』（東京堂出版）を推薦します。すでにくずし字の辞書を所持している場合は、改めて買い揃える必要はありません（ただし、『くずし字解読辞典』（東京堂出版）のみを所持している場合は、『近世古文書解読字典』も所持することをお勧めします）。必ず授業には辞書を側に置いて臨んでください。

**【成績評価の方法と基準】**

成績の評価は期末試験（100%）。全日程の出席を原則とします。毎日、授業中に簡単な課題を出しますので、その提出を以て、出欠の判断とします。欠席した場合は、期末試験の評価から減点します。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度から授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

Zoomを通じたオンライン授業により、受講生にはPC（マイク・カメラを含む）を必要とします。Zoomへの入室時間は、開始5分前～授業終了後10分後まで入室可とします。

**【その他の重要事項】**

受講生への連絡や資料の配布などはLMSを通じて行います。オフィスアワーについては、毎授業終了後にオンライン上で質問を受ける時間を設けます。

**【Outline (in English)】**

Historical materials of early modern local documents are cultural assets in various parts of Japan. In addition, they are important core historical materials used for researching the regional history of early modern Japan. However, it is difficult for people in the present age to decipher the documents written in Kuzushi-ji (classical cursive handwriting characters) on Japanese paper using Indian ink. In this course students learn significance of regional documents as historical studies and acquire the basic knowledge of the study of early modern Japanese regional history through obtaining the basic ability of deciphering Kuzushi-ji.

HIS200TD (史学/History 200)

**西洋史概説 (冬期スクーリング)**

竹下 和亮

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

西洋は世界の様々な地域の一つであるに過ぎないが、同時に、いま私たちが生きる世界の形成にあたって極めて大きな役割を果たしてきた。本講義ではその両面をみすえた上で、とくに中世以降の西洋の歴史の流れ、基本的な歴史用語を解説する。

**【到達目標】**

中世後期以降の西洋の歴史に関する基礎的な知識を習得し、他の地域の歴史と比較したときの独自の特徴と、その後の世界史の形成に果たした役割を理解することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」に関連

**【授業の進め方と方法】**

(1) zoomによるリアルタイム配信です。パソコン等の受信機器、カメラ、マイク、また場合によってはプリンターなどが必要です。原則としてカメラはオンにしてください。zoomのURLは、のちほどLMSにてお伝えいたします。

(2) 資料の配布等で、LMSを使用します

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ヨーロッパの概要と時代区分
第2回	中世後期から近世へ	英仏百年戦争と15-16世紀のヨーロッパ
第3回	宗教改革	ルターとカルヴァン
第4回	近代国家と国際関係の発生 (1)	マキアヴェッリとバリエントスの国家理性論
第5回	近代国家と国際関係の発生 (2)	オランダの興隆
第6回	近代国家と国際関係の発生 (3)	イギリス革命の構造と展開
第7回	フランス アンシアン・レジーム (1)	ヴァロワ朝からブルボン朝へ
第8回	フランス アンシアン・レジーム (2)	フランス絶対王政と社団的編成
第9回	大西洋革命と資本主義世界の成立 (1)	フランス革命の構造
第10回	大西洋革命と資本主義世界の成立 (2)	フランス革命の展開
第11回	大西洋革命と資本主義世界の成立 (3)	南北アメリカ革命の構造と展開
第12回	まとめ	近代革命の比較史

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

文献が配布されたときは、事前に読んでおいてください  
 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

資料とレジュメを配布します

**【参考書】**

特になし

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (40%)

試験 (60%)

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

zoomを使用いたします。資料はweb送信ですので、プリントアウトの機器が必要となります。

**【その他の重要事項】**

オフィス・アワーはzoomにて各授業後に設定いたします。

**【Outline (in English)】**

This class introduces students to the political, economic, social, and intellectual trends that shaped Europe from the late medieval period to the modern age.

ART300TD (芸術学 / Art studies 300)
<b>東洋美術史 (冬期スクーリング)</b>
<b>水上 和則</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

茶を飲む習慣は中国で始まったと言われる。本講義は、茶文化の変遷と共にその度に使用された茶碗と使用法を学んでゆく。我が国に伝来した茶碗や、その後日本化した茶碗についても学ぶ。

### 【到達目標】

中国茶文化のもつ長い歴史を認識する。その都度用いられた茶碗の形と色は、飲茶法と密接に関わることを理解する。日本の茶の湯文化は、中国点茶法より発し発展したものであることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

オンラインによる講義では、You Tubeにより録画配信を予定している。飲茶の様々な方法を図や映像で紹介し、そこで用いられた茶具、なかでも茶碗の移り変わりを詳細にみて行く。

必要な提出物は、LMS（ラーニングマネジメントシステム）を使用して期限までに送付のこと。この他、講義内容についての質問も受け取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	「茶の来た道」	茶を植物学的にどの様に分類しているか。茶の成分と薬効について解説する。日本に茶がもたらされた経路と、その茶の特殊性を歴史的に学んでゆく。
第2回	「世界最古の茶樹」	中国浙江省からは、新石器時代遺跡から茶樹が出土している。遺跡から出土の状況を明らかにする。
第3回	「文字に残る茶」	大阪道修町には薬問屋が集まり、ここには神農さんが親しまれる神社が知られる。史料としての茶は、はやくも前漢時代に始まり、薬として伝わる。
第4回	「遣唐使がもたらした茶文化」	中国から茶がわが国にもたらされたのは、奈良時代であった。
第5回	「唐という時代と喫茶の流行」	遣唐使の実像。井真成の墓碑からみる唐という時代。法門寺出土の茶具を紹介する。
第6回	中国茶のバイブル「茶経」	唐代茶のバイブルと言われる陸羽『茶経』と、同時代文献を読む。唐代の飲茶法と用いられた茶碗を読み解く。
第7回	「『茶経』に記される窯を生産した窯」	七か所の地名と共に、特徴をもつ七窯が『茶経』に記される。踏査した古窯址を紹介する。
第8回	「宋代と点茶の流行」	それまでに見られない規模の点茶の流行を、文献から推察してゆく。また、遊牧民墳墓出土の茶碗を、遺跡報告書から見て行く。

第9回 「蠟面茶と黒釉茶碗」 宋代の喫茶文化は、唐代を超えた。白色をした蠟面茶の存在と黒色の建盞は、点茶法で用いられた理想的組合せであった。

第10回 「曜変天目茶碗」 近年、南宋の首都であった臨安から出土した曜変天目茶碗の紹介をする。あわせて、わが国の曜変天目再現研究について幾例かを示す。

第11回 「海揚がりの貿易陶器」 中国からわが国にもたらされる貿易陶器の中には、多くの茶器や茶碗が含まれる。ここでは新安沈船を取り上げ、積載されていた天目茶碗から、わが国茶の湯文化との関係を考察する。

第12回 「試験」 講義の理解度を確認するための試験

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現時点で、本講義に関わる市販図書は極めて少ないので、知識としての準備学習を要求しない。

受講生には事前に講義資料の配布を行うので、予め当日分の予習をしておくこと。復習には、講義中に用いられた専門用語を別紙に抜き書きし、その意味を丁寧に調べる。予習・復習は合計4時間を目標に行う事。

陶磁器に関する基礎知識を得るために、HP「日本のやきもの」の閲覧を希望する。<http://www.ceramic.or.jp/museum/yakimono>

### 【テキスト（教科書）】

講義資料としてプリントを配布する。

### 【参考書】

『茶文化にそった中国茶碗の考古学』水上和則 勉誠出版 2009年「日本のやきもの」HPから、やきものに関心をもち、やきもの基本的知識をもってもらいたい。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・必要な出席が確認できること。
- ・講義中の提出物(二回程度を予定)。40%の配点。(詳細は講義中に説明する)
- ・最後の講義理解度の試験を受験すること。60%配点。

### 【学生の意見等からの気づき】

「特になし」

### 【学生が準備すべき機器他】

情報機器(パソコン)

配布の講義資料は予め印刷出しをしておくこと。本講義専用ノートを準備して、講義で用いられた専門用語のメモと復習時の意味詳細を記載すること。

### 【その他の重要事項】

受講生との質疑応答や資料の配布・提出物は、大学LMS（ラーニングマネジメントシステム）を使用して行う。

大学講義として新しい分野の為、広く全体像を紹介している。その為にテンポが速く、受講者は欠席すると次講義についてこれない場合がある。欠席をせずに、中国茶文化に興味を持って、楽しく学んでほしい。

### 【Outline (in English)】

It is said that the custom to drink tea originated in China. This lecture learns about the change of the tea culture and a old bowl.

HIS300TD (史学/History 300)
<b>史学演習 (日本) (冬期スクーリング)</b>
中川 洋
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群夜間 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

歴史研究の一つの手法としての産業考古学および産業遺産(近代化遺産)に関する基礎的な知識を習得する。さらに産業遺産の、調査・研究、保存・活用に向けての実務について学ぶ。

**【到達目標】**

日本近現代の産業遺産に関する概念・理論・現状と課題を理解し、産業遺産の調査・研究および保存・活用の知識を含む産業考古学の基礎を習得する。

また、産業遺産の文化財や観光資源としての活用事例を考察して、今日における産業遺産の存在意義や社会的な課題を見出す力を養う。日本の近代化について、産業遺産を通して、自分なりの見方・考え方を持つ手がかりを得ることが期待される。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「史学科：DP1,DP2,DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義は、Zoomでのリアルタイム配信とする。  
 時間やURL、パスワード、入り方など詳細は通教LMSにて案内する。  
 通教LMSを利用して、資料の事前配布や課題の回収を行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
 あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
 なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容と進め方、評価の方法等についてシラバスに沿って解説。
第2回	産業考古学の理念と学史	産業考古学の発祥から現在までの学史を繙き、産業考古学の基本的な理念を学ぶ。
第3回	歴史研究における産業考古学の役割	歴史研究の中で、産業考古学的アプローチがいかに有効か、またどのように役に立つのかを学ぶ。
第4回	ケーススタディ 明治期における交通の近代化と産業遺産	明治期における交通機関の近代化の過程について、産業遺産からアプローチする。
第5回	世界遺産になった産業遺産をめぐる諸問題	富岡製糸場、明治日本の産業革命遺産、という二つの世界遺産について、その課題を検証する。
第6回	現代日本社会と産業遺産	日本の文化財行政、観光行政の両側面を軸に、現代社会の中で産業遺産の意義と課題について考える。
第7回	ケーススタディ 日本の産業遺産 第1次・第2次産業の遺産	国内の第1次・第2次産業関連の産業遺産とその調査研究・保存活用の実例を紹介する。
第8回	ケーススタディ 日本の産業遺産 第3次産業の遺産	国内の第3次産業関連の産業遺産とその調査研究・保存活用の実例を紹介する。
第9回	ケーススタディ 世界の産業遺産	海外の産業遺産とその調査研究・保存活用の実例を紹介する。

第10回	バーチャルツアー 産業遺産を歩く	実地見学会に代えて、on-lineでバーチャル(仮想空間)での見学会を実施。
第11回	産業遺産の調査と研究の実務	産業遺産の調査、研究、評価について実例を参照しつつ学ぶ。
第12回	産業遺産の保存と活用の実務	産業遺産の保存、活用について実例を参照しつつ学ぶ。

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

配付資料を授業前後に予習・復習し、理解を深めるとともに、知識の定着に努めること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

毎講義前に通教LMSを利用しプリントを配布

**【参考書】**

伊東孝『日本の近代化遺産』(岩波書店・岩波新書695)、平井東幸ほか『産業遺産を歩こう』(東洋経済新報社)、二村悟『これだけは見ておきたい日本の産業遺産図鑑』(平凡社) その他、授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点と提出された課題レポートで成績評価を行う。  
 レポートは体裁(形式)と内容(とくにオリジナリティ、事実関係の正確さ)を評価する。詳細は第一回のレポート出題時に解説する。  
 配分は、平常点(30%)・課題レポート(70%)とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

双方向的な授業運営を行う。受講生の作業的学習と質問を活用し、受講生にとって積極的・能動的な授業(アクティブ・ラーニング)となるよう努める。

**【学生が準備すべき機器他】**

Zoomに入れる環境を整えること。  
 スマホまたはインターネットにつながったPC。  
 PCの場合はカメラとマイクが内蔵されたノートPCが望ましいが、ついていないノートパソコンやデスクトップタイプのPCの場合、外付けのWEBカメラ、ヘッドセットが必要。

**【その他の重要事項】**

- ▼Zoomの開始時間、入室可能時間等は、通教LMSにて案内する。
- ▼毎回、通教LMSにて資料を配布する。事前に、プリントアウトして手元に置いておくこと。
- ▼オフィスアワーは特に設けないが、メールでの質問を開講期間中は常時受け付ける。

**【Outline (in English)】**

This class has two main points. The first one is to study the Japanese modern history through modern industrial heritage. The second one is to get a basic knowledge on the industrial archaeology and the heritage of industrial modernization.

GEO400TE (地理学 / Geography 400)

**自然地理学演習 (冬期スクーリング)**

羽佐田 紘大

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：1群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、地形図の基本的な利用方法や自然地理学的な主題図の作成方法を修得するとともに、自然地理学、特に地形学や第四紀学などに関連する文献を読んで発表し、自由に議論していく。

**【到達目標】**

地形図の基本を理解し、目的に応じた主題図を作成できる。  
 PowerPointを使って文献の内容を発表することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Zoomによるリアルタイム配信で実施する。前半は講義・実習形式とし、説明を行った上で、各自地形図を使った実習課題に取り組んでもらう。後半は演習形式に切り替え、学生による文献発表（各自作成したPowerPointのスライドをZoomで画面共有）を行ってもらう。資料の配布および課題の提出については、ラーニングマネジメントシステム（通教LMS）を使用する。配布資料を事前にプリントアウトしてから受講してもらう（プリントアウトの有無はその都度指示する）。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要・計画・評価方法等の説明をするとともに、発表箇所・発表順を決める。
第2回	地形図の基本と地形計測	地形図の基本的情報・図式・注記、地形計測（距離・面積・高さ）の方法について学ぶ。
第3回	地形断面図の作成	地形断面図の作成方法について学ぶ。
第4回	水系図の作成	水系図の作成方法について学ぶ。
第5回	接峰面図の作成	接峰面図の作成方法について学ぶ。
第6回	文献の検索	文献の検索方法を確認する。
第7回	文献発表1	数名の学生が分担部分を発表する。
第8回	文献発表2	数名の学生が分担部分を発表する（前回の続き）。
第9回	文献発表3	数名の学生が分担部分を発表する（前回の続き）。
第10回	文献発表4	数名の学生が分担部分を発表する（前回の続き）。
第11回	文献発表5	数名の学生が分担部分を発表する（前回の続き）。
第12回	文献発表6	数名の学生が分担部分を発表する（前回の続き）。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業内で地形図を使った実習課題に取り組んでもらうが、授業内で終わらない場合は宿題とする。

全員文献を事前に読んでおき、発表者は文献の内容を基にPowerPointを用いてスライドの作成に取り組んでもらう（事前準備）。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

貝塚爽平ほか編（2019）『写真と図でみる地形学 増補新装版』東京大学出版会、5830円（税込）  
 文献発表において使用する。比較的高価であるため、必要箇所のみを通教LMSで事前配布する予定である。

**【参考書】**

授業で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

地形図課題（30%）、発表（50%）、平常点（20%）に基づいて評価する。原則全12回のうち1/3を超える欠席の受講生は評価の対象としない（Zoomで出席状況を確認する）。

なお、オフィスアワーについては、Zoom（毎回の授業終了直後）および通教LMSの「学習に関する質問」で対応する。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

定規や色鉛筆（色ペンでも可）があるとよい。

各自PowerPointやZoomをインストール済みのPCまたはタブレット（PCが望ましい）を用意し、オンラインで受講できる環境を整えておく。

ZoomではPCにマイクおよびカメラ（最近のノートPCであれば標準装備）が付いている必要があるため、必ず確認しておく。

PowerPointの基本的な操作を理解しておくことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

授業中（Zoomミーティング中）の途中入退室は極力避けてもらいたい。

資料の配布および課題の提出については、通教LMSを使用する。配布物の中には事前にプリントアウトが必要なものもあるため、プリントアウトできる環境を整えておく（自宅にプリンターがなくても、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等にコピー機が設置されていることが多い）。

手作業で取り組んだ課題（紙媒体）を通教LMSで提出する際には、スキャンしてデジタル化（PDFファイルに変換）する必要があるため、スキャンできる環境を確認しておく（自宅にスキャナー（スキャン機能付きプリンターを含む）がなくても、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等のコピー機にはスキャン機能がある）。

**【Outline (in English)】**

This class deals with using topographic maps and developing thematic maps on physical geography and reading the literature on physical geography.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)
<b>地理情報システム (GIS) (1) (冬期スクーリング)</b>
<b>中山 大地</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無料で使用できるデスクトップ型地理情報システムであるMANDARA10と表計算ソフトのエクセルを用いて、GISの基本的な操作方法・分析方法を習得する。

#### 【到達目標】

本授業では、インターネットから無料で取得できるGISデータと、エクセルで作成した様々な表を地図上に表示する手法を学ぶ。本授業の到達目標は、卒業論文などで使えるコロプレスマップをMANDARAを用いて作成できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

40分程度の講義と60分程度の実習で1回の授業とする。講義はオンデマンドビデオで行う。

資料・データの配布、オンデマンドビデオの公開、質問の受付はGoogle Classroomを用いて行う。

オンデマンドビデオはYouTubeを用い、ビデオへのリンクはGoogle Classroomに掲示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	GISの基礎的な概念を解説する。
第2回	コロプレスマップの基礎	基本的な地図であるコロプレスマップの作成方法を学ぶ。
第3回	MANDARAの基礎	MANDARAの基礎的な操作方法を学ぶ。
第4回	ミニレポートの作成(1)	都道府県別の人口マップと人口密度マップを作成し、考察を加えてミニレポートを作成し、提出する。
第5回	エクセルとMANDARAを用いた地図の作成	表計算ソフトであるエクセルでデータを処理し、その結果をMANDARAで地図化する方法を学ぶ。
第6回	統計データの活用	総務省統計局のホームページから統計データをダウンロードし、エクセルを使って分析を行う。結果を地図化する。
第7回	統計データを用いた地図の作成	e-statからダウンロードしたデータを用い、人口統計に関する地図を4枚作成する。
第8回	ミニレポートの作成(2)	作成した地図から考察を行い、ミニレポートを作成して提出する。
第9回	最終レポートに向けて1：課題の検討	個人ごとに最終レポート課題をどのように進めるか検討する。
第10回	最終レポートに向けて2：データの入手と分析	e-statなどから必要なデータをダウンロードし、エクセルなどを用いてデータ処理を行う。
第11回	最終レポートに向けて3：地図の作成	処理したデータを用いて地図を作成する。

第12回 最終レポートに向け 作成した地図を元に考察を行い、  
て4：考察とレポー レポートを完成させる。  
トの作成

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

エクセルなどの表計算ソフトの基本的な操作方法を予習しておくこと。また、自分のパソコンにMANDARA10をインストールしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

#### 【参考書】

谷謙二（2018）『フリーGISソフト MANDARA10 パーフェクトマスター』古今書院、¥3,800 + 税、ISBN9784772281195

#### 【成績評価の方法と基準】

授業内で提出するミニレポート（2回、合計50%）と最終レポート（50%）で成績を評価する。

ミニレポート(1)の評価基準：人口を対象としたコロプレスマップの作成方法（階級区分の方法、各階級の塗り分け、階級のシンボルなど）がきちんと理解できていること。

ミニレポート(2)の評価基準：人口データの分析が適切に行われていること。増減を表す図が適切に作成できていること。作成した図を適切に考察できていること。

最終レポートの評価基準：最終レポートの課題に対して、適切なデータを用いているか、適切な分析がなされているか、適切な図が作成できているか。

最終レポートの課題は以下である。

一都三県（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の市区町村（東京都の島嶼部を除く）における少子高齢化に関する事象を示す地図を作成し、考察を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

(1) MANDARA10をインストールしたPCを用意すること。MANDARA10は以下のページからダウンロードできる。

<http://ktgis.net/mandara/index.php>

(2) Google ClassroomへのアクセスはGoogle Chromeの最新版を使用すること。

(3) Google Classroomを使用するため、有償の市ヶ谷情報センター利用ユーザーIDをあらかじめ取得しておくこと（詳細は「学習のしおり2020」152頁以降を参照）。

(4) Google Classroomへの登録は、通信教育部のポータルサイト「Web学習サービス」より送付されるクラス登録リンクにアクセスし、市ヶ谷情報センター利用ユーザーIDを用いてログインして登録すること。

(5) Google Classroomの利用方法については通信教育部事務ならびに担当教員のサポート外になるため、Google Classroomの利用に不安がある学生は受講を避けてください。

#### 【Outline (in English)】

This class aims to learn basic operation and analysis methods of GIS using MANDARA (free desktop geographic information system) and Excel (spreadsheet software).

HUG400TE（人文地理学 / Human geography 400）

**人文地理学演習（冬期スクーリング）**

小原 文明

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：1群午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は、地理学科において地理学を学ぶ上で必要な知識・技能を修得するための授業です。具体的には、人文地理学の研究を行う上で必要となる調査方法や分析方法について、資料・データの収集や図表の作成といった作業を通じて学んでいきます。

**【到達目標】**

本授業を通じて、人文地理学という学問の性質を理解できるようになり、また、人文地理学の卒業論文を作成するために必要不可欠な知識・技能を修得できるようになることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

まずは、人文地理学の研究を行う上で必要となる基礎的な知識や方法を学びます。そして、さまざまな作業を通じて、それら知識や方法を修得できるようにします。したがって、授業の半分は講義形式で行い、残り半分は実習形式（作業）で行います。なお、今年度のこの授業はZoomを用いたオンライン形式で行います。

また、資料の配布や課題の回収は通教LMSを通じて行うので、受講者は使用できるよう準備をしておいてください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学における研究の基礎	研究とは何か？ 調査とは何か？ 分析とは何か？
第2回	調査・論文作成の基礎的作業①	文献の種類・探し方
第3回	調査・論文作成の基礎的作業②	論文を読む（読書ノートの作成）
第4回	データの加工・図表の作成①	統計データ、地図、各種資料について
第5回	データの加工・図表の作成②	表の作成
第6回	データの加工・図表の作成③	グラフの作成
第7回	データの加工・図表の作成④	主題図の作成
第8回	データの加工・図表の作成⑤	地図表現を考える
第9回	フィールドワークの手法①	フィールドワークの意味、準備作業
第10回	フィールドワークの手法②	踏査・観察による調査
第11回	フィールドワークの手法③	アンケート・ヒアリング調査
第12回	成果の公表／総括	プレゼンテーション、学術論文の執筆について／人文地理学における研究方法についてのまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の性格上、授業内だけでなく、授業外の時間に取り組んでもらう課題が出されます。具体的には、スクーリング前の事前学習（課題）やスクーリング期間中の授業外学習（課題）が必要となります。事前学習に必要な課題は改めて指示します。なお、本授業における授業外学習（準備・復習・課題）の時間はおよそ2時間となります。

**【テキスト（教科書）】**

- 野間晴雄・香川貴志・土平博・山田周二・河角龍典・小原文明（2017）：『ジオ・パルNEO—地理学・地域調査便利帖—（第2版）』海青社、2,500円（税抜）。
- その他に、担当でレジュメ・配布プリントを用意します。

**【参考書】**

参考書は授業中に適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（出席、受講態度など）：30%、各種課題：70%で評価します。

平常点については積極的に取り組む姿勢を重視します。また、課題については、提出状況や正確性、丁寧などを重視します。

なお、Zoomのチャット機能を用いて出欠をとります。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講生による進度の違いに対応できるよう留意します。また、スクーリング期間中の授業外学習の課題については、他のスクーリング科目の履修に支障のない範囲で課すよう留意します。

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・Zoomによるオンライン形式の授業を行うので、インターネットに接続されたパソコンを準備してください。なお、授業ではディスカッション等を行うので、Zoomを使用する際には、マイクやカメラを使用してもらう場合があります。
- ・配布資料によっては事前にプリントアウトしてもらう必要があります。
- ・課題の内容によっては、手作業で作成した課題の画像をパソコンに取り込んで提出してもらう必要があるため、スキャナやデジタルカメラ（携帯カメラ可。ただし、画像が読み取れる程度の解像度は必要）を用意しておいてください。

**【その他の重要事項】**

事前学習（課題）の内容やスクーリングに必要な備品については通教LMSにて指示しますので、履修学生はきちんと準備をしておいてください。また、事前学習に必要な資料等についても通教LMSを通じて配布します。

なお、各日程の授業終了後30分間をオフィスアワーとするので、Zoomにて質問等を受け付けます。

**【Outline (in English)】**

This course introduces various fundamental knowledge, skills and way of thinking which were needed in learning geography to students taking this course. So the goal of this course are to obtain fundamental knowledge of geography, to obtain methods and skills of geographical research, and to acquire ways of geographical thinking.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)

**測量学及び測量実習 (2) (冬期スクーリング)**

豊田 友夫

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群前半集中  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

空間に関する最も基本的な情報は位置に関する情報である。位置に関する情報を取得する手段として用いられるのが測量である。この授業では、測量に関する基礎的な理論を学ぶとともに、実習を行うことにより測量の基礎的な技術の習得を目指す。特にトータルステーションを用いた基準点測量及び最新の技術であるGNSS測量を中心に講義、実習を行う。あわせて、測量士補資格に必要な知識を習得する。

**【到達目標】**

測量に関する基礎的な知識を習得する。基準点測量の理論を理解することにより、実習で得られたデータの計算処理を習得する。またGNSS測量の原理と方法を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基準点測量の方法について学び実習を行う。実習で得られた観測データに基づいて新点の座標及び標高の計算を行う。また、GNSS測量の原理について講義を行い簡単な実習を行う。この授業では、教室で行う講義と実際に機材を使った実習を組み合わせる基準点測量の方法について学ぶ。

測量機器の操作、実観測作業等対面授業となり、ウイルス性の感染拡大防止のため授業全体が中止となる可能性があります。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	基準点測量の概要	基準点測量の概要について講義を行う
第2回	基準点測量の方法	基準点測量の方法について講義を行う
第3回	基準点測量の実習1	三脚の据え方及びトータルステーションの使い方を実習する
第4回	基準点測量の実習2	トータルステーションによる角観測及び距離測定
第5回	基準点測量の実習3	トータルステーションを用いた基準点測量の方法を学習する
第6回	基準点測量の実習4	トータルステーションを用いた基準点測量を実習する
第7回	実習のデータ処理1	基準点測量のデータ処理方法について講義する
第8回	実習のデータ処理2	基準点測量実習データの処理計算について実習を行う
第9回	実習のデータ処理3	基準点測量実習データの処理方法及び測量結果の整理を実習する
第10回	GNSS測量1	GNSS測量の原理について講義する
第11回	GNSS測量2	GNSS測量方法について講義する
第12回	GNSS測量3	ハンディーGNSSを用いてGNSS単独測位を体験する

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

授業時間内に終了しなかったデータ整理はグループごとに協力して次の時間までに終わらせておくこと。

電卓は機種によって使い方が異なるので、持参した電卓を使えるようにしておくこと。(例：sin、cosの関数)

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

長谷川昌弘・川端良和「改訂新版 基礎測量学」電気書院

**【参考書】**

長谷川昌弘・川端良和「改訂新版 基礎測量学」電気書院  
 飯村友三郎ほか著「公共測量教程 T S - G P Sによる基準点測量 三訂版」東洋書店

国土交通省「作業規程の準則」平成28年9月27日更新 (web版)

[https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/jyunsoku/pdf/h28/H28\\_junsoku\\_honbun.pdf](https://psgsv2.gsi.go.jp/koukyou/jyunsoku/pdf/h28/H28_junsoku_honbun.pdf)

**【成績評価の方法と基準】**

出席、授業中の行う計算・測量の成果 (最終課題)、実習態度及び試験を総合して評価する。提出物の欠如4回以上 (実習期間については3回以上) の欠席者には単位を与えられない。

評価の割合は「平常点」25%、授業中に行う計算・測量成果10%、実習態度25%、試験40%とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

夏季スクーリングの内容と重複する箇所は省略する。

**【学生が準備すべき機器他】**

関数電卓及び直定規を必ず持参すること。三角関数を用いた計算を行う。

事前に、電卓を使用し、度分秒⇔度単位、sin、cos等の関数機能を確認してください。

**【Outline (in English)】**

In this class, students will learn the basic theory of surveying, and aim to acquire basic techniques of surveying through practical training. Lectures and exercises will be conducted focusing on reference point surveying using the total station and GNSS surveying which is the latest technology.

HUG300TE (人文地理学 / Human geography 300)
<b>現地研究 (冬期スクーリング)</b>
<b>前畑 明美</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、実際にフィールドを歩き、考察し、参加者で議論していく3日間の実習となります。本州に近接し、観光の島として知られる神奈川県の城ヶ島と江の島を見聞するとともに、明治期以降に架橋島となり急激な社会変容を遂げていった両島のあり様から、日本の島々の架橋化の現状と問題について考えていきます。

### 【到達目標】

フィールドでの歴史的かつ多角的な考察によって、近代化の過程における日本の島々の社会変化とそのしくみを捉えることを目指します。またそこから、戦後の島嶼国日本の社会システムについて現況とともに理解を深めていくことも、この現地研究の大切な目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

主要ポイントにおいて解説を加えながら両島を巡っていきます。見学時やミーティングでは参加者全員で議論し、考察内容を整理していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	現地研究とその意義、3日間の行程の説明
第2回	「島嶼性」と日本の島々（1）	人々の暮らしと島、「島」から「離島」へ
第3回	「島嶼性」と日本の島々（2）	島の定義、「島嶼性」とは
第4回	「島嶼性」と日本の島々（3）	島嶼ネットワークとその歴史的展開
第5回	日本の島嶼政策（1）	島嶼国日本における島の政策
第6回	日本の島嶼政策（2）	島々の架橋化と架橋島の現状
第7回	研究対象地域の概要 I	城ヶ島の自然・歴史・文化
第8回	架橋島の考察 I	城ヶ島の社会変容とその意味
第9回	研究対象地域の概要 II	江の島の自然・歴史・文化
第10回	架橋島の考察 II	江の島の社会変容とその意味
第11回	日本の島々の架橋化とその問題	架橋島の社会変容のしくみと戦後日本の社会システム
第12回	現地研究の総括	考察内容のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島、海、橋・大橋（海橋）、城ヶ島、江の島などのキーワードに日頃から注目いただき、一般書で結構ですので何冊か読まれておくことをおすすめいたします。また実施前にプリント資料を配布いたしますので、現地集合までにこちらも一通り目を通していただきたいと思います。現地研究の終了後、後日まとめのリポートをご提出いただきます。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストの使用なし。事前にプリント資料を配布いたします。

### 【参考書】

参考文献として、ぜひ以下の文献のいずれかを通読いただきたいと思います。大学もしくは最寄りの図書館をご利用ください。

- ・スティーヴン・A.ロイル、中俣均訳（2018）：『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局 ¥4,400 + 税
- ・田辺悟（2015）：『島』法政大学出版局 ¥3,200 + 税

### 【成績評価の方法と基準】

参加状況（丁寧な考察、積極性）（50%）と現地研究終了後に提出いただくレポート（50%）で評価いたします。

### 【学生の意見等からの気づき】

質問や議論の時間を十分確保していきたいと考えています。

### 【学生が準備すべき機器他】

野外での記録にも適したメモ帳をぜひご準備ください。

### 【その他の重要事項】

・宿泊、集合・解散の時間につきまして。通例2泊3日の実習ですが、今回は感染症対策として0泊3日となり、3日ともに現地集合、現地解散となります。遠方の方はご自身で宿泊の確保をよろしくお願いたします。現地での集合・解散時間は、ラッシュアワーを避けつつゆとりをもって設定する予定です。

・感染症対策として、実施日の2週間前から体調管理表に記入いただき、3日間携帯をお願いする予定です。プリント資料の配布時に詳しく説明をいたします。万全の対策・準備をいただくとともに、実習中はソーシャルディスタンス、住民や観光客の方々へのご配慮をよろしくお願いたします。

・冬季の実施であり、また歩く行程が多いため、体調管理に十分ご注意ください。衣服や靴なども工夫いただきますよう。

### 【Outline (in English)】

This course is a three-day practice in which you actually walk in the field, consider, and discuss with the participants. We will visit Jogashima and Enoshima in Kanagawa prefecture, which are known as sightseeing islands, located near Honshu. In addition, we will consider the social changes of these bridged islands and understand the social system of Japan as a whole after World War II.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)

**現地研究 (冬期スクーリング)**

羽佐田 紘大

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群後半集中  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

濃尾平野北部を事例に、丘陵・台地・低地の自然環境を理解するとともに、人間活動との関係を考えていく。

**【到達目標】**

地域の産業や歴史を把握した上で、自然環境と人々とのかかわりを考察できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的には、終日屋外で実施する（一部屋内施設を利用する）。0泊3日となるため、日ごとの現地集合、現地解散となる。

見学場所（予定）は以下の通りである。

1日目：岐阜県岐阜市

2日目：愛知県犬山市

3日目：岐阜県大垣市

見学場所の都合によっては、一部を愛知県名古屋市やその周辺地域に変更することもある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回		
第2回		
第3回		
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

濃尾平野の自然環境（地形・地質・植生など）や産業・歴史について事前に予備知識を得ておくことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

特に指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

全日程の出席が成績評価の前提である。

授業への積極的な姿勢（50%）および事後レポート（50%）により評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

屋外のみではなく、屋内施設の活用にも努めます。

徒歩が大変との声もありますが、授業の性質を理解してもらいたいです。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業の性質上、徒歩での見学が多くなるため、日頃から体力の向上に努めてほしい。

**【その他の重要事項】**

野外活動が中心となるため、防寒・防風対策を念入りにしてほしい。徒歩や公共交通機関による移動を念頭に動きやすい服装・装備で臨むこと。

実施期間：2021年2月1日（月）～3日（水）

実施場所：濃尾平野北部（愛知県犬山市、岐阜県岐阜市・大垣市）

集合から解散までにかかる交通費・入館料：約2500円

上記費用に含まれないもの：保険料（詳細は後日事務から連絡）、食事代、現地一所在地の往復交通費、宿泊費、その他集合前・解散後の諸費用

現地での交通費・入館料等はその都度各自で支払うこと（代理徴収はしない）。

形式上0泊3日の日帰りとしているため、宿泊が必要な場合は各自で確保すること。

**【Outline (in English)】**

This course introduces mainly the relationship between nature and humans in the northern part of Nobi Plain.

GEO200TE (地理学 / Geography 200)
<b>地誌学特講 (冬期スクーリング)</b>
<b>加藤 美雄</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群後半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

また、気候・気象学は、自然地理学を構成する主要な柱の1つである。この授業では、気候・気象学を学習・理解するのに要求される基礎的なデータの処理方法を身につける。

#### 【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。
- ・気候学の分野の研究で利用される図を作成することにより、図から自然現象を理解する知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業はZoomでのリアルタイム配信により行う。また資料、及び課題の配布・受取はLMSを使用する。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講者全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問、試験や作図を実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	はじめに 地球温暖化の概要	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。更に、気象学・気候学の理解度を確認する簡単な試験を行う。
2	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
3	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。
4	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。

5	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
6	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について、説明する。
7	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極状況について解説する。
8	緩和策1 (国際的な取り組み)	IPCC、COPなどによる国際的な取り組みを説明する。また、現状の課題について、検討する。更に、国際社会共通の目標であるSDGsについて、理解を深める。
9	緩和策2 (日本の取り組み)	国際情勢にかんがみ、日本の取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
10	適応策1 (産業分野)	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
11	適応策2 (災害対応) 懐疑論への対応	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。また、地球温暖化懐疑論に対する説明と対応策を検討する。
12	地球温暖化への対応 (地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論) とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、全員が発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。全体を通じて「自然地理学 (気候・気象)」(通信教育テキスト)を熟読しておくこと。また、地球温暖化の現状に関して、新聞などで把握しておくこと。

授業内容に関して以下の論文を理解しておくことが必要である。受講者は以下の論文と提出用紙を事前に配布するので、授業の初日に提出すること。

・佐藤典人 (2006) : NZにおける近年の水河の消長とその気候的背景. 法政地理 38. 25 - 36.

また、講義期間中に次の作図を行う。等値線の引き方、気温の時刻補正、移動平均、風の恒存度の算出、アイソプレスの作成、気候学図の作成、高層観測値の算出

更に、「地球温暖化の緩和策と適応策」についてレポートを作成するので、授業の初日に説明し、授業の最終日 (2/3) までに提出のこと。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用せずプリントを事前に配布する。

#### 【参考書】

・地球温暖化-そのメカニズムと不確実性-。日本気象学会 地球環境問題委員会編。朝倉書店

#### 【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- 1、平常点：10%
  - ・出席及び授業中の質問やグループ討議での発言など
- 2、論文のまとめ：10%
  - ・佐藤典人 (2006) : NZにおける近年の水河の消長とその気候的背景. 法政地理 38. 25 - 36.
- 3、学習到達確認試験：20% (4% × 5)
  - ・各テーマ終了後に実施
- 4、作図：30% (5% × 6)
  - ・等値線の引き方、気温の時刻補正、移動平均、風の恒存度の算出、アイソプレスの作成、気候学図の作成、高層観測値の算出
  - 以上のうち6課題について作図を実施
- 5、レポート：30%
  - ・地球温暖化の緩和策と適応策

地球温暖化について説明し、緩和策と適応策について事例を示して述べよ。

**【学生の意見等からの気づき】**

専門的な内容は分かりづらいという意見があったので、できるだけ理解しやすいように説明する。また、受講生からの要望により授業内容を変更することがある。

**【学生が準備すべき機器他】**

Zoom を使用して講義、及び学生への質問や学生同士の議論を行うので、音声と映像は支障がないように準備しておくこと。

**【その他の重要事項】**

資料、及び課題の配布・受取はLMSを使用する。

学生の入室可能時間は、開始10分前～5分後まで入室可とする。入室、及び退室時はチャットで「学生証番号と名前」を入れること。これが出席の確認になる。

講義資料は事前に配布するので授業前にプリントアウトしておくこと。

また、オフィスアワーの実施に関しては、質問をメールで受け付ける。メールアドレスは講義資料に記載するので、スターリング前でも質問があれば受け付ける。

なお、Zoomによる講義中は、授業や他の受講生の迷惑になる行為は行わないこと。

講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、南極の状況については、越冬体験をもとに説明する。

**【Outline (in English)】**

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

Furthermore, Climatology / Meteorology are one of the main aspects of Physical Geography.

The aim of this course is to help students acquire fundamental process data to learn and understand climatology / meteorology.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)

**社会経済思想史／社会思想史 (冬期スクーリング)**

伊藤 直樹

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
備考 (履修条件等)：**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

古代から20世紀にまでおよぶヨーロッパを中心とした社会思想史について、各時代ごとの思想の特徴を理解し、一定程度自分の言葉で語るができるようにすることにある。

**【到達目標】**

社会経済思想史とは、社会について、あるいは国家について、ひとがどのように考えてきたかを、歴史的にたどるものである。私たちは「個」として生きている。だが、その「個」は、逃れようもなく社会のなかに生きている。だとすれば、その「個」が生きているところの「社会」は、どのようなものであるか。思想家たちが、古代において、16,17世紀において、また19世紀において、それぞれに社会をとらえ、またあるべき社会の姿を提示しようとしてきた。そうした社会についての思想をとらえることができるようになることが、本科目の目標である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「日本文学科：DP2,DP3」「経済：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

原則的に、Zoomでのリアルタイム配信で行う。不測の事態が生じた場合にのみ、YouTubeによる録画配信を補助的に用いる。

予め、テキストに目を通しておいてもらいたい。そのテキストの要点、あるいは理解のポイントを講義する。

一人でテキストを読んでいるだけだと、気づきにくいニュアンスや、理解に資するエピソードや具体例などを紹介したい。

また、毎授業の終わりに、ちょっとしたコメントペーパーを書いてもらう。質問や感想である。次の時間に、それを紹介し、手がかりになしながら、復習をしたい。

また、授業資料を通教LMSにアップするので、3日前までに、それをダウンロードし、プリントアウトして手元に置き、受講して欲しい。授業では、カメラ／マイクが使用可能な受講生から2、3人「ビデオ・オン担当」を決めます。その担当者は、その時間にはビデオ・オンにして授業を受けます。教員は、ときおりその受講生に理解の確認をとったり、感想をもらったりしながら、授業を進めます。ビデオ・オン担当については第1回めの講義の時に、説明して、担当を決めます。したがって、マイク／カメラは必ず必要ではありませんが、使用可能であることを推奨します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	社会思想史とはなにか？	社会思想とはなにかということ
第2回	古代ギリシアの社会思想(1)	正義概念の確立者としてのヘリオドスほか
第3回	古代ギリシアの社会思想(2)	ソフィストとプラトンの正義観
第4回	古代ギリシアの社会思想(3)	アリストテレスの正義観
第5回	社会契約論について(1)	ホッブズの社会契約論
第6回	社会契約論について(2)	ロック、ルソーの社会契約論

第7回	ドイツ18世紀後半	啓蒙思想についての社会思想(1)
第8回	ドイツ18世紀後半	カントの社会思想の社会思想(2)
第9回	ドイツ19世紀前半	ヘーゲルの社会思想の社会思想
第10回	フランス18世紀末	フランス革命後の思想状況以後の社会思想
第11回	フランス19世紀の	ベルクソンについて社会思想
第12回	テストとまとめ	全体の要点を確認し、テストを行う

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

通教テキスト『社会思想史』第2版、濱田義文・加来彰俊・湯川桂一郎・牧野英二・星野勉・安孫子信・笠原賢介・酒井健、2010年

**【参考書】**

領域が多岐にわたるので、特定の参考書は用いない。

**【成績評価の方法と基準】**

最後に行うテストと、毎授業でのコメントペーパーによって評価する。割合は以下の通りである。

テスト70%、コメントペーパー30%

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline (in English)】**

This course is to help students acquire an understanding of the social theory in Europe. At the end of the course, participants are expected to explain the essential concepts of each era by own words.

MAN200TF (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (冬期スクーリング)</b>
稲垣 京輔
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

本授業は、経営学がどのような学問であるかを、広く体系的に学ぶための科目であり、経営学を初めて学ぶ学生を対象とした講義です。

**【到達目標】**

本講義では、いくつかのテーマに沿って、経営学全般を横断的に概観するため、そのなかから自分の興味のある分野を見つけることが課題となります。さらに、より深く学びたい分野を絞り込んでいくために、単に知識を暗記するだけではなく、思考力を鍛え、自らが課題を設定して、それに取り組むような積極的な姿勢を養います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回講義形式で、授業を進めます。前期と後期では、経営事象を分析する着眼点が異なります。前半のテーマは、企業とは何か、そのガバナンスの視点からお話しします。後半は、人材、知識といった企業の内部に蓄積される経営資源のマネジメントと事業戦略について講義をおこないます。

講義は、youtubeにて録画配信いたします。配信アドレスと資料の配布は、通教LMSにておこないます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概観 経営学の主な領域の分類とそれらを学ぶ意義
第2回	企業とは何か・経営学とは何か	企業の営利性 営利組織と非営利組織 ガバナンス 経営資源
第3回	企業のしくみ1:小規模企業の組織	起業のシミュレーション 成長と資源のギャップ 企業の種類と形態、株式の上場 経営者の役割
第4回	企業のしくみ2:大規模企業の組織	機能の分割と権限委譲 組織構造のバリエーション ミドルマネジャーの役割
第5回	組織の構造と設計	官僚制とは何か 組織デザインの諸形態 分業と調整
第6回	雇用制度のしくみ	日本の雇用制度 終身雇用から成果主義へ 働き方改革と雇用の変化
第7回	キャリアデザインと組織へのコミットメント	組織へのコミットメントの変化 組織への愛着 キャリア・サイクル
第8回	リーダーシップとは何か	リーダーシップの2軸 ビジヨナリーリーダー
第9回	事業戦略入門1	業界構造と競争のあり方について考える。企業の資源とは何かについて考える
第10回	事業戦略入門2	ゲームとしての競争戦略。組織学習による戦略の変化。
第11回	企業家活動と戦略形成	企業家活動の戦略的な思考

第12回 まとめとテスト これまでのまとめ  
レポート課題による試験

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

各回の課題について、その日のうちに復習するようにしてください。また、参考文献を提示しますので、知識を深めたい人は、そちらを参照するようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

講義ノートはスライドです。必要があったらメモをとるようにしてください。

**【参考書】**

各回の最後に提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

最終回のレポートで評価します (100%)。

**【学生の意見等からの気づき】**

今回はyoutube配信という形で、学生の皆様となかなか直接的な接点を持ってませんが、フィードバックがあれば、次の講義に反映したいと思います。質問、意見などがございましたら、通教LMSにお寄せください。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし

**【その他の重要事項】**

オフィスアワーは、通教LMSを通じておこないます

**【Outline (in English)】**

This lecture is aimed to learn of the business broadly and basically. In particular we focus the first step of the management how the firm make function from the view of organizational behavior, organizational structure and business strategy

PRI200TG (情報学基礎 / Principles of informatics 200) <b>情報科学実習 (1) (a コース) / コンピュータ入門 (1) (a コース) (冬期スクーリング)</b> <b>寺脇 由紀</b> カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：
---

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報学の基礎を学び、ワープロソフトや表計算ソフトなどの情報リテラシーを習得する。学問をする上で必要となるコンピュータを使った情報整理や知識獲得を行えるように技術を醸成する。

### 【到達目標】

情報学の基礎知識を習得し、ワープロソフト、表計算ソフトなどをツールとして利用し、情報の整理・収集・編集・集計ができるようになることを目標とする。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1」「日本文学科：DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2」「地理学科：DP3」「商業学科：情報・統計学」に関連

### 【授業の進め方と方法】

情報学の基礎知識を学んだ上で、オフィスソフトなどに関する情報リテラシーを習得する。

授業は講義と実習にて進める。具体的には、講義で情報学に関する知識および、コンピュータの基本操作等の基礎知識を得たうえで、学生各位が、コンピュータを用いた実習を行う。本年度はオンラインによる講義が予定されているため、実習は家庭学習となる。家庭学習の後、グループディスカッションを実施し、教員による解説およびデモンストレーションを行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、また、本講義で前提となるソフトウェアなど環境に関する説明を行う。
第2回	PCの基本操作	オペレーティングシステムの機能を学び、Windowsの基本操作と、キーボード入力の練習をする。
第3回	情報共有や学習のためのソフトウェアシステム操作	eラーニングシステムなど、オンライン環境で学習を進める上で必要なソフトウェアの操作を理解する
第4回	日本語ワープロソフトの操作	日本語ワープロソフトの基本操作を知り、さらには各種の編集機能を学ぶことで効果的な文書作りができるようにする。
第5回	プレゼンテーションソフトの基本操作	プレゼンテーションソフトの基本操作を学習する。
第6回	効果的なプレゼンテーションの構成	聴衆に対して効果的にプレゼンテーションを行うための構成要素について学ぶ。
第7回	プレゼンテーションソフトにおける各種表現	プレゼンテーションソフト特有の機能を学び、各種表現のための操作を習得する
第8回	表計算ソフトの基本操作	表計算ソフトの基本操作を学習し、相対参照、絶対参照の考え方を理解する。
第9回	データ集計の基礎	数式や関数を利用した集計方法を学ぶ。

第10回	表計算ソフトにおける関数の利用	論理関数や情報検索関数などの各種関数の使い方を学ぶ。
第11回	表計算ソフトの活用	グラフ表現や効率よくデータを集計し、管理する方法について学ぶ。
第12回	まとめ	日本語ワープロソフト、プレゼンテーションソフト、表計算ソフトで学んだ技術のまとめを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うソフトウェアを用いて行う課題が課せられます。この課題を行うことが授業の復習となり、授業で説明した技術を習得する上で大変重要なものになりますので、必ず行うようにしてください。なお、今年度のオンライン授業下において、課題は家庭学習にて実施していただきます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教員が作成する資料を用いて講義を進めます。特定の書籍の購入の必要はありません。

### 【参考書】

授業内さらには授業後に自主学習する際、有効な情報源となるような文献を授業内で紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

以下の点から総合的に評価します。  
 毎回の課題の出来と授業への取り組み態度 < 60% >  
 小アンケートや小レポートの出来と提出状況 < 30% >  
 ディスカッションへの貢献度 < 10% >

### 【学生の意見等からの気づき】

過年度、デモンストレーション交えながらすすめる講義に好評をいただいています。

今年度も、デモンストレーションを用い、また、多くの学生が学習したいと考える内容をとりいれていきます。

上記の授業運営は、学生みなさんの積極的な授業態度と、皆で講義の時間を共有しているという意識の上に成り立つことはいまでもありません。

学生のみなさんは、自身のみでなく、本授業の履修者全員にとって有益な時間を作ろうという気持ちをもって講義に参加してください。

### 【学生が準備すべき機器他】

学生個人のパソコン（カメラ・マイク有り）、インターネット接続環境、Microsoft office(Word, Excel, PowerPoint),

Eラーニングシステム google classroom（資料配布・課題提出・質問受付で使用）、および、オンラインビデオ会議システム zoom を利用します（2020年12月時点）。

以下は教員が授業で用いるパソコンのスペックです。以下のスペックにて講義を進めていきますので、可能であれば、以下のスペック相当のパソコン環境を準備してください。

OS: Windows 10, 64bit Professional版

オフィス: Microsoft Office Professional Plus 2010（バージョン14）

CPU: Core i5以上

メモリ: 8GB以上

ストレージ: SSD256GB以上

### 【その他の重要事項】

1) 限られた講義時間となります。このため教員が講義で用いる環境と異なるOSやバージョンを使っている学生について、個別の説明には応じられない場合があります(教員が用いる環境は、法政大学の情報教室とほぼ同等の環境となります)。

2) 各種ソフトウェアを用いた実習を伴う講義であるため、キーボード入力ができること（1分間に100文字以上入力できること）が望ましいです。

3) 過年度の傾向より、学生みなさんの既存の知識の差が大きいです。単元によっては講義で基礎技術の説明も行うため、十分な技術をお持ちの学生の方はお付き合いいただく内容が含まれますが、授業に参加していただくことが求められます。

4) 個人的な事情を過度に主張する、頻繁に離席するなどの講義への参加態度が著しく好ましくない場合や、他人が作成した課題を提出するなどの講義に対する努力が認められない場合は、成績をお出しすることができない場合もありますので注意してください。

5) 基本的には **zoom** を用いたオンタイム講義配信にて実施いたしますが、単元の内容によっては資料配布型講義の形態にて授業を実施する回があります。

6) オフィスアワーについて

**Zoom**(授業後)、または、**GoogleClassroom**にて受け付けます

7) **zoom** 講義時のマイクとカメラの使用について

教員の求めがあった場合、または、グループディスカッション時は、カメラのオン、マイクのオンをしてください。

特にグループディスカッションを行う時間にマイクが使えないという学生の方は、講義へ参加ができない(学習することができない)とみなされますので欠席扱いとなります。注意してください。

8) **zoom** への途中入室、途中退出等のルールについて

**zoom** 講義開始後5分間は、途中入室を許可します。

途中退出は行わないでください。途中退出した場合は欠席扱いといたします。

やむを得ず講義中に離席する場合は **zoom** のチャット機能で必ず申告してください。

頻繁に離席した場合は、単位獲得に必要な学習時間を確保できていないとみなされますので欠席といたします。

9) **zoom** アカウント名について

**zoom** のアカウントには、学籍番号と(大学届出の漢字で)氏名を記載してください。

**zoom** 講義ログイン時に **zoom** アカウントと履修者名簿と照会します。セキュリティの問題にて、履修者名簿と照会できないアカウント名につきましては、**zoom** への入室を許可しません。

9) 出席について

以下の方法で出席を採取します。

**zoom** へのログイン時に、**zoom** 待機室を設けます。待機室から許可する際に、履修者名簿と照会します(この照会をもって出席採取といたします)。

10) 教材・配布資料の印刷について

教材などの配布資料は、講義開始時間の20分前に **google classroom** にアップロードいたします(教材・資料の内容によっては、講義時間中にアップロードする場合があります)。

**zoom** 講義において、教材・配布資料を画面共有しますので印刷はしなくてよいです。

しかし印刷して学習に臨みたいという方は、先に述べたとおり、講義開始時間の20分前目安にアップロードしますので、各自の責任において印刷をお願いします。

**[Outline (in English)]**

This course introduces the foundations of informatics to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Obtain basic knowledge about the informatics.
- ・ acquire the necessary computer skills and information literacy needed to achieve a better performance in their university studies.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>人的資源管理論Ⅱ (冬期スクーリング)</b>
<b>山口 壘</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：1群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源管理(Human Resource Management)は、経営学・商学のなかで、経営資源としてのヒトの管理を扱う学問分野です。本科目では、とくに周辺部に位置づけられてきた人的資源の管理と活用に注目します。

#### 【到達目標】

人的資源管理論Ⅱでは、以下の①②の到達目標を設定しました。  
 ①とくに周辺部に位置づけられてきた人的資源の管理と活用について、理解を深める。  
 ②授業内容に関連する研究テーマと実証的な課題を自らたて、それを明らかにするための具体的な方法を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経営学・商学」「自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

・1日目（第1回、2回）と2日目以降の前半の授業（第3回、5回、7回、9回、11回）は、youtube等の録画配信で講義をおこないます。録画公開期間は、各授業日の10時00分から最終日（1月27日）16時40分までとします。

・試験日を除く2日目以降の後半の授業（第4回、6回、8回、10回）は、講義（録画配信）のなかで指示する、各テーマに関連する実証的な研究論文を読んでもらいます。指示する研究論文は2～3本（日本語）を予定しています。読んだ研究論文の内容と批判的検討をまとめたリアクションペーパーは、各授業日の翌日13時00分までに、通教LMS「学習に関する質問」を利用して提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業内容の説明、基本的な枠組み・概念の整理
第2回	人的資源管理Ⅰの復習	企業内キャリアと人事管理
第3回	内外環境の変化と人的資源（1）	人的資源管理を規定する内外環境
第4回	内外環境の変化と人的資源（2）	関連する実証的な研究の紹介
第5回	非正社員の管理と活用（1）	就業形態の多様化、雇用ポートフォリオ
第6回	非正社員の管理と活用（2）	関連する実証的な研究の紹介
第7回	「周辺的」な人的資源（1）	働く場の女性、高齢者の働き方
第8回	「周辺的」な人的資源（2）	関連する実証的な研究の紹介
第9回	国際化する人的資源（1）	国際人的資源管理、移民・外国人労働者
第10回	国際化する人的資源（2）	関連する実証的な研究の紹介
第11回	試験・まとめと解説（1）	まとめと解説

#### 第12回 試験・まとめと解説 試験 (2)

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの該当する箇所を読んでください。また、新聞記事に日々目を通し、仕事や雇用に関する最新の情報に触れることも大事です。復習として、関心のあるトピックを扱った個別の学術論文を探して読んでみましょう。たとえば『日本労働研究雑誌』のバックナンバーは、労働政策研究・研修機構のホームページ（<http://www.jil.go.jp/institute/zassi/>）にも掲載されており便利です。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『よくわかる 産業社会学』ミネルヴァ書房、上林千恵子編著、2012年、¥2,600+税

#### 【参考書】

『新しい人事労務管理 第6版(有斐閣アルマ)』有斐閣、佐藤博樹・藤村博之・八代充史著、2019年、¥2,100+税

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、試験50%で評価します。平常点は、各授業日のリアクションペーパーを評価します。試験では、授業内容に関連する研究テーマと実証的な課題を自らたて、それを明らかにするための具体的な方法を考えてもらいます。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

オンライン環境

#### 【その他の重要事項】

授業で使用する講義資料と関連する研究論文は、通教LMS「教材・資料」にアップします。資料と研究論文は、プリントアウトのうえ熟読することを勧めます。

・オフィスアワー制度には、通教LMS「学習に関する質問」を利用します。

#### 【Outline (in English)】

Human Resource Management is a branch of social science, which studies management and utilization of personnel as corporate resources.

In this class, we learn the diversification of human resources: periphery of labor market structure.

MAN200TF（経営学 / Management 200）

## 経営学特講（冬期スクーリング）

## 近能 善範

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：2群午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、イノベーション・マネジメント（技術管理論）の基礎を学びます。

イノベーションとは、「顧客に価値をもたらすような、新しい製品やサービス、新しい生産手段、新しいビジネスの仕組みなど。および、そうしたものを創出し、経済的利益を獲得していくプロセスのこと」を意味しています。もっと単純には、「顧客に新しい価値をもたらすようなモノやサービス、仕組みを実現し、新規需要を創出すること」と考えて差し支えありません。例えば、スマートフォンやパソコン、インターネットや宅配サービスの登場などは、身近なイノベーションの事例です。イノベーションは、われわれの生活を一変するインパクトを有するばかりでなく、企業や経済が持続的に成長していくために必要不可欠な役割を果たします。

こうしたイノベーションを実現していく上では、一般に、研究・技術開発の成果を製品化し、市場に投入し、それが幅広い顧客に受け入れられるまで育て上げ、なおかつ、続々と参入してくる競合他社との激しい競争に勝ち残っていくためのマネジメントが必要不可欠となります。ここでは、単なる技術マネジメントを超えた、組織や戦略に対する深い理解と実践が問われることとなります。

本講義では、こうしたイノベーション・マネジメントの基礎的な部分を、しっかりと身につけていただきたいと考えています。

## 【到達目標】

この授業では、イノベーション・マネジメント（技術管理論）に関わる基本的な考え方や概念、基礎的な知識などを身につけていただくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本授業は、Youtube等による動画配信を中心としたオンライン形式で実施致します。

受講生は、Youtube等によって配信される動画を視聴した上で、毎日、通教LMSにて課題を提出する必要があります。また、最終試験も、通教LMS（または、技術的な事情によってはGoogle Form）にて行う予定です。

配信動画のURLや課題提出の方法については、通教LMSを通じてお知らせします。視聴可能期間・課題提出可能期間を限定する予定です。授業期間中は毎日必ず、通教LMSの該当箇所を確認するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロダクション	講義ガイダンス イノベーション・マネジメント（技術管理論）とはどういう学問か
第2回	イノベーションとは何か、なぜ重要なのか(1)	イノベーションの定義
第3回	イノベーションとは何か、なぜ重要なのか(2)	なぜイノベーションが重要なのか

第4回	イノベーションのプロセス	イノベーションのプロセスと3つの関門
第5回	イノベーションのパターン(1)	「製品ライフサイクル」と「普及曲線」①
第6回	イノベーションのパターン(2)	「普及曲線」②と「技術進歩のS字曲線」
第7回	イノベーションのパターン(3)	「A-Uモデル」①
第8回	イノベーションのパターン(4)	「A-Uモデル」②と「ラディカル・イノベーション」と「インクリメンタル・イノベーション」
第9回	ラディカル・イノベーションと企業の競争力	「チャレンジ精神の喪失」「組織的な柔軟性の喪失」「過去の資産の負債化」
第10回	イノベーションのタイプと企業の競争力(1)	「能力増強型イノベーション」／「能力破壊型イノベーション」と企業の競争力
第11回	イノベーションのタイプと企業の競争力(2)	「持続的イノベーション」／「断続的イノベーション」と企業の競争力
第12回	学習成果の確認	授業内試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に際し、動画を視聴し、テキストの該当箇所や配布資料を読み込んだ上で、課題を提出することが求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

近能善範・高井文子 著『コア・テキスト イノベーション・マネジメント』、新世社、2010年。（第1章～5章までを使用する予定です。）

## 【参考書】

・参考書は特にありません。  
 ・毎回のプリントを、通教LMSを通じて事前配布する予定です。  
 （※配布時期につきましては、講義3日前までを予定しています。）

## 【成績評価の方法と基準】

授業内の課題が50点満点、授業内試験が50点満点の、総合計に基づいて評価する予定です。なお、授業内試験を受けなかった場合は成績を「E」とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

今回も、なるべくさまざまな業界の事例を交え、ビデオ教材なども利用しながら、わかりやすく説明していきます。

## 【学生が準備すべき機器他】

インターネットを介して、Youtube等で動画を視聴し、また通教LMSを利用して課題を提出することのできる情報機器をご準備ください。

課題提出の際には200～400字程度×2～3問の文字入力を伴う場合がありますので、スマートフォンよりも、PCやタブレット端末の方が望ましいと思います。

## 【その他の重要事項】

配信動画のURLは、授業直前まで確定することができません。これらについては通教LMSでお知らせしますので、授業期間中は毎日必ず、本シラバスの該当箇所を確認するようにしてください。

オフィスアワーにつきましては、原則として通教LMSにて受付を致します。

## 【Outline (in English)】

"Innovation management" means a strategic management leveraged by technology. The goal of this class is to understand basic knowledge and ideas concerning "Innovation management" with concrete examples from various industries.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)
<b>演習 (冬期スクーリング)</b>
<b>福多 裕志</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群前半集中 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

演習のテーマ：表計算ソフト[エクセル]を駆使した財務データ分析  
 本演習では、マイクロソフト社のエクセルを利用しインターネット  
 上にある実際の財務データを統計処理する基本を学ぶ。いかなる組  
 織にあっても必要となる財務数値に基づく財務諸表分析の基礎的知  
 識と統計手法(記述統計、推測統計の一部)の実践方法を、着実に習  
 得することが目的である。

#### 【到達目標】

1. 実在する上場企業の財務諸表(貸借対照表、損益計算書等)をイン  
ターネット上で検索し、表計算シートに取り込むこと。
2. 基礎統計学を援用しながら、エクセル上でデータを処理し、それ  
らを適切に解釈できるようになること。
3. 計算結果に基づき、各企業の財務体質の基本的な考え方を理解す  
ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自  
 由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

当授業では、教科書を使用し会計理論に基づいた定量的財務諸表分  
 析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表を駆  
 使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の  
 経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業  
 を展開する。授業の進行に合わせて参加者が問題への解答や自らの分  
 析結果に関する5分程度の発表が求められる。なお、当科目は全授  
 業回数を、ZOOMでのリアルタイム配信とし、資料の配布等は通教  
 LMSにて行う。従って当科目履修希望者にはZOOM授業に参加可  
 能なPC環境が要求される。遅刻の扱いは実教室に参加した場合と  
 同様の扱いとする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義計画	本コース全体の概要および財務 諸表分析の概念の説明
第2回	財務諸表の枠組み： BS、IS、CFS	貸借対照表、損益計算書、 キャッシュ・フロー計算書の基 本構造、ストック項目、フロー 項目等の概念説明
第3回	経営分析の目的と財 務データ	経営分析の目的およびインター ネット上の入手可能財務データ の検索
第4回	データ解析(1)：財務 安全性	財務安全性(流動比率、自己資本 比率)に関し、統計的処理を行 い、その解釈の仕方を学習：平 均值、中位値、標準偏差、分散、 歪度、尖度、等の理解および問 題演習
第5回	データ解析(2)：効率 性	効率性(総資産回転率、棚卸資産 回転率)に関し、統計的処理を行 い、その解釈の仕方を学習
第6回	平均値の推定(1)	正規分布およびt分布の学習お よび問題演習

第7回	平均値の推定(2)	エクセルの「データ分析」機能 にある平均値の区間推定
第8回	データ解析(3)：収益 性	収益性(ROA、ROE)に関し、統 計的処理を行い、その解釈の仕 方を学習
第9回	データ解析(4)：成長 性	成長性(ストック項目、フロー項 目)に関し、統計的処理を行い、 その解釈の仕方を学習
第10回	損益分岐点分析の基 本	変動費、固定費、総費用等の諸 概念の確認、固変分解、最小二 乗法、損益分岐点比率、安全余 裕率
第11回	損益分岐点分析と コース全体の復習	損益分岐点分析の問題演習およ びコース全体の総括
第12回	授業内試験：60分	授業内で学習した各項目に関す る計算問題の試験を実施

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。記述  
 統計学の基礎事項を授業までに確認すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

青木茂男編著『要説 経営分析 五訂版』森山書店、2016年。¥4,400+  
 税

#### 【参考書】

- 1) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、  
1995年。¥5,500
- 2) 國貞克則『財務3表実践活用法』(朝日新書)朝日新聞出版、2012  
年。¥792
- 3) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 4) 桜井久勝『財務諸表分析(第8版)』中央経済社、2020年。¥3,740
- 5) 西内啓『統計学が最強の学問である』ダイヤモンド社、2013年。  
¥1,760

#### 【成績評価の方法と基準】

最終筆記試験80%、発表20%

最終試験は授業内容に関連する計算問題

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

ZOOM(オンラインシステム)による授業を実施するので、PCには  
 カメラ、マイクが内蔵されているか、あるいは外付けの機器が必要  
 であり、授業全体を通してマイクロソフト社が提供するエクセルが  
 必要である。

#### 【その他の重要事項】

・自らPCを駆使し、積極的に計算問題等を解く努力をしなければ単  
 位修得は難しい。統計学の基礎的知識とエクセルの基本操作を習得  
 していることが望ましい。

・オフィスアワーについては、ZOOM授業内および可能な限り授業  
 の前後に時間を取り対応する予定である。

関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、統計学

#### 【Outline (in English)】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the  
 company's financial statements. In this course, we focus our  
 attention on some basic and important ratios and concepts  
 and learn how to statistically process the financial data on the  
 internet using 'MS Excel' actively.

PRI200TG (情報学基礎 / Principles of informatics 200) <b>情報科学実習 (2) (b コース) / コンピュータ入門 (2) (b コース) (冬期スクーリング)</b>
児玉 靖司
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

表計算ソフトウェア Excel のマクロ言語としての Visual Basic Applications (以下、VBA という) について学ぶ。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークや Word による文書作成を行う。その後、Excel について簡単に触れ、マクロ言語の意義を解説し、VBA の文法から応用問題について解説する。

## 【到達目標】

コンピュータの基礎を理解し、表計算ソフトウェア Excel について理解してマクロ言語を使いこなして応用となる処理を記述できることが目標である。問題解決のためにモデル化し適宜プログラミングできることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1」「日本文学科：DP4」「史学科：DP1」「地理学科：DP2」「地理学科：DP3」「商業学科：情報・統計学」 に関連

## 【授業の進め方と方法】

コンピュータ上で様々な処理を実行することができる表計算ソフトウェア Excel 全般に解説し、そのマクロ言語としての VBA を解説する。Zoom にて開講。プログラミング言語として細かな命令から比較的大きなプログラミングまで行なうことができるようにする。最初に、コンピュータの基礎として、ネットワークに関する話題、ワードによる簡単な文書作成を行い、変数と型から、式、文について説明し、分岐文、繰り返し文を説明する。後半には、ユーザフォームを使った簡単なアプリケーション、アルゴリズムについて説明する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の導入を行う。
第2回	コンピュータの仕組み	簡単にコンピュータの仕組みとネットワークについて学ぶ。
第3回	Word による文書作成	Word による簡単な文書作成について学ぶ。
第4回	表計算の基礎	Excel の入門について学ぶ。
第5回	表計算の応用	Excel の応用について学ぶ。
第6回	VBA の起動	Excel のマクロとして備わっている Visual Basic Applications の簡単な使い方について学ぶ。
第7回	変数と型	変数と型について学ぶ。
第8回	定数と演算子	定数と演算子について学ぶ。
第9回	分岐	分岐について学ぶ。
第10回	繰り返し	繰り返しについて学ぶ。
第11回	構造化プログラミング	構造化プログラミングの応用について学ぶ。
第12回	レポート課題	簡単な試験としてレポート課題を課す。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミングに関する実習なので予習、復習をすることが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

Google Classroom 上に講義資料（配布資料のみ）を提示する。

## 【参考書】

特に専門性の高い内容については、適宜、講義の中で指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、提出されたレポート、最終試験（50%）により総合的に判断する。

## 【学生の意見等からの気づき】

プログラミングの初学者でも理解できるように工夫する。

## 【学生が準備すべき機器他】

コンピュータ、講義資料を多用し詳しく解説する。Zoom によるオンライン授業である。

Classroom 上で情報をやり取りする。

## 【その他の重要事項】

問題解決のための情報活用能力および簡単なプログラミング能力を養う。

「オフフィスアワー」は特に設けないが、Zoom での授業中や Classroom 上にて質問に対応する。

Zoom によるオンライン授業中には、PC のカメラや画面を共有して質問すること（カメラは必須ではないが、カメラで自身を映して質問することが望ましい）。

## 【関連科目】

情報学に関する基礎科目

## 【Outline (in English)】

Learning about Visual Basic for Applications (VBA) as a macro language for spreadsheet software called Excel. First, as a basis for a computer, documents are created using a network or Word. We will explain the significance of the macro language and explain applications from the VBA grammar.

MAN200TF (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (冬期スクーリング)</b>
<b>岸本 直樹</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、まず、預貯金やローンの金利に関わる様々な計算方法を学びます。また、債券および株式に関して投資家として知っておくよい、それらの仕組みや制度、さらに初歩的な分析手法を学びます。

なお、コロナ禍の影響を受けて授業はすべてオンラインで行います。その結果、たいへん申し訳ないですが、受講するには下記記す機器やソフトの用意が必要になります。また、恐縮ですが、受講者数についても上限を設定します。

#### 【到達目標】

次の3つを到達目標に掲げます。

- ① 利率や将来価値、現在価値の概念を理解し、それらに関する基本的な計算ができる。
- ② 債券の仕組みを理解し、利回り計算や債券投資に関する初歩的な分析ができる。
- ③ 株式の仕組みを理解し、配当割引モデルや株式評価の指標による初歩的な分析ができる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。基本的に Zoom 上で Power Point を使って講義します。常にオンにする必要はないですが、必要に応じて受講者もマイクおよびカメラが利用できることを前提にして授業をしますので、その用意をお願いします。また、授業中に計算することがありますので、Microsoft Excel が使える用意をしてください。ただし、Microsoft Excel はパソコンだけでなく、タブレットやスマートフォンでも使えるようですので、それらのいずれかが使えれば結構です。さらに、試験等で Microsoft Excel のほか、Microsoft Word を利用する可能性があります。なお、通教 LMS も利用する予定です。また、授業の途中入室や途中退出を可能にします。さらに、配布資料は事前にプリントアウトした方が使い易いかもしれませんが、プリントアウトすることは必須ではありません。ちなみに、質問等は、毎回の授業の後、16:40 以降の一定の時間帯の間に受け付ける予定です。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと金融・証券市場の概観	授業の進め方や成績評価方法などの説明をする。次に、債券市場、株式市場、デリバティブ市場を概説する。
2	利率、将来価値、現在価値 (1)	将来価値、現在価値の計算ほか、複利と単利の違いを学習する。
3	利率、将来価値、現在価値 (2)	将来価値、現在価値の計算をキャッシュフローが複数ある場合に拡張する。
4	利率、将来価値、現在価値 (3)	様々な複利期間について将来価値および現在価値の計算を学習するほか、1年当たりの利率として表示されるものについて学習する。

5	利率、将来価値、現在価値 (4)	利率、将来価値、現在価値を住宅ローン等に適用する。
6	債券入門 (1)	債券の基本的な仕組みと用語を学習する。
7	債券入門 (2)	最終利回りと債券投資のリスクを学習する。
8	債券分析の基礎 (1)	金利の変動要因を学習する。
9	債券分析の基礎 (2)	債券投資の方法を学習する。
10	株式入門 (1)	株式の基本的な仕組みと用語を学習する。
11	株式入門 (2)	配当割引モデルと株式評価のための指標を学習する
12	テスト	この授業で扱ったトピック全般について試験を実施します。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定テキスト (教科書) の予習・復習をしっかりと行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

岸本直樹・池田昌幸共著、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣。

#### 【参考書】

特になし。

#### 【成績評価の方法と基準】

テストが70%、クイズおよび授業態度が30%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、あるいは、スマートフォンのいずれかを必ず用意してください。授業は Zoom を使って行います。また、Zoom 上でマイクとカメラを利用できるようにしてください。さらに、これらの機器で Microsoft Excel と Microsoft Word が使えるようにしてください。ちなみに、Microsoft Excel および Microsoft Word がすべてのスマートフォンで使えるかどうかは知りませんが、私は自分の iPhone にこれらのソフトをインストールしています。また、通教 LMS も利用する予定です。

#### 【その他の重要事項】

教科書は、アマゾン等のほか、法政大学生協でもオンラインで販売しています。2020年度の春は全国的に大学で利用する教科書が入手しづらい状況が発生しました。したがって、入手に困らないように、早めに入手することを強く勧めます。

なお、この授業を担当する岸本は、2002年度および2004年度に開講された「経済学特講」、2015年度に開講された「金融論」、さらに、2018年度に開講された「経営学特講」も担当しました。これらの授業は、私が担当する本年度の「経営学特講」と内容が類似している部分が多いので、これらの授業を履修した人は、私が担当する本年度の「経営学特講」を履修しないでください。

また、期末試験でできるだけカンニングが起らないようにするため、独特の方法で期末試験を実施する予定です。

#### 【Outline (in English)】

This course offers an introduction to finance. It has three objectives. (1) To teach the concepts and the computation of the future value and the present value of cash flows. (2) To give students basic tools for analyzing bonds. (3) To give students basic tools for analyzing stocks.

**教育実習事前指導（社会・商業）（冬期スクーリング）**

木村 良成

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：単位  
 期間：2群前半集中  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

社会科学系の教科における教育実習に参加する際に、その目的や指導方法を理解し、達成できるようにする。実習の心得や指導案作成を含めた模擬授業を行うことによって学生が授業を行うにあたっての技術を向上させる。また生徒理解を深め、教科及び学級担任としての活動および生徒の理解方法を習得する。

**【到達目標】**

中等教育実習に参加した際、教育実習生として最高水準で参加できるように学習を行う。その事前の学習を集中的に、効果的に習得することを目標と定める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

教育実習に対する十分な心構えを学習するとともに、学生の模擬授業も併せておこなう。また、今後展開が予想されるアクティブラーニングについての考察も受講者全員で行う。（アクティブラーニングは事前に内容及び運用方法を調査しておいてください。）

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	受講に対するアンケート、教育実習への心構え、模擬授業の順序の確認など（初日の連絡事項を含む）
第2回	教育実習のための心構え①	教育実習に対する事前の用意
第3回	教育実習のための心構え②	教育実習中における教材研究方法
第4回	教育実習のための心構え③	教育実習中における教壇実習（情報機器操作の応用を含む）
第5回	教育実習のための心構え④	教育実習中における教員や生徒との接し方
第6回	教育実習のための心構え⑤	研究授業に向けての用意（学習指導案の書き方）一般授業とアクティブラーニングの相違点
第7回	模擬授業①（中学校社会科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第8回	模擬授業②（高等学校地歴科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第9回	模擬授業③（高等学校公民科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第10回	模擬授業④（高等学校商業科）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第11回	模擬授業⑤（複数教科を取得する学生）	学生の模擬授業 その模擬授業に対する学生同士のグループ討議及び反省点
第12回	まとめ・教育の目的・意義を考える 提出課題について※	まとめの講義（教育実習における失敗事例を学ぶ）

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

これといった事前学習は特に必要ないが、各自が歩んできた中学校（中学校及び高等学校）の体験を整理し、書きとめておく。模擬授業における学習指導案（一般授業で行った場合とアクティブラーニングで行った場合）を期間中に宿題として出します。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。プリント配布。

**【参考書】**

中学校学習指導要領解説  
 高等学校学習指導要領解説

**【成績評価の方法と基準】**

授業における取組状況（30%）、模擬授業（30%）、課題としてのレポート（40%）が評価基準です。  
 ※授業への出席を鑑み、最終日の課題用紙を渡します。（最終日に試験は実施しません。）  
 全て総合的に判断し、教育実習への参加の可否を評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。（授業で使用できる電子機器類に関しては事前に調査しておくこと。）

**【その他の重要事項】**

教育実習に参加予定の学生は必修である。来年度以降実習予定のある学生は必ず受講すること。

**【Outline (in English)】**

Students learn in order to perform at the highest level when they participate in the teaching practice. They study how to prepare for it. They make guidance plan, do mock lesson, and consider active learning.

<b>教育実習事前指導（国語）（冬期スクーリング）</b>
<b>水野 多満司</b>
カテゴリー：冬期   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：単位 期間：2群午後 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国語科教育実習に必要な指導技術、適切な言動及び子ども理解について検討し、参加者交互に交流する中で身につける。特にLGBTQなど、多様性のある人権に細心の心遣いができるように考える。

#### 【到達目標】

教材理解を進め、指導案、板書計画と技術、発問計画を自ら作成することが出来る。生徒達の人権に配慮した指導や言動が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

教材研究、指導案の作成、板書計画、発問計画の立て方の学習と教壇実習を中心に行う。子どもの現状や問題などを共有し、どう対処すべきか討議する。今年度は特に、板書練習に力を入れたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「教育実習の手引き」の読み合わせ確認。講義計画の説明。教育実習での諸注意、重要事項の確認。
第2回	使用教材の選定と各分野の指導案作りについて	評論文、物語、古典、その他の教材を示し、自ら取り組む教材を決める。その授業の進め方、指導案作成等について検討する。
第3回	教壇実習・1	模擬授業（板書計画と板書実習計画）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第4回	教壇実習・2	模擬授業（発問と質問の適格性）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第5回	教壇実習・3	模擬授業（現国・文学的文章）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第6回	教壇実習・4	模擬授業（現国・評論的文章）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第7回	教壇実習・5	模擬授業（現国・詩・韻文）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第8回	教壇実習・6	模擬授業（古典教材の重点確認）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第9回	教壇実習・7	模擬授業（古典・物語等）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第10回	教壇実習・8	模擬授業（古典・韻文・随筆等）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。
第11回	教壇実習・9	模擬授業（文法事項のおさらい）を行い、振り返りをする中で、成果と課題を交流する。

第12回 講義のまとめと論文 講義全般の振り返りと、教育実習での重要事項を確認し、論文試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「教育実習の手引き」を良く読んでくる。教育実習校での打ち合わせが既にある場合（教材の指定など）は、講義前に伝えられるように、教材等を持ち込むこと。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。学習プリントを配布する。教育実習校で何か指定された物がある場合は、学生自身で持ち込む。

#### 【参考書】

学習指導要領等。

#### 【成績評価の方法と基準】

「当日レポート」による日々の評価と論作文試験で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。教壇実習の時間配分に配慮したい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

シラバスの各時間の分野の配置および指導については、受講生の準備教材、希望によって、調整して、講義を展開する。

#### 【Outline (in English)】

Especially, modern literature, classic literature, poetry, classical grammar, and so on. Adding to them, students would be required to acquire skills in the blackboard.

**教職実践演習（冬期スクーリング）**

遠藤 野ゆり

カテゴリー：冬期 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：2群午後

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業は、グループワークも加味した演習形式の集団指導と個別学生への指導とを組み合わせる。

具体的には、個別的指導については、開始当初に「教職のための力量獲得についての自己評価」と「履修カルテ」を提出してもらい、個別課題を設定する。必要に応じて中間報告を提出してもらい、講義修了時に個人研究成果報告書の作成を求める。なお、必要に応じて適宜、個別面談も行う。

演習形式を基本とする講義は、次の4つから構成される。

①教職のあり方や実態、法規等を理解し考える報告・討論、②模擬授業も含めた授業実践の共同研究、③生徒指導に関する事例研究、④以上を踏まえて、学生自ら設定した模擬授業も含む研究成果発表である。

なお、必要に応じて現職教員のレクチャーを組み入れることもある。

**【到達目標】**

教職科目及び関連科目の履修を踏まえ、教職を担うに相応しい知識や技能、姿勢や態度を理解し習得することを通じて、教員免許取得に求められる資質・能力を形成することが目標である。

具体的には、①学校現場における授業を進める指導スキル（授業指導案の作成を含む）の習熟、②専門とする教科領域における教育内容についての研究力量の形成、③子ども理解及び学級・学校の実態の理解、④教職に向けての明確な意志と各自の目標設定の形成、⑤演習参加（グループ討論を含む）における積極的なコミュニケーションと対人関係のスキルの獲得、の5点が到達目標となる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

**【授業の進め方と方法】**

グループワークや模擬授業を含めた演習形式で行う。初回には、あらかじめ課した課題をグループで検討し、今後の授業方針を、受講者のニーズに応じて詳細に決める。原則として全授業に出席し、討議や模擬授業に積極的に参加することが求められる。毎時授業後に簡単な課題が出るので次回までにそれを遂行したうえで臨むことが求められる。なお、受講生のニーズ等に合わせて組み立てや順番を変更する可能性がある。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション ：本講義の目標と構成	講義の目標と構成をオリエンテーションし、履修カルテや事前提出レポート等を、修正を含めて点検する。
第2回	教育実習の振り返り	各自の教育実習の総括および事前提出レポートを素材に、教職に就くために欠かせない力量やスキルとはなにかという観点から、教育実習を振り返る。
第3回	教職のあり方－報告と討論①：職務や労働条件	職務の多様性（登校指導、給食指導、身体・健康管理に関する指導、清掃指導等を含む）の理解を含み、教師の職務の全体像と労働条件を理解する。

第4回	教職のあり方－報告と討論②：教師の専門性と権限	教育法規に基づき、教師の権限や自由、子どもの権利を理解し、教師の専門性を向上させる制度やしくみを理解する。併せて、教師が学び続ける姿勢や取組みについても考える。
第5回	教職のあり方－報告と討論③：学級運営と教員の評価・管理、学校評価	学級経営の基本的あり方について理解し、また教員が相互に協力して学校教育を推進していく同僚性のあり方を考える。
第6回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（1）：単元、目標と評価、生徒理解を重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第7回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（2）：教材と教具、内容と構成を重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第8回	授業指導の実際－授業記録の共同研究（3）：指導方法とコミュニケーションを重点に	6、7、8回については、担当教科・分野に関する授業記録（VTR、DVD、実践記録等）を素材に、授業の構成要素に関する重点を毎回設定しながら、共同で授業研究をする。
第9回	生徒指導の事例研究（1）：不登校やいじめ、対人関係トラブル	9、10回については、テーマに対応する個別事例を取り上げ、その中で生徒認識や教師の指導方法を、ロールプレイなども取り入れて検討する。
第10回	生徒指導の事例研究（2）：家庭・親との対話や支援、地域・他機関との連携	9、10回については、テーマに対応する個別事例を取り上げ、その中で生徒認識や教師の指導方法を、ロールプレイなども取り入れて検討する。
第11回	学生研究成果発表とその集団検討（1）：研究対象は中学校	11、12、13回については、学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない、発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し、問題点や課題を出し合い議論する。
第12回	学生研究成果発表とその集団検討（2）：研究対象は高校	11、12、13回については、学生自らが設定した模擬授業を含む研究発表をおこない、発表者自身の省察もふくめて集団で事実や出来事を確認し、問題点や課題を出し合い議論する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

初回を受講する前に教育実習の振り返りしておく（教育実習日誌にまとめたレポートを中心に）。特に、教育実習期間中に実施した自分の授業に関して、授業記録（指導案、実際の進行、生徒との対応、指導教諭からの指摘）を事前にまとめておく。また、自分の担当科目に関して模擬授業が実施できるように準備する。毎日授業後に授業で学んだことをミニレポートとしてまとめ、これを総括したものを最終レポートとして提出する。以上の具体的な課題は初回時に提示する。

**【テキスト（教科書）】**

筒井美紀・遠藤野ゆり編『ベストをつくす教育実習 強みを活かし実力を伸ばす』2017・有斐閣  
その他必要な文献や資料は授業内で指定、あるいは配布する。

**【参考書】**

文部科学白書最新版（インターネットによる文科省ホームページを利用）等のデータ

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）

**【成績評価の方法と基準】**

①個別課題レポートについての評価（50％） ②演習の中で分担した報告作業に関する評価（30％） ③討論への参加やコメントペーパー提出などの平常点（20％）を目安として、総合的に評価する。なお、最終の評価については、必要に応じて個別面接を実施する場合もある。

**【学生の意見等からの気づき】**

教育実習の体験を実践的に振り返る参加型の授業を希望する声が多く、この形式を踏襲する。また実践演習の内容については事前指導の教員とも情報を共有する。

**【学生が準備すべき機器他】**

模擬授業担当者になった場合授業ができるように準備をしてください。

**【その他の重要事項】**

模擬授業の実施のタイミングなどは、参加者の都合を考慮して調整します。そのため、シラバスの順番どおりに授業が実施されない可能性があります。

**【Outline (in English)】**

This Class consists of combination of group works and individual guidance.

Specifically, for individual guidance, at the beginning of the program, students will be asked to submit “Self-assessment of ability acquisition for teaching profession” and “Study chart”, and set individual tasks. If necessary, we have them submit an interim report, and ask them to prepare a personal research result report at the end of the lecture. Individual interviews will also be conducted as appropriate.

The lecture based on the practice form is composed of the following four.

(1) Report and discussion to understand and understand the teaching actual situation, laws, etc., (2) Collaborative research on the record of lesson practice including simulated lessons, (3) Case study on student guidance, (4) Students' presentation

In addition, lectures of incumbent teachers may be incorporated as necessary.

SOC100TA (社会学 / Sociology 100)

## 社会学(「近代」とは何か)(前期メディア)

徐 玄九

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：前期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考(履修条件等)：

## 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

この授業の主な目的は、「近代(Modern age)とは何か」という問いを軸に、「近代」という時代の診断に関して、これまで社会学者たちが出てきた暫定的な「答え」を参照しながら、「私と社会」の関係をいま一度反省的に見つめなおすことです。そのために必要な社会学の基本的な「ものの見方・考え方」をその概念や理論も含めて基礎から学びます。社会学の通底する問題意識に沿って、今日の私たちは「何」から「何」へ、あるいは、「どこ」から「どこ」へ変わってきたか、またそのなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについて学びます。これを通して、一人ひとりの時代への問題意識の「(再)発見」のきっかけを作ります。社会学は、社会変動を理解したいという願望とともに、それに対する知的対応として登場しました。私たちを取り巻き支配しているこの時代(近代あるいは現代)とはいかなる時代なのか、そしてどのような問題を抱えており、その解決方向をいかに見出すかという関心が社会学の成立と発展に通底していた問題意識です。

## 【到達目標】

以下の授業計画のテーマに沿って、社会学の核心的な概念、理論などを基礎から学びます。具体的には(1)各テーマに対するさまざまな人の異なる見方、考え方を学ぶ、(2)行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解する、(3)「近代」という時代の特徴の一面を理解でき、それを自分の言葉で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、社会学の学説史や理論の羅列的な紹介よりも、ストーリー性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進めるようにします。そうすることで、「私的」な個別具体的な事柄のなかにも、社会性(歴史的、文化的な諸状況)が入り込んでいて、一見無関係のようにみえるある社会的現象が実は互いに影響しあっていることに気づき、「私と社会」の関係をより多角的に理解できるはずです。

## 【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	社会学への招待：「自明なものを問う」—社会学的想像力の重要性
第2回	見えない社会を見る	目に見えない社会を見る練習をする—(E.T. Hall/E.Goffman)の「プロクセミックス」/「儀礼的無関心」の概念を学ぶ
第3回	近代と空間観の変化	テンニースのゲメインシャフトとゲゼルシャフトという社会形態の区分を中心に空間と相互行為の違いについて学ぶ
第4回	近代と時間観の変化	自然的な時間から機械的な時間の変化を歴史的に学ぶ
第5回	歴史区分としての近代	歴史区分としての「近代」とその特徴について学ぶ
第6回	社会契約論と私的所有論	近代社会理論の代表的な社会契約論と私的所有論について学ぶ
第7回	労働賛美の時代としての近代	概略的に古代から近代までの労働観の変遷を歴史的・思想的に学ぶ

第8回	逆説としての近代	理解を深めるために、「近代」への道筋をM.Weberの「近代形成論」(『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』)に即して学ぶ
第9回	規律化と臣民化としての近代	社会秩序と権力の問題をM.Foucault『監獄の誕生』に依拠して学ぶ
第10回	世俗化の時代としての近代	E.Durkheim/P.L.Bergerの「宗教論」に学びながら、社会全体の動きに大きな影響を及ぼした宗教の意味や役割、そして「世俗化」について学ぶ
第11回	ナショナリズムの時代としての近代	E.ゲルナーとB.アンダーソンの議論を中心に近代とナショナリズムの関係を学ぶ
第12回	公共性の変容としての近代	H・アレントとJ.ハバーマスの議論を手がかりにして公共性の変容について学ぶ
第13回	マニュアル化の時代としての近代	G.Ritzer『マクドナルド化する社会』を参照しながら、合理化、官僚制、などの概念について学ぶ
第14回	リスク社会としての現代	U.Beck『危険社会』に依拠しながらリスク社会としての現代社会を考える
第15回	授業内容の総括	これまでの授業内容をもう一度おさらい

## 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

この授業では多くの内容を比較的短時間で扱います。よって、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、関連する参考文献や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事です。受講生皆さんには「読書」(多読)をお薦めします。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要があるのです。時間とコストを惜しまず取り組んでください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト(教科書)】

教科書は使用せず、配布資料に基づき講義を進めていきます。

## 【参考書】

必要に応じて配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。

ピーター・L.バーガー(1989)『社会学への招待』思泉社。  
ジグムント・バウマン(1990=1993)奥井智之訳『社会学の考え方—日常生活の成り立ちを探る』HBJ出版局。  
見田宗介(2006)『社会学入門』岩波文庫。  
市野川容孝(2006)『社会—思考のフロンティア』岩波書店。  
長谷川公一他(2007)『社会学』有斐閣。  
大澤真幸(2008)『不可能性の時代』岩波文庫。  
日本社会学会社会学事典刊行委員会編(2010)『社会学事典』丸善。

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート(30%)とメディアスクーリング試験(70%)の合計点で評価します。

具体的な評価基準は、到達目標に書いてある通り「行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解」しているかを合格基準とし、その上、取り上げられたテーマ(問題)に関して論理的な記述、自主的な学習の成果が認められた場合はさらに高く評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

受講者の意見のなかには、「日常生活の中で疑問に感じていたことなどが、授業の随所にあり納得した。」「理解しているつもりなのに、小テストへの反応が悪く残念であった。」とのご意見をいただきました。メディアスクーリング形式の特性上、時々疑問をすぐに解決できないかもしれませんが、「中間レポート」の提出と合わせて文末に日頃の疑問を書いてくださるか、掲示板などを積極的に活用していただければ、担当者のできる限りにおいてお答えしていくように努めます。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【その他の重要事項】

受講時の疑問などは積極的に掲示板などをご利用ください。

**【Outline (in English)】**

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society. The course introduces students to classical theoretical traditions of Durkheim, Weber, and Tonnies. Our study is the basic social institutions (religion, economics, and politics), and major trends in sociology.

BIO100TA（その他の総合生物・生物学 / Biology 100）

## 生物学2（講義）(前期メディア)

木原 章

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：前期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「脳は脳を理解できるか」そんなスローガンで脳科学は始まりました。人間の脳に対して、その構造的な特徴から本質に迫ろうとする神経科学的な手法と、行動の解析からその本質に迫ろうとする心理学的な方法が有りました。「脳科学」の出現によって、その境界が見えにくくなっています。本授業では、神経科学的なアプローチで人間の脳の不思議に迫ります。

## 【到達目標】

生物学的に見れば、脳は神経細胞の集まりです。個々の神経細胞の役割は極めて単純で、信号を伝えるかどうかを判断しているに過ぎません。そんな神経細胞が複雑なネットワークを作る事で、私達の脳が出来ています。授業を通じて、そんな脳の仕組みに興味を持って頂けることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

## 【授業の進め方と方法】

近年の脳科学の進歩について、生物学的（神経科学的）な側面から講義します。神経細胞の基本的しくみから、最新の脳科学の知見までをご紹介します。脳の持つ自己組織化のしくみ考察します。更に、脳科学の進歩が私たちの日常生活にどのような影響を与える可能性が有るのか、考えて行きたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	脳科学の図式	現代の脳科学を取り巻く、学問領域の関係性についてご紹介します。
第2回	脳の解剖学	脳の外見から見た特徴を、歴史的な側面を交えて解説します。
第3回	神経細胞	脳神経系の基本単位である、神経細胞（ニューロン）について解説します。
第4回	神経回路	神経がつながって形成される神経回路について解説します。
第5回	シナプス	神経回路のスイッチとしてのシナプスの働きを説明します。
第6回	本能行動	神経回路が働いた結果、行動が現れます。ここでは、昆虫などが行う本能的な行動について解説します。
第7回	後天的な学習	神経回路が経験を記憶した結果、新たに環境に対応した行動をとるしくみについて解説します。
第8回	人間の記憶1	人間の記憶の種類を分類し、特に小脳における手続き記憶について解説します。
第9回	人間の記憶2	人間が経験を学ぶそのしくみについて、解説します。

第10回	脳の領域性	大脳が領域ごとに異なる働きをしている様子について解説します。
第11回	非侵襲性活動記録	大脳の活動を生きたまま記録し、脳のしくみを探る方法について解説します。
第12回	マインドリーディングとBMI	ヒトが何を考えているのか？脳の活動から何が判って、それほどの様に应用できるのか、解説します。
第13回	サイボーグ技術	ヒトと機械が一体化することで、新たな能力を作り出すことができるのか？現代のサイボーグ技術について解説します。
第14回	神経回路の自己複製能力	ミラーニューロンの発見によってわかってきた、神経回路の自己複製機能とその意味について解説します。
第15回	意識と身体	脳科学の最も難しい問題として提起される「意識」について、脳のしくみから解説します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・マスコミなどを通じて報道される「脳科学」について、事前に知識の収集を行って下さい。また、授業で提起された問題について、ご自身で発展的な勉強をされることを期待しております。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定はありません。教材として提供されるハンドアウトをテキストとしてご利用下さい。

## 【参考書】

指定はありません。

## 【成績評価の方法と基準】

100% 最終レポートによって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

画面のホワイトボードの板書が読めないという問題点を指摘して頂きました。

実は、板書の内容はほぼ全部教材資料に書かれていますので、読めなくても問題は有りません。もし、ペースが早くて対応できない場合は、一端再生を止めて手元資料のご確認を頂ければと思います。収録時の授業形態について、賛否両論あるようですが、話す方としては目の前に学生さんがいた方がはるかに話しやすく、結果として判りやすいトークになっていると思っております。

内容が2012年から更新されていません。これは、メディアスクーリングのシステム上、致し方ないことですが、確かに部分更新などの努力を怠っていた感が否めません。お詫び申し上げます。とは言え、基本的な知識が大きく変わったと言う事は有りませんので、本授業で学んで頂いた内容は、現行でも十分通用する内容です。

## 【Outline (in English)】

Brain science is an integrated science of neurobiology, behavior science, psychology, cognitive science and many other fields. In this course, we will approach the mechanism of human brain mainly through neurobiological field. Then finally we will discuss about the relationship between human body structure and consciousness.

BSP100TA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)
<b>基礎特講(民俗学)(前期メディア)</b>
<b>吉成 直樹</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民俗学の目的、対象、方法などの基礎的な事柄について学んだ後に、琉球・沖縄の民俗のいくつかについて考えます。それによって本土地域とは異なるもうひとつの文化が存在することを知るとともに、みずからの文化を相対化する視点を養うことを目的とします。

#### 【到達目標】

民俗学の基本的な考え方を具体的な事例に即して学ぶとともに（1回～5回）、琉球・沖縄の基本的な歴史を踏まえたうえで（6回～8回）、民俗について少し掘り下げながら考えていきます（9回～15回）。沖縄は日本全体のなかで、人口・面積ともわずか1パーセントにすぎませんが、沖縄の社会と文化の持つ重みは本土のそれと同等です。この講義では沖縄の民俗について、古い歌謡や言葉、考古学、歴史学の成果などを利用して考えることを中心的なテーマとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。質問は歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	民俗学とは何か	民俗学の目的、対象、方法、民俗学の関連分野について
第2回	人生儀礼① 「仮親」の習俗	儀礼的に他人に親になってもらう習俗の持つ意味について
第3回	人生儀礼② 日本の葬制	葬制（葬法）とは何か、また日本におけるさまざまな葬制を支えている観念について
第4回	年中行事① 十五夜の盗み	十五夜の盗みを中心に、「盗み」をめぐるさまざまな民俗とその背景にある観念について
第5回	年中行事② 七夕の水	七夕行事の起源、また日本や中国南部にみられる七夕に汲む水には若返りの力があるとする習俗について
第6回	琉球・沖縄の歴史① 喜界島・城久遺跡群	琉球・沖縄の歴史の画期となったグスク時代（11世紀～）の開始について
第7回	琉球・沖縄の歴史② グスク時代以前の琉球	オーストロネシア的世界について（その形成過程と地名、神話など）
第8回	琉球・沖縄の歴史③ グスク時代の琉球	グスク時代開始期から琉球国の形成までの歴史過程について
第9回	琉球・沖縄の民俗① 琉球王権と太陽の王	琉球国の国王が昇りつつある太陽と同一視されたことについて
第10回	琉球・沖縄の民俗② 御嶽とグスク	琉球・沖縄の聖地であるグスクと御嶽（うたき）について
第11回	琉球・沖縄の民俗③ 海への信仰	ニライ・カナイ信仰のふたつの類型について

第12回	琉球・沖縄の民俗④ 来訪神信仰	琉球弧の来訪神信仰の特徴について
第13回	琉球・沖縄の民俗⑤ オナリ神信仰	琉球弧のオナリ神信仰の特徴について
第14回	琉球・沖縄の民俗⑥ 酒とシャーマン『おもろさうし』と民俗	16～17世紀に琉球王府によって編纂された歌祭式歌謡集『おもろさうし』などから、酒を意味する言葉とシャーマンに関連する言葉に共通性があることについて
第15回	近代以降の琉球民俗研究史	近代以降の琉球民俗の研究史を振り返る

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない点があれば、できるだけ適切な文献を探し、自分で調べる。また、さまざまな媒体から得られる沖縄に関する情報に関心を持つようにする。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

#### 【参考書】

講義中に随時紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験を総合的に評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn folkloric basic knowledge and investigate some folkloric matters of Ryukyu Islands.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>商法総則・商行為法(Ⅱ)(前期メディア)</b>
<b>桜沢 隆哉</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の理解

#### 【到達目標】

この講義は、全14回の講義で商取引法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引を理解することにより、会社法等の企業関係法の理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では、商法の中で、前半の講義で扱ったテーマの知識を基にして、より実務的色彩の強い応用的なテーマを学習していくことになる。商取引法では各所に民法の特例的な規制がみられ、また、問屋・運送・保険営業などの各種の現実の商取引に関する規制もみられます。商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的な好奇心と意欲であると考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序章 ガイダンス	企業取引法（商行為法）の現状、企業取引法の体系的特色、企業取引法の基本概念
第2回	第11章-1 商事売買(1)	国内における商事売買（商人間売買）、商事売買の特色（契約の成立、目的物の受領・引渡し、代金の支払い）
第3回	第11章-2 商事売買(2)	国際売買契約（国際売買の意義、法源とルールの一化）、定型的取引条件
第4回	第12章-1 消費者取引(1)	消費者取引の特色と法規制、消費者契約法の制定経緯、目的・範囲、消費者契約法と契約条項
第5回	第12章-2 消費者取引(2)	割賦販売法および特定商取引法の規制と仕組み、諸問題
第6回	第13章-1 金融取引(1)	商事決済制度における交互計算の意義、匿名組合の意義・機能
第7回	第13章-2 金融取引(2)	リース取引の意義・機能、リース取引における諸問題（裁判例を題材に）
第8回	第14章-1 仲介業者(1)	企業取引の補助者としての仲介業者、仲立人
第9回	第14章-2 仲介業者(2)	商人による他人利用の形態と問屋・準問屋、運送取扱人の法規制とその概要

第10回	第15章-1 運送取引(1)	物品運送契約の意義・内容、物品運送契約における運送人の責任
第11回	第15章-2 運送取引(2)	運送証券、旅客運送契約、相次運送
第12回	第16章 倉庫営業	商事寄託契約の意義・分類・事業規制、寄託業者としての倉庫業者の権利義務、倉庫証券
第13回	第17章 場屋取引	場屋営業の意義、場屋業者の責任
第14回	第18章 保険取引	保険契約の意義・機能・類型・性質、損害保険契約、生命保険契約

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法<有斐閣アルマ>』（有斐閣、第3版、2019年）

#### 【参考書】

(1) 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法Ⅰ総則・商行為<有斐閣Sシリーズ>』（有斐閣、第5版、2013年）

(2) 近藤光男『商法総則・商行為法』（有斐閣、第7版、2019年）

(3) 江頭憲治郎=山下友信編『商法（総則商行為）判例百選第5版』（別冊ジュリスト194号、有斐閣、2008年）

テキスト(教科書)は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、今後の展開を考えると、その内容を文献(3)で重要判例を補う必要がある。(1)(2)は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考えている。なお、近年、最新の重要判例も盛り込んだものとしては、(4) 神作裕之=藤田友敬『商法判例百選』（有斐閣、2019年）が出版されている。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート(1回/30%)およびメディアスクーリング試験(70%)によって評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

Understanding Principal of Commercial Transaction Law

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>行政法(前期メディア)</b>
<b>西田 幸介、氏家 裕順</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にある。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性あるいは法的統制が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法とはどのような法なのか、行政法の基本原理、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを学ぶ。

### 【到達目標】

- (1) 行政法における基本的な概念（行政行為、行政契約、法律による行政の原理など）について、正確に説明することができる。
- (2) 行政主体（国や地方公共団体など）と私人との法律関係を把握することができる。
- (3) 行政主体と行政機関の関係について、正確に説明することができる。
- (4) 行政の各種の行為（行為形式）について、それぞれの概念や分類、法的規制の概略について、正確に説明することができる。
- (5) 行政の実効性確保について、その手段、それに対する法的規制の概略について、正確に説明することができる。
- (6) 行政法の基本原理、行政組織および行政作用について、それが抱える問題点や現代的課題を理解し、その解決策を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	行政法の意義	行政の概念・分類 行政法の3分野
第02回	行政組織法の基礎概念(1)	行政主体と行政機関
第03回	行政組織法の基礎概念(2)	指揮監督
第04回	行政組織法の基礎概念(3)	権限の代行
第05回	法律による行政の原理(1)	意義と内容
第06回	法律による行政の原理(2)	実効性確保
第07回	法の一般原則(1)	信頼保護の原則 許認可権限の濫用

第08回	法の一般原則(2)	比例原則 平等原則
第09回	適正手続の保障(1)	意義と根拠
第10回	適正手続の保障(2)	行政手続の手法
第11回	行政の各種の行為 (1) 行政の行為形式	法行為と事実行為 権力的行為と非権力的行為
第12回	行政の各種の行為 (2) 法規命令	委任命令と執行命令
第13回	行政の各種の行為 (3) 行政行為	瑕疵ある行政行為
第14回	行政の各種の行為 (4) 行政契約	競争入札と随意契約
第15回	行政上の強制執行	代執行

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

指定しない。

### 【参考書】

稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）  
 宇賀克也『行政法概説I [第6版]』（2017年、有斐閣）  
 小早川光郎『行政法（上）』（1999年、弘文堂）  
 塩野宏『行政法I 行政法総論 [第6版]』（2015年、有斐閣）  
 芝池義一『行政法読本 [第4版]』（2016年、有斐閣）  
 高橋滋『行政法 [第2版]』（2018年、弘文堂）  
 原田尚彦『行政法要論 [全訂第7版補訂2版]』（2012年、学陽書房）  
 藤田宙靖『行政法総論』（2013年、青林書院）

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果からは、とくに変更を要すると考えられる事項はないと考えている。ただ、引き続き、授業改善に努めていきたい。

### 【Outline (in English)】

In this course, student learn the outline of Administrative Law. After taking this course, student will be able to:

- Explain the basic concepts in administrative law.
- Explain the legal relationship between state or public entities and private natural or legal person.
- Explain the relationship between state or public entities and administrative agencies.
- Describe the concepts, classifications, and outlines of legal restrictions concerning various acts of administrative agencies.
- Explain the means of securing the effectiveness of acts of administrative agencies and the outline of legal restrictions on them.
- Understand the problems and contemporary issues of the basic principles, administrative organization and acts of administrative agencies in administrative law, and discuss their solutions.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>労働法(働き方に関する法ルール)(前期メディア)</b>
<b>宮崎 由佳</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働契約のはじまりから終わりまでの法ルールとその意義などについて考察します。

#### 【到達目標】

使用者と労働者の権利と義務を理解すること、労働条件を決定する仕組みを理解すること、および職場で起こる(起こりうる)問題に対して法的にアプローチする力(当該問題の本質を捉え、関連条文や判例によりながら解決する力)をつけることを本講義の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

現代社会において、「職業生活」は、人間の営みの大きな部分を占めており、そこでのルールがいかに決定され、また作用するのかを理解し、習得することは必要不可欠といえます。

本講義は、雇用関係を規律する法、ルールおよびその役割を概観し、また、そこで起こり得る法的問題について具体的な事例を示し、関連判例や条文等を参照しながら考察することを目的とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	労働法とは	労働法とは。なぜ労働法は必要なのか、その意義など。
第2回	採用内定・試用期間	いつから労働契約関係は始まるのか。採用内定の法的性質など。
第3回	労働時間に関する法ルール	労働時間の意義、労働時間に関する法ルールとその課題について。
第4回	労働者の安全と健康に関する法	労働者の安全と健康に関する法ルールとその課題について。
第5回	休憩・休日・休暇制度	休憩時間や休日・休暇の意義、各制度に関わる法ルールとその課題
第6回	賃金に関する法ルール	賃金の支払いや決定に関する法ルールについて。
第7回	労働条件の決定と変更	労働条件の決定の仕組みや決定・変更に関するルールについて。
第8回	人事異動のルール	配置転換・出向・転籍の意義、法ルールとその課題について。
第9回	懲戒	懲戒制度の目的や内容、懲戒権の根拠や限界など法ルールについて。
第10回	契約の終了に関する法ルール	解雇、整理解雇や退職など労働契約の終了に関する法ルールについて。
第11回	雇用平等	労働者の人権、人格権や雇用平等に関する法ルールと課題について。

第12回	非正規労働者と法	パートタイム労働者、有期契約労働者、派遣労働者など、非正規労働者に関する法ルールと課題について。
第13回	労働組合と法	労働組合とは。その目的や労働組合法上の労働組合の要件、不当労働行為制度について。
第14回	団体交渉・労働協約	団体交渉および労働協約に関する法ルールについて。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習をされた上での受講を前提としておりますので、教科書(該当テーマに限らず)及び参考資料には必ず目を通しておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『ベーシック労働法 第7版』（有斐閣アルマ）〈新版が出た場合は新版。旧版も可〉

#### 【参考書】

法の制定・改正や判例の動向により適宜資料を配布し、内容等について紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（50点）および試験（50点）の総合評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

注目すべき法改正や判例などについて、適宜情報提供を行う。

#### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the regulations covering employment relations and their roles.

LAW400TB (法学 / law 400)
<b>国際法各論(国際平和の追求)(前期メディア)</b>
稲垣 治
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

#### 【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

主として国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第2回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底、海洋環境、紛争解決
第3回	極地・空域・宇宙	南極の法的地位、北極、領空、宇宙空間の利用、天体の資源開発
第4回	個人の管轄	国籍、犯罪人引渡し、国際犯罪、国際刑事裁判所
第5回	国際人権法（1）	人権保障の展開、国連による人権保障、民族自決権
第6回	国際人権法（2）	国際人権保障の困難性、履行確保、難民
第7回	国際環境法（1）	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の生成と発展、リオ宣言
第8回	国際環境法（2）	国際環境条約の性質、持続可能な開発、枠組条約と議定書、制度化
第9回	国際環境法（3）	手続的義務、履行確保、気候変動
第10回	国際経済法	自由貿易体制、GATT/WTO、南北問題、貿易と環境
第11回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決、非裁判的手続
第12回	紛争の平和的解決（2）	裁判的手続の特徴、国際仲裁裁判、国際司法裁判、国際裁判機関の多元化
第13回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、国連軍、多国籍軍、平和維持活動、人道的介入
第14回	軍備管理・軍縮	武器・兵器、軍隊の変遷、冷戦と軍拡競争、核軍縮
第15回	国際人道法（武力紛争法規）	戦争の違法化と武力紛争法規、軍事目標主義、武力紛争法規の履行確保、原爆と日本

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第2版]』有斐閣、2010年。  
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。  
どちらも新版が出た場合は新版（旧版も可）。

#### 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第2版]』有斐閣、2011年。

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート試験、中間レポート課題の総合点で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

履修者は「国際法総論」を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the legal order and rules over the specific areas in the international society referring to precedents by both international and domestic courts.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>保険法・海商法(I)(前期メディア)</b>
<b>桜沢 隆哉</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

保険契約法と海上運送・海上企業に関する基本的知識の習得

**【到達目標】**

この講義は、全15回の講義で保険法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。保険法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に保険法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとするればいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、保険法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この講義では、保険法と海上運送・海上企業組織に関する基本的知識の習得を目的とする。保険法および海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうちで、保険法・海商法（I）では保険法を扱い、保険法・海商法（II）では海商法を扱う。

まず、本講義で扱う保険法についてみれば、保険制度は、われわれの日常生活における様々な危険に備えるための有用な手段として用いられているが、他方で濫用されるおそれの高い制度でもある。本講義では、保険制度が有するこれら2つの側面を意識しながら、それを法的視点から解説する。また保険法は、近年、約100年ぶりともいえる法改正および商法から単行法化がなされ、世間でも多くの注目を集めている。その新しい保険法では、消費者保護が一層重視されており、われわれ消費者側としても保険に関する適切な知識を身につけておくことが必要とされる。そこで、保険法については、実務の動向や裁判例を常に意識しながら講義を展開していきたいと考えている。

一方、保険法・海商法（II）で扱う海商法は、船舶を手段とする海上企業・海上運送に関する法制度である。船舶は、物品の運送に関しては今日でもなお主要な地位を占めている。われわれの社会は、様々な物資によって支えられており、それは海上運送をはじめとする輸出入に依存しているところも少なくない。本講義では、海上企業の組織、その活動(海上物品運送)および海上危険について概説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	保険法総論(1)－保険制度と保険法	保険制度と保険法、保険の分類、保険法の体系
第2回	保険法総論(2)－保険契約の当事者・関係者	保険契約の意義・性質、保険契約の当事者・利害関係者
第3回	損害保険契約法・総論(1)－損害保険契約の成立－	損害保険契約の意義、損害保険契約の成立、損害保険契約と告知義務

第4回	損害保険契約法・総論(2)－損害保険契約の内容①－	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料の性質、損害保険契約の基本構造
第5回	損害保険契約法・総論(3)－損害保険契約の内容②－	保険金額と保険価値、全部保険と一部保険・超過保険、重複保険
第6回	損害保険契約法・総論(4)－損害保険契約の効果とその変動－	損害保険契約における保険者の権利義務、保険契約者等の権利義務、損害保険契約関係の変動
第7回	損害保険契約法・総論(5)－損害保険契約と保険給付－	損害保険契約各論としての火災損害保険、損害発生時の要件、保険者免責、損害発生時の通知義務等、保険給付の履行、保険代位
第8回	損害保険契約法・総論(6)－損害保険契約の終了・損害保険債権の処分と保険担保－	保険契約者による保険契約の解除等、告知義務違反による保険契約の解除、危険増加による保険契約の解除、重大事由による保険契約の解除
第9回	損害保険契約法・各論(1)－火災保険契約及び責任保険契約	損害保険契約各論としての火災保険契約、責任保険契約
第10回	損害保険契約法・各論(2)－自動車保険契約及び運送保険契約	損害保険契約各論としての自動車保険（自賠責保険・任意自動車保険）
第11回	生命保険契約法(1)－生命保険契約の成立・効力－	生命保険契約の成立、保険料と保険者の責任、他人の生命の保険、保険給付請求権の消滅時効
第12回	生命保険契約法(2)－生命保険契約の給付・終了－	第三者のためにする生命保険契約、保険金受取人の指定・変更、保険金受取人の死亡、保険金受取人の介入権、生命保険契約と保険者免責
第13回	傷害疾病保険契約法(1)－傷害保険契約・疾病保険契約の意義・内容－	傷害保険契約と偶然性要件、傷害保険契約と外来性要件
第14回	傷害疾病保険契約法(2)－傷害・疾病保険契約に特有の重要問題－	疾病保険契約の意義、責任開始期前発病不担保条項、所得補償保険
第15回	保険業に対する法規制	保険事業に対する規制（保険業法の概要－保険業法の目的と保険業）、保険会社の監督と保険契約者保護、少額短期保険業者、保険募集の規制

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社、2013年

**【参考書】**

参考書（教科書としての指定はしていないが講義の補足で使用するものが学習上望ましいもの）

・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年  
・六法(判例・解説付ではないもの)

（講義を聴く際には、判例・解説付でも構わないが試験等に持ち込むことが認められていないため）※メディアスクーリング試験では六法の持ち込みも不可です

▼ その他の参考文献の紹介

≪保険法・海商法の両方に関するもの≫

・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社、2013年

・江頭憲治郎『商取引法〔第8版〕』弘文堂、2018年

≪保険法のみに関するもの≫

\*新法対応済み

・甘利公人・福田弥夫『ポイントレクチャー保険法〔第2版〕』有斐閣、2017年

・石山卓磨編著『現代保険法〔第2版〕』成文堂、2011年

- ・金澤理『保険法』成文堂、2018年
- ・山下友信ほか著『保険法〔第4版〕』有斐閣アルマ、2019年
- ・岡田豊基『現代保険法〔第2版〕』中央経済社、2017年
- ・潘阿憲『保険法概説〔第2版〕』中央経済社、2018年
- ・山下友信『保険法（上）』有斐閣、2017年

＊旧商法にのみ対応

- ・倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房、1982年
- ・大森忠夫『保険法〔改訂版〕』有斐閣、1985年
- ・西島梅治『保険法〔第3版〕』悠々社、1998年
- ・金澤理『保険法上〔改訂版〕』成文堂、2001年
- ・中西正明『生命保険法入門』有斐閣、2006年
- ・山下友信『保険法』有斐閣、2005年

≪海商法のみに関するもの≫

- ・戸田修三『海商法〔第5版〕』文眞堂、1995年
- ・重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
- ・中村真澄・箱井崇史『海商法』成文堂、2010年

≪判例解説等の参考書≫

- ・鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第2版）』有斐閣、1993年
  - ・鴻常夫ほか編『損害保険判例百選〔第2版〕』有斐閣、1996年
  - ・鴻常夫ほか編『生命保険判例百選〔増補版〕』有斐閣、1988年
  - ・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
  - ・山下友信・神田秀樹編『商法判例集〔第4版〕』有斐閣、2010年
- ＊判例については、上記参考文献に掲載されていない最新の判例も次々に出されている。それらは授業の中の各該当箇所でも指示するが、基本的にはレジュメの中に反映させる。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（1回／30％）およびメディアスクリーニング試験（70％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Understanding Principal of Insurance Law

SOC300TB (社会学 / Sociology 300)	
<b>労使関係論 (Ⅱ) (前期メディア)</b>	
細川 良	
カテゴリー：前期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：後期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：	

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「労使関係」とは、一般に一人一人の労働者個人と使用者（企業）との間の関係ではなく、労働組合などの労働者の集団と使用者（企業）あるいは使用者団体との間の関係（集团的労使関係）のことを指します。もっとも、一口に労使関係（集团的労使関係）といっても、その実態は国によって大きく異なります。そして、労使関係の実態は、その国における雇用をめぐるシステムがどのようなものか、ということに大きく左右されます。実際、日本における労使関係（集团的労使関係）の実態や特徴は、それを支えてきたいわゆる「日本の雇用慣行」、およびそれを踏まえた雇用に関する法制度とも深い結びつきがあります。そこで、本講義では、まず前半で、前提としての日本における雇用システムの特徴と、それを基礎として形成された雇用に関する法制度について考えます。後半では、前半で検討した雇用システムを踏まえつつ、日本における集团的労使関係と、それを支える法制度について考えてみたいと思います。

**【到達目標】**

受講する学生において、労使関係、労働組合、あるいは労働法に対する知識や関心は様々であろうと考えられます。しかし、多くの受講生が、将来的に雇用の世界の中で生きていくことになることは間違いありません。また、日本における雇用システムや労使関係について、旧来からの仕組みから変わりつつあるという点については、大なり小なり共通する認識を有しているのではないのでしょうか。そこで、本講義では、「日本の雇用システム」のなかで形成されてきた労使関係や労働法の仕組みを理解しつつ、それらがどのような課題を抱えており、今後どのように変わっていく必要があるのか（あるいは、変わるべきではないのか）という問いについて、自分なりの答えを見つけ出してほしいと思います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、「授業の概要と目的」で述べたことについて、逐次検討していきたいと思います。具体的には、①日本における雇用システムとそれを基礎とした法制度について、基本的な理解を進めたいうえで、②日本における労使関係の実態や特徴と、③日本における（集团的）労使関係に関する法制度を学び、④これらを通じて、日本の雇用システムや労使関係が抱える課題や今後のあり方を考えたいと思います。講義の形態としては、通常の講義方式を予定しています。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施]**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施]**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の目的、労使関係を学ぶ意義、労使関係や労働法が形成されてきた歴史について説明します。

2	日本の雇用慣行の特徴と労働法・労使関係	日本の労使関係や労働法は、いわゆる「日本の雇用慣行」と深く結びつく形で発展してきました。この回では、日本の雇用慣行とはいかなるものか、という点を踏まえつつ、日本の労使関係や労働法の特徴について考えます。
3	解雇をめぐる法システム－「日本では解雇は難しい」とは本当か？	日本の雇用システムの特徴として、「解雇が難しい」という指摘がしばしばなされますが、それは本当でしょうか。日本における解雇をめぐる法制度について、諸外国との比較や、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
4	採用をめぐる法システム－「新卒一括採用」を前提とした法制度	「新卒一括採用」は、日本の雇用システムの極めて大きな特徴です。この回では、採用に関する法制度と、「新卒一括採用」の持つ意義について考えたいと思います。
5	賃金－日本の賃金制度は今も「年功型賃金」なのか	日本の雇用システムの特徴の一つとして、「年功型賃金」がしばしば挙げられますが、今も日本企業では「年功型賃金」を採用しているといえるのでしょうか。この回では、賃金に関する基本的な法制度とともに、日本における賃金制度について考えたいと思います。
6	労働時間－なぜ日本の労働者は長時間労働になるのか	日本における働き方の問題点として、「長時間労働」の問題がしばしば指摘されます。この回では、労働時間に関する法制度と、長時間労働をめぐる課題について、近年の政策動向を踏まえつつ、考えたいと思います。
7	人事異動－配転・出向・転籍	日本の雇用システムの特徴の一つに、人事異動が頻繁に行われることが挙げられます。この回では、人事異動に関する法制度について、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
8	労働条件の変更－就業規則の機能	日本の雇用に関する法制度の特徴の一つとして、企業が状況に応じて柔軟に労働条件を変更できることが挙げられます。それを可能としているのが、就業規則に関する法制度です。この回では、日本の企業における就業規則の機能とその法制度について考えます。
9	非典型雇用－労働市場の二重構造をどう解消するか？	日本の雇用システムの特徴の一つとして、「正社員」と「非典型雇用（非正規雇用）」の2つの雇用形態の格差がしばしば指摘されます。ここでは、両者の格差解消に向けた最近の政策を踏まえつつ、「非典型雇用」をめぐる法制度とその課題を考えます。
10	日本における労使関係システム－諸外国との比較から	日本の集团的労使関係は、欧米諸国とは大きく異なっていることがしばしば指摘されます。この回では、これまで学んできた日本の雇用システムの特徴や、諸外国との比較を交えつつ、日本の労使関係システムの特徴を考えたいと思います。

- |    |                               |   |
|----|-------------------------------|---|
| 11 | 労働組合の結成と運営活動－「労働組合」は、誰が何をするのか | 労働組合にはだれが入ることができて、どのような活動をしているのか、詳しくは知らない人が少なくないのではないのでしょうか。この回では、誰が労働組合に入ることができて、どのような活動をしているのか、考えたいと思います。 |
| 12 | 団体交渉と争議                       | 労働組合の大事な役割は、使用者と「団体交渉」をすることによって、組合員の労働条件を改善することです。この回では、団体交渉とそれが行き詰った時に実施する争議行為に関する法制度について考えたいと思います。        |
| 13 | 労働協約－労使交渉を通じたルールメイキング         | 団体交渉が無事に妥結した場合、労働組合と使用者は、労働協約を締結し、これを通じて組合員の労働条件を事実上決定します。この回では、この労働協約に関する法制度について考えたいと思います。                 |
| 14 | 不当労働行為－労働組合の活動を守るために          | 使用者は、ときに労働組合の活動を不当に妨害しようとする場合があります。こうした妨害から労働組合を守る制度が不当労働行為制度です。この回では、不当労働行為制度の内容と機能について考えたいと思います。          |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には、講義の内容を丁寧に復習し、理解の定着を図ることが求められます。

もっとも、労使関係や労働法、そしてそれらに関する法制度や法政策は、現実の社会の中にも多く存在し、また現在進行形で多くの動きが存在しています。したがって、新聞やニュースなどを通じて、労使関係や労働法はもちろん、労働に関する様々な事象について、日ごろからアンテナを延ばしてチェックするよう心掛けてほしいと思います。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之ほか『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所・2020年4月出版予定）（2300円・税別・予定）を使用します。

ただし、科目の性質上、テキストの順番通りに進むわけではない、ということは承知しておいてください。また、講義においてテキストに記載されていない内容を扱うことが一部ありますが、その場合はパワーポイントその他の資料を配布します。

#### 【参考書】

指定はありません。各講義ごとに、必要に応じて参考となる文献資料等を提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

最終成績は基本的に単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）授業をよく復習し、労使関係を取り巻くシステムをよく理解したうえで、その課題を考えてください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため、ありません。

#### 【Outline (in English)】

At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

LIT200TC (文学 / Literature 200)
<b>日本文芸史Ⅱ (前期メディア)</b>
<b>川鍋 義一</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代文学（明治20年頃～昭和40年頃）の歴史を把握する。

### 【到達目標】

各回の授業では、ある時代を代表する文学者の代表的な作品がいかなる事情のもとに生まれたのかを考察する（具体的には下記「授業計画」を参考にされたい）。

この方法によって、日本近代文学史の大きな流れを把握し、また日本近代文学史と歴史的、社会的背景との関連を有機的に把握できるようにする。

受講生はこの授業の履修によって、日本近代文学史という巨視的観点を習得し、個々の作家、作品についてのより深い理解を得られるであろう。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本近代文学史を、逍遙・二葉亭の写実主義、浪漫主義、擬古典主義、自然主義（以上明治）、私小説、白樺派、労働文学・プロレタリア文学、モダニズム文学（以上大正）、小林秀雄、転向の問題、無頼派、近代文学派／新日本文学派、第三の新人とそれ以降（以上昭和）という流れで概観していく（漱石・鷗外、芥川を、明治、大正の最後に入れる）。

各回テキストで当該箇所を学習した上で、授業に臨むことを求める。またプリントもテキストなので、全てきちんと読み、理解することを求める。（「関連リンク」にて「配付資料」をダウンロードすること）

さらにプリントにはないものでも、関連すると思われる作品は積極的に読んでほしい。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	近代文学の始まり	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代文学とはなにか</li> <li>写実主義とはどういうものか</li> <li>言文一致体の問題</li> </ul> 以上を坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『浮雲』から考察する。
第2回	浪漫主義と擬古典主義	写実主義よりやや後に展開した <ul style="list-style-type: none"> <li>浪漫主義</li> <li>擬古典主義</li> </ul> とはどのようなものかを樋口一葉『たけくらべ』などと、尾崎紅葉『金色夜叉』から考察する。
第3回	自然主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>浪漫主義から自然主義への展開</li> <li>口語体の問題</li> <li>私小説の始まり</li> </ul> 以上を、国木田独步『武蔵野』、島崎藤村『破戒』、田山花袋『蒲団』から考察する。

第4回	明治文学ふたつの孤峰（1）	文学史の流れと一定の距離を置いていた夏目漱石の生涯と作品にふれる。『こころ』を読む。
第5回	明治文学ふたつの孤峰（2）	同じく文学史の流れと一定の距離を置いていた森鷗外の生涯と作品にふれる。『舞姫』を読む。この回では日本近代文学の重要な概念である「余計者」について学ぶ。
第6回	私小説	大正文学の主流であった私小説を、葛西善蔵の代表作『子をつれて』を例に学ぶ。
第7回	白樺派	葛西善蔵とは対照的に破滅しない文学が白樺派の文学であった。武者小路実篤『友情』を読む。このグループの傾向と、大正デモクラシーの関係について学ぶ。
第8回	文学の革命	プロレタリア文学が「革命の文学」だとすれば、モダニズム文学の一つである新感覚派は「文学の革命」を志すものであった。その新しさと意義について学ぶ。横光利一『蠅』などを読む。
第9回	大正の終焉	大正文学の特異な存在であった芥川龍之介の生涯と作品にふれる。『歯車』を読む。
第10回	昭和初年の状況	昭和初年の三派鼎立の状況について学ぶ。批評理論の確立者であった小林秀雄『様々なる意匠』を読む。
第11回	戦前から戦後へ	プロレタリア文学壊滅後の文芸復興の状況／転向の状況について学ぶ。中野重治『村の家』。戦後すぐの無頼派の活躍を学ぶ。坂口安吾『墮落論』、太宰治『人間失格』、それらと対比するために志賀直哉『灰色の月』を読む。
第12回	戦後（1）	戦後文学最初にして最大の論争であった「政治と文学」論争を学ぶ。小林多喜二『党生活者』、平野謙『政治と文学（二）』を読む。
第13回	戦後（2）	梅崎春生『桜島』、野間宏『暗い絵』、荒地派の詩を通じて、戦後文学はどのように始まったのかを学ぶ。
第14回	戦後（3）	第三の新人とそれ以降の文芸思潮はどのようなものであったのかを学ぶ。吉行淳之介『驟雨』、安岡章太郎『宿題』、三島由紀夫『憂国』、大江健三郎『不意の唾』、谷川俊太郎の詩を読む。
第15回	まとめ	まとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【テキスト】（プリント含む）を精読すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

奥野健男『日本文学史』（中公新書、および電子書籍 kindle 版）。その他毎回使用するプリント。

### 【参考書】

毎回使用するプリントに記載されている参考文献。

### 【成績評価の方法と基準】

・中間レポートの提出を前提にメディアスクーリング試験で評価する。  
 ・シラバスに記載されている【授業の概要と目的（何を学ぶか）】と、【到達目標】を受講前に熟読されたい。文学の歴史の流れ、およびそれと社会的背景との関連がこの授業の主要な関心事である。したがって、中間レポート、試験で、その観点を欠いた答えは評価されない。

・中間レポートで、設題に答えていない答案、引用のルールを無視した答案、何を言っているのかわからない答案、字数制限（8～10割）を無視した答案が時折見られる。このような答案は、再提出となることがある。留意されたい。

**【学生の意見等からの気づき】**

中間レポートおよび試験では、しっかり設問を読み、設問に答えられたい。

**【その他の重要事項】**

プリントに一部しか載せられなかった長い作品も、各自入手し、全編読むことが望ましい。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire a history of Japanese modern literature.

LIT100TC (文学 / Literature 100) <b>日本文芸研究特講・近代(日本の私小説を読む)(前期メディア)</b>
<b>梅澤 亜由美</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】日本独特の小説形式とされる私小説について学ぶ。  
この授業では、日本の私小説について勉強します。日本の近代に、19世紀西欧小説の変形として生まれたとされる私小説は、日本独特の小説形式と考えられています。私小説についてこれまで言われてきたこと（否定的評価が多いです）を理解するとともに、実際の私小説を読んでいくことで、私小説に対する理解を深めること（文学史の定説からの解放）を目指してほしいです。

### 【到達目標】

具体的には、以下の3点が目標となります。

1. 実際の私小説について、これまで言われてきたことを理解する。
2. 授業でとりあげられた私小説を、実際に読み、自分の考えをもつ。
3. 特定の作家、私小説について、これまで言われてきたことと、実際に読んでみての自分の考えをまとめて、レポートや試験などで表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1回目にガイダンスと、これまでの私小説言説（=私小説についてこれまでいわれてきたこと）について、説明をします。2回目から10回目までは、近代文学史における代表的な作家の私小説をとりあげます。11回めから15回めでは、戦後から現代まで、比較的新しい私小説をとりあげます。1時間に、1人の作家をとりあげ、代表的な私小説について、ポイントを説明していきます。他、授業でとりあげた作家が、作中人物として登場する私小説なども、紹介していきます（私小説を立体的に読む試み）。これらの授業内容を理解した上で、気に入った私小説のいくつかを実際に自分で読み、これまで言われてきたこととあわせて、自分の考えをもつようにしましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	私小説と私小説言説について	私小説の定義、先行研究など、基礎知識を学ぶ。
第02回	田山花袋『蒲団』	私小説の祖とされる田山花袋の『蒲団』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第03回	近松秋江『疑惑』	平野謙によって「最初の金無垢な私小説」とされた近松秋江の『疑惑』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第04回	志賀直哉『和解』	私小説を代表する作家とされる志賀直哉の『和解』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。

第05回	葛西善蔵『子をつれて』	破滅型の代表とされる葛西善蔵の『子をつれて』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第06回	牧野信一『父を売る子』	実験的な私小説を書いた牧野信一の『父を売る子』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第07回	嘉村磯多『崖の下』	葛西善蔵の系譜にある嘉村磯多の『崖の下』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第08回	小林多喜二『党生活者』	プロレタリア文学と私小説として、小林多喜二の『党生活者』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第09回	中野重治『村の家』	転向文学の代表とされる中野重治の『村の家』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第10回	徳田秋声『仮装人物』	私小説の一つの達成とも言える徳田秋声の『仮装人物』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第11回	島尾敏雄『出発は遂に訪れず』	戦後派の私小説として島尾敏雄の『出発は遂に訪れず』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第12回	太宰治『人間失格』	私小説批判の私小説を書いた太宰治の『人間失格』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第13回	安岡章太郎『悪い仲間』	第三の新人の私小説として安岡章太郎の『悪い仲間』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第14回	李良枝『ナビ・タリオン』	「在日」作家であり日本語文学の作家である李良枝の『ナビ・タリオン』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第15回	西村賢太『どうで死ぬ身の一踊り』	現代の私小説として西村賢太の『どうで死ぬ身の一踊り』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百聞は一見にしかずです。講義でとりあげられている小説は、必ず読みましょう。

・準備学習:講義を聞く前にテキストを読む（120分）

・事後学習:講義で学んだことをもとにテキストを読み返す（120分）

### 【テキスト（教科書）】

各種文庫本、講義の一回目で手に入りやすい文庫本を紹介しています。

### 【参考書】

小谷野敦『私小説のすすめ』2009、平凡社新書（入門書）

梅澤亜由美『増補改訂 私小説の技法』2017、勉誠出版（研究書）

私小説研究会編『私小説ハンドブック』2014、勉誠出版（研究ガイド）

井原あや他編『「私」から考える文学史 私小説という視座』2018、勉誠出版（研究書）

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提に、レポート試験の評価とあわせ、総合的に判断します。

目標達成のための判断基準として、講義や文献等で勉強したことと自分で小説テキストを読み考察したこと、これら2点がしっかりそろっていることを重視します。

### 【学生の意見等からの気づき】

中間レポートの講評方法について、今後、検討したいと思います。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the watakushi – shosetsu of Japan. The watakushi – shosetsu is a unique novel form in Japanese modern times. We learn the study on watakushi – shosetsu and analyze it about the watakushi – shosetsu.

LIT200TC (文学 / Literature 200) <b>日本文学研究特講・現代(戦後文学から日本を考えた)(前期メディア)</b>
<b>山田 夏樹</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後文学を読む。

### 【到達目標】

アジア・太平洋戦争後から現在に至るまでの日本文学の歴史的な展開を作品に即して理解していくことで、社会状況や価値観の変容のあり方を捉えていく。

そして、毎回とりあげられる特定の作品などに視点を限定してしまうのではなく、最終的には、社会の様々な事象に対して常に自ら問いを立て、考えていく姿勢自体を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回、特定の作品を精読していく。

事前に該当の作品を必ず読み、自分なりの読解を持って授業に臨むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	太宰治「トカトントン」(1947年)	「トカトントン」を読解。
第2回	大江健三郎「人間の羊」(1958年)①	「人間の羊」を読解。
第3回	大江健三郎「人間の羊」(1958年)②	前回の内容を踏まえ、更に「人間の羊」を読解。
第4回	石原慎太郎「太陽の季節」(1955年)①	「太陽の季節」を読解。
第5回	石原慎太郎「太陽の季節」(1955年)②	前回の内容を踏まえ、更に「太陽の季節」を読解。
第6回	田中康夫「なんとなく、クリスタル」(1980年)①	「なんとなく、クリスタル」を読解。
第7回	田中康夫「なんとなく、クリスタル」(1980年)②	前回の内容を踏まえ、更に「なんとなく、クリスタル」を読解。
第8回	よしもとばなな「キッチン」(1987年)①	「キッチン」を読解。
第9回	よしもとばなな「キッチン」(1987年)②	前回の内容を踏まえ、更に「キッチン」を読解。
第10回	村上春樹「沈黙」(1991年)①	「沈黙」を読解。
第11回	村上春樹「沈黙」(1991年)②	前回の内容を踏まえ、更に「沈黙」を読解。
第12回	伊坂幸太郎「終末のフール」(2004年)①	「終末のフール」を読解。
第13回	伊坂幸太郎「終末のフール」(2004年)②	前回の内容を踏まえ、更に「終末のフール」を読解。

第14回 小川洋子「博士の愛した数式」(2003年)

第15回 小川洋子「博士の愛した数式」(2003年) 前回の内容を踏まえ、更に「博士の愛した数式」(2003年) 博士の愛した数式」を読解。  
②

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記のように、毎回、特定の作品を精読していくため、事前に該当する作品を必ず読み、自分なりの読解を持って臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

- ・太宰治『ヴィヨンの妻』新潮文庫 ※「トカトントン」収録  
（ただし、この作品のみインターネット上の「青空文庫」で無料で読めます）
- ・大江健三郎『死者の奢り・飼育』新潮文庫 ※「人間の羊」収録
- ・石原慎太郎『太陽の季節』新潮文庫 ※「太陽の季節」収録
- ・田中康夫『なんとなく、クリスタル』河出文庫
- ・村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫 ※「沈黙」収録
- ・よしもとばなな『キッチン』角川文庫 ※「キッチン」収録
- ・伊坂幸太郎『終末のフール』集英社文庫
- ・小川洋子『博士の愛した数式』新潮文庫

### 【参考書】

授業の中で適宜指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間テスト、メディアスクーリング試験。

### 【学生の意見等からの気づき】

様々な作品を読み、それにまつわる読解を学ぶことで、より多角的な視点を身につける機会になればと改めて思いました。

### 【Outline (in English)】

Learn the world through literature

ART200TC (芸術学 / Art studies 200)
<b>日本芸能史(前期メディア)</b>
<b>伊海 孝充</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本芸能史において大事な要素である能楽の歴史について、正確な知識と研究の方法を身につけます。

#### 【到達目標】

この講義では、能楽の歴史を学びます。中世に生まれた能楽は、600年間まったく変化しなかったわけではありません。政治的基盤や社会状況の変化の影響を受けながら、為政者や観客の視線を反映しながら、少しずつ変化していったと考えられています。本講義では、能楽の芸質の変化ではなく、それを取り巻く環境（能楽の庇護者や能役者の組織）の変化を理解することに主眼を置いて話していきます。また、本講義は「日本芸能史」なので、各時代の主要芸能も取り上げ、特に能楽との影響関係について言及していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は自宅で講義ビデオを見るかたちで進めます。ただし、ただビデオを一通り閲覧すれば良いというわけではありません。分からない箇所や理解しにくい箇所がある場合は、一度ビデオを止め、辞書を引いたり、参考文献を見たりして、自分自身でしっかり咀嚼した上で、先に進むようにしてください。それでもわからないことがある場合は、規定の方法で、教員に質問するようにしましょう。また、授業内では参考文献も紹介します。本講義は、能楽の歴史の基本的事項ですので、自分自身で参考文献も利用しながら、発展的に学習することが必要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中世の諸芸能	能楽の源流となった中世の諸芸能の歴史と芸質を学びます。
第2回	猿楽の座と翁猿楽	誤解されやすい翁の座と猿楽の座の差異について学び、猿楽能と翁の関係について正確な知識を定着させます。
第3回	観阿弥と世阿弥の生涯	観阿弥と世阿弥の生涯から、能楽の成立を考えます。とくに、世阿弥と將軍たちの関係から、芸能者の歴史的立ち位置を把握することを目標とします。
第4回	世阿弥の伝書	世阿弥の伝書を概観します。また、「初心不忘」など一般的に広まっている意味と異なる言葉について、正確に理解することを目標とします。
第5回	観阿弥と世阿弥の能	観阿弥と世阿弥が作った能の特徴について学びます。特に、夢幻能・物狂能といわれる曲種について考えていきます。

第6回	世阿弥以降の能作者	金春禅竹・観世元雅・観世信光・観世長俊・金春禅鳳の作品について学びます。
第7回	能と曲舞	能における曲舞の撰取についてと室町後期に流行した幸若舞について学びます。
第8回	豊臣秀吉と能	秀吉の能楽溺愛の状況について学びます。また、この時代は、能楽が大きく変化したときでもあります。その変化を促した環境について理解します。
第9回	江戸幕府と能	「式楽」となった能楽の状況について、幕政と諸藩の状況から学びます。また能役者であったと考えられる写楽について学びます。
第10回	徳川綱吉・家宣時代の能	歴代將軍の中でも能狂いで知られる綱吉・家宣時代の状況について考え、彼らがもたらした能の変化について学びます。
第11回	「能」と「謡」	江戸時代の庶民は、舞台芸術の「能」としてではなく、詞章だけを謡う「謡」として能を楽しんでいました。その状況について学びます。
第12回	人形浄瑠璃と能	人形浄瑠璃の歴史と芸質を理解し、能から受けた影響について学びます。
第13回	歌舞伎と能	歌舞伎の歴史と芸質を理解し、能から受けた影響について学びます。
第14回	幕末から明治維新の「猿楽」	江戸幕府の瓦解は、能楽に大きな影響を及ぼしました。能楽史上最大の危機に奮闘した能役者たちの様子と、現在の能楽の形成過程を学びます。
第15回	「日本古典芸能」の現在	戦時下の芸能の様子から、現代、古典芸能が置かれている状況までについて考えます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本芸能史を通史的にまとめた文献は、とても少なく、「ベスト」のものはありません。自分が興味をもった芸能については、各芸能別にまとめた文献を探し、熟読してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

#### 【参考書】

講義中に適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート30%、レポート試験70%で評価する予定です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

The instructor will acquire accurate knowledge and research methods on the history of Noh which is an important element in the history of Japanese performing arts.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)
<b>自然地理学(地形)(I)(前期メディア)</b>
<b>前  前  英  明</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

#### 【到達目標】

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。春学期（1）では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。地形と我々の暮らし。日本の地形と地質の特徴。
第2回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、第四紀の環境変動
第3回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第4回	マス・ムーブメント（1）	集塊移動のメカニズム
第5回	マス・ムーブメント（2）	マスマーブメントと土砂災害
第6回	河川による侵食地形	河川の形成、侵食の様式、さまざまな侵食地形
第7回	河川による堆積地形	堆積作用と堆積低地、地形と自然災害
第8回	海岸における作用	波の作用、沿岸流
第9回	海岸地形	海岸での堆積地形、侵食地形
第10回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第11回	周氷河作用と地形	周氷河作用によるさまざまなスケールの地形
第12回	氷河作用	氷河の形成と流動
第13回	氷河地形	氷河による地形形成
第14回	カルスト地形	石灰岩特有のカルスト地形の特徴と形成
第15回	人類の活動と地形変化	人類の活動が地形変化をもたらした影響

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない

#### 【参考書】

『地形学入門』A.L.ブルーム、榎根 勇訳、1970年  
 『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年  
 『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998年  
 『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年  
 『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011年  
 『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977年  
 『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～  
 『対話で学ぶ江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）  
 メディアスクーリング試験（70%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

中間レポートの課題はなるべく後半のテーマから出さないように気をつけたい。

#### 【Outline (in English)】

Students should get fundamental knowledge of geomorphology.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)

**自然地理学(海洋・陸水)(I)(前期メディア)**

小寺 浩二

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：前期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

水循環を中心とした水文学的な視点を取り入れつつ、地理学の重要な一分野である「海洋・陸水学」の再構築を試み、受講生の系統的な「水」に関する知識の習得をめざす。水資源、水利用、水質汚濁、地下水汚染、親水、洪水など、「水」に関する様々な問題を、身近な水辺からグローバルスケールまでの様々なスケールで扱う。

**【到達目標】**

海洋陸水学の基礎的な知識と理論についての理解を深めると同時に、具体的なテーマについての研究成果についても学ぶ。また、実際の調査方法に関しても理解し、具体的な課題に取り組んでまとめる力を育成する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各回とも、テーマに沿った基礎知識について概要を説明し、具体的なフィールドデータを紹介しながら理解を深める。その上で、調査技術についても紹介し、具体的な課題にも取り組んで、確実な力を育成する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海洋陸水学とは？	陸水学・水文学・講義の構成と課題
第2回	河川学入門	流域の形状・水系網・流況
第3回	地下水学入門	土層の三層構造・不飽和帯・不圧地下水
第4回	湖沼学入門	三つの分類・水温躍層・集水域
第5回	雪氷学入門	雪氷の分布・氷河・南極・グリーンランド
第6回	海洋学入門	海底の地形・プレートテクトニクス・深層海流
第7回	水環境の諸問題①	身近な水環境・湧水・地下水汚染・富栄養化
第8回	河川学の基礎	ハックの法則・ホートンの水系網・流況曲線
第9回	地下水学の基礎	ダルシーの法則・水温の鉛直分布
第10回	湖沼学の基礎	湖盆形態・湖水の物理、化学、生物
第11回	雪氷学の基礎	氷河の流動モデル・降雪、積雪、融雪
第12回	沿岸域・汽水域の水環境	内湾の水環境・大河川下流域
第13回	自然災害と水	津波・洪水・火山災害
第14回	流域圏の水環境	水循環と物質収支・流域の人間活動・流域委員会
第15回	水環境の諸問題② まとめ	地下水汚染・湖の酸性化、中性化・緑のダム

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回示してある課題に取り組む。また、調査技術についても可能な限り取り組む。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

通教テキスト『自然地理学（海洋・陸水）』第1版、小寺浩二・三井嘉都夫、2019年

**【参考書】**

毎回の講義資料で提示。

**【成績評価の方法と基準】**

テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み（中間レポート2回）、具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終レポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポートの内容やその際のコメントを考慮して、昨年度からレポート設題を変更した。具体的には、違うテーマで独立したレポート2本を課していたが、同一テーマで中間レポートを提出した上で最終レポートを提出する形式として、一つのテーマにじっくり取り組めるようにし、より内容の充実したレポートが提出できるように配慮した。

**【学生が準備すべき機器他】**

毎回の講義で説明した調査機器のうち、自作するものや、安価なものは、出来るだけ用意して、出来るだけ実際の水環境調査を行うこと。

**【その他の重要事項】**

提示した参考文献は多いが、できる限り参照して理解を深めること。メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

**【Outline (in English)】**

Attempting to reconstruct "Oceanography and limnology" which is an important area of geography while trying to adopt a hydrological viewpoint centered on water circulation, aim to acquire students' knowledge on systematic "water". We deal with various problems concerning "water" such as water resources, water use, water pollution, groundwater contamination, hydrophilic, flood etc. on various scales from familiar water side to global scale.

GEO100TE (地理学 / Geography 100)

## 自然地理学概論(2)(前期メディア)

小寺 浩二

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：前期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の重要な一分野である自然地理学の基礎を学び、地域における人間活動の舞台として自然環境を捉え、その分析を通して人間・社会と自然環境との相互関係について学ぶ。また、自然災害や環境問題における応用学としての自然地理学の役割の大きさについても理解を深める。

## 【到達目標】

地球の成り立ち・構造・歴史・自然災害から地球規模の環境変化の事例、人間活動の影響まで、幅広く様々なテーマを取り上げて講義すると同時に、それらに対するレポート作成によって、より深く問題を掘り下げる能力と習慣を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

人間活動の舞台である地球表面の自然環境を構成する要素は、大きく岩圏、気圏、水圏及び生物圏にわけられる。それぞれ内部に独自の仕組みを持ち、さらに相互作用を及ぼしあっている多様で複雑なシステムである。自然地理学は、このような自然環境のシステムに対応した地形学、気候学、水文学（陸水学）、植生地理学などの多様な分野から構成されており、自然環境を理解するための広範な視野と学問的な基礎力を身につけることができる。講義では、様々な資料をもとに、概論を論じ、さらに深く学ぶための文献なども提示する。その上で、3段階の課題に取り組み、ただ、教科書的な内容を学ぶだけでなく、関連資料を収集、整理、解析し、独自のテーマに沿って、オリジナリティのある小論文を作成する技量も養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	1) 地理学とは？ 2) 自然地理学とは？ 3) 講義の構成と課題
第2回	地球惑星科学としての（自然）地理学	1) 地球惑星科学とは？ 2) 惑星探査の歴史 3) 惑星としての地球
第3回	気候①<大気大循環と気候因子>	1) 地球の熱収支 2) 大気大循環 3) 気候要素 4) 気候因子
第4回	気候②<世界の気候区分と気候変動>	1) 世界の気候区分 2) 気候の変化・変動
第5回	気候③<日本の気候と局地気候>	1) 日本の気候の特色 2) 日本の気候区分 3) 局地循環と地域の気候 4) 局地風 5) 都市気候

第6回	地形①<世界と日本の大地形>	1) 世界の大地形とプレートテクトニクス 2) 日本の地質 3) 日本の造山運動と地形の特色 4) 火山の分布と成因
第7回	地形②<第四紀と山地の地形>	1) 第四紀 2) 氷河時代 3) 氷河地形と周氷河地形 4) 山地と丘陵地 5) 変動地形 6) 河谷と水系
第8回	地形③<平野と海岸の地形>	1) 平野と海岸 2) 台地と扇状地 3) 沖積低地の微地形 4) 平野の開発と改変
第9回	水文①<水循環と流域>	1) 水循環と水収支 2) 流域の水循環と物質循環 3) 河川学の基礎
第10回	水文②<地下水と湖沼>	1) 地下水学の基礎 2) 湖沼学の基礎
第11回	水文③<雪氷と海洋>	1) 雪氷学の基礎 2) 海洋学の基礎
第12回	植生<植生分布・景観・文化>	1) 世界の植生分布 2) 日本の植生分布 3) 原植生の衰退 4) 日本の植生景観 5) 森林と文化
第13回	自然災害と地理学の応用	1) 自然災害とは？ 2) 地震災害 3) 洪水・高潮災害 4) 火山災害
第14回	環境問題と地理学の応用・まとめ	1) 身近な環境問題 2) 地球規模の環境問題 3) 自然地理学の応用 4) まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト・参考書の内容は多岐にわたるが、全てをまんべんなく学ぶ必要がある。その上で、メディア授業の内容についても深く理解し、設題で示されたいくつかの課題の中から具体的なテーマを選び、対象地域を選定してより深く学習する。

毎回の講義に対しては、予習復習を確実にし（4時間が目安）、中間レポート、最終レポートには、十分な時間をかけて臨んでほしい。

## 【テキスト（教科書）】

小寺浩二(2020)：『自然地理学概論（1）』。法政大学通信教育部、

## 【参考書】

・高橋日出男・小泉武栄編著（2008）：『自然地理学概論』（地理学基礎シリーズ2）、朝倉書店、¥3,300+税  
・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景のなかの自然地理（改訂版）』、古今書院、¥2,500+税

## 【成績評価の方法と基準】

テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み（中間レポート1回）、その結果に対する指導によって具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終レポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義毎に示してある課題に毎回取り組み、中間レポートで途中経過をまとめた上で、最終レポートに取り組んでいただきたい。また、中間レポートの評価に当たっては、模範レポートとコメントを示すので、必ず参照して次のレポートの参考とするように。

## 【学生が準備すべき機器他】

基本的には、課題はパソコンを使って形式に従って作成する必要があるので、最低限のパソコンと、Officeソフトは用意しておく必要があります。また、課題の質を向上させるためには、ある程度のGIS活用も求められるため、MANDARAやQ-GISなどのフリーソフトはインストールして使えるようにしておいて下さい。

**【その他の重要事項】**

メディアスクリーニングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

**【Outline (in English)】**

Learning the fundamentals of natural geography, which is an important area of geography, capturing the natural environment as a stage of human activities in the area, and learning about the relationship between human beings and society and the natural environment through analysis. Also understand the magnitude of the role of natural geography as applied science in natural disasters and environmental problems.

GEO200TE (地理学 / Geography 200)
<b>地誌学概論(前期メディア)</b>
小寺 浩二
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成

### 【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。

さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第2回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第3回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第4回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第5回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第6回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第7回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第8回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第9回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第10回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第11回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第12回	自分誌	自分誌の定義と事例
第13回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第14回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。  
自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。

自然誌における広域性について考察した上で、「広域地誌」を作成する。

自然分野における主題を確定した上で、「主題誌」を作成する。

自然界に留意した上で、「自然誌」を作成する。

各授業の予習・復習は、原則それぞれ2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』,古今書院  
・配布プリント資料

### 【参考書】

・長谷川典夫(1994)：『地誌学研究－地誌学作成法とその事例』,大明堂  
・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』,大明堂  
・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-,大明堂  
その他、授業内で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートと最終レポートの結果を総合して評価する。中間レポート30点、最終レポート70点の合計100点とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

地誌学作成のスキルや実習よりも、知識重視の要望が多いため、今年度は、地誌全般の知識についてのウエートを増やす。

### 【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPointや映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

### 【その他の重要事項】

地理学科2年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

### 【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学  
<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

### 【Outline (in English)】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)

**金融論 A / 金融論 I (前期メディア)****武田 浩一**

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：前期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では、金融の基本的な仕組みを知り、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生が、まず金融の面白さに触れ、さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

**【到達目標】**

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

金融取引の機能や金融機関の役割、貨幣の意義、日本の金融システムの特徴などについて主に解説する。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
1	はじめの一步：「金融」とは？	金融とは何か
2	直接金融と間接金融	金融取引において金融機関が果たす役割
3	銀行の機能	銀行の決済機能と信用創造機能
4	日本の金融システムと銀行	日本の金融システムと銀行の特徴
5	協同組織金融機関と証券会社	協同組織金融機関と証券会社の機能
6	保険会社と消費者信用会社	保険会社と消費者信用会社の機能
7	資金循環と金融構造	日本の資金循環と金融構造の特徴
8	貨幣の意義と機能	貨幣の意義・機能と現代の通貨制度
9	決済システム	決済システムの機能
10	貨幣需要	貨幣需要と流動性選好
11	流動性のわなとマネーストック	貨幣需要における流動性のわなと貨幣供給
12	公的金融	日本の公的金融の役割と特徴
13	企業の資金調達	企業の財務状態と資金調達
14	国際金融機関	国際金融機関の意義と役割

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うため、講義で分からないことがあるときには、テキストを活用するなどして十分に復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊、2,200円）

**【参考書】**

特になし

**【成績評価の方法と基準】**

試験によって成績を評価する。  
ただし、中間テストも受講すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

開講初年度につき授業改善アンケートを実施していない。

**【Outline (in English)】**

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

## ミクロ経済学 A / 現代経済学 I (前期メディア)

平井 俊行

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：前期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学 A/現代経済学 I では特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

## 【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・基本的な計算問題を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学の目的、講義についての注意事項など。
第2回	微分の考え方・計算	微分の基本的な考え方・計算方法
第3回	部分均衡分析①	需要・供給・市場均衡
第4回	部分均衡分析②	余剰分析
第5回	部分均衡分析③	課税と死荷重
第6回	消費者行動理論①	選好・効用・無差別曲線
第7回	消費者行動理論②	予算制約
第8回	消費者行動理論③	限界代替率・需要関数の導出
第9回	消費者行動理論④	代替財・補完財、上級財・下級財、ギッフェン財
第10回	生産者行動理論①	生産と費用
第11回	生産者行動理論②	平均可変費用・平均総費用・限界費用
第12回	生産者行動理論③	供給関数の導出
第13回	一般均衡分析①	関連する2つの財の市場の間の影響。
第14回	一般均衡分析②	純粋交換経済

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。  
 事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についての演習問題を解く。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

第1回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト30%、期末試験70%

## 【学生の意見等からの気づき】

開講初年度につき授業改善アンケートを実施していない。

## 【Outline (in English)】

This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>マクロ経済学A / マクロ経済学I(前期メディア)</b>
<b>奥山 利幸</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代経済学には、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の2つの基礎理論群があります。その内の「マクロ経済学」は、一国全体での所得や消費といった集計量を対象に、景気循環、景気変動、経済成長などの仕組み、また、それらに対する経済政策の影響を探求します。本講義は、そうしたマクロ経済学を入門から中級レベルで学びます。「マクロ経済学A/I」では、その中でも、1960年代までのマクロ経済学を中心に学びます。1960年代までのマクロ経済学は、その後のマクロ経済学の発展のベースになっており、現在のマクロ経済学を理解する上で、いくつかの重要なテーマを与えています。

### 【到達目標】

- ・専門用語の理解：定義を述べられるか否か、具体的な例、数値などを示せるか
- ・理論の理解：図説が可能か、式で示せるか
- ・上記の応用力：現実に起こっている例に適用したときに何が言えるのか（インプリケーション）、どういったことが今後、発生すると  
言えるのか（予測）、理論はどの程度の説明力があるのか、その限界は何か（発展、新たな研究課題の発掘）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：  
DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学  
科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な  
判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

最初の数回は、マクロ経済学の問題意識を経済学の専門用語を確認しながら学びます。また、理論の発展に左右した学説も概観する予定  
です。そのあとに、1960年代までマクロ経済学の中心的理論であ  
ったケインジアン理論を学んでいきます。

初回から最後の講義まで、すべて、講義形式の授業です。毎回の授  
業において、その授業にて明らかにする問題意識を提示します。学  
習する専門用語や概念をキーワードとして示しますので、一つ一つ、  
理解するように努めてください。そして、その回の授業の問題意識  
に対し、どのような答えを得たのか、最後に考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「マクロ経済学」とは？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済学の問題意識は？</li> <li>・ 「マクロ経済学」とは？「マクロ経済学」は、経済学のような問題意識を、どのようにとらえ、どのように分析しようとするのか？</li> <li>・ 現代経済学の基礎理論群である「ミクロ経済学」との差異は？</li> </ul>
第02回	経済活動のとらえ方、フロー循環と三面等価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 景気変動や経済成長の指標は？</li> <li>・ その指標を作成するために、どのように経済活動をとらえれば良いか。</li> </ul>

第03回	日本経済における景気変動と経済成長、そして、学説史から見る「マクロ経済学」の諸派	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本経済における景気変動、経済成長は？</li> <li>・ 学説史と「マクロ経済学」の諸派は？</li> </ul>
第04回	「有効需要の原理」と均衡GDP水準の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「有効需要の原理」を想定した場合、「セイ法則」を想定した場合とでは、GDP水準の決まり方や大きさを左右する要因が異なるのであろうか？</li> <li>・ 「有効需要の原理」を想定した場合のGDP水準の決まり方は？</li> </ul>
第05回	消費関数とケインジアン理論	「有効需要の原理」を想定した場合のGDP水準の決まり方は、消費者の選択とどのように関係しているのであろうか？
第06回	ケインジアン乗数理論と貯蓄のパラドックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「有効需要の原理」を想定した場合、民間投資需要の増加は、景気や消費にどのような効果をもたらすのであろうか？それは、何かしらの法則性があるのであろうか？</li> <li>・ 「有効需要の原理」が成り立つ場合、人々が自らの資産を形成するための「貯蓄」を増やそうとすることは、景気を改善させるのであろうか？</li> </ul>
第07回	「有効需要の原理」の下での政府介入(1)消費関数と投資乗数への影響	<p>「有効需要の原理」を想定したとき、政府の介入・財政と景気の関係は、どのようになっているのであろうか。</p> <p>(1) そもそも「財政」とは？</p> <p>(2) 政府が介入するときの総需要は？均衡条件は？</p> <p>(3) 民間投資の景気や消費への効果、特に、投資乗数への政府の介入の影響は？</p>
第08回	「有効需要の原理」の下での政府介入(2)財政政策の乗数効果と財政赤字	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「有効需要の原理」を想定したとき、政府支出を増加させると、投資の乗数波及と同じように、乗数効果が働くのであろうか。均衡GDP水準は、その何倍、増加するのであろうか。その増加率には、何かしらの法則があるのであろうか。それは、その原資を公債発行によって賄っても、増税で賄っても、同じであらうか。財政赤字を悪化させないものであろうか。</li> <li>・ 減税については、どうであらうか。</li> </ul>
第09回	投資関数：限界効率の理論とトービンのq	「有効需要の原理」を想定した場合、民間投資の増加は、景気や消費に正の効果をもたらすが、そもそも、民間投資は、どのように決まるのであろうか？
第10回	金融市場と利子率(1)様々な金融商品と市場利子率	民間投資の大きさを左右する市場利子率は、どのように決まるのであろうか。そもそも、「市場利子率」とは、何を指しているのであろうか。
第11回	金融市場と利子率(2)貨幣市場と市場利子率	民間投資の大きさを左右する市場利子率は、どのように決まるのであろうか。貨幣の流通量であるマネーサプライ(マネーストック)との関係は？
第12回	金融市場と利子率(3)金融政策とマネーサプライ	日銀の金融政策の手段は？それらと貨幣の流通量であるマネーサプライ(マネーストック)との関係は？

- 第13回 IS・LM分析(1) IS曲線とLM曲線 生産物市場と金融市場が同時に均衡する状態は？ その調整プロセスは？
- 第14回 IS・LM分析(2) 財政政策とクラウディング・アウト 生産物市場と金融市場（債券市場，貨幣市場）の間の相互作用を考えたとき，財政政策は乗数効果以外にどのような効果を伴うのであろうか。財政政策が景気変動に有効なとき，無効なときは，いつであらうか。
- 第15回 IS・LM分析(3) 金融政策の効果 生産物市場と金融市場（債券市場，貨幣市場）の間の相互作用を考えたとき，金融政策は，どのような効果をもたらすのであろうか。金融政策が景気変動に有効なとき，無効なときは，いつであらうか。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習問題（Web）を行い，理解度を確認してください。経済学の理論は，積み上げになっていますので，過去に学んだことを確実に消化することが，次の講義の最大の準備学習になります。学んだ専門用語，理論に対し，曖昧さを無くすように復習しましょう。本授業の準備・復習時間は，各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

指定の教科書は，ありません。

**【参考書】**

[注意] 以下は，講義内容が理解できない場合に参考にとすると良い図書（あいうえお順）  
井堀利宏『入門マクロ経済学』新世社  
エーベル/バルナンケ『マクロ経済学』CAP  
ゴードン『マクロエコノミックス』多賀出版  
ブランシャール『マクロ経済学』東洋経済  
ホール/テイラー『マクロ経済学』多賀出版  
マンキュー『マクロ経済学』東洋経済

**【成績評価の方法と基準】**

試験100%：専門用語・理論の理解80%，応用力20%  
但し，中間レポートも提出すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

開始後、「お知らせ」や「ディスカッション」を活用してください。

**【Outline (in English)】**

Study introductory macroeconomics.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>国際経済論A / 国際経済論I(前期メディア)</b>
<b>田村 晶子</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。国際金融論では為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際マクロ経済学では、国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解し、マクロ経済政策の効果についても考えます。

### 【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、資本収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準について説明でき、現実の為替レート水準について議論できる。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基礎理論の部分は、世界的に定評のあるクルーグマン・オブズフェルドのテキストの内容にほぼ従って、パワーポイントを用いて講義を行います。また、日本独自の背景があるものは、実際の日本の資料を用います。毎回の授業では、キーワードや数式、グラフなどを自分で書き込む形の空白のある配布資料を用意しています。各自でダウンロードして、講義を聴きながら空白を書き入れる形で勉強を進めましょう。毎回の授業のあとで練習問題が出題されます。練習問題の提出のあと、練習問題の解答と解説を行いますので、自習をして理解を確認しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「講義計画」「国際収支表の項目」	まず、講義全体の流れを説明します。国際収支表の見方と各項目の関係について勉強します。
第02回	「日本の国際収支表と国際収支の記入方法」	実際の日本の国際収支表（2014年）をもとにその特徴を講義します。さまざまな国際取引が、実際に国際収支表にどのように記帳されるかを勉強します。
第03回	「開放経済における国民所得恒等式」	開放経済における国民所得恒等式から導き出される貯蓄投資バランスについて、日本、および世界各国の例をもちいて勉強します。
第04回	「為替レートと外国為替市場」	為替レートとはどういうものかを確認し、為替レートが決定される国際為替市場の仕組みを勉強します。
第05回	「外国為替取引の種類」	外国為替市場における先渡取引やオプション取引など、さまざまな国際為替取引について勉強します。

第06回	「短期の為替レート決定①：金利平価条件」	外国為替市場における需要と供給を理解し、その需給一致させるように為替レートが決定することを勉強します。
第07回	「短期の為替レート決定②：金融政策と為替レート」	本国金利、外国金利、為替レート予想や金融政策が為替レートに与える影響を勉強します。
第08回	「短期の為替レート決定③：先渡レートとリスク」	先渡（先物）為替レートの決定と、外貨資産にリスクがある場合の為替レートの決定について勉強します。
第09回	「長期の為替レート決定①：購買力平価」	長期の為替レート水準について、購買力平価説をもちいて勉強します。
第10回	「長期の為替レート決定②：実質為替レート」	長期為替レート水準からの乖離が生じる原因と、実質為替レートについて勉強します。
第11回	「外国為替市場介入」	外国為替市場介入の方法と効果について、日本での外国為替市場介入の例を確認しながら勉強します。
第12回	「為替レートとマクロ経済」	国内財市場と貨幣・外為市場の均衡モデルをもちいて、マクロ経済政策の効果を勉強します。
第13回	「通貨制度：固定相場制、最適通貨圏」	世界で多くの国で取られている固定相場制の維持について勉強します。最適通貨圏の理論で、統一通貨について勉強します。
第14回	「通貨危機のモデル」	第1世代モデル、第2世代モデルをもちいて、通貨危機を理解します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義では、キーワードや数式、グラフなどを空白にしたパワーポイントの配布資料を用意しています。必ず、各自でダウンロードして、講義を聴きながら書き入れる形で勉強してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

クルーグマン・オブズフェルド著『クルーグマン国際経済学 理論と政策：下 金融編（原著第10版）』丸善出版、2017年

### 【参考書】

高木信二著『入門国際金融（第4版）』日本評論社、2011年

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験との総合的な評価による

### 【学生の意見等からの気づき】

2014年からの国際収支表の大幅な変更に伴い、第1回、第2回を振りなおしています。最新のデータを配布していますが、第2回授業では年度と暦年データを取り違えていて、修正をしました。質問などにより、修正や補足がある場合は、「お知らせ」で連絡しますので、チェックしてください。

### 【Outline (in English)】

Students study the basics of International Finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy, then study the effects of macroeconomic policy.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>環境経済論A / 環境経済論I(前期メディア)</b>
<b>松波 淳也</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念

### 【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、環境経済学の基本概念、手法を初学者を念頭に置き、できる限り詳しく丁寧に解説する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

現代の環境経済学の基礎概念・手法を身につけてもらうことを目標とし、最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ビゲー税政策とポーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。
第15回	持続可能な発展④	SDの経済思想・再論。環境経済学の今後

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

### 【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>開発経済入門A(前期メディア)</b>
<b>池上 宗信</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資、彼らの直面するリスクとその対策を学びます。さらに、それらを理解するのに有用な時間的不整合、モラル・ハザードなどの理論、ランダム化比較試験、差の差の分析、操作変数法などの実証分析手法を並行して学びます。

#### 【到達目標】

開発途上国の貧困家計にとって重要な栄養、健康、教育、出産、リスクという経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心になりますが、授業中に演習問題があるので、ビデオを一時停止し、受講生自身で解く努力をしてから、ビデオを再生、解答を見てください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	貧困	貧困の罨、人口・貧困の分布・変化
2	ランダム化比較試験	因果関係、第3の要因
3	栄養	貧困家計の栄養に関する選択
4	健康	貧困家計の健康に関する選択
5	時間的不整合	コミットメントとあと押し
6	差の差の分析	パラレル・トレンドの仮定
7	操作変数法	内生変数、誤差項
8	教育	貧困家計の就学に関する選択
9	出産	妊娠、出産の意思決定
10	リスク1	期待値、期待効用
11	リスク2	状態空間分析
12	リスク3	独占的な保険会社
13	リスク4	完全競争保険市場
14	モラル・ハザード	リスク分担とインセンティブ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習として各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献を読んでください。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

アビジット・バナジー、エスター・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房  
講義のスライドは、このテキストだけでなく、各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献にも基づきます。

#### 【参考書】

池田新介(2012)「第3章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社  
ディーン・カーラン、ジェイコブ・アベル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房  
神取道宏(2014)「8 保険とモラル・ハザード」『ミクロ経済学の力』日本評論社  
神戸伸輔(2004)「13章リスクと保険」『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社  
高野久紀(2014, 2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号  
森田果(2014)「第18章 DD」『実証分析入門』日本評論社

#### 【成績評価の方法と基準】

オンラインシステム上の中間テスト20%、期末（メディアスクーリング）テスト80%で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

開講初年度につき授業改善アンケートを実施していない。

#### 【Outline (in English)】

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, and schooling decision by poor households in developing countries. We will also study theoretical model of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled experiment, difference in difference method, instrument variable methods, which are useful for studying the decision.

ECN300TF（経済学 / Economics 300）

**社会保障論A(前期メディア)**

菅原 琢磨

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：前期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、わが国が直面する社会保障上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

**【到達目標】**

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

社会保障政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会保障政策である。本講義では、社会保障政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か－定義と歴史的展開－	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題 わが国の医療提供体制	診療報酬制度の課題 医療提供体制の概要
8	これからの医療と地域政策の展開	地域の変貌とこれからの医療

9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義内でも様々な社会保障政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。

**【参考書】**

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第16版）』有斐閣、2019年

**【成績評価の方法と基準】**

メディアスクーリング試験による（100％）。試験問題は講義内で扱ったトピックスのうち最も重要な点について制度にかかる基礎的知識の理解や制度の背景にある考え方を理解出来ているかどうかを問う内容である。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

**【その他の重要事項】**

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。  
 授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

**【Outline (in English)】**

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social security policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN200TF (経済学 / Economics 200) <b>経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(前期メディア)</b>
<b>赤石 秀之</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、循環型社会についてミクロ経済学の視点から考察する。循環型社会では、モノの生産・消費・廃棄・処理という製品ライフサイクルの視点から望ましい社会の在り方を示しているが、それが経済学の立場からどのように評価されるのかを明らかにする。本講義を受講する学生は、モノ、ゴミ、リサイクル、リユース、不法投棄といったキーワードに関する経済学的な考察を深めることを目的としている。

### 【到達目標】

- ・モノの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
- ・ゴミの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
- ・循環型社会に関するミクロ経済分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業の進め方としては、主にミクロ経済分析で用いるグラフを使った授業が行われる。また、授業内ではグラフを作成して考える学習などがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	循環型社会の経済分析の目的・方法	授業の進め方や循環型社会の経済分析の目的と方法について解説する。
第2回	動脈経済の均衡分析①	モノの市場の仕組み、消費者行動、生産者行動について解説する。
第3回	動脈経済の均衡分析②	モノの市場での価格・取引量の決定の仕方、またそれらの変化の方向について解説する。
第4回	動脈経済の均衡分析③ 動脈経済の余剰分析①	モノの市場での価格・取引量の変化の要因、また人々の利益を分析する方法について解説する。
第5回	動脈経済の余剰分析②	モノの市場における人々の利益の大きさの決定、またその変化について解説する。
第6回	動脈経済の政策分析①	モノの市場における政策がモノの価格・取引量に与える影響について解説する。
第7回	動脈経済の政策分析②	モノの市場における政策が人々の利益に与える影響について解説する。
第8回	静脈経済の均衡分析①	ゴミの市場の仕組み、廃棄者行動、処理者行動について解説する。
第9回	静脈経済の均衡分析②	ゴミの市場の価格・取引量の決定の仕方、またそれらの変化の方向・要因について解説する。

第10回	静脈経済の余剰分析①	ゴミの市場の人々の利益の大きさの決定について解説する。
第11回	静脈経済の余剰分析②	ゴミの市場の人々の利益の大きさの変化について解説する。
第12回	静脈経済の政策分析①	ゴミの市場における政策がゴミの価格・取引量に与える影響について解説する。
第13回	静脈経済の政策分析②	ゴミの市場における政策が人々の利益に与える影響について解説する。
第14回	循環経済の均衡・余剰分析	循環型社会におけるモノの価格・取引量、ゴミの価格・取引量、また人々の利益の大きさの決定の仕方について解説する。
第15回	循環経済の政策分析	循環型社会における政策がモノの価格・取引量、またゴミの価格・取引量に与える影響について解説する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に事前の学習は必要ではないが、日ごろから新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、自身の経済や環境に対する関心・興味を高めておくことが望ましい。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

### 【参考書】

植田和弘（1992）『廃棄物とリサイクルの経済学』有斐閣。  
リチャード・C・ポーター（2005）『入門廃棄物の経済学』東洋経済新報社。  
細田衛士（2012）『グズとバズズの経済学（第2版）』東洋経済新報社。

### 【成績評価の方法と基準】

中間課題で40%、期末試験で60%、合わせて100%の総合評価とする。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の目線に合わせた授業をさらに心掛けていきます。

### 【Outline (in English)】

In this lecture, we consider a recycling society from the viewpoint of microeconomics. The recycling-oriented society shows a desirable society from the viewpoint of the product life cycle, from the production, consumption, disposal and disposal of goods, but we will clarify how it is evaluated from an economics perspective. The students who take this course aim to deepen economic considerations about keywords such as goods, garbage, recycling, reuse, and illegal dumping.

LAN300TF
ビジネス英語B(前期メディア)
中谷 安男
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日本を代表する企業のグローバルリーダーのケーススタディを通してビジネス英語の基礎力をつける。実際のとても興味深いビジネスの成功事例を理解しながら楽しく英語を学ぶ。  
 ・英文レポートが書けるためのライティングをテキストを使い自己学習する。

#### 【到達目標】

・実際のビジネスケーススタディを英語で学びながら、ビジネスにおけるリーダーシップ、ビジネス戦略、国際マーケティングの基礎知識を身に付ける。  
 ・英語レポートの説得力のあるイントロダクション、ボディ、結論が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP6,DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

有名企業のビジネスケースを扱い、語彙、リスニング、リーディングの演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	Introduction Case 8 Act 1 アカデミックライ ティングテキスト 1 章1節	授業の解説 Becoming a Representative Corporate Citizen in China (1)
2	Case 8 Act 2 アカデミックライ ティングテキスト 1 章2節	Becoming a Representative Corporate Citizen in China (2)
3	Case 9 Act1 アカデミックライ ティングテキスト 2 章1節	Developing New Business in Emerging Markets (1)
4	Case 9 Act 2 アカデミックライ ティングテキスト 2 章2節	Developing New Business in Emerging Markets (2)
5	Case 10 Act1 アカデミックライ ティングテキスト 3 章1、2節	De-centralizing Marketing Strategies (1)
6	Case 10 Act 2 アカデミックライ ティングテキスト 3 章3節4節	De-centralizing Marketing Strategies (2)
7	Case 11 Act1 アカデミックライ ティングテキスト 4 章	Competing with Big Companies by Establishing a Regional Brand (1)

8	Case 11 Act2 アカデミックライ ティングテキスト 5 章	Competing with Big Companies by Establishing a Regional Brand (2)
9	Case 12 Act1 アカデミックライ ティングテキスト 6 章	Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies (1)
10	Case 12 Act2 アカデミックライ ティングテキスト 7 章	Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies (2)
11	Case 13 Act1 アカデミックライ ティングテキスト 8 章	Enhancing Global Brand Communication (1)
12	Case 13 Act2 アカデミックライ ティングテキスト 9 章	Enhancing Global Brand Communication (2)
13	Case 14 Act1 アカデ ミックライティング テキスト 10章	Developing a Global Leader for Diversity Management (1)
14	Case 14 Act2 アカデミックライ ティングテキスト 11 章	Developing a Global Leader for Diversity Management (2)
15	Case 15 アカデミックライ ティングテキスト 12 章	Building Global Business Models

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan  
金星堂 Nakatani, Y. & Smithers, R.  
『大学生のためのアカデミック英文ライティング』中谷安男 大修館  
書店  
・ホームページ 「英語論文の書き方」  
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~englishwriting/index.html>

#### 【参考書】

『ケース・メソッド入門』 石田英夫 他 慶應義塾大学出版

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験の総合評価とする。

#### ■評価の観点

- ・ビジネス英語の基礎力がついているか
- ・テキストで取り扱うビジネスリーダーシップの理解が出来ているか
- ・ビジネスケースの簡単な要約が英語でできるか
- ・英文レポートが説得力のあるものか

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

ビジネス英語の履修目安の英語力としてはTOEIC480点、英検2級以上とする。

#### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to develop your understanding of the principles, strategies, and tactics of effective negotiation in business contexts. By using case study approaches, the participants can improve business English skills.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)
<b>経済地理 (I)(前期メディア)</b>
<b>近藤 章夫</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連事項を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの多層的な空間スケールを念頭におき、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、産業立地の空間的パターン、都市化と地域間格差、企業立地と国際分業、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

#### 【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済成長と人口構造①	世界経済の歴史と地理
第3回	経済成長と人口構造②	人口構造と経済成長論
第4回	経済成長と人口構造③	都市化と人口問題
第5回	立地論の基礎①	経済活動の立地行動と理論の概要
第6回	立地論の基礎②	産業・工業立地論の枠組
第7回	立地論と都市研究①	農業立地論と中心地理論
第8回	立地論と都市研究②	都市内部構造と都市システム
第9回	グローバル化とローカル化①	産業発展のダイナミズムと空間的分業論
第10回	グローバル化とローカル化②	比較制度分析とグローバルネットワーク論
第11回	国土利用と地域政策①	日本の地域構造と国土政策の歴史
第12回	国土利用と地域政策②	戦後の国土・地域政策と新たな動向
第13回	国土利用と地域政策③	都市・地域問題と現代の課題
第14回	まとめ	経済活動と地理的スケールの重層性

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

#### 【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会  
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン  
 桐原  
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院  
 富田和暁（2006）『地域と産業—経済地理学の基礎—』原書房  
 山田浩之・徳岡一幸編（2007）『地域経済学入門（新版）』有斐閣  
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の評価（60%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点20点）、レポート課題（20%）で最終評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

#### 【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN300TF（経済学/Economics 300）

**労働経済論A(前期メディア)**

佐野 晋平

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：前期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済学を応用し労働市場の機能を分析手法とその応用例を講義する。労働経済論Aでは、労働経済学の基礎理論と統計データに基づく実態について講義する。

**【到達目標】**

労働経済学の基礎理論と統計データに基づき、労働問題を理解できるようにすることが目的である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

資料に基づき講義を進める。労働経済学の基礎理論として、労働供給、労働需要、市場均衡、補償賃金格差、人的資本、差別の理論を説明する。各回では基礎理論の紹介と共に、関連する統計や研究について紹介する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、データをみる	・労働市場とは ・労働経済学とは ・労働経済学が対象とする社会問題 ・代表的な統計の紹介 ・データを観察する方法と注意点
第2回	労働供給1	・労働供給の決定 ・比較静学
第3回	労働供給2	・市場の労働供給 ・実証研究との関連
第4回	労働需要1	・短期の労働需要 ・比較静学
第5回	労働需要2	・長期の労働需要 ・調整費用
第6回	市場均衡	・労働市場の均衡 ・余剰
第7回	最低賃金の分析1	・完全な労働市場と不完全な労働市場 ・最低賃金
第8回	最低賃金の分析2	・差の差法 ・実証研究の紹介
第9回	補償賃金格差	・ヘドニック賃金 ・賃金格差
第10回	人的資本1	・人的資本 ・大学進学への応用
第11回	人的資本2	・最適な教育年数の決定 ・ミンサー型賃金関数
第12回	差別の理論	・嗜好による差別 ・競争の役割
第13回	労働市場の男女差1	・統計的差別
第14回	労働市場の男女差2	・男女間賃金の実態 ・実証研究の紹介

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。統計学・計量経済学の知識があると理解が寄り深まる。復習を重視すると共に、参考書を精読すると理解が深まる。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

講義資料に基づく。関連する文献は適宜紹介する。

**【参考書】**

川口大司『労働経済学』有斐閣  
 大森義明『労働経済学』日本評論社  
 Tito Boeri & Jan Van Ours, 2013, The Economics of Imperfect Labor Markets 2nd Edition, Princeton Univ Press

**【成績評価の方法と基準】**

中間テスト（40%）とメディアスクーリング試験（60%）に基づく。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

This course introduces students to the method of economic analysis of labor market. Especially, we focus on the economic theory of labor economics and statistics about labor market.

ECN100TG（経済学 / Economics 100）

**経済学入門 I / 経済学入門A(前期メディア)**

平田 英明

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：前期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：

その他属性：〈実〉

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

**【到達目標】**

現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	市場における需要と供給1	需要の基礎を学びます。
第2回	市場における需要と供給2	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第3回	市場における需要と供給3	供給曲線のシフト、需要と供給の一致（均衡）の基礎を学びます。
第4回	市場における需要と供給4	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第5回	弾力性とその応用1	需要の価格弾力性について学びます。
第6回	弾力性とその応用2	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第7回	需給と政府の政策1	価格規制の基礎を学びます。
第8回	需給と政府の政策2	課税の基礎を学びます。
第9回	消費者、生産者、市場の効率性1	余剰分析の基礎を学びます。
第10回	消費者、生産者、市場の効率性2	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第11回	課税の応用1	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第12回	課税の応用2	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第13回	国際貿易1	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。
第14回	国際貿易2	貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。ただし、前半は準備よりも復習に時間をかけて欲しいと思います。直観的な理解を授業を通じて行った上で、理解を深めて頂くのがよいと思います。

**【テキスト（教科書）】**

『マンキュー経済学I ミクロ編（第4版）』N. グレゴリ・マンキュー著（東洋経済新報社）

第3版をベースに授業は作成していますので、入手できるようにしたら第3版を使って頂いて全く問題ありません。

**【参考書】**

『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著（東洋経済新報社）

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート40%、レポート試験60%で評価する予定です。いずれも4択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。長文での記述等を求めるようなタイプの出題はしません。

**【学生の意見等からの気づき】**

中間試験（中間レポート）、期末試験後、模範解答を求める声が多に聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにお願いしています。中間試験がよくても、期末試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

**【その他の重要事項】**

過去に試験について、Yahoo知恵袋で質問をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。このようなオンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間レポート、レポート試験ともにきわめて限定した期間（2日間程度＜毎年、『法政通信』で日程を確定させて記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有する。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有する。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたい。

**【Outline (in English)】**

This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

**【実務経験のある教員による授業科目】**

○

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>会計学入門 I (前期メディア)</b>
<b>神谷 健司</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の中心は企業が公表している基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の読み方と、それらを用いた財務諸表分析の基礎を学ぶことである。

### 【到達目標】

15回の講義を聞いて、毎回の復習を行うことによって、基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を読むことができ、基本的な財務諸表分析ができるようになることである。この講義では原則的には個別財務諸表に限定し、連結財務諸表の話は行わない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

### 【授業の進め方と方法】

原則的には指定テキストに従って説明を行う。パワーポイントを使って説明を行うが、指定テキストを用意し、復習を行うことが必要である。また理解度を確認するために各回ごとに問題を数問用意しているが、指定テキストの問題を解くことによって、各回の重要な論点が身についているかどうかチェックすることが必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	通信教育部で会計学を学ぶ意義	通信教育部で会計学を学ぶ意義を考える。また会計分野にはどのような領域があり、本通信教育部ではどのような科目があるかを紹介する。
第2回	財務会計の役割と会計の法的制度	財務会計情報が提供する社会的役割と制度会計の法的枠組みについて学ぶ。
第3回	財務会計の基本構造	財務会計の基本的構造として会計公準と企業会計原則における一般原則について学ぶ。
第4回	財務諸表とは	財務諸表とはどのようなものか。その体系や全体的な内容について学ぶ。
第5回	貸借対照表を読む（1）	貸借対照表の仕組み、資産の概念と分類、流動資産、固定資産、繰延資産について学ぶ
第6回	貸借対照表を読む（2）	負債の概念と分類、流動負債、固定負債、純資産の概念と分類、純資産の諸項目について学ぶ。
第7回	損益計算書を読む（1）	損益計算書の仕組み、損益計算のルール、売上総利益、営業利益といったことを学ぶ。
第8回	損益計算書を読む（2）	経常利益、税引前当期純利益、当期純利益といったことについて学ぶ。
第9回	キャッシュフロー計算書を読む	キャッシュ・フロー計算書の読み方について学習する。

第10回	財務諸表分析（1）	財務諸表分析の基本体系、百分比財務諸表分析について学習する。
第11回	財務諸表分析（2）	成長性分析、安全性の分析、キャッシュ・フロー情報の分析について学習する。
第12回	財務諸表分析（3）	収益性分析、1株当たり分析について学習する。
第13回	実際の企業の財務諸表を読む	実際の財務諸表を読むことによって、今まで学習した財務諸表分析についての基本的事項について復習する。
第14回	財務会計の基礎理論	財務会計において議論されている基本的な考え方や概念フレームワークの基礎などについて紹介するとともに、第5回から9回までの講義の内容のうちいくつかを確認する。
第15回	全体のまとめ	14回の講義の重要な部分を復習し、全体の理解を確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的な会計用語を覚えることと、テキストの練習問題を解くことが必要である。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級（第3版）』中央経済社、2014年

### 【参考書】

桜井久勝『会計学入門（第4版）』（日経文庫）日本経済新聞出版社、2015年

### 【成績評価の方法と基準】

メディアスクーリング試験にて評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど。

### 【その他の重要事項】

簿記の基本的知識がない方は並行して簿記Ⅰ・Ⅱの学習を行って欲しい。日商簿記3級程度の知識があると本講義の理解も深まります。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan, and the specific accounting procedures in applying accounting standards. We learn accounting standards of assets items, liabilities items, and shareholders' equities items, revenues and expenses, loss accounting. We also will learn the basis of consolidated financial statements, and management accounting.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>マーケティング論 I (前期メディア)</b>
<b>竹内 淑恵</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済のサービス化、グローバル化、ICTの進展や消費者ニーズの多様化など、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。

本講義では、顧客創造に焦点を当て、マーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

#### 【到達目標】

- ・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について学ぶ。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を養う。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で授業を進めます。
- ・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	第1章 マーケティング発想法 - ニューマーケットとタイド	消費者のニーズとウォンツについて、性能ではなく、価値で考えることの重要性を学ぶ。
第02回	第2章 マーケティング・ミックスによる顧客創造 - ネスレ日本 キットカット	キットカットの事例を用い、マーケティングの4P(製品、価格、流通、プロモーション)によっていかに顧客創造を行うかを学ぶ。
第03回	第3章 製品による顧客創造 - カモ井加工紙株式会社 マスキングテープ「mt」	マスキングテープ「mt」の事例を用い、製品開発と価値共創のパートナーとしてのユーザー等について学ぶ。
第04回	第4章 価格による顧客創造 - サントリーザ・プレミアムモルツ	プレミアムモルツの事例を用い、価格設定と価格維持等の価格マネジメントについて学ぶ。
第05回	第5章 チャンネルによる顧客創造 - ネスレ日本 ネスカフェ アンバサダー	ネスレの事例を用い、コーヒービジネスの既存チャンネルの管理、ネスレによるチャンネルの構築と管理、これからのチャンネル創造について学ぶ。
第06回	第6章 コミュニケーションにおける顧客創造 - ファーストリテイリング ヒートテック	ヒートテックの事例を用い、訴求点の設定(焦点を絞った差別化された表現)、広告コミュニケーション段階の理解と効果的なメディアの利用を学ぶ。
第07回	第7章 顧客理解 - ライオン株式会社「Ban 汗ブロックロールオン」	Ban 汗ブロックロールオンの事例を用い、マーケティングリサーチ、製品開発における各種調査、リサーチにおける留意点を学ぶ。
第08回	第8章 関係構築 - ガンホー・オンライン・エンターテイメント バズドラ	バズドラの事例を用い、関係性パラダイムと交換パラダイム、プラットフォームビジネス等を学ぶ。
第09回	第9章 デジタル・マーケティング - ハウス「ウコンの力」	ウコンの力を事例とし、デジタルマーケティングによる顧客創造、接点構築におけるメディアの使い分け、デジタルメディアの役割等を学ぶ。

第10回	第10章 デイモンド チェーン - カルビーポテトチップス	カルビーポテトチップスを事例とし、在庫の役割、在庫管理の重要性、2つの在庫管理のデザイン等を学ぶ。
第11回	第11章 ブランド構築 - マンダム ギャツビー	ギャツビーを事例とし、ブランド構築における要点、ブランド構築の鍵概念、ブランドの活性化を学ぶ。
第12回	第12章 営業活動 - カゴメ 瀬戸内レモン	カゴメ瀬戸内レモンを事例とし、営業活動の多様さ、営業活動を進めるためのポイント等を学ぶ。
第13回	第13章 マーケティングの戦略展開 - 花王 ヘルシア緑茶	花王ヘルシア緑茶を事例とし、戦略とは何か、マーケティングと戦略、代表的な戦略定石を学ぶ。
第14回	第14章 社会共生 - トヨタ プリウス	プリウスを事例とし、社会共生を目指すマーケティング、社会的課題の解決への取組みの重要性、社会共生を実現する仕組みについて学ぶ。
第15回	第15章 マーケティング 3.0 - P&G	P&Gのマーケティングの歩みを事例とし、マーケティングの構図・発展について学ぶ。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連科目としてマーケティング論IIがあります。あわせて履修するようにしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

#### 【参考書】

- ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第5版』有斐閣(2016年)。
- ・コトラー, P., G. アームストロング, 恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

#### 【成績評価の方法と基準】

- ・中間テスト1,2は各々25%、トータル50%を平常点として扱います。中間テストを受けていないと成績評価に大きく影響しますので、必ずテストを受けてください。
- ・最終課題であるレポート試験を50%として扱い、平常点と加算して評価します。
- ・平常点50点+レポート課題50点、計100点満点とし、60点以上が合格となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

- ・授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
- ・授業の受講に加えて、レポート課題が負担になるという感想を持つ受講生もいると思いますが、「単位取得」のため、それ相応の努力をお願いしたいと考えています。
- ・皆さんの勉学へ向けた努力と熱意を期待しています。一緒に頑張るマーケティング論を勉強しましょう！

#### 【その他の重要事項】

メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの理論を解説する。

#### 【Outline (in English)】

Market environments, such as progress of the service economy, globalization, ICT and diversification of consumer needs, are changing. With changes of those environments and transaction objective, there have been transitions in the concept and objective of marketing. However, its essence is ultimately to create a mechanism providing value to satisfy consumer needs.

In this course, we will focus on customer creation and learn how to deal with marketing problems and how to solve them. In each lecture, we learn the basics of marketing through case studies.

#### 【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN300TG (経営学 / Management 300)

**管理会計論 I (前期メディア)**

北田 智久

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：前期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを伝えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

**【到達目標】**

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法政学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	固定費と変動費 1	固定費と変動費、貢献利益
第3回	固定費と変動費 2	損益分岐点
第4回	固定費と変動費 3	固定費のマネジメント
第5回	固定費と変動費 4	固定費とビジネスモデル
第6回	固定費と変動費 5	セールズミックス
第7回	固定費と変動費 6	固定費分解
第8回	マネジメントコントロールシステム 1	PDCA サイクル
第9回	マネジメントコントロールシステム 2	上司と部下の関係
第10回	マネジメントコントロールシステム 3	4つのコントロール
第11回	マネジメントコントロールシステム 4	コストセンター・プロフィットセンター
第12回	経営計画 1	計画の種類
第13回	経営計画 2	中期経営計画とその改定
第14回	経営計画 3	短期利益計画

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

**【参考書】**

浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館

**【成績評価の方法と基準】**

「中間レポート」40%と「メディアスクーリング試験」60%との総合評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>税務会計 I (前期メディア)</b>
<b>大下 勇二</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「税務会計 I」では、会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的考え方を学習します。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる能力の涵養を目的とします。

#### 【到達目標】

法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することを目標とします。これにより、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる基礎的能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、わが国法人税法の課税所得計算に関する主要項目をスライドに基づき講義する形で進めていきます。各自各章の最後の○×問題を解答した上で次の章に進みます。また、受講生には中間レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
①	法人税の基礎(1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
②	法人税の基礎(2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
③	課税所得計算の基礎(1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
④	課税所得計算の基礎(2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税所得計算の特徴を理解する。
⑤	売買損益等の計算(1)	売上収益の認識等を中心に売買損益計算の基礎を学習する。
⑥	売買損益等の計算(2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
⑦	その他の収益の計算(1)	受贈益、受取配当等(前半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑧	その他の収益の計算(2)	受取配当等(後半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑨	売上原価の計算(1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
⑩	売上原価の計算(2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
⑪	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を理解する。
⑫	固定資産の減価償却(1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。

- ⑬ 固定資産の減価償却(2) 耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習する。
- ⑭ 繰延資産の償却 税法上の繰延資産の考え方を学習し、税法固有の繰延資産を理解する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した通教テキストを読んでおくこと。また、中間レポートの提出が求められます。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

通信教育部テキスト

大下勇二著『税務会計 I・II』法政大学,2019年

#### 【参考書】

必要に応じて指示する予定。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出(必須)と修了試験により評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

法人税課税の問題について、各自自分なりの問題意識をもって授業に参加してもらう。

#### 【Outline (in English)】

The objective of Tax Accounting I is to understand the foundations of corporate tax accounting in Japan.

ECN300TG (経済学 / Economics 300)
<b>国際金融論Ⅱ (前期メディア)</b>
<b>横内 正雄</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化（金融化）が著しく進んできている。日々のニュースなどでは、この金融グローバル化に関連した出来事がしばしば取り上げられてきている。国際金融論Ⅱでは、国際金融の基礎的な理論を理解した上で、金融グローバル化が進んできた歴史的な過程と国際金融の現状について学ぶ。

### 【到達目標】

国際金融論Ⅱは、国際通貨体制や国際金融の現象について、第一次大戦前の国際金本位制から現在に到るまでをだどりながら、その背後にある流れを捉え、国際金融の現状をより深く理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際通貨体制とは何か。その定義と分析視角について学ぶ。
第2回	第一次大戦前の国際金本位制	第一次大戦前の国際金本位制の基本的な特徴について学ぶ。
第3回	両大戦間期の国際通貨システム	両大戦間期の再建金本位制がなぜ短命に終わったのかを学ぶ。
第4回	I M F の形成	1930年代の国際金融の混乱と戦後の国際通貨体制を構想したブレトンウッズ会議での議論について学ぶ。
第5回	ブレトンウッズ体制(1)	戦後のブレトンウッズ体制の基本的な特徴について学ぶ。
第6回	ブレトンウッズ体制(2)	戦後のブレトンウッズ体制の問題点とその崩壊過程について学ぶ。
第7回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の長所と短所および様々な為替相場制度の特徴について学ぶ。
第8回	石油危機と累積債務問題	1970年代の石油危機が国際金融にもたらした影響と1980年代の途上国の累積債務問題について学ぶ。
第9回	1980年代の日米経常収支不均衡	1980年代以降生じている日米の経常収支不均衡の問題について学ぶ。
第10回	国際金融の政策協調	1980年代のドル高を是正するための国際政策協調の過程と国際政策協調の理論について学ぶ。

第11回	1990年代の円高問題	1990年代の円高をもたらした要因と内外価格差の原因について学ぶ。
第12回	欧州通貨統合	ユーロの導入に到る欧州の通貨統合の過程について学ぶ。
第13回	通貨危機	1990年代の3つの通貨危機についてその過程をたどるとともに通貨危機の理論を学ぶ。
第14回	通貨危機から金融危機へ	1997年のアジア通貨危機から2008年のリーマンショックに到るまでの国際金融の流れを学ぶ。ギリシャの経済危機に端を発するユーロ危機についてその過程と背景について学ぶ。
第15回	ユーロ危機	

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているもののうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持っておくことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

### 【参考書】

(1)初級レベルの参考書

・秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ』[第4版]有斐閣、2012年

・山本栄治『国際通貨システム』岩波書店、1997年

・石見徹『国際通貨・金融システムの歴史』有斐閣、1995年

(2)中級レベルの参考書

・上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』有斐閣、2007年

・上川孝夫『国際金融史』日本経済評論社、2016年

・田中素香・岩田健治編『現代国際金融』有斐閣、2008年

・勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011年

・川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』[第4版]有斐閣、2012年

(3)資料集

・神田真人編『図説国際金融2015-2016年版』財経詳報社、2015年

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）と試験（70%）による。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Today, the progress of financial globalization is remarkable. The purpose of this lecture is to understand the history and current situation of international finance. Through this lecture, you can deepen the understanding of contemporary international financial events.

MAN300TG (経営学 / Management 300)

## 日本経営論(前期メディア)

## 金 容 度

カテゴリー：前期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：前期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義する。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象について考える能力を高める。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特異性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

第1講はイントロダクションと、「日本的経営」についての議論の流れを概観します。第2講から第5講では、日本の経営についての国内外の諸議論を具体的に検討し、第6講から第10講までは日本の企業システムの特徴を踏まえて、アメリカや韓国の企業システムとの比較を行います。第11講から15講では、日本の企業間関係に焦点を合わせて、企業間取引、メインバンクシステム、企業集団を検討します。その際、各国の多様性と共通性の総合的な理解に重点をおきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	全15講の概観、「日本的経営論」の流れの概観	本授業で日本の企業経営を見る主な視点を説明した上で、日本の経営についてのこれまでの研究動向を講義する。
第02回	「日本的経営特殊論」	間宏氏の議論を中心に、日本の企業経営の特異性を強調する議論を検討する。
第03回	「日本的経営普遍論」	小池和男氏の議論を中心に、日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する
第04回	日本の経営についての海外からの議論(1)	ジェームス・アベグレン氏とエズラー・ヴォーゲル氏の議論を中心に、日本企業についてのアメリカでの議論について講義する。
第05回	日本の経営についての海外からの議論(2)	ウィリアム・オオウチ氏のZ理論、パスカルとエイソスジェームス氏の議論について講義する。
第06回	戦後日本企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などを中心に、日本の企業システムを考察する
第07回	日米の労使関係史比較：「3種の神器」は日本だけの特徴だったのか？	工業化初期と成長期の日米労使関係にどのような類似点が存在したかを講義する。

第08回	日米の企業システムの比較(1)：1970年代までの米企業システムを中心に	日米の共通点に注目して、19世紀末から20世紀前半までの米大企業の特徴を描き出す。
第09回	日米の企業システムの比較(2)：1980年代以降の米企業システムを中心に	主に、1980年代以降のアメリカ企業の変化を検討し、日本の企業経営への示唆点を検出する。
第10回	日韓の企業システムの比較	企業システムの日韓比較を行う。
第11回	日本の企業間取引の特徴：自動車産業の事例	戦後、日本の自動車部品取引の事例を取り上げ、日本の企業間関係の特徴を考察する。
第12回	日米の企業間取引の比較：自動車産業の事例	米自動車産業における企業間取引の歴史と特徴を検討した上で、日米比較を行う。
第13回	日韓の企業間取引の比較：自動車産業の事例	韓国の自動車産業における企業間取引の歴史と特徴を検討した上で、日韓比較を行う。
第14回	メインバンクシステム	企業間関係の事例として戦後のメインバンクシステムを、市場性と組織性の絡み合いという視点から講義する。
第15回	企業集団	企業間関係の事例として企業集団を取り上げ、その特徴、機能、最近の変化を、市場性と組織性という視点から講義する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の中で、毎回授業テーマと関連すると思われる部分を事前に読んでから授業に臨んでください。また、復習の際、毎回の授業中に紹介される参考文献のうち、少なくとも1点を読んでください。これは、復習時の理解度を高める重要な方法です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

## 【参考書】

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済』（第3版）有斐閣、2011年  
 浅沼萬里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム』東洋経済新報社、1997年

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート(30%)、メディアスクーリング試験(70%)で成績評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

もし、授業内容についての質問があれば、中間レポートの提出時、中間レポートの最後に一緒に書いて提出してください。中間レポートの採点后、レポートについてのコメントと共に、質問への答えも返します。

## 【Outline (in English)】

I will lecture the status quo and history of business management in Japan with international comparison. The objective of this course is to understand business management in Japan more deeply from the perspective of international comparisons.

ECN300TG (経済学 / Economics 300)
<b>ファイナンス論 I / 現代ファイナンスA(前期メディア)</b>
<b>山崎 輝</b>
カテゴリー：前期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：前期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

金融・証券市場の基礎知識および債券と株式を対象とした証券分析がテーマとなります。

## 【到達目標】

本授業では、初めてファイナンスを学ぶ学生を対象にファイナンス理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、金融・証券市場の基礎知識と債券・株式の計量分析です。授業の到達目標は、①金融・証券市場の基礎知識を習得する、②株式と債券のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③初等的な確率論をもちいて不確実な将来キャッシュフローの評価手法を説明することができる、の3つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

## 【授業の進め方と方法】

金融・証券市場の概観や基礎用語を紹介した後に、金融商品の現在価値の考え方や株式・債券の基本的な分析手法を解説します。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識 (2次方程式、1次関数や2次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など) は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓 (関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可) を使いますので用意してください。

## 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「金融・証券市場の概観」	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足などについて概説します。
第02回	「本邦の債券市場」	債券の種類、発行形態、国債市場と社債市場、発行市場と流通市場などについて講義します。
第03回	「本邦の株式市場」	株式の種類、株式の保有構造、売買のしくみ、発行市場と流通市場などについて講義します。
第04回	「キャッシュフローと現在価値(1)」	キャッシュフローの概念を矢印図をもちいて把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念について講義します。
第05回	「キャッシュフローと現在価値(2)」	付利期間、連続複利、割引率の概念、連続複利でもちいられるネイピア数について講義します。
第06回	「債券分析入門(1)」	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、パーレートの概念について講義します。
第07回	「債券分析入門(2)」	スポットレートとフォワードレートの概念について講義します。
第08回	「債券分析入門(3)」	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブの間の関係について講義します。
第09回	「債券分析入門(4)」	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デュレーションによる債券価格の近似方法について講義します。
第10回	「債券分析入門(5)」	債券の信用リスクと格付けについて概説した後に、社債分析に必要な確率の基礎知識 (事象、確率測度、確率変数、期待値など) について講義します。
第11回	「債券分析入門(6)」	社債価格の評価手法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率について講義します。
第12回	「株式分析入門(1)」	株価評価モデルである配当割引モデル (ゼロ成長モデル、定率成長モデル) について講義します。

第13回 「株式分析入門(2)」

株価評価のための財務分析を概説した後に、配当割引モデルによる株式分析について講義します。  
株価評価モデルであるフリーキャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルについて講義します。  
PER、PBR、配当利回り、利益回り、企業価値EBITDA比率などの株式投資尺度について講義します。

第14回 「株式分析入門(3)」

第15回 「株式分析入門(4)」

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

スライド資料の復習を十分に行ってください。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

スライド以外には特に指定しません。

## 【参考書】

『新・証券投資論Ⅱ (実務篇)』(伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009年)

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポート40%、レポート試験60%の合計100%です。ただし、単位取得のためには中間レポートの提出は必須となります。レポートの内容によってメディアの授業 (小テストを含む) の理解度を確認し、成績評価を決定します。したがって、メディア授業の理解と小テストへの取り組みが何よりも肝要となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

「ファイナンスは難しい学問である」との印象を持っている学生が多いようですが、基礎からしっかりと学べる講義となっています。現代の経済・経営を理解するためには必須の内容なので、みなさんの積極的な受講を期待しています。

## 【その他の重要事項】

担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

This course offers an introduction to finance theory to students who start learning finance. It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To give students basic tools for analyzing securities such as government bonds, corporate bonds, and stocks. (3) To provide students with an introductory asset pricing theory for evaluating the present values of uncertain future cash flows.

## 【実務経験のある教員による授業科目】

○

ECN100TA (経済学 / Economics 100)
<b>経済学(資本と利子から経済を考える)(後期メディア)</b>
<b>水野 和夫</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の基本を学ぶことで、現在世界的に問題となっている格差、先進国経済の長期停滞、および日本のデフレの原因などを解明することができる。さらに、どうすれば解決の方向に向かうとができるを学ぶことができる。

後半では、経済学が根底にもっている考え方を学ぶことができる。

#### 【到達目標】

アベノミクスの成否、トランプ大統領が今後とるであろう保護主義的な経済政策、EUは維持されるのか解体されるのか、21世紀の抱える課題について、みずから判断できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

メディアスクーリング上で講義形式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	経済学の基本概念・・・資本について①	資本とはなにか、①現在の主流の考え方（フィッシャーの資本概念）、②マルクスの資本概念、③両者の違いについて
第2回	経済学の基本概念・・・資本について②	ケインズの資本概念と「利子生活者の安楽死」について
第3回	経済学の基本概念・・・ストックとフローについて	GDPとは、ストックである資本とフローである所得（GDP）の関係
第4回	経済学の基本概念・・・利子率について	フィッシャー方程式、名目利子率=実質利子率+期待インフレ率
第5回	日本とドイツの10年国債利回りゼロの原因	利子率ゼロはなにを意味しているのか、17世紀初頭のイタリヤ・ジェノバの「利子率革命」と現在の日独の比較
第6回	資本と利子率の関係について	資本係数とは、資本の過剰と利子率ゼロの関係について
第7回	グローバリゼーションと新自由主義について	グローバリゼーションが1980年以降、台頭してきた背景、金融化現象について
第8回	グローバリゼーションがもたらした結果について	格差の拡大の現状、中間層の没落の背景など
第9回	グローバリゼーション論争について	グローバリゼーションは近代の現象か否か、グローバリゼーションは近代システムを崩壊させるのか
第10回	グローバリゼーションの現状と米国保護主義台頭の背景	米國中産階級の現状

第11回	13世紀の資本論	中世ヨーロッパで「利子」が公認された背景
第12回	近代の始まりにおけるイギリスの資本主義について	東インド会社、南海会社、イングランド銀行、「海賊資本主義」、「陸と海のたたかい」
第13回	18世紀後半以降の産業革命とは	経済成長におけるエネルギーの重要性
第14回	21世紀の社会はどうなるのか	IoT、ビッグデータ、AIなどの技術革新と経済政策
第15回	まとめ	第1回から14回までの講義のなかで説明が不十分だった箇所や、全体を通じて重要なことを再確認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パワーポイントで作成した資料を事前に読むことで、授業の内容が理解できる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

なし

#### 【参考書】

『資本主義の終焉と歴史の危機』（水野和夫、集英社新書、2014）

『閉じてゆく帝国と逆説の21世紀経済』（水野和夫、集英社新書、2017）

#### 【成績評価の方法と基準】

中間テスト（30％）と期末のメディアスクーリング試験（70％）の合計。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the Principles of Micro Economics to students taking this course. Economics is a study of mankind in the ordinary business of life.

Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics? There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

**基礎特講(文学の楽しみ方)(後期メディア)****長谷 俊雄**

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：後期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「こうすれば、文学はもっと楽しく読むことが出来る、もっと深く鑑賞することができる」をコンセプトにした文学講義です。この講義では入りやすい入り口をいろいろ工夫しています。自然に文学の世界に入ってゆけるようになります。

**【到達目標】**

知識としての理解だけでなく、感動をともなった理解、これが到達目標です。感動すれば自然に好きになります。これも到達目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

文学をいろいろな角度から眺めようと思います。角度を変えて眺めると、外国の文学も日本の文学も、また違った顔を見せます。さらに、文芸評論家の栗津則雄氏（法政大学名誉教授）をお招きし、文学、芸術についていろいろお話を伺います。文学的感動のある人生は素晴らしいものです。共有しましょう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	栗津則雄特別談話	本学名誉教授の栗津則雄先生（芸術院会員）をお招きしての特別講義です。
第2回	栗津則雄に聞く（対談Ⅰ）	本学名誉教授の栗津則雄先生（芸術院会員）から、文学、その他にまつわる貴重なお話を伺います。フランス文学、文芸評論、美術評論、音楽評論と、関心領域は多岐にわたっています。
第3回	栗津則雄に聞く（対談Ⅱ）	第2回の続き。
第4回	『ガラスの動物園』	自分のなかに閉じこもる主人公の複雑な心理。
第5回	モディリアーニ	モディリアーニと女性たち。
第6回	田中一村	一村の生き方の矛盾とやさしさ。
第7回	永井荷風	文人趣味の荷風、写真機の不思議。
第8回	グレッタ・ガルボの美術収集	徹底した自分の生き方。
第9回	「その後の田端文士村」 芥川龍之介、室生犀星、萩原朝太郎	3人の友情が語るもの。
第10回	白い京都と桜	雪のなかをあるき、桜を観る。
第11回	アメリカはどのような国かⅠ（歴史的展開）	移動の意味とは何か。
第12回	アメリカはどのような国かⅡ（文学から見た）	二次大戦以降の名作。

第13回 『セールスマンの死』 カバンの中身はなにか。  
とアメリカン・ド

リーム

の死

第14回 エルヴィス・プレス なぜ老若男女が熱狂するのか。

リーとアメリカン・

ドリームの光と陰

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

さまざまな時代の、さまざまな作家、作品が登場します。調べたことをただ叙述するのではなく、もし自分がその時代に生きていたならば、自分がその作家であったならば、という直裁的な感覚をもって講義を聴いてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

直接、作品を読んでください。

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート（40%）と試験（60%）による総合評価。講義をきちんと聴き、その上で、自分の感じたこと、考えたことを書いたりレポートを高く評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

Many approaches to the Literature.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S(後期メディア)</b>
<b>今井 澄子</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習の基礎となる英文読解力を「仕事」「動物」「音楽」「外国」という4つのトピックに関連する英文を読みながら養成し、あわせて読解に必要な英文法・構文、基本的語彙の知識を確実にする。

### 【到達目標】

基本的な英文法・構文の知識をもとにして、平易な語彙で書かれた230語程度の英文を読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

第1講で英文読解の基本となる文要素と文型について講義する。第2～4講ではテキスト各ユニットにある文法項目すべての解説を行う。第5講からは英文読解に入り、各講につき2ユニットずつ（英文 passage 2つずつ）を読み、内容に関する問題の解答・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	文要素と文型	文要素 SVOC 5文型
第2回	時制と進行形・完了形	Unit1～7の Grammar 現在形、現在進行形、過去形、未来形、現在完了形 1・2・3
第3回	受動態と助動詞・準動詞 1（不定詞）	Unit8～15の Grammar 受動態、助動詞 1・2・3、不定詞 1・2・3・4
第4回	準動詞 2（動名詞・分詞）と分詞構文	Unit16～20の Grammar 動名詞 1・2、分詞、分詞構文 1・2
第5回	英文読解	Unit1 The Dog Walker Unit2 An Interview with a Paramedic
第6回	英文読解	Unit3 The Video Game Tester Unit4 The Trainee Chef
第7回	英文読解	Unit5 Working on an Oil Platform Unit6 The Hippopotamus
第8回	英文読解	Unit7 Amazing Travelers Unit8 The Animals of the Camargue
第9回	英文読解	Unit9 Just a Piece of Seaweed? The Leafy Sea Dragon Unit10 Racing Across Snow and Ice
第10回	英文読解	Unit11 Learning a Musical Instrument Unit12 How to Make a Glass Orchestra

第11回	英文読解	Unit13 Rock School Unit14 An Ancient Musical Instrument
第12回	英文読解	Unit15 Music Therapy Unit16 On Vacation in Guatemala
第13回	英文読解	Unit17 The Maldives Unit18 The Maori
第14回	英文読解	Unit19 Russia Unit20 Monaco

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第4講までの文法項目は、あらかじめ教科書の該当 Unit にある Grammar 問題を解いておくとう理解しやすい（ただし第1講は教科書に該当箇所なし）。第5講からの英文読解は、辞書を使って英文を精読し、Understanding the main ideas と Reading for detail 問題を解いておくとうよい。なお、テキスト音声のダウンロード/ストリーミングが可能だが、音声なしでも授業には支障がない。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

「Break Away 1（最新速読演習・基礎編）」成美堂

### 【参考書】

各種英和辞書。英文法などの参考書。

### 【成績評価の方法と基準】

評価は中間レポート、および、期末試験（いずれも100点満点）の得点の平均を算出し、60%以上の得点、すなわち、平均点が100点満点中の60点以上で合格となる。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度までとは違うテキストを使用しているため、具体的なことは特になし。一般的注意としては、単位取得のためには中間レポートと期末試験の両方とも提出し、成績評価の方法と基準にある合格点を取る必要があることをご確認いただきたい。また、メディア内部の例文、小テスト等の問題文・和訳は、テキストおよびテキスト付属の指導書にあるものを使用している（一部例外あり）。このため、小テストや試験問題に関する質問、メディア内部、中間レポートや期末試験に対する修正要求は受け付けていない。また、諸般の事情により、質問には回答しかねる場合がある。

### 【Outline (in English)】

This class focuses on reading an English passage. In order to read English correctly, we need to have sufficient knowledge of grammars and sentence constructions as well as basic lexicon. Starting from five patterns of the English sentences, students learn a basic English grammar essential to read an English passage such as tense and aspect, voices, verbals, auxiliary verbs, and so on. To acquire a credit, it is required for a student to have an enough average score (over sixty percent) of two kinds of exams—a mid-term report and a final examination.

HSS100TA (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 100)
<b>健康・スポーツ科学概論(健康づくりと運動の基礎理論)(後期メディア)</b>
<b>伊藤 マモル</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今後の自分自身の健康管理を、身体運動を用いたセルフメディケーションによって行うという考え方で、到達目標に取り組み、自分自身の生活の質を高めていくこと。

### 【到達目標】

健康は、「失って初めてその大切さがわかる」と良く言われます。これは、健康を害している人、あるいは害した経験がある人に比べ、健康に問題を感じない人々は健康に対する関心が総じて薄いということではないでしょうか。

多くの人にとって、健康は人生を支える基盤だという見方ができます。仕事、趣味、日常生活など、自分の目標を成し遂げようとするとき、心身がより健康な状態である時のほうが、その達成度は高いと言えるからです。自分が持つ最高のパフォーマンスを発揮しようと思うなら、少なからず健康である方が望ましいということです。

その一方で、気をつけなければならないのは、近い将来、日本では不健康であることが経済的にも社会的にも不利になる時代が到来する可能性が高いかもしれないということです。

そこで、この「健康・スポーツ科学概論」が、「今の自分の心身」をいつまでも良好に保ち続け、より豊かな人生を築くための一助となるように学びを深めてください。

では、この科目で達成してほしい目標を以下に示すので、自分のペースで取り組んでください。

### 【到達目標】

1. 健康管理の概念を述べるができる
2. 基本的な解剖学用語を使用することができる
3. スポーツが健康づくりに及ぼす効果を説明できる
4. 身体のコンドিশョンの測定方法を列挙できる
5. 自分自身のBMIを算出できる
6. 有酸素トレーニング中の目標心拍数をカルボーネン法で算出できる
7. スポーツ傷害を解説できる
8. スポーツ傷害の予防方法について説明できる
9. 運動の原理を列挙できる
10. スポーツによって生じる可能性が高い内科的障害について解説できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

現代人の健康状態は半健康人と表現されるように必ずしも良好とは言えません。昨今の我が国では、生活習慣病ならびに超高齢化に伴う医療、福祉、介護に伴う医療費高騰などの問題を抱えています。より良い人生を築くためには、少なくとも健康であることが重要ではないでしょうか。その健康を支える手段に運動（健康づくり）があるという視点に立って本講義を受講してほしいと思います。

本講義では、セルフメディケーションという観点から運動やスポーツを自分自身の健康管理に活用するための知識を深めることを目標とします。そこで、授業は運動やスポーツを将来の生活に根付かせるための知識と実践方法に触れられるよう、必要に応じて実習を交えた講義形式で展開します。前半は測定評価と手軽な運動を紹介し、後半はテキストと補足資料を用いた健康づくりに役立つ知識を解説します。

前半では、今の自分自身の健康や体力の状態を振り返るための測定と評価を行います。授業では、測定の対象である「身体能力や機能」が衰えた場合を想定し、その改善に役立つ手軽な運動を紹介します。ご自身の健康を保つために運動の習慣化に役立ててください。

※セルフメディケーション・・・自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てするという概念（WHO:世界保健機関）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	コンディショニングとセルフメディケーション	1. 健康を見直そう（1：以前のようにカラダは動くか？ 2：何のための健康か？） 2. コンディショニングの概念 3. セルフメディケーションと運動 4. 必要な体力とは何か？ 5. 本講義の概要と紹介
第2回	運動の必要性和測定評価Ⅰ（測定の意義）	1. 測定の意義（1：何のための測定か？ 2：健康関連体力） 2. 体力要素別の各種測定 3. 必要な体力とは何か？（体育会フェンシング部を例に）
第3回	運動の必要性和測定評価Ⅱ（測定評価の応用）	1. 姿勢を見直そう（良い姿勢と悪い姿勢） 2. 姿勢と腰痛・肩こり 3. 腰痛（1：ぎっくり腰 2：腰椎ヘルニア） 4. 腰痛を予防緩和する運動 5. 肩こりを予防緩和する運動
第4回	運動の必要性和測定評価Ⅲ（生活習慣病対策）	1. 肥満度と身体組成 2. 防衛体力と基礎代謝 3. 肥満の予防解消と運動
第5回	体脂肪率をコントロールする	1. エネルギー摂取量と消費量 2. カルボーネン法 3. 運動の原理・原則 4. 体脂肪のコントロールと食事時間
第6回	柔軟性を高めるⅠ（その意義と理論）	1. ストレッチングの効果 2. ストレッチングの意味 3. ストレッチの効果を高めるために
第7回	柔軟性を高めるⅡ（実践方法）	1. パートナーストレッチ 2. セルフストレッチ（肩こり） 3. セルフストレッチ（腰痛）
第8回	筋力を高めるⅠ（その意義と理論）	1. 筋力とは 2. 筋力を保持増進する理由 3. 筋力を高める方法
第9回	筋力を高めるⅡ（実践のための知識）	1. ウォームアップの意義 2. 筋力トレーニング実施上の注意 3. 自宅の部屋や職場のデスク周辺で行える手軽な運動の実際
第10回	運動中に起こりやすい怪我と処置	1. 立ち上がりテスト 2. スポーツで起こる怪我の種類 3. スポーツ外傷とRICE処置 4. 創傷と湿潤療法
第11回	運動中に起こりやすい怪我（スポーツ外傷）	1. 1・2歩テスト 2. 捻挫 3. 骨折 4. 脱臼 5. 肉離れ 6. その他 7. 応急処置

第12回	運動中に起こりやすい痛み（スポーツ障害）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 長座位体前屈</li> <li>2. 筋肉痛</li> <li>3. 下肢のスポーツ障害とその原因</li> <li>4. 上肢のスポーツ障害とその原因</li> <li>5. スポーツ障害の予防</li> </ol>
第13回	運動中に起こりやすい内科的障害	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大腿四頭筋の柔軟性</li> <li>2. メディカルチェック</li> <li>3. 急性障害と慢性障害</li> <li>4. 特殊環境下</li> <li>5. 救急処置・心肺蘇生法</li> </ol>
第14回	運動後の疲労解消	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 敏捷性</li> <li>2. 疲労</li> <li>3. 疲労解消：入浴、オイルマッサージ、アロマセラピー</li> <li>4. 痛み解消：マイクロカレント</li> </ol>

For that purpose, students have to measure physical strength measurements yourselves. And students prepare a report on the tasks presented as the main teaching materials based on the physical fitness measurement results.

Also, the learning outcome you gained during the process of reporting is evaluated by written exam.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを参照して各回の予習をしてほしいと思います。しかし、予習よりも意識して取り組んでほしいのは復習です。抽象的な表現になりますが、各回で紹介する「**手軽な測定**」を試すことは、**自分の健康を振り返るきっかけとなる**でしょう。その気づきから、健康を保持増進するために実践すべき**課題を自ら見出す**ことを期待しています。

本授業の準備・復習時間は、各**2時間**を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

伊藤マモル監修『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論（増補改訂版）』が**2017年12月**に発行されましたが、本科目で扱っている課題は全て含まれています。旧テキストを使用してもまったく問題ありません。

#### 【参考書】

1. 伊藤マモル「若さを伸ばすストレッチ」平凡社新書、2009年
2. 伊藤マモル監修「DVD付・基本のストレッチ」主婦の友社、2009年
3. 伊藤マモル「もっと伸びるストレッチング」スキージャーナル社、2008年
4. 伊藤マモル監修「痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング」日本文芸社、2013年
5. 山本利春「疲れたときは、からだを動かす」岩波書店、2006年
6. 斎藤恭平編「健康・運動・スポーツのTopics」八千代出版、2002年
7. 小島康昭他「からだ・健康・スポーツ」サンウェイ出版、2002年
8. 清水昭他「体温を上げて健康な体を手に入れる」ブティック・ムック通巻878号

#### 【成績評価の方法と基準】

1. 中間テストを2回行います。第**7講**終了後と、第**14講**終了後に設定しています。
2. 単位取得のための中間テストの評価配分は各々**30%**で、合計**60%**を基礎点として評価します。**中間テストの評価は総合評価に大きく影響**しますから、必ず中間テストを受けてください。
3. 単位取得のための最終課題であるレポート試験の評価配分は**40%**です。基礎点に加算して総合的に評価します。つまり、基礎点**60点**+レポート課題**40点**、合計**100点満点**として、**60点以上**が合格となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

質問や意見を寄せてくださった学生の皆様の気持ちを大切に、アンケートのみならず、レポートやメールで受けた学生からの授業内容に関する意見は真摯に受け留め、授業内容の改定時に修正していきたいと思えます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

メディア教材を利用できる環境を各自で構築してください。

#### 【その他の重要事項】

本科目の意図をくみ取って、授業で学習した内容を実生活に活かしてほしい。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this subject is to learn to manage health by adjusting attitudes that improve the quality of life.

SOC100TA (社会学 / Sociology 100)

## 社会学(「近代」とは何か)(後期メディア)

徐 玄九

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：後期

受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照

備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「近代（Modern age）とは何か」という問いを軸に、「近代」という時代の診断に関して、これまで社会学者たちが出てきた暫定的な「答え」を参照しながら、「私と社会」の関係をいま一度反省的に見つめなおすことです。そのために必要な社会学の基本的な「ものの見方・考え方」をその概念や理論も含めて基礎から学びます。社会学の通低する問題意識に沿って、今日の私たちは「何」から「何」へ、あるいは、「どこ」から「どこ」へ変わってきたか、またそのなかで、何が省略され、何が稀少化され、何が凝縮されているのかについて学びます。これを通して、一人ひとりの時代への問題意識の「(再)発見」のきっかけを作ります。社会学は、社会変動を理解したいという願望とともに、それに対する知的対応として登場しました。私たちを取り巻き支配しているこの時代(近代あるいは現代)とはいかなる時代なのか、そしてどのような問題を抱えており、その解決方向をいかに見出すかという関心が社会学の成立と発展に通低していた問題意識です。

## 【到達目標】

以下の授業計画のテーマに沿って、社会学の核心的な概念、理論などを基礎から学びます。具体的には(1)各テーマに対するさまざまな人の異なる見方、考え方を学ぶ、(2)行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解する、(3)「近代」という時代の特徴の一面を理解でき、それを自分の言葉で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、社会学の学説史や理論の羅列的な紹介よりも、ストーリー性を重視しながら、出来る限り身近なものから抽象的なものへと話題を進めるようにします。そうすることで、「私的」な個別具体的な事柄のなかにも、社会性（歴史的、文化的な諸状況）が入り込んでいて、一見無関係のようにみえるある社会的現象が実は互いに影響しあっていることに気づき、「私と社会」の関係をより多角的に理解できるはずです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	社会学への招待：「自明なものを問う」—社会学的想像力の重要性
第2回	見えない社会を見る	目に見えない社会を見る練習をする—(E.T. Hall/E.Goffman)の「プロクセミックス」/「儀礼的無関心」の概念を学ぶ
第3回	近代と空間観の変化	テンニースのゲマインシャフトとゲゼルシャフトという社会形態の区分を中心に空間と相互行為の違いについて学ぶ
第4回	近代と時間観の変化	自然的な時間から機械的な時間の変化を歴史的に学ぶ

第5回	歴史区分としての近代	歴史区分としての「近代」とその特徴について学ぶ
第6回	社会契約論と私的所有論	近代社会理論の代表的な社会契約論と私的所有論について学ぶ
第7回	労働賛美の時代としての近代	概略的に古代から近代までの労働観の変遷を歴史的・思想的に学ぶ
第8回	逆説としての近代	理解を深めるために、「近代」への道筋をM.Weberの「近代形成論」(『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』)に即して学ぶ
第9回	規律化と臣民化としての近代	社会秩序と権力の問題をM.Foucault『監獄の誕生』に依拠して学ぶ
第10回	世俗化の時代としての近代	E.Durkheim/P.L.Bergerの「宗教論」に学びながら、社会全体の動きに大きな影響を及ぼした宗教の意味や役割、そして「世俗化」について学ぶ
第11回	ナショナリズムの時代としての近代	E.ゲルナーとB.アンダーソンの議論を中心に近代とナショナリズムの関係を学ぶ
第12回	公共性の変容としての近代	H・アレントとJ.ハバーマスの議論を手がかりにして公共性の変容について学ぶ
第13回	マニュアル化の時代としての近代	G.Ritzer『マクドナルド化する社会』を参照しながら、合理化、官僚制、などの概念について学ぶ
第14回	リスク社会としての現代	U.Beck『危険社会』に依拠しながらリスク社会としての現代社会を考える
第15回	授業内容の総括	これまでの授業内容をもう一度おさらい

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業では多くの内容を比較的時間で扱います。よって、毎回の講義のなかで取り上げる基本的な概念について、関連する参考文献や辞典等を用いて予習・復習をすることが大事です。受講生皆さんには「読書」（多読）をお勧めします。取り組もうとしている問題が重要、かつ複雑であるからこそ、平易であろうと、難解であろうと、多くの文献を読む必要があるのです。時間とコストを惜しまず取り組んでください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料に基づき講義を進めていきます。

## 【参考書】

必要に応じて配布または提示しますが、さしあたっては以下を参照してください。

ピーター・L.バーガー（1989）『社会学への招待』思泉社。

ジグムント・バウマン（1990 = 1993）奥井智之訳『社会学の考え方——日常生活の成り立ちを探る』HBJ出版局。

見田宗介（2006）『社会学入門』岩波文庫。

市野川容孝（2006）『社会——思考のフロンティア』岩波書店。

長谷川公一他（2007）『社会学』有斐閣。

大澤真幸（2008）『不可能性の時代』岩波文庫。

日本社会学会社会学事典刊行委員会編（2010）『社会学事典』丸善。

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）とメディアスクーリング試験（70%）の合計点で評価します。

具体的な評価基準は、到達目標に書いてある通り「行為、関係、意味など社会現象を記述するときに用いられる基礎概念を文脈に沿って正しく理解」しているかを合格基準とし、その上、取り上げられたテーマ（問題）に関して論理的な記述、自主的な学習の成果が認められた場合はさらに高く評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者の意見のなかには、「日常生活の中で疑問に感じていたことなどが、授業の随所にあり納得した。」「理解しているつもりなのに、小テストへの反応が悪く残念であった。」とのご意見をいただきました。メディアスクリーニング形式の特性上、時々疑問をすぐに解決できないかもしれませんが、「中間レポート」の提出と合わせて文末に日頃の疑問を書いてくださるか、掲示板などを積極的に活用していただければ、担当者のできる限りにおいてお答えしていくように努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

なし。

**【その他の重要事項】**

受講時の疑問などは積極的に掲示板などをご利用ください。

**【Outline (in English)】**

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society. The course introduces students to classical theoretical traditions of Durkheim, Weber, and Tonnies. Our study is the basic social institutions (religion, economics, and politics), and major trends in sociology.

BIO100TA (その他の総合生物・生物学 / Biology 100)

## 生物学2 (講義)(後期メディア)

木原 章

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「脳は脳を理解できるか」そんなスローガンで脳科学は始まりました。人間の脳に対して、その構造的な特徴から本質に迫ろうとする神経科学的な手法と、行動の解析からその本質に迫ろうとする心理学的な方法が有りました。「脳科学」の出現によって、その境界が見えにくくなっています。本授業では、神経科学的なアプローチで人間の脳の不思議に迫ります。

## 【到達目標】

生物学的に見れば、脳は神経細胞の集まりです。個々の神経細胞の役割は極めて単純で、信号を伝えるかどうかを判断しているに過ぎません。そんな神経細胞が複雑なネットワークを作る事で、私達の脳が出来ています。授業を通じて、そんな脳の仕組みに興味を持って頂けることを期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

## 【授業の進め方と方法】

近年の脳科学の進歩について、生物学的（神経科学的）な側面から講義します。神経細胞の基本的しくみから、最新の脳科学の知見までをご紹介します上で、脳の持つ自己組織化のしくみ考察します。更に、脳科学の進歩が私たちの日常生活にどのような影響を与える可能性が有るのか、考えて行きたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	脳科学の図式	現代の脳科学を取り巻く、学問領域の関係性についてご紹介します。
第2回	脳の解剖学	脳の外見から見た特徴を、歴史的な側面を交えて解説します。
第3回	神経細胞	脳神経系の基本単位である、神経細胞 (ニューロン) について解説します。
第4回	神経回路	神経が繋がって形成される神経回路について解説します。
第5回	シナプス	神経回路のスイッチとしてのシナプスの働きを説明します。
第6回	本能行動	神経回路が動いた結果、行動が現れます。ここでは、昆虫などが行う本能的な行動について解説します。
第7回	後天的な学習	神経回路が経験を記憶した結果、新たに環境に対応した行動をとるしくみについて解説します。
第8回	人間の記憶1	人間の記憶の種類を分類し、特に小脳における手続き記憶について解説します。
第9回	人間の記憶2	人間が経験を学ぶそのしくみについて、解説します。

第10回	脳の領域性	大脳が領域ごとに異なる働きをしている様子について解説します。
第11回	非侵襲性活動記録	大脳の活動を生きたまま記録し、脳のしくみを探る方法について解説します。
第12回	マインドリーディングとBMI	ヒトが何を考えているのか？ 脳の活動から何が判って、それどどの様に应用できるのか、解説します。
第13回	サイボーグ技術	ヒトと機械が一体化することで、新たな能力を作り出すことができるのか？ 現代のサイボーグ技術について解説します。
第14回	神経回路の自己複製能力	ミラーニューロンの発見によってわかってきた、神経回路の自己複製機能とその意味について解説します。
第15回	意識と身体	脳科学の最も難しい問題として提起される「意識」について、脳のしくみから解説します。

## 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞・マスコミなどを通じて報道される「脳科学」について、事前に知識の収集を行って下さい。また、授業で提起された問題について、ご自身で発展的な勉強をされることを期待しております。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト (教科書)】

指定はありません。教材として提供されるハンドアウトをテキストとしてご利用下さい。

## 【参考書】

指定はありません。

## 【成績評価の方法と基準】

100% 最終レポートによって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

画面のホワイトボードの板書が読めないという問題点を指摘して頂きました。

実は、板書の内容はほぼ全部教材資料に書かれていますので、読めなくても問題は有りません。もし、ペースが早くて対応できない場合は、一端再生を止めて手元資料のご確認を頂ければと思います。収録時の授業形態について、賛否両論あるようですが、話す方としては目の前に学生さんがいた方がはるかに話しやすく、結果として判りやすいトークになっていると思っております。

内容が2012年から更新されていません。これは、メディアスクーリングのシステム上、致し方ないことですが、確かに部分更新などの努力を怠っていた感が否めません。お詫び申し上げます。とは言え、基本的な知識が大きく変わったと言う事は有りませんので、本授業で学んで頂いた内容は、現行でも十分通用する内容です。

## 【Outline (in English)】

Brain science is an integrated science of neurobiology, behavior science, psychology, cognitive science and many other fields. In this course, we will approach the mechanism of human brain mainly through neurobiological field. Then finally we will discuss about the relationship between human body structure and consciousness.

BSP100TA (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)
<b>基礎特講(民俗学)(後期メディア)</b>
<b>吉成 直樹</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民俗学の目的、対象、方法などの基礎的な事柄について学んだ後に、琉球・沖縄の民俗のいくつかについて考えます。それによって本土地域とは異なるもうひとつの文化が存在することを知るとともに、みずからの文化を相対化する視点を養うことを目的とします。

#### 【到達目標】

民俗学の基本的な考え方を具体的な事例に即して学ぶとともに（1回～5回）、琉球・沖縄の基本的な歴史を踏まえたうえで（6回～8回）、民俗について少し掘り下げながら考えていきます（9回～15回）。沖縄は日本全体のなかで、人口・面積ともわずか1パーセントにしかすぎませんが、沖縄の社会と文化の持つ重みは本土のそれと同等です。この講義では沖縄の民俗について、古い歌謡や言葉、考古学、歴史学の成果などを利用してしながら考えていくことを中心的なテーマとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。質問は歓迎します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	民俗学とは何か	民俗学の目的、対象、方法、民俗学の関連分野について
第2回	人生儀礼① 「仮親」の習俗	儀礼的に他人に親になってもらう習俗の持つ意味について
第3回	人生儀礼② 日本の葬制	葬制（葬法）とは何か、また日本におけるさまざまな葬制を支えている観念について
第4回	年中行事① 十五夜の盗み	十五夜の盗みを中心に、「盗み」をめぐるさまざまな民俗とその背景にある観念について
第5回	年中行事② 七夕の水	七夕行事の起源、また日本や中国南部にみられる七夕に汲む水には若返りの力があるとする習俗について
第6回	琉球・沖縄の歴史① 喜界島・城久遺跡群	琉球・沖縄の歴史の画期となったグスク時代（11世紀～）の開始について
第7回	琉球・沖縄の歴史② グスク時代以前の琉球	オーストロネシア的世界について（その形成過程と地名、神話など）
第8回	琉球・沖縄の歴史③ グスク時代の琉球	グスク時代開始期から琉球国の形成までの歴史過程について
第9回	琉球・沖縄の民俗① 琉球王権と太陽の王	琉球国の国王が昇りつつある太陽と同一視されたことについて
第10回	琉球・沖縄の民俗② 御嶽とグスク	琉球・沖縄の聖地であるグスクと御嶽（うたき）について
第11回	琉球・沖縄の民俗③ 海への信仰	ニライ・カナイ信仰のふたつの類型について

第12回	琉球・沖縄の民俗④ 来訪神信仰	琉球弧の来訪神信仰の特徴について
第13回	琉球・沖縄の民俗⑤ オナリ神信仰	琉球弧のオナリ神信仰の特徴について
第14回	琉球・沖縄の民俗⑥ 酒とシャーマン『おもろさうし』と民俗	16～17世紀に琉球王府によって編纂された歌祭式歌謡集『おもろさうし』などから、酒を意味する言葉とシャーマンに関連する言葉に共通性があることについて
第15回	近代以降の琉球民俗研究史	近代以降の琉球民俗の研究史を振り返る

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない点があれば、できるだけ適切な文献を探し、自分で調べる。また、さまざまな媒体から得られる沖縄に関する情報に関心を持つようにする。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

#### 【参考書】

・参考文献については講義内で随時紹介しています。  
 ・第6回～第8回については、以下の参考文献を追加します。  
 吉成直樹『琉球王国は誰がつくったのか—倭寇と交易の時代』七月社、2020年。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験を総合的に評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn folkloric basic knowledge and investigate some folkloric matters of Ryukyu Islands.

BSP100TB（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）
<b>総合特講（グローバル現代史）（後期メディア）</b>
<b>鶴見 直人</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「グローバル現代史」では、①現代世界における諸問題を理解するため、②現代史を整理した上で、③ここから浮かび上がる問題の根本原因について検討してゆきます。その過程で、グローバルな権力関係がいかに関係してきたのかについて掘り下げることを通して、多角的・多面的に世界を捉えることを目指します。

そのためにも「世界で何が起きているのか？」という問いを起点とし、この理解を深められるよう2011年からのシリア情勢の事例を入り口に据えています。ここからイシュー（問題群）を整理しつつ、大国の関与や中東地域の政治力学、内戦とこれへの非国家主体の関与といった状況について解きほぐした後で、それぞれの歴史的な背景の理解へと分け入ります。国際政治学の知見を基盤としながらも、このディシプリンひとつに固執することなく、柔軟にアプローチすることで、国際社会の現状について見識を深めることが本講義の目的です。

### 【到達目標】

日本を取り巻く状況を含め、グローバルな政治状況の変化が指摘されている中では、「なにが・どのように変わっているのか？」を見定めることが重要です。自ら情報を収集しながら分析するためにも、マス・メディアやソーシャル・メディアなどから得られる情報の中から、有用なもの・確度の高いものを客観的に判断する力をつけておくことが必要となります。「グローバル現代史」は、そのための情報の取捨選択と、その基準となる知識を整理し、これらを基盤とする思考の枠組み、その活用方法を修得することを目指します。講義で触れてゆく、21世紀に入ってからの現代史と、その基層をなしている（主に）20世紀の歴史について、それぞれを「過去の事実として知っている」ことに止めるのではなく、これらと今日の問題とを因果関係で結びつけて説明できるようになること目指してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション：現代世界の問題から考える（シリア情勢を事例に）	2001年の「9・11」、2011年の「アラブの春」といった事件は、現代世界に大きな影響を与えた。これらの現代史的意義を整理した上で、特に後者と関連するシリア情勢を概観する。

第2回	現代世界の問題：国際政治学から診るシリア情勢の整理と分析	シリア情勢は内戦にとどまらない国際問題であり、複雑な様相を呈していることから、その理解を助けるべく、グローバル／地域／国内の3つの次元にレベルを分け、それぞれの違いや特色についておさえ、個別に検討してゆくための準備を行う。
第3回	大国と国際政治	グローバルな次元から見たシリア情勢について、特に大国の対立がいかんしてシリア内戦を「終わらせない」力学として作用しているのかについて検討する。
第4回	地域における国際政治	シリア内戦が終結しないのは大国の影響ばかりではない。周辺諸国からなる「中東地域」における政治力学もまた同様に紛争解決の阻害要因となっていることから、この点について整理する。
第5回	内戦とテロと国際政治	長期化し、混迷を深めていたシリア内戦の惨劇に拍車をかけたのは、2014年のISILの出現であった。国際社会と対決することになった背景を分析し、ISILの存在が主権国家、国民国家、そして国際社会が共有する価値や制度に挑戦するものであったことを提示する。
第6回	国際政治の史的展開：主権国家の成立と拡大	第5回までに整理された現代の国際政治の課題について、歴史を遡って掘り下げてゆく。第6回では主権国家という領域的な統治体制、つまり「枠組み」に着目する。
第7回	国民国家の出現とその変化	現代の国際社会を構成する基本単位は主権国家であり、今日では国民国家とも呼ばれる。両者は互換的に使用されることも多いが、違いに注視するならば、それは主権国家のナカミである「国民」への注目ということになる。国民国家の出現とナショナリズムの変化について通史的に検討する。
第8回	大国間の国際政治史	国際政治に大きな影響力を持つ大国は、歴史的に交替を繰り返してきた。今日もまた大きな変化の中にあるとされる研究動向を踏まえつつ、19世紀以降の大国の推移にも視野を広げながら、現状分析のための題材を整理する。
第9回	国際政治における「地域」の形成史	複数の国家を地理的にまとめてとらえる「地域」は決して自明な存在ではない。「中東」という地域の形成について歴史的にも遡行し、大国（帝国主義）との関係や、過去から連続する問題点について検討する。
第10回	価値や制度のグローバル化	第6回から第9回までに触れてきた国際政治史をテーマに即して捉え直す。第10回では人権・民主主義・法の支配といった、西洋に起源を持つ価値や制度のグローバル化とその限界について触れてゆく。

第11回	9・11以後の世界：対テロ戦争とグローバルな監視社会	9・11は、第10回で触れる西洋期限の価値や制度が拡大することの限界として捉えられる契機となった。この事件の捉え方、特にこれを機に変化した安全保障についての変化に注目し、今日の世界の課題を整理する。
第12回	世俗化と再宗教化	9・11以降、宗教とテロリズムが結びつけられ、国際社会の脅威として語られてきた。第12回では（国際）政治と宗教の関係について、主権国家の出現を準備することになった政教分離／世俗化の過程へと遡り、現代につながる変化を跡付ける。
第13回	「民主主義の平和」から「独裁の平和」へ？	冷戦の終結後に注目されたのは「民主主義の平和」論であったが、今日は「独裁の平和」論への警鐘が鳴らされている。ここまで触れてきたテーマを統合しながら「独裁の平和」の含意について検討する。
第14回	まとめ：グローバル化した現代世界の課題	ここまでの講義内容を総括しつつ、全体に通じるテーマについて確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シリア情勢について、下記Web記事を読み予習・復習に役立ててください。また、併せて下に挙げる参考文献も活用してください。  
 末近浩太「これでわかる『シリア内戦』の全貌～そしてイスラーム国が台頭した」（2016年3月25日）<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/48257>  
 末近浩太「結局のところ、『シリア内戦』は今どうなっているのか？」（2017年8月25日）<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/52646>  
 末近浩太「なぜシリア内戦は終わらないのか？ 激化する3つの『戦争』」（2018年3月12日）<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/54722>  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。講義の中で関係する文献・書籍を紹介するので、関心に応じて読み進めてください。

#### 【参考書】

白桦陽『中東の世界史』作品社、2018年。  
 小川裕之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史』有斐閣（有斐閣ストゥディア）、2018年。  
 酒井啓子『〈中東〉の考え方』講談社（講談社現代新書）、2010年。  
 酒井啓子『9・11後の現代史』講談社（講談社現代新書）、2018年。  
 青山弘之『シリア情勢』岩波書店（岩波新書）、2017年。  
 Newsweek（Web版）青山弘之「シリア情勢」（記事一覧）<https://www.newsweekjapan.jp/writer/aoyama/>

#### 【成績評価の方法と基準】

中間テスト：40％  
 期末試験（期末レポート）：60％

#### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

#### 【Outline (in English)】

In “Global History and World Politics” class we will look in particular at a wide range of history and various aspects of politics. To prepare students for analysis of the current situation, or the dynamic nature of world politics in the 21st century, this class explores to provide a grounding in global, historical, political concepts. Through the multi-disciplinary understanding of global history from the Peace of Westphalia to Syrian civil war, students will have a rounded understanding of historical chain of ideas in global politics and the critical analytical skills to approach the contemporary world.

LAW100TB (法学 / law 100) <b>民法総則（民法典全体に共通するルール）（後期メディア）</b>
<b>明石 真昭</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

民法総則は、主として物権法、債権法に共通するルールを定めていますが、これにとどまらず、私法における共通のルールを定めています。この講義では、民法総則における基礎的な知識を修得することを目的とします。

**【到達目標】**

- ①民法総則の基礎的な知識を身に付ける。
- ②具体的な事例について、判例・学説を踏まえて自分の考えを論理的に展開する力を身に付ける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

民法総則について、スライドを使用しながら講義形式で進めていきます。初学者にも理解しやすいように、基本的な用語についてはきちんと説明し、可能な限り事例を多く用いて内容をイメージしやすい講義となるよう努めるつもりです。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、民法の意義・基本原理	民法の全体像を説明し、民法の基本原則を説明します。
第2回	権利の主体①：自然人の権利能力	自然人の権利能力について説明します。
第3回	権利の主体②：行為能力	自然人の行為能力について説明します。
第4回	権利の主体③：法人	法人の意義、種類等について説明します。
第5回	権利の客体（物）、法律行為、意思表示①：心裡留保	「物」の種類、心裡留保について説明します。
第6回	意思表示②：通謀虚偽表示	通謀虚偽表示について説明します。
第7回	意思表示③：錯誤、詐欺①	錯誤、詐欺について説明します。
第8回	意思表示④：詐欺②・強迫、意思表示の到達	詐欺、強迫、意思表示の到達について説明します。
第9回	代理①：代理の基礎	代理の基本事項について説明します。
第10回	代理②：代理行為、無権代理	代理行為、無権代理、無権代理の場合の法律関係について説明します。
第11回	代理③：無権代理と相続、表見代理	無権代理と相続、表見代理について説明します。
第12回	無効、取消、条件、期限	無効・取消し、条件・期限について説明します。
第13回	時効①：取得時効と消滅時効	取得時効と消滅時効について説明します。

第14回 時効②：時効の援用、時効の援用、完成猶予・更新の完成猶予・更新制度について説明します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しません。六法（『ポケット六法（有斐閣）』等、コンパクトなもので良い）を必ず持参してください。  
※2020年4月より改正民法が施行されます。新しいものを選ぶようにしてください。

**【参考書】**

民法判例百選I 総則・物権（第8版）有斐閣  
法律学小辞典（第5版）有斐閣  
※2020年4月より改正民法が施行されます。参考書類は新しいものを選ぶようにしてください。

**【成績評価の方法と基準】**

提出されたレポート課題で評価致します。

**【学生の意見等からの気づき】**

全くの初学者を念頭に置いて講義をする予定です。できるだけ平易な言葉遣いを心掛け、難しい用語も可能な限りその場で説明しながら進めていきたいと思えます。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the general provisions of the Civil Code. For example, Capacity to Act, Juridical Act, Agency, and so on. The aim of this course is to help students obtain basic knowledge about the general provisions of the Civil Code.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>商法総則・商行為法 (I) (後期メディア)</b>
<b>桜沢 隆哉</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の基礎的理解

#### 【到達目標】

この講義は、全14回の講義で商取引法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事象の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引(企業活動)を理解することにより、会社法等の企業関係法への理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では商法の中で、第一編総則(商法1条～31条)および第二編商行為(商法501条～617条)を中心に、その他関連する法令や実務などについてもできる限り言及し、商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的好奇心と意欲であると考えています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし/No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序章：商法の歴史および意義	本講義の射程 (範囲・対象)、講義の進め方、教科書・参考書の紹介、商法典の歴史について
第2回	第1章：商法総論	商法概念、商法の法源、商法と他の法規の適用関係について
第3回	第2章：商人と商行為(1) 一商人・商行為の概要	商人と商行為概念と商法の適用について
第4回	第3章：商人と商行為(2) 商号(1)	商法の適用時期 (商人資格の取得時期)、商号の意義・機能について
第5回	第4章：商号(2)	商号と名板貸責任について
第6回	第5章：営業・事業	営業・事業概念および営業譲渡と営業に関わる利害関係者の調整について
第7回	第6章：企業の人的補助(1) 一総説・商事代理一	企業の人的補助総説、商法と代理制度について
第8回	第7章：企業の人的補助(2) 一商業使用人一	商業使用人 (支配人、特定の事項の委任を受けた使用人、物品の販売等の店舗使用人) について
第9回	第8章：企業の人的補助(3) 一代理商一	代理商 (フランチャイズ契約を含む)、代理商の内部関係と外部関係

第10回	第9章：商業登記(1) 一商業登記制度の概要と効力一	商業登記制度の意義、内容・手続、商業登記の効力について
第11回	第10章：商業登記(2) 一不実の登記の効力一	商業登記と不実の登記の効力について
第12回	第11章：商業帳簿	商業帳簿の意義、種類・作成、保存・提出について
第13回	第12章：商行為総則(1) 一商行為の特則一	商行為の営利性、契約の成立、債務者の連帯等について
第14回	第13章：商行為総則(2) 一商行為の特則一	債権担保、有価証券に関する特則について

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。特に判例百選(参考書(5)の文献)は、実際の裁判例とその解説が書かれていますので、講義中に出てきた知識と実際とをつなげる理解を得るために有益です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法< 有斐閣アルマ>』(有斐閣、第3版、2019年)

#### 【参考書】

- (1) 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法I 総則・商行為< 有斐閣Sシリーズ>』(有斐閣、第6版、2019年)
- (2) 近藤光男『商法総則・商行為法』(有斐閣、第8版、2019年)
- (3) 弥永真生『リーガルマインド商法総則・商行為法』(有斐閣、第3版、2019年)
- (4) 北村雅史編『スタンダード商法I 商法総則・商行為法』(法律文化社、2018年)
- (5) 神作裕之=藤田友敬編『商法判例百選』(別冊ジュリスト243号、有斐閣、2019年)

上記のテキスト(教科書)および参考書は、平成29年民法改正法・平成30年商法改正に対応しているものを挙げた。テキスト(教科書)は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、その内容を参考書(5)で重要判例を補う必要がある。(1)~(4)は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考えている。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート(1回/30%)およびメディアスクーリング試験(70%)によって評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

#### 【Outline (in English)】

Understanding Principal of Commercial Law (general remarks)

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>国際法総論(国際社会の法秩序)(後期メディア)</b>
<b>稲垣 治</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は、主として国家間関係を規律する法である。本講義では、その国際法の総論部分（国際法の基礎理論）を扱う。適宜事例を分析することにより、国際紛争においていかなる国際法の解釈問題が争点となっているかを検討し、国際秩序の形成および紛争解決における国際法の役割と意義を考察する。

#### 【到達目標】

国際秩序の基本的な法的枠組みを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

主として国際法の総論（理論）部分についての講義を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	国際法の基本原理	国際法 の 概念、近代国際法 の 特色
第2回	法源	法源の意義、国際慣習法、条約、法 の 一般原則、学説・判例、衡平と善
第3回	条約法	条約の締結手続き、条約の留保、条約の効力、条約の無効、条約の終了
第4回	国際法と国内法の関係	論理的関係、国際法における国内法、国内法における国際法
第5回	国家・国家機関（1）	国家の要件、国家承認、政府承認、国家承継
第6回	国家・国家機関（2）	国家機関
第7回	国家管轄権	国家管轄権の意義、国家管轄権の適用基準、国家管轄権の競合、国家免除
第8回	国際組織法（1）	国際組織の要件・類型・分類、国際組織の歴史的展開
第9回	国際組織法（2）	国際組織の構造、国際組織の意思決定、国際組織の機能、国際組織の法主体性、国際組織の権能、国際連合
第10回	国家責任法（1）	国家責任の観念、国家責任の発生要件
第11回	国家責任法（2）	違法性阻却事由
第12回	国家責任法（3）	国家責任の解除、国家責任の追及
第13回	国家領域（1）	国家領域
第14回	国家領域（2）	領域主権、領土保全原則、領域使用の管理責任、領域権原の取得原因、新国家の成立と承認

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分をよく読んでから受講すること。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法〔第2版〕』有斐閣、2010年  
 岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣

#### 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選〔第2版〕』有斐閣、2011年

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート試験、中間レポート課題の総合点で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

引き続き、質問への対応につとめます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【その他の重要事項】

なし

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the legal order and rules that govern the international society. Students may learn the basic international theory and gain better understanding by reading leading cases.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>行政救済法(後期メディア)</b>
<b>西田 幸介,氏家 裕順</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、行政救済に関する法を取り上げる。行政救済とは、行政作用によって不利益を受けこれを不服とする私人が、行政を相手に自己の権利や法的利益を主張して、その回復を求めるための制度をいう。これは、行政争訟と国家補償とに区別される。行政争訟は行政上の法律関係をめぐる争訟（ないしそのための制度）であり、行政事件訴訟や行政上の不服申立てを含む。国家補償とは行政作用を中心とする国家活動により損害または損失を受けた私人がそれに対する賠償または補償を求めるための制度の総称である。

各種の行政救済のうち、この授業では、行政事件訴訟について、その概略と解説したうえで、それが抱える現代的課題について検討する。行政事件訴訟は、行政上の法律関係について争いがある場合に利害関係者または法定の原告からの訴訟の提起に基づき裁判所が特殊な訴訟手続を通して争いを解決するものである。

この授業の受講者は、行政事件訴訟法を修得し、とりわけ取消訴訟の訴訟要件について具体的な事例に当てはめて検討することができるようにするとともに、具体的な紛争事例について、取消訴訟以外の抗告訴訟、当事者訴訟および民事訴訟のいずれを提起すべきかを選択できるようになることが期待される。

### 【到達目標】

- ①行政事件訴訟の各類型の概要を説明することができる。
- ②取消訴訟の訴訟要件について説明することができる。
- ③取消訴訟の判決について説明することができる。
- ④取消訴訟における仮の救済について説明することができる。
- ⑤具体的な紛争事例について、取消訴訟の提起が可能かどうか、および、仮の救済が認められるか否かを判定することができる。
- ⑥取消訴訟以外の抗告訴訟について、取消訴訟との差異を意識しながら、それぞれの訴訟要件、認容要件および仮の救済について説明することができる。
- ⑦当事者訴訟の類型と訴訟要件を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	行政救済法の意義	行政法の体系と行政救済法 行政事件訴訟 行政上の不服申立て
第2回	行政事件訴訟の意義と類型（1）	抗告訴訟、当事者訴訟
第3回	行政事件訴訟の意義と類型（2）	民衆訴訟、機関訴訟
第4回	取消訴訟の概略	取消訴訟の意義 訴訟要件、認容要件 教示制度 取消訴訟の排他的管轄

第5回	取消訴訟の訴訟要件（1）	処分性（取消訴訟の対象）
第6回	取消訴訟の訴訟要件（2）	原告適格
第7回	取消訴訟の訴訟要件（3）	訴えの利益
第8回	取消訴訟の訴訟要件（4）	出訴期間 被告適格 審査請求前置 裁決主義 裁判管轄
第9回	取消訴訟における仮の救済	仮の救済の意義 仮処分の排除 執行停止制度
第10回	取消訴訟の判決	取消訴訟の終了原因 判決の類型 取消判決の効力 事情判決
第11回	無効等確認訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第12回	差止訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第13回	不作為の違法確認訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第14回	申請型義務付け訴訟 非申請型義務付け訴訟	訴訟要件 認容要件 仮の救済
第15回	当事者訴訟	類型 訴訟要件 仮の救済

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづいて学習する。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

指定しない。

### 【参考書】

稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）  
宇賀克也『行政法概説Ⅱ [第6版]』（2018年、有斐閣）  
塩野宏『行政法Ⅱ 行政救済法 [第6版]』（2019年、有斐閣）  
芝池義一『行政救済法講義 [第3版]』（2006年、有斐閣）  
原田尚彦『行政法要論 [全訂第7版補訂2版]』（2012年、学陽書房）  
藤田宙靖『行政法総論』（2013年、青林書院）

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政救済法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

### 【学生の意見等からの気づき】

とくに改善を要すると思われる点は、学生の意見からは見出せなかったが、今後とも、授業改善に努めていきたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【Outline (in English)】

In this course student learn the outline of Administrative Remedy Law. After taking this course, student will be able to:

- Explain the outline of the main Acts concerning administrative relief.
- Choose a legal means to obtain an appropriate solution for resolving administrative disputes.
- Understand the distinction between the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions and the Public Law-Related Actions and explain the suit requirements and judgments in these actions.

- Explain types of administrative appeals, its requirements, its ruling, and its difference with the Actions for the Judicial Review of Administrative Dispositions.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>労働法(労働法Ⅱ)(後期メディア)</b>
<b>藤木 貴史</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法の基本的な論点に関する基本的な知識が習得されていることを前提に、実践的な事例問題への解答を通じて、理解をより深化させる。

#### 【到達目標】

- 労働基準法、労働契約法等の労働法各法と関連する判例法理について理解する。
- 労働基準法、労働契約法等の労働法各法、関連する判例法理についての基本的な問題（法学検定レベル）を解答できるようになる。
- 労働基準法、労働契約法等の労働法各法と関連する判例法理について、事例問題への解答を通じて、理解をさらに深める。
- 1～3の過程を通じて獲得した知識等を文章で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義は、メディアスクーリング「労働法(働き方に関する法ルール)」を受講していることを前提に、基本的事項の確認をしたうえで、事例問題への解説を通して、より労働法への理解を深めてもらいます。

労働法は、法改正も含め、その進展のスピードが速い法領域です。最近でも、労働契約法が改正され、「働き方改革法案」など、さらなる法改正も予定されています。また、法律上のルールの隙間を埋める役割を果たしている判例法理もたくさん登場しています。この点を理解するためには、労働法に関する基本的な理解があることはもちろん、この新たな動向の背後にある社会的な変化などにも理解を及ぼす必要があります。なかなか厄介な問題もありますが、積極的に学習するように努めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	労働者・使用者	労働関係の当事者に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第2回	募集・採用	募集・採用に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第3回	労働契約	労働契約（おもに成立過程や労使慣行）に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第4回	就業規則	就業規則に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第5回	労働協約	労働協約に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第6回	労働契約上の権利義務	労働契約上の権利義務に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第7回	労働時間（1）	労働時間（時間外休日労働）に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。

第8回	労働時間（2）	労働時間（弾力的労働時間制度など）に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第9回	賃金	賃金に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第10回	配転・出向・転籍	配転・出向・転籍に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第11回	労働関係の終了	労働関係の終了に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第12回	非正規労働	非正規労働に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第13回	不当労働行為	不当労働行為に関する基本的事項の確認。関連する事例問題の解説。
第14回	複合問題	第1回～第13回までの学習をふまえた複合的な要素を含む事例問題の解説。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各講義前に、当該箇所のテキストを通読し理解しておく。
- 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

- 浜村彰 他『ベーシック労働法』有斐閣  
（できるだけ最新版を用意する。2019年4月段階では第7版が最新版）

#### 【参考書】

- 浅倉むつ子 他『労働法』有斐閣
- 水町勇一郎『労働法』有斐閣
- 労働判例百選〔第9版〕  
できるだけ最新版を用意すること。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験によって評価する。  
評価割合は4：6とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【Outline (in English)】

Based on the fact that basic knowledge of labor law is acquired, you will deepen understanding through answers to practical case problems on labor law.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>保険法・海商法(Ⅱ)(後期メディア)</b>
<b>桜沢 隆哉</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険契約法と海上運送・海上企業に関する基本的知識の習得

### 【到達目標】

この講義は、全15回の講義で海上運送法（海商法）上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とします。海商法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に海商法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとすればいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、海商法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この講義では、海上運送・海上企業組織に関する基本的知識の習得を目的とする。海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうち、保険法・海商法（Ⅰ）では保険法を扱い、保険法・海商法（Ⅱ）では「海商法」を扱う。本講義で扱う海商法は、船舶を手段とする海上企業・海上運送に関する法制度である。船舶は、物品の運送に関しては今日でもなお主要な地位を占めている。われわれの社会は、様々な物資によって支えられており、それは海上運送をはじめとする輸出入に依存しているところも少なくない。本講義では、海上企業の組織、その活動（海上物品運送）および海上危険について概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海商法の特徴と沿革	海商法の基本的特徴、海商法の歴史、海商法の特異性
第2回	海商法の意義	海商法の意義、海商法の国際的統一、海商法の法源
第3回	船舶（1）	海上企業活動の物的組織の基本概念である船舶概念および船舶の個性
第4回	船舶（2）	海上企業活動の物的組織の基本概念である「船舶の公示」と「所有権」概念について
第5回	船舶運航の主体	海上企業活動の人的組織たる「船舶所有者」「船舶賃借人」「定期備船者」について
第6回	船舶所有者等の責任制限制度	船舶所有者等の責任制限制度の「沿革・態様」、「船主責任制限条約」、「船主責任制限法」、「油濁損害に関する責任」について
第7回	船舶運航の補助者	船舶運航のための補助者としての「船長」、「海員」、「水先人」

第8回	海上物品運送契約（1）	海上物品運送契約の概念、海上物品運送契約に関する法規、海上物品運送契約の意義と種類
第9回	海上物品運送契約（2）	船荷証券の意義・性質、船荷証券の発行について
第10回	海上物品運送契約（3）	船荷証券の債権的効力と船荷証券の物権的効力について
第11回	海上物品運送契約（4）	運送契約の履行、運送品の船積み・発航、航海及び運送品の陸揚げ、運送品の引渡しと運送契約の終了
第12回	海上物品運送契約（5）	運送人の責任について、運送人の責任原因、賠償額の定型化、高価品の特則、不法行為責任との関係、運送人の免責
第13回	海上旅客運送契約	海上旅客運送人の義務、海上旅客運送人の責任について
第14回	海上損害（1）	海上損害への対応策に関する法規整としての「共同海損」「船舶衝突」について
第15回	海上損害（2）・海上企業金融	海上損害への対応策に関する法規整としての「海難救助」のほか、「海上企業金融」について

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。

判例・裁判例については、テキスト等に掲載されていない最新の判例も出されている。そのため、下記の参考書(2)・(6)など近年刊行されたもの等を参照して理解を深めていただきたい。また、平成30年改正への対応については、下記の(7)～(9)でなされているのでそれらを参照していただきたいと考えております。なお、改正対応については、授業で補足できるようにします。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社、2013年

### 【参考書】

<平成30年商法改正前のもの>

- (1) 鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第2版）』有斐閣、1993年
  - (2) 山下友信＝神田秀樹編『商法判例集〔第7版〕』有斐閣、2017年
  - (3) 戸田修三『海商法〔第5版〕』文真堂、1995年
  - (4) 重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
  - (5) 中村真澄・箱井崇史『海商法〔第2版〕』成文堂、2013年
- <平成30年商法改正に対応するもの>
- (6) 神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選（別冊ジュリスト243号）』有斐閣、2019年
  - (7) 箱井崇史『基本講義現代海商法〔第3版〕』成文堂、2018年
  - (8) 江頭憲治郎『商取引法〔第8版〕』弘文堂、2018年
  - (9) 岡田豊基『現代保険法・海商法』中央経済社、2020年

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（1回／30%）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

開始後、「おしらせ」や「ディスカッション」を活用してください。

### 【Outline (in English)】

Understanding Principal of Maritime & Aviation Law

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法学特講 (国際労働法) (後期メディア)</b>
<b>山本 圭子</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

労働者保護法、労働基本権、雇用保障について、国際比較を行い、日本の労働法令の現状と課題を学ぶ。

#### 【到達目標】

日本の労働法は、国際条約や先進諸国の労働法の議論の影響を強く受けている。そこで、近年、日本において法改正や新たな議論が起きている14のテーマについて、比較法的検討を行い、日本の労働政策への影響を検証し、課題を見いだすことを目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

現代における労働をめぐる諸問題について、比較法的視点を加味しながら、分析理解することが目標です。労働法(働き方に関する法ルール)、労働法(労働法II)を学び、さらに各種制度の国際比較をしたい、労働問題を社会・経済情勢を踏まえて学びたいという方々向けの講義内容を目指しています。労働法(働き方に関する法ルール)、および労働法(労働法II)を学んでからの履修が望ましいですが、前後しても支障はありません。常に、条文、条約を見て、ノートを取りながら受講して下さい。ビデオ収録後に法令改正がなされたものについては、その都度、新しい法令のリファレンスを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	労働者性	労働法の適用対象である「労働者」の範囲について国際比較を行い、雇用類似の働き方に関する制度も検討する
第2回	高齢者雇用	各国の高齢者の就業実態と法令を、日本の高年齢者雇用安定法の変遷と比較する。
第3回	外国人雇用	外国人労働者(移住労働者)に関する国際条約の状況と、日本の外国人労働者に対する労働法の適用関係を比較法的に考察する。
第4回	障害者雇用	障害者雇用をめぐる条約の状況と、日本における障害者雇用促進法の変遷を学ぶ。
第5回	雇用保険制度	離職時の生計を維持するための雇用保険制度について、国際比較を行う。
第6回	最低賃金制度	各国で制定されている最低賃金制度の状況、日本における最低賃金法の改正の経緯と課題について学ぶ。
第7回	労働時間規制	労働時間の上限規制の内容と適用除外の範囲について、国際比較を行う。

第8回	ワークライフバランス	仕事と私生活の調和に関する法政策について、欧米の例と日本の現状とを比較する。
第9回	テレワーク	通信機器を利用したテレワーク、在宅ワークの普及状況と、労働関係法令の適用について、比較法的考察を行う。
第10回	職場におけるハラスメント	職場におけるハラスメントについて、2019年のILO条約の内容、各国の法制と日本の施策の国際比較を学ぶ。
第11回	過労死・過労自殺	長時間労働による健康障害を防止するための措置について、日本の法令の現状を学び比較法的考察を行う。
第12回	公務員の労働基本権	公務員の労働基本権の制限について歴史的展開と現状、国際比較を学ぶ。
第13回	パート・有期・派遣	パート・有期・派遣労働者に関する法規制の国際比較を行う。
第14回	企業組織変動と労働者保護	企業の組織変動にともなう労働者の帰属、整理解雇法理について、比較法的考察を行う。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日本の法令についての基礎知識を身につけてから視聴する。日本の法令の改正状況については開講時にお知らせ欄で知らされる参考文献及び参照すべきURLを通読してから視聴する。手元に六法と条約集を備え、法令や条約を確認する。メモを取りながら視聴し、受講内容のノートを作成する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

『労働六法 (2020年版)』労働六法編集委員会、旬報社

#### 【参考書】

- 濱口桂一郎『日本の労働法政策』(独立行政法人労働政策研究・研修機構、2018年)
- 濱口桂一郎『EUの労働法政策』(独立行政法人労働政策研究・研修機構、2017年)
- 浜村彰ほか『ベーシック労働法(第8版)』有斐閣アルマ、2020年
- 菅野和夫『労働法(第12版)』弘文堂、2019年
- 藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良『ファーストステップ労働法』エイデル研究所、2020年

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートにおいてC以上の評価を受けたいうえで受験した試験と中間レポートの総合評価(中間レポートに合格しなければ試験を受けることはできない)を行う。レポート及び試験においては、国際条約・先進諸国の法令と日本の制度との異同を「比較法的な観点」から論ずることができることが評価の対象となる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

日本法も国際条約なども大幅な改訂があったことから、全面的に振り直した。追加資料は、動画と同様に重要であり、動画を修正・補完するものであることからレポート課題作成に当たっては必ず目を通して欲しい。開講時に参考文献の重要性を再度リファレンスをして、最新の法改正の状況を反映させたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

メディアスクリーニングを視聴できる機器及びワードファイルでレポートを提出できる環境。

#### 【その他の重要事項】

法律が大きく改正されており、お知らせ欄などで最新の参考文献を示している。これらを読まずに作成したレポート及び答案は不合格となっているので、注意のこと。日本国内の法令のみならず、海外の法令も大きく変化していることから、それらについてもリファレンスを行うので、必ず学習すること。中間レポートに合格していない場合には、試験を受けることはできない。レポートはワードファイルで提出のこと。

発行日：2024/5/29

**【Outline (in English)】**

Students will conduct an international comparison on Labor Standards Law, Labor Union Law, Employment Security, and learn the current situation and issues of labor law in Japan.

SOC300TB (社会学 / Sociology 300)	
<b>労使関係論 (I) (後期メディア)</b>	
細川 良	
カテゴリー：後期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：後期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：	

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「労使関係」とは、一般に一人一人の労働者個人と使用者（企業）との間の関係ではなく、労働組合などの労働者の集団と使用者（企業）あるいは使用者団体との間の関係のことを指します。そして、諸外国と比べた場合、日本における労使関係は、企業を中心として形成されてきた点に大きな特徴があるとされてきました。もっとも、こうした日本独自の発展を遂げた労使関係システムは、それを支えてきたいわゆる「日本的雇用慣行」およびそれを取り巻く社会的・経済的環境が変化するに伴い、変化への対応が迫られています。本講義では、こうした労使関係の現在について考えるうえでの基本的な制度や仕組み、社会的背景について学ぶとともに、現在の労使関係が抱えている様々な課題について考えたいと思います。

### 【到達目標】

受講する学生において、労使関係、あるいは労働組合というものに対する知識や関心は様々であろうと考えられます。しかし、日本の労働組合や労使関係が有していた日本の社会的に対する影響力が低下し、その存在意義が問われているということについては、大なり小なり共通する認識を有しているのではないでしょうか。そこで、本講義では、本来、労使関係や労働組合は労働社会の中でどのような機能や役割が期待されてきたのか、日本の労使関係や労働組合はどのような役割を果たしてきたのか、そして、日本の労使関係がどのような課題に直面し、なぜそのような事態が生じたのかについてを知り、理科敷いてもらいたいと思います。そして、これからの労使関係はどのように変わっていく必要があるのか（あるいは、変わる必要がないのか、労使関係に未来はないのか）という問いについて、自分なりの答えを見つけ出してほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義では、「授業の概要と目的」で述べたことについて、逐次検討していきたいです。具体的には、①日本の労使関係の基本的な特徴と展開を概観し、②それを支える集団的労使関係に関する法制度を理解したうえで、③日本における労使関係の現代的な課題を考えたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の目的、労使関係について学ぶ意義、本講義の進め方等について説明します。
2	労働組合の団結～その歴史	そもそも、労使関係の基礎となる労働組合およびその活動は、どのような歴史的経緯で生まれてきたのか、なぜ労働組合の権利が保障される必要があるのか、労使関係の基礎的な前提について説明します。

3	日本的雇用慣行の形成と労使関係	日本の労使関係は、いわゆる「日本的雇用慣行」と深く結びつく形で発展してきました。この回では、日本的雇用慣行とはいかなるものか、という点を踏まえつつ、日本の労使関係の特徴について考えます。
4	労使関係の多様性～諸外国との比較	「労使関係」と一口に言っても、そのあり方は、国によって大きく異なります。そこで、この回では、諸外国におけるさまざまな労使関係のあり方について、その概要を説明し、それとの比較を通じて、日本の労使関係の特徴を改めて考えたいと思います。
5	公務員の労使関係	かつて、日本の労働組合運動において、極めて重要な課題となっていたのは、公務員に労働組合の権利を認めることでした。この問題は、いわゆる公務員制度改革をめぐる、ふたたび脚光を集めています。この回では、公務員の労使関係とそれをめぐる問題について考えます。
6	労働組合と労働者～プロスポーツ選手は「労働者?」	労使関係の担い手である労働組合は、労働者が集まって作った団体です。ところで、このような労働組合を結成することは、誰でもできるのでしょうか。この問題は、実は労使関係を考えるうえでの重要な論点です。この回では、労働組合を結成する「労働者」の意義について考えます。
7	労働組合～その基本的な活動とルール	労使関係の主要な担い手である労働組合ですが、実際、労働組合がどのような組織で、どのようなことをしているのか、そこにどのようなルールがあるのかは、案外知られていないのではないでしょうか。この回では、労働組合の実際とその活動をめぐるルールについて考えます。
8	団体交渉と争議	労働組合の重要な役割は、組合員（労働者）の労働条件や職場環境について使用者と交渉し、よりよい条件を勝ち取ることでしよう。この回では、こうした労働組合の団体交渉と、闘争手段である争議についての法規制について考えます。
9	労働組合の活動を守るために～不当労働行為制度	労働組合との良好な労使関係を形成しようとする使用者・企業がある一方で、労働組合を毛嫌いし、その活動を妨害しようとする使用者・企業があるのも事実です。この回では、こうした使用者による組合活動の妨害から保護する、不当労働行為制度について考えます。
10	労働組合と紛争解決	労働組合の活動については、労働条件や職場環境の向上という目的に注目が集まりがちですが、もう一つの重要な機能として、「紛争の解決」という役割があります。この回では、労使関係における様々な紛争解決制度も踏まえつつ、労働組合の紛争解決の機能について考えたいと思います。

- 11 労働組合の直面する課題～雇用の多様化と働き方の多様化 労働組合の組織率や影響力が長期低落傾向にあることはしばしば指摘されていることですが、そもそも、なぜ労働組合の組織率や影響力が低下しているのでしょうか。この回では、現在の労働組合を取り巻く状況について考えます。
- 12 法律による規制と「労使自治」 近年、労使関係について多くの法律が作られるようになってきました。この背景にはいろいろな事情がありますが、労使が自分たちで適切なルールを作出・運用し、問題を解決する能力が疑われていることもその一因でしょう。他方で、労働を取り巻く関係について、なんでも法律による規制でコントロールするのが適切かどうかは、議論のあるところだと思います。この回では、法律による規制と「労使自治」との関係について考えてみたいと思います。
- 13 労使関係の意義～労使コミュニケーションがもたらす効果 日本における労使関係は、その影響力の低下がしばしば指摘される一方で、良好な労使関係が労働条件や企業経営に良い影響を与える例もしばしばみられます。この回では、現在において労使関係が良好に機能する実際的な例を見ながら、労使関係の意義について考えてみたいと思います。
- 14 労使関係の課題～労使関係は何のために存在するのか これまでの講義で触れてきたように、現在は労使関係の存在意義が大きく問われている時代です。この回では、これまでの講義を踏まえつつ、そもそも労使関係は何のために存在するのか、という根本的な課題について考えてみたいと思います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には、講義の内容を丁寧に復習し、理解の定着を図ることが求められます。

もっとも、労使関係は、現実の社会の中にも多く存在し、また現在進行している様々な労働に関する法政策にも深く関係しています。したがって、新聞やニュースなどを通じて、労働組合や労使関係はもちろん、労働に関係する様々な事象について、日ごろからアンテナを延ばしてチェックするよう心掛けてほしいと思います。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定はありません

#### 【参考書】

指定はありません。各講義ごとに、必要に応じて参考となる文献資料等を提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

最終成績は基本的に単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）授業をよく復習し、労使関係を取り巻くシステムをよく理解したうえで、その課題を考えてください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

#### 【Outline (in English)】

At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>憲法 (日本国憲法の現状と課題) (後期メディア)</b>
<b>建石 真公子</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目では、憲法「原理」、憲法制定の目的である「人権保障」、憲法の目的を具体化する統治機構の原理と運用及びその課題について理解することを目的としている。

現在の国際社会において、ほとどの国も「憲法」を制定し、基本的な近代憲法原理には共通点が多く、また国連を中心とした国際社会の影響を受けている。日本は、最初の憲法である明治期の大日本帝国憲法、敗戦後の日本国憲法ともに、西欧の立憲主義を受容し、それまでの日本の社会を制度的にも思想的にも大きく変えたという特徴を持っている。そのような日本国憲法について、現状の課題を理解し、あわせて国際化の進展する国際社会における日本国憲法のあり方について考える。

#### 【到達目標】

まず、近代憲法を支えている「原理」-国民主権、民主主義、権力分立、人権保障-について学び、そのうえで、現代の国際社会における日本の憲法の特徴を理解する。

次に、日本国憲法が保護している人権の内容、その保障の現状および課題について、学説、判例、また国際人権保障を通じて理解する。日本国憲法における統治機構、三権分立、違憲審査制、地方自治について理解し、どのような課題があるのかをリカシ、それへの対処について考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、教科書にそって講義し、具体的事件についての判例も参照する。また補足的なレジュメの配布やDVDによって課題の理解を深める単元もある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	国家と憲法、立憲主義、国民主権、憲法改正	国家、立憲主義、国民主権という近代憲法の制定の基盤について学ぶ。
第2回	国際社会と日本の二つの憲法	日本は、大日本帝国憲法と日本国憲法という二つの憲法を有しているが、それらの憲法は国際社会の強い影響のもとで制定された。国際社会との関係で、日本国憲法の特徴を理解する。
第3回	憲法と国際法	日本国憲法における憲法と国際法との関係、法律と条約の関係について学ぶ。
第4回	統治機構の現代的課題-議院内閣制	日本は、統治機構として議院内閣制を採用している。議院内閣制の特徴、課題について理解する。
第5回	統治機構と現代的課題-司法権と違憲審査制	三権分立における司法権と違憲審査制の役割と課題について理解する。

第6回	人権保障の思想と制度	人権の国内的、国際的保障の歴史と制度の現状と課題を理解する。
第7回	公務員の権利、外国人の権利	公務員は、法律によって市民としての権利のいくつかを制約されている。制約の根拠及びその課題について学ぶ。日本国憲法における外国人の権利の保護について学ぶ。
第8回	個人の尊重と幸福追求権-人格権	憲法における個人の尊重の意義、人格権の保護の態様について学ぶ。
第9回	個人の尊重と幸福追求権-プライバシーの権利	プライバシーの権利について、表現の自由及び報道の自由との関係で考察する。
第10回	平等	平等の法的保護について、学説、判例を通して学ぶ。
第11回	思想・良心の自由と信教の自由	思想・良心の自由、および信教の自由について、学説、判例を通して学ぶ。
第12回	表現の自由	表現の自由について、学説、判例を通し学ぶ。また、表現の自由とヘイトスピーチの関係についても考える。
第13回	生存権	現代社会における生存権の保護について、学説、判例をととして学ぶ。
第14回	国際社会の安全保障と平和主義	日本国憲法の平和主義について、国際社会の安全保障、国内の自衛隊という行政組織が民主主義や人権に及ぼす危険性、の双方から考える。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業の準備は、テキストを読み、関連判例を理解する。復習は、授業の内容を理解し、疑問点についてテキスト、判例集等を読む。

#### 【テキスト (教科書)】

元山健、建石真公子変『現代日本の憲法』法律文化社、2016年。  
長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿 (編)『憲法判例百選 I・II』(第7版) 2019年

#### 【参考書】

芦部信喜 (高橋和之補訂)『憲法』(第7版) 岩波書店、2019年。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間テストとして、講義中に2回実施 (50%)。  
授業終了後に単位修得試験 (50%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当なので、まだありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

PC等の視聴可能な機器。

#### 【その他の重要事項】

授業で紹介する書籍や論文は読むようにしてください。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to study about the principle of constitutionalism - sovereignty, democracy, protection of the human rights- and about the characteristics of Japanese constitution in actual international society.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>商法総則・商行為法(Ⅱ)(後期メディア)</b>
<b>桜沢 隆哉</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業及び企業取引における法律関係の特質と法規制の理解

#### 【到達目標】

この講義は、全14回の講義で商取引法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。企業の制度的背景である商取引を理解することにより、会社法等の企業関係法の理解を深化させることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義では、商法の中で、前半の講義で扱ったテーマの知識を基にして、より実務的色彩の強い応用的なテーマを学習していくことになる。商取引法では各所に民法の特則的な規制がみられ、また、問屋・運送・保険営業などの各種の現実の商取引に関する規制もみられます。商取引の進化とともに発展・変化していく「商法」を学び、現代社会における企業・取引活動といった事象について法的な問題意識とその解釈を身に付けることを目的とします。特別な知識や能力は必要ありません。必要なのは、常に「なぜ」と考え、制度の背景事情を観察する知的好奇心と意欲であると考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	序章 ガイダンス	企業取引法（商行為法）の現状、企業取引法の体系的特色、企業取引法の基本概念
第2回	第11章-1 商事売買(1)	国内における商事売買（商人間売買）、商事売買の特色（契約の成立、目的物の受領・引渡し、代金の支払い）
第3回	第11章-2 商事売買(2)	国際売買契約（国際売買の意義、法源とルールの統一化）、定型的取引条件
第4回	第12章-1 消費者取引(1)	消費者取引の特色と法規制、消費者契約法の制定経緯、目的・範囲、消費者契約法と契約条項
第5回	第12章-2 消費者取引(2)	割賦販売法および特定商取引法の規制と仕組み、諸問題
第6回	第13章-1 金融取引(1)	商事決済制度における交互計算の意義、匿名組合の意義・機能
第7回	第13章-2 金融取引(2)	リース取引の意義・機能、リース取引における諸問題（裁判例を題材に）
第8回	第14章-1 仲介業者者(1)	企業取引の補助者としての仲介業者、仲立人

第9回	第14章-2 仲介業者者(2)	商人による他人利用の形態と問屋・準問屋、運送取扱人の法規制とその概要
第10回	第15章-1 運送取引(1)	物品運送契約の意義・内容、物品運送契約における運送人の責任
第11回	第15章-2 運送取引(2)	運送証券、旅客運送契約、相次運送
第12回	第16章 倉庫営業	商事寄託契約の意義・分類・事業規制、寄託業者としての倉庫業者の権利義務、倉庫証券
第13回	第17章 場屋取引	場屋営業の意義、場屋業者の責任
第14回	第18章 保険取引	保険契約の意義・機能・類型・性質、損害保険契約、生命保険契約

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

大塚英明・川島いづみ・中東正文『商法総則・商行為法<有斐閣アルマ>』（有斐閣、第3版、2019年）

#### 【参考書】

(1) 落合誠一=大塚龍児=山下友信『商法Ⅰ総則・商行為<有斐閣Sシリーズ>』（有斐閣、第5版、2013年）

(2) 近藤光男『商法総則・商行為法』（有斐閣、第7版、2019年）

(3) 江頭憲治郎=山下友信編『商法（総則商行為）判例百選第5版』（別冊ジュリスト194号、有斐閣、2008年）

テキスト(教科書)は、商法総則・商行為の両分野にまたがり、基礎から応用に至るまで丁寧な説明で書かれており、初めて商法を学ぶ方々にも十分対応しているが、コンパクトに情報を伝えようとしているためか、今後の展開を考えると、その内容を文献(3)で重要判例を補う必要がある。(1)(2)は、資格試験等でよく利用されるものであり、全講義を通して体系的な整理のために利用するのが適切であると考えている。なお、近年、最新の重要判例も盛り込んだものとしては、(4) 神作裕之=藤田友敬『商法判例百選』（有斐閣、2019年）が出版されている。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（1回／30%）およびメディアスクーリング試験（70%）によって評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

Understanding Principal of Commercial Transaction Law

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>行政法(後期メディア)</b>
<b>西田 幸介、氏家 裕順</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を 参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にある。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性あるいは法的統制が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法とはどのような法なのか、行政法の基本原理、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを学ぶ。

#### 【到達目標】

- (1) 行政法における基本的な概念（行政行為、行政契約、法律による行政の原理など）について、正確に説明することができる。
- (2) 行政主体（国や地方公共団体など）と私人との法律関係を把握することができる。
- (3) 行政主体と行政機関の関係について、正確に説明することができる。
- (4) 行政の各種の行為（行為形式）について、それぞれの概念や分類、法的規制の概略について、正確に説明することができる。
- (5) 行政の実効性確保について、その手段、それに対する法的規制の概略について、正確に説明することができる。
- (6) 行政法の基本原理、行政組織および行政作用について、それが抱える問題点や現代的課題を理解し、その解決策を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

一般的な講義形式による。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	行政法の意義	行政の概念・分類 行政法の3分野
第02回	行政組織法の基礎概念(1)	行政主体と行政機関
第03回	行政組織法の基礎概念(2)	指揮監督
第04回	行政組織法の基礎概念(3)	権限の代行
第05回	法律による行政の原理(1)	意義と内容
第06回	法律による行政の原理(2)	実効性確保
第07回	法の一般原則(1)	信頼保護の原則 許認可権限の濫用

第08回	法の一般原則(2)	比例原則 平等原則
第09回	適正手続の保障(1)	意義と根拠
第10回	適正手続の保障(2)	行政手続の手法
第11回	行政の各種の行為 (1) 行政の行為形式	法行為と事実行為 権力的行為と非権力的行為
第12回	行政の各種の行為 (2) 法規命令	委任命令と執行命令
第13回	行政の各種の行為 (3) 行政行為	瑕疵ある行政行為
第14回	行政の各種の行為 (4) 行政契約	競争入札と随意契約
第15回	行政上の強制執行	代執行

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。

#### 【参考書】

稲葉馨『行政法と市民』（2006年、放送大学教育振興会）  
 宇賀克也『行政法概説I [第6版]』（2017年、有斐閣）  
 小早川光郎『行政法（上）』（1999年、弘文堂）  
 塩野宏『行政法I 行政法総論 [第6版]』（2015年、有斐閣）  
 芝池義一『行政法読本 [第4版]』（2016年、有斐閣）  
 高橋滋『行政法 [第2版]』（2018年、弘文堂）  
 原田尚彦『行政法要論 [全訂第7版補訂2版]』（2012年、学陽書房）  
 藤田宙靖『行政法総論』（2013年、青林書院）

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）とメディアスクーリング試験（60%）による。いずれにおいても、行政法の基本的な概念や法律論が適切に理解できているか、それらを具体的な問題に当てはめて考えることができるかを問うこととする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果からは、とくに変更を要すると考えられる事項はないと考えている。ただ、引き続き、授業改善に努めていきたい。

#### 【Outline (in English)】

In this course, student learn the outline of Administrative Law. After taking this course, student will be able to:

- Explain the basic concepts in administrative law.
- Explain the legal relationship between state or public entities and private natural or legal person.
- Explain the relationship between state or public entities and administrative agencies.
- Describe the concepts, classifications, and outlines of legal restrictions concerning various acts of administrative agencies.
- Explain the means of securing the effectiveness of acts of administrative agencies and the outline of legal restrictions on them.
- Understand the problems and contemporary issues of the basic principles, administrative organization and acts of administrative agencies in administrative law, and discuss their solutions.

LAW300TB (法学 / law 300)

**労働法(働き方に関する法ルール)(後期メディア)**

宮崎 由佳

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

労働契約のはじまりから終わりまでの法ルールとその意義などについて考察します。

**【到達目標】**

使用者と労働者の権利と義務を理解すること、労働条件を決定する仕組みを理解すること、および職場で起こる(起こりうる)問題に対して法的にアプローチする力(当該問題の本質を捉え、関連条文や判例によりながら解決する力)をつけることを本講義の目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

現代社会において、「職業生活」は、人間の営みの大きな部分を占めており、そこでのルールがいかに決定され、また作用するのかを理解し、習得することは必要不可欠といえます。

本講義は、雇用関係を規律する法、ルールおよびその役割を概観し、また、そこで起こり得る法的問題について具体的な事例を示し、関連判例や条文等を参照しながら考察することを目的とします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	労働法とは	労働法とは。なぜ労働法は必要なのか、その意義など。
第2回	採用内定・試用期間	いつから労働契約関係は始まるのか。採用内定の法的性質など。
第3回	労働時間に関する法ルール	労働時間の意義、労働時間に関する法ルールとその課題について。
第4回	労働者の安全と健康に関する法	労働者の安全と健康に関する法ルールとその課題について。
第5回	休憩・休日・休暇制度	休憩時間や休日・休暇の意義、各制度に関わる法ルールとその課題
第6回	賃金に関する法ルール	賃金の支払いや決定に関する法ルールについて。
第7回	労働条件の決定と変更	労働条件の決定の仕組みや決定・変更に関するルールについて。
第8回	人事異動のルール	配置転換・出向・転籍の意義、法ルールとその課題について。
第9回	懲戒	懲戒制度の目的や内容、懲戒権の根拠や限界など法ルールについて。
第10回	契約の終了に関する法ルール	解雇、整理解雇や退職など労働契約の終了に関する法ルールについて。
第11回	雇用平等	労働者の人権、人格権や雇用平等に関する法ルールと課題について。

第12回	非正規労働者と法	パートタイム労働者、有期契約労働者、派遣労働者など、非正規労働者に関する法ルールと課題について。
第13回	労働組合と法	労働組合とは。その目的や労働組合法上の労働組合の要件、不当労働行為制度について。
第14回	団体交渉・労働協約	団体交渉および労働協約に関する法ルールについて。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習をされた上での受講を前提としておりますので、教科書(該当テーマに限らず)及び参考資料には必ず目を通しておいて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『ベーシック労働法 第8版』(有斐閣アルマ) (新版が出た場合は新版。旧版も可)

**【参考書】**

法の制定・改正や判例の動向により適宜資料を配布し、内容等について紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート (50点) および試験 (50点) の総合評価とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

注目すべき法改正や判例などについて、適宜情報提供を行う。

**【Outline (in English)】**

The objective of this course is to help students acquire an understanding of the regulations covering employment relations and their roles.

LAW400TB (法学 / law 400)
<b>国際法各論(国際平和の追求)(後期メディア)</b>
稲垣 治
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際法の各論を扱う。第一に、国際関係の基本単位としての国家管轄権の発現態様である実体法に焦点を当て、個別分野における国際的な規制枠組を検討する。第二に、国際法秩序の維持と国際法の履行確保のための方式や制度について考察する。

#### 【到達目標】

国際社会における具体的な事象を法的に分析する素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1,DP2,DP3,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

主として国際法の各論部分についての講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海洋法（1）	海洋法の歴史的発展、内水、領海
第2回	海洋法（2）	排他的経済水域、公海、大陸棚、深海底、海洋環境、紛争解決
第3回	極地・空域・宇宙	南極の法的地位、北極、領空、宇宙空間の利用、天体の資源開発
第4回	個人の管轄	国籍、犯罪人引渡し、国際犯罪、国際刑事裁判所
第5回	国際人権法（1）	人権保障の展開、国連による人権保障、民族自決権
第6回	国際人権法（2）	国際人権保障の困難性、履行確保、難民
第7回	国際環境法（1）	国際環境法の対象と接近方法、国際環境法の生成と発展、リオ宣言
第8回	国際環境法（2）	国際環境条約の性質、持続可能な開発、枠組条約と議定書、制度化
第9回	国際環境法（3）	手続的義務、履行確保、気候変動
第10回	国際経済法	自由貿易体制、GATT/WTO、南北問題、貿易と環境
第11回	紛争の平和的解決（1）	国際社会における紛争解決手続きの特徴、平和的解決と強制的解決、非裁判的手続
第12回	紛争の平和的解決（2）	裁判的手続の特徴、国際仲裁裁判、国際司法裁判、国際裁判機関の多元化
第13回	国際安全保障	武力不行使原則、集団安全保障、自衛権、国連軍、多国籍軍、平和維持活動、人道的介入
第14回	軍備管理・軍縮	武器・兵器、軍隊の変遷、冷戦と軍拡競争、核軍縮

第15回 国際人道法（武力紛争法の違反と武力紛争法規、軍事目標主義、武力紛争法規の履行確保、原爆と日本

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当部分を読んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

小寺彰・岩沢雄司・森田章夫編『講義国際法 [第2版]』有斐閣、2010年。  
岩沢雄司編『国際条約集』有斐閣。  
どちらも新版が出た場合は新版（旧版も可）。

#### 【参考書】

小寺彰・森川幸一・西村弓編『国際法判例百選 [第2版]』有斐閣、2011年。

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート試験、中間レポート課題の総合点で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

履修者は「国際法総論」を履修済みであることが望ましいが、それを履修の条件とはしない。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the legal order and rules over the specific areas in the international society referring to precedents by both international and domestic courts.

LAW300TB (法学 / law 300)

## 保険法・海商法(I)(後期メディア)

桜沢 隆哉

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険契約法と海上運送・海上企業に関する基本的知識の習得

## 【到達目標】

この講義は、全15回の講義で保険法上の諸制度、内容、機能に関する基礎的・体系的な理解が得られることを主眼とし、今後現実の社会における応用問題に取り組んで行くことができるようしっかりとした事案の分析能力、解釈論を展開する能力を高めることを目標とする。保険法の教科書を解説するだけでは上記目標を達成することは難しいので、毎回の講義の中では具体的なケースを用いて、それを基に保険法の制度が実際にどのように運用されているのか、それは社会の実態に合致しているのか、さらにそれに問題があるとするればいかにして解決・克服すべきなのかといった観点から、保険法の諸制度と現実の社会における問題とをつなげる力の修得を目指したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP4」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、保険法と海上運送・海上企業組織に関する基本的知識の習得を目的とする。保険法および海商法はいずれも我々の実社会と密接に結びついた重要な法制度である。このうちで、保険法・海商法（I）では保険法を扱い、保険法・海商法（II）では海商法を扱う。

まず、本講義で扱う保険法についてみれば、保険制度は、われわれの日常生活における様々な危険に備えるための有用な手段として用いられているが、他方で濫用されるおそれの高い制度でもある。本講義では、保険制度が有するこれら2つの側面を意識しながら、それを法的視点から解説する。また保険法は、近年、約100年ぶりともいえる法改正および商法から単行法化がなされ、世間でも多くの注目を集めている。その新しい保険法では、消費者保護が一層重視されており、われわれ消費者側としても保険に関する適切な知識を身につけておくことが必要とされる。そこで、保険法については、実務の動向や裁判例を常に意識しながら講義を展開していきたいと考えている。

一方、保険法・海商法（II）で扱う海商法は、船舶を手段とする海上企業・海上運送に関する法制度である。船舶は、物品の運送に関しては今日でもなお主要な地位を占めている。われわれの社会は、様々な物資によって支えられており、それは海上運送をはじめとする輸出入に依存しているところも少なくない。本講義では、海上企業の組織、その活動(海上物品運送)および海上危険について概説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	保険法総論(1)－保険制度と保険法	保険制度と保険法、保険の分類、保険法の体系
第2回	保険法総論(2)－保険契約の当事者・関係者	保険契約の意義・性質、保険契約の当事者・利害関係者

第3回	損害保険契約法・総論(1)－損害保険契約の成立－	損害保険契約の意義、損害保険契約の成立、損害保険契約と告知義務
第4回	損害保険契約法・総論(2)－損害保険契約の内容①－	損害保険契約における保険事故、保険期間、保険料の性質、損害保険契約の基本構造
第5回	損害保険契約法・総論(3)－損害保険契約の内容②－	保険金額と保険価額、全部保険と一部保険・超過保険、重複保険
第6回	損害保険契約法・総論(4)－損害保険契約の効果とその変動－	損害保険契約における保険者の権利義務、保険契約者等の権利義務、損害保険契約関係の変動
第7回	損害保険契約法・総論(5)－損害保険契約と保険給付－	損害保険契約の履行、保険代位
第8回	損害保険契約法・総論(6)－損害保険契約の終了・損害保険債権の処分と保険担保－	保険契約者による保険契約の解除等、告知義務違反による保険契約の解除、危険増加による保険契約の解除、重大事由による保険契約の解除
第9回	損害保険契約法・各論(1)－火災保険契約及び責任保険契約	損害保険契約各論としての火災保険契約、責任保険契約
第10回	損害保険契約法・各論(2)－自動車保険契約及び運送保険契約	損害保険契約各論としての自動車保険（自賠責保険・任意自動車保険）
第11回	生命保険契約法(1)－生命保険契約の成立・効力－	生命保険契約の成立、保険料と保険者の責任、他人の生命の保険、保険給付請求権の消滅時効
第12回	生命保険契約法(2)－生命保険契約の給付・終了－	第三者のためにする生命保険契約、保険金受取人の指定・変更、保険金受取人の死亡、保険金受取人の介入権、生命保険契約と保険者免責
第13回	傷害疾病保険契約法(1)－傷害保険契約・疾病保険契約の意義・内容－	傷害保険契約と偶发性要件、傷害保険契約と外来性要件
第14回	傷害疾病保険契約法(2)－傷害・疾病保険契約に特有の重要問題－	疾病保険契約の意義、責任開始期前発病不担保条項、所得補償保険
第15回	保険業に対する法規制	保険事業に対する規制（保険業法の概要－保険業法の目的と保険業）、保険会社の監督と保険契約者保護、少額短期保険業者、保険募集の規制

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料、およびテキストの該当箇所をよく読んで予習・復習をすること。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社、2013年

## 【参考書】

参考書（教科書としての指定はしていないが講義の補足で使うことが学習上望ましいもの）  
 ・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年  
 ・六法(判例・解説付ではないもの)  
 （講義を聴く際には、判例・解説付でも構わないが試験等に持ち込むことが認められていないため）※メディアスクーリング試験では六法の持ち込みも不可です  
 ▼ その他の参考文献の紹介  
 ≪保険法・海商法の両方に関するもの≫  
 ・山野嘉朗・山田泰彦著『現代保険・海商法30講〔第9版〕』中央経済社、2013年  
 ・江頭憲治郎『商取引法〔第8版〕』弘文堂、2018年  
 ≪保険法のみに関するもの≫  
 ＊新法対応済み

- ・甘利公人・福田弥夫『ポイントレクチャー保険法〔第2版〕』有斐閣、2017年
- ・石山卓磨編著『現代保険法〔第2版〕』成文堂、2011年
- ・金澤理『保険法』成文堂、2018年
- ・山下友信ほか著『保険法〔第4版〕』有斐閣アルマ、2019年
- ・岡田豊基『現代保険法〔第2版〕』中央経済社、2017年
- ・潘阿憲『保険法概説〔第2版〕』中央経済社、2018年
- ・山下友信『保険法（上）』有斐閣、2017年

＊旧商法にのみ対応

- ・倉沢康一郎『保険法通論』三嶺書房、1982年
- ・大森忠夫『保険法〔改訂版〕』有斐閣、1985年
- ・西島梅治『保険法〔第3版〕』悠々社、1998年
- ・金澤理『保険法上〔改訂版〕』成文堂、2001年
- ・中西正明『生命保険法入門』有斐閣、2006年
- ・山下友信『保険法』有斐閣、2005年

≪海商法のみに関するもの≫

- ・戸田修三『海商法〔第5版〕』文眞堂、1995年
- ・重田晴生編著『海商法』青林書院、1994年
- ・中村真澄・箱井崇史『海商法』成文堂、2010年

≪判例解説等の参考書≫

- ・鴻常夫ほか編『商法（保険・海商）判例百選（第2版）』有斐閣、1993年
- ・鴻常夫ほか編『損害保険判例百選〔第2版〕』有斐閣、1996年
- ・鴻常夫ほか編『生命保険判例百選〔増補版〕』有斐閣、1988年
- ・山下友信・洲崎博史編『保険法判例百選』有斐閣、2010年
- ・山下友信・神田秀樹編『商法判例集〔第4版〕』有斐閣、2010年

＊判例については、上記参考文献に掲載されていない最新の判例も次々に出されている。それらは授業の中の各該当箇所て指示するが、基本的にはレジュメの中に反映させる。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（1回／30％）およびメディアスクーリング試験（70％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Understanding Principal of Insurance Law

SOC300TB (社会学 / Sociology 300)	
<b>労使関係論 (Ⅱ) (後期メディア)</b>	
細川 良	
カテゴリー：後期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：後期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照	
備考 (履修条件等)：	

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

「労使関係」とは、一般に一人一人の労働者個人と使用者（企業）との間の関係ではなく、労働組合などの労働者の集団と使用者（企業）あるいは使用者団体との間の関係（集団的労使関係）のことを指します。もっとも、一口に労使関係（集団的労使関係）といっても、その実態は国によって大きく異なります。そして、労使関係の実態は、その国における雇用をめぐるシステムがどのようなものか、ということに大きく左右されます。実際、日本における労使関係（集団的労使関係）の実態や特徴は、それを支えてきたいわゆる「日本の雇用慣行」、およびそれを踏まえた雇用に関する法制度とも深い結びつきがあります。そこで、本講義では、まず前半で、前提としての日本における雇用システムの特徴と、それを基礎として形成された雇用に関する法制度について考えます。後半では、前半で検討した雇用システムを踏まえつつ、日本における集団的労使関係と、それを支える法制度について考えてみたいと思います。

**【到達目標】**

受講する学生において、労使関係、労働組合、あるいは労働法に対する知識や関心は様々であろうと考えられます。しかし、多くの受講生が、将来的に雇用の世界の中で生きていくことになることは間違いありません。また、日本における雇用システムや労使関係について、旧来からの仕組みから変わりつつあるという点については、大なり小なり共通する認識を有しているのではないでしょうか。そこで、本講義では、「日本の雇用システム」のなかで形成されてきた労使関係や労働法の仕組みを理解しつつ、それらがどのような課題を抱えており、今後どのように変わっていく必要があるのか（あるいは、変わるべきではないのか）という問いについて、自分なりの答えを見つけ出してほしいと思います。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP2,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、「授業の概要と目的」で述べたことについて、逐次検討していきたいと思います。具体的には、①日本における雇用システムとそれを基礎とした法制度について、基本的な理解を進めたいうえで、②日本における労使関係の実態や特徴と、③日本における（集団的）労使関係に関する法制度を学び、④これらを通じて、日本の雇用システムや労使関係が抱える課題や今後のあり方を考えたいと思います。講義の形態としては、通常の講義方式を予定しています。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の目的、労使関係を学ぶ意義、労使関係や労働法が形成されてきた歴史について説明します。

2	日本の雇用慣行の特徴と労働法・労使関係	日本の労使関係や労働法は、いわゆる「日本の雇用慣行」と深く結びつく形で発展してきました。この回では、日本の雇用慣行とはいかなるものか、という点を踏まえつつ、日本の労使関係や労働法の特徴について考えます。
3	解雇をめぐる法システム－「日本では解雇は難しい」とは本当か？	日本の雇用システムの特徴として、「解雇が難しい」という指摘がしばしばなされますが、それは本当でしょうか。日本における解雇をめぐる法制度について、諸外国との比較や、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
4	採用をめぐる法システム－「新卒一括採用」を前提とした法制度	「新卒一括採用」は、日本の雇用システムの極めて大きな特徴です。この回では、採用に関する法制度と、「新卒一括採用」の持つ意義について考えたいと思います。
5	賃金－日本の賃金制度は今も「年功型賃金」なのか	日本の雇用システムの特徴の一つとして、「年功型賃金」がしばしば挙げられますが、今も日本企業では「年功型賃金」を採用しているといえるのでしょうか。この回では、賃金に関する基本的な法制度とともに、日本における賃金制度について考えたいと思います。
6	労働時間－なぜ日本の労働者は長時間労働になるのか	日本における働き方の問題点として、「長時間労働」の問題がしばしば指摘されます。この回では、労働時間に関する法制度と、長時間労働をめぐる課題について、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
7	人事異動－配転・出向・転籍	日本の雇用システムの特徴の一つに、人事異動が頻繁に行われることが挙げられます。この回では、人事異動に関する法制度について、近年の政策動向を踏まえつつ、考えてみたいと思います。
8	労働条件の変更－就業規則の機能	日本の雇用に関する法制度の特徴の一つとして、企業が状況に応じて柔軟に労働条件を変更できることが挙げられます。それを可能としているのが、就業規則に関する法制度です。この回では、日本の企業における就業規則の機能とその法制度について考えます。
9	非典型雇用－労働市場の二重構造をどう解消するか？	日本の雇用システムの特徴の一つとして、「正社員」と「非典型雇用（非正規雇用）」の2つの雇用形態の格差がしばしば指摘されます。ここでは、両者の格差解消に向けた最近の政策を踏まえつつ、「非典型雇用」をめぐる法制度とその課題を考えます。
10	日本における労使関係システム－諸外国との比較から	日本の集団的労使関係は、欧米諸国とは大きく異なっていることがしばしば指摘されます。この回では、これまで学んできた日本の雇用システムの特徴や、諸外国との比較を交えつつ、日本の労使関係システムの特徴を考えたいと思います。

- |    |                               |   |
|----|-------------------------------|---|
| 11 | 労働組合の結成と運営活動－「労働組合」は、誰が何をするのか | 労働組合にはだれが入ることができて、どのような活動をしているのか、詳しくは知らない人が少なくないのではないのでしょうか。この回では、誰が労働組合に入ることができて、どのような活動をしているのか、考えたいと思います。 |
| 12 | 団体交渉と争議                       | 労働組合の大事な役割は、使用者と「団体交渉」をすることによって、組合員の労働条件を改善することです。この回では、団体交渉とそれが行き詰った時に実施する争議行為に関する法制度について考えたいと思います。        |
| 13 | 労働協約－労使交渉を通じたルールメイキング         | 団体交渉が無事に妥結した場合、労働組合と使用者は、労働協約を締結し、これを通じて組合員の労働条件を事実上決定します。この回では、この労働協約に関する法制度について考えたいと思います。                 |
| 14 | 不当労働行為－労働組合の活動を守るために          | 使用者は、ときに労働組合の活動を不当に妨害しようとする場合があります。こうした妨害から労働組合を守る制度が不当労働行為制度です。この回では、不当労働行為制度の内容と機能について考えたいと思います。          |

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的には、講義の内容を丁寧に復習し、理解の定着を図ることが求められます。

もっとも、労使関係や労働法、そしてそれらに関する法制度や法政策は、現実の社会の中にも多く存在し、また現在進行形で多くの動きが存在しています。したがって、新聞やニュースなどを通じて、労使関係や労働法はもちろん、労働に関係する様々な事象について、日ごろからアンテナを延ばしてチェックするよう心掛けてほしいと思います。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之ほか『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所・2020年4月出版予定）（2300円・税別・予定）を使用します。

ただし、科目の性質上、テキストの順番通りに進むわけではない、ということは承知しておいてください。また、講義においてテキストに記載されていない内容を扱うことが一部ありますが、その場合はパワーポイントその他の資料を配布します。

#### 【参考書】

指定はありません。各講義ごとに、必要に応じて参考となる文献資料等を提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

最終成績は基本的に単位修得試験により評価します。（ただし、レポート学習もしっかりと行うこと。）授業をよく復習し、労使関係を取り巻くシステムをよく理解したうえで、その課題を考えてください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため、ありません。

#### 【Outline (in English)】

At the end of this course, participants will learn the reality, problems and future prospects by looking directly at the structural change of labor relations relations.

LIT100TC (文学 / Literature 100)

## 日本文芸研究特講・中古(『竹取物語』を読む—かぐや姫の“実像”(後期メディア)

園 明美

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：後期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多くであろう。また、2013年末にはアニメ映画化されて話題になった。しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。

実は、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫とはかけ離れた、かぐや姫の驚くような言動や、他の登場人物たちの滑稽な言動を描く箇所が散見するのである。

本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・「『竹取物語』像」を見出してほしい。

## 【到達目標】

『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。

なお、「受験のための古文」の学習ではなく、「文学としての『竹取物語』」を読むことを目的とするので、文法等に過剰にこだわるのではなく、「何が語られているのかについての理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、中学・高校時代に古文が苦手だったという人も心配する必要はない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

『竹取物語』の本文を、14講を通して少しずつ区切りながら読み進め、毎講関連する史的背景や他の作品の本文等を紹介しつつ、作品の読みを深めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
①	『竹取物語を読む』その1	『竹取物語』の概説と冒頭の1
②	『竹取物語を読む』その2	求婚者殺到 翁の説得の2
③	『竹取物語を読む』その3	求婚者に対する無理難題の3
④	『竹取物語を読む』その4	求婚者の受難Ⅰ 石作の皇子の恥辱とくらもちの皇子の謀略
⑤	『竹取物語を読む』その5	求婚者の受難Ⅱ くらもちの皇子撃退
⑥	『竹取物語を読む』その6	求婚者の受難Ⅲ 阿倍の大臣の落胆
⑦	『竹取物語を読む』その7	求婚者の受難Ⅳ 大伴の大納言の勇猛さ
⑧	『竹取物語を読む』その8	求婚者の受難Ⅴ 大伴の大納言の災難
⑨	『竹取物語を読む』その9	求婚者の受難Ⅵ 石上の中納言の悲劇

- ⑩ 『竹取物語を読む』その10 帝の求婚Ⅰ かぐや姫に振られる帝
- ⑪ 『竹取物語を読む』その11 帝の求婚Ⅱ かぐや姫との文通の11
- ⑫ 『竹取物語を読む』その12 かぐや姫の昇天Ⅰ 阻もうとする人々
- ⑬ 『竹取物語を読む』その13 かぐや姫の昇天Ⅱ 地上に思いを残して
- ⑭ 『竹取物語を読む』その14 かぐや姫の昇天Ⅲ 遺された人附・中世の説話と『竹取物語』

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト及び参考書として紹介した書籍等を読み、理解を深める助けとすること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

室伏信助訳注『竹取物語』（角川ソフィア文庫）

## 【参考書】

平安貴族の環境（至文堂 1994）

平安時代の信仰と生活（至文堂 1994）

平安時代の儀礼と歳事（至文堂 1994）

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（50%）及びレポート試験（50%）の内容によって評価を行う。

（注意事項1）

中間レポートとレポート試験は、両方とも提出しないと評価対象とならないので、必ず両方提出すること。

（注意事項2）

中間レポートの内容によっては、コメントを付けた上で再提出を指示する場合がある。この場合、指定された期間内に再提出されない場合はやはり評価対象とならないので、必ず期間内に書き直し、提出すること。

## 【学生の意見等からの気づき】

メディアスクーリングの性質上、疑問点があってもなかなか質問できないというコメントがあったが、教員に直接質問し、回答を得るためのフォームも用意されているので、是非とも遠慮なく活用してほしい。中には、質問内容について、「こんな基礎的なことは聞いてはいけいではないか」と感じることもあるようだが、どんな些細なことでも、学びの深さにつながるものだと考えるし、基礎的なことゆえに大切なこともあるので、大歓迎である。

## 【Outline (in English)】

This course introduces to "The tale ob Taketori" students taking this course.

At the end of the course, participants are expected to understand contents of "The tale ob Taketori".

LIT100TC (文学 / Literature 100)
<b>日本文芸研究特講・中世(平家物語)(後期メディア)</b>
<b>小秋元 段</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『平家物語』を読む。

#### 【到達目標】

『平家物語』を講読し、その世界に触れる。そのうえで、作品解釈の基本的な方法を学び、物語の構成、表現、人物像の特徴や、物語と歴史的背景との関連等を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

はじめに『平家物語』の概説をし、以下、代表的な章段をとりあげ、原文の朗読、口語訳、解説を各回で行う。中間レポートとレポート試験を課し、そこでは授業でとりあげた章段以外にも視野を広げ、オリジナリティのある研究に取り組んでもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	『平家物語』の世界	『平家物語』の概説を行う。あらすじ・成立・作者・諸本等の基本事項を解説する。
第2回	平家の繁栄 ～巻1「殿下乗合」～	巻1「殿下乗合」を講読し、平清盛・重盛父子の人物造形の特徴を中心に講義する。
第3回	院近臣の策謀 ～巻1「鹿谷」～	巻1「鹿谷」を講読し、政治的事件を描く作者の方法を中心に講義する。
第4回	俊寛の悲劇 ～巻3「足摺」～	巻3「足摺」を講読し、悲劇を描く作者の方法を中心に講義する。
第5回	以仁王の変の発端 ～巻4「競」～	巻4「競」を講読し、平重盛・宗盛兄弟の人物造形の特徴を中心に講義する。
第6回	いくさ語りの諸相 ～巻4「橋合戦」～	巻4「橋合戦」を講読し、「いくさ語り」と『平家物語』の関係を中心に講義する。
第7回	清盛の死 ～巻6「入道死去」～	巻6「入道死去」を講読し、清盛の死の物語と浄土思想の関係をを中心に講義する。
第8回	平家の都落ち ～巻7「忠教都落」～	巻7「忠教都落」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第9回	木曾義仲の入京 ～巻8「猫間」～	巻8「猫間」を講読し、木曾義仲の人物像の特徴を中心に講義する。
第10回	木曾義仲の最期 ～巻9「木曾最期」～	巻9「木曾最期」を講読し、「主従愛」の造形を中心に講義する。
第11回	一谷の悲劇 ～巻9「敦盛最期」～	巻9「敦盛最期」を講読し、「父子の恩愛」の造形を中心に講義する。

第12回	恩愛の絆 ～巻10「維盛入水」～	巻10「維盛入水」を講読し、平維盛の死と浄土思想の関係を中心に講義する。
第13回	扇的 ～巻11「那須与一」～	巻11「那須与一」を講読し、覚一本と延慶本の物語の描き方の違いを中心に講義する。
第14回	平家滅亡 ～巻11「先帝身投」「能登殿最期」～	巻11「先帝身投」「能登殿最期」を講読し、平知盛の役割を中心に講義する。
第15回	平宗盛の死 ～巻11「大臣殿被斬」～	巻11「大臣殿被斬」を講読し、平宗盛の死と浄土思想の関係を中心に講義する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間レポートとレポート試験では、授業でとりあげた章段以外にも視野に入れた研究を行ってもらう予定である。そのため、授業を履修するだけでなく、自分自身でも『平家物語』を並行して読み進めてほしい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

梶原正昭・山下宏明校注岩波文庫『平家物語』（1）～（4）

#### 【参考書】

大津雄一ほか編『平家物語大事典』（東京書籍、2010年）

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提にレポート試験で評価する。両レポートはともに1600字以上で記述するもので、その完成度によって評価を定める。なお、授業を閲覧していないと単位が取得できないような課題設定となっている。

#### 【学生の意見等からの気づき】

メディアを生かした積極的な情報発信を心がけたいと思いました。また、学生からの質問にも応えられるよう努めたいと思いました。

#### 【Outline (in English)】

In this course, we will read Heike-Monogatari.

LIT100TC (文学 / Literature 100)

## 日本文芸研究特講・近世(西鶴大句数)(後期メディア)

浅沼 博

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

俳諧連歌（連句）という座の文学が全盛を極めた近世文芸を、その背景もふくめて理解すること。

## 【到達目標】

井原西鶴による独吟連句（俳諧大句数）を読み解き、「知の共有化」が成立した近世文芸の諸条件を考究する。わけても連句のルール（式目）の中心をなす「付合と転じ」つまり連想と変化について、具体的な作品に即して説明できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

一句の解釈、二句の付合、三句の転じ、序破急の流れと射程距離を広げていく。その際、テキストを叩き台に、他の学説もみながら連句の多様性について学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	連句概要	知の共有化について 百韻形式における連句用語
第2回	作家・作品解説	俳諧師としての西鶴 俳諧大句数の成立 〔自序〕の解釈
第3回	花にきてやの巻 序の一	緩やかな導入部 発句・脇・第三の作法 雅語と俗語・あしらい 中世と近代のせめぎ合い
第4回	序の二 四～七句目	四句目ぶり 月の定座・起情の付 映画的手法
第5回	破の一 初表八～裏三句目	自由で起伏に富んだ展開部 向付による述懐 其人の付
第6回	破の二 初裏四～七句目	恋句の流れについて 謡曲取り・逆付
第7回	破の三 初裏八～十二句目	名所付 抜け 釈教
第8回	破の四 初裏十三句目～ 二の表二句目	定座の移動について 発話体の取成し 故事付
第9回	破の五 三の表七～十句目	拍子・夜分 其場の付
第10回	破の六 三の表十一～十四句 目	指合（観音開き） 句意付・会釈
第11回	破の七 三の裏一～四句目	短句下七の四三調について 病体・人名・時分
第12回	破の八 三の裏五～九句目	数詞の指合 遠輪廻

第13回	急の一 名残の裏一～四句目	軽く速やかな終結部 会話体の転じ
第14回	急の二 名残の裏五句目～挙 句	句いの花 挙句の作法・意義
第15回	まとめ	序破急と付合の諸相

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

さまざまな連句用語が出てくるので、予習・復習を徹底すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

新編日本古典文学全集『連歌集 俳諧集』暁康隆ほか・訳注（小学館）2001年

## 【参考書】

『俳文学大辞典』普及版（角川書店）2008年  
 『西鶴という鬼才』浅沼璞・著（新潮社・電子ブック）2008年  
 『俳句・連句 R E M I X』浅沼璞・著（東京四季出版）2016年

## 【成績評価の方法と基準】

メディアスクーリング試験（会場試験）による評価。  
 スライド資料をそのまま写すのは不可。必ず文章化すること。  
 持込不可。

## 【学生の意見等からの気づき】

西鶴の俳諧関連書籍は絶版・品切れ重版未定などが多いため、現在（2020.4）入手可能なものを当シラバス「参考書欄」に列記した。

## 【Outline (in English)】

To understand the literary arts in the early modern period when the haikai (renku) was the best, including its background.

LIN200TC (言語学 / Linguistics 200)
<b>日本語史(後期メディア)</b>
<b>問宮 厚司</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語史の中でも、特に沖縄古語に焦点を絞り、沖縄を象徴する言葉の語源・文法・表記について、大和古語（主に奈良・平安時代の言語）と比較しながら、解説します。

### 【到達目標】

文献資料に記録された沖縄古語の研究法を学ぶことで、論理的思考力を養い、卒業論文等作成の際に役立つなればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

日本語の歴史に関する参考文献の紹介と日本語の歴史の概略を話した後に沖縄の古代歌謡『おもろさうし』の言語について、テキストを用いて、担当教員の専門としている研究を解説します。沖縄方言の古い姿を明らかにできるなればと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	参考文献とテキストの紹介	日本語の歴史に関する参考文献の紹介や日本語の歴史の概略を説明します。
第2回	グスクの語源	沖縄で「城」の字を当てるグスクの語源について考えます。
第3回	テダの語源	沖縄で太陽の意を表すテダの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第4回	オモロの語源	沖縄の古代歌謡集『おもろさうし』のオモロ（神歌）の語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第5回	按司の語源	沖縄で首長の意を表す按司（アジ）という語の語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第6回	ミルヤ・カナヤの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語ミルヤ・カナヤの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第7回	アマミヤ・シネリヤの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語アマミヤ・シネリヤの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第8回	オボツ・カグラの語源	『おもろさうし』で他界を表す概念語オボツ・カグラの語源について、大和古語と比較しながら考えます。
第9回	係り結びの種類と用法	『おもろさうし』の係り結びの種類と用法について、大和古語と比較しながら考えます。

第10回	形容詞の種類と用法	『おもろさうし』の形容詞の種類と用法について、大和古語と比較しながら考えます。
第11回	助詞ガの表記	『おもろさうし』の助詞ガの表記の実態について調査結果を報告し考えます。
第12回	助詞テの表記と語釈	『おもろさうし』の助詞テの表記と語釈について考えます。
第13回	類推表記をめぐって	『おもろさうし』で「国」を「くに」以外に「こに」と書いた類推表記について再考します。
第14回	チャウ（門）の語源とウリズンの語源	沖縄のチャウ（門）の語源とウリズンの語源について考えます。
第15回	自称名詞ア・ワ（我）と助詞ハの表記・発音	『おもろさうし』の自称名詞ア・ワ（我）と助詞ハの表記・発音について考えます。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを受講前によく読んでおくとう理解しやすくなります。また、機会があるならば、法政大学沖縄文化研究所を訪ね、利用して下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

『沖縄古語の深層—オモロ語の探究 [増補版]』問宮厚司（森話社、2014）

### 【参考書】

第1回の授業で、紹介します。

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（40%）とレポート試験（60%）で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

毎年、レポートの課題内容を変えていますので、既に履修した学生に聞いても、その点は参考になりません。

### 【Outline (in English)】

In the history of Japanese language, especially I will focus on Okinawa-Kogo (the ancient Okinawa language) and explain the origin, grammar, and notation that symbolize Okinawa with comparing Yamato-Kogo (the ancient Yamato language).

ART300TC (芸術学 / Art studies 300)
<b>書道史 (中国と日本の書の歴史) (後期メディア)</b>
<b>山口 恭子</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

中国、および日本の書の歴史を学ぶ。

**【到達目標】**

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項の習得を目標とします。とくに、主要な書道史的事項（様々な書体や、「三筆」「三跡」等の用語など）、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解することが重要です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから宋代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代までを中心に取り上げます。書体の発展、書風の変遷、有名な書家や作品、そしてその史的意義といったきわめて基礎的な事項の理解を目標とします。書芸術が長い時間をかけて発展してゆくさまを眺め、その多様な世界をともに味わいたいと思います。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	中国書道史 (1)	文字の誕生と殷・周・春秋戦国時代の書
第2回	中国書道史 (2)	秦代の書
第3回	中国書道史 (3)	漢代の書
第4回	中国書道史 (4)	三国・西晋時代の書
第5回	中国書道史 (5)	東晋時代の書
第6回	中国書道史 (6)	南北朝時代の書
第7回	中国書道史 (7)	隋・唐時代の書
第8回	中国書道史 (8)	宋時代の書
第9回	日本書道史 (1)	漢字の伝来と飛鳥・奈良時代の書
第10回	日本書道史 (2)	平安時代前期の書
第11回	日本書道史 (3)	平安時代中期の書
第12回	日本書道史 (4)	仮名の書、および古筆切
第13回	日本書道史 (5)	平安時代後期の書
第14回	日本書道史 (6)	中世の書
第15回	日本書道史 (7)	江戸時代初期の書

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

図書館で『書道全集』(平凡社、1974年)、石川九楊『書の宇宙』(二玄社、1996年)といった全集、図版類を見たり、博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれて下さい。

**【テキスト (教科書)】**

玉村霽山編『中国書道史年表』(二玄社、1998年)  
 名児耶明編『日本書道史年表』(二玄社、1999年)

**【参考書】**

書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』(萱原書房、2005年)  
 角井博監修『中国書道史』(芸術新聞社、2009年)

名児耶明監修『日本書道史』(芸術新聞社、2009年)  
 そのほか、講義時に提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート (40%) と試験 (60%) により総合的に評価します。とくに、中国・日本の書道史の基礎的事項を理解しているか、また、各自の考察を行うことができているかを重視します。

**【学生の意見等からの気づき】**

本講義をもとにさらに書道史に関する知識・教養が広がるよう、「ディスカッション」等を活用するようながしたい。また、関連する美術館や博物館の展示について伝えるなど、書に関する情報を発信するよう努めたい。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

ART300TC (芸術学 / Art studies 300)
<b>書道史 (中国と日本の書の歴史) (後期メディア)</b>
<b>山口 恭子</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国、および日本の書の歴史を学ぶ。

#### 【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項の習得を目標とします。とくに、主要な書道史的事項（様々な書体や、「三筆」「三跡」等の用語など）、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解することが重要です。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起こりから宋代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から中世までを中心に取り上げます。書体の発展、書風の変遷、有名な書家や作品、そしてその史的意義といったきわめて基礎的な事項の理解を目標とします。書芸術が長い時間をかけて発展してゆきさまを眺め、その多様な世界をともに味わいたいと思います。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中国書道史 (1)	文字の誕生と殷・周・春秋戦国時代の書
第2回	中国書道史 (2)	秦代の書
第3回	中国書道史 (3)	漢代の書
第4回	中国書道史 (4)	三国・西晋時代の書
第5回	中国書道史 (5)	東晋時代の書
第6回	中国書道史 (6)	南北朝時代の書
第7回	中国書道史 (7)	隋・唐時代の書
第8回	中国書道史 (8)	宋時代の書
第9回	日本書道史 (1)	漢字の伝来と飛鳥・奈良時代の書
第10回	日本書道史 (2)	平安時代前期の書
第11回	日本書道史 (3)	平安時代中期の書
第12回	日本書道史 (4)	仮名の書、および古筆切
第13回	日本書道史 (5)	平安時代後期の書
第14回	日本書道史 (6)	中世の書

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

図書館で『書道全集』(平凡社、1974年)、石川九楊『書の宇宙』(二玄社、1996年)といった全集、図版類を見たり、博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれて下さい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

玉村霽山編『中国書道史年表』(二玄社、1998年)

名兄耶明編『日本書道史年表』(二玄社、1999年)

#### 【参考書】

書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』(萱原書房、2005年)

角井博監修『中国書道史』(芸術新聞社、2009年)

名兄耶明監修『日本書道史』(芸術新聞社、2009年)

そのほか、講義時に提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート (40%) と試験 (60%) により総合的に評価します。とくに、中国・日本の書道史の基礎的事項を理解しているか、また、各自の考察を行うことができているかを重視します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本講義をもとにさらに書道史に関する知識・教養が広がるよう、「ディスカッション」等を活用するようながしたい。また、関連する美術館や博物館の展示について伝えるなど、書に関する情報を発信するよう努めたい。

#### 【Outline (in English)】

This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

The aim of this course is to understand the fundamentals of calligraphy history, such as typefaces, calligraphers, written works.

LIT200TC (文学 / Literature 200)
<b>日本文芸史Ⅱ (後期メディア)</b>
<b>川鍋 義一</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近現代文学（明治20年頃～昭和40年頃）の歴史を把握する。

#### 【到達目標】

各回の授業では、ある時代を代表する文学者の代表的な作品がいくつあるか、その時代に生まれたのかを考察する（具体的には下記「授業計画」を参考にされたい）。

この方法によって、日本近代文学史の大きな流れを把握し、また日本近代文学史と歴史的、社会的背景との関連を有機的に把握できるようにする。

受講生はこの授業の履修によって、日本近代文学史という巨視的観点を習得し、個々の作家、作品についてのより深い理解を得られるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

日本近代文学史を、逍遙・二葉亭の写実主義、浪漫主義、擬古典主義、自然主義（以上明治）、私小説、白樺派、労働文学・プロレタリア文学、モダニズム文学（以上大正）、小林秀雄、転向の問題、無頼派、近代文学派／新日本文学派、第三の新人とそれ以降（以上昭和）という流れで概観していく（漱石・鴎外、芥川を、明治、大正の最後に入れる）。

各回テキストで当該箇所を学習した上で、授業に臨むことを求める。またプリントもテキストなので、全てきちんと読み、理解することを求める。（「関連リンク」にて「配付資料」をダウンロードすること）

さらにプリントにはないものでも、関連すると思われる作品は積極的に読んでほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	近代文学の始まり	<ul style="list-style-type: none"> <li>近代文学とはなにか</li> <li>写実主義とはどういうものか</li> <li>言文一致体の問題</li> </ul> 以上を坪内逍遙『小説神髓』、二葉亭四迷『浮雲』から考察する。
第2回	浪漫主義と擬古典主義	写実主義よりやや後に展開した <ul style="list-style-type: none"> <li>浪漫主義</li> <li>擬古典主義</li> </ul> とはどのようなものかを樋口一葉『たけくらべ』などと、尾崎紅葉『金色夜叉』から考察する。
第3回	自然主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>浪漫主義から自然主義への展開</li> <li>口語体の問題</li> <li>私小説の始まり</li> </ul> 以上を、国木田独步『武蔵野』、島崎藤村『破戒』、田山花袋『蒲団』から考察する。

第4回	明治文学ふたつの孤峰（1）	文学史の流れと一定の距離を置いていた夏目漱石の生涯と作品にふれる。『ころ』を読む。
第5回	明治文学ふたつの孤峰（2）	同じく文学史の流れと一定の距離を置いていた森鷗外の生涯と作品にふれる。『舞姫』を読む。この回では日本近代文学の重要な概念である「余計者」について学ぶ。
第6回	私小説	大正文学の主流であった私小説を、葛西善蔵の代表作『子をつれて』を例に学ぶ。
第7回	白樺派	葛西善蔵とは対照的に破滅しない文学が白樺派の文学であった。武者小路実篤『友情』を読む。このグループの傾向と、大正デモクラシーの関係について学ぶ。
第8回	文学の革命	プロレタリア文学が「革命の文学」だとすれば、モダニズム文学の一つである新感覚派は「文学の革命」を志すものであった。その新しさと意義について学ぶ。横光利一『蠅』などを読む。
第9回	大正の終焉	大正文学の特異な存在であった芥川龍之介の生涯と作品にふれる。『歯車』を読む。
第10回	昭和初年の状況	昭和初年の三派鼎立の状況について学ぶ。批評理論の確立者であった小林秀雄『様々なる意匠』を読む。
第11回	戦前から戦後へ	プロレタリア文学壊滅後の文芸復興の状況／転向の状況について学ぶ。中野重治『村の家』。戦後すぐの無頼派の活躍を学ぶ。坂口安吾『墮落論』、太宰治『人間失格』、それらと対比するために志賀直哉『灰色の月』を読む。
第12回	戦後（1）	戦後文学最初にして最大の論争であった「政治と文学」論争を学ぶ。小林多喜二『党生活者』、平野謙『政治と文学（二）』を読む。
第13回	戦後（2）	梅崎春生『桜島』、野間宏『暗い絵』、荒地派の詩を通じて、戦後文学はどのように始まったのかを学ぶ。
第14回	戦後（3）	第三の新人とそれ以降の文芸思潮はどのようなものであったのかを学ぶ。吉行淳之介『驟雨』、安岡章太郎『宿題』、三島由紀夫『憂国』、大江健三郎『不意の唾』、谷川俊太郎の詩を読む。
第15回	まとめ	まとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【テキスト】（プリント含む）を精読すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

奥野健男『日本文学史』（中公新書、および電子書籍 kindle 版）。その他毎回使用するプリント。

#### 【参考書】

毎回使用するプリントに記載されている参考文献。

#### 【成績評価の方法と基準】

・中間レポートの提出を前提にメディアスクーリング試験で評価する。  
 ・シラバスに記載されている【授業の概要と目的（何を学ぶか）】と、【到達目標】を受講前に熟読されたい。文学の歴史の流れ、およびそれと社会的背景との関連がこの授業の主要な関心事である。したがって、中間レポート、試験で、その観点を欠いた答えは評価されない。

・中間レポートで、設題に答えていない答案、引用のルールを無視した答案、何を言っているのかわからない答案、字数制限（8～10割）を無視した答案が時折見られる。このような答案は、再提出となることがある。留意されたい。

**【学生の意見等からの気づき】**

中間レポートおよび試験では、しっかり設問を読み、設問に答えられたい。

**【その他の重要事項】**

プリントに一部しか載せられなかった長い作品も、各自入手し、全編読むことが望ましい。

**【Outline (in English)】**

The aim of this course is to help students acquire a history of Japanese modern literature.

LIT100TC (文学 / Literature 100) <b>日本文芸研究特講・近代(日本の私小説を読む)(後期メディア)</b>
<b>梅澤 亜由美</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【テーマ】日本独特の小説形式とされる私小説について学ぶ。  
この授業では、日本の私小説について勉強します。日本の近代に、19世紀西欧小説の変形として生まれたとされる私小説は、日本独特の小説形式と考えられています。私小説についてこれまで言われてきたこと（否定的評価が多いです）を理解するとともに、実際の私小説を読んでいくことで、私小説に対する理解を深めること（文学史の定説からの解放）を目指してほしいです。

### 【到達目標】

具体的には、以下の3点が目標となります。

1. 実際の私小説について、これまで言われてきたことを理解する。
2. 授業でとりあげられた私小説を、実際に読み、自分の考えをもつ。
3. 特定の作家、私小説について、これまで言われてきたことと、実際に読んでみての自分の考えをまとめて、レポートや試験などで表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1回目にガイダンスと、これまでの私小説言説（=私小説についてこれまでいわれてきたこと）について、説明をします。2回目から10回目までは、近代文学史における代表的な作家の私小説をとりあげます。11回めから15回めでは、戦後から現代まで、比較的新しい私小説をとりあげます。1時間に、1人の作家をとりあげ、代表的な私小説について、ポイントを説明していきます。他、授業でとりあげた作家が、作中人物として登場する私小説なども、紹介していきます（私小説を立体的に読む試み）。

これらの授業内容を理解した上で、気に入った私小説のいくつかを実際に自分で読み、これまで言われてきたこととあわせて、自分の考えをもつようにならせます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	私小説と私小説言説について	私小説の定義、先行研究など、基礎知識を学ぶ。
第02回	田山花袋『蒲団』	私小説の祖とされる田山花袋の『蒲団』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第03回	近松秋江『疑惑』	平野謙によって「最初の金無垢な私小説」とされた近松秋江の『疑惑』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第04回	志賀直哉『和解』	私小説を代表する作家とされる志賀直哉の『和解』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。

第05回	葛西善蔵『子をつれて』	破滅型の代表とされる葛西善蔵の『子をつれて』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第06回	牧野信一『父を売る子』	実験的な私小説を書いた牧野信一の『父を売る子』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第07回	嘉村磯多『崖の下』	葛西善蔵の系譜にある嘉村磯多の『崖の下』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第08回	小林多喜二『党生活者』	プロレタリア文学と私小説として、小林多喜二の『党生活者』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第09回	中野重治『村の家』	転向文学の代表とされる中野重治の『村の家』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第10回	徳田秋声『仮装人物』	私小説の一つの達成とも言える徳田秋声の『仮装人物』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第11回	島尾敏雄『出発は遂に訪れず』	戦後派の私小説として島尾敏雄の『出発は遂に訪れず』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第12回	太宰治『人間失格』	私小説批判の私小説を書いた太宰治の『人間失格』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第13回	安岡章太郎『悪い仲間』	第三の新人の私小説として安岡章太郎の『悪い仲間』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第14回	李良枝『ナビ・タリオン』	「在日」作家であり日本語文学の作家である李良枝の『ナビ・タリオン』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。
第15回	西村賢太『どうして死ぬ身の一踊り』	現代の私小説として西村賢太の『どうして死ぬ身の一踊り』をとりあげ、基礎知識を学び、そこから読みの可能性を探る。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百聞は一見にしかずです。講義でとりあげられている小説は、必ず読みましょう。

・準備学習:講義を聞く前にテキストを読む（120分）

・事後学習:講義で学んだことをもとにテキストを読み返す（120分）

### 【テキスト（教科書）】

各種文庫本、講義の一回目で手に入りやすい文庫本を紹介しています。

### 【参考書】

小谷野敦『私小説のすすめ』2009、平凡社新書（入門書）

梅澤亜由美『増補改訂 私小説の技法』2017、勉誠出版（研究書）

私小説研究会編『私小説ハンドブック』2014、勉誠出版（研究ガイド）

井原あや他編『「私」から考える文学史 私小説という視座』2018、勉誠出版（研究書）

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提に、レポート試験の評価とあわせ、総合的に判断します。

目標達成のための判断基準として、講義や文献等で勉強したことと自分で小説テキストを読み考察したこと、これら2点がしっかりそろっていることを重視します。

### 【学生の意見等からの気づき】

中間レポートの講評方法について、今後、検討したいと思います。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the watakushi – shosetsu of Japan. The watakushi – shosetsu is a unique novel form in Japanese modern times. We learn the study on watakushi – shosetsu and analyze it about the watakushi – shosetsu.

LIT200TC (文学 / Literature 200)

## 日本文学研究特講・現代(戦後文学から日本を考える)(後期メディア)

山田 夏樹

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：後期

受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照

備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後文学を読む。

## 【到達目標】

アジア・太平洋戦争後から現在に至るまでの日本文学の歴史的な展開を作品に即して理解していくことで、社会状況や価値観の変容のあり方を捉えていく。

そして、毎回とりあげられる特定の作品などに視点を限定してしまうのではなく、最終的には、社会の様々な事象に対して常に自ら問いを立て、考えていく姿勢自体を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回、特定の作品を精読していく。

事前に該当の作品を必ず読み、自分なりの読解を持って授業に臨むこと。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	太宰治「トカトントン」(1947年)	「トカトントン」を読解。
第2回	大江健三郎「人間の羊」(1958年)①	「人間の羊」を読解。
第3回	大江健三郎「人間の羊」(1958年)②	前回の内容を踏まえ、更に「人間の羊」を読解。
第4回	石原慎太郎「太陽の季節」(1955年)①	「太陽の季節」を読解。
第5回	石原慎太郎「太陽の季節」(1955年)②	前回の内容を踏まえ、更に「太陽の季節」を読解。
第6回	田中康夫「なんとなく、クリスタル」(1980年)①	「なんとなく、クリスタル」を読解。
第7回	田中康夫「なんとなく、クリスタル」(1980年)②	前回の内容を踏まえ、更に「なんとなく、クリスタル」を読解。
第8回	よしもとばなな「キッチン」(1987年)①	「キッチン」を読解。
第9回	よしもとばなな「キッチン」(1987年)②	前回の内容を踏まえ、更に「キッチン」を読解。
第10回	村上春樹「沈黙」(1991年)①	「沈黙」を読解。
第11回	村上春樹「沈黙」(1991年)②	前回の内容を踏まえ、更に「沈黙」を読解。
第12回	伊坂幸太郎「終末のフール」(2004年)①	「終末のフール」を読解。
第13回	伊坂幸太郎「終末のフール」(2004年)②	前回の内容を踏まえ、更に「終末のフール」を読解。

第14回 小川洋子「博士の愛した数式」(2003年)

「博士の愛した数式」(2003年)

第15回 小川洋子「博士の愛した数式」(2003年)

博士の愛した数式」(2003年) 士の愛した数式」を読解。

②

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記のように、毎回、特定の作品を精読していくため、事前に該当する作品を必ず読み、自分なりの読解を持って臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

・太宰治『ヴィヨンの妻』新潮文庫 ※「トカトントン」収録

（ただし、この作品のみインターネット上の「青空文庫」で無料で読めます）

・大江健三郎『死者の奢り・飼育』新潮文庫 ※「人間の羊」収録

・石原慎太郎『太陽の季節』新潮文庫 ※「太陽の季節」収録

・田中康夫『なんとなく、クリスタル』河出文庫

・村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫 ※「沈黙」収録

・よしもとばなな『キッチン』角川文庫 ※「キッチン」収録

・伊坂幸太郎『終末のフール』集英社文庫

・小川洋子『博士の愛した数式』新潮文庫

## 【参考書】

授業の中で適宜指示する。

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト、メディアスクーリング試験。

## 【学生の意見等からの気づき】

様々な作品を読み、それによつて読解を学ぶことで、より多角的な視点を身につける機会になればと改めて思いました。

## 【Outline (in English)】

Learn the world through literature

ART200TC (芸術学 / Art studies 200)
<b>日本芸能史(後期メディア)</b>
<b>伊海 孝充</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本芸能史において大事な要素である能楽の歴史について、正確な知識と研究の方法を身につけます。

#### 【到達目標】

この講義では、能楽の歴史を学びます。中世に生まれた能楽は、600年間まったく変化しなかったわけではありません。政治的基盤や社会状況の変化の影響を受けながら、為政者や観客の視線を反映しながら、少しずつ変化していったと考えられています。本講義では、能楽の芸術の変化ではなく、それを取り巻く環境（能楽の庇護者や能役者の組織）の変化を理解することに主眼を置いて話していきます。また、本講義は「日本芸能史」なので、各時代の主要芸能も取り上げ、特に能楽との影響関係について言及していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は自宅で講義ビデオを見るかたちで進めます。ただし、ただビデオを一通り閲覧すれば良いというわけではありません。分からない箇所や理解しにくい箇所がある場合は、一度ビデオを止め、辞書を引いたり、参考文献を見たりして、自分自身でしっかり咀嚼した上で、先に進むようにしてください。それでもわからないことがある場合は、規定の方法で、教員に質問するようにしましょう。また、授業内では参考文献も紹介します。本講義は、能楽の歴史の基本的事項ですので、自分自身で参考文献も利用しながら、発展的に学習することが必要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	中世の諸芸能	能楽の源流となった中世の諸芸能の歴史と芸術を学びます。
第2回	猿楽の座と翁猿楽	誤解されやすい翁の座と猿楽の座の差異について学び、猿楽能と翁の関係について正確な知識を定着させます。
第3回	観阿弥と世阿弥の生涯	観阿弥と世阿弥の生涯から、能楽の成立を考えます。とくに、世阿弥と將軍たちの関係から、芸能者の歴史的立ち位置を把握することを目標とします。
第4回	世阿弥の伝書	世阿弥の伝書を概観します。また、「初心不忘」など一般的に広まっている意味と異なる言葉について、正確に理解することを目標とします。
第5回	観阿弥と世阿弥の能	観阿弥と世阿弥が作った能の特徴について学びます。特に、夢幻能・物狂能といわれる曲種について考えていきます。

第6回	世阿弥以降の能作者	金春禅竹・観世元雅・観世信光・観世長俊・金春禅鳳の作品について学びます。
第7回	能と曲舞	能における曲舞の撰取についてと室町後期に流行した幸若舞について学びます。
第8回	豊臣秀吉と能	秀吉の能楽溺愛の状況について学びます。また、この時代は、能楽が大きく変化したときでもあります。その変化を促した環境について理解します。
第9回	江戸幕府と能	「式楽」となった能楽の状況について、幕政と諸藩の状況から学びます。また能役者であったと考えられる写楽について学びます。
第10回	徳川綱吉・家宣時代の能	歴代將軍の中でも能狂いで知られる綱吉・家宣時代の状況について考え、彼らがもたらした能の変化について学びます。
第11回	「能」と「謡」	江戸時代の庶民は、舞台芸術の「能」としてではなく、詞章だけを謡う「謡」として能を楽しんでいました。その状況について学びます。
第12回	人形浄瑠璃と能	人形浄瑠璃の歴史と芸術を理解し、能から受けた影響について学びます。
第13回	歌舞伎と能	歌舞伎の歴史と芸術を理解し、能から受けた影響について学びます。
第14回	幕末から明治維新の「猿楽」	江戸幕府の瓦解は、能楽に大きな影響を及ぼしました。能楽史上最大の危機に奮闘した能役者たちの様子と、現在の能楽の形成過程を学びます。
第15回	「日本古典芸能」の現在	戦時下の芸能の様子から、現代、古典芸能が置かれている状況までについて考えます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本芸能史を通史的にまとめた文献は、とても少なく、「ベスト」のものはありません。自分が興味をもった芸能については、各芸能別にまとめた文献を探し、熟読してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

#### 【参考書】

講義中に適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート30%、レポート試験70%で評価する予定です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

The instructor will acquire accurate knowledge and research methods on the history of Noh which is an important element in the history of Japanese performing arts.

HIS100TD (史学/History 100) <b>日本史概説(東アジアのなかの古代日本)(後期メディア)</b>
<b>浜田 久美子</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・東アジアのなかで展開してきた日本古代の歴史を学ぶ  
 ・史料を読み解き、記述の内容を客観的に評価するという歴史学研究の手法を学ぶ  
 ・参考図書（辞書など）の使い方や文献探索の方法を学び、レポート作成のスキルを習得する。

#### 【到達目標】

・歴史学の史料の概念を理解する  
 ・歴史学の実証方法を学ぶ  
 ・参考図書を用いたレポート作成の方法を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

・講義形式  
 ・教科書は使用せず、毎回のスライド資料と配布プリントを教材とする

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	なぜ歴史を学ぶのか、歴史学の研究方法や授業内容を紹介する
第2回	倭国と東アジア(1)	倭国の歴史を中国の歴史書から読み解く
第3回	倭国と東アジア(2)	東アジアの国際情勢と密接な倭国史の展開過程を学ぶ
第4回	律令国家(1)	律令国家のしくみと奈良時代前期の歴史を学ぶ
第5回	律令国家(2)	大仏造立とその後の奈良時代の歴史を学ぶ
第6回	平安王朝(1)	時代の転換期の桓武朝・嵯峨朝について学ぶ
第7回	平安王朝(2)	仁明朝以降の藤原北家が台頭する時代を学ぶ
第8回	摂関政治(1)	摂関政治を生み出した歴史的背景を学ぶ
第9回	摂関政治(2)	摂関政治の確立とその後の展開を学ぶ
第10回	院政(1)	院政期の政治構造と武士の成長について学ぶ
第11回	院政(2)	保元・平治の乱以降、平氏政権に至るまでの展開を学ぶ
第12回	テーマ史(1)対外関係史	古代日本の対外関係史を概観する
第13回	テーマ史(2)文化史	古代日本の文化史を概観する
第14回	テーマ史(3)列島の北と南	日本列島の北と南の歴史を古代日本との関わりを中心に概観する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を行うこと。

復習は、授業で扱った史料を読み直すことのほか、参考書欄に挙げた本の該当する時代の部分を読むなど、スライド資料以外の本を合わせて読むと理解が深まる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。スライド資料と配布したプリントをもとに講義を行う。

#### 【参考書】

・歴史学研究会編『日本史史料1 古代』（岩波書店、2005）  
 ・『大学の日本史1 古代』（山川出版社、2016）  
 ・『Jr.日本の歴史1・2』（小学館、2010）

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート(50%)と期末レポート(50%)で評価する

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【Outline (in English)】

・ we will learn about the ancient history of Japan developed in East Asia.  
 ・ we will learn historical research methods of reading historical materials and objectively evaluating the content of descriptions  
 ・ we will learn how to use reference books and how to search the literature, and master the skills of creating reports.

HIS200TD (史学/History 200)	
<b>西洋史概説(ロシア近代史を中心として)(後期メディア)</b>	
草野 佳矢子	
カテゴリー：後期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：後期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：	

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1917年のロシア革命までのロシアの歴史を、西ヨーロッパ諸国のそれとの比較も含めて、国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題を中心に学習する。

ヨーロッパ史を背景に、帝政崩壊までのロシア史の流れをとらえ、その独自性と共通性について説明できるようになる。ロシア史との比較によって、ヨーロッパ史への視野を広め、理解を深める。

### 【到達目標】

帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法政学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP2,DP3」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

添付資料（レジュメ）にそって講義します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ロシア帝国成立前のロシア①	キエフ・ルーシからモスクワ・ロシアへ
第2回	ロシア帝国成立前のロシア②	モスクワ・ロシアの特徴
第3回	ピョートル大帝の西欧化政策	西欧化の開始、大北方戦争、統治理念の西欧化、中央・地方の行政制度改革、社会の再編
第4回	女帝たちの時代	エカチェリーナ1世～ピョートル3世の治世、ピョートル体制の修正
第5回	エカチェリーナ2世の統治	エカチェリーナの啓蒙思想、プガチョフの乱、地方行政改革、貴族・都市への恵与状、農奴制の強化、パーヴェル1世
第6回	アレクサンドル1世とニコライ1世	秘密委員会、スベランスキーの改革案、省制の導入、ポーランド憲法とロシア憲法案、デカブリストの乱、官僚制の整備
第7回	アレクサンドル2世と大改革①	大改革の前提、農奴解放、ゼムストヴォ制度の導入
第8回	アレクサンドル2世と大改革②	都市自治制度、地方官僚制の整備、司法制度改革、軍制改革、教育制度改革
第9回	革命運動と政治改革の試み	農奴解放後の革命運動の展開、大改革期の政治改革の試み、ロリス＝メリコフの改革案
第10回	アレクサンドル3世時代のロシア①	専制体制の安定化、農民統治制度改革
第11回	アレクサンドル3世時代のロシア②	地方自治制度改革、ヴィッテ蔵相の工業化政策とその影響

第12回	ニコライ2世の治世－1894～1904年	19世紀末～20世紀初頭のロシア社会、労働者対策、農業・農民問題、「自由主義者の春」
第13回	第一次ロシア革命	血の日曜日事件、政治改革の開始
第14回	帝政ロシアの崩壊	「1906年立憲体制」の成立、ストルイビン改革、第一次世界大戦とロシア

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業前に前回の内容をよく復習すること。参考文献の関連する部分を読み、理解を深めることが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

### 【参考書】

『世界歴史体系 ロシア史1、2、3』山川出版社、1997

『新版世界各国史 ロシア史』山川出版社、2002

藤本・松原編『ロシア近現代史』ミネルヴァ書房、1999

マルク・ラエフ『ロシア史を読む』名古屋大学出版会、2001

栗生沢猛夫『図説 ロシアの歴史』河出書房新社、2010

和田春樹『ヒストリカル・ガイド ロシア』山川出版社、2001

『新版 ロシアを知る事典』平凡社、2004

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート 30%

メディアスクーリング試験 70%

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【Outline (in English)】

The teacher will give lectures on Russian history to 1917, especially on relationship between Russian state and society, administrative and political reform.

The goal for this class is to master the basic knowledge of Russian history to 1917 and get more understanding of European history.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)	
<b>自然地理学(地形)(Ⅱ)(後期メディア)</b>	
<b>前卒 英明</b>	
カテゴリー：後期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：後期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：	

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

**【到達目標】**

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。秋学期（2）では主に「内作用」とよばれる地球内部の熱エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。日本列島の地球規模からみた位置。
第2回	プレートテクトニクスと大地形（1）	プレートテクトニクス理論が発見された歴史、その概要を説明する。
第3回	プレートテクトニクスと大地形（2）	地球の内部構造とプレート運動の原動力、プレリュムテクトニクスについて概説する。
第4回	プレートテクトニクスと大地形（3）	プレートテクトニクスによって出来る地形、内作用と変動帯、広域的地殻変動などを概説する。
第5回	断層と断層変位地形	断層とは何か？断層によって作られる地形にはどのようなものがあるのか？
第6回	活断層と地震	断層運動と地震の関係、それによって地表面に現れる新鮮な断層変位地形。
第7回	津波の原理と過去の津波	津波と普通の波は何が違うのか？過去に発生した津波を地形や地質から明らかにする方法。
第8回	火山活動と火山地形	火山とマグマの関係、噴火の様式、様々な火山地形
第9回	気候変化と氷河性海水準変動	10万年スケールでの気候変化と海水準変動
第10回	氷河性海水準変動と海成段丘	10万～数万年スケールで変動する海水準変動と海成段丘の形成のメカニズム
第11回	最後の海進と沖積平野の構造	最後の氷期から現在に至る最後の海進と、日本の海岸平野のほとんどもを占める沖積平野の構造について。

第12回	地震性地殻変動による隆起海岸地形と過去の巨大地震	日本のような変動帯には、沿岸で発生する巨大地震により海岸が隆起し、その地形が保存されている。それらを紹介し、過去の地震を解き明かす過程を概説する。
第13回	アイスタシーによる海岸地形の変動	海水や氷床変動により、陸地は変動する。それらによってどのような地形が形成され、どのようなことがわかるのか概説する。
第14回	広域火山灰と地形研究	地形の編年学的研究に大きな影響をあたえた火山灰編年学について概説する。
第15回	年代測定法	地形研究で利用されるいくつかの代表的な年代測定法について解説する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない

**【参考書】**

『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版社、2007年

『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版社、2010年  
『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～

『図説地球科学』杉村 新ほか、岩波書店、1988

『地震と断層』島崎邦彦・松田時彦、東京大学出版社、1994

『大地の動きをさぐる』杉村 新、岩波科学の本、1973

『プレートテクトニクス』上田誠也、岩波書店、1989

『変動する地球』笠原慶一・杉村 新、岩波地球科学選書、1991

『火山とプレートテクトニクス』中村一明、東京大学出版社、1989

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート（30%）

メディアスクーリング試験（70%）

**【学生の意見等からの気づき】**

中間レポートの課題はなるべく後半のテーマからは出さないように気をつけたい。

**【Outline (in English)】**

Students should get fundamental knowledge of geomorphology.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)
<b>自然地理学(海洋・陸水)(Ⅱ)(後期メディア)</b>
小寺 浩二
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然地理学を学ぶ上で重要な一分野である「海洋・陸水学」について、系統的な知識の習得と応用能力の育成を目指す。講義の対象としては、国内の具体的な課題を中心とするが、海外の事例に関しても紹介する。

#### 【到達目標】

海洋・陸水学、水文地理学、水文学の研究課題の基礎的知識の習得と、具体的な課題に取り組む上での応用能力を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本分野における学習を深め、岩圏・水圏・気圏・生物圏の複合領域においてさまざまな形で存在する地球上の水循環の過程における河川・湖沼などのあり方を、人間活動との関連を中心に、水収支・水循環の理論と応用から解釈する方法について紹介し、具体的な課題に取り組みながら考察を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海洋・陸水学の理論と応用	海洋・陸水学の基礎知識を踏まえて、高度な理論と応用を理解する
第2回	河川学の理論と応用	流域特性と流域GIS物質収支モデル
第3回	地下水学の理論と応用	水循環と地下水の挙動
第4回	湖沼学の理論と応用	湖沼の分類・熱収支・集水域の物質収支
第5回	雪氷学の理論と応用	降雪・積雪・融雪
第6回	海洋学の理論と応用	沿岸海域・閉鎖性水域
第7回	その他・水文科学の理論と応用	水文科学の基礎知識を踏まえて理論と応用を理解する。
第8回	調査研究事例（河川）	河川を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第9回	調査研究事例（地下水）	地下水を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第10回	調査研究事例（湖沼）	湖沼を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第11回	調査研究事例（雪氷）	雪氷を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第12回	調査研究事例（沿岸域・汽水域）	沿岸域・汽水域を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第13回	調査研究事例（自然災害）	自然災害を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第14回	調査研究事例（流域圏）	流域圏を対象とした研究事例から理論の実践を理解する。
第15回	水環境の諸問題・まとめ	その他の水環境の諸問題と海洋陸水学の理論の実践の総合的な理解を深める

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

水環境全般に関する情報を収集し、整理する。特に新聞記事に関しては、切り抜きし、指定された形式に沿って、要旨をまとめる。また、関連する研究会・シンポジウム・学会への出席を奨励する。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

・地学団体研究会編（1995）：新版地学教育講座⑩『地球の水圏—海洋と陸水』、東海大学出版会、211p、¥2,700  
 ・新井 正（1994）：『水環境調査の基礎』、古今書院、168p、¥2,700

#### 【参考書】

授業ごとに、適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート・最終レポートを総合して評価する。配点は、中間レポート45%、最終レポート55%を原則とするが、いずれにしても、総合して評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

地球規模や国外の事例よりも、国内の事例についての要望が多いため、国内の具体的な調査・研究事例を重点的に扱う。

#### 【学生が準備すべき機器他】

基本的には、毎回PowerPointを活用して講義を進める。課題に取り組むにあたっては、基本的な情報リテラシーとGISに関する技量が必要である。

#### 【その他の重要事項】

「水圏」に関する問題を系統的に扱う科目である。環境問題などを扱う上での系統的な専門知識が修得できるはずである。海洋陸水学Ⅰの履修を前提とし、あわせて自然地理学演習・地理情報システム（GIS）などを履修することが好ましい。

海洋・陸水学Ⅱは、原則として海洋・陸水学Ⅰを履修した後で履修して下さい。基礎を学んでいることを前提に、応用面に関する講義、課題に取り組むため、やむを得ずⅠを未履修ながら履修する場合は、事前にテキストなどで基礎的な学習を行っておくこと。

また、メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

#### 【Outline (in English)】

We aim to acquire systematic knowledge and develop applied abilities regarding "ocean and terrestrial hydrology", which is an important field for studying natural geography. The lecture will focus on specific domestic issues, but will also introduce overseas cases.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)
<b>世界地誌(1)(アジア)(後期メディア)</b>
<b>小寺 浩二</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界の中のアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

### 【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現況を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。 アジアの特殊性についての概要。
第2回	アジア総論（1） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第3回	アジア総論（2） 水文・気候・植生	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第4回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。香港・マカオも
第5回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第6回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。 タイ・
第7回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第8回	南アジア（1） 南アジア全域・インド・スリランカ	南アジア全域とインド・スリランカの概要。
第9回	南アジア（2） インド・スリランカ以外の南アジア	パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第10回	中央アジア（1） 中央アジア全域・新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域・新疆ウイグル自治区・ウズベキスタン・カザフスタンの概要。

第11回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギス・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第12回	西アジア（1）	アフガニスタン・イラン・イラク・トルコ・キプロス
第13回	西アジア（2）	サウジアラビア・クウェート・カタール・アラブ首長国連邦・オマーン・イエメン
第14回	西アジア（3）	シリア・ヨルダン・レバノン・イスラエル・エジプト・コーカサス
第15回	まとめ アジア地域の地誌総括	講義で紹介したアジア地域の地誌を総括する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全域の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。また、特に講義を受けた後の復習に力を注いで頂きたい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

多田文男(1972)：『世界地誌Ⅰ(アジア)』,法政大学通信教育部,291p. 古い教科書であるため、その他の図書も参考に。

### 【参考書】

河野通博編(1991)：世界地誌ゼミナールⅠ『新訂 東アジア』,大明堂, 242p.

岩田慶治編(1972)：世界地誌ゼミナールⅡ『南アジア』,大明堂,212p. など。

講義の度に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートと最終レポートの総合評価。

### 【学生の意見等からの気づき】

資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

### 【Outline (in English)】

In geography, understanding the basics of "geography" which is as important as systematic geography, and in particular learning the concrete topography of Asia as the target area of the world topography and wide-area topography, various regional characteristics and its topography. Learn how to write. First, we will understand Asia in the world, and then we will give an overview of the individual regions of Asia.

GEO200TE (地理学 / Geography 200)	
自然地理学特講(人間の生活と気候)(後期メディア)	
狩野 真規	
カテゴリー：後期メディア	予備登録の有無：
授業形態：スクーリング	単位数：2単位
期間：後期	
受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：	

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大気中で起きている現象について、様々なスケールから注目し、日々の生活と気候との関係性について考える。

### 【到達目標】

1. 講義で扱った現象やその成因を説明できる。
2. 身の回りで起きていたり、注目されている事柄へ応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

一回ごとにテーマを絞り、それらについて講義を進める。映像（講義）を見終わったら確認テストを実施してもらい、内容の定着度を確認する。Web上の映像を見る形なので、映像（講義）の内容に関して適宜ディスカッションのコーナーで質問を投げかけるつもりなので、積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	地理学の定義や気候学の意義を考えていく。
第2回	ヒートアイランド現象 その1	都市で形成されるヒートアイランド現象について、その特徴や成因などを考える。
第3回	ヒートアイランド現象 その2	都市が高温になることで生じる様々な影響を考える。
第4回	小気候スケールの現象	狭い領域で発現する現象について、その仕組みなどを考える。
第5回	気候景観	景色から気候をどのように捉えるか、その方法を考える。
第6回	降雪について	地域により社会への影響が大きい降雪現象について考える。
第7回	集中豪雨について	日本で発生する豪雨にみられる特徴などから気象災害について考える。
第8回	水資源について	人間の生活に不可欠な水に関する話題から、資源としての水の使い方を考える。
第9回	水資源とその管理	資源としての水を管理する際に求められることを考える。
第10回	世界の気候	気候区分とその方法について吟味する。
第11回	世界の農業	世界の農業について、気候との関係性から考える。
第12回	気候変動 その1 地質時代の気候変動	かつて地球が経験した気候変動について、地質時代の変動を中心に上げていく。
第13回	気候変動 その2 歴史時代の気候	人間の歴史から明らかにされてきた気候変動について注目し、気候の変化と人間の歴史との接点を探る。

第14回	気候変動 その3 近・現代の日本の気候変動	近代以降の変動と将来の予想から、気候変動と社会の変化を考える。
第15回	むすびにかえて	これまでの内容をまとめつつ、気候の捉え方を改めて考える。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修にあたり、教科書は特に指定はしない。ただし、気候学・気象学に関連する文献はいろいろと手に取るべきであろう。あえてあげると『身近な気象の科学 熱エネルギーの流れ』（近藤純正、東京大学出版、1987年）などから読み始めるといいであろう。また、自然地理学についてこれまで関心の無かった場合は入門書として、地理学基礎シリーズ2『自然地理学概論』（高橋日出男・小泉武栄編、朝倉出版、2008年）などを手に取るといいかもしれない。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない

### 【参考書】

『身近な気象の科学 熱エネルギーの流れ』（近藤純正、東京大学出版、1987年）  
地理学基礎シリーズ2『自然地理学概論』（高橋日出男・小泉武栄編、朝倉出版、2008年）

### 【成績評価の方法と基準】

今年度は中間レポート提出と期末テストの受験の双方が必須となる。レポートの評価基準については以下の通りとする。

講義の内容を正しく理解できていることが確認できるレポートが書けているかを重視する。加えて、講義で学んだ内容に関連した事柄について、その原理や付随する問題について論理的に説明しているレポートをまとめられているか、の2点を評価の基準とする。ただし、レポートの体裁（原稿用紙の使い方に準じているか、参考文献を適切に明示しているかなど）も評価に関わるので注意してもらいたい。

次に、期末テストであるが、基本的には講義内容を元に出題するので、中間レポートと同様に講義内容の理解が大切であるが、応用問題も若干含まれるので内容を記憶するだけの学習では対応できないものとするので注意すること。

評価の比率は中間レポートが40%、期末テストが60%である。

また、ディスカッションでの発言内容が他の受講生にも参考になるようなものがあれば加点することもある。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業アンケートへの回答数が豊富ではないものの、昨年度の意見をいくつか挙げると、個々のレポートに赤を入れたうえでコメントをつけて返却されるので今後の学習への参考になったという声や、季節の推移と講義内容を絡めた話題を適宜ディスカッションで投げかけたことが双方向の授業であることを意識できたなど、好意的なコメントを頂けた。これらを受けて今年度も同じような進め方を継続したい。

### 【Outline (in English)】

This course introduces the relationship between daily life and climate on various scale phenomena occurring in the atmosphere.

The goals of this course are to

(1) Be able to explain the phenomena in the atmosphere and theories of the phenomena.

(2) Apply theories or findings to real world situations.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)

**自然地理学(地形)(I)(後期メディア)**

前空 英明

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自然地理学に関連する諸分野のうち、地形学に関する基本的な知識、考え方、研究成果等について、体系的に解説する。

**【到達目標】**

いつも漫然と見ていたなんでもない地形が、本授業を受講することにより、ダイナミックな地形形成過程を、風景の背後に想像できるようになること、また地形・地質学的タイムスケールで考えられるようになること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

地形とは何かについて地球規模で確認することからはじめ、地形を形成する作用ごとに、地形形成の実例を紹介していく。春学期（1）では主に「外作用」とよばれる太陽の放射エネルギーを源とした地形形成作用について取り上げる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	地形と生活（導入）	本授業全体の概要。地形と我々の暮らし。日本の地形と地質の特徴。
第2回	地形形成に関する序説	地球の構造、地球規模での地形の意味、地形のスケール、地形の発達、第四紀の環境変動
第3回	風化作用	風化作用と地形形成における意味
第4回	マス・ムーブメント（1）	集塊移動のメカニズム
第5回	マス・ムーブメント（2）	マスマーブメントと土砂災害
第6回	河川による侵食地形	河川の形成、侵食の様式、さまざまな侵食地形
第7回	河川による堆積地形	堆積作用と堆積低地、地形と自然災害
第8回	海岸における作用	波の作用、沿岸流
第9回	海岸地形	海岸での堆積地形、侵食地形
第10回	風がつくる地形	風の作用と地形、乾燥地形
第11回	周氷河作用と地形	周氷河作用によるさまざまなスケールの地形
第12回	氷河作用	氷河の形成と流動
第13回	氷河地形	氷河による地形形成
第14回	カルスト地形	石灰岩特有のカルスト地形の特徴と形成
第15回	人類の活動と地形変化	人類の活動が地形変化をもたらした影響

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日本や世界の独特な地形、美しい地形に興味を持ち、参考書、写真集、DVD教材等を見ることによって、自ら授業への動機付けを行うこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない

**【参考書】**

『地形学入門』A.L.ブルーム、権根 勇訳、1970年  
 『写真と図で見る地形学』（復刻版）太田陽子ほか、東京大学出版会、2007年  
 『発達史地形学』貝塚爽平、東京大学出版会、1998年  
 『日本列島の地形学』太田陽子ほか、東京大学出版会、2010年  
 『東京の自然史』貝塚爽平、講談社学術文庫、2011年  
 『日本の地形』貝塚爽平、岩波新書、1977年  
 『建設技術者のための地形図読図入門1～4巻』鈴木隆介、古今書院、1997～  
 『対話で学ぶ江戸東京・横浜の地形』松田磐余、之潮、2013

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポート（30%）  
 メディアスクーリング試験（70%）

**【学生の意見等からの気づき】**

中間レポートの課題はなるべく後半のテーマから出さないように気をつけたい。

**【Outline (in English)】**

Students should get fundamental knowledge of geomorphology.

GEO300TE (地理学 / Geography 300)

**自然地理学(海洋・陸水)(I)(後期メディア)**

小寺 浩二

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：後期

受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照

備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

水循環を中心とした水文学的な視点を取り入れつつ、地理学の重要な一分野である「海洋・陸水学」の再構築を試み、受講生の系統的な「水」に関する知識の習得をめざす。水資源、水利用、水質汚濁、地下水汚染、親水、洪水など、「水」に関する様々な問題を、身近な水辺からグローバルスケールまでの様々なスケールで扱う。

**【到達目標】**

海洋陸水学の基礎的な知識と理論についての理解を深めると同時に、具体的なテーマについての研究成果についても学ぶ。また、実際の調査方法についても理解し、具体的な課題に取り組んでまとめる力を育成する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各回とも、テーマに沿った基礎知識について概要を説明し、具体的なフィールドデータを紹介しながら理解を深める。その上で、調査技術についても紹介し、具体的な課題にも取り組んで、確実な力を育成する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	海洋陸水学とは？	陸水学・水文学・講義の構成と課題
第2回	河川学入門	流域の形状・水系網・流況
第3回	地下水学入門	土層の三層構造・不飽和帯・不圧地下水
第4回	湖沼学入門	三つの分類・水温躍層・集水域
第5回	雪氷学入門	雪氷の分布・氷河・南極・グリーンランド
第6回	海洋学入門	海底の地形・プレートテクトニクス・深層海流
第7回	水環境の諸問題①	身近な水環境・湧水・地下水汚染・富栄養化
第8回	河川学の基礎	ハックの法則・ホートンの水系網・流況曲線
第9回	地下水学の基礎	ダルシーの法則・水温の鉛直分布
第10回	湖沼学の基礎	湖盆形態・湖水の物理、化学、生物
第11回	雪氷学の基礎	氷河の流動モデル・降雪、積雪、融雪
第12回	沿岸域・汽水域の水環境	内湾の水環境・大河川下流域
第13回	自然災害と水	津波・洪水・火山災害
第14回	流域圏の水環境	水循環と物質収支・流域の人間活動・流域委員会
第15回	水環境の諸問題② まとめ	地下水汚染・湖の酸性化、中性化・緑のダム

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

毎回示してある課題に取り組む。また、調査技術についても可能な限り取り組む。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

通教テキスト『自然地理学（海洋・陸水）』第1版、小寺浩二・三井嘉都夫、2019年

**【参考書】**

毎回の講義資料で提示。

**【成績評価の方法と基準】**

テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み（中間レポート2回）、具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終レポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

レポートの内容やその際のコメントを考慮して、昨年度からレポート設題を変更した。具体的には、違うテーマで独立したレポート2本を課していたが、同一テーマで中間レポートを提出した上で最終レポートを提出する形式として、一つのテーマにじっくり取り組めるようにし、より内容の充実したレポートが提出できるように配慮した。

**【学生が準備すべき機器他】**

毎回の講義で説明した調査機器のうち、自作するものや、安価なものは、出来るだけ用意して、出来るだけ実際の水環境調査を行うこと。

**【その他の重要事項】**

提示した参考文献は多いが、できる限り参照して理解を深めること。メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

**【Outline (in English)】**

Attempting to reconstruct "Oceanography and limnology" which is an important area of geography while trying to adopt a hydrological viewpoint centered on water circulation, aim to acquire students' knowledge on systematic "water". We deal with various problems concerning "water" such as water resources, water use, water pollution, groundwater contamination, hydrophilic, flood etc. on various scales from familiar water side to global scale.

GEO100TE (地理学 / Geography 100)

## 自然地理学概論(2)(後期メディア)

小寺 浩二

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：後期

受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照

備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の重要な一分野である自然地理学の基礎を学び、地域における人間活動の舞台として自然環境を捉え、その分析を通して人間・社会と自然環境との相互関係について学ぶ。また、自然災害や環境問題における応用学としての自然地理学の役割の大きさについても理解を深める。

## 【到達目標】

地球の成り立ち・構造・歴史・自然災害から地球規模の環境変化の事例、人間活動の影響まで、幅広く様々なテーマを取り上げて講義すると同時に、それらに対するレポート作成によって、より深く問題を掘り下げる能力と習慣を育成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

人間活動の舞台である地球表面の自然環境を構成する要素は、大きく岩圈、気圈、水圏及び生物圏にわけられる。それぞれ内部に独自の仕組みを持ち、さらに相互作用を及ぼしあっている多様で複雑なシステムである。自然地理学は、このような自然環境のシステムに対応した地形学、気候学、水文学（陸水学）、植生地理学などの多様な分野から構成されており、自然環境を理解するための広範な視野と学問的な基礎力を身につけることができる。講義では、様々な資料をもとに、概論を論じ、さらに深く学ぶための文献なども提示する。その上で、3段階の課題に取り組み、ただ、教科書的な内容を学ぶだけでなく、関連資料を収集、整理、解析し、独自のテーマに沿って、オリジナリティのある小論文を作成する技量も養う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	1) 地理学とは？ 2) 自然地理学とは？ 3) 講義の構成と課題
第2回	地球惑星科学としての（自然）地理学	1) 地球惑星科学とは？ 2) 惑星探査の歴史 3) 惑星としての地球
第3回	気候①<大気大循環と気候因子>	1) 地球の熱収支 2) 大気大循環 3) 気候要素 4) 気候因子
第4回	気候②<世界の気候区分と気候変動>	1) 世界の気候区分 2) 気候の変化・変動
第5回	気候③<日本の気候と局地気候>	1) 日本の気候の特色 2) 日本の気候区分 3) 局地循環と地域の気候 4) 局地風 5) 都市気候

第6回	地形①<世界と日本の大地形>	1) 世界の大地形とプレートテクトニクス 2) 日本の地質 3) 日本の造山運動と地形の特色 4) 火山の分布と成因
第7回	地形②<第四紀と山地の地形>	1) 第四紀 2) 氷河時代 3) 氷河地形と周氷河地形 4) 山地と丘陵地 5) 変動地形 6) 河谷と水系
第8回	地形③<平野と海岸の地形>	1) 平野と海岸 2) 台地と扇状地 3) 沖積低地の微地形 4) 平野の開発と改変
第9回	水文①<水循環と流域>	1) 水循環と水収支 2) 流域の水循環と物質循環 3) 河川学の基礎
第10回	水文②<地下水と湖沼>	1) 地下水学の基礎 2) 湖沼学の基礎
第11回	水文③<雪氷と海洋>	1) 雪氷学の基礎 2) 海洋学の基礎
第12回	植生<植生分布・景観・文化>	1) 世界の植生分布 2) 日本の植生分布 3) 原植生の衰退 4) 日本の植生景観 5) 森林と文化
第13回	自然災害と地理学の応用	1) 自然災害とは？ 2) 地震災害 3) 洪水・高潮災害 4) 火山災害
第14回	環境問題と地理学の応用・まとめ	1) 身近な環境問題 2) 地球規模の環境問題 3) 自然地理学の応用 4) まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト・参考書の内容は多岐にわたるが、全てをまんべんなく学ぶ必要がある。その上で、メディア授業の内容についても深く理解し、設題で示されたいくつかの課題の中から具体的なテーマを選び、対象地域を選定してより深く学習する。

毎回の講義に対しては、予習復習を確実にし（4時間が目安）、中間レポート、最終レポートには、十分な時間をかけて臨んでほしい。

## 【テキスト（教科書）】

小寺浩二(2020)：『自然地理学概論(1)』.法政大学通信教育部,

## 【参考書】

・高橋日出男・小泉武栄編著(2008)：『自然地理学概論』(地理学基礎シリーズ2)、朝倉書店、¥3,300+税  
・杉谷隆・平井幸弘・松本淳(2005)：『風景のなかの自然地理(改訂版)』、古今書院、¥2,500+税

## 【成績評価の方法と基準】

テキスト、参考書とメディア授業の学習を踏まえて、設題に取り組み(中間レポート1回)、その結果に対する指導によって具体的な課題への取り組み方を学習した上で、最終レポートを提出し、それらを総合して成績評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義毎に示してある課題に毎回取り組み、中間レポートで途中経過をまとめた上で、最終レポートに取り組みでいただきたい。また、中間レポートの評価に当たっては、模範レポートとコメントを示すので、必ず参照して次のレポートの参考とするように。

## 【学生が準備すべき機器他】

基本的には、課題はパソコンを使って形式に従って作成する必要があるので、最低限のパソコンと、Officeソフトは用意しておく必要があります。また、課題の質を向上させるためには、ある程度のGIS活用も求められるため、MANDARAやQ-GISなどのフリーソフトはインストールして使えるようにしておいて下さい。

**【その他の重要事項】**

メディアスクーリングでは、中間レポートや最終レポートの提出時期が重なるため（通学でも同じではありませんが）、余り多くの科目を同時履修することはさけることが好ましい。やむを得ない場合は、期限に余裕をもってレポートに取り組むなど、計画的な履修をしていただきたい。

**【Outline (in English)】**

Learning the fundamentals of natural geography, which is an important area of geography, capturing the natural environment as a stage of human activities in the area, and learning about the relationship between human beings and society and the natural environment through analysis. Also understand the magnitude of the role of natural geography as applied science in natural disasters and environmental problems.

GEO200TE (地理学 / Geography 200)

**地誌学概論(後期メディア)**

小寺 浩二

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成

**【到達目標】**

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。

さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第2回	地理学と地誌学	地理学の中の地誌学の位置づけ
第3回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第4回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第5回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第6回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第7回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第8回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第9回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第10回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第11回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第12回	自分誌	自分誌の定義と事例
第13回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第14回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。

自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。

自然誌における広域性について考察した上で、「広域地誌」を作成する。

自然分野における主題を確定した上で、「主題誌」を作成する。

自然界に留意した上で、「自然誌」を作成する。  
 各授業の予習・復習は、原則それぞれ2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』,古今書院  
 ・配布プリント資料

**【参考書】**

・長谷川典夫(1994)：『地誌学研究－地誌学作成法とその事例』,大明堂  
 ・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』,大明堂  
 ・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-,大明堂  
 その他、授業内で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポートと最終レポートの結果を総合して評価する。中間レポート30点、最終レポート70点の合計100点とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

地誌学作成のスキルや実習よりも、知識重視の要望が多いため、今年度は、地誌全般の知識についてのウエートを増やす。

**【学生が準備すべき機器他】**

原則として、毎回、PowerPointや映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

**【その他の重要事項】**

地理学科2年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

**【担当教員の専門分野等】**

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GISを用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

**【Outline (in English)】**

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

ECN100TF (経済学 / Economics 100)

**経済学入門B/Ⅱ (後期メディア)**

森田 裕史

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、マクロ経済学を理解する上で必要となる経済変数の定義と基本的な経済モデルについて学びます。

**【到達目標】**

基本的な経済変数の定義と作成の方法を理解する。マクロ経済モデルに基づいて経済政策の効果を理解できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

スライドを用いた講義形式の授業を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	GDPとは	総生産の定義、GDPの作成方法
第2回	GDPに関連した概念	支出面から見たGDPの分類、物価指数
第3回	長期モデル1（1）	長期モデルにおける財市場の設定
第4回	長期モデル1（2）	経済政策の財市場への影響
第5回	長期モデル2（1）	長期モデルにおける貨幣市場の設定
第6回	長期モデル2（2）	経済政策の貨幣市場への影響
第7回	短期モデル（1）	短期モデルの設定
第8回	短期モデル（2）	短期モデルにおける経済政策の効果
第9回	人々の将来予想と経済変動（1）	民間消費と家計の将来予想
第10回	人々の将来予想と経済変動（2）	企業の将来予測と価格設定
第11回	経済成長モデル（1）	経済成長モデルの構造
第12回	経済成長モデル（2）	定常状態と資本の黄金律水準
第13回	経済成長モデル（3）	人口成長、技術進歩と経済成長
第14回	日本経済とマクロ経済学	失われた10年に関する議論

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各講義後に出される課題に取り組むこと。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

古沢泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学-次につながる基礎固め-（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

**【参考書】**

塩路悦朗、『やさしいマクロ経済学（日経文庫）』、日本経済新聞出版社、2019年。

**【成績評価の方法と基準】**

中間テスト（40%）とメディアスクーリング試験（60%）に基づいて、成績を評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline (in English)】**

In this course, the students study a definition of economic variables and the basic economic models which are necessary to understand the actual macroeconomic phenomenon.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

**金融論B / 金融論II（後期メディア）****武田 浩一**

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では、金融の基本的な仕組みを知り、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生が、まず金融の面白さに触れ、さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

**【到達目標】**

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説する。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第2回	金融市場	短期金融市場について
第3回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第4回	外国為替市場	外国為替市場について
第5回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第6回	資産証券化	資産証券化とは何か
第7回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第8回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第9回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルーデンス政策について
第10回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティーネットについて
第11回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第12回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第13回	金融と情報の非対称性	金融取引における情報の非対称性について
第14回	金融政策	金融政策の目的、手段、およびメカニズムについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がける。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊、2,200円）

**【参考書】**

特になし

**【成績評価の方法と基準】**

試験によって成績を評価する。  
ただし、中間テストも受講すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

開講初年度につき授業改善アンケートを実施していない。

**【Outline (in English)】**

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

## ミクロ経済学B／現代経済学Ⅱ（後期メディア）

平井 俊行

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：後期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学B/現代経済学Ⅱでは不完全競争市場・外部性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。ゲーム理論やミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

## 【到達目標】

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性の問題と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論(1)	戦略形ゲームの導入。
3	ゲーム理論(2)	最適反応戦略、(弱)支配戦略、ナッシュ均衡。
4	ゲーム理論(3)	戦略形ゲームの応用：オークション
5	ゲーム理論(4)	混合戦略ナッシュ均衡。
6	不完全競争市場(1)	独占市場。
7	不完全競争市場(2)	数量競争寡占市場。
8	不完全競争市場(3)	価格競争寡占市場。
9	ゲーム理論(5)	展開形ゲーム。展開形ゲームの戦略形ゲーム表現。
10	ゲーム理論(6)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法。
11	ゲーム理論(7)	繰り返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
12	外部性(1)	外部(不)経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
13	外部性(2)	公共財の自発的供給と効率的な供給。
14	外部性(3)	メカニズムデザイン。VCGメカニズム。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。

事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についている演習問題を解く。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

## 【参考書】

第1回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト30%、期末試験70%。

## 【学生の意見等からの気づき】

開講初年度につき授業改善アンケートを実施していない。

## 【その他の重要事項】

ミクロ経済学Aの内容を前提とします。

## 【Outline (in English)】

This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition and externalities. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations. Students should surely acquire the contents of this course since game theory and microeconomic theory are essential foundations for advanced topic courses.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)

## マクロ経済学B / マクロ経済学II (後期メディア)

奥山 利幸

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：後期

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代経済学には、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」の2つの基礎理論群があります。その内の「マクロ経済学」は、一国全体での所得や消費といった集計量を対象に、景気循環、景気変動、経済成長などの仕組み、また、それらに対する経済政策の影響を探求します。「マクロ経済学A/I」では1960年代までのマクロ経済学を中心に入門から初中級レベルで学びましたが、本講「マクロ経済学II/B」では日本経済のデフレや膨大な財政赤字の現状を踏まえ、ケインジアン理論における物価変動、インフレ/デフレ現象のとらえ方とその問題点、さらには1980年代以降のマクロ経済学の見直しを行います。

## 【到達目標】

- ・専門用語の理解：定義を述べられるか否か、具体的な例、数値などを示せるか
- ・理論の理解：図説が可能か、式で示せるか
- ・上記の応用力：現実起こっている例に適用したときに何が言えるのか（インプリケーション）、どういったことが今後、発生するとよめるのか（予測）、理論はどの程度の説明力があるのか、その限界は何か（発展、新たな研究課題の発掘）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

ケインジアン理論が、どのようにインフレ/デフレを説明しようとしたのかを見たのちに、時間の概念を明示的に導入した分析を見て行きます。そうした中で、1980年代以降のマクロ経済学を取り扱う予定です。

初回から最後の講義まで、すべて、講義形式の授業です。毎回の授業において、その授業にて明らかにする問題意識を提示します。学習する専門用語や概念をキーワードとして示しますので、一つ一つ、理解するように努めてください。そして、その回の授業の問題意識に対し、どのような答えを得たのか、最後に考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	「マクロ経済学B/II」	「マクロ経済学A/I」で学んだこのトピックスと問題意識
第2回	AD・AS分析(1)AD 曲線	IS・LM分析から物価水準と均衡GDP水準の関係を見ます。
第3回	AD・AS分析(2)労働 市場	IS・LM分析では分析対象としていなかった労働市場を分析します。
第4回	AD・AS分析(3)AS 曲線	第03講で学んだ労働市場の分析をベースに、生産者・生産要素側から見た物価水準とGDP水準の関係を見ます。

第5回	AD・AS分析(4)「古典派」の命題群	ケインジアン理論をベースに物価水準とGDP水準の決定の理論を構築します。そのような理論であっても、古典派の各種命題が成り立つ条件を確認します。
第6回	AD・AS分析(5)「ケインジアン」の仮定と命題群	第05講で確認した古典派の命題群が成り立つ条件を満たさないときの分析を行います。
第7回	フィリップス曲線(1)	第06講までの分析は、時間の概念を明示的に扱わないIS・LM分析をベースにしています。本講以降は、時間軸を明示的に扱う分析に移ります。その最初としてフィリップス曲線を扱います。
第8回	フィリップス曲線(2)	時間の概念を明示的に考えると、どうしても、将来の出来事を予想しなければなりません。期待形成の仮説と政策の実施の仕方の関係を見ます。
第9回	ニュー・クラシカル (1)消費(1)	1980年代以降の「古典派」である「ニュークラシカル」の消費理論を見ます。消費の「ライフサイクル仮説」や「恒常所得仮説」は、「ニュークラシカル」の消費理論の特殊理論であることを見ます。
第10回	ニュー・クラシカル (2)消費(2)	「ニュークラシカル」の消費理論は、ケインズ型消費関数とは、まったく異なる振る舞いをし、その結果、財政政策の効果はケインジアン理論とは異なる結論を導き出すことを見ます。
第11回	ニュー・クラシカル (3)実物景気循環理論	ノーベル経済学賞の対象となった「ニュークラシカル」の景気循環理論を概観します。
第12回	ニュー・クラシカル (4)財政・金融政策の 効果	「ニュークラシカル」における財政・金融政策の効果を見ます。「古典派」の命題群が成り立つことが理解できます。
第13回	内生的成長理論	ケインジアンでもニュー・クラシカルでもとらえられない経済成長の問題を扱います。
第14回	ニュー・ケインジアン (1)80年代以降の ケインジアン	日本経済のデフレ現象や財政赤字の解決方法を見出せないIS・LM分析への反省にたった新しいケインジアン分析を見ます。
第15回	ニュー・ケインジアン (2)「新しい新古典 派総合」	21世紀に入ろうとする頃、「ニュークラシカル」の分析にケインジアン要素を取り入れようとする「新しい新古典派総合」の動きが始まります。その理論構成、そして、展望・限界を見ます。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習問題（Web）を行い、理解度を確認してください。経済学の理論は、積み上げになっていますので、過去に学んだことを確実に消化することが、次の講義の最大の準備学習になります。学んだ専門用語、理論に対し、曖昧さを無くすように復習しましょう。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定の教科書は、ありません。

## 【参考書】

[注意] 以下は、講義内容が理解できない場合に参考にすると良い図書（あいいうえお順）

エーベル/バルナンケ『マクロ経済学』CAP  
ゴードン『マクロエコノミクス』多賀出版  
ブランチャール『マクロ経済学』東洋経済  
ホール/テイラー『マクロ経済学』多賀出版  
マンキュー『マクロ経済学』東洋経済

**【成績評価の方法と基準】**

試験100%：専門用語・理論の理解80%,応用力20%  
但し、中間レポートも提出すること

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

Study intermediate macroeconomics.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>国際経済論B / 国際経済論II (後期メディア)</b>
<b>武智 一貴</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済論B / 国際経済論IIでは国際貿易論の基本を学習する。

#### 【到達目標】

国際貿易論を学び、貿易の利益の源泉、貿易政策の効果について分析出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

まず国際取引の基本問題である、貿易からの利益を考える。さまざまな理由で貿易が行われるが、その動機について理論的に解説する。また、貿易を阻害する要因である貿易政策についてもその影響を分析する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	国際取引とは何か？ なぜ我々は貿易を行うのか？	国際取引の基礎、貿易からの利益
第2回	余剰分析の基礎：消費者行動から	消費者の効用、需要
第3回	余剰分析の基礎：消費者の余剰	消費者余剰
第4回	余剰分析の基礎：企業行動から	企業の費用、供給
第5回	余剰分析の基礎：生産者の余剰	生産者余剰
第6回	市場の役割	市場均衡、社会的余剰
第7回	貿易の利益	自給自足時と自由貿易時の社会的余剰の比較
第8回	貿易政策	自由貿易時と輸入関税下の余剰の計算
第9回	貿易政策の効果	自由貿易時と関税下の社会的余剰の比較
第10回	一般均衡分析の基礎	リカードモデル
第11回	比較優位	リカードモデルにおける自給自足均衡
第12回	一般均衡における貿易利益	リカードモデルにおける貿易均衡
第13回	戦略的状況の分析の基礎	ゲーム理論
第14回	戦略的貿易政策	ナッシュ均衡と貿易政策
第15回	戦略的貿易政策の効果	コミットメントの効果と貿易政策

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を講義中にも解説するが、各自でも経済学の入門について自習しておくこと。講義では経済学の考え方について主に紹介するが、各自で具体例に基づいた計算なども可能になっておく事が望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。

#### 【参考書】

石井他著、入門・国際経済学、有斐閣

石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣

Krugman and Obstfeld, International Economics, Addison Wesley

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート (30%)、レポート試験(70%)で評価する。講義内容を踏まえ、自ら計算・グラフの作成（解釈）が出来る事を評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

経済学の基本内容を理解することで国際貿易論の基礎を習得できる講義を行う。

#### 【Outline (in English)】

This course is intended to introduce students to basic concepts of international trade.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)
<b>環境経済論B / 環境経済論II (後期メディア)</b>
<b>松波 淳也</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

環境経済学のひとつの応用分野である「廃棄物・リサイクルの経済学」を学ぶ。

#### 【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、最近、理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標とする。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義.経済学における「ごみ」の扱い
第2回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ.廃棄物経済学の整備に向けて.最近のトピック
第3回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生.廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第4回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等.個別リサイクル法. 3Rの優先順位. 2つの基本理念
第5回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化.埋立税・産業廃棄物税, 有害物質への税・課徴金.特定製品への税・課徴金.デポジット・リファンド制度
第6回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3R + 適正処理の優先順位に即した政策展開.短期的政策, 中長期的政策の位置づけ.地域特性に即したきめ細かい政策.環境政策の3手法
第7回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済.経済成長と動脈部門・静脈部門.静脈経済と潜在技術
第8回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想.逆工場の考え方.「循環型社会」の考え方
第9回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件.動脈と静脈の相互関係.規制と公共関与.企業のイニシアティブ

第10回	費用支払いと費用負担 I - PPPと汚染者負担原則-	汚染者支払い原則.PPP.汚染者負担原則.ピグー税と負担の帰着
第11回	費用支払いと費用負担 II - PPPとEPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPRの物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済.不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法とEPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論.容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法とEPR II - E-Wasteのリサイクル-	家電リサイクル法.PCリサイクル・システム.携帯電話リサイクル・システム.小型家電リサイクル法
第15回	個別リサイクル法とEPR III - 産業廃棄物(事業系廃棄物)からのリサイクル-.おわりに	食品リサイクル法.建設リサイクル法.自動車リサイクル法.おわりに

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

環境経済論A/I (環境経済学の基礎理論・概念)を既習であることが望ましい。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

細田衛士：『グズとバズの経済学』, 東洋経済新報社.

#### 【参考書】

植田和弘他監修：『循環型社会ハンドブック』, 有斐閣.  
植田和弘：『廃棄物とリサイクルの経済学』, 有斐閣.

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験の総合評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【Outline (in English)】

Economics of Waste Management, which is one application field of Environmental Economics.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

**開発経済入門B（後期メディア）**

池上 宗信

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

開発途上国の貧困家計の直面するリスクを概観し、不確実性および不完全情報のもとでの家計の意思決定の理論モデルを学びます。そして、それらに基づいて、貧困家計の保険、分益小作、信用、貯蓄、起業を概観します。

**【到達目標】**

途上国では貧困削減政策としてマイクロファイナンスなどが実施されています。このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教員による講義が中心になりますが、授業中に演習問題があるので、ビデオを一時停止し、受講生自身で解く努力をしてから、ビデオを再生、解答を見てください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
1	アドバース・セレクション	完全情報のケース、不完全情報のケース、保険の例
2	スクリーニング	保険の例
3	分益小作1	小作人の生産性とスクリーニング
4	分益小作2	小作人の努力水準とモラル・ハザード
5	分益小作3	自作農の努力水準と効用最大化
6	分益小作4	マーシャルの非効率性、リスク分散
7	分益小作5	実証研究モラル・ハザード
8	信用1	アドバース・セレクション
9	信用2	グループ貸付、投資選択
10	信用3	努力選択、返済行動、実証研究
11	貯蓄	異時点間効用最大化、実証研究
12	労働需要	企業の利潤最大化
13	起業1	信用制約、一般均衡
14	起業2	貧困の罠、実証研究

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。  
 予習・復習として各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献を読んでください。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。

**【テキスト（教科書）】**

- アビジット・バナジー、エスター・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

- 講義のスライドは、このテキストだけでなく、各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献にも基づきます。

**【参考書】**

- 高野久紀(2014,2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号  
 - デーン・カーラン, ジェイコブ・アベル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房

**【成績評価の方法と基準】**

オンラインシステム上の中間テスト20%、期末（メディアスクーリング）テスト80%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

担当者が初めて担当する科目です。

**【Outline (in English)】**

We will review the risk which poor households in developing countries face.

We will study household decisions under uncertainty and asymmetric information.

Based on these models, we will study insurance, share cropping, credit, saving, and entrepreneurship for poor households in developing countries.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)
<b>社会保障論B (後期メディア)</b>
<b>菅原 琢磨</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「社会保障論A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

Covid-19 (新型コロナウイルス) の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応に焦点を当てた講義内容とする。

#### 【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義ではCovid-19 (新型コロナウイルス) の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日的状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	With コロナ (COVID-19を見据えた政策対応と今後の展開)	Covid-19に対する政策対応と今後の課題
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論 (I)	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論 (II)	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価 (I)	行政評価制度の概要

8	社会保障政策の政策評価 (II)	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価 (III)	政策評価 (費用・便益分析) の実際の適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statisticsに もとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題 対応の考え方

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて2時間、講義後に講義資料を参考に2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。講義で必要な資料がある場合は、適宜、メディアスクーリング受講システム上で配布する。

#### 【参考書】

島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011年  
小黒一正・菅原琢磨『薬価の経済学』日本経済新聞出版社、2018年

#### 【成績評価の方法と基準】

メディアスクーリング試験による (100%)。試験問題は講義内で扱ったトピックスのうち最も重要な点について制度にかかる基礎的知識の理解や制度の背景にある考え方を理解出来ているかどうかを問う内容である。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

#### 【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

#### 【Outline (in English)】

Based on the basic knowledge of Social Security Policy A, this lecture addresses real policy issues we are now facing and fosters the ability to think about the political solution.

LAN300TF
ビジネス英語A(後期メディア)
中谷 安男
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本を代表する企業のグローバルリーダーのケーススタディを通してビジネス英語の基礎力をつける。実際のとても興味深いビジネスの成功事例を理解しながら楽しく英語を学ぶ。

#### 【到達目標】

実際のビジネスケーススタディを英語で学びながら、ビジネスにおけるリーダーシップ、ビジネス戦略、国際マーケティングの基礎知識を身に付ける。アカデミック・ライティングを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP6,DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

有名企業のビジネスケースを扱い、語彙、リスニング、リーディングの演習を行う。

ライティングのテキストを活用し英文の書き方を自学する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Initiating World's Biggest Joint Marketing Project 1	Intel in It 1 アカデミックライ ティング・テキスト 1章
2	Initiating World's Biggest Joint Marketing Project 2	Intel in It 2 アカデミックライ ティング・テキスト 2章
3	Creating Value and Making a Difference 1	Coca-cola 1 アカデミックライ ティング・テキスト 3章
4	Creating Value and Making a Difference 2	Coca-cola 2 アカ デミックライティン グ・テキスト 4章
5	Enhancing Luxury Brand Identity 1	Chanel & Dior 1 アカデミックライ ティング・テキスト 5章

6	Enhancing Luxury Brand Identity 2	Chanel & Dior 2 アカデミックライ ティング・テキスト 6章
7	Changing a Big Company with Management of Technology 1	Sapporo 1 アカデミックライ ティング・テキスト 7章
8	Changing a Big Company with Management of Technology 2	Sapporo 2 アカデミックライ ティング・テキスト 8章
9	Reviving a Leading Brand 1	Ryohin Keikaku 1 アカデミックライ ティング・テキスト 9章
10	Reviving a Leading Brand 2	Ryohin Keikaku 2 アカデミックライ ティング・テキスト 10章
11	Negotiating with Headquarters 1	Intel TQC 1 アカデミックライ ティング・テキスト 11章
12	Negotiating with Headquarters 2	Intel TQC 2 アカデミックライ ティング・テキスト 12章
13	Making a Challenging Business Profitable 1	Kyushu Jet Ferry 1 アカデミックライ ティング・テキスト 13章
14	Making a Challenging Business Profitable 2	Kyushu Jet Ferry 2 アカデミックライ ティング・テキスト 14章
15	Review	Review アカデミックライ ティング・テキスト 15章

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan  
金星堂 Nakatani, Y. & Smithers, R.  
『大学生のための英文アカデミックライティング』中谷安男 大修館書店

#### 【参考書】

『ケース・メソッド入門』 石田英夫 他 慶應義塾大学出版

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート

期末レポート

- ・ビジネス英語の基礎力がついているか
- ・テキストで取り扱うビジネスリーダーシップの理解ができているか
- ・ビジネスケースの簡単な要約が英語でできるか

**【学生の意見等からの気づき】**

英語ライティングの自学自習を指示する。

**【その他の重要事項】**

ビジネス英語の履修目安の英語力としてはTOEIC480点、英検2級以上とする。

**【Outline (in English)】**

The objective of this course is to develop your understanding of the basic principles, strategies, and tactics of effective negotiation in business contexts. By using case study approaches, this course improves your business English skills.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)
<b>経済地理(Ⅱ)(後期メディア)</b>
<b>近藤 章夫</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

#### 【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済学と集積①	集積の利益とは何か
第3回	経済学と集積②	経済成長と集積の関係
第4回	集積論の潮流①	A.WeberとA.Marshallの集積論
第5回	集積論の潮流②	外部経済と集積の経済
第6回	現代の集積論①	新しい集積論の系譜、経済理論の発展
第7回	現代の集積論②	空間経済学とクラスター論
第8回	日本の都市・産業集積①	産地と企業城下町
第9回	日本の都市・産業集積②	都市集積とネットワーク型集積
第10回	自動車産業の集積①	生産システムと近接性
第11回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
第12回	ハイテク産業の集積①	知識経済とイノベーション
第13回	ハイテク産業の集積②	産学連携とシリコンバレーモデル
第14回	まとめ	集積論の温故知新

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

#### 【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣

川端基夫（2008）『立地ウォーズ』新評論

アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社

山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の評価（60%）が中心となる。授業終了時小テスト（平常点20点）、レポート課題（20%）で最終評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

#### 【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)

**労働経済論B(後期メディア)**

佐野 晋平

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済学を応用し労働市場の機能を分析手法とその応用例を講義する。労働経済論Bでは、労働経済論Aで習得した内容に応用し、様々な労働問題について講義する。

**【到達目標】**

労働経済学の基礎理論と統計データに基づき、労働問題を理解できるようにすることが目的である。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：,DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

資料に基づき講義を進める。労働経済学Aで学んだ内容を応用し様々な労働問題を分析する。具体的には、学校教育（学校資源、教師、早期教育）、職場内訓練、内部労働市場、多様な雇用形態、所得格差、失業に関して、理論をどのように応用して問題を分析するのか、関連する統計や研究について紹介する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
1	人的資本とシグナリング	学歴間賃金格差を説明する2つの理論を対比させつつ学ぶ
2	教育の生産関数	学校教育を分析するツールである教育の生産関数を学ぶ
3	学校資源	クラスサイズ、ピア効果に関する議論を紹介する
4	教員の労働市場	教員の労働市場に関する議論を紹介する
5	経済格差と教育格差	経済格差と教育格差に関する議論を紹介する
6	所得格差の計測	ジニ係数など所得格差を計測する方法を学ぶ
7	職場訓練の理論	職場訓練（一般訓練、企業特殊訓練）と費用負担の関係を議論する
8	賃金プロフィール	年齢や勤続年数に応じて賃金が上昇することを説明する理論を紹介する
9	技術革新と二極化問題	技術革新、仕事・賃金の二極化について学ぶ
10	失業1	失業に関する統計事実やマクロ経済との関連を学ぶ
11	失業2	賃金の硬直性によって生じる失業について学ぶ
12	失業3	ジョブサーチ理論について学ぶ
13	多様な雇用形態	いわゆる正社員、パートタイム労働など、多様な雇用形態の論点について学ぶ
14	長時間労働問題	長時間労働に関する論点について学ぶ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。統計学・計量経済学の知識があると理解がより深まる。復習を重視すると共に、参考書を精読すると理解が深まる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

講義資料に基づく。関連する文献は適宜紹介する。

**【参考書】**

川口大司『労働経済学』有斐閣  
 宮本弘暁『労働経済学』新世社

**【成績評価の方法と基準】**

中間試験（40%）+メディアスクーリング試験（60%）

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【Outline (in English)】**

This course introduces students to the method of economic analysis of labor market. Especially, we focus on various issues of labor market based on Labor Economics A.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

**金融論 A / 金融論 I（後期メディア）****武田 浩一**

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では、金融の基本的な仕組みを知り、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立つかを学ぶ。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生が、まず金融の面白さに触れ、さらに現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけることである。

**【到達目標】**

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

金融取引の機能や金融機関の役割、貨幣の意義、日本の金融システムの特徴などについて主に解説する。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつあるが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
1	はじめの一步：「金融」とは？	金融とは何か
2	直接金融と間接金融	金融取引において金融機関が果たす役割
3	銀行の機能	銀行の決済機能と信用創造機能
4	日本の金融システムと銀行	日本の金融システムと銀行の特徴
5	協同組織金融機関と証券会社	協同組織金融機関と証券会社の機能
6	保険会社と消費者信用会社	保険会社と消費者信用会社の機能
7	資金循環と金融構造	日本の資金循環と金融構造の特徴
8	貨幣の意義と機能	貨幣の意義・機能と現代の通貨制度
9	決済システム	決済システムの機能
10	貨幣需要	貨幣需要と流動性選好
11	流動性のわなとマネーストック	貨幣需要における流動性のわなと貨幣供給
12	公的金融	日本の公的金融の役割と特徴
13	企業の資金調達	企業の財務状態と資金調達
14	国際金融機関	国際金融機関の意義と役割

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使うため、講義で分からないことがあるときには、テキストを活用するなどして十分に復習して、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊、2,200円）

**【参考書】**

特になし

**【成績評価の方法と基準】**

試験によって成績を評価する。  
ただし、中間テストも受講すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

開講初年度につき授業改善アンケートを実施していない。

**【Outline (in English)】**

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)

## ミクロ経済学 A / 現代経済学 I (後期メディア)

平井 俊行

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト30%、期末試験70%

## 【学生の意見等からの気づき】

開講初年度につき授業改善アンケートを実施していない。

## 【Outline (in English)】

This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学 A/現代経済学 I では特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎でもあるので、内容を確実に身に付ける。

## 【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・基本的な計算問題を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4,DP5」「商業学科：経済学」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。講義スライドをメディアスクーリング受講システムにアップロードしておくので受講前に必ずダウンロードして、必要があれば印刷しておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ミクロ経済学の目的、講義についての注意事項など。
第2回	微分の考え方・計算	微分の基本的な考え方・計算方法
第3回	部分均衡分析①	需要・供給・市場均衡
第4回	部分均衡分析②	余剰分析
第5回	部分均衡分析③	課税と死荷重
第6回	消費者行動理論①	選好・効用・無差別曲線
第7回	消費者行動理論②	予算制約
第8回	消費者行動理論③	限界代替率・需要関数の導出
第9回	消費者行動理論④	代替財・補完財、上級財・下級財、ギッフェン財
第10回	生産者行動理論①	生産と費用
第11回	生産者行動理論②	平均可変費用・平均総費用・限界費用
第12回	生産者行動理論③	供給関数の導出
第13回	一般均衡分析①	関連する2つの財の市場の間の影響。
第14回	一般均衡分析②	純粋交換経済

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：講義資料や参考書を読んでおくこと。  
 事後学習：講義内容や講義中に解説した練習問題の復習。参考書についている演習問題を解く。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

使用しない。

## 【参考書】

第1回の講義内で紹介します。配布スライドにも掲載しておきます。

ECN200TF (経済学 / Economics 200)

## 国際経済論A / 国際経済論I(後期メディア)

田村 晶子

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。国際金融論では為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際マクロ経済学では、国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解し、マクロ経済政策の効果についても考えます。

## 【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、資本収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準について説明でき、現実的为替レート水準について議論できる。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3」「商業学科：経済学」に関連

## 【授業の進め方と方法】

基礎理論の部分は、世界的に定評のあるクルーグマン・オブズフェルドのテキストの内容にほぼ従って、パワーポイントを用いて講義を行います。また、日本独自の背景があるものは、実際の日本の資料を用います。毎回の授業では、キーワードや数式、グラフなどを自分で書き込む形の空白のある配布資料を用意しています。各自でダウンロードして、講義を聴きながら空白を書き入れる形で勉強を進めましょう。毎回の授業のあとで練習問題が出題されます。練習問題の提出のあと、練習問題の解答と解説を行いますので、自習をして理解を確認しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「講義計画」「国際収支表の項目」	まず、講義全体の流れを説明します。国際収支表の見方と各項目の関係について勉強します。
第02回	「日本の国際収支表と国際収支の記入方法」	実際の日本の国際収支表（2014年）をもとにその特徴を講義します。さまざまな国際取引が、実際に国際収支表にどのように記帳されるかを勉強します。
第03回	「開放経済における国民所得恒等式」	開放経済における国民所得恒等式から導き出される貯蓄投資バランスについて、日本、および世界各国の例をもちいて勉強します。
第04回	「為替レートと外国為替市場」	為替レートとはどういうものかを確認し、為替レートが決定される国際為替市場の仕組みを勉強します。
第05回	「外国為替取引の種類」	外国為替市場における先渡取引やオプション取引など、さまざまな国際為替取引について勉強します。

第06回	「短期的为替レート決定①：金利平価条件」	外国為替市場における需要と供給を理解し、その需給一致させるように為替レートが決定することを勉強します。
第07回	「短期的为替レート決定②：金融政策と為替レート」	自国金利、外国金利、為替レート予想や金融政策が為替レートに与える影響を勉強します。
第08回	「短期的为替レート決定③：先渡レートとリスク」	先渡（先物）が為替レートの決定と、外貨資産にリスクがある場合の為替レートの決定について勉強します。
第09回	「長期的为替レート決定①：購買力平価」	長期的为替レート水準について、購買力平価説をもちいて勉強します。
第10回	「長期的为替レート決定②：実質為替レート」	長期為替レート水準からの乖離が生じる原因と、実質為替レートについて勉強します。
第11回	「外国為替市場介入」	外国為替市場介入の方法と効果について、日本での外国為替市場介入の例を確認しながら勉強します。
第12回	「為替レートとマクロ経済」	国内財市場と為替・外為市場の均衡モデルをもちいて、マクロ経済政策の効果を勉強します。
第13回	「通貨制度：固定相場制、最適通貨圏」	世界で多くの国で取られている固定相場制の維持について勉強します。最適通貨圏の理論で、統一通貨について勉強します。
第14回	「通貨危機のモデル」	第1世代モデル、第2世代モデルをもちいて、通貨危機を理解します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義では、キーワードや数式、グラフなどを空白にしたパワーポイントの配布資料を用意しています。必ず、各自でダウンロードして、講義を聴きながら書き入れる形で勉強してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

クルーグマン・オブズフェルド著『クルーグマン国際経済学 理論と政策：下 金融編（原著第10版）』丸善出版、2017年

## 【参考書】

高木信二著『入門国際金融（第4版）』日本評論社、2011年

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験との総合的な評価による

## 【学生の意見等からの気づき】

2014年からの国際収支表の大幅な変更に伴い、第1回、第2回を振りなおしています。最新のデータを配布していますが、第2回授業では年度と暦年データを取り違えていて、修正をしました。質問などにより、修正や補足がある場合は、「お知らせ」で連絡しますので、チェックしてください。

## 【Outline (in English)】

Students study the basics of International Finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy, then study the effects of macroeconomic policy.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

## 環境経済論A / 環境経済論I(後期メディア)

松波 淳也

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念

## 【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、環境経済学の基本概念、手法を初学者を念頭に置き、できる限り詳しく丁寧に解説する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

現代の環境経済学の基礎概念・手法を身につけてもらうことを目標とし、最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とポーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展SDとは？ 環境経済学におけるSD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としてのSD。
第14回	持続可能な発展③	SDの視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。
第15回	持続可能な発展④	SDの経済思想・再論。環境経済学の今後

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

## 【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験の総合評価とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200TF（経済学/Economics 200）

**開発経済入門A(後期メディア)**

池上 宗信

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資、彼らの直面するリスクとその対策を学びます。さらに、それらを理解するのに有用な時間的不整合、モラル・ハザードなどの理論、ランダム化比較試験、差の差の分析、操作変数法などの実証分析手法を並行して学びます。

**【到達目標】**

開発途上国の貧困家計にとって重要な栄養、健康、教育、出産、リスクという経済問題を経済学の理論、手法を応用し、統計資料などを見ながら、主体的に考察、議論、公正に判断できるようになることが授業の到達目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教員による講義が中心になりますが、授業中に演習問題があるので、ビデオを一時停止し、受講生自身で解く努力をしてから、ビデオを再生、解答を見てください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
1	貧困	貧困の罫、人口・貧困の分布・変化
2	ランダム化比較試験	因果関係、第3の要因
3	栄養	貧困家計の栄養に関する選択
4	健康	貧困家計の健康に関する選択
5	時間的不整合	コミットメントとあと押し
6	差の差の分析	パラレル・トレンドの仮定
7	操作変数法	内生変数、誤差項
8	教育	貧困家計の就学に関する選択
9	出産	妊娠、出産の意思決定
10	リスク1	期待値、期待効用
11	リスク2	状態空間分析
12	リスク3	独占的な保険会社
13	リスク4	完全競争保険市場
14	モラル・ハザード	リスク分担とインセンティブ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習・復習として各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献を読んでください。授業、演習問題の内容を必要に応じて復習してください。講義の後に学生が自分でさらに調べたいような授業を目指したいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

アビジット・バナジー、エスター・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房  
 講義のスライドは、このテキストだけでなく、各授業のスライドの最後にある参考文献、特に参考文献リストの最初の文献にも基づきます。

**【参考書】**

池田新介(2012)「第3章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社  
 デイーン・カーラン、ジェイコブ・アベル(2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房  
 神取道宏(2014)「8 保険とモラル・ハザード」『ミクロ経済学の力』日本評論社  
 神戸伸輔(2004)「13章リスクと保険」『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社  
 高野久紀(2014, 2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号  
 森田果(2014)「第18章 DD」『実証分析入門』日本評論社

**【成績評価の方法と基準】**

オンラインシステム上の中間テスト20%、期末（メディアスクーリング）テスト80%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

開講初年度につき授業改善アンケートを実施していない。

**【Outline (in English)】**

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, and schooling decision by poor households in developing countries. We will also study theoretical model of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled experiment, difference in difference method, instrument variable methods, which are useful for studying the decision.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)
<b>社会保障論A(後期メディア)</b>
<b>菅原 琢磨</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、わが国が直面する社会保障上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

#### 【到達目標】

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

社会保障政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会保障政策である。本講義では、社会保障政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か－定義と歴史的展開－	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開 少子高齢化社会の動向と社会保障	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
4	老齢年金制度の概要 障害年金・遺族年金の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
5	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的過程と年金改革の概要
6	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
7	診療報酬制度とその課題 わが国の医療提供体制	診療報酬制度の課題 医療提供体制の概要

8	これからの医療と地域政策の展開	地域の変貌とこれからの医療
9	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
10	雇用保険事業の沿革・課題 労働者災害補償保険の概要と課題	雇用保険二事業の概要 労働者災害補償保険の意義と体系
11	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
12	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
13	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
14	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な社会保障政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。

#### 【参考書】

原野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第16版）』有斐閣、2019年

#### 【成績評価の方法と基準】

メディアスクーリング試験による（100%）。試験問題は講義内で扱ったトピックスのうち最も重要な点について制度にかかる基礎的知識の理解や制度の背景にある考え方を理解出来ているかどうかを問う内容である。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

#### 【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social security policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN200TF (経済学 / Economics 200) <b>経済学特講(循環型社会のミクロ経済学)(後期メディア)</b>
<b>赤石 秀之</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、循環型社会についてミクロ経済学の視点から考察する。循環型社会では、モノの生産・消費・廃棄・処理という製品ライフサイクルの視点から望ましい社会の在り方を示しているが、それが経済学の立場からどのように評価されるのかを明らかにする。本講義を受講する学生は、モノ、ゴミ、リサイクル、リユース、不法投棄といったキーワードに関する経済学的な考察を深めることを目的としている。

#### 【到達目標】

- ・モノの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
- ・ゴミの取引に関するミクロ経済分析ができるようになる。
- ・循環型社会に関するミクロ経済分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業の進め方としては、主にミクロ経済分析で用いるグラフを使った授業が行われる。また、授業内ではグラフを作成して考える学習などがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	循環型社会の経済分析の目的・方法	授業の進め方や循環型社会の経済分析の目的と方法について解説する。
第2回	動脈経済の均衡分析①	モノの市場の仕組み、消費者行動、生産者行動について解説する。
第3回	動脈経済の均衡分析②	モノの市場での価格・取引量の決定の仕方、またそれらの変化の方向について解説する。
第4回	動脈経済の均衡分析③ 動脈経済の余剰分析①	モノの市場での価格・取引量の変化の要因、また人々の利益を分析する方法について解説する。
第5回	動脈経済の余剰分析②	モノの市場における人々の利益の大きさの決定、またその変化について解説する。
第6回	動脈経済の政策分析①	モノの市場における政策がモノの価格・取引量に与える影響について解説する。
第7回	動脈経済の政策分析②	モノの市場における政策が人々の利益に与える影響について解説する。
第8回	静脈経済の均衡分析①	ゴミの市場の仕組み、廃棄者行動、処理者行動について解説する。
第9回	静脈経済の均衡分析②	ゴミの市場の価格・取引量の決定の仕方、またそれらの変化の方向・要因について解説する。

第10回	静脈経済の余剰分析①	ゴミの市場の人々の利益の大きさの決定について解説する。
第11回	静脈経済の余剰分析②	ゴミの市場の人々の利益の大きさの変化について解説する。
第12回	静脈経済の政策分析①	ゴミの市場における政策がゴミの価格・取引量に与える影響について解説する。
第13回	静脈経済の政策分析②	ゴミの市場における政策が人々の利益に与える影響について解説する。
第14回	循環経済の均衡・余剰分析	循環型社会におけるモノの価格・取引量、ゴミの価格・取引量、また人々の利益の大きさの決定の仕方について解説する。
第15回	循環経済の政策分析	循環型社会における政策がモノの価格・取引量、またゴミの価格・取引量に与える影響について解説する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に事前の学習は必要ではないが、日ごろから新聞・テレビ・インターネットなどを通じて、自身の経済や環境に対する関心・興味を高めておくことが望ましい。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

#### 【参考書】

植田和弘（1992）『廃棄物とリサイクルの経済学』有斐閣。  
リチャード・C・ポーター（2005）『入門廃棄物の経済学』東洋経済新報社。  
細田衛士（2012）『グッツとバズズの経済学（第2版）』東洋経済新報社。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間課題で40%、期末試験で60%、合わせて100%の総合評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の目線に合わせた授業をさらに心掛けていきます。

#### 【Outline (in English)】

In this lecture, we consider a recycling society from the viewpoint of microeconomics. The recycling-oriented society shows a desirable society from the viewpoint of the product life cycle, from the production, consumption, disposal and disposal of goods, but we will clarify how it is evaluated from an economics perspective. The students who take this course aim to deepen economic considerations about keywords such as goods, garbage, recycling, reuse, and illegal dumping.

LAN300TF
ビジネス英語B(後期メディア)
中谷 安男
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・日本を代表する企業のグローバルリーダーのケーススタディを通してビジネス英語の基礎力をつける。実際のとても興味深いビジネスの成功事例を理解しながら楽しく英語を学ぶ。  
 ・英文レポートが書けるためのライティングをテキストを使い自己学習する。

#### 【到達目標】

・実際のビジネスケーススタディを英語で学びながら、ビジネスにおけるリーダーシップ、ビジネス戦略、国際マーケティングの基礎知識を身に付ける。  
 ・英語レポートの説得力のあるイントロダクション、ボディ、結論が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP6,DP8」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

有名企業のビジネスケースを扱い、語彙、リスニング、リーディングの演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	Introduction Case 8 Act 1 アカデミックライ ティングテキスト1 章1節	授業の解説 Becoming a Representative Corporate Citizen in China (1)
2	Case 8 Act 2 アカデミックライ ティングテキスト1 章2節	Becoming a Representative Corporate Citizen in China (2)
3	Case 9 Act1 アカデミックライ ティングテキスト2 章1節	Developing New Business in Emerging Markets (1)
4	Case 9 Act 2 アカデミックライ ティングテキスト2 章2節	Developing New Business in Emerging Markets (2)
5	Case 10 Act1 アカデミックライ ティングテキスト3 章1、2節	De-centralizing Marketing Strategies (1)
6	Case 10 Act 2 アカデミックライ ティングテキスト3 章3節4節	De-centralizing Marketing Strategies (2)

7	Case 11 Act1 アカデミックライ ティングテキスト4 章	Competing with Big Companies by Establishing a Regional Brand (1)
8	Case 11 Act2 アカデミックライ ティングテキスト5 章	Competing with Big Companies by Establishing a Regional Brand (2)
9	Case 12 Act1 アカデミックライ ティングテキスト6 章	Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies (1)
10	Case 12 Act2 アカデミックライ ティングテキスト7 章	Sustaining Brand Identity and Global Business Strategies (2)
11	Case 13 Act1 アカデミックライ ティングテキスト8 章	Enhancing Global Brand Communication (1)
12	Case 13 Act2 アカデミックライ ティングテキスト9 章	Enhancing Global Brand Communication (2)
13	Case 14 Act1 アカデ ミックライティング テキスト10章	Developing a Global Leader for Diversity Management (1)
14	Case 14 Act2 アカデミックライ ティングテキスト11 章	Developing a Global Leader for Diversity Management (2)
15	Case 15 アカデミックライ ティングテキスト12 章	Building Global Business Models

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan  
金星堂 Nakatani, Y. & Smithers, R.  
『大学生のためのアカデミック英文ライティング』中谷安男 大修館  
書店  
・ホームページ 「英語論文の書き方」  
<http://www7b.biglobe.ne.jp/~englishwriting/index.html>

#### 【参考書】

『ケース・メソッド入門』 石田英夫 他 慶應義塾大学出版

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートとレポート試験の総合評価とする。

#### ■評価の観点

- ・ビジネス英語の基礎力がついているか
- ・テキストで取り扱うビジネスリーダーシップの理解が出来るか
- ・ビジネスケースの簡単な要約が英語でできるか
- ・英文レポートが説得力のあるものか

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし

#### 【その他の重要事項】

ビジネス英語の履修目安の英語力としてはTOEIC480点、英検2級以上とする。

#### 【Outline (in English)】

The objective of this course is to develop your understanding of the principles, strategies, and tactics of effective negotiation in business contexts. By using case study approaches, the participants can improve business English skills.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)
<b>経済地理 (I)(後期メディア)</b>
<b>近藤 章夫</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの多層的な空間スケールを念頭におき、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、産業立地の空間的パターン、都市化と地域間格差、企業立地と国際分業、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

#### 【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1,DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP2,DP5」「商業学科：経済学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する経済学と地理学の融合領域である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	経済成長と人口構造①	世界経済の歴史と地理
第3回	経済成長と人口構造②	人口構造と経済成長論
第4回	経済成長と人口構造③	都市化と人口問題
第5回	立地論の基礎①	経済活動の立地行動と理論の概要
第6回	立地論の基礎②	産業・工業立地論の枠組
第7回	立地論と都市研究①	農業立地論と中心地理論
第8回	立地論と都市研究②	都市内部構造と都市システム
第9回	グローバル化とローカル化①	産業発展のダイナミズムと空間的分業論
第10回	グローバル化とローカル化②	比較制度分析とグローバルネットワーク論
第11回	国土利用と地域政策①	日本の地域構造と国土政策の歴史
第12回	国土利用と地域政策②	戦後の国土・地域政策と新たな動向
第13回	国土利用と地域政策③	都市・地域問題と現代の課題
第14回	まとめ	経済活動と地理的スケールの重層性

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前の予習は必要ないが、授業後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト (教科書)】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

#### 【参考書】

河野稠果 (2000) 『世界の人口 (第2版)』 東京大学出版会  
 デイヴィッド・N・ワイル (2010) 『経済成長 (第2版)』 ピアソン  
 桐原  
 松原宏編著 (2013) 『現代の立地論』 古今書院  
 富田和暁 (2006) 『地域と産業—経済地理学の基礎—』 原書房  
 山田浩之・徳岡一幸編 (2007) 『地域経済学入門 (新版)』 有斐閣  
 竹内淳彦・小田宏信編著 (2014) 『日本経済地理読本 (第9版)』 東洋経済新報社

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験の評価 (60%) が中心となる。授業終了時小テスト (平常点20点)、レポート課題 (20%) で最終評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

#### 【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

#### 【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN300TF (経済学 / Economics 300)

## 労働経済論A(後期メディア)

佐野 晋平

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学を応用し労働市場の機能を分析手法とその応用例を講義する。労働経済論Aでは、労働経済学の基礎理論と統計データに基づく実態について講義する。

## 【到達目標】

労働経済学の基礎理論と統計データに基づき、労働問題を理解できるようにすることが目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

資料に基づき講義を進める。労働経済学の基礎理論として、労働供給、労働需要、市場均衡、補償賃金格差、人的資本、差別の理論を説明する。各回では基礎理論の紹介と共に、関連する統計や研究について紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、データをみる	・労働市場とは ・労働経済学とは ・労働経済学が対象とする社会問題 ・代表的な統計の紹介 ・データを観察する方法と注意点
第2回	労働供給1	・労働供給の決定 ・比較静学
第3回	労働供給2	・市場の労働供給 ・実証研究との関連
第4回	労働需要1	・短期の労働需要 ・比較静学
第5回	労働需要2	・長期の労働需要 ・調整費用
第6回	市場均衡	・労働市場の均衡 ・余剰
第7回	最低賃金の分析1	・完全な労働市場と不完全な労働市場 ・最低賃金
第8回	最低賃金の分析2	・差の差法 ・実証研究の紹介
第9回	補償賃金格差	・ヘドニック賃金 ・賃金格差
第10回	人的資本1	・人的資本 ・大学進学への応用
第11回	人的資本2	・最適な教育年数の決定 ・ミンサー型賃金関数
第12回	差別の理論	・嗜好による差別 ・競争の役割
第13回	労働市場の男女差1	・統計的差別

第14回 労働市場の男女差2 ・男女間賃金の実態  
・実証研究の紹介

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ミクロ経済学の基礎知識を有することが望ましい。統計学・計量経済学の知識があると理解が寄り深まる。復習を重視すると共に、参考書を精読すると理解が深まる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

講義資料に基づく。関連する文献は適宜紹介する。

## 【参考書】

川口大司『労働経済学』有斐閣  
 大森義明『労働経済学』日本評論社  
 Tito Boeri & Jan Van Ours, 2013, The Economics of Imperfect Labor Markets 2nd Edition, Princeton Univ Press

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）とメディアスクーリング試験（60%）に基づく。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline (in English)】

This course introduces students to the method of economic analysis of labor market. Especially, we focus on the economic theory of labor economics and statistics about labor market.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>会計学入門Ⅱ (後期メディア)</b>
<b>神谷 健司</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計学入門Ⅰでは、基本的な財務諸表の読み方、財務会計で用いられる基本的な考え方、会計用語の基本的なものについて学習してきたが、続く会計学入門Ⅱでは、会計基準を適用した具体的な会計処理や計算方法について学習を進め、財務会計の基本的テキストの内容を十分理解することを目標とする。また後半の2回の講義で、原価計算と管理会計の基礎についても触れることにする。なお財務会計のより専門的な学習は通教課程の『財務会計論Ⅰ・Ⅱ』で学ぶことになる。

### 【到達目標】

財務会計の基本的な考え方、および重要な会計基準に基づく具体的な会計処理の方法、財務諸表の作成に対する基本的な考え方について学んでいく。後半の2回においては原価計算の基礎、管理会計の基礎といった事にも言及し企業会計全般の領域について対応したい。テキストに出てくる重要な概念、専門用語については十分理解していただきたい。重要な部分については講義でも示していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

### 【授業の進め方と方法】

テキストに基づいてパワーポイントを用いた講義を行う。わかりにくい事例については具体的な計算例や事例に触れて説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	総論	会計学入門Ⅰの内容を確認するとともに、会計の意義、会計の種類、会計の役割、会計学の研究対象等について学ぶ。
第2回	企業会計の仕組み	財務諸表、財産法と損益報、棚卸法と誘導法、会計公準、会計原則等について学ぶ。
第3回	企業会計制度	会社法による会計規定、金融商品取引法による会計規定、法人税法による会計規定等について学ぶ。
第4回	資産会計（1）	資産と資産会計の意義、資産の分類、資産の評価基準、および流動資産のうち当座資産、棚卸資産の部分について学ぶ。
第5回	資産会計（2）	流動資産のうち前回触れなかった部分と、固定資産、繰延資産の会計処理について学ぶ。
第6回	負債会計	負債と負債会計の意義、負債の分類、負債性引当金、流動負債、固定負債、負債の表示について学ぶ。流動
第7回	資本会計（1）	資本と資本会計の意義、資本の分類、純資産と株主資本、資本金、資本剰余金について学ぶ。

第8回	資本会計（2）	利益剰余金、自己株式、評価・換算差額、新株予約権について学ぶ。
第9回	損益会計	損益会計の意義、損益項目の分類、損益会計の諸原則等について学ぶ。
第10回	財務諸表の作成	会社法による財務諸表、金融商品取引法による財務諸表、法人税法による財務諸表、財務諸表の作成方法について学ぶ。
第11回	連結財務諸表（1）	連結財務諸表の意義と目的、連結の範囲、連結貸借対照表の作成について学ぶ。
第12回	連結財務諸表（2）	連結損益計算書の作成、連結包括利益計算書、持分法について学ぶ。
第13回	原価計算の基礎	原価計算の目的、原価概念、原価計算の体系等について学ぶ。
第14回	管理会計の基礎	管理会計の役割、管理会計の体系、短期利益計画と予算管理等について学ぶ。
第15回	全体のまとめと重要箇所箇所の確認、補足説明を行う。	会計学入門Ⅱで学んだ事項の全体的な復習を含め重要箇所の確認を行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを十分学習するとともに、テキスト各章末の研究問題を解くことが求められる。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

新井清光・川村義則『現代会計学（第3版）』中央経済社、2020年

### 【参考書】

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社、通教課程テキスト：神谷健司・市川佳功『簿記Ⅲ・Ⅳ』、『会計法規集』中央経済社

### 【成績評価の方法と基準】

最終的な試験によって評価を行う。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

できれば『会計法規集』を用意して、講義に関連する会計基準に目を通していただきたい。

### 【その他の重要事項】

日商簿記3級程度の知識があり、「会計学入門Ⅰ」程度の知識（基本的な財務諸表が読める）程度の知識があることがこの科目履修の前提である。

この科目履修後の会計関連専門科目として、『財務会計論』、『原価計算論』、『管理会計論』、『監査論』、『税務会計』、『経営分析論』、『簿記Ⅳ』といった科目があげられる。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan, and the specific accounting procedures in applying accounting standards. We learn accounting standards of assets items, liabilities items, and shareholders' equities items, revenues and expenses loss accounting. We also will learn the basis of consolidated financial statements, and management accounting.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>マーケティング論Ⅱ (後期メディア)</b>
<b>竹内 淑恵</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今日のマーケティングの課題は、製品やブランドを日常生活の一部にする、活発でインタラクティブな消費者のコミュニティを創造することです。本講義では、顧客価値を創造し、ロイヤル顧客を獲得する方法を学びます。内容は5つの主要なテーマから構成されています。

1. マーケティングの本質と市場競争への対応
2. 顧客価値の発見と理解
3. 顧客価値の創造と提供
4. 顧客価値の説得と伝達
5. マーケティングの革新

この講義によって、今日のマーケティングの本質をとらえた革新的な顧客価値と顧客リレーションシップの枠組みを理解することができます。

#### 【到達目標】

以下に挙げる点が本授業の達成目標です。

- ・マーケティングの概念と理論を中心に学び、マーケティング活動に関する実践的で役立つマネジメント・ノウハウを習得する。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。
- ・レポート課題に積極的に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

・マーケティング論Ⅱもマーケティング論Ⅰと同様、講義形式で授業を進めます。

・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説しますが、随時いろいろなケースを取り上げます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	マーケティングの本質	マーケティングの定義、マーケティングの5つのステップのうち「顧客ニーズの理解」、「顧客とのリレーションシップの構築」、「顧客からの価値の獲得」について学ぶ。
第02回	企業とマーケティング戦略	マーケティングの5つのステップのうち、第1回で取り上げなかった「顧客主導型マーケティング戦略の設計」、「マーケティング・プログラムの設計」について学ぶ。

第03回	競争優位の創造	競合他社の明確化と競合他社の分析、自社のポジションの規定、競争的マーケティング戦略について学ぶ。
第04回	マーケティングの基本枠組み	マーケティングの基本枠組みであるセグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングについて学ぶ。
第05回	マーケティング情報とカスタマー・インサイト	潜在的なニーズの掘り起こし、マーケティングに関する重要な情報の管理、カスタマー・インサイトについて学ぶ。
第06回	消費者の購買行動	消費者行動のモデル、消費者行動に影響を与える特性、購買行動のタイプ、購買者の意思決定プロセスについて学ぶ。
第07回	製品、サービス、ブランド	製品の定義、製品・サービスに関する意思決定、サービス・マーケティング、ブランディングについて学ぶ。
第08回	新製品開発と製品ライフサイクル戦略	新製品開発プロセスとそのマネジメント、製品ライフサイクル戦略、グローバルな展開について学ぶ。
第09回	マーケティング・チャンネルによる顧客価値の提供	サプライ・チェーンと価値提供ネットワーク、チャンネル・コンフリクトとマーケティング・システム、チャンネル設計に関する意思決定、マーケティング・ロジスティクスについて学ぶ。
第10回	価格設定	価格設定戦略、価格調整戦略、価格変更について学ぶ。
第11回	コミュニケーションによる顧客価値の説得	コミュニケーション・ミックス、統合型マーケティング・コミュニケーション、予算とコミュニケーション・ミックスについて学ぶ。
第12回	広告とパブリック・リレーションズ	広告の定義、広告戦略の展開、広告媒体の選定、パブリック・リレーションズについて学ぶ。
第13回	人的販売と販売促進	人的販売、セールス・フォースの管理、人的販売のプロセス、販売促進について学ぶ。
第14回	ダイレクト・マーケティングとオンライン・マーケティング	ダイレクト・マーケティングの捉え方とその形態、オンライン・マーケティングの実施について学ぶ。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

マーケティングでは理論と実務の融合が重要です。毎回の講義内容を復習する意味でも、市場での実践の事例を見て、洞察することを各自フィールドワークとして実施してください。スーパーやドラッグストアなどの店頭に行ったり、イベントやキャンペーンに参加してみたり、授業で学習した内容を実際の製品・サービスで確認・経験してみましょう。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

コトラー, P., G. アームストロング, 恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

#### 【参考書】

- ・石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。
- ・西尾チヅル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第5版』有斐閣(2016年)。
- ・竹内淑恵編著『リレーションシップのマネジメント』文真堂(2014年)。この書籍は、特にマーケティングをテーマにした卒業論文に取り組む方の参考になると思います。

**【成績評価の方法と基準】**

中間テスト1,2を各々25%計50%、そして、レポート試験を50%とし合算して評価します。

(注)2回実施する中間テストを未受験のまま、レポート課題を提出する受講生がありますが、レポートだけ(最高でも50点)では単位取得できませんので、ご注意ください。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。14回あるメディアスクーリングの受講は大変だとは思いますが、皆さんの勉学に向けた努力と熱意に期待しています。一緒に頑張ってマーケティング論を勉強しましょう！

**【その他の重要事項】**

メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プランニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、その実務経験を活かし、マーケティングの理論に焦点を当てて、具体的、かつ、わかりやすく講義する。

**【Outline (in English)】**

Today's marketing challenge is to create lively and interactive communities of consumers who make products and brands a part of their daily lives. In this course, students learn how to create customer value and acquire loyal customers. The content consists of five main themes:

1. Essence of marketing and addressing market competition,
2. Identifying and understanding customer value,
3. Creating and delivering customer value,
4. Persuading and communicating customer value,
5. Innovation in marketing.

This class will help students to understand the innovative frameworks for customer value and customer relationship that capture the essence of today's marketing.

**【実務経験のある教員による授業科目】**

○

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>管理会計論Ⅱ (後期メディア)</b>
北田 智久
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

#### 【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報で利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法政学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	管理会計の基本	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	責任センター	コストセンター、プロフィットセンター
第3回	事業部制組織の管理会計1	事業部の業績評価、内部振替価格、事業部の利益概念
第4回	事業部制組織の管理会計2	ROCE, RI, 本社費・共通費の配賦
第5回	バランスド・スコアカード (BSC)	4つの視点
第6回	コストマネジメント1	原価計算の考え方
第7回	コストマネジメント2	ABCとABM
第8回	コストマネジメント3	原価企画
第9回	コストマネジメント4	原価維持, 原価低減
第10回	CSR 1	企業を取り巻く社会課題
第11回	CSR 2	CSRマネジメントの基礎
第12回	ESG投資	環境, 社会, ガバナンスを考慮した投資活動
第13回	環境管理会計と環境コスト	企業の内部管理に特化した環境会計
第14回	MFCA (マテリアルフローコスト会計)	資源生産性の管理

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

#### 【参考書】

浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館

#### 【成績評価の方法と基準】

「中間レポート」40%と「メディアスクーリング試験」60%との総合評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>税務会計Ⅱ (後期メディア)</b>
大下 勇二
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題を提起し、法人税課税の基礎的な考え方を学習します。

### 【到達目標】

新しい事業体の課税問題、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日的なテーマにそって、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は、わが国法人税課税上、重要な問題となっている主要項目を、スライドに基づき解説する形で進めて行きます。また、各回の最後に受講生には簡単な問題を回答してもらい、理解の程度を確認しながら次に進みます。また、中間レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
①	事業形態の多様化と課税問題	ベイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
②	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
③	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
④	給与の支給形態の多様化と課税問題(1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
⑤	給与の支給形態の多様化と課税問題(2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
⑥	不良債権の償却の課税問題(1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
⑦	不良債権の償却の課税問題(2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
⑧	固定資産の減価償却-その2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
⑨	固定資産の減価償却-その2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
⑩	企業活動の集団化と課税問題(1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
⑪	企業活動の集団化と課税問題(2)	グループ法人税制(グループ法人単体課税制度と連結納税制度)の特徴とその考え方を学習する。

- ⑫ 企業活動の国際化と 国際課税の基礎理論を学習する。  
課税問題(1)
- ⑬ 企業活動の国際化と 国際課税の考え方を海外事業展  
課税問題(2) 開の例を用いて学習する。
- ⑭ 企業活動の国際化と 移転価格税制、過少資本税制、  
課税問題(3) タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んでおくことが必要です。中間レポートの作成・提出が求められます。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ(第2版)』法政大学,2019年

### 【参考書】

テキストの「参考文献」を参照。

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出を前提に修了試験により評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

関心のある身近な事例をできるだけ取り上げたい。

### 【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

財務会計、国際会計、税務会計

〈研究テーマ〉

フランス会計制度研究

ブラン・コンタブルの国際比較研究

税務会計における会計基準の利用問題

〈主要研究業績〉

① 単著『連単分離の会計システム-フランスにおける2つの会計標準化-』法政大学出版局,2018年。

② 共著『ブラン・コンタブルの国際比較』（野村健太郎編著）中央経済社、2005年。

② 共著『IFRS・IAS(国際財務報告基準・国際会計基準)徹底解説』（菊谷正人編著）税務経理協会,2009年。

### 【Outline (in English)】

The objective of Tax Accounting II is to understand the problems of corporate income taxation in Japan.

ECN300TG (経済学 / Economics 300)
<b>国際金融論 I (後期メディア)</b>
<b>横内 正雄</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化の現象はなばなく、日々のニュースなどでそれに関連した事柄が取りあげられないことはないほどである。国際金融論 I は、こうした金融グローバル化の背後にある外国為替や国際収支などの国際金融に関する基本的な概念と基礎的な理論を学ぶ。

### 【到達目標】

国際金融論 I は、現実の世界における様々な国際金融現象の背後にある基礎的な理論を学び、その意味を理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	世界経済の中における位置を確認するとともに国際金融の特徴について学ぶ
第2回	国際取引と外国為替	国際貿易取引と国際送金の流れと外国為替の基本について学ぶ
第3回	外国為替相場	外国為替の本質と外国為替相場の種類について学ぶ
第4回	外国為替市場	外国為替市場の構造と銀行による為替リスク管理について学ぶ
第5回	為替相場制度と為替介入	固定相場制および変動相場制のメカニズムと外国為替市場への介入について学ぶ
第6回	先物為替と金利平価	金利裁定取引とその結果成立する金利平価について学ぶ
第7回	国際収支	国際収支の概念・項目と国際収支表の作成原理について学ぶ
第8回	国際金融市場	国際金融市場の構造と現状について学ぶ
第9回	国際通貨	国際通貨の基本理論と現状について学ぶ
第10回	外国為替相場の理論(1)	外国為替相場に関する国際収支説、為替心理説、購買力平価説を学ぶ
第11回	外国為替相場の理論(2)	アセットアプローチの考え方とそのモデルについて学ぶ
第12回	為替リスクとデリバティブ	為替リスクの種類とその管理手法としてのデリバティブについて学ぶ
第13回	国際収支の理論(1)	弾力性アプローチの考え方を学ぶ

第14回	国際収支の理論(2)	貯蓄投資バランスアプローチの考え方を学ぶ
第15回	国際金融とマクロ経済政策	マンデルフレミングモデルとその政策的インプリケーションを学ぶ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているものうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持つておくことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

☆初級レベルの参考書

秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ』[第4版] 有斐閣、2012年

川本明人『外国為替・国際金融入門』中央経済社、2012年  
 中條誠一『現代の国際金融を学ぶ』[第2版] 勁草書房、2015年  
 清水順子・大野早苗・松原聖『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016年

永易淳・江阪太郎・吉田裕司『はじめて学ぶ国際金融論』有斐閣、2015年

奥田宏司・代田純・櫻井公人編『現代国際金融』[第3版] 法律文化社、2016年

佐々木百合『国際金融論入門』新世社、2017年

☆中級レベルの参考書

高木信二『入門 国際金融』[第4版] 日本評論社、2011年

勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011年

川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』[第4版] 有斐閣、2012年

藤井英次『コア・テキスト国際金融論』[第2版] 新世社、2014年

小川英治・岡野衛士『国際金融』東洋経済新報社、2016年

☆資料集

神田真人編『図説 国際金融 2015-2016年版』財形詳報社、2015年

### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）と試験（70%）による。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the basic concepts and theory of international finance. In particular, learning about the concepts and theory of foreign exchange, the concept and theory of the balance of payments, etc. can help you to understand the phenomena of modern international finance.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講(ミクロ経済学)(後期メディア)</b>
<b>平田 英明</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

#### 【到達目標】

ミクロ経済学の基本的な理論（経済学入門 I/A）程度の内容）を踏まえ、企業行動を中心に理解していくことを目標とします。単に理論の理解をするだけでなく、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることを目標にしていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

ビジネスの現場で起きている事象や具体的なケースを、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	外部性 1	外部性の意味と実際の例を理解します。
第2回	外部性 2	外部性の存在が市場にもたらす影響を学びます。
第3回	公共財と共有資源 1	公共財とは何かを学び、ミクロ経済学視点から考察します。
第4回	公共財と共有資源 2	共有資源とは何かを学び、ミクロ経済学視点から考察します。
第5回	生産の費用 1	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、基礎的なコストの概念を学びます。
第6回	生産の費用 2	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、企業活動に関連するコストの種類を理解します。
第7回	生産の費用 3、競争市場における企業 1	企業の生産活動と費用構造を学びます。とくに、コストの種類をなぜ区別して理解する必要があるのかを理解します。
第8回	競争市場における企業 2	競争市場の企業のパースペクティブの違いがもたらす影響を学びます。独占企業の基本的特徴を考えます。
第9回	競争市場における企業 3、独占 1	独占企業の企業行動を理解します。とくに、独占企業と完全競争企業の違いを理解し、違いの源泉を理解します。

第10回	独占 2	独占企業の企業行動を理解します。とくに、独占企業としての合理的な行動を理解します。
第11回	寡占 1	寡占企業の行動様式を学びます。
第12回	寡占 2	ゲーム理論を使った寡占の理解の基礎を紹介します。
第13回	独占的競争	独占的競争の下での企業行動を学びます。合理的な独占的競争下の企業はどのような戦略をとり、利潤を最大化していくのかを理解します。
第14回	番外編（グローバル金融危機と日本経済）	リーマンショックに代表される金融危機をミクロ経済学の視点から考えてみます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『マンキュー経済学I ミクロ編（第4版）』N.グレッグリー・マンキュー著（東洋経済新報社）  
第三版でも大丈夫です。

#### 【参考書】

『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著（東洋経済新報社）

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート40%、レポート試験60%で評価する予定です。いずれも4択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

中間試験、期末試験後、解答を求める声が多くなっていますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにしてもらいます。中間試験の結果が良くても、期末試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

#### 【その他の重要事項】

過去に試験について、Yahoo知恵袋で質問をしているケースが見られました。同様の不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。

また、オンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間中は中間レポート、レポート試験ともにきわめて限定した期間（2日間程度＜毎年、『法政通信』で日程を確定させて記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金や世界銀行という国際機関におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいと考えています。

#### 【Outline (in English)】

This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

This lecture covers basic theory of microeconomics of firms. The ultimate objective is to let students think by themselves what is going on in the goods and services markets. Students will get familiar with a logical explanation of the market economy.

#### 【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>経営組織論(後期メディア)</b>
<b>長岡 健</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営組織論の概念をもとに、個人、集団、組織全体に関する考察力を修得することを目指します。

#### 【到達目標】

以下の3点を到達目標とした学習に取り組みます。

- (1) 経営組織論の概念枠組と用語を用いて、組織における個人と集団の振る舞いや、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を理解し、説明することができる。
- (2) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における「組織」の諸側面について、多面的かつ批判的に考察できる。
- (3) 組織における個人と集団の活動や、現代社会における経営組織の活動を深く理解するための本質的な「問い」を、主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

組織をめぐる活動／現象は、様々な要素が複雑に絡み合って展開していきます。経営組織論は、この複雑な活動／現象を整理し、深く理解していくための概念や理論を提供しています。

授業では、経営組織論の概念や理論をもとに、「組織における行動」に関するミクロ的視点、および、「組織の構造・システム」に関するマクロ的視点の両方から、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、「組織の中の個人」「組織の中の集団」「組織構造」「組織文化」「組織変革」という5つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	組織の中の個人(1)	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念を理解する。
第02回	組織の中の個人(2)	組織における「モチベーション（動機づけ）」に関する基礎概念を理解する。
第03回	組織の中の個人(3)	組織における「キャリア・デザイン」に関する基礎概念を理解する。
第04回	組織の中の集団(1)	経営学における「集団（グループ）」の意味／意義／位置づけを理解する。

第05回	組織の中の集団(2)	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題を理解する。
第06回	組織の中の集団(3)	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題を理解する。
第07回	組織構造(1)	組織設計の視点と「ピラミッド型組織」の基本原則を理解する。
第08回	組織構造(2)	企業の組織形態と「フラット化・ネットワーク化」の進展を理解する。
第09回	組織構造(3)	組織構造の変化に対する「社会的制度／圧力」の影響を理解する。
第10回	組織文化(1)	「企業文化論」の特徴と「日本的経営」に対する評価の変遷を理解する。
第11回	組織文化(2)	組織における「プロフェッショナル」の意味／意義／位置づけを理解する。
第12回	組織文化(3)	「組織エスノグラフィー」という研究のねらいと方法を理解する。
第13回	組織変革(1)	「組織学習」という概念の可能性と課題を理解する。
第14回	組織変革(2)	「学習棄却（アンラーニング）」という概念の可能性と課題を理解する。
第15回	組織変革(3)	組織における「変革型リーダーシップ」の意味／意義／位置づけを理解する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を使いながら講義（映像教材）を受講した後、主要な概念について深く理解することをめどし、講義内容を自分自身で整理する等、十分な復習を行ってください。さらに、講義（映像教材）の中で、参考文献を紹介しますので、自分自身の興味・関心に合ったものを選び、主体的に読み進めて下さい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

#### 【参考書】

指定はありません。

#### 【成績評価の方法と基準】

- (1) 1～5までの中間テスト5問は各々10%としてトータル50%を平常点として扱います。
- (2) リポート試験を50%として扱います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義内容に関する質問には、できる限り速やかに、かつ、丁寧に回答することを心がけていきたいと思えます。

**【Outline (in English)】**

Behaviours and phenomena concerning “organisations” emerge as a result of various elements complicatedly being intertwined. Management Organisation Theory offers the conceptual tools for deeply understanding of those behaviours and phenomena.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the behaviours and phenomena of business organisations in the modern society, in particular focusing on the following five themes; 1) individual behaviours in organisations, 2) group behaviours in organisations, 3) organisational structures, 4) organisational cultures, and 5) organisational change.

The main objectives of this course are the following three; 1) to deepen our understanding of the concepts of Management Organisation Theory enough to explain both individual/group behaviours in Japanese business organisations and the contexts in which those behaviours are situated, 2) to sharpen our insights into various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and 3) to find meaningful research questions in order to deepen our understanding of the modern business organisations in relation to the five themes mentioned above.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>事業創造論(後期メディア)</b>
稲垣 京輔
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、ベンチャー企業や中小企業の経営者の組織化にまつわる行動について明らかにすることによって、企業家が事業を取り巻く環境をどのように変えて行くのかについて理解することです。

### 【到達目標】

本講義では、国内外で発展してきた企業家活動やベンチャー企業経営に関する経営学、社会学研究の理論的枠組みや事例を参照しながら、事業創造の担い手である起業家の活動の実態について明らかにします。そしてそこから、近年の日本にみられる組織現象に対して、より深い理解力、観察力を養うことを目的とします。講義全体を通じて、「事業創造における経営戦略」、「スタートアップ・プロセス」、「事業創造とネットワーク」「事業創造における組織づくり」の4つを主要テーマとして設定し、事業創造にかかわるさまざまな経営現象を考察します。

各回の内容については以下の通りです。テキストはとくに設定しませんが、各テーマの講義において、以下の本をもとに講義の内容を作成しておりますので、是非これらを手にとり、事業で取り上げる箇所とその周辺領域をより深く学ぶようにしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

### 【授業の進め方と方法】

この授業は、ビデオ学習の形式です。講義資料は要約しか記述されていないので、ノートを取りながら学習するようにしてください。また、習熟度を知るための小テストを利用して、授業内容の要点を学習してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	導入－事業創造を取り巻く環境と日本の新規開業者	日本の新規開業企業にみる開業者のプロフィール。事業機会型と非事業機会型。
第02回	導入－企業家と経営戦略	企業家とは何か。企業家の人格と戦略作成。企業家とビジョナリー・リーダー。企業家アプローチの前提条件。
第03回	スタートアップ・プロセス－事業構想とスタートアップ	ベンチャー企業の創業経緯。事業構想とは何か。顧客を獲得するための戦略。事業を始めるリスク。
第04回	スタートアップ・プロセス－ベンチャー企業の成長と組織設計	成長過程における3つの死の谷。ベンチャー企業の存続率。経営チームの組成と組織デザイン。社長によるガバナンスと企業成長。
第05回	ベンチャー企業と戦略－ベンチャー企業の内なる戦略	ベンチャー企業の人的資源と組織設計。自社の資源を活用する事業のしくみの設計。
第06回	ベンチャー企業と戦略－ベンチャー企業の外への戦略	変化と競争優位性。産業のライフサイクル。産業組織の変化。戦略的変革のマネジメント。

第07回	事業創造とネットワーク－ネットワークと組織	経営環境の変化への対応。個人のおかれた環境の変化資源の獲得とマネジメント。組織と市場とネットワーク。
第08回	事業創造とネットワーク－戦略的ネットワーク	戦略的ネットワークとは何か。ヒエラルキー組織から戦略的ネットワークへ。
第09回	事業創造とネットワーク－相互行為のネットワーク	相互行為的ネットワークとは何か。中小企業ネットワークにおける相互行為的なコミュニケーション。商店街の衰退と活性化。組合活動における相互行為的ネットワーク。
第10回	事業創造とネットワーク－事業システム戦略とネットワークの活用	事業システムとは何か。イタリアの中小企業にみる分業のしくみと事業システムの構築。
第11回	事業創造における組織マネジメント－実践のコミュニティ	実践のコミュニティとは何か。実践のコミュニティの形態。ほかの組織とどこがどのように違うのか
第12回	事業創造における組織マネジメント－人的資源の管理	ベンチャー組織の人材マネジメント。動機づけの基本的プロセス、マズローの欲求段階論、X理論とY理論など
第13回	事業創造における組織マネジメント－事業創造とリーダーシップ	ベンチャー企業のリーダーシップ。リーダーシップにおける2つの理論軸。変革型リーダーとは。
第14回	新事業創造支援－大企業における社内ベンチャーと事業創造戦略	社内ベンチャーの仕組みと機能。日本とアメリカの伝統的辞令から見る、社内ベンチャーのしくみの違い。
第15回	新事業創造支援－大学発ベンチャーと産学官民連携	大学発ベンチャーとは何か。大学によってベンチャー創出活動になぜ、格差が生まれるのか。産学官連携の難しさ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

#### 学習方法

事業創造論は経営者の視点に立つことが重要で、日頃から企業の経営に関わるさまざまなことに関心を持つことが重要です。日経新聞から出版されている各種のビジネス雑誌は、もっとも新鮮な話題を提供している。是非そうした情報ソースを活用して役立ててください。ただし、これらの情報は幅広く、その時々常に新しいビジネスの形態について教えてくれますが、これらの経営現象には、一定の傾向や理論的な枠組みに基づいており、そのことをより深く学ぶことが大切です。

本講義を学習するに当たっては、是非、このようなテキストを参照することでより深い洞察や観察力を養いながら、事業創造にまつわる経営現象や組織現象を理解するようにしてください。

本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。各回のスライドの最後に参考文献を表示します。

### 【参考書】

- ① 導入部分：日本政策金融公庫・鈴木『新規開業企業の軌跡』勁草書房 忽那・安田（2005）『日本の新規開業企業』白桃書房
- ② 事業創造における経営戦略：山田（2000）『新事業開発の戦略と組織』白桃書房 ミンツバーク他（1999）『戦略サファリ』東洋経済新報社 榊原・大滝・沼上（1989）『事業創造のダイナミクス』白桃書房
- ③ スタートアップ・プロセス：長谷川（2010）『ベンチャーマネジメント「事業創造」入門』日本経済新聞社 シェーン・金井・渡辺（2005）『大学発ベンチャー』中央経済社 桐畑（2010）『日本の大学発ベンチャー』京都大学学術出版
- ④ 事業創造とネットワーク：若林（2009）『ネットワーク組織』有斐閣 朴（2003）『ネットワーク組織論』ミネルヴァ書房 稲垣（2003）『イタリアの起業家ネットワーク』白桃書房 加護野・井上（2007）『事業システム戦略』有斐閣アルマ

⑤ 事業創造における組織づくり：金井（1991）『変革型ミドルの探求』白桃書房 金井（2004）『組織行動の考え方』東洋経済新報社  
ロビンス・高木（2009）『組織行動のマネジメント 新版』ダイヤモンド社

**【成績評価の方法と基準】**

中間レポートと期末レポートで判定します。

中間レポート = 50%

期末レポート = 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

中間レポートはほぼ自由な作文を求めています。いつもさまざまな視点があることに気づかされます。そうした視点を延ばせるよう、少しでもインタラクティブでありたいと思います。

**【Outline (in English)】**

In this lecture, we will learn about the business creation process of a company in the early stages of its founding, and the managements and organizational behaviors to overcome maturity. Especially, we will deepen our understanding of the activities of small and medium-sized enterprises or venture companies as the main actors of change through some case studies based on the theory of business organization and strategy.

ECN300TG (経済学 / Economics 300)
<b>ファイナンス論Ⅱ／現代ファイナンスB(後期メディア)</b>
<b>山崎 輝</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：(実)

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ファイナンスの中核をなすデリバティブ理論（金融派生商品のしくみ）とポートフォリオ理論（複数銘柄の証券投資）が授業のテーマとなります。これら2つの理論はノーベル経済学賞を受賞し、学術界のみならず金融実務にも革命的な変化をもたらしました。こうした理論には難解な部分もありますが、極力シンプルに理論の本質や金融実務での有用性を理解することを目的に授業を展開します。

### 【到達目標】

本授業では、ファイナンス理論の中でも重要なデリバティブ（金融派生商品）取引とポートフォリオ理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、デリバティブ市場のしくみや役割、デリバティブの価格決定手法、ポートフォリオ理論による合理的な投資意思決定です。授業の到達目標は、①デリバティブ市場の基礎知識や用語を習得する、②デリバティブ取引のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③ポートフォリオ理論に基づく投資決定方法の説明ができる、の3つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

### 【授業の進め方と方法】

デリバティブ市場や関連する金融市場の概観を説明した後に、個別のデリバティブ取引のしくみと無裁定価格理論に基づく価格評価の考え方を解説します。講義後半では、ポートフォリオ理論の初歩的な説明をします。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識（2次方程式、1次関数や2次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書をしますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使いますので用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「短期資金・為替・貸出・預金市場の概要」	デリバティブ市場の予備知識として、短期資金市場・外国為替市場・貸出市場・預金市場の概要について講義します。
第02回	「デリバティブ市場の概要」	デリバティブ市場の概観を解説した後に、主要なデリバティブ市場である先物市場、先渡市場、スワップ市場、オプション市場について講義します。
第03回	「先渡・先物分析入門(1)」	先渡取引のしくみ、代表的な先渡取引、先物取引のしくみ、代表的な先物取引、金融実務での活用例について講義します。

第04回	「先渡・先物分析入門(2)」	無裁定条件、為替ヘッジ付きドル運用による為替予約の価格評価、FRAヘッジ付きロール運用による金利先渡の価格評価、キャッシュ&キャリアー戦略による株価指数先物の価格評価について講義します。
第05回	「スワップ分析入門(1)」	金利スワップと通貨スワップを例にスワップ取引のしくみと金融実務での活用例について講義します。
第06回	「スワップ分析入門(2)」	金利スワップ取引の入門的な価格評価手法や損益計算の方法について講義します。
第07回	「オプション分析入門(1)」	オプション取引の種類やしくみを解説した後に、オプションのペイオフに関する数学について講義します。
第08回	「オプション分析入門(2)」	ブットコールパリティや金融実務でのオプション取引の活用例、オプションをもちいた投資戦略について講義します。
第09回	「オプション分析入門(3)」	1期間2項モデルをもちいたオプションの価格評価方法、複製ポートフォリオ、リスク中立確率について講義します。
第10回	「オプション分析入門(4)」	2期間2項モデルをもちいたオプションの価格評価方法、動的複製ポートフォリオ、オプションのデルタについて講義します。
第11回	「ポートフォリオ理論入門(1)」	ポートフォリオ理論の概要を説明した後に、確率変数・期待値・分散・標準偏差などの確率統計の基礎について講義します。
第12回	「ポートフォリオ理論入門(2)」	共分散・相関係数・独立などの2変数の確率統計の基礎、効用関数、期待効用、リスク回避の投資家の投資行動などについて講義します。
第13回	「ポートフォリオ理論入門(3)」	証券のリスクとリターン、効用無差別曲線、リスク・プレミアム、投資機会集合、効率的フロンティア、接点ポートフォリオなどについて講義します。
第14回	「ポートフォリオ理論入門(4)」	最適ポートフォリオ、トービンの分離定理、マーケット・モデルなどの他に、回帰分析の基礎について講義します。
第15回	「ポートフォリオ理論入門(5)」	市場ポートフォリオ、資本市場線、証券市場線、リスクの市場価格、CAPM、ジェンセンのアルファなどについて講義します。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の復習を十分に行ってください。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

スライド以外には特に指定しません。

### 【参考書】

①『新・証券投資論Ⅱ（実務篇）』（伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009年）、②『新・証券投資論Ⅰ（理論篇）』（小林孝雄・芹田敏夫著、日本経済新聞出版社、2009年）

### 【成績評価の方法と基準】

成績評価の割合は中間レポート40%、レポート試験60%とします。ただし、どちらか一方のみの提出では不可となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションや質問には、極力迅速に対応します。

**【その他の重要事項】**

現代ファイナンスB/ファイナンス論IIは、現代ファイナンスA/ファイナンス論Iの知識を前提としています。現代ファイナンスB/ファイナンス論IIを受講する方は事前に現代ファイナンスA/ファイナンス論Iを受講することをお勧めします。担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

**【Outline (in English)】**

This course provides students with essentials of finance theory. It has three objectives: (1) To introduce fundamental knowledge of financial derivatives and derivatives markets. (2) To explain some types of derivative contracts and valuation methods for derivative products such as futures, swaps, and options. (3) To give an introduction to modern portfolio theory, including the mean-variance approach and the capital asset pricing model.

**【実務経験のある教員による授業科目】**

○

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>消費者行動論(後期メディア)</b>
<b>新倉 貴士</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者の行動は、非常に微妙なものに左右されてしまいます。昨日まで飛ぶように売れていたブランドが、突然売れなくなってしまいます。一体何が消費者の行動を規定しているのでしょうか。当授業では、このような消費者行動について、さまざまな角度から講義します。また、マーケティングとブランド構築への応用のための消費者行動に関する体系的な理解について講義します。履修生は、消費者行動に関する体系的な知識の獲得と、マーケティングとブランド構築のための応用的知識の獲得を目指します。

#### 【到達目標】

当科目の履修生には、以下の3つの目標を掲げます。

- ①消費者行動に関する基礎的かつ体系的な知識とこれまでの歴史的展開を理解できるようになることを目指します。
- ②消費者行動とマーケティングに関する応用的な実務的な知識の獲得を目指します。
- ③消費者情報処理という視点から、消費者行動の背後にある細やかな認知や微妙な態度にも配慮できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、消費者行動論を体系的に学ぶために、授業を5部構成として設定します。第Ⅰ部は「消費者行動分析の基本フレーム」、第Ⅱ部は「環境要因の変化と消費者行動」、第Ⅲ部は「消費者情報処理の分析フレーム」、第Ⅳ部は「購買意思決定プロセスと情報処理」、第Ⅴ部は「購買意思決定の特性とマーケティング」です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書を行いますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	消費者行動とマーケティング	消費者行動とは何か、市場の把握と消費者理解、マーケティングの今日的課題と消費者行動分析について講義します。
第02回	消費者行動の分析フレーム	消費者行動の分析レベル、購買行動分析の視点と枠組み、消費者行動の分析モデルについて講義します。
第03回	消費者行動研究の系譜	消費者行動研究の源流と系譜、モチベーション・リサーチの系譜、ブランド選択モデルの系譜、消費者情報処理研究の系譜、近年の展開について講義します。
第04回	消費行動と消費パターンの分析	生活資源配分と消費行動、消費行動分析の3つのアプローチ、消費様式の選択メカニズムについて講義します。

第05回	消費者行動の変化とその諸相	消費者行動の変化をどう捉えるか、家事の外部化と消費の多様化、インターネットが変える消費者行動について講義します。
第06回	情報処理のメカニズム	情報処理システムとしての消費者、処理能力と処理資源の限界とその克服、消費者情報処理モデル、消費者情報処理とマーケティング対応について講義します。
第07回	情報処理の動機づけ	動機としての問題認識、動機づけとしての目標と目標階層、動機づけられるメカニズム、動機づけられた状態としての関与について講義します。
第08回	情報処理の能力	情報処理能力と知識、長期記憶の仕組み、認知構造の水準、専門知識力について講義します。
第09回	購買意思決定の分析	購買意思決定プロセス、伝統的な意思決定理論、情報過負荷の影響、情報処理の多様性について講義します。
第10回	購買前の情報処理	情報の内部探索、情報の外部探索、情報の解釈メカニズム、解釈の多様性について講義します。
第11回	購買時の情報処理	低関与情報処理、情報処理のモード、相互適応的な情報処理について講義します。
第12回	購買後の情報処理	購買後の再評価、再評価と満足、消費者間の社会的相互作用について講義します。
第13回	購買意思決定プロセスとマーケティング	情報処理プロセスを捉える視点、情報処理プロセスとマーケティング・マネジメント、購買意思決定とマーケティングとの関わりについて講義します。
第14回	購買意思決定の特性とマーケティング	購買意思決定と提案価値のデザイン、購買意思決定と価値伝達のデザイン、購買意思決定とインターネットについて講義します。
第15回	ブランド構築と統合型マーケティングコミュニケーション	コモディティ化からの脱却とブランド構築、ブランド構築のための視点、CBBEから見たマーケティング・マネジメントについて講義します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当する章を事前に読んでおいてください。授業の内容は、スライドに要約してありますので、参照してください。また、各回が終了したら、その内容を再度復習して、次回への準備としてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『消費者行動論：マーケティングとブランド構築への応用』（青木幸弘・新倉貴士・佐々木壮太郎・松下光司、有斐閣アルマ、2012年）。

#### 【参考書】

『消費者行動論：購買心理からニューロマーケティングまで』（守口剛・竹村和久編著、八千代出版、2012年）。

『消費者の認知世界：ブランドマーケティング・パースペクティブ』（新倉貴士著、千倉書房、2005年）。

『ケースに学ぶマーケティング』（青木幸弘編著、有斐閣、2015年）

#### 【成績評価の方法と基準】

1～2までの中間テストは各々25%として、トータル50%を平常点として扱い、レポート試験を50%として扱う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ご質問に対しては、できる限り迅速に、且つ丁寧にフィードバックをさせて頂きたいと思っております。また本年度も、できるだけ多くの方が履修できるようにしたいと思っております。

**【その他の重要事項】**

マーケティング関連科目を履修しておくことが望ましい。

**【Outline (in English)】**

This course is a series of lectures, structured to give students some of the basic, fundamental understandings on consumer behavior and brand marketing strategy.

To understand consumer, students will learn consumer's cognition, attitude, and behavior.

Major course objectives are;

- To introduce students to knowledge about consumer behavior and marketing strategy.
- To learn consumer information processing model.
- To understand the relationship between consumer and brand.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>広告論(後期メディア)</b>
<b>竹内 淑恵</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：〈実〉

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のマーケティングでは、優れた製品を開発して、魅力的な価格を設定し、入手しやすくするだけではなく、現在および潜在的な顧客とコミュニケーションをとる必要があります。したがって、多くのマーケティング者にとっての問題は、コミュニケーションをとるべきかどうかではなく、何を言うべきか、いつ、どのように、誰に、そしてどのくらいの頻度で伝えるかということです。このような観点から、企業はコミュニケーション活動を戦略的に設計し、管理する必要があります。本講義では、コミュニケーション活動の大きな比重を占める広告に焦点を当て、マーケティング・コミュニケーション活動への理解を深めることを目的としています。

#### 【到達目標】

以下に挙げる点が本授業の達成目標です。

- ・マーケティング・コミュニケーションの中でも、特に広告の理論と実務について学び、理解を深める。
- ・新製品の場合、広告によって認知形成が行われることも多い。新発売の告知情報など市場の動向に敏感に反応する力を養う。
- ・企業が発信している広告を通じて企業経営に対して関心を持つ。
- ・レポート課題に積極的に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

- ・授業はパワーポイントを使って、講義形式で進めます。
- ・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。
- ・広告論の基礎となるマーケティング論について理解が十分でないと感じる場合は、参考書に挙げた書籍を用いて復習してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	広告とは何か	広告の定義、広告の種類、広告機能の再検討、広告機能の変化の方向について学ぶ。
第02回	マーケティング計画と広告	広告戦略立案の基礎となるマーケティング、およびマーケティング・コミュニケーションについて学ぶ。
第03回	マーケティング・コミュニケーション組織	広告会社の機能と役割、広告会社と広告主の組織、広告業務の流れを学ぶ。
第04回	広告計画の構造と調査	どのようなプロセスを経て広告計画が立案され、広告が出稿されるのかを学ぶ。あわせて、必要なデータを見極めることの重要性を学ぶ。
第05回	広告戦略の立案	広告活動を方向づけるための戦略立案について理解し、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの決定を学ぶ。

第06回	広告予算の決定方法	日本の広告費の規模を確認した上で、合理的な予算決定方法について学ぶ。
第07回	広告コミュニケーション過程と効果	媒体接触からブランドの使用経験までのプロセスを理解するとともに、消費者行動の観点から広告効果を学ぶ。
第08回	表現計画	広告主の伝えたいメッセージをいかに表現化するのか、広告表現の制作プロセス、表現アイデアの開発について学ぶ。
第09回	媒体計画	広告媒体の種類と特徴、オーディエンスの概念と測定方法、媒体計画の立案プロセスを学ぶ。
第10回	インターネット広告戦略	インターネット広告の概略、分類、戦略について学ぶ。
第11回	広告効果の測定①	広告表現内容による効果とプロモーション効果(短期的なポジティブ効果)、広告への誤認による広告効果プロセスに対する影響(広告のネガティブ効果)について学ぶ。
第12回	広告効果の測定②	広告表現内容による長期的な効果と店頭における販売実績への影響(長期的なポジティブ効果)、広告への飽き(長期的なネガティブ効果)について学ぶ。
第13回	広告関連の法規と規制	表現の自由と広告の自由、広告規制の意義と根拠、日本の広告規制の現状、今後の広告規制について学ぶ。
第14回	グローバル広告戦略	グローバル広告の可能性、標準化とローカル化、グローバル広告管理の課題について学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

広告は、例えば通勤・通学中の電車内の交通広告、TV ドラマで放映されるCM、いつも読んでいる新聞や雑誌、インターネット上の広告など、毎日の生活で接することができます。その際、単に視聴者という立場で見ただけでなく、企業がどのような戦略で広告を実施しているのかを考えながら見るという姿勢を持つと講義内容への理解がより進むでしょう。授業で学習した内容を各自フィールドワークをする気持ちで、実生活のさまざまなメディアを通じて確認することをお勧めします。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

- ・岸志津江・田中洋・嶋村和恵著(2017)『現代広告論第3版』有斐閣(有斐閣アルマ)。
- ・竹内淑恵(2010)『広告コミュニケーション効果-ホリスティック・アプローチによる実証分析-』千倉書房。

#### 【参考書】

- ・コトラー, P., G. アームストロング, 恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。
- 特に、第11章「コミュニケーションによる顧客価値の説得」、第12章「広告とパブリック・リレーションズ」を参考にしてください。
- ・西尾チヅル編著(2007)『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版。特に、第7章「コミュニケーション・デザイン」を参考にしてください。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間テスト1,2を各々25%計50%、そして、レポート試験を50%とし合算して評価します。

(注) 2回実施する中間テストを未受験のまま、レポート課題を提出する受講生がありますが、レポートだけ(最高でも50点)では単位取得できませんので、ご注意ください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。14回あるメディアスクーリングの受講は大変だとは思いますが、皆さんの勉学に向けた努力と熱意に期待しています。一緒に頑張って広告論を勉強しましょう！

**【その他の重要事項】**

メーカーのマーケティング本部広告制作部でブランド広告の企画制作に携わり、広告会社の戦略プランニング室で多数のクライアントの広告プランニングを立案した経験(計20年間勤務)を有する教員が、広告の理論と実務の融合の観点から、多くの事例を取り上げて講義する。

**【Outline (in English)】**

Today's marketing calls for more than developing good products, pricing them attractively, and making them accessible. Companies must also communicate their present and potential customers. For more marketers, therefore, the question is not whether to communicate but rather what to say, when and how to say it, to whom, and how often. From such a point of view, companies need to strategically design and manage communication activities. This class focuses on advertising which accounts for a large part of communication activities, and aims to help students to get a better understanding of marketing communication activities.

**【実務経験のある教員による授業科目】**

○

ECN100TG (経済学 / Economics 100)
<b>経済学入門 I / 経済学入門A(後期メディア)</b>
平田 英明
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：(実)

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解します。ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

#### 【到達目標】

現実の経済事象を理解する上で必要となる理論を学び、現実のビジネスや消費者行動の事例を挙げながら、理解を深めていくことです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP3,DP4」「商業学科：経済学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

ミクロ経済学の基本的な理論を理解することを目標としてレクチャーを行います。そして、ビジネスの現場で起きている事象や消費者行動を、ミクロ経済学的な視点より論理的に考えることができるようになることを目標にしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	市場における需要と供給1	需要の基礎を学びます。
第2回	市場における需要と供給2	需要曲線のシフト、供給の基礎を学びます。
第3回	市場における需要と供給3	供給曲線のシフト、需要と供給の一致（均衡）の基礎を学びます。
第4回	市場における需要と供給4	均衡の変化について様々なケースを学びます。
第5回	弾力性とその応用1	需要の価格弾力性について学びます。
第6回	弾力性とその応用2	供給の価格弾力性、弾力性を考慮した場合の均衡分析について学びます。
第7回	需給と政府の政策1	価格規制の基礎を学びます。
第8回	需給と政府の政策2	課税の基礎を学びます。
第9回	消費者、生産者、市場の効率性1	余剰分析の基礎を学びます。
第10回	消費者、生産者、市場の効率性2	市場の効率性を余剰分析を使いながら理解していきます。
第11回	課税の応用1	余剰分析を使った課税の効果について学びます。
第12回	課税の応用2	弾力性を考慮して余剰分析を行い課税の効果を理解していきます。例題にも取り組みます。
第13回	国際貿易1	海外部門を含めた需給分析と余剰分析を学びます。

#### 第14回 国際貿易2

貿易の余剰分析に関税や貿易制限の影響を学びます。また、国際的な貿易協定について学びます。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は不要ですが、しっかり復習しましょう。例題をきちんと自分で解き、しっかり理解してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。ただし、前半は準備よりも復習に時間をかけて欲しいと思います。直観的な理解を授業を通じて行った上で、理解を深めて頂くのがよいと思います。

#### 【テキスト（教科書）】

『マンキュー経済学I ミクロ編（第4版）』N.グレゴリ・マンキュー著（東洋経済新報社）

第3版をベースに授業は作成していますので、入手できるようでしたら第3版を使って頂いて全く問題ありません。

#### 【参考書】

『クルーグマン ミクロ経済学』ポール・クルーグマン他著（東洋経済新報社）

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポート40%、レポート試験60%で評価する予定です。いずれも4択などの選択方式かそれに準ずる方式の問題です。長文での記述等を求めるようなタイプの出題はしません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

中間試験（中間レポート）、期末試験後、模範解答を求める声が多めに聞かれますが、原則として公開しません。全て授業内で教えている内容の範囲内の内容だからです。正答がわからない場合、自分がどのように解答を導出したかを説明の上、質問をするようにお願いしています。

中間試験がよくても、期末試験が悪いケースが散見されます。いろいろ理由はあるかと思いますが、気を抜かないようにしましょう。

#### 【その他の重要事項】

過去に試験について、Yahoo知恵袋で質問をしているケースが見られました。このような不正行為については、厳正な対処をしますので、絶対にしないようにしてください。このようなオンライン等でのカンニングの可能性を踏まえ、試験期間は中間レポート、レポート試験ともにきわめて限定した期間（2日間程度＜毎年、『法政通信』で日程を確定させて記載＞）で実施します。ご自身のカレンダーを確認の上、履修登録をしてください。

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験有する。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も有する。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたい。

#### 【Outline (in English)】

This class is designed for the students who study economics for the first time. This class offers lectures on introductory microeconomics. The theory of microeconomics is formal but this class tries to teach that as intuitively as possible. In doing so, the lecturer will give you a bunch of examples that can be observed in your real life and that are actually going on in real business. Understanding economics with relevant examples strengthen your knowledge of economics.

#### 【実務経験のある教員による授業科目】

○

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>会計学入門 I (後期メディア)</b>
<b>神谷 健司</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の中心は企業が公表している基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の読み方と、それらを用いた財務諸表分析の基礎を学ぶことである。

#### 【到達目標】

15回の講義を聞いて、毎回の復習を行うことによって、基本的な財務諸表である損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書を読むことができ、基本的な財務諸表分析ができるようになることである。この講義では原則的には個別財務諸表に限定し、連結財務諸表の話は行わない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

原則的には指定テキストに従って説明を行う。パワーポイントを使って説明を行うが、指定テキストを用意し、復習を行うことが必要である。また理解度を確認するために各回ごとに問題を数問用意しているが、指定テキストの問題を解くことによって、各回の重要な論点が身についているかどうかチェックすることが必要である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	通信教育部で会計学を学ぶ意義	通信教育部で会計学を学ぶ意義を考える。また会計分野にはどのような領域があり、本通信教育部ではどのような科目があるかを紹介する。
第2回	財務会計の役割と会計の法的制度	財務会計情報が提供する社会的役割と制度会計の法的枠組みについて学ぶ。
第3回	財務会計の基本構造	財務会計の基本的構造として会計公準と企業会計原則における一般原則について学ぶ。
第4回	財務諸表とは	財務諸表とはどのようなものか。その体系や全体的な内容について学ぶ。
第5回	貸借対照表を読む（1）	貸借対照表の仕組み、資産の概念と分類、流動資産、固定資産、繰延資産について学ぶ
第6回	貸借対照表を読む（2）	負債の概念と分類、流動負債、固定負債、純資産の概念と分類、純資産の諸項目について学ぶ。
第7回	損益計算書を読む（1）	損益計算書の仕組み、損益計算のルール、売上総利益、営業利益といったことを学ぶ。
第8回	損益計算書を読む（2）	経常利益、税引前当期純利益、当期純利益といったことについて学ぶ。
第9回	キャッシュフロー計算書を読む	キャッシュ・フロー計算書の読み方について学習する。

第10回	財務諸表分析（1）	財務諸表分析の基本体系、百分比財務諸表分析について学習する。
第11回	財務諸表分析（2）	成長性分析、安全性の分析、キャッシュ・フロー情報の分析について学習する。
第12回	財務諸表分析（3）	収益性分析、1株当たり分析について学習する。
第13回	実際の企業の財務諸表を読む	実際の財務諸表を読むことによって、今まで学習した財務諸表分析についての基本的事項について復習する。
第14回	財務会計の基礎理論	財務会計において議論されている基本的な考え方や概念フレームワークの基礎などについて紹介するとともに、第5回から9回までの講義の内容のうちいくつかを確認する。
第15回	全体のまとめ	14回の講義の重要な部分を復習し、全体の理解を確認する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的な会計用語を覚えることと、テキストの練習問題を解くことが必要である。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級（第3版）』中央経済社、2014年

#### 【参考書】

桜井久勝『会計学入門（第4版）』（日経文庫）日本経済新聞出版社、2015年

#### 【成績評価の方法と基準】

メディアスクーリング試験にて評価を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど。

#### 【その他の重要事項】

簿記の基本的知識がない方は並行して簿記Ⅰ・Ⅱの学習を行って欲しい。日商簿記3級程度の知識があると本講義の理解も深まります。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand disclosure systems in Japan, and the specific accounting procedures in applying accounting standards. We learn accounting standards of assets items, liabilities items, and shareholders' equities items, revenues and expenses loss accounting. We also will learn the basis of consolidated financial statements, and management accounting.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>マーケティング論 I (後期メディア)</b>
<b>竹内 淑恵</b>
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）： その他属性：(実)

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済のサービス化、グローバル化、ICTの進展や消費者ニーズの多様化など、市場環境は変化しています。こうした環境変化や取引対象の変化に伴って、マーケティングの概念や対象にも変遷があります。しかしながら、その本質は、消費者ニーズを満たす価値を提供する仕組みづくりに集約されるでしょう。

本講義では、顧客創造に焦点を当て、マーケティング上の課題に対してどのように取り組めばよいのか、どのような解決策があるのかを学びます。毎回、具体的なケースを通じてマーケティングの基礎を習得します。

### 【到達目標】

- ・マーケティングに関する知識と技術を習得し、マーケティングの意義や役割について学ぶ。
- ・消費者購買行動の特徴を理解し、顧客の視点からマーケティング活動を計画的、合理的に行う能力と態度を身につける。
- ・レポート課題に取り組むことにより、文章作成・表現力、情報収集・分析力を養う。
- ・マーケティングを通じて企業経営に対して興味・関心を持ち、新製品情報など市場の動向に敏感に反応する力を涵養する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で授業を進めます。
- ・基本的には使用するテキストに沿って丁寧に解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	第1章 マーケティング発想法 - ニューヨークとタイド	消費者のニーズとウォンツについて、性能ではなく、価値で考えることの重要性を学ぶ。
第02回	第2章 マーケティング・ミックスによる顧客創造 - ネスレ日本 キットカット	キットカットの事例を用い、マーケティングの4P(製品、価格、流通、プロモーション)によっていかに顧客創造を行うかを学ぶ。
第03回	第3章 製品による顧客創造 - カモ井加工紙株式会社 マスキングテープ「mt」	マスキングテープ「mt」の事例を用い、製品開発と価値共創のパートナーとしてのユーザー等について学ぶ。
第04回	第4章 価格による顧客創造 - サントマリーザ・プレミアムモルツ	プレミアムモルツの事例を用い、価格設定と価格維持等の価格マネジメントについて学ぶ。
第05回	第5章 チャネルによる顧客創造 - ネスレ日本 ネスカフェアンバサダー	ネスレの事例を用い、コーヒービジネスの既存チャネルの管理、ネスレによるチャネルの構築と管理、これからのチャネル創造について学ぶ。

第06回	第6章 コミュニケーションにおける顧客創造 - ファーストリテイリング ヒートテック	ヒートテックの事例を用い、訴求点の設定(焦点を絞った差別化された表現)、広告コミュニケーション段階の理解と効果的なメディアの利用を学ぶ。
第07回	第7章 顧客理解 - ライオン株式会社「Ban 汗ブロック ロールオン」	Ban汗ブロックロールオンの事例を用い、マーケティングリサーチ、製品開発における各種調査、リサーチにおける留意点を学ぶ。
第08回	第8章 関係構築 - ガンホー・オンライン・エンターテイメント パズドラ	パズドラの事例を用い、関係性パラダイムと交換パラダイム、プラットフォームビジネス等を学ぶ。
第09回	第9章 デジタル・マーケティング - ハウス「ウコンの力」	ウコンの力を事例とし、デジタルマーケティングによる顧客創造、接点構築におけるメディアの使い分け、デジタルメディアの役割等を学ぶ。
第10回	第10章 デイモンドチェーン - カルビー ポテトチップス	カルビーポテトチップスを事例とし、在庫の役割、在庫管理の重要性、2つの在庫管理のデザイン等を学ぶ。
第11回	第11章 ブランド構築 - マンダム ギャツビー	ギャツビーを事例とし、ブランド構築における要点、ブランド構築の鍵概念、ブランドの活性化を学ぶ。
第12回	第12章 営業活動 - カゴメ 瀬戸内レモン	カゴメ瀬戸内レモンを事例とし、営業活動の多様さ、営業活動を進めるためのポイント等を学ぶ。
第13回	第13章 マーケティングの戦略展開 - 花王 ヘルシア緑茶	花王ヘルシア緑茶を事例とし、戦略とは何か、マーケティングと戦略、代表的な戦略定石を学ぶ。
第14回	第14章 社会共生 - トヨタ プリウス	プリウスを事例とし、社会共生を目指すマーケティング、社会的課題の解決への取組みの重要性、社会共生を実現する仕組みについて学ぶ。
第15回	第15章 マーケティング3.0 - P&G	P&Gのマーケティングの歩みを事例とし、マーケティングの構図・発展について学ぶ。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連科目としてマーケティング論IIがあります。あわせて履修するようにしてください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

石井淳蔵・廣田章光・坂田隆文『1からのマーケティング・デザイン』碩学舎(2016年)。

### 【参考書】

- ・西尾チツル編著『マーケティングの基礎と潮流』八千代出版(2007年)。
- ・和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦『マーケティング戦略第5版』有斐閣(2016年)。
- ・コトラー, P, G. アームストロング, 恩蔵直人『コトラー、アームストロング、恩蔵のマーケティング原理』丸善出版(2014年)。

### 【成績評価の方法と基準】

- ・中間テスト1,2は各々25%、トータル50%を平常点として扱います。中間テストを受けていないと成績評価に大きく影響しますので、必ずテストを受けてください。
- ・最終課題であるレポート試験を50%として扱い、平常点と加算して評価します。
- ・平常点50点+レポート課題50点、計100点満点とし、60点以上が合格となります。

### 【学生の意見等からの気づき】

- ・授業を受講して質問等がある場合は、「お知らせ」や「学習に関する質問」を活用してください。
- ・授業の受講に加えて、レポート課題が負担になるという感想を持つ受講生もいると思いますが、「単位取得」のため、それ相応の努力をお願いしたいと考えています。

発行日：2024/5/29

・皆さんの勉学へ向けた努力と熱意を期待しています。一緒に頑張っ  
てマーケティング論を勉強しましょう！

**【その他の重要事項】**

メーカーのマーケティング本部広告制作部と広告会社の戦略プラン  
ニング室に計20年間勤務した経験を有する教員が、理論と実務の融  
合を目的に、毎回具体的な事例を取り上げて、マーケティングの理  
論を解説する。

**【Outline (in English)】**

Market environments, such as progress of the service economy,  
globalization, ICT and diversification of consumer needs, are  
changing. With changes of those environments and trading  
objective, there have been transitions in the concept and  
objective of marketing. However, its essence is ultimately to  
create a mechanism providing value to satisfy consumer needs.  
In this course, we will focus on customer creation and learn  
how to deal with marketing problems and how to solve them.  
In each lecture, we learn the basics of marketing through case  
studies.

**【実務経験のある教員による授業科目】**

○

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>管理会計論 I (後期メディア)</b>
北田 智久
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

管理会計とは、組織管理に不可欠な経済的情報を提供する理論と技術である。したがって、管理会計の学習にあたっては、単に計算テクニックを使えるというだけでなく、組織実践との関係で、経営管理とは何であるかについて理解する必要がある。そのため講義では、企業の構想を実現するため会計の仕組みについて、組織構造との関係のなかで理解を試みる。

#### 【到達目標】

経営管理問題と管理会計との関係についての知識の習得を目指します。管理会計情報が経営管理における問題ごとに異なる会計情報が利用されること、またそのときに必要となる財務・非財務情報について理解することを目指します。また関連した計算方法を使えるようにすることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP2,DP3」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進めるとともに、随時、計算問題や復習のための問題演習を取り入れていきます。そのため、講義を聴くだけでなく、授業中に設定されている問題についても必ず取り組むようにしてください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、費用の考え方の紹介
第2回	固定費と変動費 1	固定費と変動費、貢献利益
第3回	固定費と変動費 2	損益分岐点
第4回	固定費と変動費 3	固定費のマネジメント
第5回	固定費と変動費 4	固定費とビジネスモデル
第6回	固定費と変動費 5	セールズミックス
第7回	固定費と変動費 6	固定費分解
第8回	マネジメントコントロールシステム 1	PDCA サイクル
第9回	マネジメントコントロールシステム 2	上司と部下の関係
第10回	マネジメントコントロールシステム 3	4つのコントロール
第11回	マネジメントコントロールシステム 4	コストセンター・プロフィットセンター
第12回	経営計画 1	計画の種類
第13回	経営計画 2	中期経営計画とその改定
第14回	経営計画 3	短期利益計画

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に復習を通じて知識の習得を行ってください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

谷武幸(2013)『エッセンシャル管理会計（第3版）』中央経済社

#### 【参考書】

浅田孝幸監訳(2008)『管理会計のエッセンス』同文館

#### 【成績評価の方法と基準】

「中間レポート」40%と「メディアスクーリング試験」60%との総合評価とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline (in English)】

Management Accounting is an essential tool that enhances a manager's ability to make effective economic decisions. This course teaches students how to extract and modify costs in order to make informed managerial decisions.

MAN300TG (経営学 / Management 300)
<b>税務会計 I (後期メディア)</b>
大下 勇二
カテゴリー：後期メディア   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：後期 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「税務会計 I」では、会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的考え方を学習します。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる能力の涵養を目的とします。

#### 【到達目標】

法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価配分を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することを目標とします。これにより、法人課税上の諸問題を考え理論的に整理できる基礎的能力の修得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法政学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は、わが国法人税法の課税所得計算に関する主要項目をスライドに基づき講義する形で進めていきます。各自各章の最後の○×問題を解答した上で次の章に進みます。また、受講生には中間レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
①	法人税の基礎(1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
②	法人税の基礎(2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
③	課税所得計算の基礎(1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
④	課税所得計算の基礎(2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税所得計算の特徴を理解する。
⑤	売買損益等の計算(1)	売上収益の認識等を中心に売買損益計算の基礎を学習する。
⑥	売買損益等の計算(2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
⑦	その他の収益の計算(1)	受贈益、受取配当等(前半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑧	その他の収益の計算(2)	受取配当等(後半)の営業外収益の計算の基礎を学習する。
⑨	売上原価の計算(1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
⑩	売上原価の計算(2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
⑪	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を理解する。
⑫	固定資産の減価償却(1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。

- ⑬ 固定資産の減価償却(2) 耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習する。
- ⑭ 繰延資産の償却 税法上の繰延資産の考え方を学習し、税法固有の繰延資産を理解する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定した通教テキストを読んでおくこと。また、中間レポートの提出が求められます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

通信教育部テキスト  
大下勇二著『税務会計 I・II』法政大学,2019年

#### 【参考書】

必要に応じて指示する予定。

#### 【成績評価の方法と基準】

中間レポートの提出(必須)と修了試験により評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

法人税課税の問題について、各自自分なりの問題意識をもって授業に参加してもらおう。

#### 【Outline (in English)】

The objective of Tax Accounting I is to understand the foundations of corporate tax accounting in Japan.

ECN300TG (経済学 / Economics 300)

## 国際金融論Ⅱ (後期メディア)

横内 正雄

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代はグローバル化の時代といわれるが、その中でも金融グローバル化（金融化）が著しく進んできている。日々のニュースなどでは、この金融グローバル化に関連した出来事がしばしば取り上げられてきている。国際金融論Ⅱでは、国際金融の基礎的な理論を理解した上で、金融グローバル化が進んできた歴史的な過程と国際金融の現状について学ぶ。

## 【到達目標】

国際金融論Ⅱは、国際通貨体制や国際金融の現象について、第一次大戦前の国際金本位制から現在に到るまでをだどりながら、その背後にある流れを捉え、国際金融の現状をより深く理解することを目標とする。この講義を通じて日頃われわれが耳にする国際金融のニュースが理解しやすくなれば良いと考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP5」「商業学科：経済学」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義はパワーポイントを用いるとともに、個別のテーマについて毎回完結した内容の講義を行う。また、できる限り多くの資料を用いることによって理解しやすいように努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際通貨体制とは何か。その定義と分析視角について学ぶ。
第2回	第一次大戦前の国際金本位制	第一次大戦前の国際金本位制の基本的な特徴について学ぶ。
第3回	両大戦間期の国際通貨システム	両大戦間期の再建金本位制がなぜ短命に終わったのかを学ぶ。
第4回	IMFの形成	1930年代の国際金融の混乱と戦後の国際通貨体制を構想したブレトンウッズ会議での議論について学ぶ。
第5回	ブレトンウッズ体制(1)	戦後のブレトンウッズ体制の基本的な特徴について学ぶ。
第6回	ブレトンウッズ体制(2)	戦後のブレトンウッズ体制の問題点とその崩壊過程について学ぶ。
第7回	変動為替相場制度	変動為替相場制度の長所と短所および様々な為替相場制度の特徴について学ぶ。
第8回	石油危機と累積債務問題	1970年代の石油危機が国際金融にもたらした影響と1980年代の途上国の累積債務問題について学ぶ。
第9回	1980年代の日米経常収支不均衡	1980年代以降生じている日米の経常収支不均衡の問題について学ぶ。

第10回	国際金融の政策協調	1980年代のドル高を是正するための国際政策協調の過程と国際政策協調の理論について学ぶ。
第11回	1990年代の円高問題	1990年代の円高をもたらした要因と内外価格差の原因について学ぶ。
第12回	欧州通貨統合	ユーロの導入に到る欧州の通貨統合の過程について学ぶ。
第13回	通貨危機	1990年代の3つの通貨危機についてその過程をたどるとともに通貨危機の理論を学ぶ。
第14回	通貨危機から金融危機へ	1997年のアジア通貨危機から2008年のリーマンショックに到るまでの国際金融の流れを学ぶ。
第15回	ユーロ危機	ギリシャの経済危機に端を発するユーロ危機についてその過程と背景について学ぶ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に国際金融論に関する文献の中の該当する箇所を読んで講義に臨むと理解しやすい。文献は特に指定しないが、以下の参考文献として挙げているもののうち初級レベルのものが読みやすい。また、日頃からテレビや新聞などの国際金融に関するニュースに関心を持つておくことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

## 【参考書】

- (1)初級レベルの参考書  
 ・秦忠夫・本田敬吉・西村陽造『国際金融のしくみ』[第4版]有斐閣、2012年  
 ・山本栄治『国際通貨システム』岩波書店、1997年  
 ・石見徹『国際通貨・金融システムの歴史』有斐閣、1995年
- (2)中級レベルの参考書  
 ・上川孝夫・矢後和彦編『国際金融史』有斐閣、2007年  
 ・上川孝夫『国際金融史』日本経済評論社、2016年  
 ・田中素香・岩田健治編『現代国際金融』有斐閣、2008年  
 ・勝悦子『新しい国際金融論』有斐閣、2011年  
 ・川上孝夫・藤田誠一編『現代国際金融論』[第4版]有斐閣、2012年
- (3)資料集  
 ・神田真人編『図説国際金融2015-2016年版』財経詳報社、2015年

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30％）と試験（70％）による。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline (in English)】

Today, the progress of financial globalization is remarkable. The purpose of this lecture is to understand the history and current situation of international finance. Through this lecture, you can deepen the understanding of contemporary international financial events.

MAN300TG (経営学 / Management 300)

## 日本経営論(後期メディア)

## 金 容 度

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義する。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象について考える能力を高める。

## 【到達目標】

この授業の到達目標は、第1に、国際比較を通じて日本の企業システムの特異性と普遍性を理解すること、第2に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第3に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP4,DP5」「商業学科：経営学・商学,自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

## 【授業の進め方と方法】

第1講はイントロダクションと、「日本的経営」についての議論の流れを概観します。第2講から第5講では、日本の経営についての国内外の諸議論を具体的に検討し、第6講から第10講までは日本の企業システムの特徴を踏まえて、アメリカや韓国の企業システムとの比較を行います。第11講から15講では、日本の企業間関係に焦点を合わせて、企業間取引、メインバンクシステム、企業集団を検討します。その際、各国の多様性と共通性の総合的な理解に重点をおきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	全15講の概観、「日本的経営論」の流れの概観	本授業で日本の企業経営を見る主な視点を説明した上で、日本の経営についてのこれまでの研究動向を講義する。
第02回	「日本的経営特殊論」	間宏氏の議論を中心に、日本の企業経営の特異性を強調する議論を検討する。
第03回	「日本的経営普遍論」	小池和男氏の議論を中心に、日本の企業経営の普遍性を強調する議論を検討する
第04回	日本の経営についての海外からの議論(1)	ジェームス・アベグレン氏とエズラー・ヴォーゲル氏の議論を中心に、日本企業についてのアメリカでの議論について講義する。
第05回	日本の経営についての海外からの議論(2)	ウィリアム・オオウチ氏のZ理論、パスカルとエイソスジェームス氏の議論について講義する。
第06回	戦後日本企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などを中心に、日本の企業システムを考察する
第07回	日米の労使関係史比較：「3種の神器」は日本だけの特徴だったのか？	工業化初期と成長期の日米労使関係にどのような類似点が存在したかを講義する。

第08回	日米の企業システムの比較(1)：1970年代までの米企業システムを中心に	日米の共通点に注目して、19世紀末から20世紀前半までの米企業の特徴を描き出す。
第09回	日米の企業システムの比較(2)：1980年代以降の米企業システムを中心に	主に、1980年代以降のアメリカ企業の変化を検討し、日本の企業経営への示唆点を検出する。
第10回	日韓の企業システムの比較	企業システムの日韓比較を行う。
第11回	日本の企業間取引の特徴：自動車産業の事例	戦後、日本の自動車部品取引の事例を取り上げ、日本の企業間関係の特徴を考察する。
第12回	日米の企業間取引の比較：自動車産業の事例	米自動車産業における企業間取引の歴史と特徴を検討した上で、日米比較を行う。
第13回	日韓の企業間取引の比較：自動車産業の事例	韓国の自動車産業における企業間取引の歴史と特徴を検討した上で、日韓比較を行う。
第14回	メインバンクシステム	企業間関係の事例として戦後のメインバンクシステムを、市場性と組織性の絡み合いという視点から講義する。
第15回	企業集団	企業間関係の事例として企業集団を取り上げ、その特徴、機能、最近の変化を、市場性と組織性という視点から講義する。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書の中で、毎回授業テーマに関連すると思われる部分を事前に読んでから授業に臨んでください。また、復習の際、毎回の授業中に紹介される参考文献のうち、少なくとも1点を読んでください。これは、復習時の理解度を高める重要な方法です。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

指定はありません。

## 【参考書】

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直『現代日本経済』（第3版）有斐閣、2011年  
 浅沼萬里『日本の企業組織革新的適応のメカニズム』東洋経済新報社、1997年

## 【成績評価の方法と基準】

中間レポート(30%)、メディアスクーリング試験(70%)で成績評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

もし、授業内容についての質問があれば、中間レポートの提出時、中間レポートの最後に一緒に書いて提出してください。中間レポートの採点后、レポートについてのコメントと共に、質問への答えも返します。

## 【Outline (in English)】

I will lecture the status quo and history of business management in Japan with international comparison. The objective of this course is to understand business management in Japan more deeply from the perspective of international comparisons.

ECN300TG (経済学 / Economics 300)

## ファイナンス論 I / 現代ファイナンスA(後期メディア)

山崎 輝

カテゴリー：後期メディア | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：後期  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』2月号受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：  
 その他属性：〈実〉

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融・証券市場の基礎知識および債券と株式を対象とした証券分析がテーマとなります。

## 【到達目標】

本授業では、初めてファイナンスを学ぶ学生を対象にファイナンス理論の入門的な内容を講義します。主なテーマは、金融・証券市場の基礎知識と債券・株式の計量分析です。授業の到達目標は、①金融・証券市場の基礎知識を習得する、②株式と債券のしくみを理解し、基本的な計量分析や価格評価ができる、③初等的な確率論をもちいて不確実な将来キャッシュフローの評価手法を説明することができる、の3つになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3,DP5」「日本文学科：DP1,DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1,DP2,DP3」「経済学科：DP1,DP4,DP5」「商業学科：会計学・ファイナンス」に関連

## 【授業の進め方と方法】

金融・証券市場の概観や基礎用語を紹介した後に、金融商品の現在価値の考え方や株式・債券の基本的な分析手法を解説します。分析に必要な数学の解説は適宜行いますが、中学・高校のごく簡単な数学の知識（2次方程式、1次関数や2次関数のグラフ、べき乗・平方根・文字式の計算など）は予備知識として必要です。授業の方法は、講義形式で行います。スライドを事前に準備しますので、講義内容に合わせて参照してください。また、適宜ホワイトボードに板書しますので、必要に応じてメモをとるようにしてください。計算例題では電卓（関数電卓やエクセルなどの表計算ソフトでも可）を使いますので用意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第01回	「金融・証券市場の概観」	金融・証券市場の分類、機能、店頭取引と取引所取引、部門別資金過不足などについて概説します。
第02回	「本邦の債券市場」	債券の種類、発行形態、国債市場と社債市場、発行市場と流通市場などについて講義します。
第03回	「本邦の株式市場」	株式の種類、株式の保有構造、売買のしくみ、発行市場と流通市場などについて講義します。
第04回	「キャッシュフローと現在価値(1)」	キャッシュフローの概念を矢印図をもちいて把握する方法、将来価値、現在価値、複利の概念について講義します。
第05回	「キャッシュフローと現在価値(2)」	付利期間、連続複利、割引率の概念、連続複利でもちいられるネイピア数について講義します。
第06回	「債券分析入門(1)」	利付債と割引債の価格計算、債券投資の収益率、パーレートの概念について講義します。

第07回	「債券分析入門(2)」	スポットレートとフォワードレートの概念について講義します。
第08回	「債券分析入門(3)」	金利の期間構造、イールドカーブの決定仮説、イールドカーブの間の関係について講義します。
第09回	「債券分析入門(4)」	債券投資のリスク、債券のリスク分析、デフレーションによる債券価格の近似方法について講義します。
第10回	「債券分析入門(5)」	債券の信用リスクと格付けについて概説した後に、社債分析で必要な確率の基礎知識（事象、確率測度、確率変数、期待値など）について講義します。
第11回	「債券分析入門(6)」	社債価格の評価手法、企業の経験的デフォルト率、インプライド・デフォルト率について講義します。
第12回	「株式分析入門(1)」	株価評価モデルである配当割引モデル（ゼロ成長モデル、定率成長モデル）について講義します。
第13回	「株式分析入門(2)」	株価評価のための財務分析を概説した後に、配当割引モデルによる株式分析について講義します。
第14回	「株式分析入門(3)」	株価評価モデルであるフリーキャッシュフロー割引モデルと残余利益モデルについて講義します。
第15回	「株式分析入門(4)」	PER、PBR、配当利回り、益利回り、企業価値EBITDA比率などの株式投資尺度について講義します。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スライド資料の復習を十分に行ってください。  
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

スライド以外には特に指定しません。

## 【参考書】

『新・証券投資論Ⅱ（実務篇）』（伊藤敬介他著、日本経済新聞出版社、2009年）

## 【成績評価の方法と基準】

成績評価は中間レポート40%、レポート試験60%の合計100%です。ただし、単位取得のためには中間レポートの提出は必須となります。レポートの内容によってメディアの授業（小テストを含む）の理解度を確認し、成績評価を決定します。したがって、メディア授業の理解と小テストへの取り組みが何よりも肝要となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

「ファイナンスは難しい学問である」との印象を持っている学生が多いようですが、基礎からしっかりと学べる講義となっています。現代の経済・経営を理解するためには必須の内容なので、みなさんの積極的な受講を期待しています。

## 【その他の重要事項】

担当教員は、民間金融機関及び中央銀行において、証券投資や金融市場調査などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとファイナンスの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

## 【Outline (in English)】

This course offers an introduction to finance theory to students who start learning finance. It has three objectives: (1) To provide students with fundamental knowledge of financial transactions, securities, and financial markets. (2) To give students basic tools for analyzing securities such as government bonds, corporate bonds, and stocks. (3) To provide students with an introductory asset pricing theory for evaluating the present values of uncertain future cash flows.

発行日：2024/5/29

【実務経験のある教員による授業科目】

○

HUG100TA (人文地理学 / Human geography 100)
<b>人文地理学 (ゴールデンウィークスクーリング)</b>
<b>前畑 明美</b>
カテゴリー：ゴールデンウィーク   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海の誕生とともに存在しているといわれる島は、一見すると水に閉ざされた小さな静的空間のように思われます。しかし、地球上の様々な生物や人間社会の諸活動という観点から島を捉えていくと、海と陸との普遍的な関係性のなかで展開されているダイナミックな島々の姿が見えてきます。本科目では、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、島々の一般的性質や多様な姿を理解していくことを目的としています。

### 【到達目標】

全12回の授業を通して、島に関する基礎知識、および「島嶼性」という島の特性について理解していくことを目指します。その上で、国内外でみられる島々の興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、またどのような意味を有しているのかなど、総合的にそして論理的に考えて説明できるようになることを最終目標としたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式ですが、プリント教材等に沿いながら、出席者の個人的経験や見解を交えつつ授業を進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、重要事項の説明	授業の概要説明、大学で学ぶ地理学と人文地理学、日本の暮らしと島
第2回	「島嶼性」と日本の島々	島の定義、島嶼性、島々のネットワーク
第3回	「島嶼性」と世界の島々	チリ・イースター島とアイルランド・アラン諸島
第4回	島々の自然	島の誕生、島の気候・風・水・生態と人々の対応
第5回	島々の歴史	太平洋の島々におけるバード・ラッシュと現代社会
第6回	島々の文化	戦後日本の図書館運動と島
第7回	島々の産業と現在(1)	島々の石材産業の盛衰
第8回	島々の産業と現在(2)	島々の石炭産業の盛衰
第9回	島々の産業と現在(3)	島々のエネルギー産業の変質と海外の先進事例
第10回	日本の島嶼政策(1)	戦後の島の政策と公式統計データによる検証
第11回	日本の島嶼政策(2)	架橋島の現状と交通の比較
第12回	まとめ、試験	雑誌『嶋』と人々の島嶼観、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を配布します。

### 【参考書】

高等学校用の地図帳を持参いただくと、位置確認が容易となり役立ちます。

参考文献は初回時をはじめ授業内で随時紹介していきますが、ぜひ授業前に以下の文献のいずれかと、興味のもたれる一般書を1冊程度通読いただきたいと思います。

- ・嘉数啓（2019）：『島嶼学』古今書院 ￥3,800＋税
  - ・ステイーヴン・A.ロイル、中俣均訳（2018）：『島の地理学：小さな島々の島嶼性』法政大学出版局 ￥4,400＋税
  - ・田辺悟（2015）：『島』法政大学出版局 ￥3,200＋税
- 法政大学の図書館、もしくは最寄りの図書館をご活用ください。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（50％）・期末試験（50％）  
質問やコメントなど積極的な姿勢を評価いたします。

### 【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識しながら授業に臨むようにしてください。

### 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

### 【Outline (in English)】

The island that exists with the birth of the sea seems to be a small, quiet space enclosed by water. However, when we look at the island from the viewpoint of various living things on the earth and activities of human society, we can see dynamic islands in the universal relationship between the sea and land. The purpose of this course is to study many islands based on maps, charts, statistics, videos, photographs, and various other materials, and to grasp their general nature and the diversity of islands.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法学特講 (ゴールデンウィークスクーリング)</b>
<b>岩垣 真人</b>
カテゴリー：ゴールデンウィーク   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

戦後、行政国家化が進む中で、国も地方も、その財政の規模を著しく拡大させながら発展を進めてきました。1990年代以降は、そのような財政のあり方には厳しい批判も相次ぎ、また、自治体の破綻などということも現実味を帯びるようになりました。では、そのような財政は、どのような法的規律の下に置かれているのでしょうか。

この講義では、①予算を中心に、国の財政を規律する財政法について理解を深め、さらに②地方財政法を中心に、自治体の財政が置かれる枠組みについて、あわせて考え、そして行政法総論との関係を意識しながら③行政法各論としての財政法を把握できるよう、進めていきたいと思います。

### 【到達目標】

- ①財政法を中心として、国の財政法制について理解することができる。
- ②地方財政法を中心として、地方自治体の財政法制について理解することができる。
- ③行政法総論の内容と関連付けながら、行政法各論としての財政法を理解することができる。
- ④財政法制について、①～③の内容を中心に、論理的に述べ、表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP3, DP4」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

通常の講義形式で行います。ときおり、書画カメラを利用して、グラフ等の資料を表示させながら説明を加えていきたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この講義は、法学の講義のうち、どのように位置づけられるものであるのか説明します。
第2回	日本の財政についての概観	現在、日本の財政が置かれている環境について説明します。
第3回	財政法概説	行政法各論としての財政法の位置づけについて解説します。
第4回	予算総論	予算の性質や種類について、総論的な説明を行います。
第5回	予算の編成	財政法や予決令が規定する、予算編成過程について説明します。
第6回	予算の執行	財政法や予決令が規定する、予算の配賦・執行過程について説明します。
第7回	公債制度	財政法が規定する公債制度について説明します。
第8回	国庫債務負担行為	財政法が規定する国庫債務負担行為について説明します。
第9回	決算	財政法や会計検査院法が規定する決算制度について説明します。
第10回	地方財政法① (歳入)	地方自治体の財政作用について、歳入面を解説します。

- 第11回 地方財政法② (歳出と財政規律) 地方自治体の財政作用について、歳出面を解説し、併せて財政規律のための制度についても説明します。
- 第12回 スクーリング試験 試験を実施し、試験内容について解説を行います。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト (教科書)】

小村武『予算と財政法 五訂版』(新日本法規出版)  
六法 (ポケット六法、デイリー六法などのサイズのもの) も必ず持参して下さい。

### 【参考書】

財政法全体を見渡すものとして、古典的な存在になりつつありますが、杉村章三郎『財政法 新版』(有斐閣、1982年)があります。それより少し最近 (といっても古いですが) のものとしては横重博『財政法原論』(弘文堂、1991年)を挙げる事ができます。

予算についての法制度を解説するものとしては、小村武『予算と財政法 五訂版』(新日本法規、2016年)があります。

地方財政法を含む、地方 (自治) 法制についてコンパクトに解説するものとしては、松村亨『基礎から学ぶ 入門地方自治法』(ぎょうせい、2018年)を挙げる事ができるでしょう。

日本財政を取り巻く現況については、湯本雅士『日本の財政はどうなっているのか』(岩波書店、2015年)がコンパクトにまとめています。また、詳細に、かつ最新の内容で、予算をベースに説明するものとして、宇波弘貴編『図説 日本の財政 平成30年度版』(財経詳報社、2019年)があります。なお、後者については、毎年春に新しいものが出ますので、購入する際は、平成31年度版を購入するのが良いでしょう。

財政法と密接な関係を持つ学問領域に、財政学があります。財政学の教科書は大変多いですが、どちらかという、公共経済学系統の教科書ではない、財政学の教科書の方が、財政法を学習するに際しては、理解に資するのではないかと思います。ここでは、さしあたり、佐藤進=関口浩『新版 財政学入門』(同文館出版、2019年)を挙げておきます。

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 (スクーリング最終日に実施する試験) による評価を100%として、成績評価を行います。試験では、ノートと六法のみ持ち込み可とします。

試験問題は、基本的な問題を60点分、応用的な問題を40点分出題する予定です。基本問題では、「到達目標」に記載した内容①～③について、基本的な知識が身につけているかを問い、応用問題では、その基本的な知識を使って、発展的な論理展開ができるかどうかを問います。「到達目標」④に挙げたとおり、自分の理解を、適切に表現する、表現力も評価の対象になります。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

特になし。

### 【Outline (in English)】

Since the end of World War II, the national and local governments have advanced their development while significantly expanding the scale of their public finances. Since the 1990s, there have been a series of severe criticisms of such fiscal policy, and the failure of local governments has become a reality.

In this lecture, you will: (1) deepen your understanding of the Fiscal Law that regulates the national finance, with a focus on the budget; (2) consider the framework in which local government finances are placed, with a focus on the Local Finance Law; and (3) understand the fiscal law as a specific administrative law, while paying attention to the relationship with the General Principles on Administrative Law.

BSP100TF（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）
<b>総合特講（ゴールデンウィークスクーリング）</b>
<b>齋藤 経史</b>
カテゴリー：ゴールデンウィーク   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ICT [Information and Communication Technology（情報通信技術）] の発達・普及により、IoT [Internet of Things（モノのインターネット）]、クラウド、AI（人工知能）の活用に注目が集まっています。本講座では、これらのICTを利用するデータ活用を包括的に学習します。受講者はIoTによるデータ収集、クラウドへのデータ蓄積、プログラミングやAIによるデータ分析・活用の全体像と各論を学ぶことができます。

### 【到達目標】

受講生は「IoTによるデータ収集」「クラウドによるデータ蓄積」「プログラミングやAIによるデータ分析」の全体像と各論を総合的に理解することができます。IoTやクラウドサービスに関する概要を事例を含めて理解できます。また、データ分析・活用のデモンストレーションを見ることで、受講者のPCでも再現できるデータ分析の流れを習得できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

### 【授業の進め方と方法】

3日間のそれぞれ4コマの授業において、講義を主体とする授業が2～3、講師によるデータ活用・分析のスクリーンでの実演を主体とする授業が1～2にて構成します。講義を主体とする授業においては、講師の説明を聞く形で学習します。一方、実演を主体とする授業においては、講師のデモンストレーションを見ることで、分析やデータ活用の流れを把握します。なお、最後のコマにおいては、受講生の理解度を確認する試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	IoTとデータ収集技術	IoTの概論とデータ活用の全体像を示します。また、IoTのデータ収集技術を紹介しします。
第2回	xRとロボット	xR(AR, MR, VR)の概要と利用事例を紹介しします。また、IoTの一種としてロボット・ドローンを示しします。
第3回	ビッグデータとオープンデータ	ビッグデータとオープンデータのそれぞれの特徴と利用例を紹介しします。
第4回	RESAS（地域経済分析システム）の活用【RESAS実演】	ウェブブラウザを使って地域データを可視化するRESAS（地域経済分析システム）の実演を行います。
第5回	APIと改正個人情報保護法	API (Application Programming Interface) の概要と利用例を示しします。また、改正された個人情報保護法の概要を示しします。

第6回	クラウドの定義と分類	クラウドの意味と出自を説明し、クラウドのサービスモデル、実装モデルの概要と事例を示しします。
第7回	クラウドの特性と新たな利用方法	クラウド利用に関する国内企業の意見およびデータ分析などに利用するクラウドの使い方を示しします。
第8回	基本統計量の作成【Excel実演】	代表的な基本統計量の意味を示し、Excel使った統計量の作成を実演しします。
第9回	相関と回帰分析【Excel実演】	相関分析、回帰分析の特性、用途、出力をExcelの分析ツールを利用して示しします。
第10回	人工知能とICT活用事例	近年の人工知能に関する技術の進展を示し、ICTの活用事例を分野別に紹介しします。
第11回	プログラミングによるデータの分析（R、Python）【R、Python実演】	プログラミング言語RおよびPythonによるデータ分析の実演を行います。
第12回	試験	試験 授業の理解度を確認するための試験を行います

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講師が作成に携わった総務省ICTスキル総合習得プログラム ([http://www.soumu.go.jp/ict\\_skill/](http://www.soumu.go.jp/ict_skill/)) に準じた講座となるため、概要把握や予習・復習を行うことができます。なお、授業時間や効果的な学習を考慮して、総務省ICTスキル総合習得プログラムの再編成を行い、最新事例をアップデートした教材で学習します。

### 【テキスト（教科書）】

各授業での教材投影・プリント配付を行うため、教科書は使用しません。

### 【参考書】

必要および関心に応じて、ICTスキル総合習得プログラムの参考文献リスト ([https://keijisaito.info/pdf/hosei\\_ict\\_ref.pdf](https://keijisaito.info/pdf/hosei_ict_ref.pdf)) を参照してください。

### 【成績評価の方法と基準】

出席点と12コマ目の試験の点数の総合点を用いて成績をつけます。

### 【学生の意見等からの気づき】

前年度は、情報実習室にて受講生によるPC操作を交えて実習を行いました。本年度は受講生用のPC設備のない大教室にて講義とスクリーンでの操作実演にて行います。昨年度の実習方式の方が操作方法をより実感として理解しやすい一方で、本年度の実演方式の方がより多様なデータ・分析方法を紹介できることが見込まれます。

### 【学生が準備すべき機器他】

筆記用具以外には学生の準備物は不要です。ただし、講師の実演内容を自分のPCですぐに実習したい場合は、ノートPCを持参すると有益と考えられます。

### 【その他の重要事項】

PCのウェブブラウザでのインターネット閲覧、Excelでの表やグラフの作成ができる程度の基本的なPCスキルを持っていることを前提条件とします。

### 【Outline (in English)】

This lecture shows the over all picture of data utilization related to "Information and Communication Technology". Students comprehensively learn "data collection by IoT", "data accumulation by cloud service", and "data analysis by programming and AI".

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (ゴールデンウィークスクーリング)</b>
<b>溝部 陽司</b>
カテゴリー：ゴールデンウィーク   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経営戦略論・組織論の基礎と応用

経営学特講では社会人の教養として必要な企業経営に関する知識について解説します。

#### 【到達目標】

経営学の主な領域である「戦略論」と「組織論」に関し、基礎的な知識習得だけでなく、現実の企業を分析する方法論として応用する能力を養う事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：経営学・商学、自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形態

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	テキスト第2章「戦略論入門」	戦略論の基礎講義
第2回	事業領域(ドメイン)の捉え方	ケース：Canon, Panasonic
第3回	戦略分析フレームワーク (1)	PPM, Five Forces, アンゾフのマトリクス
第4回	戦略分析フレームワーク (2)	SWOT, VRIO
第5回	戦略分析(応用編)	ケース：化粧品業界
第6回	テキスト第6章「経営戦略とイノベーション」	多角化戦略 他
第7回	新技術と全社事業戦略	ケース：東レ (炭素繊維複合材料)
第8回	企業活動+企業組織の捉え方	製品・機能・地域の3軸 他
第9回	テキスト第1章「組織論の基礎」	組織の階層化、ライン・アンド・スタッフ組織
第10回	テキスト第3章「組織構造の構築」	職能制・事業部制・マトリクス組織 他
第11回	小レポートの発表とコメント	応用分析のポイント指導
第12回	試験	(筆記式)

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストの第1・2・3・6章を読んで、講義に臨んで下さい。

※「小レポート」について

Step.1:第1日目講義の分析フレームワークを用いる事。(自分の興味のある分析対象企業を選定し、情報を集めておきましょう)

Step.2:第2日目講義のケース分析事例などを参考に、事業概要、競争優位性、今後の技術や商品開発の方向性などについて分析しppt.8-10スライド程度にまとめる。

Step.3:ファイル添付で、指定の@hosei.ac.jp アドレスに送付。(5月3日午前0時必着)またはプリント提出は第3日目講義開始時に受理する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

河口治夫・行本勢基『入門・経営学<第2版>』(2012)同友館 ¥2,376

#### 【参考書】

琴坂将広『経営戦略原論』(2018)東洋経済新報社 ¥2,180

購入を義務付けるものではない。

#### 【成績評価の方法と基準】

小レポート：40% + 最終試験：60%

※小レポート提出は必須ではありませんが、最終試験との合計で判定しますので評価に影響する点ご承知おき下さい。

#### 【学生の意見等からの気づき】

小レポート作成にあたり、PC(およびパワーポイント)使用環境が求められるが、ppt.はクラウドで使用可能で、また地方からはプリントアウトが出来ないとの声もあったが、ファイル添付での教員の指定メアド宛提出で多くの受講生は問題がなかった。  
※手書き・紙ベースの提出でも特段不利には扱いません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

レポート作成のためPC(パワーポイント)利用可能な環境が望ましい。

#### 【Outline (in English)】

PHY100TA (物理学 / Physics 100)
<b>物理学3 (講義) (10月週末Zoomスクーリング)</b>
<b>藤田 貢崇</b>
カテゴリー：10月週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：10/10,11,17,18,24,25・午後 受講可能な学科・学年：『Web学習サービス』関連記事を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、身の回りの物質が何から、どのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

#### 【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用すべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Zoomによる講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。授業時間 (100分) のすべてをZoomにアクセスするわけではなく、各自が課題を解いたり、調べたりする時間があります。

毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

また、授業担当者はNHKラジオ「子ども科学電話相談」で回答者を務めており、「さまざまな年齢層の人に科学を的確に伝える」手法についても修得できるような授業を心がけます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなにからできているか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
7	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
8	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
9	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
12	科学技術が果たす役割とテスト	科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still著、藤田貢崇訳、白揚社、2020年

#### 【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

#### 【成績評価の方法と基準】

授業中に課される小課題【50%】と最終レポート【50%】によって評価を行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

・Microsoft Word (互換ソフトも可)によって文書を作成できる環境が必要。  
 ・マイク・カメラによってZoomにアクセスできる環境が必要。

#### 【その他の重要事項】

・授業資料は事前にPDFで配信する場合もあるが、スマートフォンを利用する場合などは画面が小さいため、各自でプリントアウトすることを推奨します。

・授業資料は事前にアップロードしておくので、必要に応じてダウンロードしてください。10/5以降、Web学習サービスより連絡があります。

・質問がある場合は、オフィスアワーとして授業前後のZoomでのアクセス時間帯、あるいは電子メールでも対応します。

・本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

#### 【Outline (in English)】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100TA (物理学 / Physics 100)
<b>物理学3 (講義) (札幌市スクーリング)</b>
<b>藤田 貢崇</b>
カテゴリー：札幌市   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、身の回りの物質が何から、どのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

**【到達目標】**

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、どう活用するべきであるかを具体的に提示できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP3, DP7」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義によって授業を進め、授業では必要に応じて映像を用いて理解を深めます。

毎回の授業で、最近の科学ニュースを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

また、授業担当者はNHKラジオ「子ども科学電話相談」で回答者を務めており、「さまざまな年齢層の人に科学を的確に伝える」手法についても修得できるような授業を心がけます。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	ものはなにからできているか	物質の構成要素を理解する
3	物質と反物質	物質と反物質について理解する
4	自然界の4種類の力	強い力・弱い力・電磁気力・重力について理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
7	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
8	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
9	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
10	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
11	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する
12	テストと全体のまとめ	テストを実施し、学習のまとめを行う

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still著、藤田貢崇訳、白揚社、2020年

**【参考書】**

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

**【成績評価の方法と基準】**

スクーリング試験を実施する【100%】。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【その他の重要事項】**

授業中の私語には厳しく対処し、注意に従わない場合は以降の受講を認めないことがあります。

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

**【Outline (in English)】**

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

BSP100TD（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

**総合特講（札幌市スクーリング）****長井 純市**

カテゴリー：札幌市 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英文史料で学ぶ日本近代史。

この授業の目的は、20世紀初頭の日本事情について書かれた米国外交文書を中心とする英文史料を読むことを通して、第一に日本及び日本人の近代化に関わる基礎的な知識を学修すると共に、第二に欧米列強における日本及び日本人の近代化像を学び、第三に日本及び日本人の現状を見直し、将来を展望すること、第四にグローバル化の中で日本及び日本人の異文化交流の在り方を考える手がかりを得ることです。授業の中では関連するトピックについてグループ討論や質疑応答を行います。

**【到達目標】**

この授業の到達目標は、第一に米国外交文書に記録された日本近代史に関する基礎的な知識を得ること、第二に日本駐在米国外交官の日本及び日本人の近代化に関する見方を理解し、それが従来の日本近代史研究とどのような点で一致し、どのような点で異なるかを知ること、第三に日本及び日本人の近代化過程における変化を認識し、現状や将来を分析、展望する手がかりを得ること、第四にグローバル化の中で日本がどのように異文化交流を進めていくかについて手がかりを得ることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

原則として講義形式です。ただし、教員と受講生の質疑応答を多用します。毎時、配布資料に掲載された英文史料を1点ずつ読み進めていきます。受講生が和訳することとなります。教員の解説を元に、受講生の助け合い学習（ピア・サポート）やグループディスカッション、さらに受講生個々のコメント表明などが求められます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要紹介と現代日本人論の事例紹介
第2回	英文史料講読（1）	幕末期の情勢認識
第3回	英文史料講読（2）	幕末維新期の日本及び日本人観
第4回	英文史料講読（3）	明治前期の日本及び日本人観
第5回	英文史料講読（4）	明治中期の日本及び日本人観
第6回	英文史料講読（5）	明治後期の日本及び日本人観（政治）
第7回	英文史料講読（6）	明治後期の日本及び日本人観（経済）
第8回	英文史料講読（7）	明治後期の日本及び日本人観（外交）
第9回	英文史料講読（8）	明治後期の日本及び日本人観（軍事）
第10回	英文史料講読（9）	明治後期の日本及び日本人観（文化・生活）
第11回	まとめ	授業全体の総括と質疑応答、ディスカッション

第12回 スクーリング試験と スクーリング試験と質疑応答  
質疑応答 受験に際して参照可

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習・復習いずれも必須です。英文史料の内容を正確に理解すると共に、英文史料に記述された事項を適宜拾い出し、理解を深める読書やウェブサイト利用を行うこと。その成果を授業内質疑応答に利用すること。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

刊本の教科書はありません。テキスト・プリントを配布します。

**【参考書】**

安岡昭男『日本近代史』（法政大学通信教育部）

英和辞典

**【成績評価の方法と基準】**

平常点として授業への参加度50%、スクーリング試験の成績50%として、成績判定を行います。スクーリング試験は参照可です。

**【学生の意見等からの気づき】**

始業前・休み時間・終業後の受講生同士の助け合い学習（ピア・サポート）、また、授業中に座席の近い受講生同士の助け合い学習をお勧めします。

**【学生が準備すべき機器他】**

スマートフォン、タブレット、PCなどウェブサイト閲覧が出来る電子機器を持参し、授業中に活用することをお勧めします。義務や強制ではありません。以下の点に注意してください。  
※会場にWi-fi環境はありません。通信料の負担はご自身となります。  
※会場で電源コードを繋ぐことはできません。充電もできません。バッテリー等ご自身で対応ください。

**【Outline (in English)】**

This course has five main points. The first point is that students of this course read short articles written in English, most of which are citations from the Foreign Relations of the United States (FRUS) in the early 20th century. The contents of those articles are the general conditions of Japan in those days. The second one is that students obtain basic knowledge on the modernization of Japan and Japanese people. The third is that students study the viewpoints of American diplomats stationed to Japan on the modernization of Japan and Japanese people. The fourth is that students find out the prototypes, like genes, inherited to current Japan and Japanese people through reading archives above. The fifth point is that students obtain clues to think about the exchange of different cultures and the international relations. Questions and comments of the students during class are welcomed.

BSP100TD（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

**総合特講（10月週末Zoomスクーリング）****長井 純市**

カテゴリー：10月週末 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：10/10,11,17,18,24,25・午前

受講可能な学科・学年：『Web学習サービス』関連記事を参照

備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英文史料で学ぶ日本近代史。

この授業の目的は、20世紀初頭の日本事情について書かれた米国外交文書を中心とする英文史料を読むことを通して、第一に日本及び日本人の近代化に関わる基礎的な知識を学修すると共に、第二に欧米列強における日本及び日本人の近代化像を学び、第三に日本及び日本人の現状を見直し、将来を展望すること、第四にグローバル化の中で日本及び日本人の異文化交流の在り方を考える手がかりを得ることです。授業の中では関連するトピックについて質疑応答や討論を行います。

**【到達目標】**

この授業の到達目標は、第一に米国外交文書に記録された日本近代史に関する基礎的な知識を得ること、第二に日本駐在米国外交官の日本及び日本人の近代化に関する見方を理解し、それが従来の日本近代史研究とどのような点で一致し、どのような点で異なるかを知ること、第三に日本及び日本人の近代化過程における変化を認識し、現状や将来を分析、展望する手がかりを得ること、第四にグローバル化の中で日本がどのように異文化交流を進めていくかについて手がかりを得ることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

・Zoomミーティング機能を利用して双方向授業方式で行います。受講生のZoomミーティングへの「入室」に必要な情報については、「Web学習サービス」により事前に送信配布される授業プリントに記してあります。

・授業プリントについて。受講生各自、印刷して、授業時間中は手元に置き、書き込みができるようにしておくこと。

・原則として講義形式です。ただし、教員と受講生の質疑応答を多用します。毎時、配布資料に掲載された英文史料を読み進めていきます。受講生が和訳することとなります。教員の解説を元に、教員・受講生間のディスカッション、さらに受講生個々のコメント表明などが求められます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要紹介
第2回	英文史料講読 (1)	明治期の日本及び日本人観 (1)
第3回	英文史料講読 (2)	明治期の日本及び日本人観 (2)
第4回	英文史料講読 (3)	明治期の日本及び日本人観 (3)
第5回	英文史料講読 (4)	明治期の日本及び日本人観 (4)
第6回	英文史料講読 (5)	明治期の日本及び日本人観 (5)
第7回	英文史料講読 (6)	明治期の日本及び日本人観 (6)
第8回	英文史料講読 (7)	明治期の日本及び日本人観 (7)
第9回	英文史料講読 (8)	明治期の日本及び日本人観 (8)
第10回	英文史料講読 (9)	明治期の日本及び日本人観 (9)
第11回	英文史料講読 (10)	明治期の日本及び日本人観 (10)
第12回	まとめ	授業総括と質疑応答

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・予習・復習いずれも必須です。

・英文史料の内容を正確に理解すると共に、英文史料に記述された事項を適宜拾い出し、理解を深める読書やウェブサイト利用を行うこと。その成果を授業内質疑応答に利用すること。

・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

・刊本の教科書はありません。テキストとなる授業プリントを、「Web学習サービス」により事前に送信配布します。

**【参考書】**

・安岡昭男『日本近代史』（法政大学通信教育部）

・英和辞典

**【成績評価の方法と基準】**

・平常点として授業への参加度50%、レポートの成績50%として、成績判定を行います。

・レポート課題は、「Web学習サービス」により事前に送信配布される授業プリントに記してあります（全10課題の内、3つの課題を受講生各自が選択して論述する形式）。

・レポート用紙（提出用）も、「Web学習サービス」により事前に送信配布されます。

・レポートの提出方法についても、「Web学習サービス」により事前に送信配布される授業プリントに記してあります。

**【学生の意見等からの気づき】**

・これまでテキスト英文史料の和訳文書提供を求める声もありましたが、この授業は英文和訳の練習ではなく、英文史料の要点を把握し、日本及び日本人の近代化について理解を深めることに重点を置きますので、模範解答となるような英文和訳はありません。したがって、和訳した文書を提供することはありません。理解困難な箇所については、Zoom授業中の質疑応答時間をフル活用して下さい。

**【学生が準備すべき機器他】**

・Zoom授業を受講することができる電子機器、たとえばスマートフォン、タブレット、PCなどを用意して下さい。「共有画面」に表示する授業プリントを読み取ることができるような、また、教員との間で質疑応答ができるような機器を用意して下さい。

・通信料の負担はご自身となります。

**【その他の重要事項】**

・Zoom授業時間（90分間）は、毎回、1限は9時00分から10時30分、2限は11時00分から12時30分とします。開始時刻5分前から「入室」を許可します。

・100分間の授業時間の内、残り10分間は、受講生各自の自習時間となります。

・通信環境や利用する電子機器の不具合などにより遅刻入室する場合には、「入室」を許可します。ただし、特別な理由なく、著しい遅刻入室が何度もある場合には、受講態度不良として成績評定に反映します。

・授業に関わる相談は、Zoom授業時間最後の質疑応答の際に行ってください。それ以外の相談方法については、授業プリントに記してありますので、それに従って下さい。

**【Outline (in English)】**

This course has five main points. The first point is that students of this course read short articles written in English, most of which are citations from the Foreign Relations of the United States (FRUS) in the early 20th century. The contents of those articles are the general conditions of Japan in those days. The second one is that students obtain basic knowledge on the modernization of Japan and Japanese people. The third is that students study the viewpoints of American diplomats stationed to Japan on the modernization of Japan and Japanese people. The fourth is that students find out the prototypes, like genes, inherited to current Japan and Japanese people through reading archives above. The fifth point is that students obtain clues to think about the exchange of different cultures and the international relations. Questions and comments of the students during class are welcomed.

MAN200TF (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (札幌市スクーリング)</b>
<b>奥西 好夫</b>
カテゴリー：札幌市   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業のテーマは「人事経済学」、すなわち経済学的手法を用いて人事制度やそれに関わる諸現象を理解することです。経済学的手法は単純明快なロジックで物事の重要な側面を切り取り、予測にも有効なことが多いのがメリットです。しかし、細やかな人情の機微などに無神経であるというデメリットもあります。本講義は主に前者のメリットについて話しますが、後者についても触れる予定です。

#### 【到達目標】

- ・学生は、いわゆる経済学的思考の基本 (経済合理性や効率性) をよく理解し、それを現実のさまざまな事象の理解、説明に応用できます。
- ・さらに、自分が興味を持つ人事関係の制度や現象を取り上げ、経済学的なロジックで、なぜそうになっているのかを説明し、どうしたらもっと良くなるかを考案できます。
- ・一方で、経済学的手法に問題や限界があることも認識できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

主に配付プリントを用いた講義形式ですが、質疑応答や議論等、受講生が参加する時間を多めにとります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	人事経済学とその関連分野	講義全体のイントロダクション
第2回	個人の行動原理 (1)	経済合理性とは何か？
第3回	個人の行動原理 (2)	経済非合理性の代表例
第4回	個人の行動原理 (3)	不完全情報下の経済合理的行動
第5回	取引の効率性とさまざまな公正性概念	効率性とは何か？ 効率性以外の公正性概念
第6回	コースの定理と取引費用	市場か組織かの選択問題、法的規制のあり方への含意
第7回	雇用契約と効率性	効率性概念と雇用契約で重要な3つの変数 (限界生産性、賃金、機会費用) 離職、転職は是非か？
第8回	後払い賃金と定年制	定年制の存在をどう説明するか？ 定年後の雇用をどう考えるか？
第9回	人的資本理論と昇進	人的資本理論の含意は何か？ 昇進の機能は何か？
第10回	賃金制度と成果主義	なぜシンプルな成果主義 (出来高給、歩合給など) はそれほど普及していないのか？
第11回	人事評価はなぜ難しいか？	なぜ完璧な人事評価は難しいのか？
第12回	試験	後述の【授業時間外の学習】を参照のこと

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・短期集中講義なので、予め人事制度や人事に関連した現象に興味を持ち、ある特定の制度・現象について、なぜそうになっているのか、何か問題でどうしたらよくなるのかを自分で考えておいて下さい。
- ・授業を通じて、そうした自分の問題関心への答えを修正したり、より確かなものとして下さい。
- ・最終回の試験では、それについて書いてもらいます。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

単一の教科書はありません。講師が授業レジメを用意し、配付します。以下に【参考書】を示しますが、予め読んでおく必要はありません。これらの多くは、むしろ本授業受講後に、さらに理解を深めるのに向いています。

#### 【参考書】

- ・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になります。
- ・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016年。経済非合理性に立脚した行動経済学のパイオニアによる自伝的入門書です。
- ・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義)以外のさまざまな正義観を知ることができます。
- ・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したものです。市場か組織か、望ましい社会的規制はいかにあるべきかなどに、効率性の考えを徹底して貫く思考はある意味見事です。
- ・ミルグロム、ロバーツ『組織の経済学』NTT出版、1997年。「人事経済学」もその一部に含まれる「組織の経済学」に関する網羅的で読みやすい教科書ですが、かなり大部です。
- ・ラジャー、ギブス『人事と組織の経済学 実践編』日本経済新聞出版社、2017年。著者の一人、ラジャーは「人事経済学」のパイオニア。
- ・Baron, James N. and David M. Kreps. Strategic Human Resources. John Wiley and Sons, 1999. 経済学と組織行動論の研究者が人的資源管理に関して、アカデミックかつ分析的な視点から書いた優れた教科書で、両者のブレンドが絶妙です。

#### 【成績評価の方法と基準】

最終回に行う試験結果が90%、残り10%は授業への参加程度 (出席率や発言など) を考慮します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

久しぶりのスクーリングで、今回のテーマでの講義は初めてなので、適切なインプットがありません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

筆記用具、ノートなど。

#### 【Outline (in English)】

The theme of this lecture series is "economics of personnel," i.e., the analysis of personnel management by using an economic way of thinking. This approach is simple and useful in understanding many aspects of personnel management and often effective in predicting human behaviors, although it may be indifferent to subtle human sentiments.

BSP100TA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

**基礎特講（12月週末スクーリング）****大貫 義久**

カテゴリー：12月週末 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「自然と人間」というテーマの下に、西欧における近代科学の成立過程に注目し、近代科学成立の基礎となった自然観や方法、さらに哲学上の転換を扱うことによって、古代ギリシア以来の思想史にふれ、「科学」に対する現代的示唆を探り出します。特に、「近代科学の父」と称されるガリレオの思想にふれ、ガリレオにおける〈自然と人間〉や〈科学と宗教・哲学・人間〉の問題などを扱い、「科学」の本来の意味を明らかにします。

**【到達目標】**

近代科学の形成過程を思想史としてとらえ、その背景となった哲学や宗教などの人間精神に関わる問題を理解し、「科学」に対する現代的な示唆を探り出すことを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP5」「商業学科：幅広い教養」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は、ZoomとYouTubeの併用で行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	この授業についてのガイダンス	授業の内容・評価方法などの説明 自然観が哲学的問題であること及び「科学」について説明する。
第2回	古代ギリシアの自然観について	西欧の哲学の基礎としての古代ギリシアの哲学的自然観を説明する。
第3回	キリスト教の自然観について	キリスト教の自然観が近代の自然観に与えた影響を説明する。
第4回	西欧中世の自然観について	アリストテレス・キリスト教の自然観について説明する。
第5回	西欧中世の自然観：宇宙体系について	宇宙体系へのアプローチの仕方：実在論と現象論についての説明
第6回	ルネサンスの自然観について	プラトン主義の影響を受けたルネサンスの自然観について説明する
第7回	コペルニクス革命について	天動説から地動説への転換について説明する
第8回	コペルニクス革命の真の意味について	宗教と哲学と天文学の関わりからコペルニクス革命の意味を説明する。
第9回	地動説から無限宇宙へ	G.ブルーノの宇宙観と人間論について説明する。
第10回	天文学の革命：ガリレオ	ガリレオにおける数学的天文学から哲学的天文学への転換を説明する。
第11回	ガリレオにおける「科学」の成立	ガリレオにおいて「科学」が成立したことを詳しく説明する。現代への示唆

第12回 まとめ レポート課 授業内容のまとめとレポート課題の提示 題について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

配布する資料を事前に読み内容を理解して下さい。また、習った内容について理解を深めるために復習し、それについて自ら考えて下さい。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

参考文献は、授業内で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

レポートで評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

初めて学ぶ内容もあるかと思しますので、図などを使い、理解しやすいようにゆっくり丁寧に説明して行きます。

**【学生が準備すべき機器他】**

zoomを使用するのでマイクとカメラが必要です。

**【その他の重要事項】**

開始10分前～5分後まで入室可能。配布資料を使用して授業を進めて行くので、資料は事前にプリントアウトしておいて下さい。なお、授業内容についての質問は、メールで受け付けます。アドレスは後日お知らせします。

**【Outline (in English)】**

This course introduces thoughts on the relation between the nature and the man from the ancient Greece to the European modern times and the role of the philosophy in the formation of modern science. And this course introduces the relation between Galileo's "science" and the present-day technology to students taking this course.

BSP100TE (初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100)
<b>総合特講 (12月週末スクーリング)</b>
<b>前  壱  英明</b>
カテゴリー：12月週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考 (履修条件等)：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地球環境史について、主に第四紀学的立場からさまざまな環境復元の手法を学ぶ。またその人類への影響も考えることができるようになる。

#### 【到達目標】

自然地理学の分野の中で、地球環境に関するどのような研究がこれまで行われてきたかについて、周辺諸科学の成果も含め、基本的な知識を習得すること。またそれらを自身の卒業研究の基礎知識として応用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Zoomでのリアルタイム配信を基本とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地球環境史1	地球誕生から原生代までの地球環境の概要 (ビデオ学習を含む)。導入的な授業。
第2回	地球環境史2	顕生代の地球環境の概要 (ビデオ学習を含む)。導入的な授業。
第3回	氷期の発見と環境1	氷期が発見されてから、さまざまな手法でわかってきた氷期の環境について。
第4回	氷期の発見と環境2	氷河地形の成り立ちなど (ビデオ学習を含む)。
第5回	地球環境を探るさまざまな研究手法1	堆積物や化石などさまざまな手法でわかってきた過去の環境について紹介する。
第6回	地球環境を探るさまざまな研究手法2	地球環境を左右する深層海流についてビデオ学習を含めて紹介する。
第7回	南極観測と地球環境1	50回以上続いてきた日本の南極観測による過去の地球環境に関する成果について解説する。
第8回	南極観測と地球環境2	日本の南極観測や南極の環境についてビデオ教材にて学習する。
第9回	環境変化と古代文明1	過去の環境変化が古代文明の盛衰とどのような関係があったのかについて解説する。
第10回	環境変化と古代文明2	主にインダス文明についてビデオ教材をまじえて学習する。
第11回	将来の地球環境1	温室効果ガスの増加による地球温暖化の現状と課題について解説する。
第12回	将来の地球環境2	過去の気候変化についてどのようなことが起こっていたのか、映像教材を使って説明する。

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

関連する参考書などを読んでおくこととスムーズに授業に入れます。

#### 【テキスト (教科書)】

テキストは使いませんが、一部自身で印刷して授業に参加すべき資料をWeb学習サービスを通じて事前配付します。

#### 【参考書】

進化する地球惑星システム (2004) 東京大学地球惑星システム科学講座 (編), 東京大学出版会  
 ニュートン式 超図解 最強に面白い!! 地球46億年 (ニュートン式超図解 最強に面白い!!) (2020) 川上伸一監修, ニュートンプレス  
 地球学入門 第2版: 惑星地球と大気・海洋のシステム (2016) 酒井治孝, 東海大学出版部

#### 【成績評価の方法と基準】

授業終了前にZoomにてレポート課題を発表し、指定された期日までに通信教育部事務に郵送すること。このレポートによって評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコン、携帯端末、タブレット端末など、Zoom授業に参加できる機器、およびインターネット環境。マイク・カメラは特になくてもよい。

#### 【その他の重要事項】

Zoom入室は開始10分前から立ち上げておきます。Zoomの名前欄は学籍番号と本名フルネームを表示させてください。

#### 【Outline (in English)】

You will study on the environmental history of the Earth, especially in the Quaternary Research.

HIS300TD (史学/History 300)
<b>史学演習 (西洋) (12月週末スクーリング)</b>
<b>竹下 和亮</b>
カテゴリー：12月週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

歴史家たちはヨーロッパの過去に対してどのような問いを投げかけ、どのように歴史を描こうとしてきたのでしょうか。この授業は、主にフランスと日本の歴史家たちの営みから、この問題を考えたいと思います。ヨーロッパの歴史に親しむだけでなく、歴史を学ぶ意味、歴史を捉える方法について一緒に学んでいきましょう。

**【到達目標】**

歴史が過去に問いかける人の営みによって描かれ、伝えられることを、ひとりのフランス人歴史家とひとりの日本人歴史家との知的対話を通して学びましょう。

それはまた、中世のヨーロッパと日本・フランスの二〇世紀史について学ぶことに繋がるでしょう。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

**【授業の進め方と方法】**

(1) スクーリング開始までに必ずテキストを読んできてください。初日に担当をきめますので、以降は担当者による発表、質疑、議論によって授業を進めます。

(2) zoomによるリアルタイム配信です。パソコン等の受信機器、カメラ、マイク、また場合によってはプリンターなどが必要です。ディスカッションが主体ですので、原則としてカメラ、マイクをオンできる環境で受講してください。

(3) 資料の配布等で、LMSを使用いたします。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の紹介 講師、受講生の自己紹介
第2回	『マルク・ブロックを読む』誕生の背景	マルク・ブロックと二宮宏之
第3回	第一講「時代に立ち向かうブロック」 (1)	講読・質疑・解説
第4回	第一講「時代に立ち向かうブロック」 (2)	講読・質疑・解説
第5回	第二講「学問史のなかのブロック」(1)	講読・質疑・解説
第6回	第二講「学問史のなかのブロック」(2)	講読・質疑・解説
第7回	第三講「作品の仕組みを読む」(1)	講読・質疑・解説
第8回	第三講「作品の仕組みを読む」(2)	講読・質疑・解説
第9回	第四講「作品の仕組みを読む (つづき)」 (1)	講読・質疑・解説
第10回	第四講「作品の仕組みを読む (つづき)」 (2)	講読・質疑・解説
第11回	第五講「生きられた歴史」	講読・質疑・解説

第12回 まとめ

討論・解説

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

受講者に割り当てて、報告 (要約とコメント) をしてもらいますので、事前にテキストを入手し、読んできて下さい。すぐに報告日が出てきますので、軽くメモ等を取り、感想などを書きながら読んでおくとういと思います。担当希望箇所なども考えながらお読みください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波書店、2016年

**【参考書】**

高澤紀恵「高橋・ルフェーブル・二宮——「社会史誕生」の歴史的位相」『思想』1048号、2011年10月号

『二宮宏之著作集1～5』岩波書店、2011年

**【成績評価の方法と基準】**

担当箇所の発表 (40%)

議論への参加 (20%)

レポートの提出 (40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

初回授業のためなし

**【学生が準備すべき機器他】**

zoomによるリアルタイム配信なので、パソコン等の受信機器、カメラ、また場合によってはプリンターなどが必要です。zoomのチャット画面を黒板がわりにして、必要事項を書き込むことがあります。後日、希望があればそれと同じ内容のものを資料としてメール等を通じて皆さんに配布します。wifi環境がよくない時などの特別な場合を除き、カメラをオンにして受講してください。

**【Outline (in English)】**

This course aims to understand how historians have treated and described the past of Europe. We will focus on the struggle of Japanese and French historians in the 20th century and today like Marc Bloch, Hiroyuki Ninomiya and so on.

Attendants are expected to read assignments in advance.

HIS100TA (史学/History 100)
<b>西洋史 (後期週末スクーリング)</b>
<b>宮崎 亮</b>
カテゴリー：後期週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

前500から前300にいたる古代ギリシア史。  
 講義の名称は「西洋史」となっているが、扱う内容は西洋史の中でも古代史、それも通常「古典期」と呼ばれる時代の古代ギリシア史であり、主にギリシア世界の覇権抗争に目を向ける。  
 学生が古代ギリシア史についての基本的な知識（これは、私たちが「ヨーロッパ」とは何かを考える場合には、いまだに重要である）を獲得し、史料に基づいて考える姿勢を身につけること、それがこの授業の目的である。こうした思考法は、他の地域・他の時代の歴史事象を考える場合にも、応用が利くはずである。

#### 【到達目標】

学生が古代ギリシアの重要な歴史事象を具体的に考え、理解し、自分の言葉で説明できるようになることを到達目標とする（つまり、試験で問われるところでもある）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式。プリント使用。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション ：地勢と気候	ギリシア＝エーゲ海世界の地勢と気候
第2回	イントロダクション ：時代区分と史料	古代ギリシア史で用いる史料と時代区分
第3回	イントロダクション ：前500年頃までの東地中海世界	1)ポリスとは何か？ 2)前500頃の東地中海はどのような姿をしていたか？
第4回	ペルシア戦争	ペルシア戦争とはギリシア人にとって何であったか
第5回	アテーナイの興隆	アテーナイがエーゲ海につくりあげたデーロス同盟について
第6回	ギリシア世界の二分化	アテーナイとスパルタとの戦い：ペロポネーソス戦争
第7回	スパルタ帝国	アテーナイを破ったスパルタのその後
第8回	ボイオーティア	スパルタに対するテーバイの挑戦
第9回	流動化するギリシア世界	前4世紀半ば頃のギリシア世界
第10回	フィリッポス	マケドニアのフィリッポス2世について
第11回	アレクサンドロス	アレクサンドロスの遠征
第12回	テストとまとめ	スクーリング試験を実施する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

- 1) 人名・地名等でわからないものがあれば、自分で確認しておくこと。
- 2) 授業前に前回の授業を反芻する程度のは行なっておくこと。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

#### 【参考書】

R. オズボン『ギリシアの古代』（刀水書房、2011年）  
 伊藤貞夫『古代ギリシアの歴史』（講談社学術文庫、2004年）

#### 【成績評価の方法と基準】

出席要件を満たした学生にのみ、スクーリング試験（論述形式、持ち込み不可）の受験を許可し、その成績で評価する。試験は、授業内容をどの程度理解できているか（授業で扱った問題をどの程度自分の言葉で説明できるか）、そこを問うものになるだろう。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実施していない。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

- 1) 私語を慎まない学生に対しては厳しい措置をとる。
- 2) 授業計画はあくまで「予定」と考えられたい。

#### 【Outline (in English)】

This lecture class deals with the Greek world in the classical period (i.e. the fifth and fourth centuries B.C.). We shall draw attention to how the struggle over hegemony of the Greek world was fought by powerful poleis such as Athens and Sparta, and what was brought about to Greeks as a whole by the struggle.

HSS200TB (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 200)
<b>スポーツ特講 (11月週末スクーリング)</b>
<b>朝比奈 茂</b>
カテゴリー：11月週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：11/14・15・21・22・28・29：午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近代医学の発展にともない、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国である一方、健康寿命を延ばすことがこれからの課題とされている。健康に過ごすための一つとして、生活習慣の改善や適度な身体活動が求められる。運動・スポーツは、基本技術の習得および効果・効能を十分に理解して、安全に楽しく実施することで、心身の状態を良い方向に導くことが期待できる。

本講義では、自身の体力および身体組成を把握したうえで、身体活動と病気との関連を免疫系および自律神経の観点からアプローチする。また実践においてはウォーキングとヨガを通じて、運動・スポーツの必要性を認識することを目標とする。

#### 【到達目標】

1. ホメオスタシスと病気との関連性について述べるができる。
2. 体力について理解し、健康に関連する体力要素を説明できる。
3. 体脂肪率、BMIなどについて説明でき、その意義を述べるができる。
4. がんについて説明でき、その原因を述べるができる。
5. 運動・スポーツの功罪について、免疫系と自律神経の観点から説明できる。
6. コンディショニングとコンディショニングについて説明できる。
7. ウォーキングの身体への影響を説明できる。
8. ウォーキングの基本技術(姿勢、ストライドなど)を説明し、実践することができる。
9. ヨガの歴史や哲学(考え方)を理解し、ポーズを解剖学視点から解説・実践できる。
10. 呼吸法について理解し、Meditation (瞑想)を実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「法文学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP3」「経済学科：DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は、オンライン授業形式 (ZOOMによる双方向オンライン型、動画配信オンデマンド型) により実施する。授業に使用する資料は、授業前日の19時ごろまでにWeb学習システム上に掲載するため、各自ダウンロードして準備しておく。

ウォーキングは、携帯アプリケーションを用いて、受講生が住んでいる地域周辺をコースとして各自実践する。ヨガは、呼吸法および解剖学を中心として、オンライン上で実施する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	・ガイダンス ・スポーツウォーキングの概要 (ZOOMを使用したリアルタイム形式)	・受講に関する諸注意および成績評価基準などを説明する。 ・スポーツウォーキングの概要や基本姿勢およびその技術を説明し、居住地周辺のコースをおよそ10min/kmの速度で実施する。

第2回	体力と健康 (YouTubeを使用したオンデマンド形式)	新体力テストについて説明し、その意義を理解する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。
第3回	がんの基礎知識 (YouTubeを使用したオンデマンド形式)	がんとは何か、なぜがんになるのかなど、厚生労働省の資料を用いて説明する。またがんに関する多目的コホート研究から飲酒、喫煙に関わる内容を解説する。
第4回	がんの予防 (YouTubeを使用したオンデマンド形式)	科学的根拠に基づくがんの予防について厚生労働省の資料を用いて説明する。 がんに関する多目的コホート研究から食生活、運動習慣に関わる内容を解説する。
第5回	ホメオスタシスと病気 (ZOOMを使用したリアルタイム形式)	人間に備わっているホメオスタシスの意義や病気の成り立ちについて説明し、病気との関連性を検討する。また厚生労働省が発表している「人口動態調査」の結果について解説する。
第6回	コンディショニング把握とコンディショニングの実践 (YouTubeを使用したオンデマンド形式)	コンディショニングの定義をあきらかにし、コンディショニングの種類、効果・効能について説明する。
第7回	ヨガ思想と歴史 (ZOOMを使用したリアルタイム形式)	ヨガ思想の起源や哲学について説明し、原始ヨガ、古典ヨガ、後期ヨガなどを理解する。
第8回	ストレスと向き合うための精神的コンディショニングの実際 (YouTubeを使用したオンデマンド形式)	心と体の関係を通してストレスマネジメントを理解する。
第9回	ヨガと呼吸法 (ZOOMを使用したリアルタイム形式)	呼吸の仕組みや役割を説明し、基礎的な方法を実践する。代表的なポーズを解剖学の視点(脊柱のアライメント、筋肉など)から説明する。
第10回	スポーツ外傷の応急処置 (YouTubeを使用したオンデマンド形式)	スポーツ外傷について、発生要因とその応急処置を説明する。特に二次的低酸素症について、アイシング効果を説明する。
第11回	スポーツウォーキングの実践 (ZOOMを使用したリアルタイム形式)	前回と異なったコースをおよそ10min/kmの速度で、現在のコンディショニングを把握しつつ実施する。生活習慣病予防に果たすウォーキングの役割などについて研究結果を用いて説明する。
第12回	ヨガと瞑想 まとめ (YouTubeを使用したオンデマンド形式)	ヨガ本来の目的である「瞑想」について説明し実践する。 ヨガの一つである「ヨガニードラ」について説明し体験する。 授業全体の総括として、「健康と運動・スポーツ」についてグループごとに討論を行い、自分の考えを述べる。

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。演習にあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、毎回授業のあとに伝達する。

#### 【テキスト(教科書)】

特に使用しない。必要に応じて資料等をWeb学習サービスより配布する。

**【参考書】**

必要に応じて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

- 1) 授業中の活動に対する参画状況：80%
- 2) 課題およびレポート：20% の配分により総合的に評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

幅広い年齢構成となるため、心拍数を指標に運動強度を設定することで、安全面に配慮した講義を目指す。オンラインシステムを使い、リアルタイムとオンデマンドを組み合わせ、最近のトピックスを交えながら、学生が興味をもって臨めるよう工夫して実施する。

**【学生が準備すべき機器他】**

本授業は、オンライン授業形式（ZOOMによる双方向オンライン型、動画配信オンデマンド型）により実施するため、通信機器及び通信環境を整えておく。

**【その他の重要事項】**

スポーツウォーキングは、1 km 辺り 10 分程度のスピードで、居住地周辺を 8～10Km 歩くため、普段から運動をしていない方、または体の一部（特に腰部、下肢）に痛みなどを抱えている方にとっては、実施困難であると考えられる。授業を受講する際、十分に準備、検討することが望ましい。

また、オンライン授業形式（ZOOMによる双方向オンライン型、動画配信オンデマンド型）により実施するため、通信機器及び通信環境が整っていることを前提に授業を展開する。ZOOMの使用法など十分理解していることを受講の条件とする。

**【Outline (in English)】**

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

LAW200TB (法学 / law 200)
<b>法哲学 (11月週末スクーリング)</b>
<b>西村 清貴</b>
カテゴリー：11月週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：11/14・15・21・22・28・29：午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシアから20世紀までの代表的な法思想家、法哲学者の議論を辿ることを通じて、現代の法に関する諸理論の背景に存在する思想的背景を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- (1)法実証主義および自然法論の相違およびそれらの意義について理解できること
- (2)法解釈学において用いられる「社会契約」、「権利」、「自然法」、「法実証主義」といった用語がいかなる思想的背景を有しているかを理解できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教科書、および講義に際して配布するレジユメに基づいて授業を進める。

YouTubeを通じた講義配信となる。

動画公開期間は、講義最終日の一週間後までとする(12/5 23:59まで)。

また、毎回、講義の理解度を確認する簡単な課題を提示する。

質疑応答はeメールおよびラーニングシステムを用いる。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	古代ギリシア法思想	プラトン、アリストテレスの法思想を見る
第三回	中世キリスト教自然法論	トマス・アクィナスの自然法論を見る
第四回	社会契約論(1)	トマス・ホッブズの法思想を見る
第五回	社会契約論(2)	ジョン・ロックの法思想を見る
第六回	社会契約論(3)	ジャン・ジャック・ルソーの法思想を見る
第七回	理性法論(1)	イマニエル・カントの法思想を見る
第八回	理性法論(2)	G・W・F・ヘーゲルの法思想を見る
第九回	歴史法学	F・C・v・サヴィニーの法思想を見る
第十回	現代の法思想(1)	現代法概念論をH・L・A・ハートを中心に見る
第十一回	現代の法思想(1)	現代正義論をジョン・ロールズを中心に見る
第十二回	全体のまとめ・質疑応答	全体のまとめおよび質問に対する応答を行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

毎回の授業後に、次回の講義範囲を示すので、教科書やレジユメの対応する箇所を確認し、不明点を押さえておくこと。

また、講義終了後は、教科書、レジユメ、ノートを確認すること。

#### 【テキスト（教科書）】

西村清貴『法思想史入門』（成文堂、2020年）、2000円＋税

#### 【参考書】

三島淑臣『新版 法思想史』青林書院、1993年  
 森村進編『法思想の水脈』法律文化社、2016年  
 西村清貴『近代ドイツの法と国制』成文堂、2017年

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート(100%)

講義後の課題提出は、レポートの得点が60点未満であった場合、考慮材料とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

基本的な語句についてより丁寧な説明を心がけたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

youtubeを視聴するための機器およびラーニングシステムを用いてレポート提出等を行うことが出来る機器。

#### 【その他の重要事項】

配付資料につき、各自の受講環境に応じて、あらかじめプリントアウトしておくことが望ましい。

#### 【Outline (in English)】

This lecture follows the discussion of representative law thinkers from ancient Greece to the 20th century and aims to understand various thoughts that exist in the background of contemporary law theories.

LIT300TC (文学 / Literature 300)
<b>書道実技 (11月週末スクーリング)</b>
<b>井澤 秀彦</b>
カテゴリー：11月週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間：11/15・22・29：終日 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学校国語科書写の指導を中心とした実技と指導法について学ぶ。姿勢・執筆法から始まり、用具・用材の基本的な扱い方、楷書、行書、漢字と仮名の調和などを、現在の教育現場の書写の役割や実情を踏まえながら、順次学習を進めていく。

### 【到達目標】

中学校国語科書写における知識・技能の習得。  
 基本的な書の表現力（基本点画・書字のきまり・文字感覚など）の習得。  
 中学校国語科書写の指導者として、生徒に何をどのように教えるのか、また、生徒作品を客観的に評価する着眼点の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業ノート（持ち物参照）を丁寧にとり、最終日に全ての作品を貼付したノートを提出する。

講義と実技の時間的な割合は課題にもよるが、おおよそ1：1くらいである。

墨は墨汁ではなく、固形墨を磨墨する。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	書写と書道の違い	書写・書道における基礎的な用語の理解や用具・用材の扱い方
第2回	表現・鑑賞とは	楷書の基本点画 書写における「表現」は技術、「鑑賞」は知識 表現の第一歩は基本点画の習得
第3回	楷書の学習（書字のきまり1）	「口」の書き方、「八」の書き方などから、文字を書くための決まりごとの理解
第4回	楷書の学習（書字の決まり2）	偏と旁の関係、横画と縦画の関係などから、文字を書くための決まりごとの理解
第5回	筆順指導について	楷書の許容される書き方 教育現場における筆順指導の重要性の理解 楷書の基本的な字形と許容される字形
第6回	楷書のまとめ	四字句・六字句などの学習から、半紙に対する文字の大きさや配列・配字の理解
第7回	行書の特徴1	なぜ中学校で行書を学習するのか 楷書と行書の違い
第8回	行書の特徴2	行書の特徴（点画の丸み・連続・変化など） 点画の省略、筆順の変化
第9回	小筆の学習1	楷書に調和する仮名の学習 行書に調和する仮名の学習
第10回	小筆の学習2	漢字（楷書・行書）と仮名の調和 「散らし書き」の理解と習得

第11回 楷書の古典 楷書の成立と唐の四大家

『九成宮醴泉銘』の学習  
 第12回 行書の古典 行書の成立と王羲之  
 『蘭亭序』の学習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実技の習得は練習の積み重ねが大切である。自分の目標をしっかりと持ち、基本点画の習得、自己の欠点の確認・矯正および新しい技量の習得を目指して欲しい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

『明解 書写教育【増補新訂版】』 全国大学書写書道教育学会編  
 萱原書房 ￥1,500 + 税  
 通教テキスト「書道教本」

### 【参考書】

なし

### 【成績評価の方法と基準】

授業参加30点、授業ノート（作品を含む）40点、試験30点

### 【学生の意見等からの気づき】

書道用具に関して、自らが小・中学生のころに使用していたものではうまく書けないようである。筆は大筆・小筆とも使用状況や経年劣化により使用に耐えられず（やはり小・中学生用はその程度のもの）、固形墨は上手に磨っても濃くならず、硯も小さかったり石製ではなかったりで、初日が終わってから慌てて専門店に行き、書道用具を購入する学生が毎年いる。将来、教壇に立つ者として、相応の書道用具をそろえてほしい。  
 また、墨で服を汚さぬよう各自工夫すること。

### 【その他の重要事項】

持ち物

①筆（大筆・小筆）②墨（固形墨）③硯（プラスチック製・セラミック製はNG）④半紙（多めに用意してください）⑤毛氈（下敷き）⑥文鎮⑦ノート（B5・横罫）⑧筆記用具⑨赤ペン⑩スティックのり  
 ※特に筆・墨・硯・半紙は安価なものはいくつものが多い。  
 上記テキストは必携のこと。

### 【Outline (in English)】

Learn practical skills and teaching methods centered on teaching Japanese language textbooks for junior high schools.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

## 論文作成基礎講座Ⅱ（11月週末スクーリング）

川鍋 義一

カテゴリー：11月週末 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：11/14・15・21・22・28・29：午前  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「書く」力、「読む」力をつけよう。

## 【到達目標】

いわゆる初年次教育の一つであり、大学での教育に耐えうる「書く」力、「読む」力の育成を目標にする。受講後には、短期的には原稿用紙2枚のレポートを2時間程度で書き上げられることを目標にする。また長期的には50枚の卒論の章立て、各章の段落構成を構想することができることを目標にする。「書く」力の涵養のためには「読む」力の涵養が必須であることを理解し、かつ、新書、大学の授業で使うテキストの読解、自分なりの理解、自分の考えとの比較ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントのファイルを動画に変換し You Tube にアップロードしたものを視聴し、プリント（PDFファイル）を読む。そのほかに課題（小論文）に取り組む。自習、復習のために、動画と同内容のパワーポイントのファイルも One drive にアップロードされる。動画公開期間：授業当日からスクーリング期間1週間後まで。質疑応答：メール（yoshikazu.kawanabe.76 あつと hosei.ac.jp）←「あつと」の部分で半角@に置き換える

## 1 添削課題

スクーリング期間を通して、全4本の添削課題に取り組む。

i) 課題が提示される ii) 課題を提出する iii) 添削された課題が返却される

i) 課題提示（および講義）：新聞記事、新書レベルの文章を読む。さらに添削課題の意図、留意点などを解説する講義を視聴する（課題が提示される日：課題①11/14※、課題②11/15、課題③11/22、課題④11/29 ※課題①については1週間前の11/9頃提示される）。  
 ii) 課題提出（および講義）：800字（添削課題4は2000字）の作文を書き、期日までに提出する。この回は、他に文章表現にかかわる様々な問題、大学でのレポート・論文作成に必要な知識を講義形式で学ぶ（課題を提出する日：課題①11/14、②11/21、③11/28、④12/5 ※ ※④はスクーリング期間外に提出、返却）。

iii) 添削された課題の返却（および講義）：前週に提出された作文に赤入れたものが返却される。優秀作品がコピー、配布される（番号・氏名は伏せる）。優秀作品と講義を読み、学習する（課題が返却される日：課題①11/21、②11/28、③11/29、④12/20頃※ ※④はスクーリング期間外に提出、返却）。

## 2 講義

i) 文章構成法（例示 一般化など）、段落構成、引用の作法、参考文献提示の方法など、実践的な論文作成法を一通り学習し、小論文を完成させることを目標とする。

ii) 卒業論文を想定した、執筆の手順・長い論文のテーマの選び方、および構成の仕方を学習する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	論文を書く・基礎	課題①提示 聴かれたことに答える。調べ物をする。

第2回	論文を書く・基礎	課題①提出 A 辞書記号／常用漢字／引用／参考文献／原稿用紙／資料探査
第3回	論文を書く・基礎	ループリックの解説
第4回	論文を書く・基礎	課題②提示 B 段落構成
第5回	論文を書く・応用	課題①返却 C わかりやすい文章の条件
第6回	論文を書く・応用	課題②提出 課題①についての質問、優秀作品の読み合わせ
第7回	論文を書く・応用	課題③提示 自分の意見と他者の意見を分けて考える D わかりにくい文章の例 ほか
第8回	論文を書く・応用	E データを一般化する
第9回	論文を書く・実践	課題③提出 課題②返却 課題②質問、優秀作品の読み合わせ
第10回	論文を書く・実践	F 文章をパターンで理解する（その1） 課題④提示
第11回	論文を書く・実践	F 文章をパターンで理解する（その2）
第12回	論文を書く・実践	課題③返却 卒論テーマの選び方 卒業生の卒論を例に解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

添削課題①～④の作成。課題①については、第1回の授業の一部として、動画配信も含めて事前に提示する。課題①の提出日は初回（11/14）。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

プリント配布。

## 【参考書】

なし。

## 【成績評価の方法と基準】

提出物100%（作文などの課題がきちんと提出されているかどうか、課題の評価、授業中に学んだことが吸収されているかどうか）  
 また1回でも未提出の課題があれば、単位は認定されない。

## 【学生の意見等からの気づき】

スキルアップのための講座です。大学の授業ですから、カルチャーセンターとは違う厳しさがありますが、がんばりましょう。がんばっただけ、得るものは大きいと考えます。

## 【学生が準備すべき機器他】

Microsoft社のPC版Word（またはジャストシステム社一太郎も可）を持っていること。課題に必要な。スマホ版Wordはレイアウトなどの関係で不可。Google driveやOne driveなどの利用も同様の理由で不可とする。

## 【その他の重要事項】

PDFファイルを読みながら動画を視聴することになるので、使う端末がスマホかパソコンかを問わず、PDFファイルは予めプリントアウトしておくこと（そうしないと授業にならないと思われます）。

## 【Outline (in English)】

This course introduces academic writing.

HIS300TD (史学/History 300)
<b>史学演習 (東洋) (11月週末スクーリング)</b>
<b>宇都宮 美生</b>
カテゴリー：11月週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間：11/14・15・21・22・28・29：午前 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

晋の陸翽の撰による『鄴中記』を講読することにより、中国古代史についての知識を身に付けるだけでなく、東洋史の卒論作成にあたって必要とされる漢文史料の読解能力を養い、関連資料の探し方や使い方を学ぶ。

### 【到達目標】

『鄴中記』は後趙の石虎の時代の鄴の宮殿や風俗等を記した歴史書であり、比較的平易な文法構造である。したがって、授業では句読点のない原文を用い、訓点、送り仮名、訓読という日本独自の漢文の読み方に習熟し、原文講読に対する基礎的な能力の向上を目指す。また、講読に必要なとされる工具書に関する知識や使い方を学び、使えるようにするだけでなく、考古資料、関連論文等の資料を自分で探し、それを併用して広範囲な意味の解釈をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回担当者に訓読と現代語訳という形で報告をしてもらい、全員でその部分について議論するという形で進めていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	テキストの紹介、授業の進め方の説明、工具書の使い方。
第2回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第3回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第4回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第5回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第6回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第7回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第8回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第9回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第10回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第11回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。
第12回	『鄴中記』講読	担当者の報告と参加者全員による議論。

### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、担当者以外にも回答を求めるため、全員予習をしておく。高校での漢文の基礎的な知識があることを前提に授業を進めるため、初心者は基礎的知識に関して自宅学習を求める。授業ではそれを用いて説明をするため、事前に目を通しておく。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

### 【テキスト (教科書)】

授業時にプリントを配布する。

### 【参考書】

授業時に適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

予習と授業中の積極的な参加と予習状況を基準とした平常点(50%)及びレポート(50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。

### 【学生が準備すべき機器他】

毎回『漢和辞典』と事前に配布した資料を印刷して手元に置いておくこと。

### 【その他の重要事項】

#### 【重要：オンライン授業に関して】

今回Zoomを使ったオンライン授業を行います。講師一人ですべて対応しますので、円滑な授業をするためにも、今回は特別に以下の条件に対して不都合でない方(了承いただける方)を対象といたします。それ以外の方は、来年度の教室授業への参加をお願いいたします。なお、今回に限りレジュメを配布します。

1. カメラ内蔵のPC(ネット接続)かスマホでネット会話(Zoom)に20分参加できる方のみ参加可能です(URLをクリックするだけの簡単な操作です)。マイクやカメラは不要ですが、初回でZoomの操作に問題がないか全員確認しますので、初回の出席は必須でお願いします。教室授業とは同じ環境で受講できます。なお、出席をとるため、最初の接続では学生証の名前と同じ「漢字・ひらがな・カタカナ名」で登録ください。それ以外のローマ字表記や出席簿に名前がない方は、本人確認ができませんので参加できません。
2. 授業開始20分前から接続できますが、早く接続した方はそのままお待ちください。5分以上遅刻すると参加できませんので時間厳守でお願いいたします。接続時に出席をとりますので、通常のスクーリングにおける規定の出席率がない方は不合格となります。授業の途中で退出する方は、早退・欠席扱いとなりますのでご注意ください。
3. 授業開始前に、全授業分のレジュメを配りますので、自宅のプリンターまたはコンビニのコピー機で事前に印刷しておいてください(白黒でいいです。かなり多くなりますが、大学までの交通費よりは安いです)。レジュメは穴埋め式なので授業中のパワーポイントの画面を見ながら書き写していただくため、必ず印刷しておいてください→これをもとに最後のレポートを書いていただきます。コンビニでの印刷は、レジュメファイルをUSBかスマホに保存し、コンビニのコピー機を使えば簡単に印刷できます。レジュメはA4サイズなので、コンビニでの印刷はA4二枚をA3一枚と一緒に印刷すると費用は半額です。操作方法は店員に教わってください。
4. 初回にZoomを使用した授業の進め方について説明をし、全員の機器テストをしますので、必ず初回の授業には出席してください。2日目以降からしか出席できない方は、この説明と機器テストを別途行いますとほかの受講生に迷惑になりますので、今回の受講をご遠慮ください。
5. 授業の最後に質問の時間を設けます。この時間中は自由に退出できます。

### 【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese History by reading of Old Chinese Literature The aim of this course is to help students acquire reading Chinese Literature and history.

ECN200TF（経済学 / Economics 200）

**経済学特講（11月週末スクーリング）**

持元 江津子

カテゴリー：11月週末 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：11/14・15・21・22・28・29：午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文化芸術と経済の関係について、思想や理論、実践、政策または施策、倫理などさまざまな側面から捉えつつ学び、身のまわりで実際に行われている文化政策や文化施策に気づき、その効果などについて考えられるようになる。

**【到達目標】**

- ・文化資本の意味を理解し説明できる。
- ・文化政策または文化施策の意味するところを理解し説明できる。
- ・身近な文化政策または文化施策に気づき、そのメリットとデメリットを考察できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

YouTubeによる録画配信を中心としつつ適宜Zoomを併用する予定。講義形式で行う。配布するレジュメに沿って講義を進める。毎時間Googleフォームを通してリアクションペーパーの記述と提出を求める。別途課題の提出を数回求める予定（Googleフォームの活用またはWord文書の提出を検討中）。

受講生との質疑応答の方法はLMSの利用を予定している。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	理論または思想の萌芽	アダム・スミス、ジョン・ラスキン、ウィリアム・モリス
第2回	芸術支援の担い手の変遷	王侯貴族または宗教からやがて一般市民へ
第3回	芸術と国家、芸術と商業、芸術と科学	ロジャー・フライとJ. M. ケインズ、芸術のもつ公共性
第4回	革新的芸術の担い手たちの生計費問題	オメガ工房、ディアグレフパレエ団、ロンドン芸術家協会、アートギャラリー、クラウドファンディング
第5回	芸術への財政支出	国家行事、文化施設、助成金、アーツカウンシルの成立と波及
第6回	文化的価値と文化資本	文化的価値と経済的価値、文化経済学における文化資本の定義
第7回	文化遺産	インフラたりうる文化資本、経済社会への影響
第8回	文化政策または文化施策	文化芸術基本法、文化施設、指定管理者制度、生涯教育
第9回	文化芸術と市場	市場メカニズム、倫理
第10回	企業メセナ	メセナ活動、助成認定制度
第11回	文化産業の可能性	創造産業、創造都市
第12回	まとめとテスト	テストは論述形式。指定されたファイル名のWord文書を作成し提出すること。大学独自のシステムを通して提出することを検討中。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

初回講義時に指定する課題について、最終回の試験までに地方自治体のウェブサイトや広報誌など参照して調べることを。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

デイヴィッド・スロスビー「文化経済学入門」（2002年、日本経済新聞社）  
 池上惇・山田浩之編「文化経済学を学ぶ人のために」（1993年、世界思想社）  
 ジョン・ラスキン「芸術経済論」（1998年、巖松堂出版）  
 橋本努編「現代の経済思想」（2014年、勁草書房）の「3-4 文化と経済」および「3-5 芸術の売買」  
 文化芸術基本法条文（[http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka\\_gyosei/shokan\\_horei/kihon/geijutsu\\_shinko/kihonho\\_kaisei.html](http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/kihon/geijutsu_shinko/kihonho_kaisei.html)）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点30%、最終回に実施する論述試験70%  
 平常点は主にリアクションペーパーなどの提出物をもとに評価する

**【学生の意見等からの気づき】**

とくになし

**【学生が準備すべき機器他】**

（PCの場合）マイクおよびカメラを使用する可能性がある。

**【その他の重要事項】**

動画公開期間など詳細並びにアクティブラーニングの具体的な方法は後日発表（Zoomを利用したグループディスカッションまたは掲示板の活用を検討中）。

配布資料は事前にプリントアウトすることが望ましい。

Wordの基本的な操作ができ、指定されたファイル名の文書を作成できることが必要。

**【授業時間外の学習】** 記載事項と重複するが、初回講義時に最終回に実施するテストの問題文の一部を開示するので、受講生は答案作成に必要な事柄について各自で調べることが必須となる。

**【Outline (in English)】**

This course introduces the relations between culture and economic phenomenon. The Aim of this course is to help students acquire the basic skills and knowledge of how to notice cultural policies and measures close to every student and consider effectiveness of them.

ECN200TF (経済学 / Economics 200)

**経済学特講 (11月週末スクーリング)**

胥 鵬

カテゴリー：11月週末 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：11/14・15・21・22・28・29：午後  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

この講義では、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内海外の負債による資金調達制度と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

**【到達目標】**

この講義では、内外の研究蓄積を踏まえ、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク(格付)の諸概念を理解し、公社債統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。具体的に、Excelを用いて、割引現在価値を応用して、銀行借入の返済、社債の償還、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスクの関係を数値やデータに基づいて理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「経済学科：DP1」「商業学科：経済学」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義はZoomやWebexでのリアルタイムや録画配信などで行う。オフィスアワー実施は、リアルタイム授業終了後、またはメールで質問を受け付ける。録画配信の場合は、授業日の23：59まで公開。原則としてZoomを利用するが、Zoomがダウンする場合の予備としてWebexを利用する。資料掲載などは通教LMSを利用します。よって、受講にはPCが必要。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**  
なし/No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	金融とは	さまざまな資金調達について
第2回	将来価値	定期預金の満期残高と将来価値について
第3回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について
第4回	定期預金	定期預金の満期残高は将来価値
第5回	ゼロクーポン債	定期預金と分離元本国債
第6回	ゼロクーポン債銀行ローンの返済方法	元金均等返済と元利均等返済について
第7回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第8回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組み
第9回	金利と債券価格	金利変化によって債券価格の評価が変動する仕組み
第10回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第11回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第12回	金利の期間構造	残存期間と利回り：イールドカーブ

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

割り当てられた課題を完成するため、Excelをマスターするように。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

手嶋宣之『ファイナンス入門』(ダイヤモンド社、2011年)  
 Web学習サービスを利用して受講生へ資料をファイル送信することもある

**【参考書】**

ファイナンシャル・モデリング、サイモン ベニンガ(著)、大野 薫(翻訳)

**【成績評価の方法と基準】**

平常課題と期末グループ課題レポートで評価する。全体評価=平常課題(30%)+期末課題レポート(70%)で評価。なお、成績評価対象には期末課題提出が必須。

**【学生の意見等からの気づき】**

できるだけゆくゆくと話すように。

**【学生が準備すべき機器他】**

ZoomやWebexのリアルタイムや録画配信授業用のパソコン・マイク・カメラ、WordとExcelは必須。資料掲載などは通教LMSを利用します。とりわけ、受講生は各自YouTubeなどであらかじめExcelの使い方や財務関数の基礎知識、Wordの使い方及びZoomやWebexの使い方をマスターしましょう。

**【その他の重要事項】**

ZoomやWebexのリアルタイムや録画配信授業用のパソコン・マイク・カメラを保有、かつWordやExcelを使用出来る学生のみを履修対象とします。とりわけ、受講生は各自YouTubeなどであらかじめExcelの使い方や財務関数の基礎知識、Wordの使い方及びZoomやWebexの使い方をマスターしましょう。リアルタイム授業は開始10分後まで入室可。録画配信は、授業日の23：59まで公開。資料掲載などは通教LMSを利用します。よって、受講にはPCが必要。

**【担当教員の専門分野等】**

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

**【Outline (in English)】**

In this lecture, we learn important points out of basic theory related to domestic and international debt financing systems and practices, mainly focusing on cash flow and present value. Debt finance has changed greatly in Japan due to deregulation of corporate bond markets since the late 1980s. Also, non-conventional monetary policy such as zero interest rate policy was implemented in Japan, the United States and Europe since the end of the 1990s. In this lecture, we also learn the transition of such monetary policy.

LAW200TB (法学 / law 200)

**法律学特講 (仙台市スクーリング)****田中 開**

カテゴリー：仙台市 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

刑事訴訟法のうち、公訴の提起、公判、証拠につき講義する。学生が、関係法令、裁判例につき理解することを目的とする。

**【到達目標】**

学生が、刑事訴訟法のうち、公訴の提起、公判、証拠について、関係法令、裁判例につき、基本的な知識と理解を得ることを目的とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP2, DP3, DP4」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

六法、基本的な教科書、判例教材を用いて、主要な論点につき、講義形式で、授業する。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**

なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	公訴の提起	国家訴追主義・起訴独占主義、検察官の訴追裁量権、協議・合意制度、公訴提起の要件、余談防止の原則
第2回	訴因の明示・特定	訴因の意義・機能、訴因の明示・特定、覚せい剤使用罪の訴因
第3回	訴因の変更	訴因変更の意義、訴因変更の要否、訴因変更の可否、訴因変更の拒否、訴因変更命令
第4回	公判の準備と証拠開示	公判の準備、証拠開示
第5回	挙証責任と推定	挙証責任の所在、推定、挙証責任の転換
第6回	証拠の関連性	関連性の意義、被告人の行状・類似事実の立証、科学的証拠
第7回	自白の証拠能力	自白法則の趣旨、約束による自白、偽計による自白、連日長時間の取調べ、違法な手続で獲得された証拠、派生証拠
第8回	補強証拠	「補強法則」の趣旨・存在理由、補強証拠としての適格、補強証拠が必要とされる事実の範囲、共犯者の自白と補強証拠の要否
第9回	伝聞証拠の意義	伝聞証拠排除の趣旨、伝聞と非伝聞
第10回	伝聞例外	伝聞例外の意義、検察官調書、検証調書・鑑定書、弾劾証拠、写真など、再現実況見分調書
第11回	違法収集証拠の証拠能力	違法収集証拠の排除の根拠・基準、違法性の承継・毒樹の果実論
第12回	試験	試験を行う

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

事前に教科書を読んでおいてください。細かいところはとばしてかまいません。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト (教科書)】**

長沼範良・田中開・寺崎嘉博「刑事訴訟法」第6版 (有斐閣 2020年3月刊行予定。2,300円+税程度)

井上正仁・大澤裕・川出敏裕「刑事訴訟法判例百選」第10版 (有斐閣 2,500円+税)

**【参考書】**

酒巻匡・井上正仁「刑事訴訟法の争点」(新・法律学の争点シリーズ6) (有斐閣 2,000円+税)

**【成績評価の方法と基準】**

試験による (100%)

**【学生の意見等からの気づき】**

とくになし

**【Outline (in English)】**

In this lecture, you will study criminal procedure, especially indictment, judicial proceeding and evidence. Students will know and understand the existing law of criminal procedure and the precedent.

BSP100TE（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

**総合特講（大阪市スクーリング）****阿部 真弓**

カテゴリー：大阪市 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、また、中世・近世で『百人一首』がどのように享受されていたかについて検討し、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察します。

**【到達目標】**

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第2回	『百人一首』の謎	配列の問題について
第3回	『百人一首』講読	天皇の和歌について
第4回	『百人一首』講読	歌合での和歌について
第5回	『百人一首』講読	題詠・歌合について
第6回	『百人一首』講読	女流歌人の和歌について
第7回	『百人一首』講読	六歌仙の和歌について
第8回	『百人一首』講読	和歌の家について
第9回	『百人一首』講読	中世の『百人一首』古注釈について
第10回	『百人一首』講読	近世の『百人一首』古注釈について
第11回	『百人一首』講読	『百人一首』絵・かるたについて
第12回	試験	筆記試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備時間・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、角川学芸出版、1999年）。  
 その他、適宜、プリントを配布します。

**【参考書】**

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）  
 角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、角川学芸出版、2010年）  
 角川選書394『和歌文学の基礎知識』（谷知子、角川学芸出版、2006年）  
 『和歌のルール』（渡部泰明、笠間書院、2014年）

**【成績評価の方法と基準】**

試験により評価します（100%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline (in English)】**

This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets). The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the Medieval Japanese Literature and waka poetry.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (仙台市スクーリング)</b>
<b>宇治谷 義英</b>
カテゴリー：仙台市   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1965年のミュージカル『サウンドオブミュージック』(*The Sound of Music*)の台詞を通して英語の口語表現、英語のリズムについて学びます。

#### 【到達目標】

さまざまな口語英語の表現を理解できること、発音も含めて学んだ表現を自分で応用して使うことができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

題材とするミュージカルの台詞を受講者は実際に声を出して読んだり、教員からの説明と辞書を頼りに意味について考えたことを発表することになります。区切りの良いところで映像を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	6月5日9:00～10:40 イントロダクション Act One, Scene 1. および Act One, Scene 2.	授業の進め方について説明します。 第一幕第一場("Nonnberg Abbey")～第二場("Mountainside near the Abbey")の表現を学びます。
第2回	6月5日10:50～12:30 Act One, Scene 3. および Act One, Scene 4.	第一幕第三場("The office of the Mother Abbess, the next morning")～第四場("A corridor in the Abbey")の表現を学びます。
第3回	6月5日13:30～15:10 Act One, Scene 5. および Act One, Scene 6.	第一幕第五場("The living room of the Trapp villa, that afternoon")～第六場("Outside the Trapp villa, that evening")の表現を学びます。
第4回	6月5日15:20～17:00 Act One, Scene 7. および Act One, Scene 8.	第一幕第七場("Maria's bedroom, later that evening")～第八場("A hallway in the Trapp villa")の表現を学びます。
第5回	6月6日9:00～10:40 Act One, Scene 9. および Act One, Scene 10.	第一幕第九場("The terrace of the Trapp villa, six weeks later")～第十場("A hallway in the Trapp villa, one week later")の表現を学びます。
第6回	6月6日10:50～12:30 Act One, Scene 11. および Act One, Scene 12.	第一幕第十一場("The living room, the same evening")～第十二場("A corridor in the Abbey")の表現を学びます。

第7回	6月6日13:30～15:10 Act One, Scene 13. および Act Two, Scene 1.	第一幕第十三場("The office of the Mother Abbess, three days later")～第二幕第一場("The terrace, the same day")の表現を学びます。
第8回	6月6日15:20～17:00 Act Two, Scene 2. および Act Two, Scene 3.	第二幕第二場("A corridor in the Abbey, two weeks later")～第三場("The office of the Mother Abbess, immediately following")の表現を学びます。
第9回	6月7日9:00～10:40 Act Two, Scene 4. および Act Two, Scene 5.	第二幕第四場("A cloister overlooking the chapel")～第五場("The living room, one month later")の表現を学びます。
第10回	6月7日10:50～12:30 Act Two, Scene 6.	第二幕第六場("The concert hall, three days later")の表現を学びます。
第11回	6月7日13:30～15:10 Act Two, Scene 7.	第二幕第七場("The garden of Nonnberg Abbey, that night")の表現を学びます。
第12回	6月7日15:20～17:00 まとめ及び最終試験	授業のまとめ、そして筆記試験で学んだ英語表現の理解度の確認をします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講前に映画『サウンドオブミュージック』を視聴しておくことをお勧めします。授業期間中、辞書を使った調べ物や英作文の宿題を授業時間外の課題として指示します。本授業の準備・復習時間は、各1時間以上を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

*The Sound of Music* by Howard Lindsay, Russel Crouse, Richard Rodgers and Oscar Hammerstein II, 編注 浅田寛厚, 金星堂, 1999.

#### 【参考書】

特に指定しませんが、各自で使い慣れた英和辞典を必ず持参してください。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点30%（授業内での積極性と宿題）と最終試験70%で評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学習方法については、丁寧な説明を心がけたいと思います。

#### 【Outline (in English)】

In this course, students will learn various colloquial English expressions and the rhythm the language has through the classical musical *The Sound of Music*.

LANe100TA (英語 / English language education 100)
<b>英語S (名古屋市スクーリング)</b>
<b>平野井 ちえ子</b>
カテゴリー：名古屋市   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：1単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト *A Flavor of English: Cinema and Cuisine* は、14編の映画を紹介するエッセイ集です。作品に登場する食べ物とそこに描かれている食文化に言及していることが特徴的です。本講座では、書かれている話題を楽しみながら、英語を正確に読むことを目的とします。なお、正確な読解をもとに、正確でわかりやすい音読の練習も行い、英語で語ることに役立てます。

#### 【到達目標】

語句や文法を確認しながら、丁寧に英文を読み解くスキルを身につけます。また、内容理解に基づいた聴いてわかりやすい音読の習慣も身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP3」「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1」「経済学科：DP6, DP8」「商業学科：幅広い教養」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

各章共通の進め方です。

1. 映画の紹介
2. 本文の精読
3. 本文中の語句や文法の復習（教科書の練習問題）
4. 教科書各章の雑学クイズ
5. 音読の練習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション Chapter 1	参加者の自己紹介。 Chapter1を学びながら、授業の進め方を詳しく説明します。 映画は『クレイマー、クレイマー』、文法テーマは「時制」。
第2回	Chapter 2	映画は『ブラダを着た悪魔』、文法テーマは「比較」。
第3回	Chapter 3	映画は『スーパーサイズ・ミー』、文法テーマは「動名詞」。
第4回	Chapter 4	映画は『かもめ食堂』、文法テーマは「分詞」。
第5回	Chapter 5	映画は『初恋のきた道』、文法テーマは「代名詞」。
第6回	Chapter 6	映画は『ノッティングヒルの恋人』、文法テーマは「仮定法」。
第7回	Chapter 7	映画は『幸せのレシピ』、文法テーマは「接続詞」。
第8回	Chapter 8	映画は『Dear フランキー』、文法テーマは「不定詞」。
第9回	Chapter 11	映画は『みんな元気』、文法テーマは「前置詞」。
第10回	Chapter 12	映画は『西の魔女が死んだ』、文法テーマは「使役動詞」と「知覚動詞」。
第11回	復習	重点復習講義、質疑応答。

第12回 まとめと最終試験 質疑応答と見直しの後、3日間の学習成果をペーパーテストで確認します。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、本文の読解と練習問題に取り組んでください。復習には、音読も取り入れてください。本授業の準備時間は1時間30分、復習時間は1時間程度を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

*A Flavor of English: Cinema and Cuisine* (『映画で味わう食文化』)  
朝日出版社 ISBN 978-4-255-15559-3  
法大生協にて郵送販売あり

#### 【参考書】

授業で扱う映画のほとんどがとても有名な作品です。ご自身に便利な方法で映画を楽しむことにより、準備学習や授業参加の効率も上がるものと考えます。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点50%、最終試験50%。  
ペア/グループワークへの貢献度を重視します。  
そうした授業展開を好まない方には向きません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

リーディングの学習を和訳の学習と同一視している学生が多いです。全訳にこだわると、学習効率が下がりがり英語を読むことが楽しくなくなるので、どのように勉強したらよいか、一緒に練習していきましょう。

#### 【学生が準備すべき機器他】

テキストの予習は必須ですが、授業当日も必ず辞書（電子辞書も可）を持参してください。

#### 【その他の重要事項】

ペア/グループワークを行うので、健康管理には十分注意してください。また、テキストを購入しない、テキストを持参しない、個人情報情報を執拗に聞き出そうとするなどの迷惑行為には、厳しく対応します。

#### 【Outline (in English)】

The main text *A Flavor of English: Cinema and Cuisine* is a collection of 14 essays about movies. Each chapter refers to specific food or food culture described in each movie. Main objectives of this course include encouraging intensive reading for pleasure and improving reading aloud skills as a basis for acquiring narrative skills in English.

BSP100TC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

**総合特講（名古屋市スクーリング）****中丸 宣明**

カテゴリー：名古屋市 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講手続き等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自然主義小説の成立過程を論ずる。良きにつけ悪しきにつけ、二十世紀初頭に成立した日本の自然主義文学は日本の近代小説の一つの達成として位置づけられ、かつそこから派生した「私小説」はそれ以後の日本文学の主流と考えられてきた。しかしその内実如何なるものであったのか、またその担い手に共通すべき「自然主義小説」あるいはその手法とはどんなものであったのかは未解明のままである。本講義ではその課題について、島崎藤村・田山花袋・徳田秋声と言った自然主義文学第一世代の諸作品の分析を通じて明らかにする。

**【到達目標】**

受講者は、講義で取り上げられる作品、島崎藤村の「破戒」・「春」・「家」、田山花袋「蒲団」・「生」・「縁」、徳田秋声の「雲のゆくえ」・「足跡」・「徴」等の作品への読解を通じ、日本近代文学のありかた、日本近代の特質についての理解を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」、「史学科：DP1, DP3」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的には、講義形式によるが、とりあげる作品は、それぞれ「映像作品」化されている場合も少なくない。そこで近代文学におけるメディアミックスのありかたをも視野に入れて、それらの作品の鑑賞時間も設けたい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】 授業形態：**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	近代文学の枠組みについて
第2回	明治30年代の文学	立身出世主義の夢と現実
第3回	田山花袋1	少女小説の時代・外国文学の仮面
第4回	島崎藤村1	叙情詩の時代
第5回	田山花袋2	「蒲団」の世界
第6回	島崎藤村2	「破戒」・「春」の世界
第7回	徳田秋声2	「雲のゆくえ」の世界
第8回	田山花袋3	「生」・「縁」の達成
第9回	島崎藤村3	「家」の達成
第10回	徳田秋声3	「徴」の達成
第11回	映像作品・メディアミックス	「破戒」「あらくれ」「蒲団」などの映像作品、11回とするのは仮であって、随時これまでの講義の中に挿入する。
第12回	まとめ	自然主義文学総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

上記授業計画に示されている作品は可能な限り読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

授業計画に示されている作品であるが、収録されている書籍であれば何でも可。

**【参考書】**

講義中に適宜指示

**【成績評価の方法と基準】**

最終レポート80%、受講中の質疑20%。

**【学生の意見等からの気づき】**

この講義の性格上、特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【その他の重要事項】**

特になし

**【Outline (in English)】**

See Japanese notation. Those who do not understand the Japanese language are not eligible.

MAN200TG (経営学 / Management 200)
<b>経営学特講 (前期週末スクーリング)</b>
<b>市川 佳功</b>
カテゴリー：前期週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

税率アップや軽減税率の導入など最近トピックな消費税を学習対象にします。消費税は消費者としてではなく納税者として学習すべきものと考えています。間接税とはいえ消費税法は国家と納税者の関係を定めた法律です。どのような構造になっているのか、日常とは異なる観点で学習していきます。理解するのに少し難易度高めの講義内容にする予定です。

#### 【到達目標】

消費税の計算概要を理解することも重要ですが、計算方法よりも消費税法の趣旨を理解することを重視したいと思います。税務署と納税者との間でどのような問題が生じているのか、どのように考えて解決されるべきかという、税法に関する思考方法を身に付けてほしいと思います。消費税法の全体像を理解したうえで、問題解決方法とその根拠が倒産に示せるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP3, DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：経営学・商学」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

「チョーク」と「トーク」で授業を進めていきます。さまざまところで興味を引くようにポイントを設定するつもりです。テキストを指定しない分、しっかりと授業内容を把握することが必要です。授業中に学生との質疑応答も予定しています（ただし、税務相談にならない程度に）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	消費税の性質	租税法一般と消費税の特徴を学習します。
第2回	消費税の課税対象	課税対象、納税義務者、税額の計算方法、申告・納付の手続の概要を学習します。
第3回	国内取引と国際取引	消費税の課税関係に違いが生じる国内取引と国際取引の判定を学習します。
第4回	消費税の非課税制度	非課税対象を知らなければ納税者は損をします。しっかりと理解しましょう。
第5回	消費税の免税制度	非課税と免税の違いを理解します。
第6回	資産の譲渡等の時期	資産の譲渡がいつ行われたかによってその年の消費税の納税額が変わります。判定の仕方を学習します。
第7回	仕入税額控除の制度（その1）	仕入税額控除が大きければ消費税の納税額は小さくなります。何をどのように控除するのか学習します。
第8回	仕入税額控除の制度（その2）	税務署と争われる典型的なポイントです。事例を考えていきます。

第9回	簡易課税制度	消費税の簡単な計算方法ですが、油断すると多額の消費税を納めなければならない場合があります。
第10回	軽減税率	消費者にとってはありがたいが、納税者にとってはありがたくありません。その理由を学習します。
第11回	街中の「Tax・Free」	実は消費税のことです。制度を理解しましょう。
第12回	試験	学習の習熟度を測るために試験を行います。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

指定テキストはありません。授業で配布するレジュメを使用します。

#### 【参考書】

国税庁の税務大学校で使用されるテキスト「講本」の『消費税』（基礎編）が参考になります。誰でもホームページ上から無料でダウンロードできます。

#### 【成績評価の方法と基準】

講義の12回目にあたる試験の結果100%で評価します。計算問題は出題しないので電卓は不要です。問題に直接的な解答をしているか、解答量は十分か、講義を受けた成果といえるかといった観点から評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回事例紹介が好評なので、事例を使用して皆で考えていくという講義を展開していきます。

#### 【その他の重要事項】

試験は紙媒体であれば何でも持ち込んで参照することを認めます。

#### 【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the basic contents of the consumption tax law. You will also learn how to calculate the consumption tax.

BSP100TE（初年次教育、学部導入教育及びびリテラシー教育 / Basic study practice 100）

**総合特講（仙台市スクーリング）**

小寺 浩二

カテゴリー：仙台市 | 予備登録の有無：  
 授業形態：スクーリング | 単位数：2単位  
 期間：  
 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
 備考（履修条件等）：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

地理学の重要な一分野である自然地理学の基礎を学び、地域における人間活動の舞台として自然環境を捉え、その分析を通して人間・社会と自然環境との相互関係について学ぶ。また、自然災害や環境問題における応用学としての自然地理学の役割の大きさについても理解を深める。

**【到達目標】**

地球の成り立ち・構造・歴史・自然災害から地球規模の環境変化の事例、人間活動の影響まで、幅広く様々なテーマを取り上げて講義すると同時に、講義中のそれらに対する質疑応答と、講義後のレポート提出によって、より深く問題を掘り下げる能力と習慣を育成する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

人間活動の舞台である地球表面の自然環境を構成する要素は、大きく岩圏、気圏、水圏及び生物圏にわけられる。それぞれ内部に独自の仕組みを持ち、さらに相互作用を及ぼしあっている多様で複雑なシステムである。自然地理学は、このような自然環境のシステムに対応した地形学、気候学、水文学（陸水学）、植生地理学などの多様な分野から構成されており、自然環境を理解するための広範な視野と学問的な基礎力を身につけることができる。講義では、様々な資料をもとに、概論を論じ、さらに深く学ぶための文献なども提示する。また、概論を学ぶだけでなく、関連資料を収集、整理、解析し、独自のテーマに沿って、オリジナリティのある小論文を作成する技術についても説明し、他の授業の課題作成にも役に立つ技量を養う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	1) 地理学とは？ 2) 自然地理学とは？ 3) 講義の構成と課題
第2回	地球惑星科学としての（自然）地理学	1) 地球惑星科学とは？ 2) 惑星探査の歴史 3) 惑星としての地球
第3回	気候①<大気大循環と気候因子> ②<世界の気候区と気候変動>	1) 地球の熱収支 2) 大気大循環 3) 気候要素 4) 気候因子 5) 世界の気候区分 6) 気候の変化・変動
第4回	気候③<日本の気候と局地気候>	1) 日本の気候の特色 2) 日本の気候区分 3) 局地循環と地域の気候 4) 局地風 5) 都市気候

第5回	地形①<世界と日本の大地形>	1) 世界の大地形とプレートテクトニクス 2) 日本の地質 3) 日本の造山運動と地形の特色 4) 火山の分布と成因
第6回	地形②<第四紀と山地の地形> 地形③<平野と海岸の地形>	1) 第四紀 2) 氷河時代 3) 氷河地形と周氷河地形 4) 山地と丘陵地 5) 変動地形 6) 河谷と水系 7) 平野と海岸 8) 台地と扇状地 9) 沖積低地の微地形 10) 平野の開発と改変
第7回	水文①<水循環と流域>	1) 水循環と水収支 2) 流域の水循環と物質循環 3) 河川学の基礎
第8回	水文②<地下水と湖沼>	1) 地下水学の基礎 2) 湖沼学の基礎
第9回	水文③<雪氷と海洋>	1) 雪氷学の基礎 2) 海洋学の基礎
第10回	植生<植生分布・景観・文化>	1) 世界の植生分布 2) 日本の植生分布 3) 原植生の衰退 4) 日本の植生景観 5) 森林と文化
第11回	自然災害<災害の歴史・防災・減災>	1) 地震災害 2) 津波災害 3) 火山災害 4) 洪水・高潮
第12回	環境問題<地球規模・身近な環境>	1) 地球温暖化 2) 異常気象 3) その他

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキスト・参考書の内容は多岐にわたるが、全てをまんべんなく学んでいただきたい。

そのためには、テキスト・参考書を早めに入手し、予習して授業に臨むことが必要である。

講義に関連する内容について、事前に具体的な文献・資料などを収集・整理し、講義を受けた上で、形式に沿ってオリジナリティのあるレポートを作成して提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

小寺浩二(2019)：『自然地理学概論（1）』。法政大学通信教育部、

**【参考書】**

・高橋日出男・小泉武栄編著（2008）：『自然地理学概論』（地理学基礎シリーズ2）、朝倉書店、¥3,300+税

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景のなかの自然地理（改訂版）』、古今書院、¥2,500+税

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業の最後に行う小レポートと、最終12回目に行う試験の結果・その後に提出する最終レポートを総合的に評価する。小レポート30点、試験40点、最終レポート30点、合計100点とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義毎の小レポートを、毎回授業後に採点し、次の授業に反映させて、受講生の意見に対応する。また、毎回の講義中にも質問や意見を求め、学生の意見に対してなるべくフィードバックすることを努力する。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムは利用できないが、それに変わる資料提示や意見交換のシステムを活用するつもりでいるので、ネットワーク上のドライブを共有するために必要な、パソコンのアドレスを用意し、できれば、授業にもノートパソコンを持って参加していただきたい。

**【その他の重要事項】**

講義では、地理学・自然地理学に関する様々な専門用語を利用して開設を行うので、基本的な用語に関しては、事前に教科書・参考書などで学んで準備しておく必要がある。

**【Outline (in English)】**

Learning the fundamentals of natural geography, which is an important area of geography, capturing the natural environment as a stage of human activities in the area, and learning about the relationship between human beings and society and the natural environment through analysis. Also understand the magnitude of the role of natural geography as applied science in natural disasters and environmental problems.

BSP100TE（初年次教育、学部導入教育及びびりテラシー教育 / Basic study practice 100）

**総合特講（大阪市スクーリング）****松野 響**

カテゴリー：大阪市 | 予備登録の有無：

授業形態：スクーリング | 単位数：2単位

期間：

受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照  
備考（履修条件等）：**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ヒトおよびヒト以外の動物の心の様相とメカニズムについて学び、ヒトの心の進化について理解を深めることを授業の目的とする。ヒトや動物の心の働きを調べるための方法論、ヒトや動物の知覚、学習、記憶、感情、社会的認知といった心の働きについての研究について知識を深め、ヒトおよびヒト以外の動物の行動や心の働きについて分析的にとらえる力を養う。

**【到達目標】**

心理学・比較認知科学の基礎を学び、ヒトやヒト以外の動物の行動や心の働きについて、偏見や思い込みを超えて、科学的な知見をもとにより分析的にとらえることができるようになることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP5」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1, DP3」「地理学科DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP4, DP5」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

**【授業の進め方と方法】**

スライドを用いた講義形式で授業をおこなう。授業中に出された課題について、自分の考えをまとめた小レポートの提出を適宜求める

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】** 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	比較認知科学とはどのような学問か	心の進化に対する科学的なアプローチである比較認知科学について、その基本的な考え方と方法論について解説する
第2回	学習と教育	学習の原理および「教育」について解説する
第3回	感覚知覚	動物の知覚情報処理について解説する
第4回	記憶	動物の記憶の仕組みについて解説する
第5回	道具使用と因果認識	動物の道具使用の例について紹介しそこに因果認識がともなうかどうかについて議論する
第6回	コミュニケーション	動物のコミュニケーションの特徴について解説する
第7回	言語	動物の言語習得プロジェクトについて解説する
第8回	情動・感情	動物の情動・感情について解説する
第9回	自己の認識	動物の自己認識の様相について解説する
第10回	他者の知覚	動物が他者をどのように見分けているのかについて解説する
第11回	他者の認識	動物の社会的認知について解説する

第12回 ヒトの心の特徴について、および考察 授業全体を総括し、他の動物と比較した際のヒトの心の特徴は何かについて議論する。また、授業の理解度を高めるための試験をおこなう

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は各2時間を目安とする。

授業中に配布する資料の内容を復習する。また、自分の興味のあるトピックについて、授業中に紹介する参考文献などをもとにさらに深く調べる。

**【テキスト（教科書）】**

教科書はもっていない。適宜資料を配布する。

**【参考書】**

トピックごとに適宜参考書を紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

講義中に、講義内容の理解を深めるための小レポートの作成をおこなう。また、講義全体の理解を問うためのテストをおこなう。成績評価は小レポート35%、テスト65%でおこなう。

**【学生の意見等からの気づき】**

初年度につき該当しない

**【学生が準備すべき機器他】**

試験はマークシート式でおこなうため、HBもしくはBの鉛筆を持参すること。

小レポートは、各受講生が持参するスマートフォンもしくはネットに接続したノートPC等のデバイスからオンラインで提出する。それら機器を持参しなかった場合は紙での提出も認める。

以下の点に注意のこと。

※会場にWi-fi環境はなく、通信料は各自の負担となる。

※会場で電源コードを繋ぐことはできない。充電もできない。バッテリー等各自で対応のこと。

**【その他の重要事項】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していない

**【Outline (in English)】**

This course is an introduction to comparative cognitive science. Students will learn about the latest research on topics such as perception, language, memory, emotion, and social cognition of human and nonhuman animals.

LAW300TB (法学 / law 300)
<b>会社法 (前期週末スクーリング)</b>
<b>笹久保 徹</b>
カテゴリー：前期週末   予備登録の有無： 授業形態：スクーリング   単位数：2単位 期間： 受講可能な学科・学年：『法政通信』受講申込み等関連頁を参照 備考（履修条件等）：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。また、会社法以外の商法の科目にも関心を持ってもらう。

#### 【到達目標】

- ・会社法の基本を知る。
- ・会社法上の制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「法律学科：DP1, DP2, DP3, DP4」「日本文学科：DP1, DP2」「史学科：DP1」「地理学科：DP1, DP2, DP3」「経済学科：DP2」「商業学科：自由な発想と柔軟な判断ができる能力」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を用いて、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】 授業形態：

回	テーマ	内容
第1回	会社法 総論	前提知識や用語等の解説
第2回	株式会社の機関 総論、株主総会1	機関の概要、株主総会の権限・種類・招集に関する解説
第3回	株式会社の機関 株主総会2	株主総会の議事・議決権・決議等に関する解説
第4回	株式会社の機関 取締役1	取締役の概要及び権限に関する解説
第5回	株式会社の機関 取締役2	取締役の義務・責任に関する解説
第6回	株式会社の機関 取締役3	取締役に対して責任を追及する方法に関する解説
第7回	株式1	株式の概要及び種類等に関する解説
第8回	株式2	株式の譲渡等に関する解説
第9回	募集株式の発行等	募集株式の発行等に関する解説
第10回	企業再編1	企業再編の概要及び合併に関する解説
第11回	企業再編2	会社の分割、及び、株式交換・株式移転等に関する解説
第12回	試験	試験の実施

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』）を読む程度で構わない。気軽な気持ちで、参考書の図を見るだけでも授業の理解が容易になる。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。復習に力を注いでほしい。

#### 【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第2版〕』（商事法務、2015）

【注意】2020年春頃に改訂版である「第3版」が刊行される可能性がある。受講生は初回の授業で講師の説明を受けてから、テキストを購入すること。

#### 【参考書】

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法』（日本経済新聞出版社、2014）
- ・岩原伸作ほか編『会社法判例百選〔第3版〕』別冊ジュリストNo.229（有斐閣、2016）

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）の成績による（試験100%）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

#### 【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を必ず持参すること。

【注意】テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入すること。

本授業は、①独学では会社法の理解が困難であると思う学生、②市ヶ谷校舎において平日の夜に開講されている春・秋スクーリング「会社法」を受講できない学生、③かつて会社法を学んだが平成17年制定の新たな会社法について知りたい学生等にお勧めする。

#### 【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.